

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和6年度調査）の
報告案について

○ 長期処方及びリフィル処方箋の実施状況調査（右下頁）

・ 報告書（案）	．．．．．	1 頁
・ NDBデータ	．．．．．	3 6 7 頁
・ 調査票	．．．．．	3 6 9 頁

令和 6 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査
(令和 6 年度調査)
長期処方やリフィル処方の実施状況調査
報告書(案)

◆◆目次◆◆

I. 調査の概要	1
1. 目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査方法	4
4. 調査項目	5
5. 調査検討委員会	11
II. 調査の結果	12
1. 回収結果	12
2. 病院・診療所調査	10
1) 施設の状況（令和6年11月1日現在）	11
2) リフィル処方箋について	42
3. 医師調査	50
1) 回答者ご自身について	51
2) リフィル処方箋について	59
4. 保険薬局調査	76
1) 薬局の状況について	77
2) リフィル処方箋を応需する体制について（令和6年9月～11月末日）	104
3) リフィル処方箋の対応状況	111
4) 長期処方※の対応状況について（令和6年9月～11月）	133
5) リフィル処方箋の制度に対する相談体制や課題等について	137
5. 患者調査（郵送調査）	148
1) 基本情報	150
2) 医療機関や保険薬局の利用状況等について	157
3) これまでにリフィル処方箋を交付された経験	173
4) これからのリフィル処方箋の利用意向	200
5) リフィル処方箋に関する意見・要望等	254
6. 患者調査（インターネット調査）	255
1) 基本情報	255
2) 医療機関や保険薬局の利用状況等について	264
3) これまでにリフィル処方箋を交付された経験	280
4) これからのリフィル処方箋の利用意向	307
5) リフィル処方箋に関する意見・要望等	361
NDB データを用いた集計（長期処方・リフィル処方箋）	362

I. 調査の概要

1. 目的

令和4年度診療報酬改定において、症状が安定している患者について、医師の処方により医師及び薬剤師の適切な連携の下、一定期間内に処方箋を反復利用できるリフィル処方箋の仕組みが設けられ、処方箋の様式が変更された。

さらに、令和6年度診療報酬改定において、リフィル処方及び長期処方を適切に推進する観点から、処方料及び処方箋料の特定疾患処方管理加算について評価が見直され、リフィル処方箋を発行した場合も算定を可能とすることとされた。また、かかりつけ医機能の評価である地域包括診療料等では、患者の状況等に合わせて医師の判断により、長期処方やリフィル処方を活用することが可能であることを、患者に周知する要件が新たに追加された。

令和6年度診療報酬改定により、長期処方やリフィル処方が患者に周知され、かつ適切に活用されているか、前述の議論で指摘されていた課題の状況や新たな課題がないかについて、検証する必要がある。

これらを踏まえ、本調査では、改定に係る影響等について調査・検証を行った。

2. 調査対象

本調査では、「(1)病院・診療所調査」「(2)医師調査」「(3)保険薬局調査」「(4)患者調査(郵送調査)」および「(5)患者調査(インターネット調査)」の5つの調査を実施した。各調査の対象は、次のとおりである。

(1) 病院・診療所調査

令和6年3月から5月の間に、2件以上のリフィル処方箋の発行実績がある病院から500件、同期間に発行実績がない病院から500件をそれぞれ無作為抽出した。同様に、令和6年3月から5月の間に、5件以上のリフィル処方箋の発行実績がある診療所から500件、同期間に発行実績がない診療所から500件をそれぞれ無作為抽出し、合計で2,000施設を調査対象とした。

(2) 医師調査

病院・診療所票の調査対象となった施設に勤める医師のうち、外来を担当する医師を、各施設から2人(リフィル処方箋の発行経験のある医師を特定できている場合は発行したことがある医師と発行したことのない医師を1人ずつ、特定できていない場合は無作為に2人)を調査対象とした。調査客体数は最大で4,000人(2人×2,000施設=4,000人)とした。

(3) 保険薬局調査

令和6年5月調剤分のうち、5件以上のリフィル処方箋の受付実績がある薬局から500件、同期間に受付実績がない薬局から500件をそれぞれ無作為抽出し、合計で1,000施設を調査対象とした。

(4) 患者調査（郵送調査）

上記(1)病院・診療所調査の対象施設の調査日に外来した患者、並びに、上記(3)保険薬局調査の対象施設の調査日に来局した患者を調査対象とした。1施設につき2人を本調査の対象とし、調査客体数は最大で6,000人（[病院・診療所2,000施設×2人]+[保険薬局1,000施設×2人]=6,000人）とした。

(5) 患者調査（インターネット調査）

直近3か月間で、保険薬局に処方箋を持って来局した患者を調査対象とした。調査客体数は3,000人とした。

調査客体は、性・年代（下記20区分）ごとに等分（150人ずつ）とし、地域別の割合を人口推計（総務省「人口推計（2023年（令和4年）10月1日現在）」）に比例配分する形とした。

男性	全体		1500人								合計
	各年齢区分割付		150人								
	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	
北海道	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	7人	7人	7人	63人
東北	9人	10人	8人	9人	10人	9人	12	13人	12人	11人	103人
関東信越	57人	56人	64人	63人	61人	62人	58人	54人	54人	55人	584人
東海北陸	21人	21人	20人	21人	21人	21人	20人	20人	20人	21人	206人
近畿	25人	26人	25人	23人	24人	25人	24人	23人	25人	26人	246人
中国	9人	9人	8人	8人	8人	8人	8人	9人	9人	9人	85人
四国	4人	4人	4人	4人	4人	4人	5人	5人	5人	5人	44人
九州	19人	18人	15人	16人	16人	15人	17人	19人	18人	16人	169人
全国	150人	150人	150人	150人	150人	150人	150人	150人	150人	150人	1500人

女性	全体		1500人								合計
	各年齢区分割付		150人								
	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	
北海道	6人	6人	5人	6人	6人	6人	7人	7人	7人	8人	64人
東北	9人	10人	8人	9人	10人	9人	12人	12人	12人	11人	102人
関東信越	57人	56人	64人	61人	60人	60人	54人	53人	53人	53人	571人
東海北陸	21人	21人	19人	20人	20人	20人	20人	20人	20人	20人	201人
近畿	25人	26人	27人	25人	25人	27人	25人	24人	25人	26人	255人
中国	9人	9人	8人	8人	8人	8人	9人	9人	9人	10人	87人
四国	4人	4人	3人	4人	4人	4人	5人	6人	6人	5人	45人
九州	19人	18人	16人	17人	17人	16人	18人	19人	18人	17人	175人
全国	150人	150人	150人	150人	150人	150人	150人	150人	150人	150人	1500人

(参考) 調査対象の母集団

	母数		調査対象数	抽出率
病院調査（全数）	8,045 件	—	—	—
リフィル発行実績あり（2 回以上）	—	652 件	500 件	76.7%
リフィル発行実績なし	—	4,697 件	500 件	10.6%
診療所調査（全数）	88,229 件	—	—	—
リフィル発行実績あり（5 回以上）	—	1,197 件	500 件	41.8%
リフィル発行実績なし	—	76,941 件	500 件	0.6%
保険薬局調査（全数）	61,575 件	—	—	—
リフィル受付実績あり（5 回以上）	—	2,225 件	500 件	22.5%
リフィル受付実績なし	—	43,274 件	500 件	1.2%

※抽出作業時点の情報

3. 調査方法

本調査の「(1)病院・診療所調査」「(3)保険薬局調査」「(4)患者調査（郵送調査）」は、郵送発送による自記式アンケート調査方式により実施した。回答は、紙媒体（ID を印字した調査票）に記入後、郵送返送する方法と、専用ホームページより電子調査票をダウンロードし、入力の上、メールへの添付により返送する方法から選択できるようにした。

「(4)患者調査（郵送調査）」については、自記式調査票（患者票）の配布は上記(1)および(3)の対象施設（病院・診療所、保険薬局）を通じて行い、回収は事務局宛の専用返信封筒により患者から直接郵送で行った。

「(2)医師調査」は、医師向けの依頼状の配布は上記(1)の対象施設（病院・診療所）を通じて行い、回収は専用ホームページより Web 上で回答用フォームに記入・送信する形式とした。

「(5)患者調査（インターネット調査）」については、インターネット上での回答・回収とした。

調査実施時期は、「(1)病院・診療所調査」「(3)保険薬局調査」「(4)患者調査（郵送調査）」は令和 7 年 1 月 6 日から令和 7 年 1 月 20 日、「(5)患者調査（インターネット調査）」に令和 7 年 1 月 16 日から令和 7 年 1 月 24 日であった。

4. 調査項目

各調査の調査票（「(1)病院・診療所調査」「(2)医師調査」「(3)保険薬局調査」「(4)患者調査（郵送調査）」「(5)患者調査（インターネット調査）」の調査項目は以下のとおりである。

(1) 病院・診療所調査

設問種類	設問項目
1. 施設状況について	所在地（都道府県）
	開設者
	医療機関の種別
	（医療機関の種別を「病院」または「有床診療所」と回答した施設が対象） 許可病床数
	（医療機関の種別を「病院」または「有床診療所」と回答した施設が対象） 過去1年間の病床数変更の有無
	標榜診療科
	（内科と回答した場合） 診療科において主に対応している患者像
	外来分離の有無
	地域医療情報連携ネットワークの参加有無
	外来を担う医師の人数
	外来の患者数
	処方箋の発行枚数
	診療報酬の算定の有無（A）
	診療報酬の算定の有無（B）
	診療報酬の算定の有無（C）
	診療報酬の算定の有無（D）
	診療報酬の算定件数（A～D）
	リフィル処方箋または長期処方への対応可能な旨の掲示有無
	リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し
	長期処方の発行に係る検討についての今後の見通し
2. リフィル処方箋について	リフィル処方箋の制度の認知度
	（制度を知っている場合） リフィル処方箋の制度を知ったきっかけ
	リフィル処方箋の発行経験
	（リフィル処方箋の発行経験ありの場合） 薬局からの服薬情報提供書（トレーシングレポート）の有無
	長期処方を発行している（発行が適している）患者
	リフィル処方箋を発行している（発行が適している）患者
	リフィル処方箋を普及させるための課題

(2) 医師調査

設問種類	設問項目
1. 回答者について	性別
	年代
	主な担当診療科
	外来診察患者数
2. リフィル処方箋について	リフィル処方箋の制度の認知度
	(制度を知っている場合)
	リフィル処方箋の制度を知ったきっかけ
	リフィル処方箋の発行有無
	(発行したことがある場合)
	リフィル処方箋を発行している患者
	(発行したことがある場合)
	リフィル処方箋を発行した理由
	(発行したことがある場合)
	長期処方ではなくリフィル処方箋を発行する理由
	(発行したことがある場合)
	薬剤師からの受診勧奨を受けた患者の有無
	(発行したことがある場合)
	薬剤師からの受診勧奨の理由の適切性
	(発行したことがある場合)
	薬局からの服薬情報提供書（トレーシングレポート）で提供してほしい情報
	(発行したことがない場合)
	リフィル処方箋を発行しなかった理由
	(発行したことがない場合)
	リフィル処方箋の発行ではなく長期処方を行った理由
	リフィル処方箋の発行について患者からの希望の有無
	リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し
	(積極的に検討する場合)
	「積極的に検討する」と回答した理由
	(検討には消極的な場合)
	「検討には消極的」と回答した理由
	リフィル処方箋の普及に向けた課題
	長期処方の課題

(3) 保険薬局調査

設問種類	設問項目
1. 薬局の状況について	所在地（都道府県）
	開設者
	（開設者が法人の場合） 開設者の法人形態
	同一グループ等による薬局店舗数
	開設年
	薬局の立地
	応需医療機関数
	最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの処方箋枚数割合
	（最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの処方箋枚数割合で） 集中度が最も高い医療機関情報：診療所・病院の別、診療科の種類
	（最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの処方箋枚数割合で） 集中度が最も高い医療機関情報：最も多く処方箋を受け付けた医療機関と貴薬局との位置関係
	（最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの処方箋枚数割合で） 集中度が最も高い医療機関：「複数の医療機関が所在する建物」に入居しているか
	（最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの処方箋枚数割合で） 集中度が最も高い医療機関情報：あてはまる診療科
	貴薬局の売上高に占める保険調剤売上の割合（令和5年度決算）
	令和6年度の調剤基本料の届出状況
	令和6年度の地域支援体制加算の届出状況
	連携強化加算の届出状況
	かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準等の届出状況
	職員数（薬剤師、かかりつけ薬剤師、その他事務職員等）
	認定等の状況
2. リフィル処方箋を応需する体制について	リフィル処方箋の仕組みについての認知状況
	リフィル処方箋を応需した際の薬局内の業務手順の定めの有無
	リフィル処方箋の次回調剤日を薬局内で管理する方法
	リフィル処方箋の次回調剤日を患者に対して通知（リマインド）する方法
	リフィル処方箋の受付経験
	リフィル処方箋の対応実績がない理由
3. リフィル処方箋の対応状況について	受け付けたリフィル処方箋を発行した医療機関数
	どのような関係の医療機関からリフィル処方箋を受け付けたか
	リフィル処方箋を受け付けた診療科
	うち、最も多くリフィル処方箋を受け付けた診療科
	リフィル処方箋の受付件数（1回目）
	リフィル処方箋の受付件数（2回目）
	リフィル処方箋の受付件数（3回目）
	リフィル処方箋の総使用件数の調剤が終わった枚数
	リフィル処方箋による調剤の可／否の判断に困った事例の有無
	リフィル処方箋による調剤の可／否の判断に困った理由
	リフィルの上限まで使用されなかった事例の有無
	リフィルの上限まで使用されなかった理由

設問種類	設問項目
	(薬剤師が受診勧奨をした場合) 薬剤師が受診勧奨をした回数
	(薬剤師が受診勧奨をした場合) 受診勧奨を判断し、説明する際の処方医への相談状況
	(薬剤師が受診勧奨をした場合) 薬剤師が受診勧奨をした理由
	(薬剤師が受診勧奨をした場合) 医師への情報提供内容
	(リフィル処方箋の受付経験がある場合) 服薬情報等提供料に係る業務の件数
	(リフィル処方箋の受付経験がある場合) 医師に服薬指導提供書（トレーニングレポート）を提供した情報の内容
	(リフィル処方箋の受付経験がある場合) 医師に服薬指導提供書（トレーニングレポート）を提供した情報の内容（最も多いもの）
	(リフィル処方箋の受付経験がある場合) 患者へのフォローアップの有無
	(リフィル処方箋の受付経験がある場合) 実施したフォローアップの内容
	(リフィル処方箋の受付経験がある場合) 1枚のリフィル処方箋の処方の途中で薬局が変わった経験
	(1枚のリフィル処方箋の処方の途中で薬局が変わった経験がある場合) 他薬局へ情報提供を行った方法
	(1枚のリフィル処方箋の処方の途中で薬局が変わった経験がある場合) 情報提供した内容
4. 長期処方 の対応状況について	長期処方を応需する件数が多い医療機関の特徴
	長期処方を応需する件数が多い診療科
	改定前（令和6年5月以前）と比較して応需する処方箋の変化
	28日以上長期処方の処方箋を応需する際に特に注視していること
5. リフィル 処方箋の制度に 対する相談体 制や課題等 について	リフィル処方を医師へ提案したことのある薬剤師の種類
	薬剤師としてリフィル処方箋が適すると考える状況等
	薬局でリフィル処方箋を受けるにあたっての課題
	患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験
	(相談を受けた経験がある場合) どのような患者からの相談であったか
	(相談を受けた経験がある場合) 最も多く受けた相談の内容
	(相談を受けた経験がある場合) 患者の希望を処方医へ情報提供した経験

(4) 患者調査（郵送調査）・(5) 患者調査（インターネット調査）

設問種類	設問項目
1. 調査票の記入者について	調査票の記入者
2. 患者自身のことについて	性別
	年代
	居住地
	薬局の窓口で支払うお金の有無
3. 医療機関や保険薬局の利用状況について	定期的に受診している医療機関（病院・診療所）の数
	定期的に受診している診療科の数
	定期的に受診している薬局の数
	定期的な処方を受けている疾患
	定期的に決まった薬の処方を受けているか
	（定期的に決まった薬の処方を受けている場合）
	定期的な処方を受けている期間
	リフィル処方箋を知っているか
	リフィル処方箋の制度内容の認知経路
4. これまでリフィル処方箋を交付された経験について	リフィル処方箋について医師から説明を受けたことの有無
	（説明を受けた場合）
	リフィル処方箋についての説明はどのように行われたか
	（説明を受けた場合）
	リフィル処方箋についての説明は理解できたか
	リフィル処方箋を交付された経験
	（交付有る場合）
	リフィル処方箋を交付された薬の種類
	（交付有る場合）
	直近のリフィル処方箋の反復利用できる回数
	（交付有る場合）
	直近のリフィル処方箋の1回あたりの処方日数
	（交付有る場合）
	リフィル処方箋の1回目の調剤で行った薬局
	（交付有る場合）
	リフィル処方箋の2回目の調剤の状況
	（交付有る場合）
	リフィル処方箋の3回目の調剤の状況
	（リフィル処方箋2, 3回目の調剤で調剤を受けずに受診することになった場合）
	調剤を受けずに受診することになった理由
	薬剤師からのフォローアップ（体調などの確認）の有無
	（フォローアップが有る場合）
	薬剤師から受けたフォローアップ（体調などの確認）の種類
	（フォローアップが有る場合）
	リフィル処方箋の2回目以降の処方で、薬局を変えたか
	（フォローアップが有り、2回目以降薬局を変えた場合）
	薬局を変更した理由
	（交付有り、2回目以降薬局を変えた場合）
	リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの

設問種類	設問項目
5. これからのリフィル処方箋の利用意向について	リフィル処方箋を使用することについて、最もメリットになると感じるもの
	リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの
	リフィル処方箋を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの
	長期処方を使用することについて、メリットになると感じるもの
	長期処方を使用することについて、最もメリットになると感じるもの
	長期処方を使用することについて、デメリットになると感じるもの
	長期処方を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの
	今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか
	今後、病状が安定している場合に長期処方を利用したいと思うか
	リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じること
	長期処方を利用するにあたり必要だと感じること
	リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（1回目・該当すべて）
	リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（1回目・最重視）
	リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（2回目・該当すべて）
	リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（2回目・最重視）
	長期処方は、どのような薬局で調剤を受けたいか（1回目・該当すべて）
	長期処方は、どのような薬局で調剤を受けたいか（1回目・最重視）
	長期処方は、どのような薬局で調剤を受けたいか（2回目・該当すべて）
	長期処方は、どのような薬局で調剤を受けたいか（2回目・最重視）
6. リフィル処方箋に関するご意見・ご要望	リフィル処方箋に関するご意見・ご要望等

5. 調査検討委員会

本調査を実施するにあたり、調査設計、調査票の作成、調査の実施、集計・分析、報告書案等の検討を行うため、以下のとおり、調査検討委員会を設置・開催した。

(1) 委員等

【委員】（○は委員長、五十音順、敬称略）

津留 英智 社会医療法人水光会 宗像水光会総合病院理事長
公益社団法人全日本病院協会 常任理事
医療保険・診療報酬委員会 委員長

豊見 敦 公益社団法人日本薬剤師会 常務理事

羽鳥 裕 はとりクリニック 理事長

○本田 文子 一橋大学大学院経済学研究科教授

【オブザーバー】（敬称略）

永瀬 伸子 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系教授

※所属は報告書取りまとめ時のもの

(2) 開催概要

第1回：令和6年9月26日（木） 15:00～17:00（対面/オンライン併用）

【議事】 調査概要・調査票・分析方針案に関する議論

第2回：令和7年3月5日（水） 15:00～17:00（対面/オンライン併用）

【議事】 調査結果（速報）及びとりまとめの方向性に関する議論

II. 調査の結果

1. 回収結果

「(1)病院・診療所調査」の有効回答数（施設数）は 527 件、有効回答率は 26.4%、
「(2)医師調査」の有効回答数（医師数）は 428 件、「(3)保険薬局調査」の有効回答数（施設数）は 438 件、有効回答率は 43.8%、「(4)患者調査（郵送調査）」の有効回答数は 922 件、「(5)患者調査（インターネット調査）」の有効回答数は 3,000 件であった。

図表 1-1 回収状況

	発送数	有効回答数	有効回答率
(1) 病院・診療所調査	2,000 件	527 件	26.4%
病：リフィル発行実績有り	500 件	101 件	20.2%
病：リフィル発行実績無し	500 件	141 件	28.2%
診：リフィル発行実績有り	500 件	149 件	29.8%
診：リフィル発行実績無し	500 件	126 件	25.2%
(2) 医師調査	—	428 件	—
(3) 保険薬局調査	1,000 件	438 件	43.8%
リフィル受付実績有り	500 件	255 件	51.0%
リフィル受付実績無し	500 件	169 件	33.8%
(4) 患者調査（郵送調査）	—	922 件	—
(5) 患者調査（インターネット調査）	—	3,000 件	—

※病院・診療所調査では、リフィル発行実績有無に関する設問の無回答が 10 件あったため、合計と内数の和が一致しない。

※保険薬局調査では、リフィル受付実績有無に関する設問の無回答が 14 件あったため、合計と内数の和が一致しない。

※医師調査、患者調査（郵送調査）については、病院や薬局から何部配布されたかが正確に把握できない方法で調査を行っていることから、発送数と有効回答率の表記を行っていない。また、患者調査（インターネット調査）については、回答数が 3,000 件になるまで回収を続けるという他との調査とは異なる方式で調査を行っていることから、発送数、有効回答率の表記を行っていない。

なお、「2. 調査対象」の「（参考）調査対象の母集団」に記載のとおり、本調査は精神科を有する病院を悉皆で調査したり、母集団比率に応じて比例配分したものではなく、特定の条件に沿って抽出して調査したものである。本報告書における調査結果は、あくまで回答が得られた施設における状況である点に十分留意する必要がある。

2. 病院・診療所調査

【調査対象等】

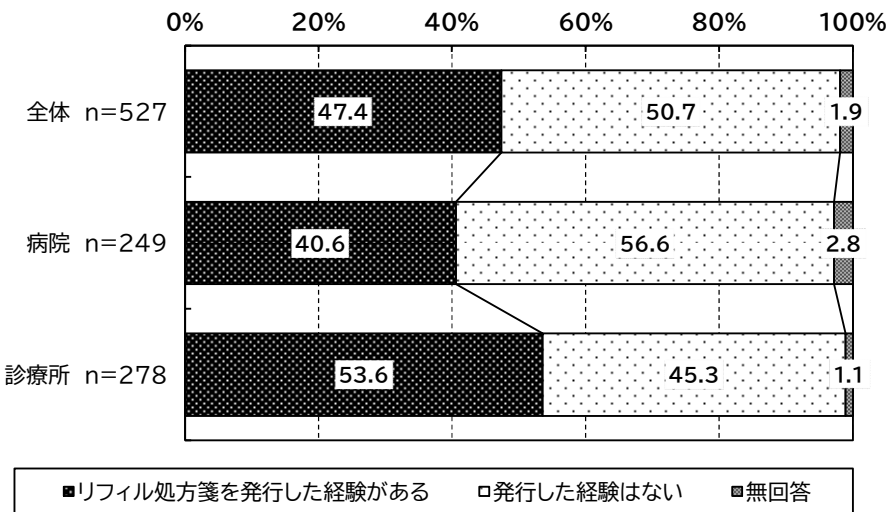
○調査票 施設票
調査対象：令和6年3月から5月の間に、2件以上のリフィル処方箋の発行実績がある病院から500件、同期間に発行実績がない病院から500件をそれぞれ無作為抽出し、同様に令和6年3月から5月の間に、5件以上のリフィル処方箋の発行実績がある診療所から500件、同期間に発行実績がない診療所から500件をそれぞれ無作為抽出した
回 答 数：527施設
回 答 者：開設者・管理者

リフィル処方箋の発行実績の有無（病院は2件以上、診療所は5件以上で有り）によって調査対象を抽出したが、本調査結果における「リフィル処方箋の発行実績が有る」とは、設問内で過去に1件以上リフィル処方箋の発行実績が有ると回答している病院・診療所であることを指す。そのため、図表2-37に示すリフィル発行経験の割合は、全医療機関における状況を示したものではない点に留意が必要である。

(1) リフィル処方箋の発行経験

リフィル処方箋の発行経験については、病院・診療所において「経験している」割合がそれぞれ40.6%、53.6%であった。

図表 2-1 リフィル処方箋の発行経験
(病院・診療所別の有無別)

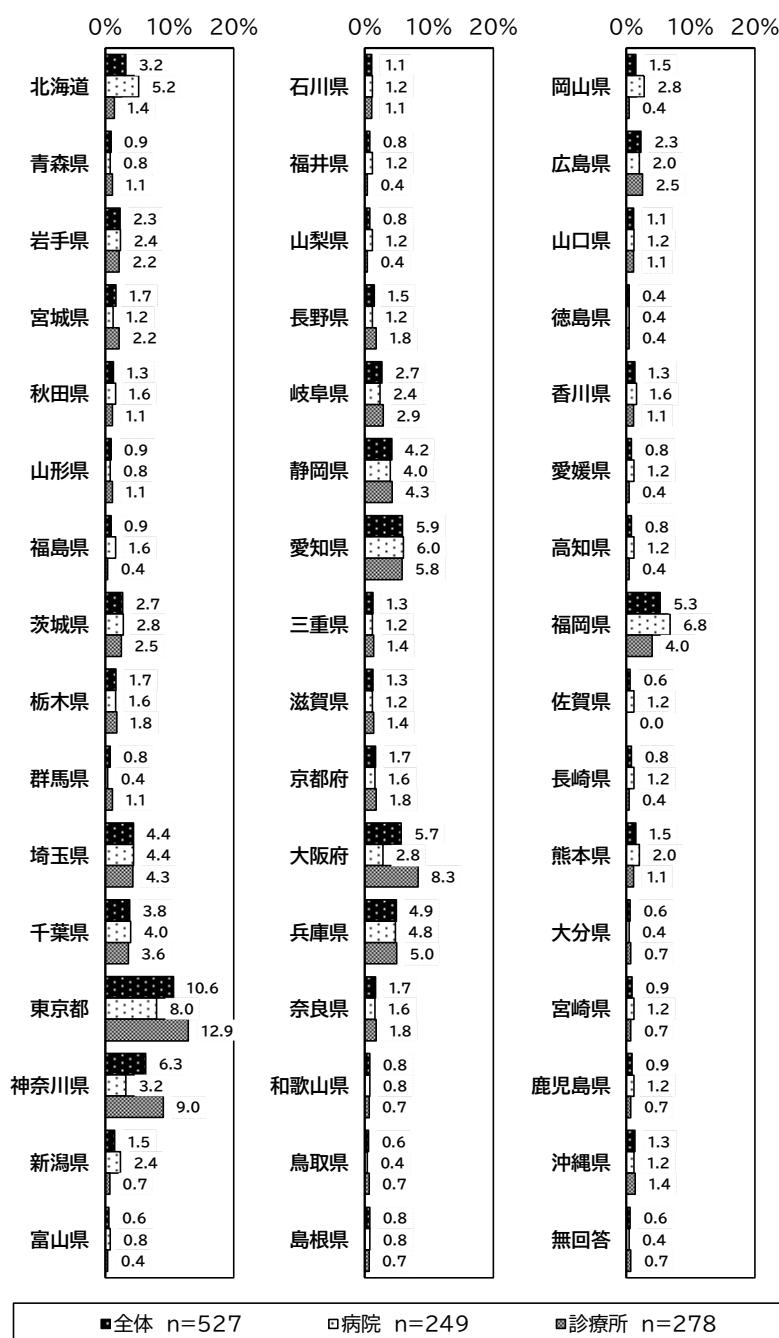


1) 施設の状況（令和6年11月1日現在）

(1) 所在地（都道府県）

回答があった医療機関の所在地は病院・診療所ともに「東京都」が最も多くそれぞれ8.0%、12.9%であった。なお、大都市部（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県及び大阪府）は病院で28.4%、診療所で43.9%を占めていた。

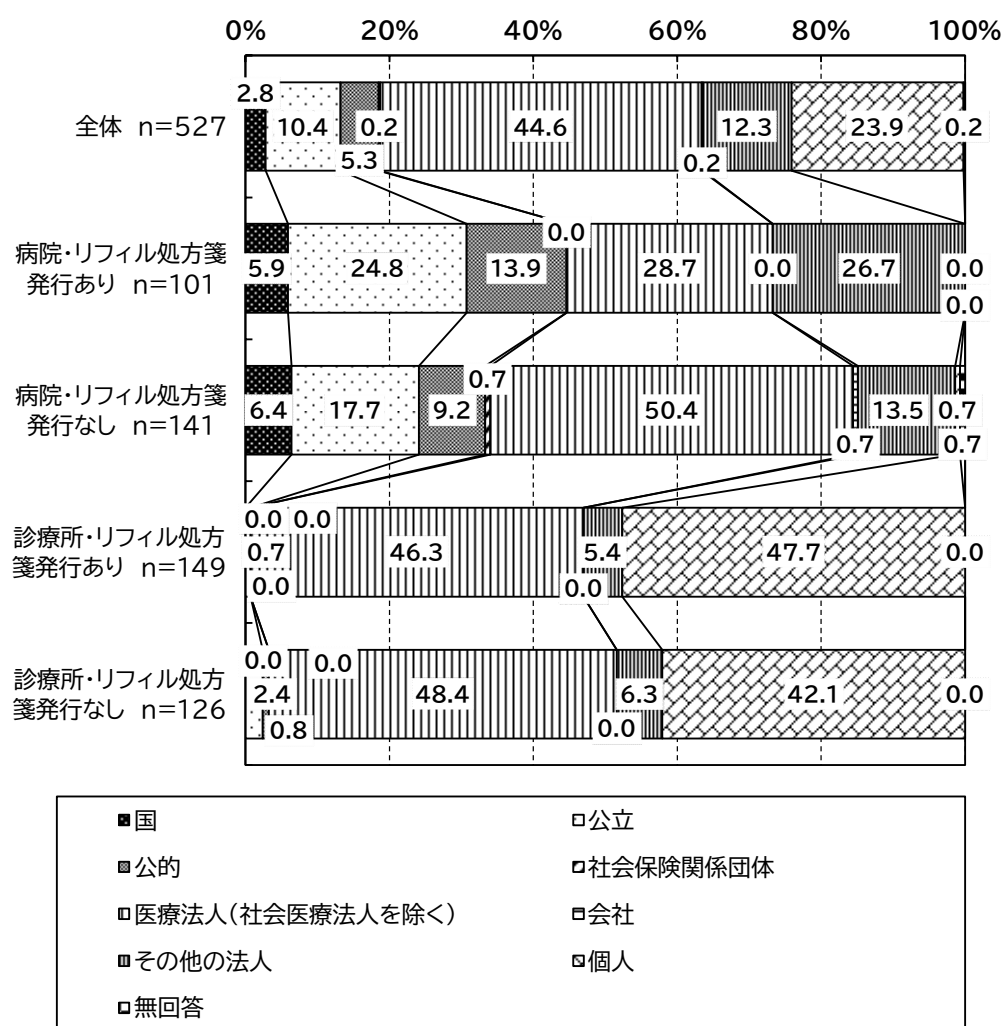
図表 2-2 所在地（病院・診療所別）



(2) 開設者

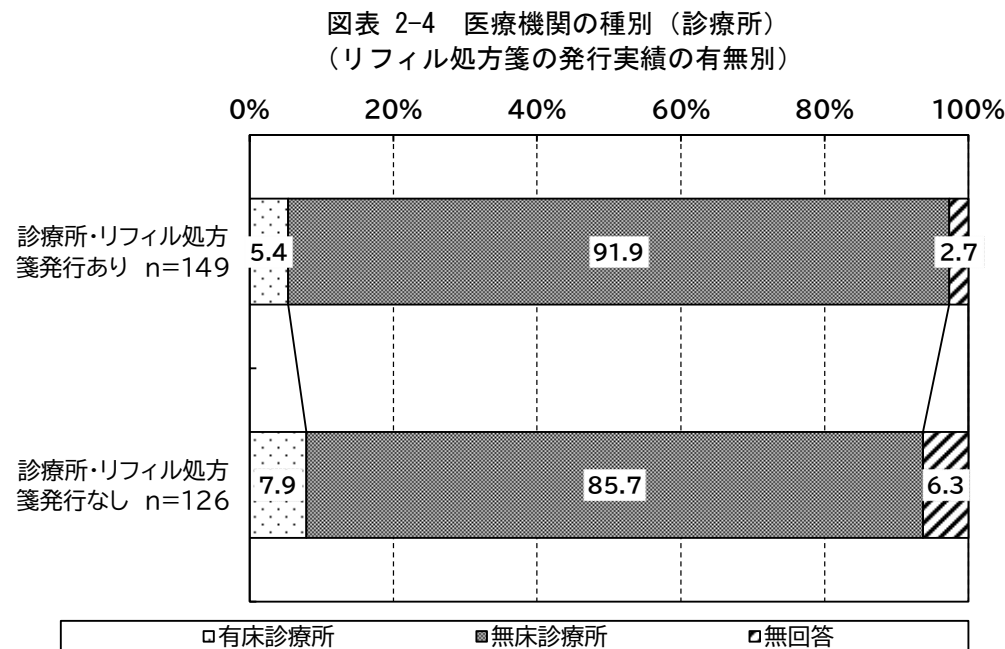
回答があった医療機関の開設者は病院・診療所ともに「医療法人（社会医療法人を除く）」が最も多く、それぞれリフィル処方箋発行実績ある病院は28.7%、発行実績がない病院は50.4%、リフィル処方箋発行実績がある診療所は46.3%、発行実績がない診療所は48.4%であった。

図表 2-3 開設者
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



(3) 医療機関の種別

医療機関の種別については、診療所のうち、無床診療所の割合が、リフィル発行実績ありの診療所で 91.9%、発行実績なしの診療所で 85.7%であった。

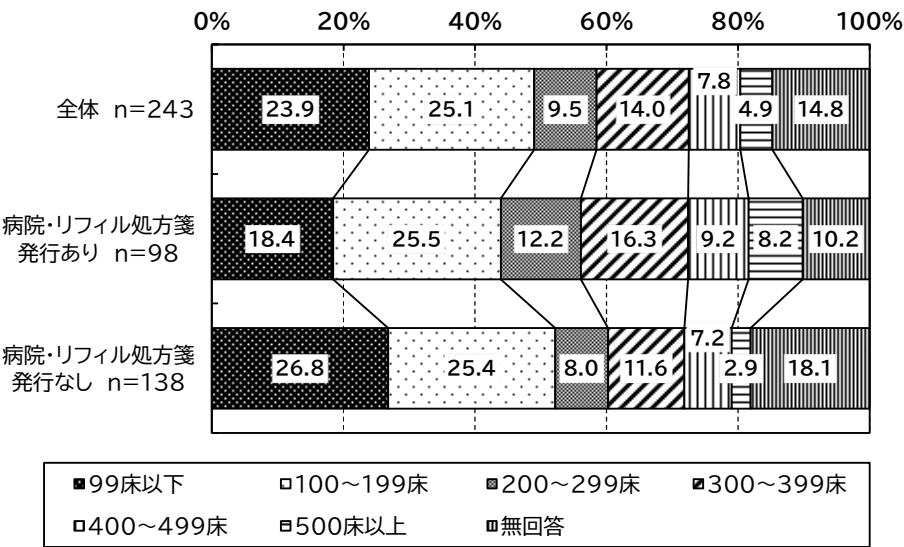


(4) 許可病床数

(3)で施設種別を「病院」または「有床診療所」と回答した施設が対象)

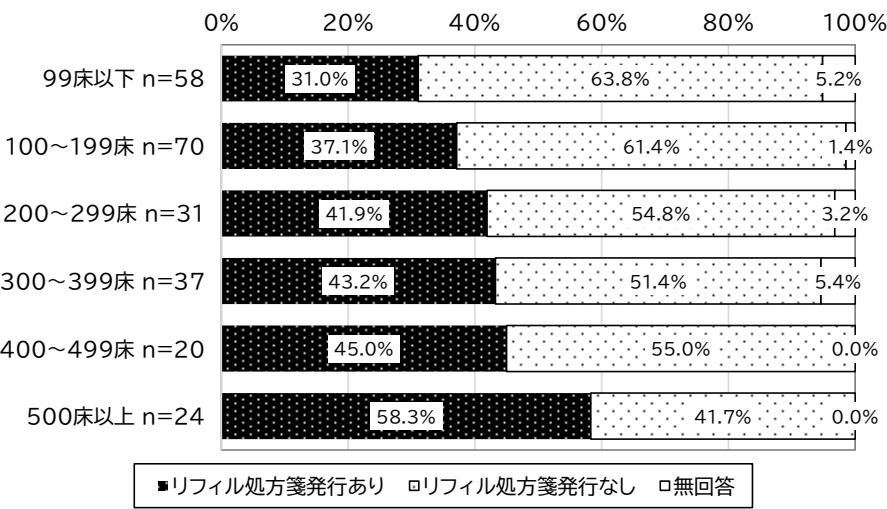
許可病床数については、病院全体ではリフィル処方箋発行実績のある病院、発行実績がない病院ともに100～199床が最も多くそれぞれ25.5%、25.4%であった。診療所全体ではリフィル処方箋発行実績のある診療所、発行実績がない診療所ともに9床以下が最も多くともに50.0%であった。

図表 2-5 許可病床数 病院
(リフィル処方箋の発行実績の有無別)

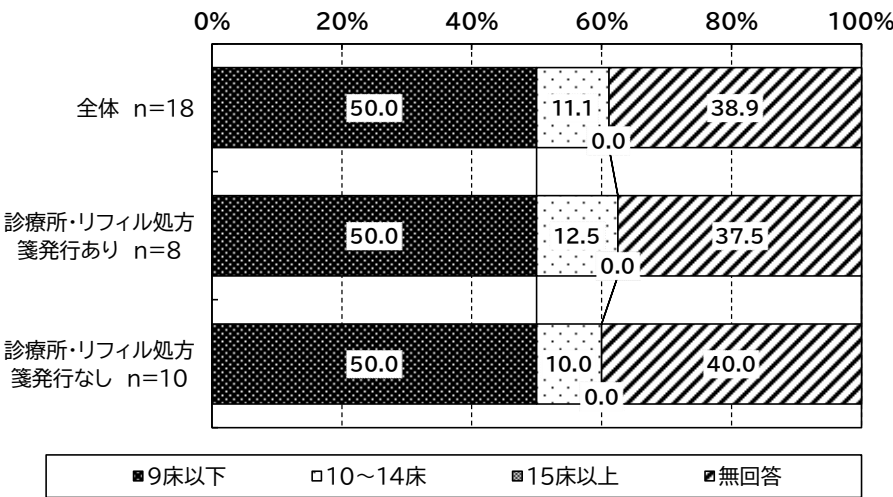


(参考)

許可病床数別にみたリフィル処方箋の発行実績の有無



図表 2-6 許可病床数 有床診療所
(リフィル処方箋の発行実績の有無別)



図表 2-7 許可病床数 一般病床
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

(単位：床)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	225	177.7	158.5	130
病院・リフィル処方箋発行あり	88	229.4	161.4	199
病院・リフィル処方箋発行なし	113	165.9	148.3	120
診療所・リフィル処方箋発行あり	8	11.5	6.7	11
診療所・リフィル処方箋発行なし	10	9.5	5.0	8.5

図表 2-8 許可病床数 療養病床
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

(単位：床)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	225	21.3	36.2	0
病院・リフィル処方箋発行あり	88	16.4	33.5	0
病院・リフィル処方箋発行なし	113	27.5	39.3	0
診療所・リフィル処方箋発行あり	8	0.0	0.0	0
診療所・リフィル処方箋発行なし	10	2.6	5.2	0

図表 2-9 許可病床数 精神病床
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

(単位：床)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	225	0.8	5.9	0
病院・リフィル処方箋発行あり	88	0.9	6.0	0
病院・リフィル処方箋発行なし	113	0.8	6.3	0
診療所・リフィル処方箋発行あり	8	0.0	0.0	0
診療所・リフィル処方箋発行なし	10	0.0	0.0	0

図表 2-10 許可病床数 結核病床
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

(単位：床)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	225	0.4	2.7	0
病院・リフィル処方箋発行あり	88	0.4	3.1	0
病院・リフィル処方箋発行なし	113	0.3	1.7	0
診療所・リフィル処方箋発行あり	8	0.0	0.0	0
診療所・リフィル処方箋発行なし	10	0.0	0.0	0

図表 2-11 許可病床数 感染症病床
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

(単位：床)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	225	0.4	1.4	0
病院・リフィル処方箋発行あり	88	0.6	1.7	0
病院・リフィル処方箋発行なし	113	0.4	1.1	0
診療所・リフィル処方箋発行あり	8	0.0	0.0	0
診療所・リフィル処方箋発行なし	10	0.0	0.0	0

図表 2-12 許可病床数 病院・診療所全体
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

(単位：床)

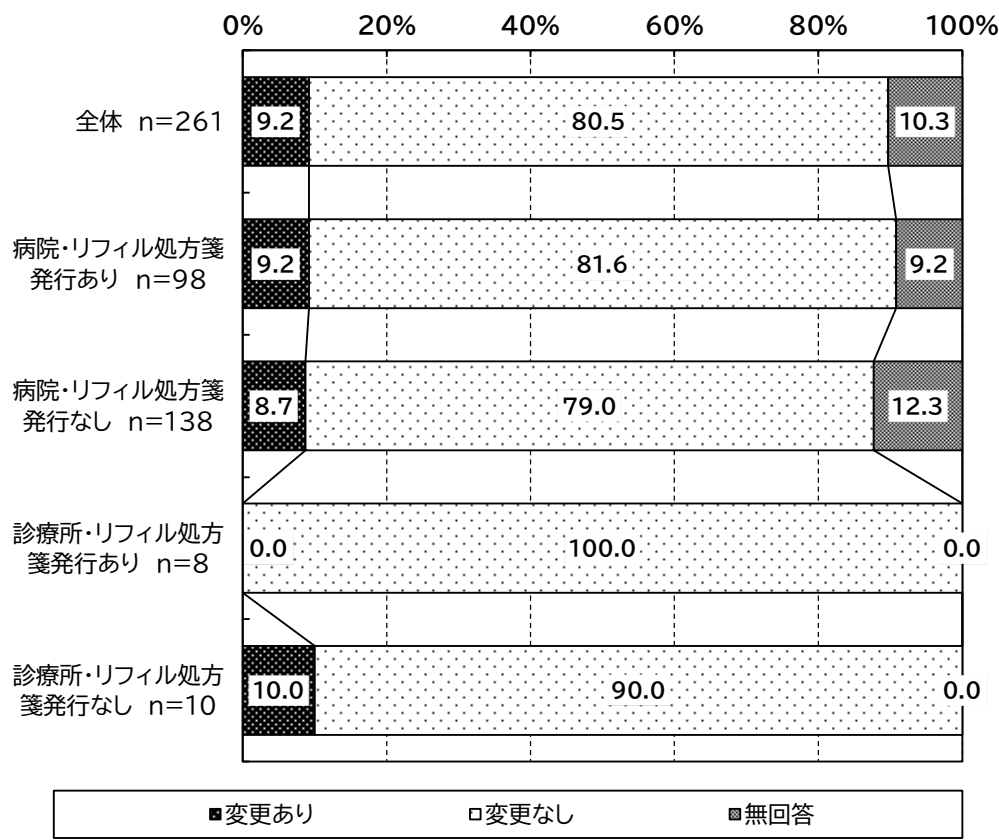
	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	225	200.6	151.8	167
病院・リフィル処方箋発行あり	88	247.8	155.9	200
病院・リフィル処方箋発行なし	113	194.9	136.7	154
診療所・リフィル処方箋発行あり	8	11.5	6.7	11
診療所・リフィル処方箋発行なし	10	12.1	5.3	11.5

(5) 過去1年間の病床数変更

((3)で施設種別を「病院」または「有床診療所」と回答した施設が対象)

過去1年間の病床数変更について、病院ではリフィル処方箋発行実績がある病院は「変更あり」が9.2%、「変更なし」が81.6%、発行実績がない病院は「変更あり」が8.7%、「変更なし」が79.0%であった。診療所ではリフィル処方箋発行実績がある診療所は「変更なし」が100%、発行実績がない診療所は「変更あり」が10.0%、「変更なし」が90.0%であった。

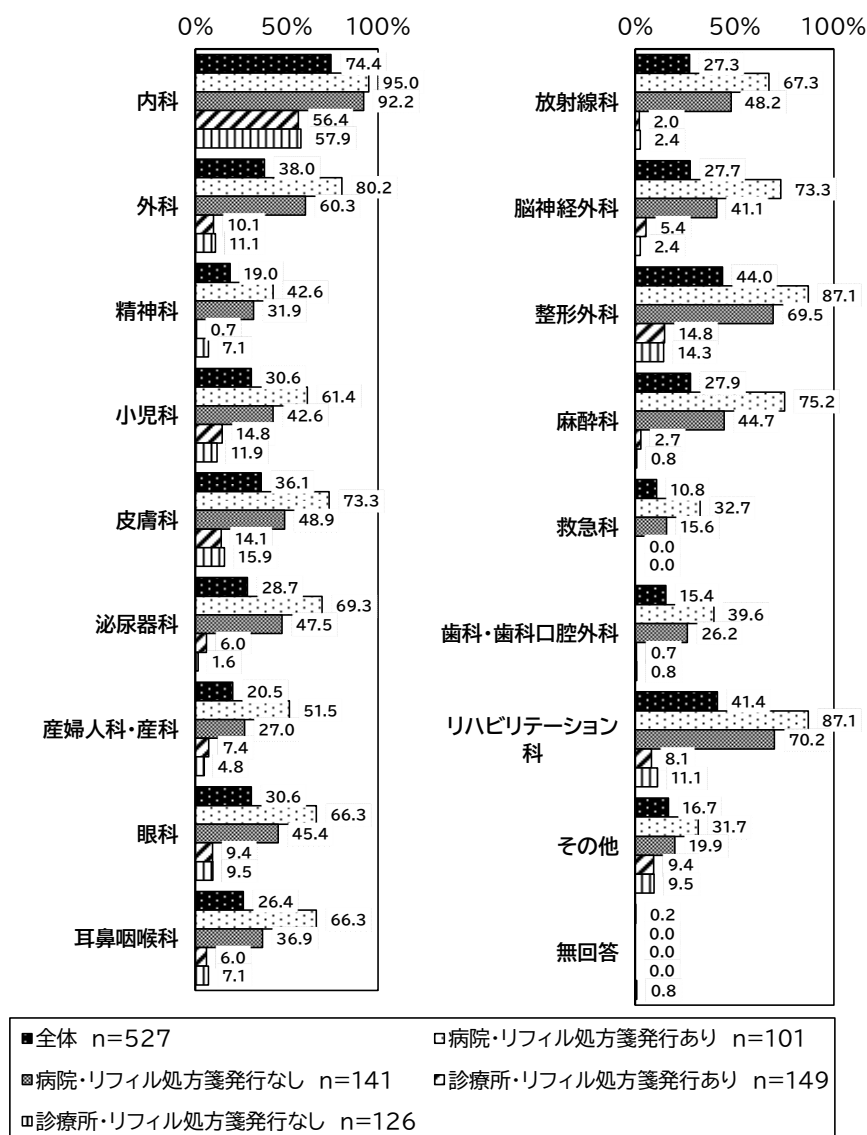
図表 2-13 過去1年の病床数変更
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



(6) 標榜診療科

標榜診療科は、病院ではリフィル処方箋の発行実績のある病院・発行実績のない病院ともに「内科」がそれぞれ95.0%、92.2%で最も多く、診療所も同じくリフィル処方箋の発行実績のある診療所・発行実績のない診療所ともに「内科」がそれぞれ56.4%、57.9%で最も多かった。

図表 2-14 標榜診療科（複数回答）
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）



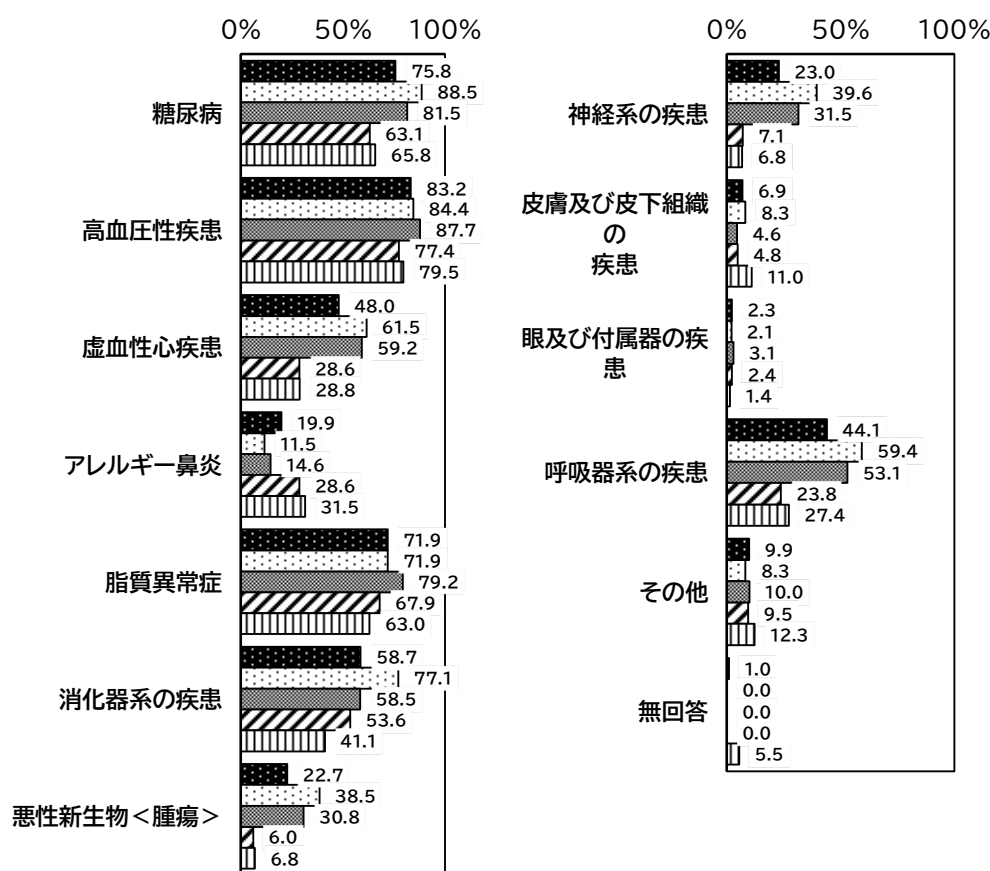
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・形成外科
- ・病理診断科
- ・緩和ケア内科
- ・アレルギー科
- ・リウマチ科 など

(7) 診療科において主に対応している患者像

リフィル処方箋の発行実績の有る病院では「糖尿病」が最も多く 88.5%、発行実績の無い病院では「高血圧性疾患」が 87.7%と最も多かった。診療所では、リフィル処方箋の発行実績のある診療所・発行実績のない診療所ともに「高血圧性疾患」がそれぞれ 77.4%、79.5%で最も多かった。

図表 2-15 診療科において主に対応している患者像（複数回答）
（内科と回答した場合）
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）



■全体 n=392
 ■病院・リフィル処方箋発行あり n=96
 ■病院・リフィル処方箋発行なし n=130
 ■診療所・リフィル処方箋発行あり n=84
 ■診療所・リフィル処方箋発行なし n=73

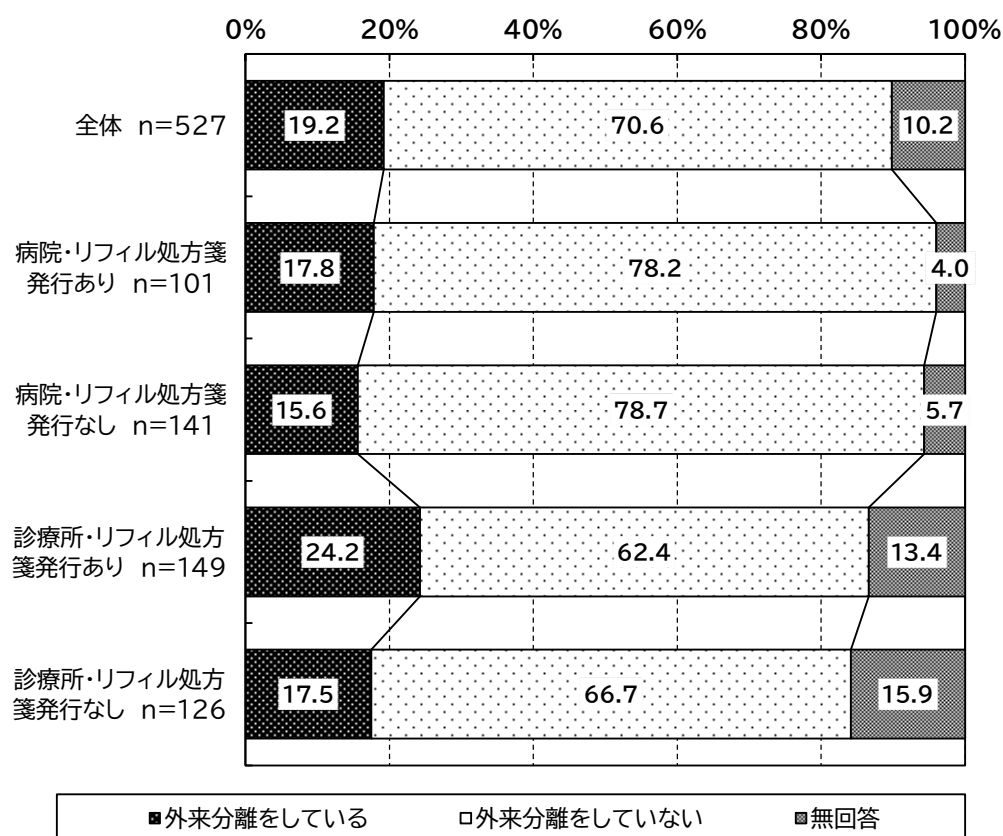
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・循環器系の疾患
- ・血液疾患
- ・腎疾患
- ・リウマチ
- ・甲状腺疾患 など

(8) 外来分離の状況

外来分離の状況については、リフィル処方箋の発行実績のある病院・発行実績のない病院・発行実績のある診療所・発行実績のない診療所において「外来分離をしている」割合はそれぞれ、17.8%、15.6%、24.2%、17.5%であった。

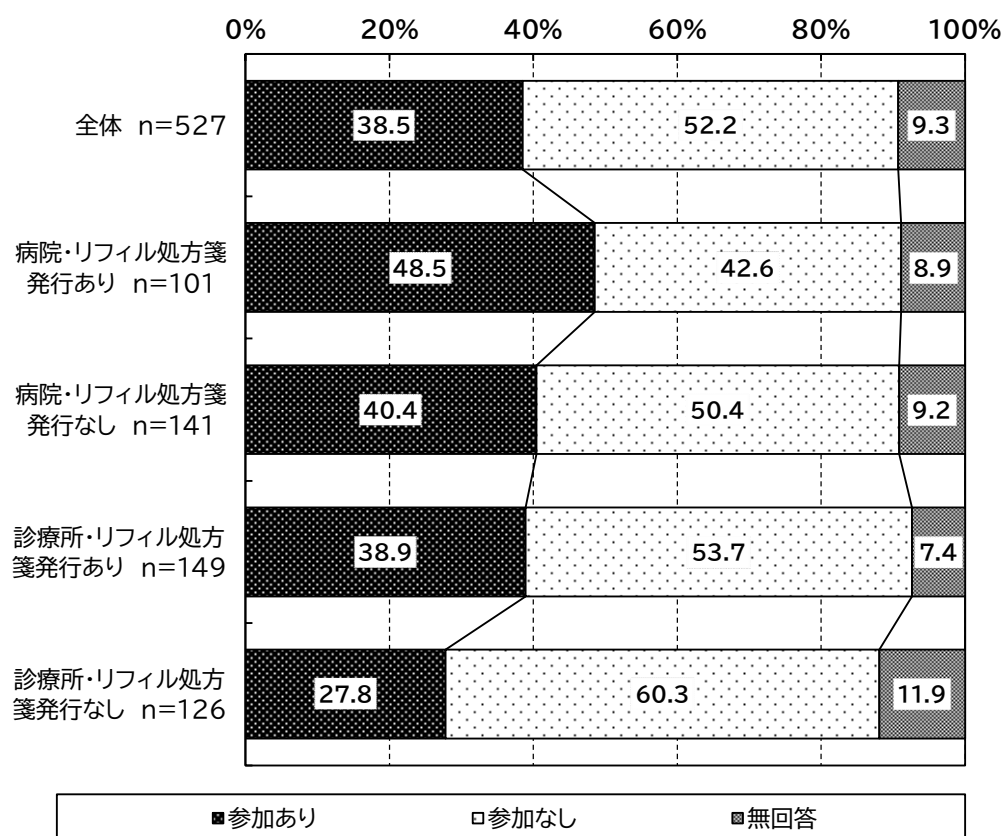
図表 2-16 外来分離の状況
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



(9) 地域医療情報連携ネットワークへの参加の有無

地域医療情報連携ネットワークへの参加の有無については、リフィル処方箋の発行実績のある病院・発行実績のない病院・発行実績のある診療所・発行実績のない診療所において「参加あり」の割合はそれぞれ、48.5%、40.4%、38.9%、27.8%であった。

図表 2-17 地域医療情報連携ネットワークへの参加の有無
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



(10) 外来を担う医師の人数

外来を担う医師の人数については、リフィル処方箋の発行実績のある病院では常勤医師が平均で 32.1 人、リフィル処方箋の発行実績のない病院では常勤医師が平均で 19.4 人、リフィル処方箋の発行実績のある診療所では常勤医師が平均で 1.5 人、リフィル処方箋の発行実績のない診療所では常勤医師が平均で 1.2 人であった。

図表 2-18 外来を担う医師の人数 常勤医師
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

(単位：人)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	480	11.2	21.9	2
病院・リフィル処方箋発行あり	79	32.1	31.4	22
病院・リフィル処方箋発行なし	126	19.4	25.4	8
診療所・リフィル処方箋発行あり	147	1.5	2.4	1
診療所・リフィル処方箋発行なし	121	1.2	0.6	1

図表 2-19 外来を担う医師の人数 非常勤医師 実人数
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

(単位：人)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	300	20.2	25.2	7.5
病院・リフィル処方箋発行あり	80	33.8	24.9	30
病院・リフィル処方箋発行なし	115	25.5	26.6	14
診療所・リフィル処方箋発行あり	58	4.3	14.5	1
診療所・リフィル処方箋発行なし	42	2.3	3.7	1

図表 2-20 外来を担う医師の人数 非常勤医師 常勤換算
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

(単位：人)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	308	4.7	8.6	2
病院・リフィル処方箋発行あり	84	7.6	8.1	5.65
病院・リフィル処方箋発行なし	118	6.2	11.0	2.9
診療所・リフィル処方箋発行あり	59	0.9	2.9	0.1
診療所・リフィル処方箋発行なし	42	0.6	0.8	0.1

(11) 外来の患者数

令和6年9～11月の外来の合計患者数については、リフィル処方箋の発行実績のある病院では平均で22,597.2人、リフィル処方箋の発行実績のない病院では平均で14,658.8人、リフィル処方箋の発行実績のある診療所では平均で4,006.8人、リフィル処方箋の発行実績のない診療所では平均で3,288.8人であった。

図表 2-21 外来の患者数
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

(単位：人)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	469	10126.8	12954.2	4441
病院・リフィル処方箋発行あり	83	22597.2	15385.0	19476
病院・リフィル処方箋発行なし	126	14658.8	15110.9	9062
診療所・リフィル処方箋発行あり	134	4006.8	4140.1	3475.5
診療所・リフィル処方箋発行なし	117	3288.8	3020.3	2682

(12) 処方箋の発行枚数

令和6年9～11月の処方箋の合計発行枚数については、リフィル処方箋の発行実績のある病院では平均で10,840.1枚、リフィル処方箋の発行実績のない病院では平均で6,831.8枚、リフィル処方箋の発行実績のある診療所では2,678.2枚、リフィル処方箋の発行実績のない診療所では平均で1,688.0枚であった。

図表 2-22 処方箋の発行枚数
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

(単位：枚)

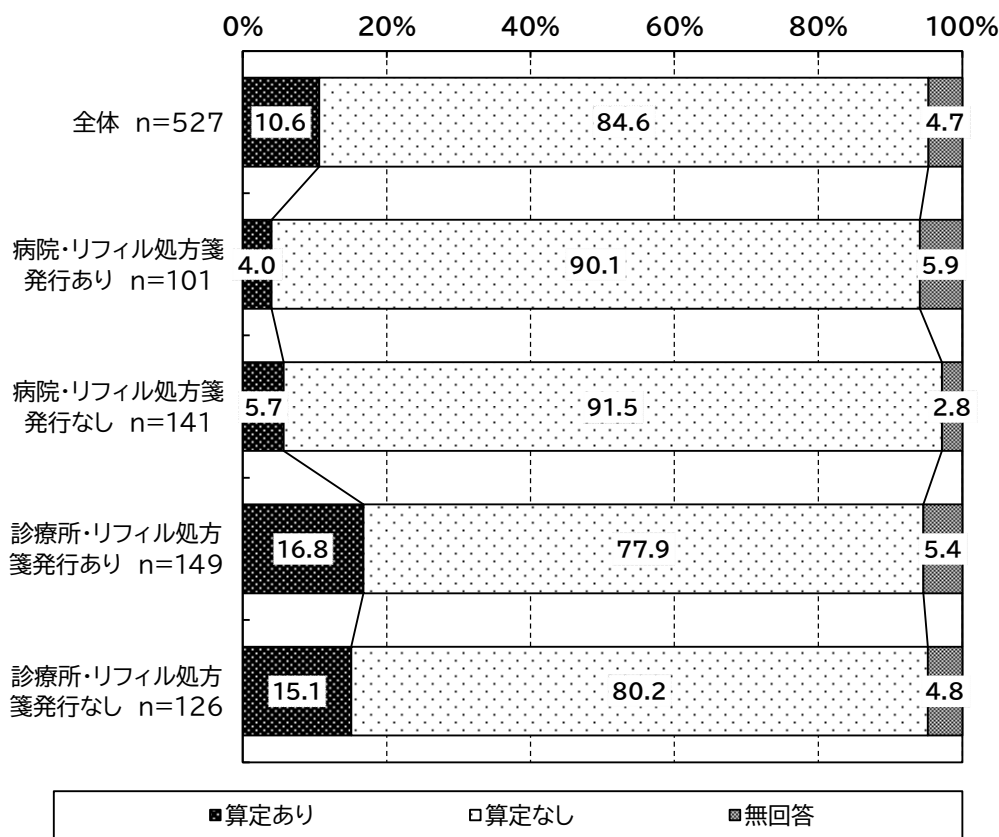
	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	447	5073.3	6177.5	2586
病院・リフィル処方箋発行あり	79	10840.1	7356.9	10269
病院・リフィル処方箋発行なし	123	6831.8	7144.4	4557
診療所・リフィル処方箋発行あり	128	2678.2	2867.0	2019
診療所・リフィル処方箋発行なし	110	1688.0	1522.3	1494

(13) 診療報酬の算定の有無

① 生活習慣病管理料（Ⅰ）

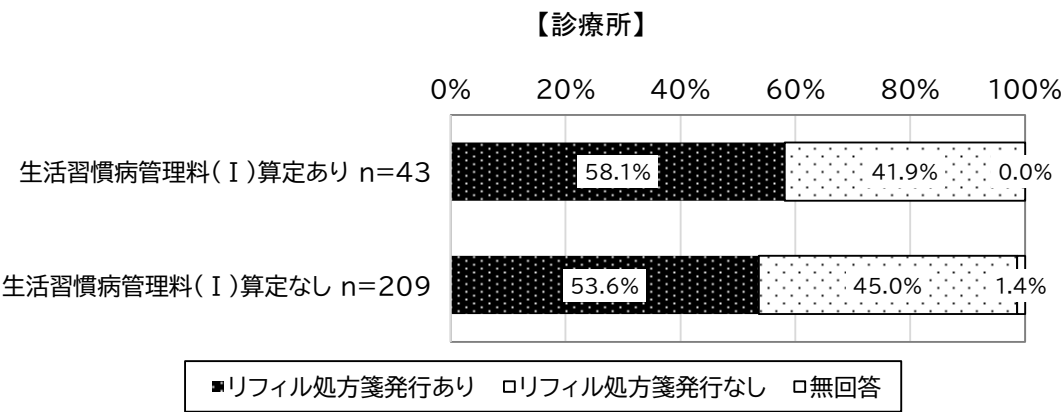
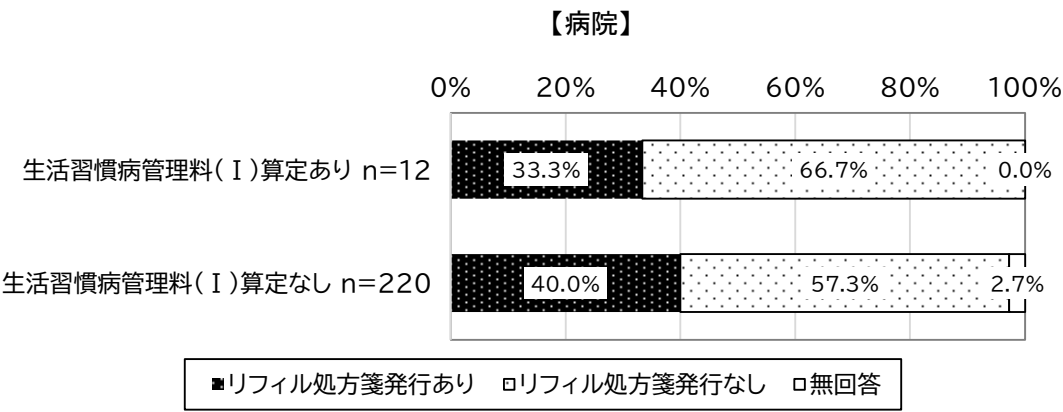
生活習慣病管理料（Ⅰ）の診療報酬の算定の有無については、リフィル処方箋の発行実績のある病院・発行実績のない病院・発行実績のある診療所・発行実績のない診療所において「算定あり」の割合はそれぞれ、4.0%、5.7%、16.8%、15.1%であった。

図表 2-23 診療報酬の算定の有無：生活習慣病管理料（Ⅰ）
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）



(参考)

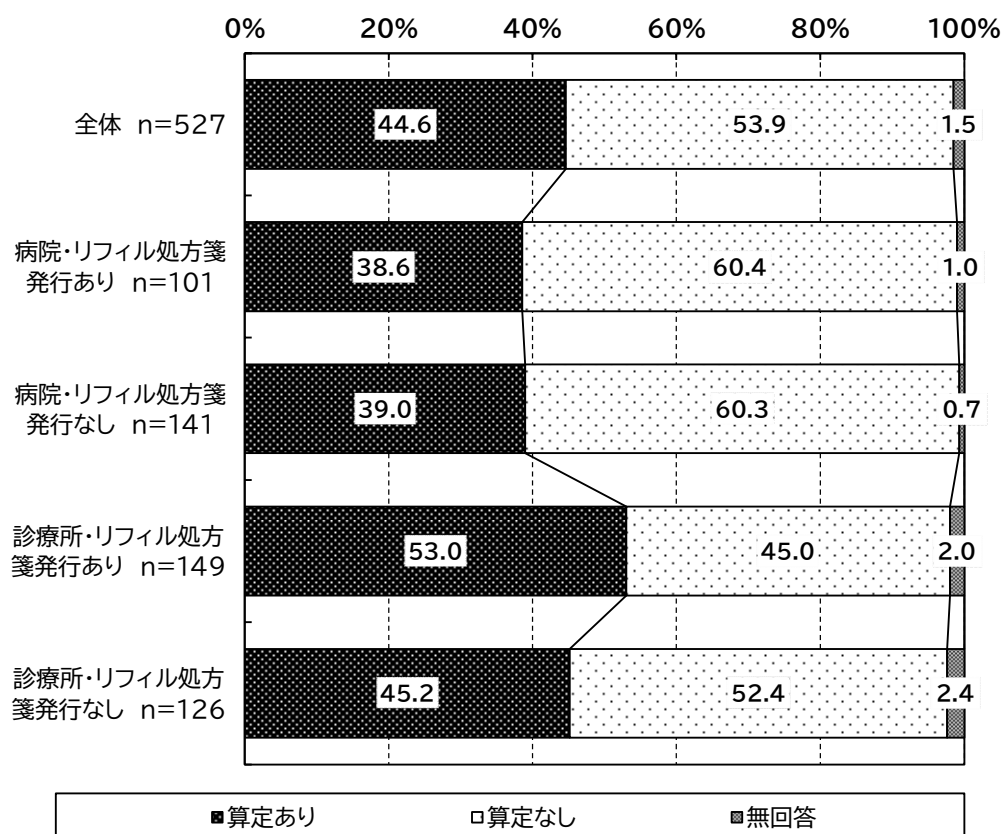
生活習慣病管理料（Ⅰ）の算定実績の有無別にみたリフィル処方箋の発行実績



② 生活習慣病管理料（Ⅱ）

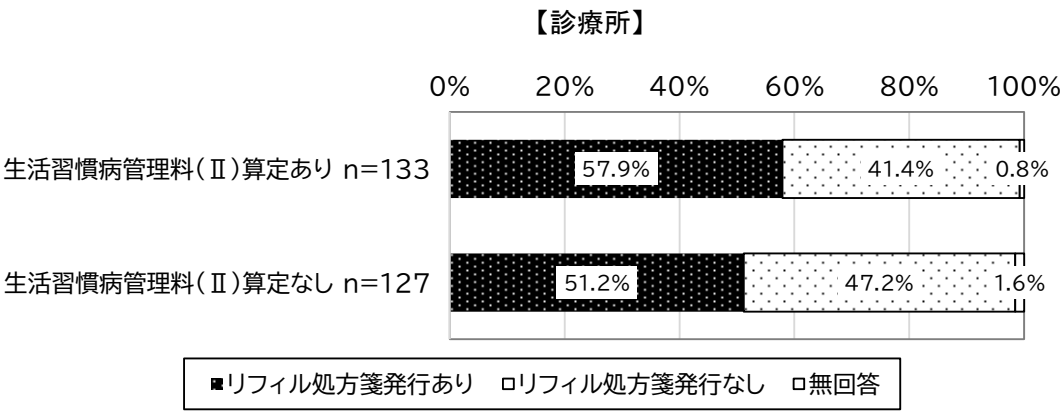
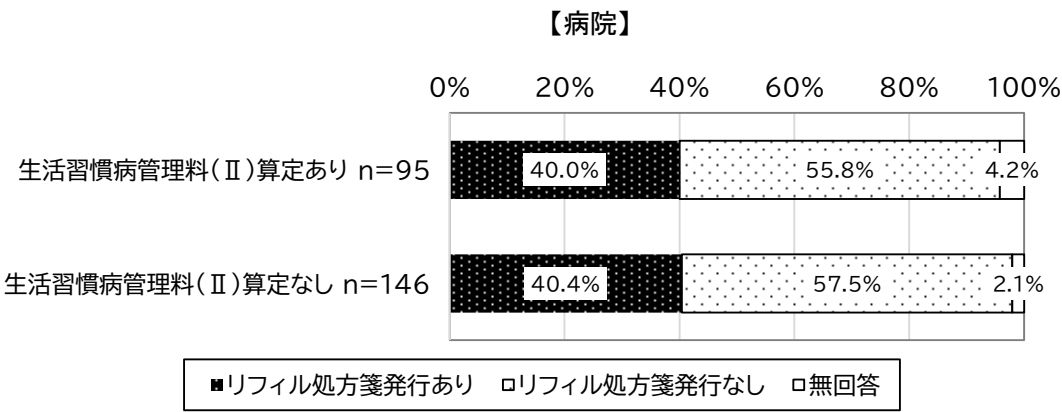
生活習慣病管理料（Ⅱ）の診療報酬の算定の有無については、リフィル処方箋の発行実績のある病院・発行実績のない病院・発行実績のある診療所・発行実績のない診療所において「算定あり」の割合はそれぞれ、38.6%、39.0%、53.0%、45.2%であった。

図表 2-24 診療報酬の算定の有無：生活習慣病管理料（Ⅱ）
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）



(参考)

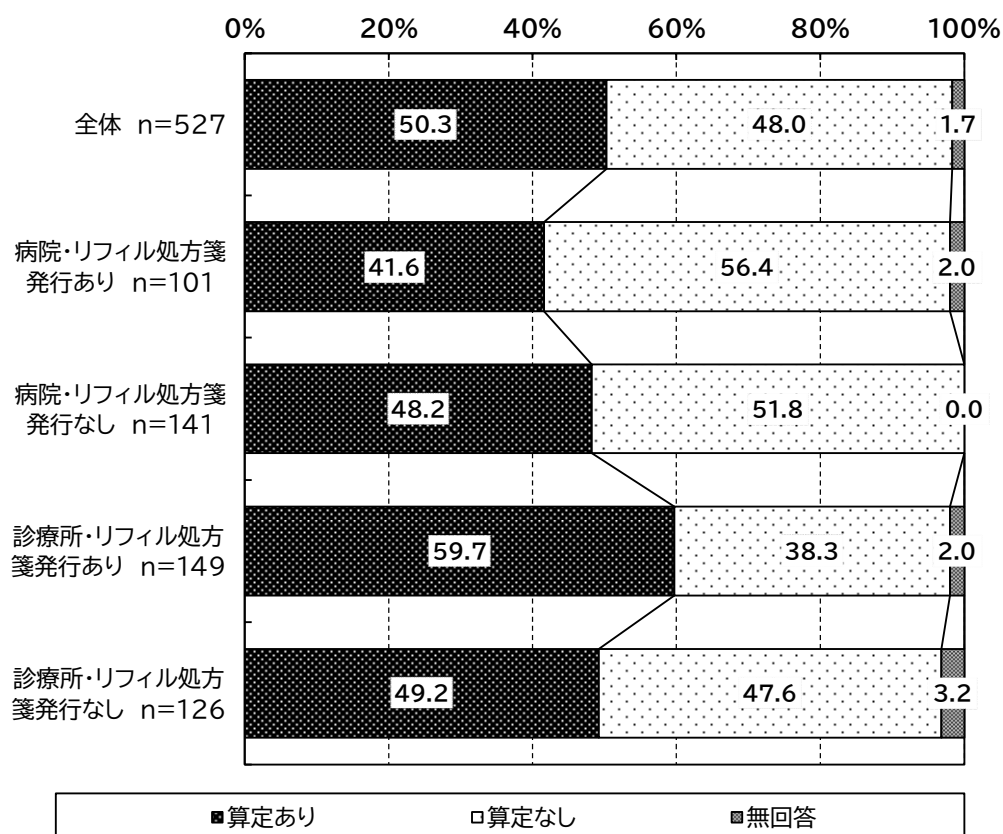
生活習慣病管理料（Ⅱ）の算定実績の有無別にみたリフィル処方箋の発行実績



③ 特定疾患処方管理加算

特定疾患処方管理加算の算定の有無については、リフィル処方箋の発行実績のある病院・発行実績のない病院・発行実績のある診療所・発行実績のない診療所において「算定あり」の割合はそれぞれ、41.6%、48.2%、59.7%、49.2%であった。

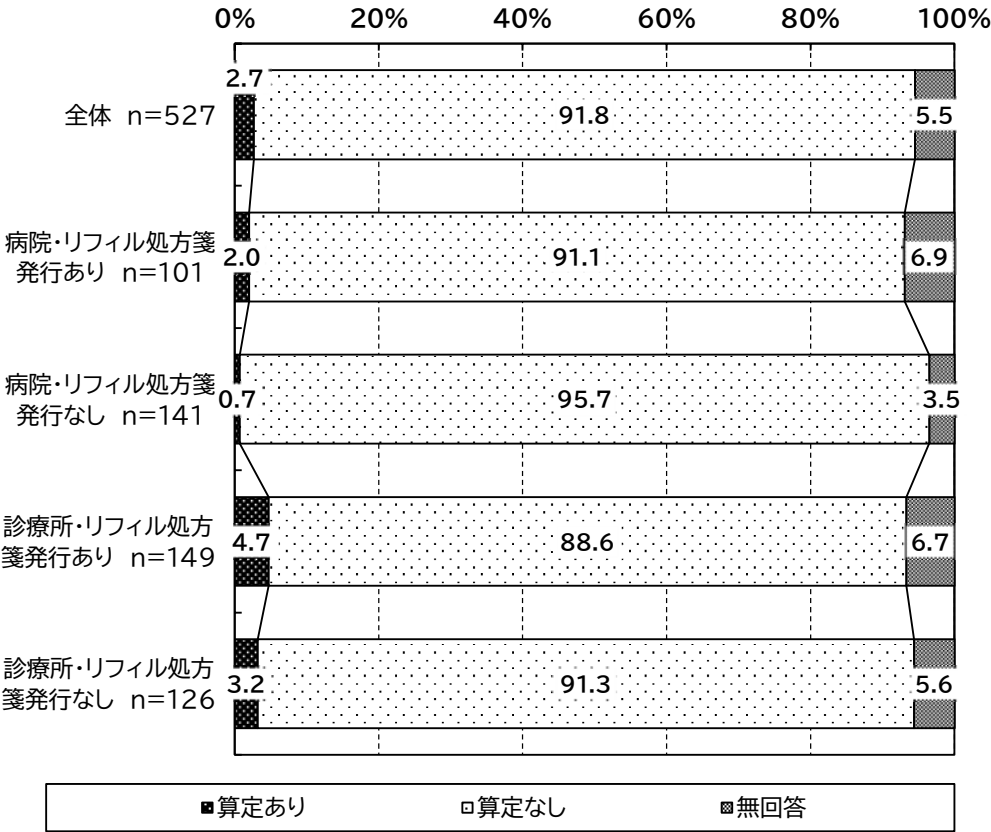
図表 2-25 診療報酬の算定の有無：特定疾患処方管理加算
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



④ 地域包括診療料（地域包括診療加算）

地域包括診療料（地域包括診療加算）の診療報酬の算定の有無については、リフィル処方箋の発行実績のある病院・発行実績のない病院・発行実績のある診療所・発行実績のない診療所において「算定あり」の割合はそれぞれ、2.0％、0.7％、4.7％、3.2％であった。

図表 2-26 診療報酬の算定の有無：地域包括診療料（地域包括診療加算）
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）



(14) 診療報酬の算定件数

生活習慣病管理料（Ⅰ）の算定件数については、リフィル処方箋の発行実績のある病院では平均で 362.3 件、リフィル処方箋の発行実績のない病院では平均で 205.3 件、リフィル処方箋の発行実績のある診療所では平均で 158.5 件、リフィル処方箋の発行実績のない診療所では平均で 98.4 件であった。

図表 2-27 生活習慣病管理料（Ⅰ）の算定件数
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）

（単位：件）

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	45	162.5	204.3	98
病院・リフィル処方箋発行あり	4	362.3	284.1	225.5
病院・リフィル処方箋発行なし	7	205.3	214.8	203
診療所・リフィル処方箋発行あり	18	158.5	208.8	79
診療所・リフィル処方箋発行なし	16	98.4	114.5	39

生活習慣病管理料（Ⅱ）の算定件数については、リフィル処方箋の発行実績のある病院では平均で 450.7 件、リフィル処方箋の発行実績のない病院では平均で 405.6 件、リフィル処方箋の発行実績のある診療所では平均で 308.2 件、リフィル処方箋の発行実績のない診療所では平均で 287.5 件であった。

図表 2-28 生活習慣病管理料（Ⅱ）の算定件数
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）

（単位：件）

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	195	347.4	300.9	283
病院・リフィル処方箋発行あり	33	450.7	326.3	451
病院・リフィル処方箋発行なし	49	405.6	317.1	329
診療所・リフィル処方箋発行あり	65	308.2	272.2	266
診療所・リフィル処方箋発行なし	43	287.5	277.8	218

特定疾患処方管理加算の算定件数については、リフィル処方箋の発行実績のある病院では平均で 247.4 件、リフィル処方箋の発行実績のない病院では平均で 195.2 件、リフィル処方箋の発行実績のある診療所では平均で 147.0 件、リフィル処方箋の発行実績のない診療所では平均で 124.9 件であった。

図表 2-29 特定疾患処方管理加算の算定件数
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）

（単位：件）

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	207	173.9	210.1	97
病院・リフィル処方箋発行あり	35	247.4	221.8	197
病院・リフィル処方箋発行なし	59	195.2	256.0	63
診療所・リフィル処方箋発行あり	60	147.0	175.9	88
診療所・リフィル処方箋発行なし	49	124.9	160.2	55

地域包括診療料（地域包括診療加算）の算定件数については、リフィル処方箋の発行実績のある病院では平均で 3.0 件、リフィル処方箋の発行実績のない病院では平均で 148.0 件、リフィル処方箋の発行実績のある診療所では平均で 516.0 件、リフィル処方箋の発行実績のない診療所では平均で 516.0 件であった。

図表 2-30 地域包括診療料（地域包括診療加算）の算定件数
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）

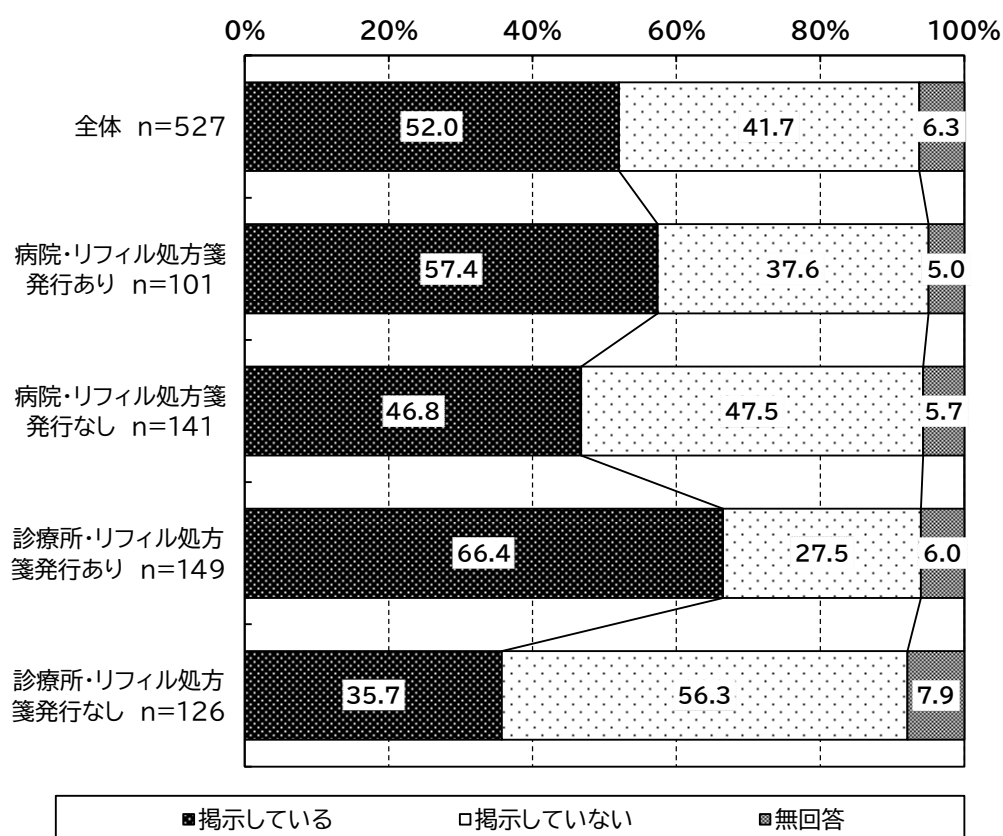
（単位：件）

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	9	418.1	348.9	396
病院・リフィル処方箋発行あり	1	3.0	0.0	3
病院・リフィル処方箋発行なし	1	148.0	0.0	148
診療所・リフィル処方箋発行あり	5	516.0	388.5	606
診療所・リフィル処方箋発行なし	2	516.0	120.0	516

(15) リフィル処方箋または長期処方の対応可能な旨の掲示有無

リフィル処方箋または長期処方の対応可能な旨の掲示有無については、リフィル処方箋の発行実績のある病院・発行実績のない病院・発行実績のある診療所・発行実績のない診療所において「掲示している」の割合はそれぞれ、57.4%、46.8%、66.4%、35.7%であった。

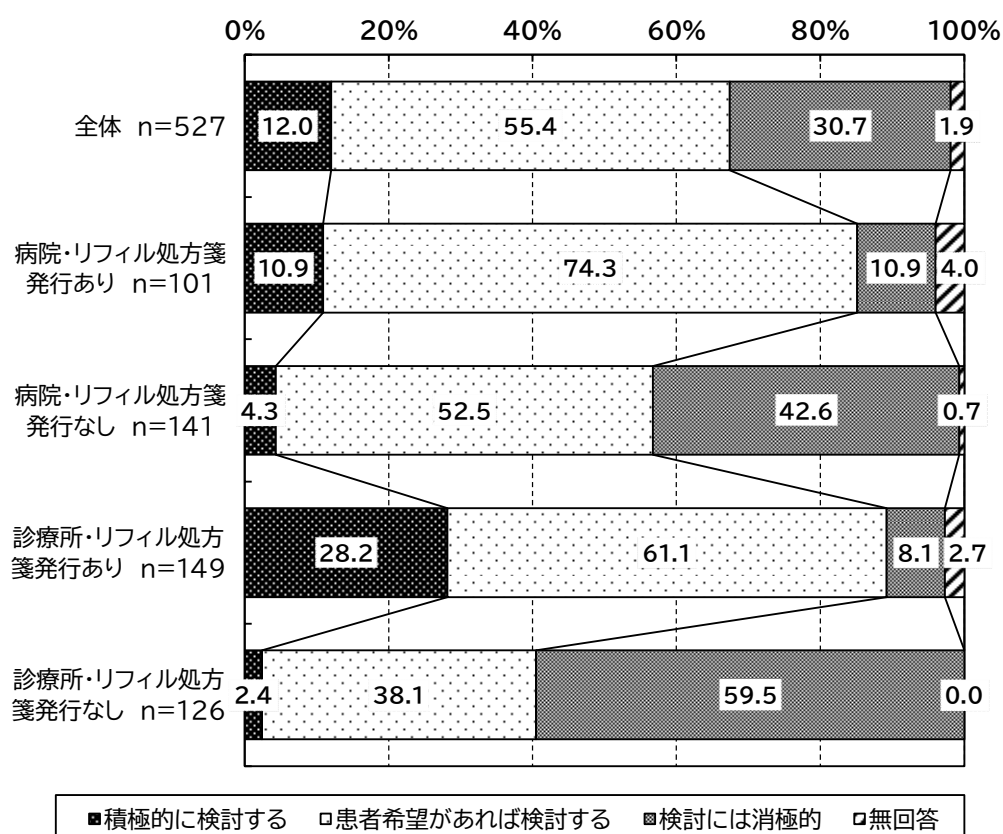
図表 2-31 リフィル処方箋または長期処方の対応可能な旨の掲示有無
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



(16) リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し

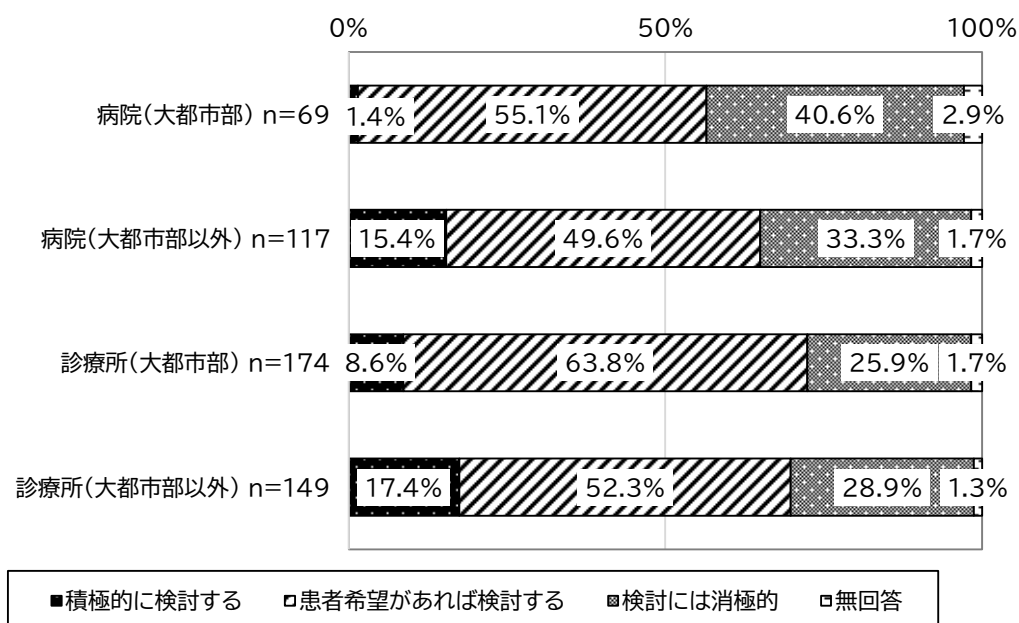
リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通しは、病院では、リフィル処方箋発行実績がある病院、発行実績がない病院ともに「患者希望があれば検討する」が最も多くそれぞれ74.3%、52.5%であった。診療所では、リフィル処方箋発行実績がある診療所では、「患者希望があれば検討する」が最も多く61.1%、発行実績がない診療所では「検討には消極的」が最も多く59.5%であった。

図表 2-32 リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通しについて、所在地別にみると、「積極的に検討する」の割合は、大都市部（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県及び大阪府）よりも大都市部以外において、高い傾向が見られた。

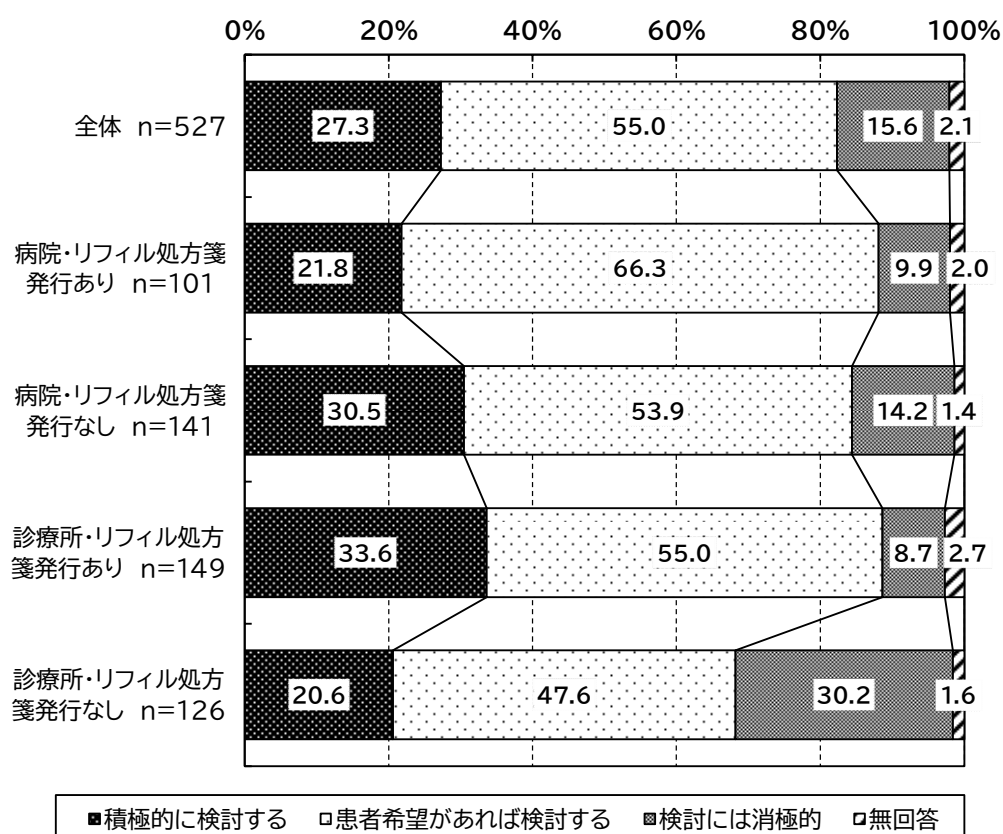
図表 2-33 リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し
(病院・診療所別、所在地別)



(17) 長期処方発行に係る検討についての今後の見通し

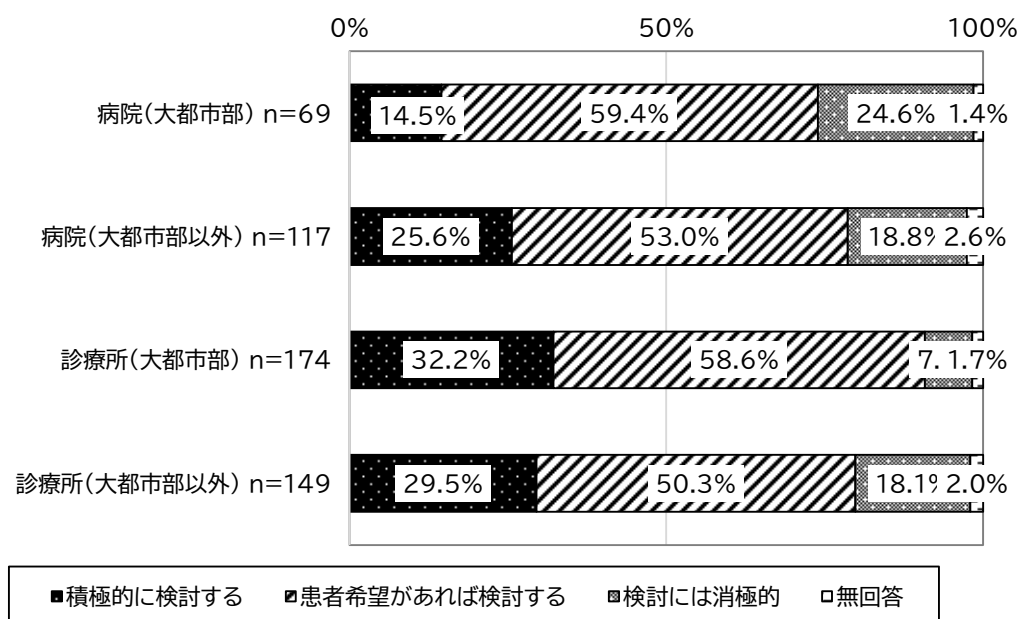
長期処方の発行に係る検討についての今後の見通しは、病院では、リフィル処方箋発行実績がある病院、発行実績がない病院ともに「患者希望があれば検討する」が最も多くそれぞれ 66.3%、53.9%であった。診療所においてもリフィル処方箋発行実績がある診療所、発行実績がない診療所ともに「患者希望があれば検討する」が最も多くそれぞれ 55.0%、47.6%であった。

図表 2-34 長期処方の発行に係る検討についての今後の見通し
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



長期処方発行に係る検討についての今後の見通しについて、所在地別にみると、「積極的に検討する」の割合は、病院においては、大都市部（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県及び大阪府）よりも大都市部以外において、高い傾向が見られた。診療所では明確な違いは見られなかった。

図表 2-35 長期処方発行に係る検討についての今後の見通し
(病院・診療所別、所在地別)

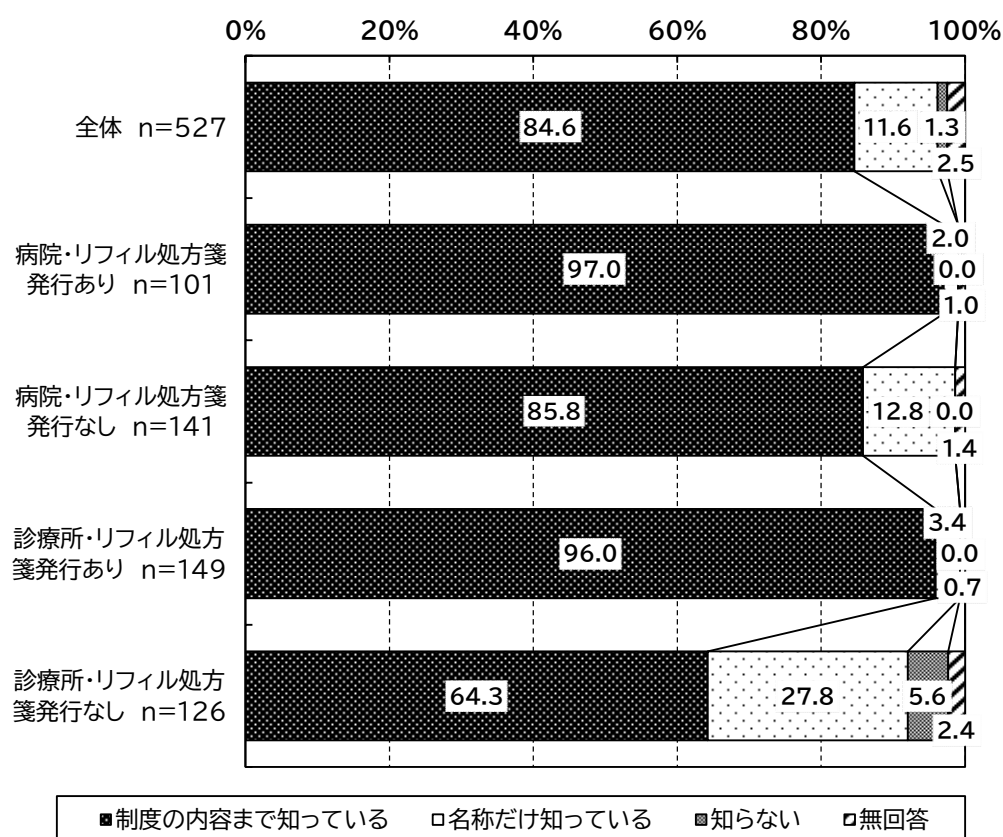


2) リフィル処方箋について

(1) リフィル処方箋の制度の認知度

リフィル処方箋の制度の認知度については「制度の内容を知っている」が最も多く、リフィル処方箋の発行実績の有る病院で97.0%、発行実績の無い病院で85.8%、発行実績の有る診療所で96.0%、発行実績の無い診療所で64.3%であった。なお、「名称だけ知っている」の割合はリフィル処方箋の発行実績が無い診療所で比較的高い(27.8%)。

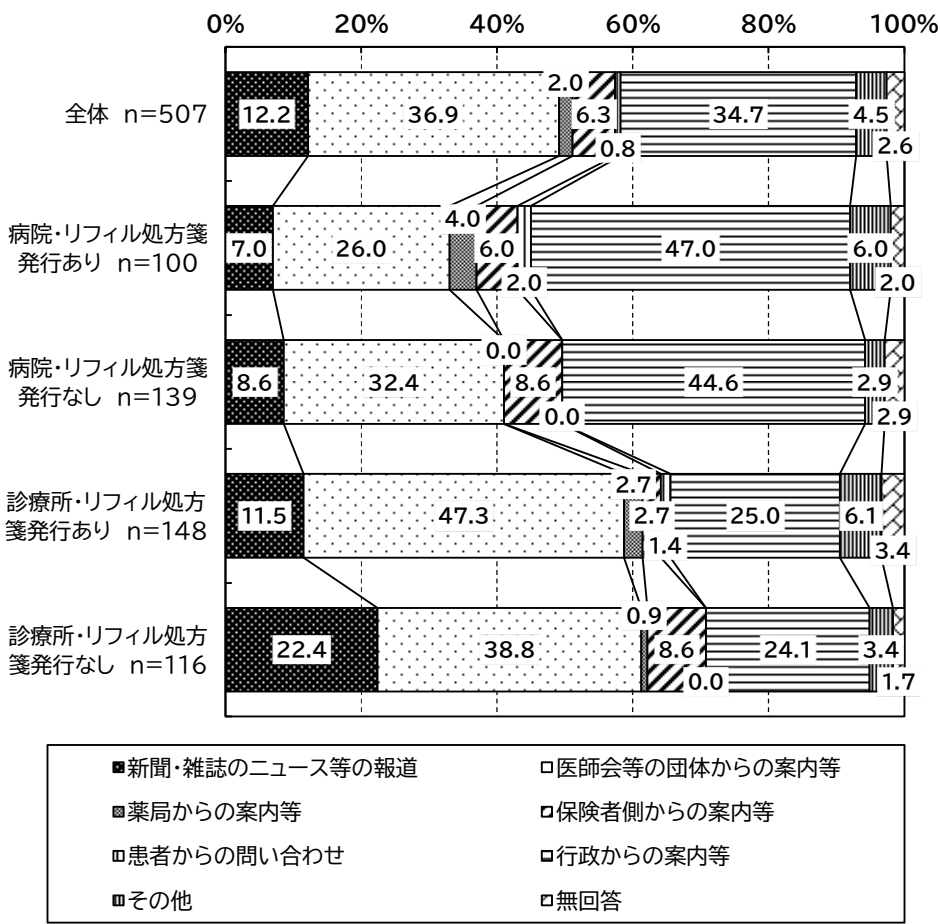
図表 2-36 リフィル処方箋の制度の認知度
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



① リフィル処方箋の制度を知ったきっかけ
（リフィル処方箋について制度の内容まで知っているまたは、名称だけ知っている施設が対象）

リフィル処方箋の制度を知ったきっかけについて、リフィル処方箋について制度の内容を知っているまたは、名称だけ知っている施設に対して確認した。その結果、リフィル処方箋の発行実績の有る病院、無い病院ともに「行政からの案内等」が最も多く、それぞれ47.0%、44.6%であった。発行実績の有る診療所・発行実績の無い診療所においては「医師会等の団体からの案内等」が最も多くそれぞれ47.3%、38.8%であった。

図表 2-37 制度を知ったきっかけ
（リフィル処方箋について制度の内容まで知っているまたは、名称だけ知っている施設が対象）
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）



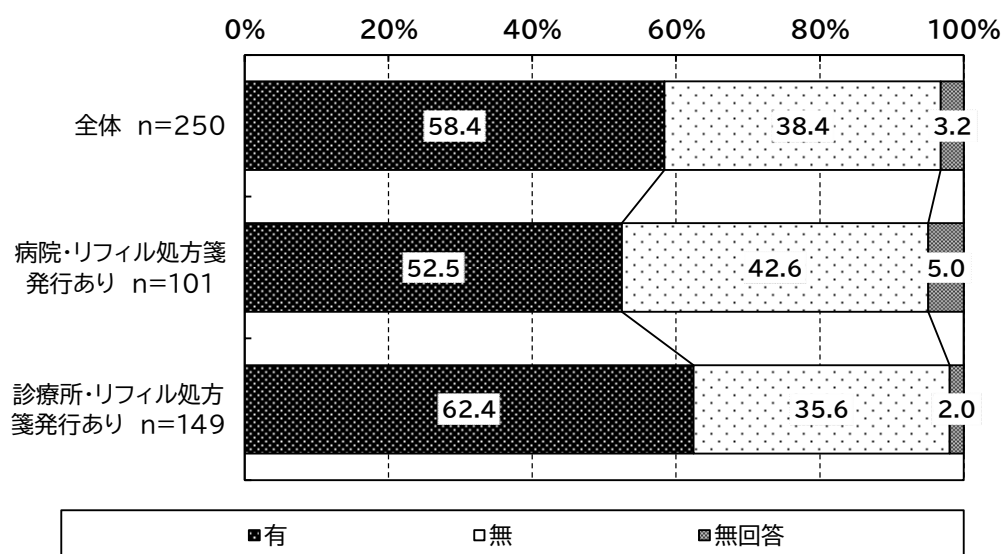
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・診療報酬改定時
- ・Web上の医療情報
- ・民間の研修会
- ・理事長からの通知
- など

② 薬局からの服薬情報提供書（トレーシングレポート）の有無

リフィル処方箋に関するトレーシングレポートの有無について、リフィル処方箋を発行した経験がある施設に対して確認した。その結果、病院では「有」が52.5%、診療所では「有」が62.4%であった。

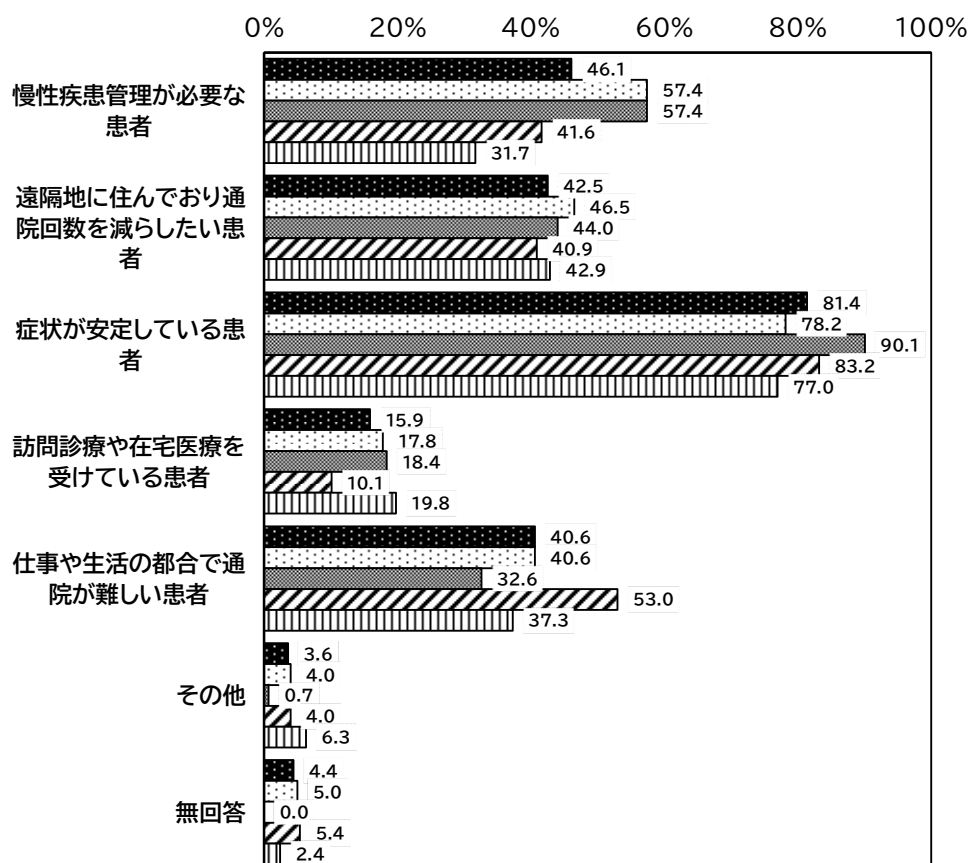
図表 2-38 薬局からの服薬情報提供書（トレーシングレポート）の有無
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）



(2) 長期処方を発行している（発行が適している）患者☆

長期処方を発行している（発行が適している）患者については、いずれの区分においても「症状が安定している患者」が最も多かった。

図表 2-39 長期処方を発行している（発行が適している）患者
（病院・診療所別、長期処方の発行実績の有無別）



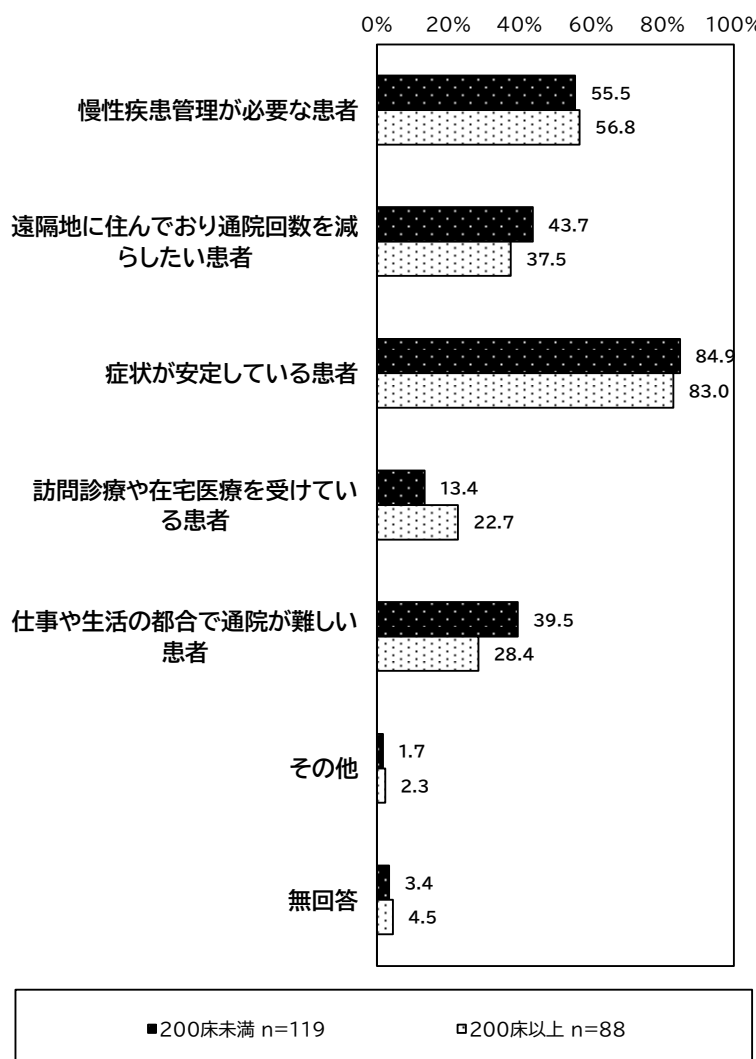
■全体 n=527
□病院・リフィル処方箋発行あり n=101
■病院・リフィル処方箋発行なし n=141
□診療所・リフィル処方箋発行あり n=149
□診療所・リフィル処方箋発行なし n=126

【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・医師が認めた患者
- ・安定性の悪い薬剤
- ・処方薬種類3種類以下
- ・高齢者で通院が困難（タクシーで受診）
- ・長期の旅行（特に海外）、原則発行していない
- ・病識のしっかりしている患者
- ・一人暮らし など

なお、病院について、病床規模（200 床未満／200 床以上）別に長期処方を発行している（発行が適している）患者についてみると、「仕事や生活の都合で通院が難しい患者」の割合が、200 床未満では 39.5%、200 床以上では 28.4%と、10 ポイント以上の違いが見られたが、それ以外の項目では 10 ポイント以上の違いは見られなかった。

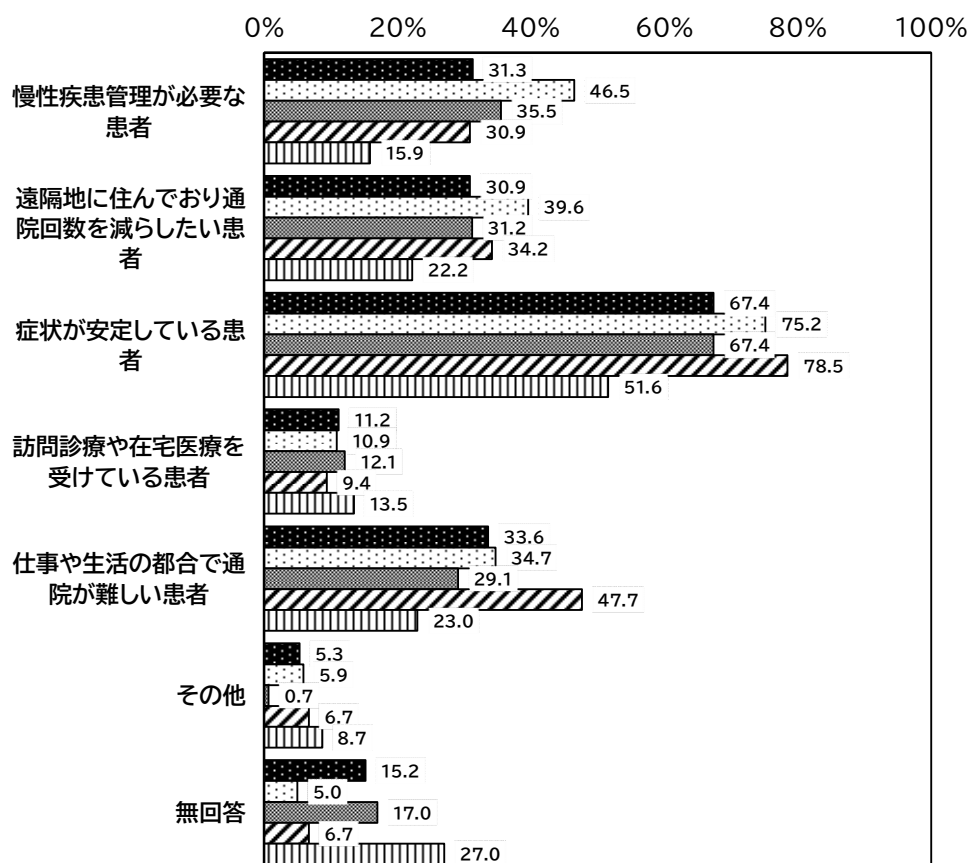
図表 2-40 長期処方発行している（発行が適している）患者
（病院、病床規模別）



(3) リフィル処方箋を発行している（発行が適している）患者

リフィル処方箋を発行している（発行が適している）患者については、いずれの区分においても「症状が安定している患者」が最も多かった。

図表 2-41 リフィル処方箋を発行している（発行が適している）患者
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）



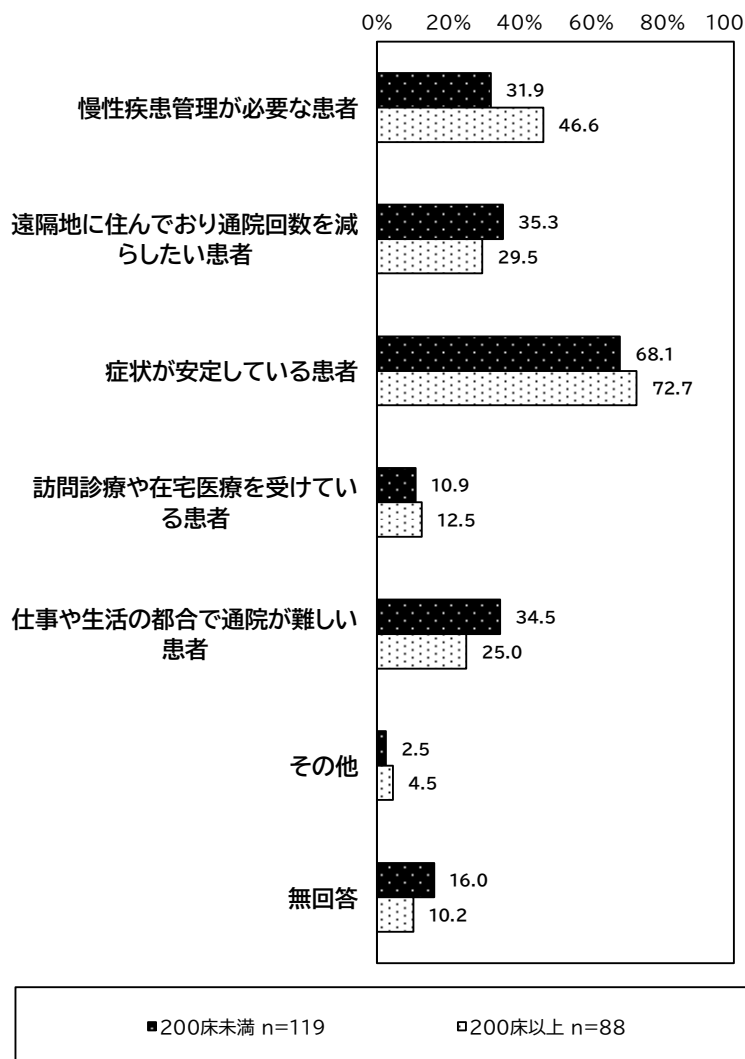
■全体 n=527
 □病院・リフィル処方箋発行あり n=101
 ■病院・リフィル処方箋発行なし n=141
 ■診療所・リフィル処方箋発行あり n=149
 □診療所・リフィル処方箋発行なし n=126

【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・医師が認めた患者
- ・安定性の悪い薬剤
- ・薬剤費を分割して支払いたい患者、金銭面で不安な患者
- ・長期処方した場合に、症状や服薬状況に不安がある患者
- ・服薬自己管理可能者、病識のしっかりしている患者
- ・90日以上長期処方より、長く処方箋が必要な人で3か月～6か月診療しなくてもよい人
- ・薬剤師が判断可能な軽症の病態 など

なお、病院について、病床規模（200 床未満／200 床以上）別にリフィル処方箋を発行している（発行が適している）患者についてみると、「慢性疾患管理が必要な患者」の割合が、200 床未満では 31.9%、200 床以上では 46.6%と、10 ポイント以上の違いが見られたが、それ以外の項目では 10 ポイント以上の違いは見られなかった。

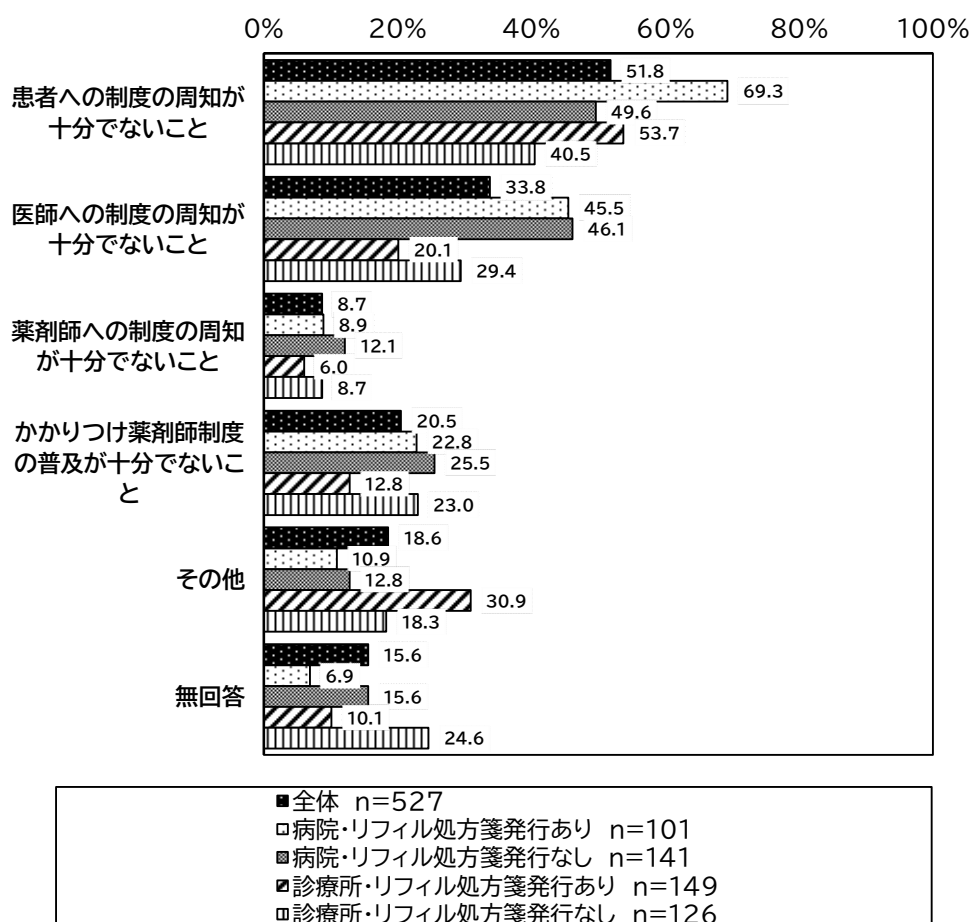
図表 2-42 リフィル処方箋を発行している（発行が適している）患者
（病院、病床規模別）



(4) リフィル処方箋を普及させるための課題

リフィル処方箋の課題と考えられることについては、いずれの区分においても「患者への制度の周知が十分でないこと」が最も多く、次いで「医師への制度の周知が十分でないこと」が続いた。

図表 2-43 リフィル処方箋の課題と考えられること（複数回答）
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・できる薬剤できない薬剤の分類が複雑
- ・定期受診、検査、フォロー等の頻度が減る
- ・急性期病院とは見合っていない、医療機関側にあまりメリットがない
- ・長期処方に対応可能と考える
- ・患者が処方箋の管理ができないのではないかとされる
- ・患者に対するメリットがない（長期処方と比較して）

3. 医師調査

【調査対象等】

○医師調査

調査対象：病院・診療所票の調査対象となった施設に勤める医師のうち、外来を担当する医師を、各施設から2名（リフィル処方箋の発行経験のある医師を特定できている場合は発行したことのある医師と発行したことのない医師を1名ずつ、特定できていない場合は無作為に2名を各施設が抽出し、回答）

回 答 数：428 名

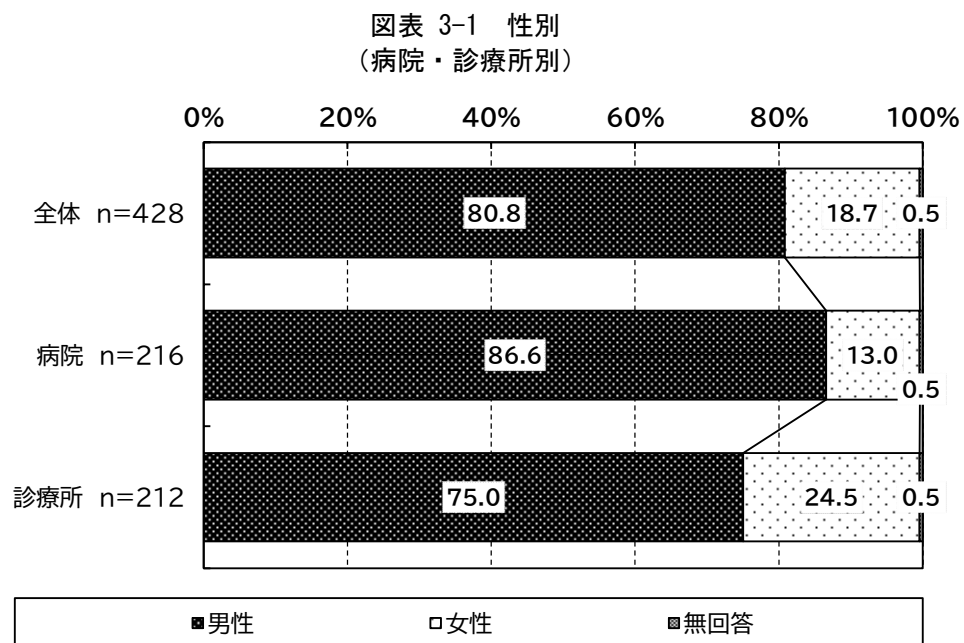
回 答 者：医師

グラフ内の「病院：リフィル処方箋発行あり」「病院：リフィル処方箋発行なし」「診療所：リフィル処方箋発行あり」「診療所：リフィル処方箋発行なし」は、それぞれ当該施設の医師個人のリフィル処方経験の有無を表している。

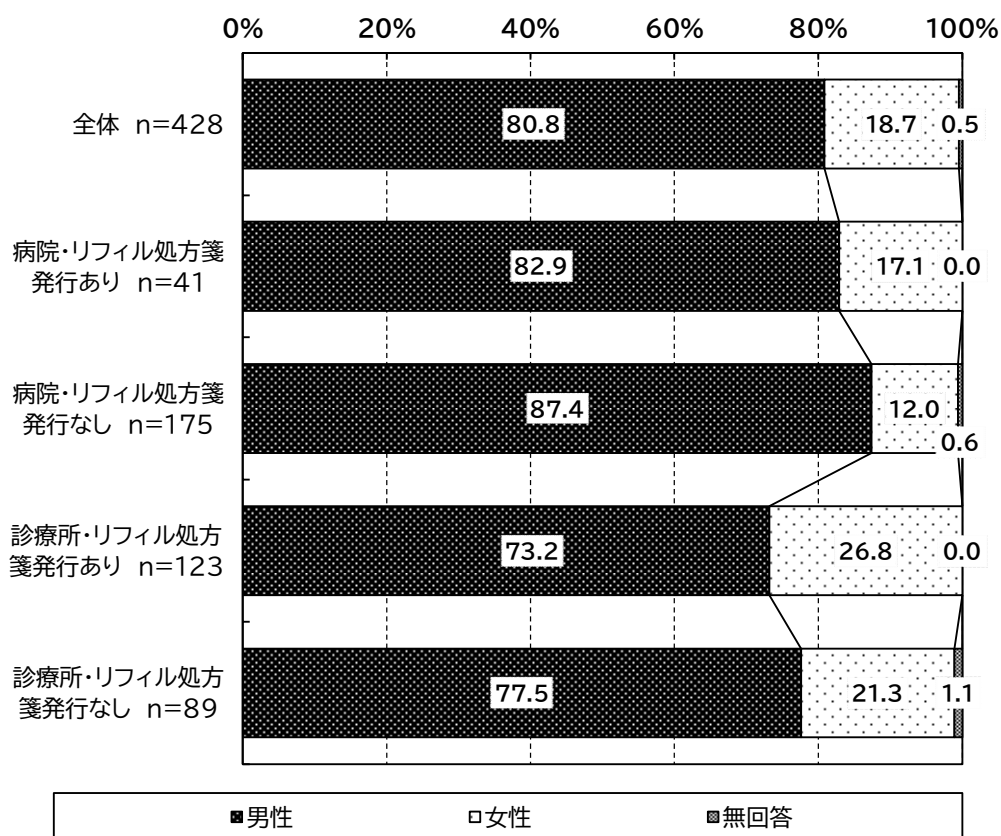
1) 回答者ご自身について

(1) 性別

性別については、病院では「男性」が 86.6%、「女性」が 13.0%、診療所では「男性」が 75.0%、「女性」が 24.5%であった。

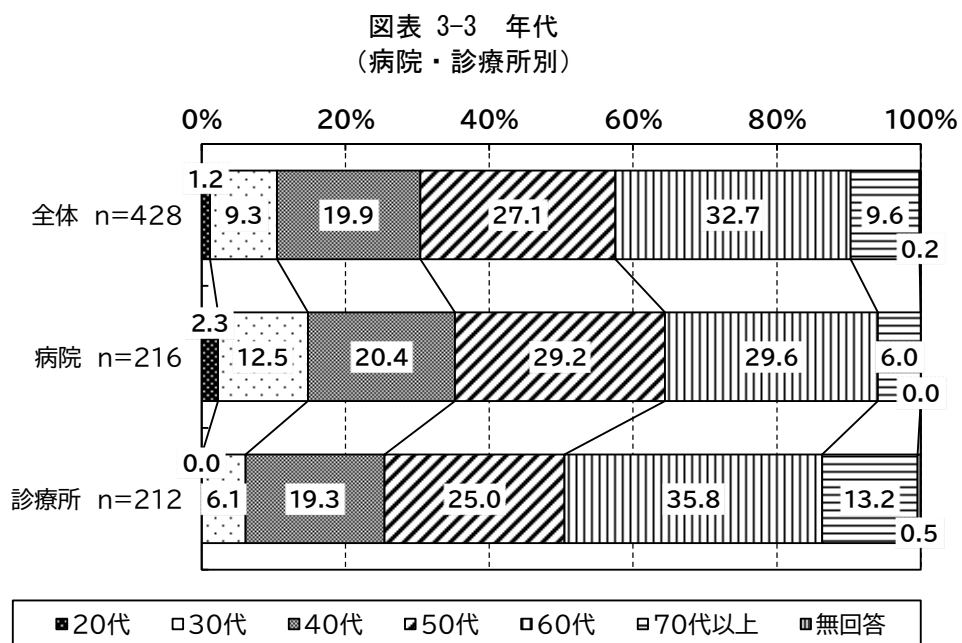


図表 3-2 性別
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)

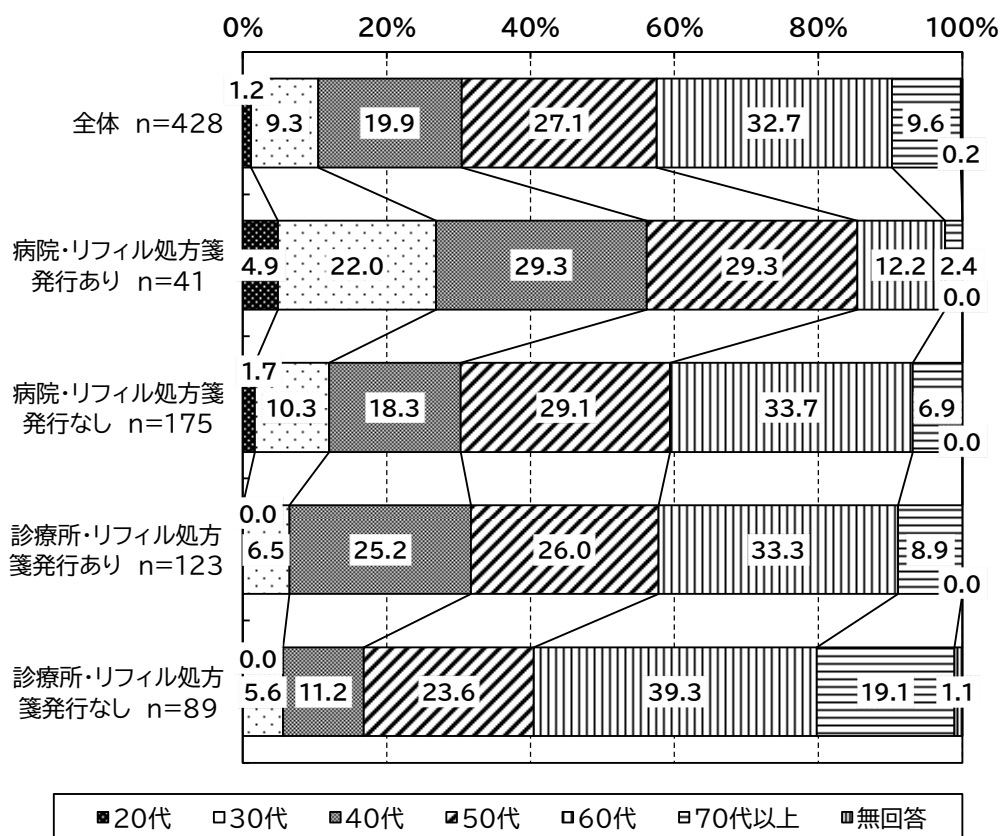


(2) 年代

年代については、病院・診療所ともに「60代」が最も多く（それぞれ29.6%、35.8%）、次いで「50代」が続いた（それぞれ29.2%、25.0%）。



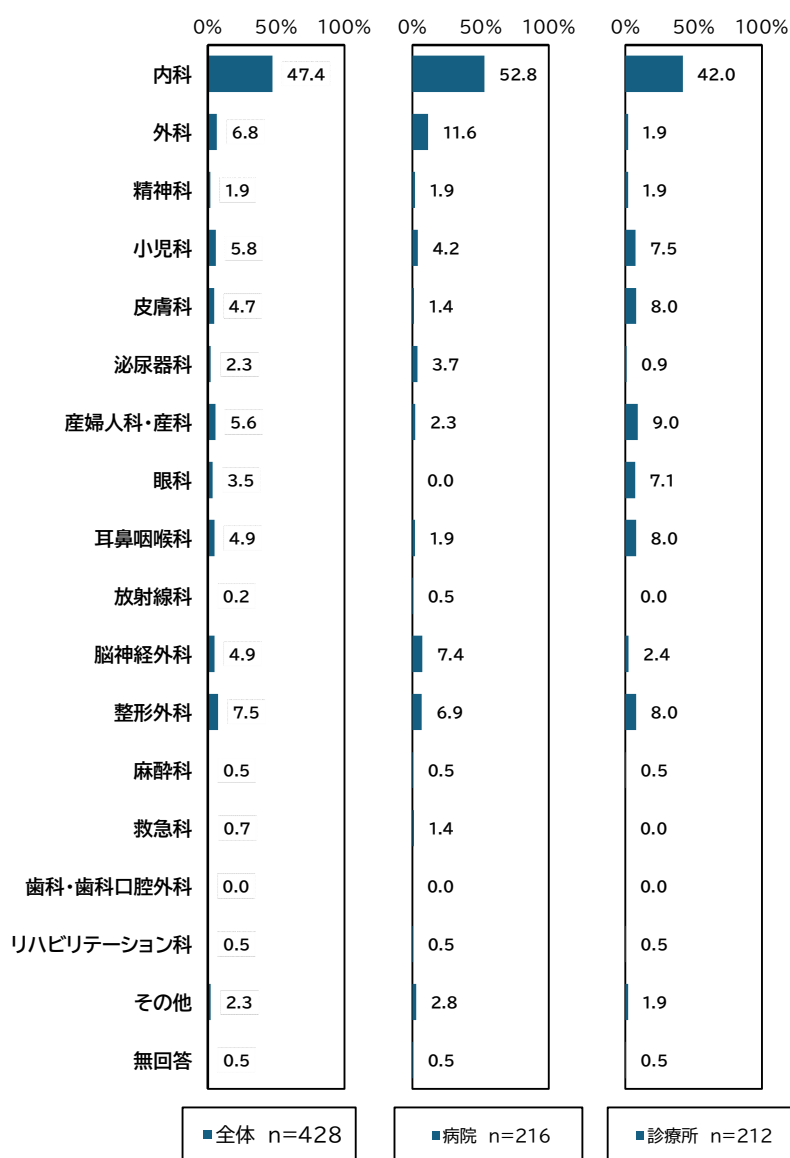
図表 3-4 年代
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)



(3) 主たる担当診療科

主たる担当診療科については、病院の場合は「内科」が最も多く 52.8%、次いで「外科」が多く 11.6%であった。診療所の場合は「内科」が最も多く 42.0%、次いで「産婦人科・産科」が多く 9.0%であった。

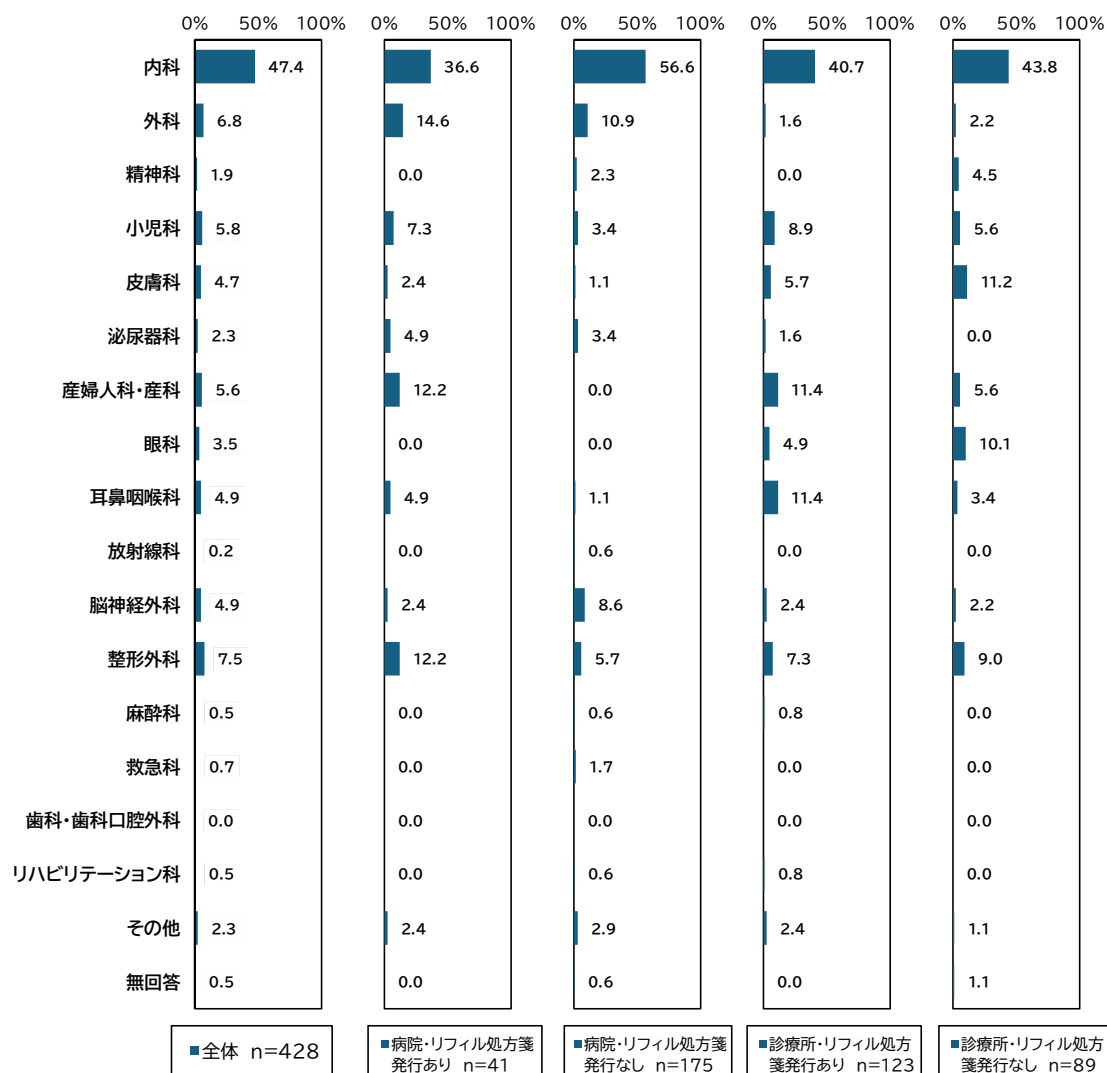
図表 3-5 主たる担当診療科（病院・診療所別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・形成外科
- ・心療内科
- ・総合診療科
- ・緩和医療科 など

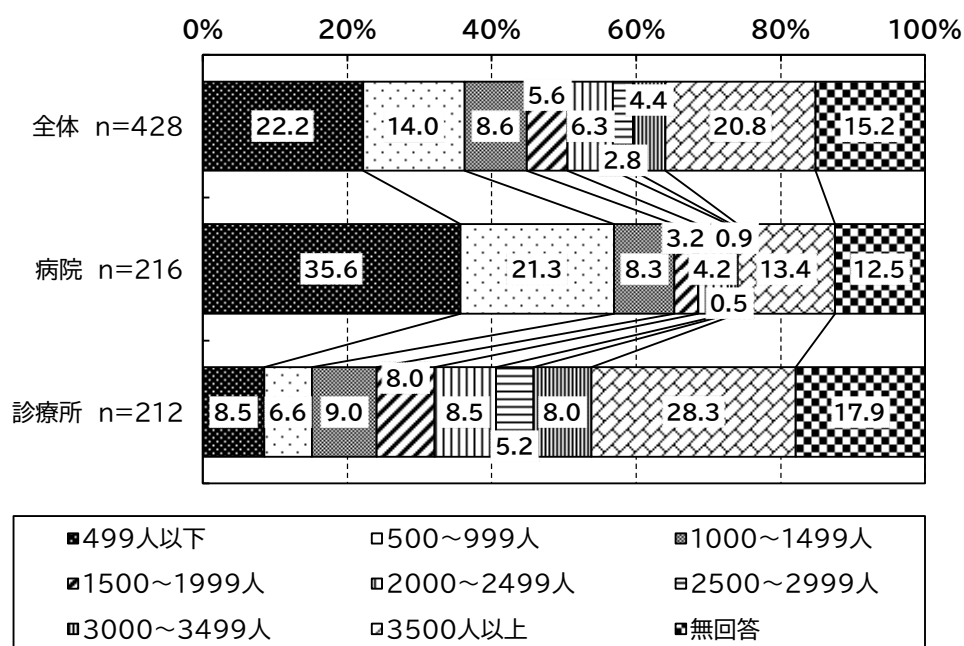
図表 3-6 主たる担当診療科
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)



(4) 外来診察患者数

外来診察患者数（令和6年9月～11月の3か月間の合計）については、病院の場合は「499人以下」が最も多く35.6%、次いで「500～999人」が多く21.3%であった。診療所の場合は「3500人以上」が最も多く28.3%、次いで「1000～1499人」が多く9.0%であった。

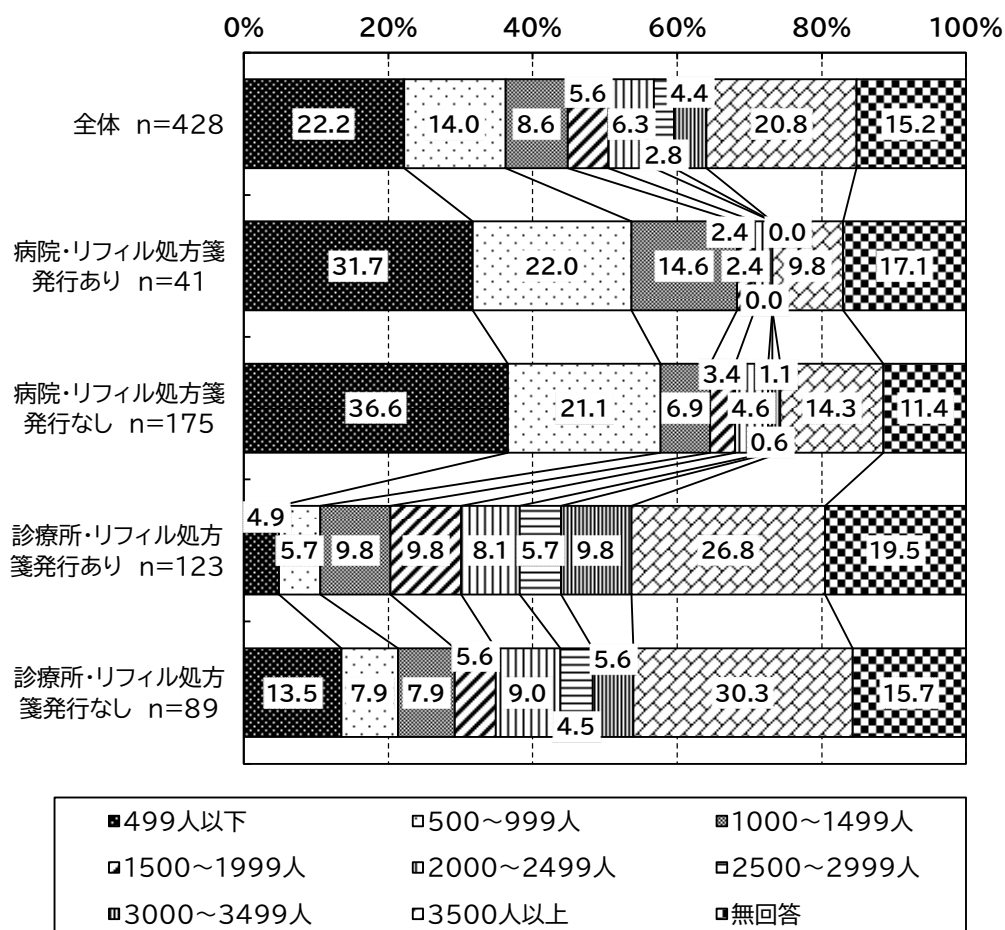
図表 3-7 外来診察患者数
(病院・診療所別)



(単位：人)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	363	2989.9	5386.4	1300.0
病院	189	3239.5	7261.8	600.0
診療所	174	2718.9	1762.7	2551.5

図表 3-8 外来診察患者数
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)



(単位：人)

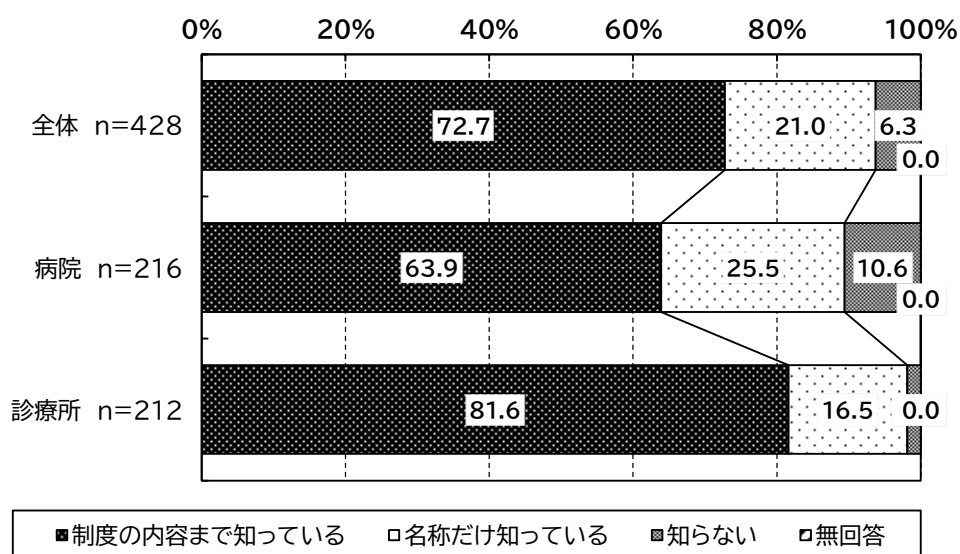
	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	363	2989.9	5386.4	1300.0
病院・リフィル処方箋発行あり	34	2758.5	7419.0	570.0
病院・リフィル処方箋発行なし	155	3345.0	7222.6	600.0
診療所・リフィル処方箋発行あり	99	2781.1	1637.2	2698.0
診療所・リフィル処方箋発行なし	75	2636.7	1912.6	2264.0

2) リフィル処方箋について

(1) リフィル処方箋の制度の認知度

リフィル処方箋の制度の認知度については、病院の場合は「制度の内容まで知っている」が最も多く 63.9%、次いで「名称だけ知っている」が多く 25.5%であった。診療所の場合も「制度の内容まで知っている」が最も多く 81.6%、次いで「名称だけ知っている」が多く 16.5%であった。

図表 3-9 リフィル処方箋の制度の認知度
(病院・診療所別)



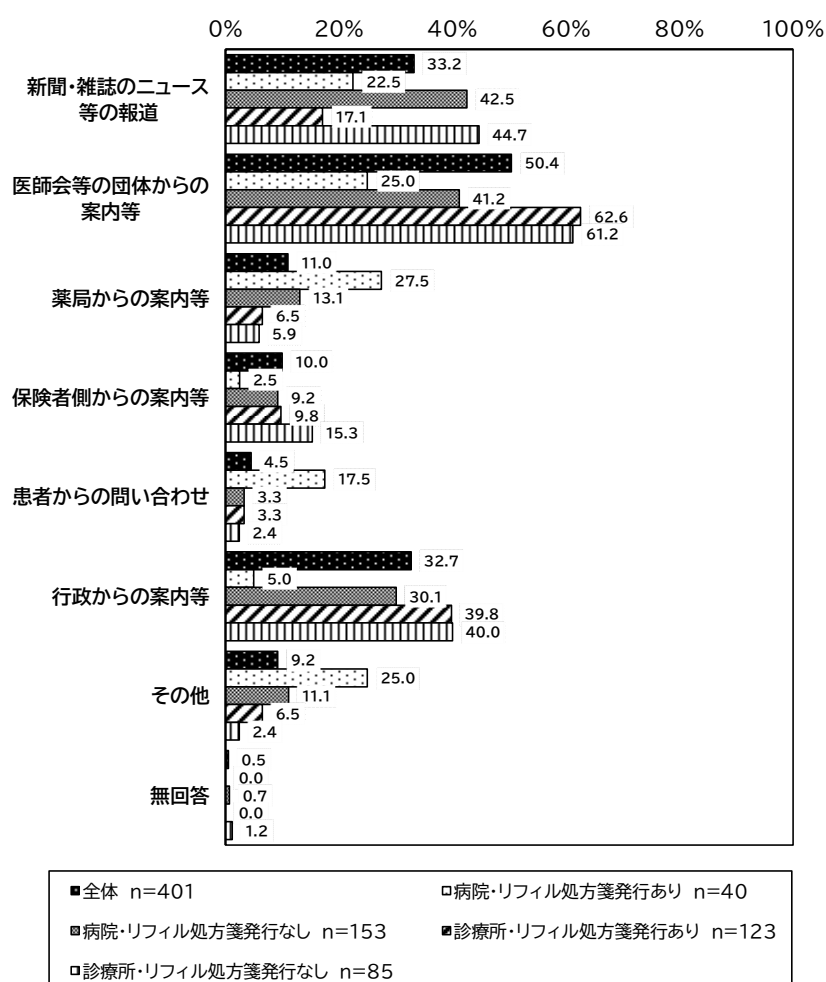
① リフィル処方箋の制度を知ったきっかけ（リフィル処方箋の制度を「制度の内容まで知っている」または「名称だけ知っている」医師が対象）

リフィル処方箋の制度を知ったきっかけについて、リフィル処方箋の制度を「制度の内容まで知っている」または「名称だけ知っている」医師を対象に確認した。

その結果、病院の医師でリフィル処方箋を発行したことがある場合は「薬局からの案内等」が最も多く 27.5%、病院の医師でリフィル処方箋を発行したことがない場合は「新聞・雑誌のニュース等の報道」が最も多く 42.5%であった。

診療所の医師でリフィル処方箋を発行したことがある場合は「医師会等の団体からの案内等」が最も多く 62.6%、診療所の医師でリフィル処方箋を発行したことがない場合は「医師会等の団体からの案内等」が最も多く 61.2%であった。

図表 3-10 リフィル処方箋の制度を知ったきっかけ（複数回答）
（病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別）



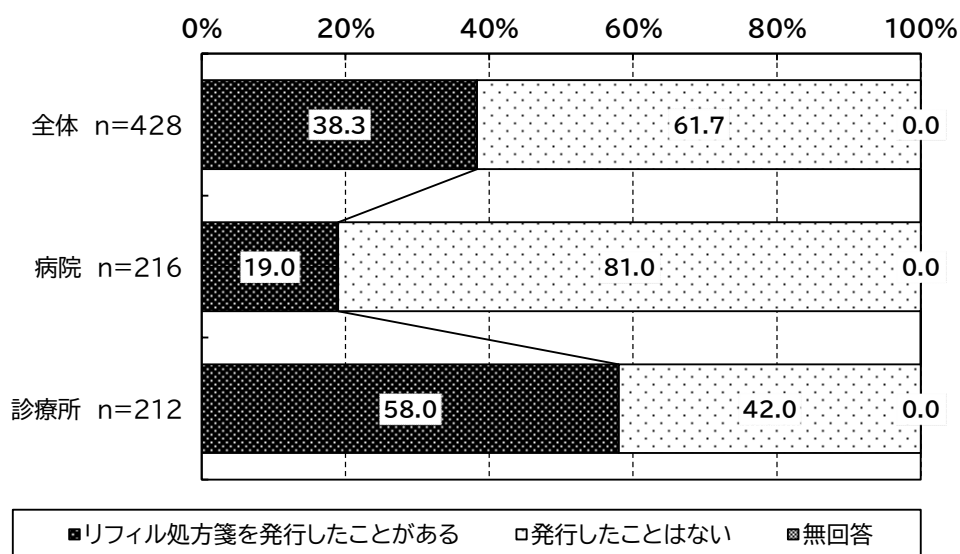
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・Web 上での医療情報
- ・院内の勉強会や会議での周知
- ・他の医師からの周知や情報提供
- など

(2) リフィル処方箋の発行有無

リフィル処方箋の発行有無について、病院の場合は「発行したことはない」が最も多く81.0%であった。一方診療所の場合は「リフィル処方箋を発行したことがある」が最も多く58.0%であった。

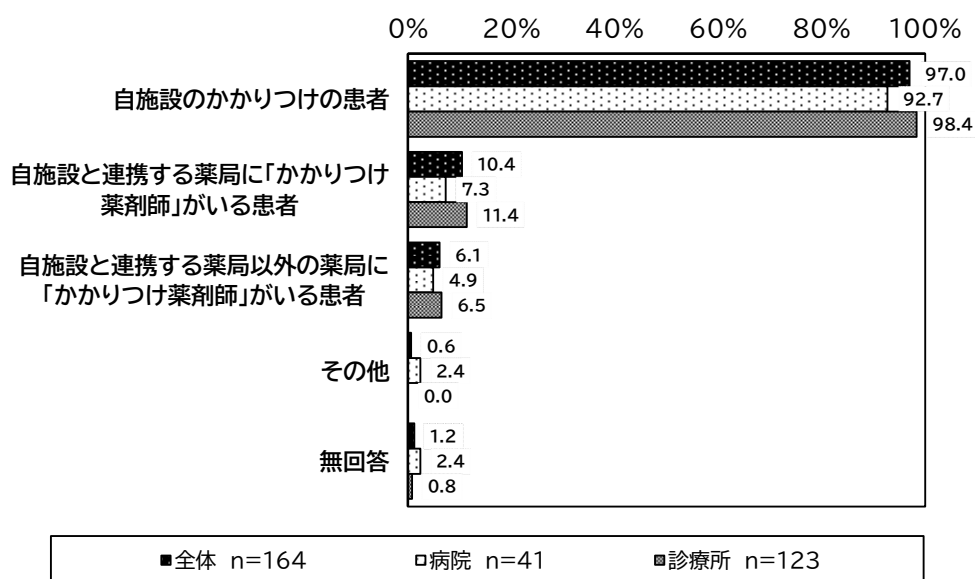
図表 3-11 リフィル処方箋の発行有無
(病院・診療所別)



(3) リフィル処方箋を発行している患者（リフィル処方箋を発行したことがある医師が対象）

どのような患者にリフィル処方箋を発行しているかについて、リフィル処方箋を発行したことがある医師を対象に確認した。その結果、病院の医師の場合も診療所の医師の場合も「自施設のかかりつけの患者」が最も多く、それぞれ 92.7%、98.4%であった。

図表 3-12 リフィル処方箋を発行している患者（複数回答）
（病院・診療所別）



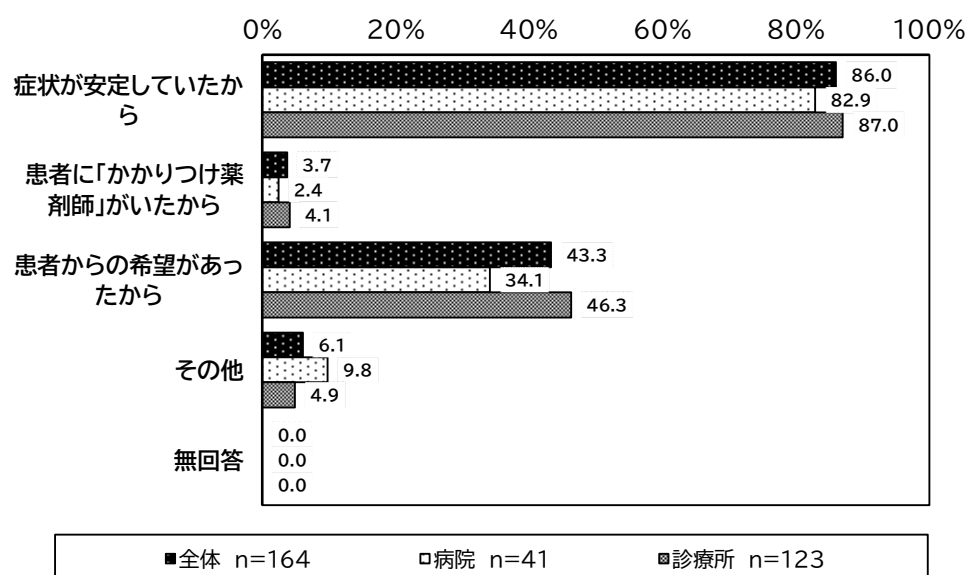
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・外勤先
- ・初診でも適用ならリフィル処方箋を発行している
- ・自施設にかかった患者 など

(4) リフィル処方箋を発行した理由（リフィル処方箋を発行したことがある医師が対象）

リフィル処方箋を発行した理由について、リフィル処方箋を発行したことがある医師を対象に確認した。その結果、病院の医師の場合も診療所の医師の場合も「症状が安定していたから」が最も多く、それぞれ 82.9%、87.0%であった。

図表 3-13 リフィル処方箋を発行した理由（複数回答）
（病院・診療所別）



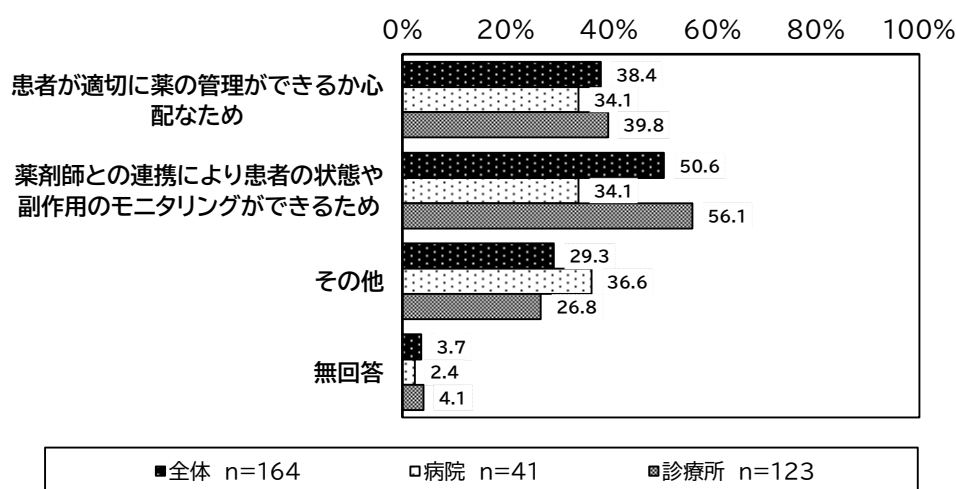
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・コロナ下でVPA 供給不足の時期のみ、90 日長期処方中の患者に協力してもらって長期処方（リフィル3回）として発行した
- ・外来多忙のため
- ・患者の時間的及び経済的負担の軽減
- ・再診回数を減らすため
- ・舌下免疫療法等、症状が安定している患者さんが対象 など

(5) 長期処方ではなくリフィル処方箋を発行する理由

長期処方ではなくリフィル処方箋を発行する理由について、リフィル処方箋を発行したことがある医師を対象に確認した。その結果、病院の医師の場合は「患者が適切に薬の管理ができるか心配なため」と「薬剤師との連携により患者の状態や副作用のモニタリングができるため」がそれぞれ同じ割合（34.1%）であった。診療所の医師の場合は「薬剤師との連携により患者の状態や副作用のモニタリングができるため」が最も多く 56.1%であった。

図表 3-14 長期処方ではなくリフィル処方箋を発行する理由（複数回答）
（病院・診療所別）



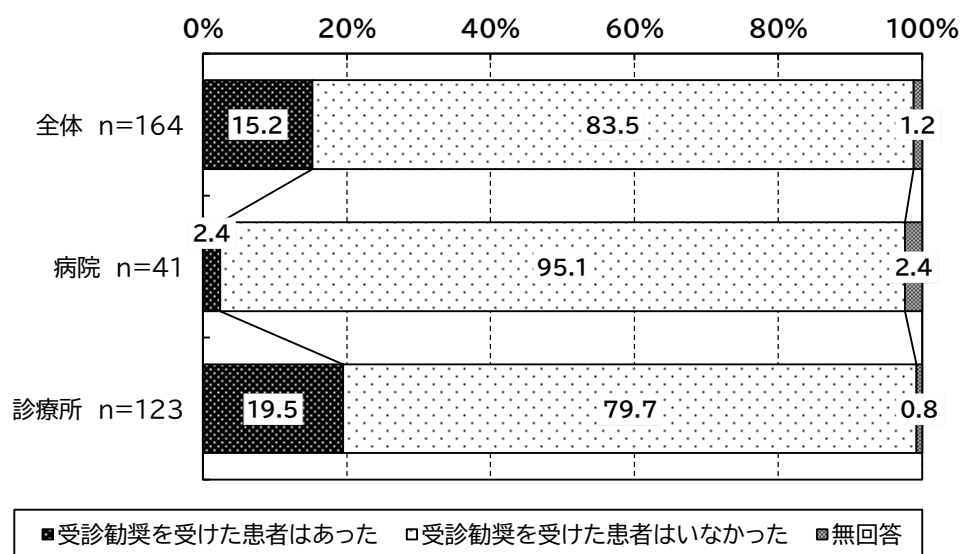
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・当院では90日までしか処方できないため
- ・患者の利便性のため（時間的及び経済的負担）
- ・外来多忙のため
- ・長期処方より長期間の処方ができるため
- ・薬の変更が必要になった際に無駄になる薬を減らすため
- ・薬剤の供給が不安定な時期があったため、在庫が不足しているため
- ・軟膏処方量に制限があり、必要量を一度に処方できないケースがあるため など

(6) 薬剤師から受診勧奨を受けた患者の有無

薬剤師から受診勧奨を受けた患者の有無について、リフィル処方箋を発行したことがある医師を対象に確認した。その結果、「受診勧奨を受けた患者あった」と回答した者の割合は、病院で2.4%、診療所で19.5%であった。

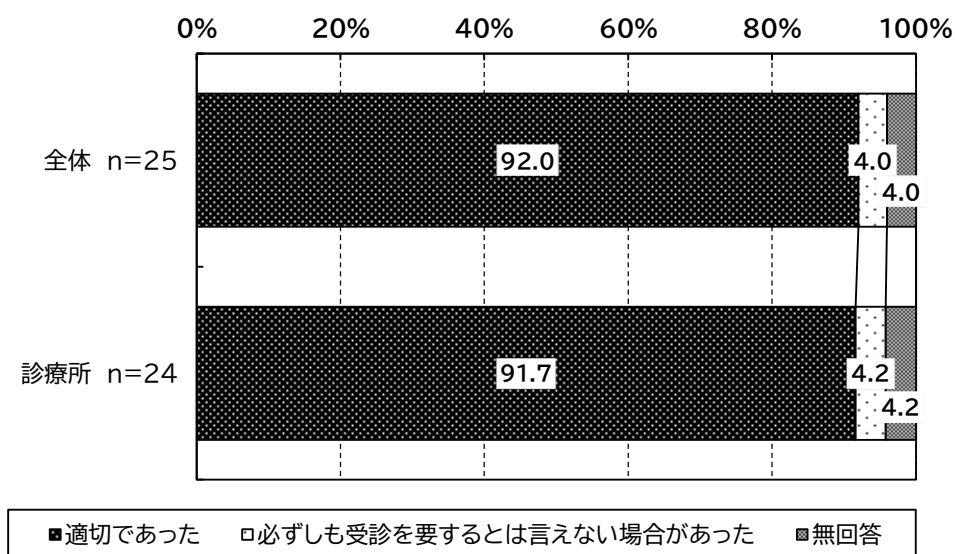
図表 3-15 薬剤師から受診勧奨を受けた患者の有無（病院・診療所別）



(7) 薬剤師からの受診勧奨の理由の適切性

薬剤師からの受診勧奨の理由の適切性について、リフィル処方箋を発行したことがある医師を対象に確認した。その結果、病院の医師の場合も診療所の医師の場合も「適切であった」が最も多く、それぞれ100.0%、91.7%であった。尚、病院は調査数が1であった。

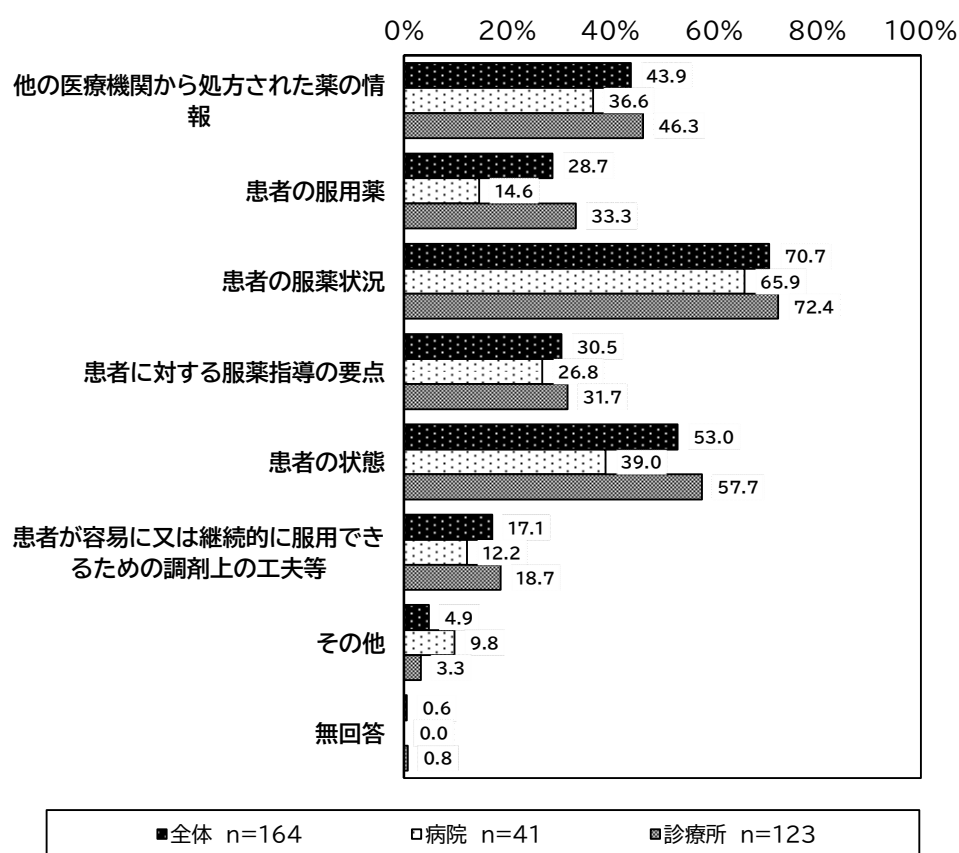
図表 3-16 薬剤師からの受診勧奨の理由の適切性（病院・診療所別）



(8) 薬局からの服薬情報提供書（トレーシングレポート）で提供してほしい情報

薬局からの服薬情報提供書（トレーシングレポート）で提供してほしい情報について、リフィル処方箋を発行したことがある医師を対象に確認した。その結果、病院の場合も診療所の場合も「患者の服薬状況」が最も多く、それぞれ 65.9%、72.4%であった。

図表 3-17 薬局からの服薬情報提供書（トレーシングレポート）で提供してほしい情報
（複数回答）
（病院・診療所別）



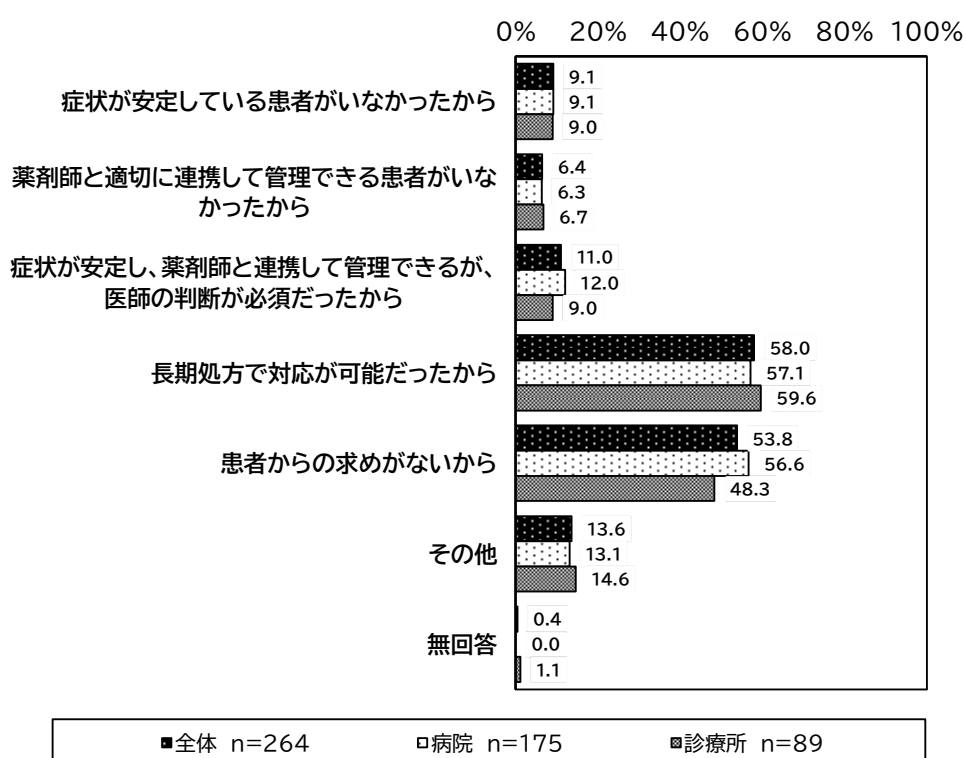
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・残薬の把握
- ・副作用
- ・情報提供は不要 など

(9) リフィル処方箋を発行しなかった理由

リフィル処方箋を発行しなかった理由について、リフィル処方箋を発行したことがない医師を対象に確認した。その結果、病院の場合も診療所の場合も「長期処方に対応が可能だったから」が最も多く、それぞれ 57.1%、59.6%であった。

図表 3-18 リフィル処方箋を発行しなかった理由（複数回答）
（病院・診療所別）



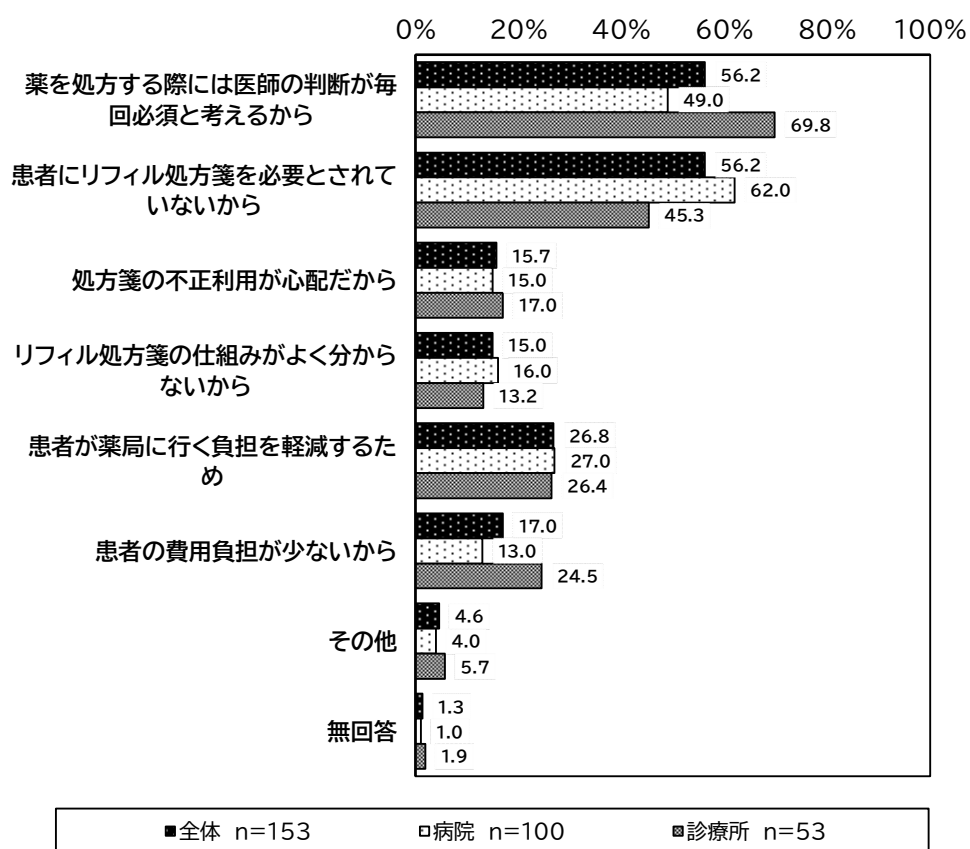
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・院内処方のため
- ・主に急性疾患のため
- ・診察せずに処方箋を発行したくないため
- ・高齢、認知症などで薬の管理が難しいため
- ・処方箋の発行がないため
- ・制度をよく知らないため
- ・病院の方針
- ・経営面で減収になるため など

(10) リフィル処方箋の発行ではなく長期処方を行った理由

リフィル処方箋の発行ではなく長期処方を行った理由について、リフィル処方箋を発行したことがない医師を対象に確認した。その結果、病院の場合は「患者にリフィル処方箋を必要とされていないから」が多く62.0%、次いで「薬を処方する際には医師の判断が毎回必須と考えるから」が多く49.0%であった。診療所の場合は「薬を処方する際には医師の判断が毎回必須と考えるから」が最も多く69.8%、次いで「患者にリフィル処方箋を必要とされていないから」が多く45.3%であった。

図表 3-19 リフィル処方箋の発行ではなく長期処方を行った理由（複数回答）
（病院・診療所別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・院内処方のため
- ・難病を担当することが多いため受診時検査が必要であるため
- ・診察せずにリフィル処方箋を発行したくないため
- ・経営面で減収になるため など

(11) リフィル処方箋の発行についての患者からの希望の有無

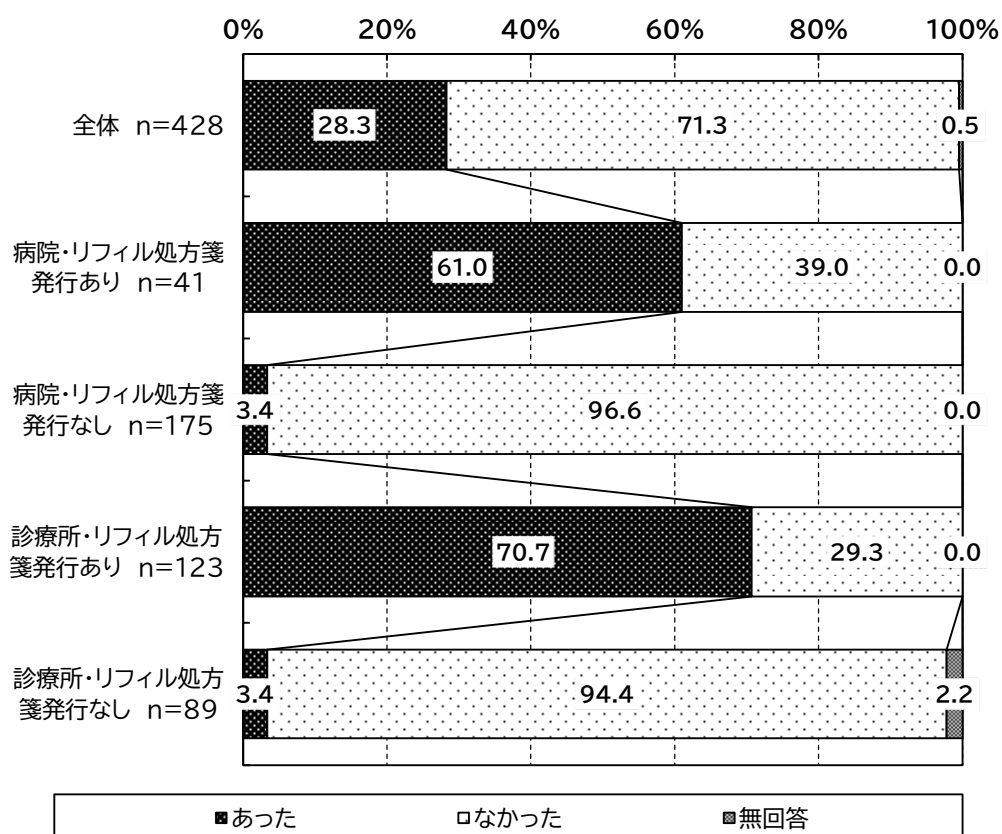
リフィル処方箋の発行についての患者からの希望の有無について、すべての医師を対象に確認した。

その結果、患者から希望が「あった」と回答した者の割合は、病院・診療所ともに、リフィル処方箋を発行したことがある医師において、リフィル処方箋を発行したことがない医師よりも高い傾向が見られた。

具体的には、「あった」と回答した割合は、リフィル処方箋を発行したことがある病院の医師では61.0%、診療所の医師では70.7%であった。一方、リフィル処方箋を発行したことがない病院の医師、診療所の医師ともに、それぞれ3.4%であった。

なお、事前に医師から患者に対してリフィル処方箋について説明していたのか等、詳しい状況については本調査では把握できていない。

図表 3-20 リフィル処方箋の発行についての患者からの希望の有無
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)

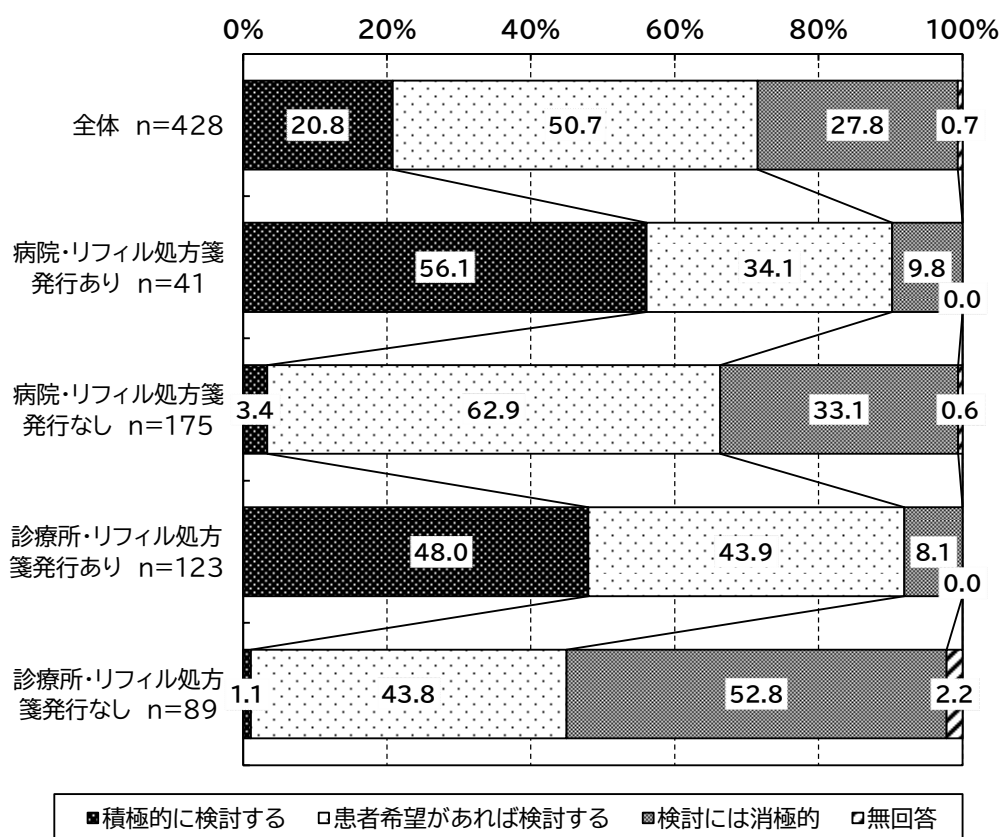


(12) リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し

リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通しについて、病院の医師でリフィル処方箋を発行したことがある場合は「積極的に検討する」が最も多く 56.1%、病院の医師でリフィル処方箋を発行したことがない場合は「患者希望があれば検討する」が最も多く 62.9%であった。

診療所の医師でリフィル処方箋を発行したことがある場合は「積極的に検討する」が最も多く 48.0%、診療所の医師でリフィル処方箋を発行したことがない場合は「検討には消極的」が最も多く 52.8%であった。

図表 3-21 リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)



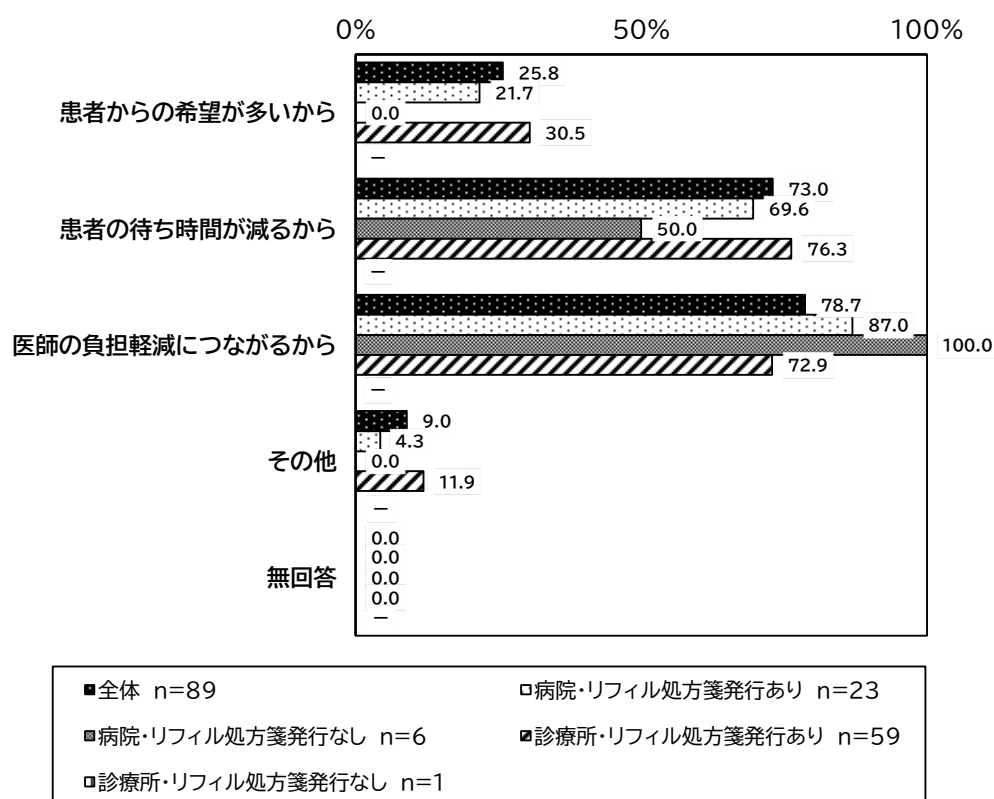
(13) リフィル処方箋の発行を積極的に検討する理由

リフィル処方箋の発行を積極的に検討する理由について、今後の見通しに関する設問で「積極的に検討する」と回答した医師を対象に確認した。

その結果、病院の医師でリフィル処方箋を発行したことがある場合は「医師の負担軽減につながるから」が最も多く 87.0%、病院の医師でリフィル処方箋を発行したことがない場合は「医師の負担軽減につながるから」が最も多く 100.0%であった。

診療所の医師でリフィル処方箋を発行したことがある場合は「患者の待ち時間が減るから」が最も多く 76.3%、診療所の医師でリフィル処方箋を発行したことがない場合は「患者の待ち時間が減るから」と「医師の負担軽減につながるから」がそれぞれ 100.0%であった。

図表 3-22 リフィル処方箋の発行を積極的に検討する理由（複数回答）
（病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・長期処方よりしっかり患者管理ができるため
- ・リフィル処方を導入している小児科クリニックがエリア内にないので、その導入はクリニックの強みになるため
- ・パルス療法のイトラコナゾールは1クール分をまとめて処方できない(保険が通らない)ため
- ・患者の負担軽減になるため
- ・社会の医療コストが減るため など

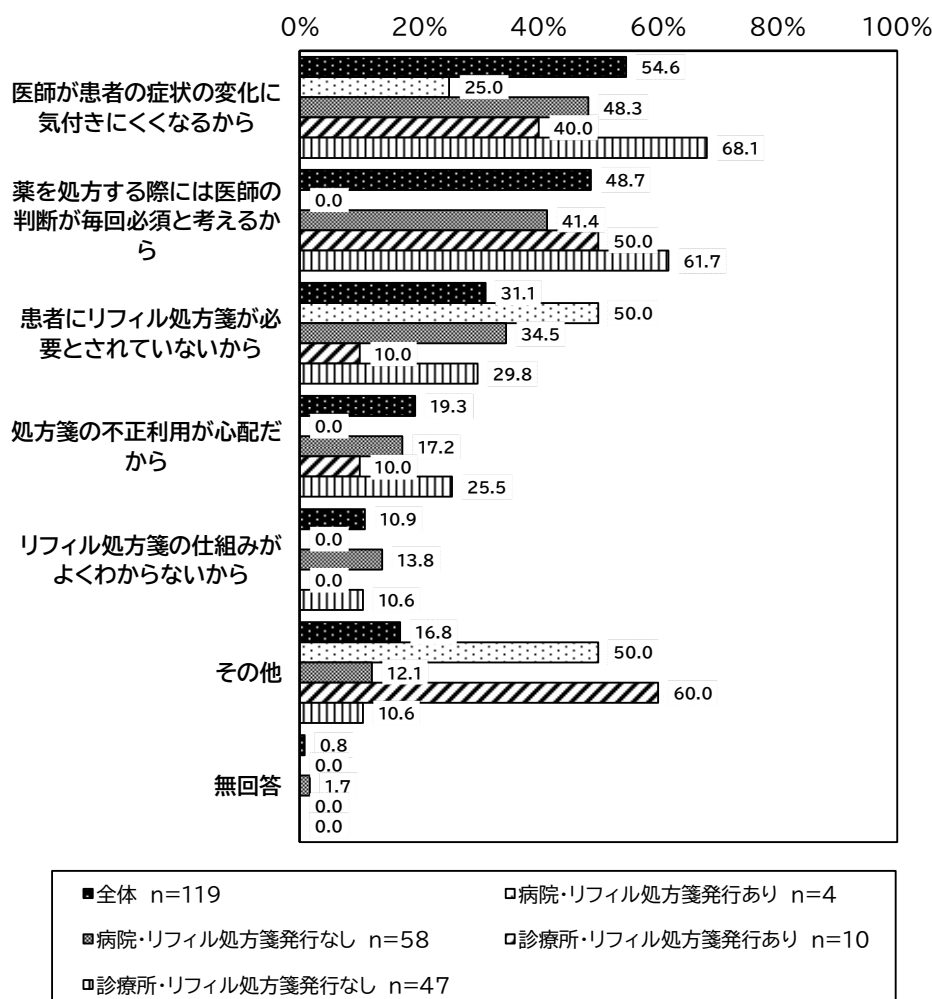
(14) リフィル処方箋の発行の検討に消極的な理由

リフィル処方箋の発行の検討に消極的な理由について、今後の見通しに関する設問で「検討には消極的」と回答した医師を対象に確認した。

その結果、病院の医師でリフィル処方箋を発行したことがある場合は「患者にリフィル処方箋が必要とされていないから」と「その他」が最も多く 50.0%、病院の医師でリフィル処方箋を発行したことがない場合は「医師が患者の症状の変化に気付きにくくなるから」が最も多く 48.3%であった。

診療所の医師でリフィル処方箋を発行したことがある場合は「その他」が最も多く 60.0%、診療所の医師でリフィル処方箋を発行したことがない場合も「医師が患者の症状の変化に気付きにくくなるから」が最も多く 68.1%であった。

図表 3-23 リフィル処方箋の発行の検討に消極的な理由（複数回答）
（病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

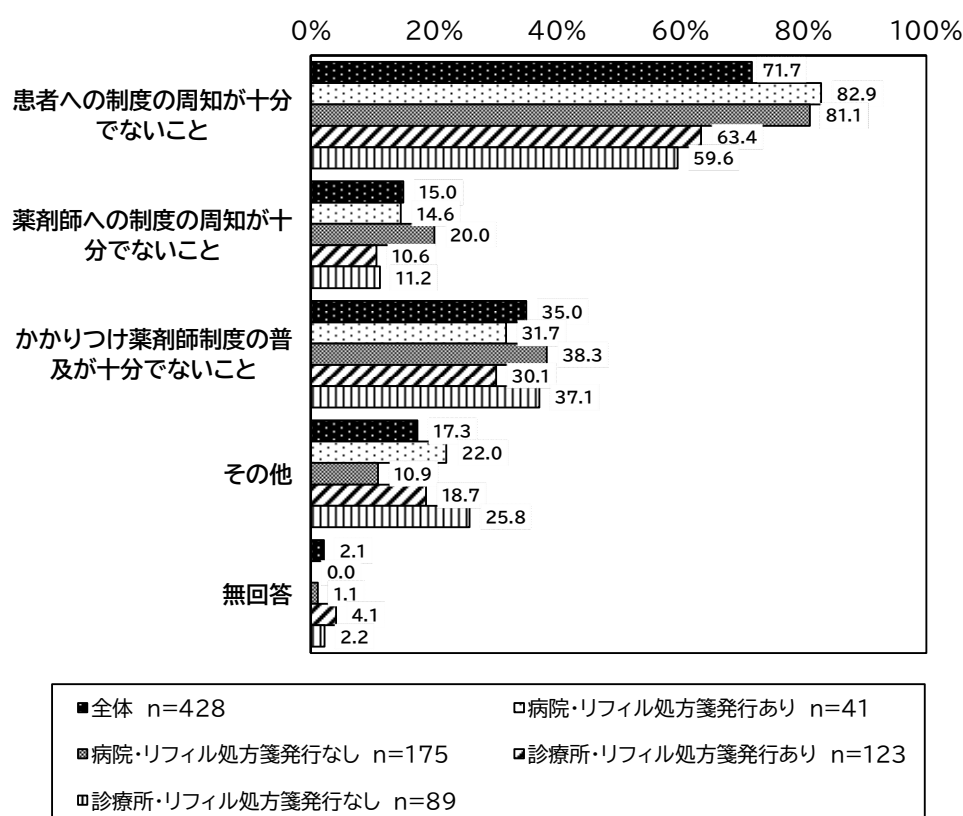
- ・患者は薬局にいくより医院、病院にかかることを好むため
- ・長期処方十分
- ・トレーシングレポートを提供されることはほとんどないが不便はない

(15) リフィル処方箋の普及に向けた課題

リフィル処方箋の普及に向けた課題については「患者への制度の周知が十分でないこと」が最も多く、71.7%であった。

ただし、「薬剤師への制度の周知が十分でないこと」が15.0%、「かかりつけ薬剤師制度の普及が十分でないこと」が35.0%と、薬剤師への周知に関する課題意識もそれぞれ挙げられている。

図表 3-24 リフィル処方箋の普及に向けた課題（複数回答）
（病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

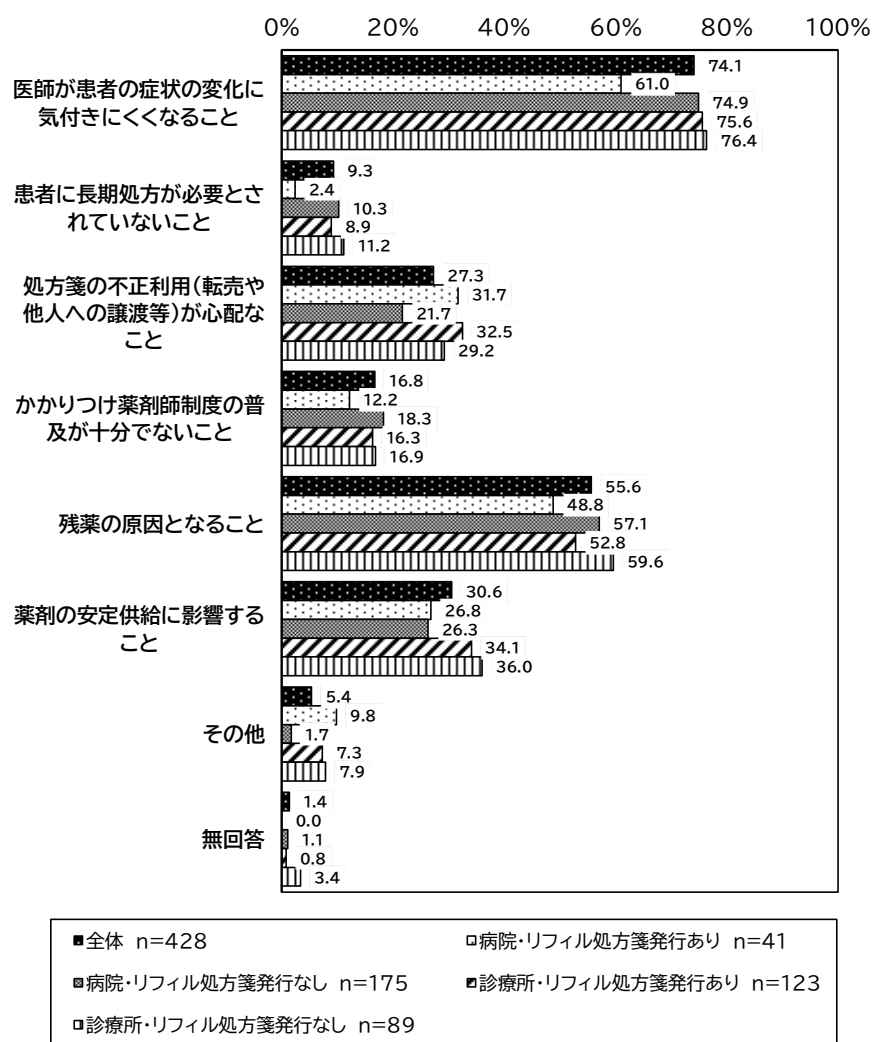
- ・医師の裁量が発揮しにくい
- ・長期処方に対応可能、長期処方と比べて医師にも患者にもメリットがわからない
- ・診療報酬が減り、経営が困難になる
- ・処方箋を紛失するリスク
- ・薬の供給不足
- ・薬剤師に任せることは困難である
- ・医師への周知 など

(16) 長期処方課題

長期処方の課題について、すべての医師を対象に確認した。

その結果、病院・診療所ともに、リフィル処方箋の発行経験の有無に関わらず、「医師が患者の症状の変化に気付きににくくなること」が最も多かった。

図表 3-25 長期処方の課題（複数回答）
（病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・診療報酬が減り、経営が困難になる
- ・薬の供給不足
- ・パルス療法の薬をまとめて処方すると保険が通らない(イトラコナゾール)
- ・薬による副作用のリスクや患者の状態の変化に医師が適切に対応すべき
- ・長期処方の場合、一度に払う薬剤費が多額になること など

4. 保険薬局調査

【調査対象等】

○調査票 保険薬局票

調査対象：令和6年5月調剤分のうち、5件以上のリフィル処方箋の受付実績がある薬局から500件、同期間に受付実績がない薬局から500件をそれぞれ無作為抽出し、合計で1,000施設を調査対象とした

回 答 数：438施設

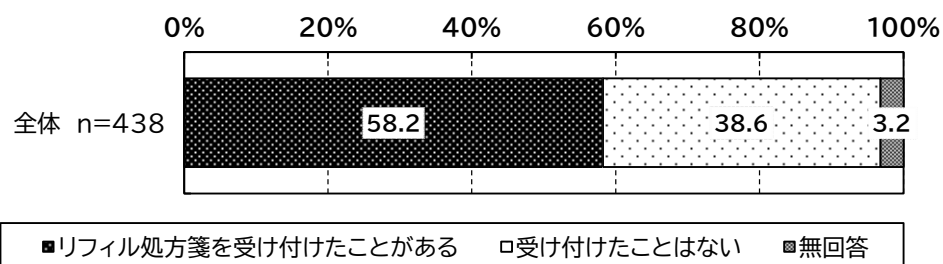
回 答 者：開設者・管理者

リフィル処方箋の受付経験の有無（5件以上ある場合は経験有りとして区分）によって調査対象を抽出したが、本調査結果において「リフィル処方箋の受付経験が有る」とは、以下設問において過去に1件以上リフィル処方箋の発行実績が有ると回答している保険薬局であることを指す。

(1) リフィル処方箋の受付経験

リフィル処方箋の受付経験については「受け付けたことがある」が58.2%、「受け付けたことがない」が38.6%であった。

図表 4-1 リフィル処方箋の受付経験
(リフィル処方箋の受付実績有無別)

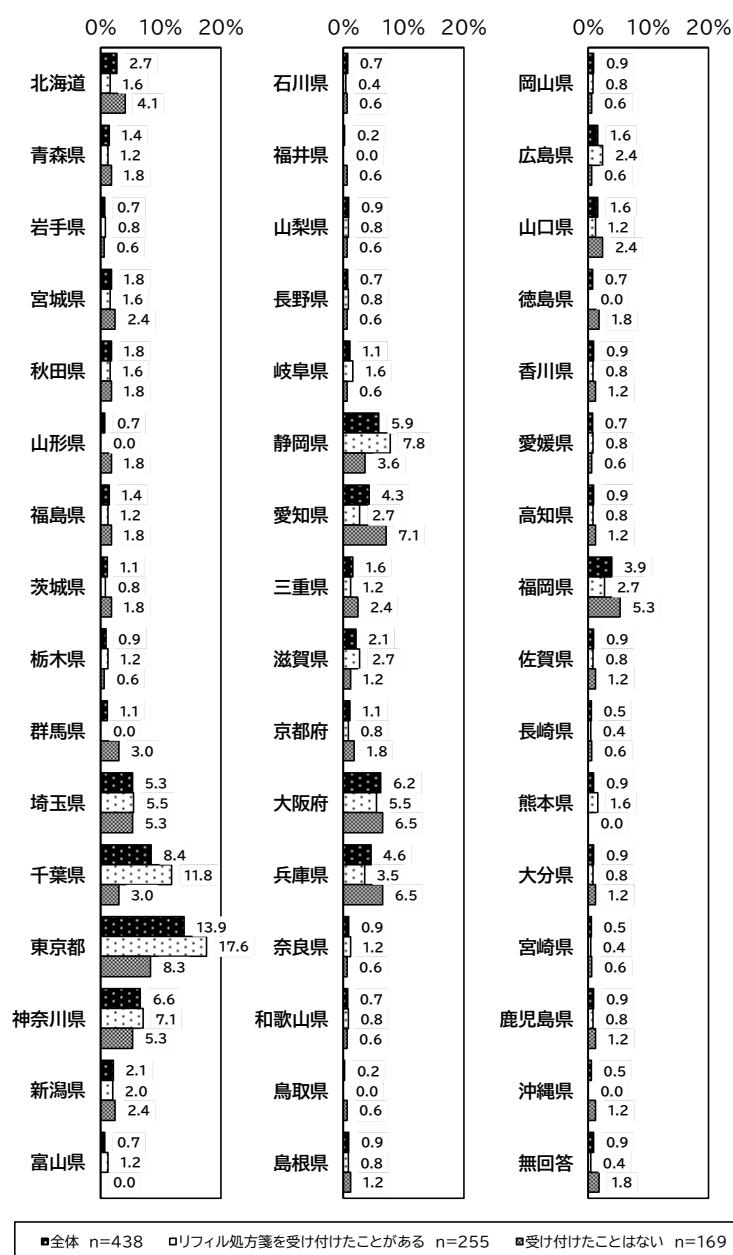


1) 薬局の状況について

(1) 所在地

所在地はリフィル処方箋の受付実績がある薬局は「東京都」が17.6%と最も多く、リフィル処方箋の受付実績がない薬局も「東京都」が8.3%と最も多かった。

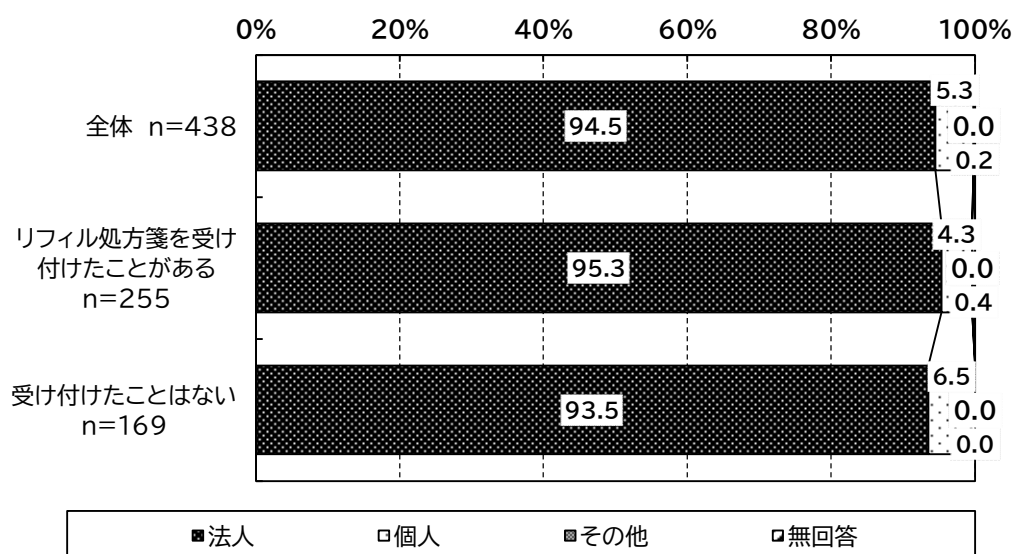
図表 4-2 所在地
(リフィル処方箋の受付経験有無別)



(2) 開設者

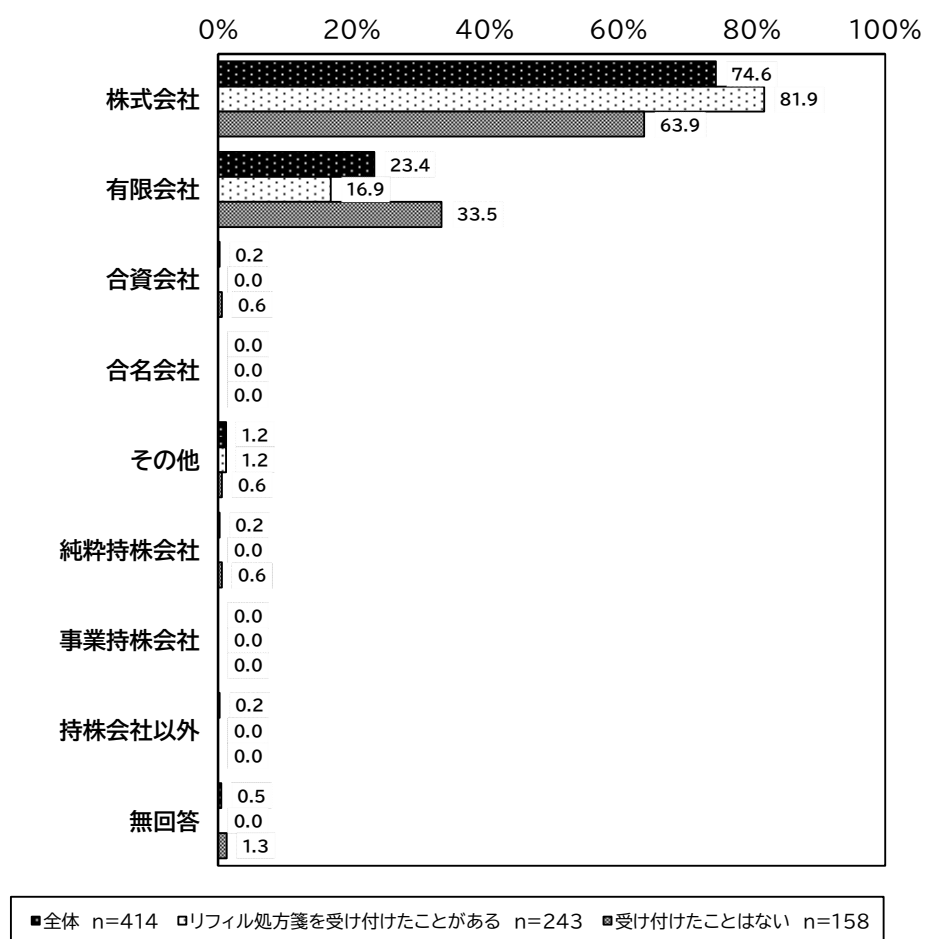
開設者はリフィル処方箋の受付実績がある薬局は「法人」が95.3%、「個人」が5.3%、「その他」が0.2%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局は「法人」が93.5%、「個人」が6.5%、「その他」が0.0%であった。

図表 4-3 開設者
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



【その他（自由記載）の具体的な内容】
※具体的な記載なし

図表 4-4 開設者（法人の内訳）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



(3) 同一グループ等による薬局店舗数

同一グループ（財務上又は営業上若しくは事業上、緊密な関係にある範囲の保険薬局をいう）※による薬局店舗数は、リフィル処方箋の受付実績ありの薬局で平均 265.5 店舗、リフィル処方箋の受付実績無しの薬局で平均 147.8 店舗であった。

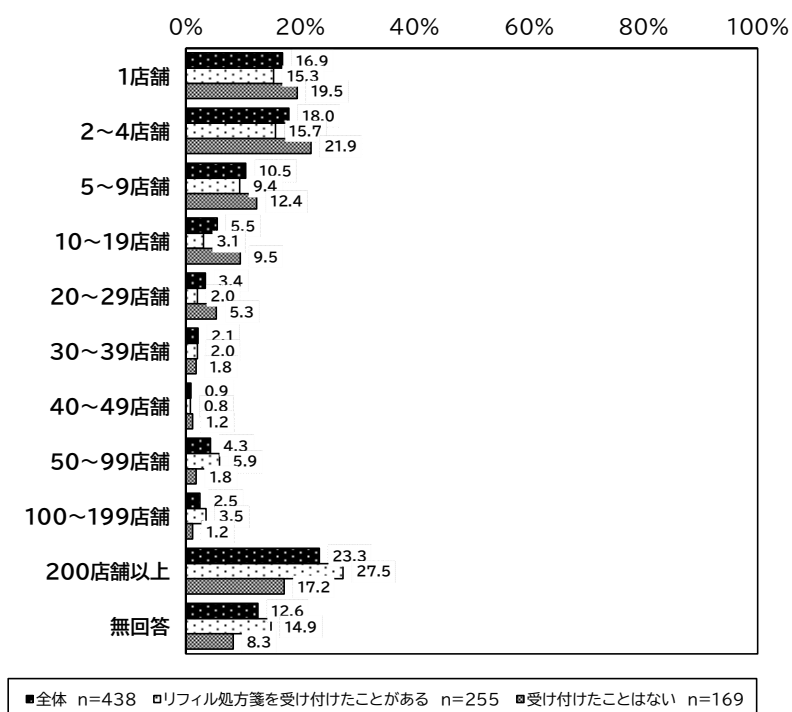
（単位：店舗）

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	383	216.8	379.2	9
リフィル処方箋を受け付けたことがある	217	265.5	404.5	13
受け付けたことはない	155	147.8	329.7	6

※同一グループは次の基準により判断する（調剤基本料の施設基準における同一グループの考え方と同様）

1. 保険薬局の事業者の最終親会社
2. 保険薬局の事業者の最終親会社の子会社
3. 保険薬局の事業者の最終親会社の関連会社
4. 1 から 3 までに掲げる者と保険薬局の運営に関するフランチャイズ契約を締結している者

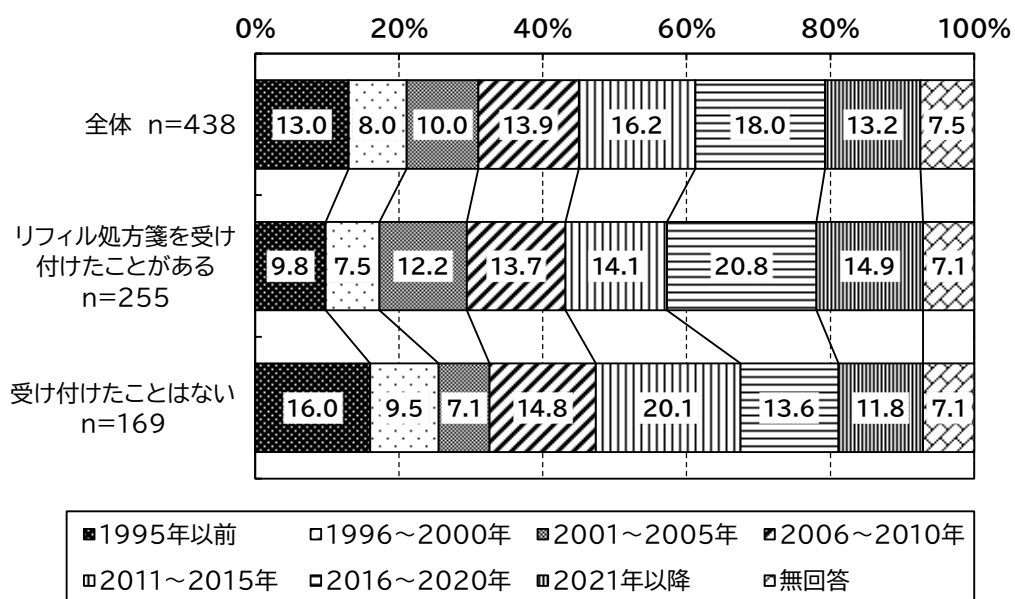
図表 4-5 同一グループ等による薬局店舗
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



(4) 開設年

開設年については、リフィル処方箋の受付実績ありの薬局は「2016～2020年」が最も多く20.8%、リフィル処方箋の受付実績なしの薬局は「2011～2015年」が最も多かった(20.1%)。

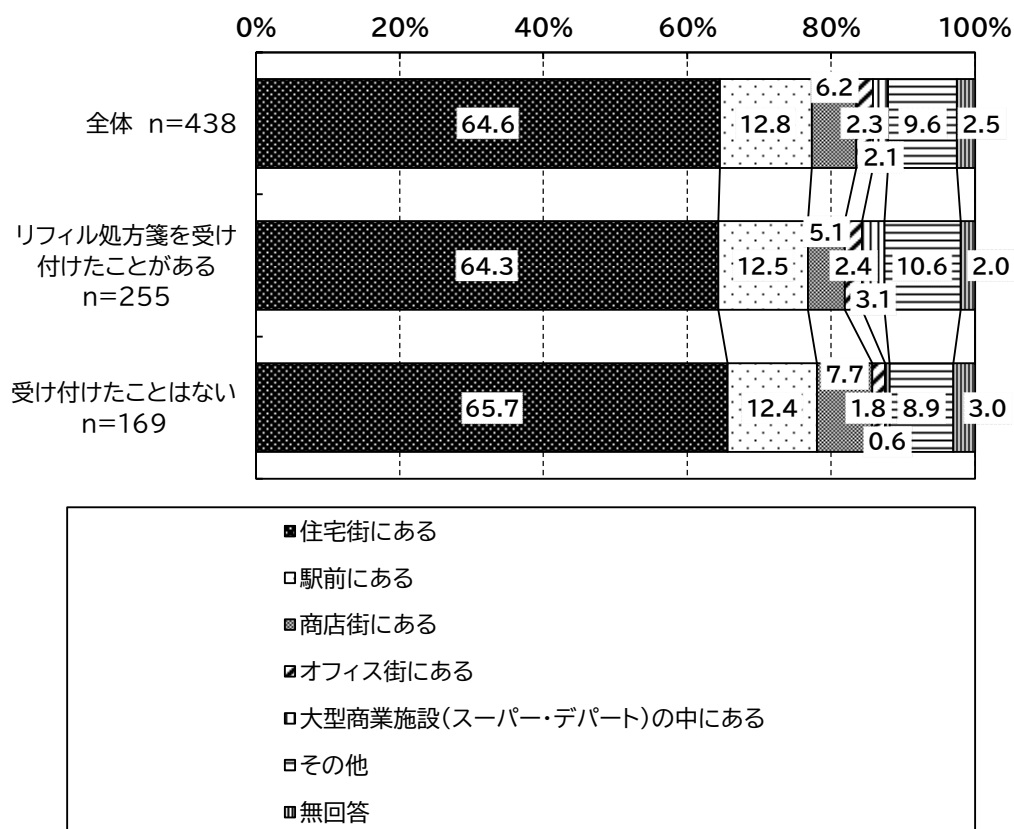
図表 4-6 開設年
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



(5) 薬局の立地

薬局の立地はリフィル処方箋の受付実績がある薬局は「住宅街にある」が64.3%と最も多く、次いで「駅前にある」が12.5%と多かった。リフィル処方箋の受付実績がない薬局も「住宅街にある」が65.7%と最も多く、次いで「駅前にある」が12.4%と多かった。

図表 4-7 薬局の立地
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



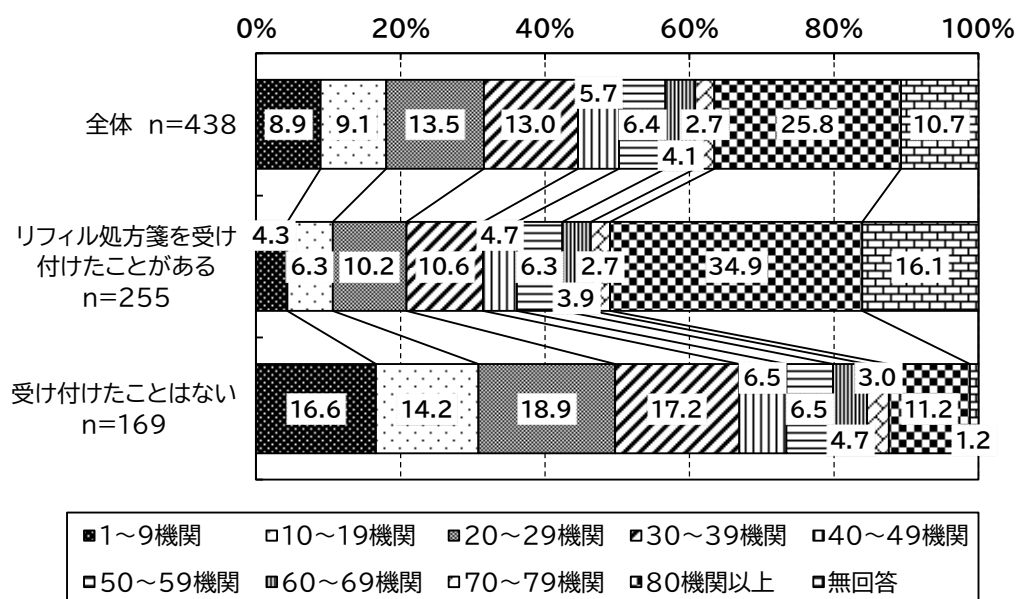
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・病院の門前
- ・医療機関の近隣
- ・道路沿い
- ・田舎
- ・ドラッグストア内 など

(6) 応需医療機関数（令和6年9月～11月の月平均値）

応需医療機関数（令和6年9月～11月の月平均値）は、リフィル処方箋の受付実績ありの薬局で平均 82.6 機関、リフィル処方箋の受付実績無しの薬局で平均 39.8 機関であった。

図表 4-8 応需医療機関数（令和6年9月～11月の月平均値）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



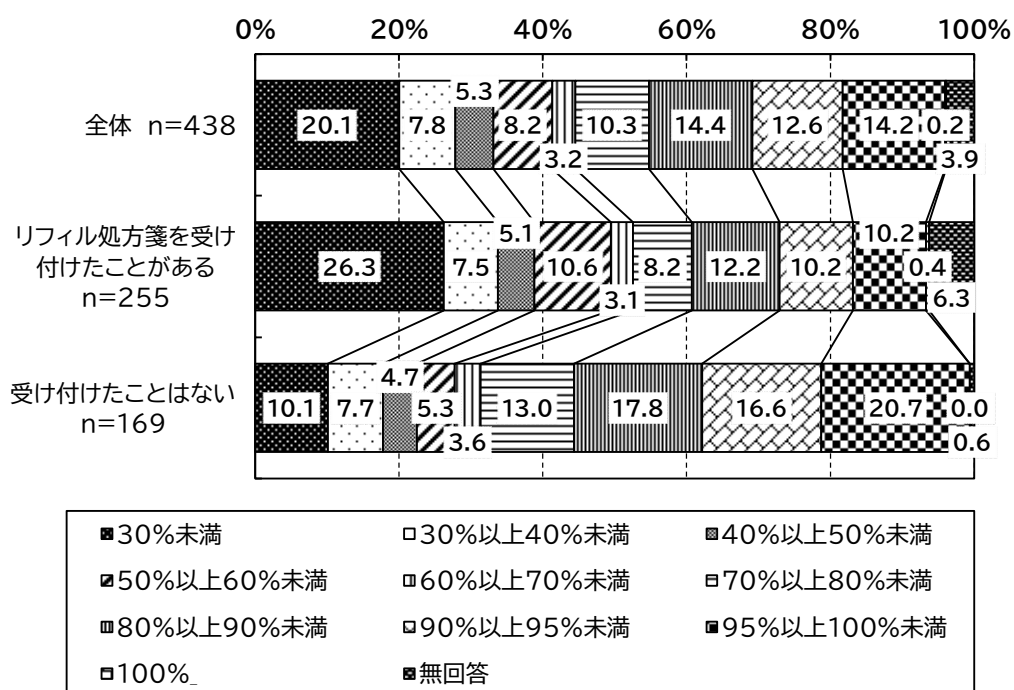
（単位：機関）

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	391	64.2	61.9	40
リフィル処方箋を受け付けたことがある	214	82.6	69.3	59
受け付けたことはない	167	39.8	40.6	29

(7) 最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの処方箋枚数割合
(令和6年9月～11月における月平均値)

最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの処方箋枚数割合（令和6年9月～11月における月平均値）については、リフィル処方箋の受付実績ありの薬局が平均で56.3%、リフィル処方箋の受付実績なしの薬局が平均で72.0%であった。

図表 4-9 最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの処方箋枚数割合
(令和6年9月～11月における月平均値)
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



(単位：%)

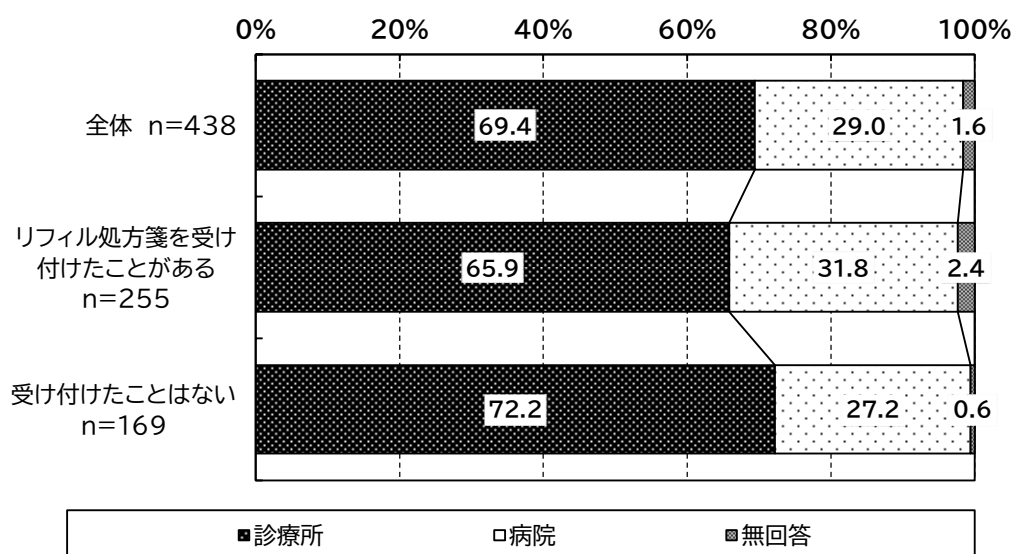
	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	421	62.4	30.5	72
リフィル処方箋を受け付けたことがある	239	56.3	31.5	57
受け付けたことはない	168	72.0	26.1	81

(8) 集中率が最も高い医療機関の情報

① 集中率が最も高い医療機関の施設種別（診療所・病院）

集中率が最も高い医療機関の施設種別（診療所・病院）についてはリフィル処方箋の受付実績がある薬局は「診療所」が65.9%、「病院」が31.8%であった。リフィル処方箋の受付実績がない薬局は「診療所」が72.2%、「病院」が27.2%であった。

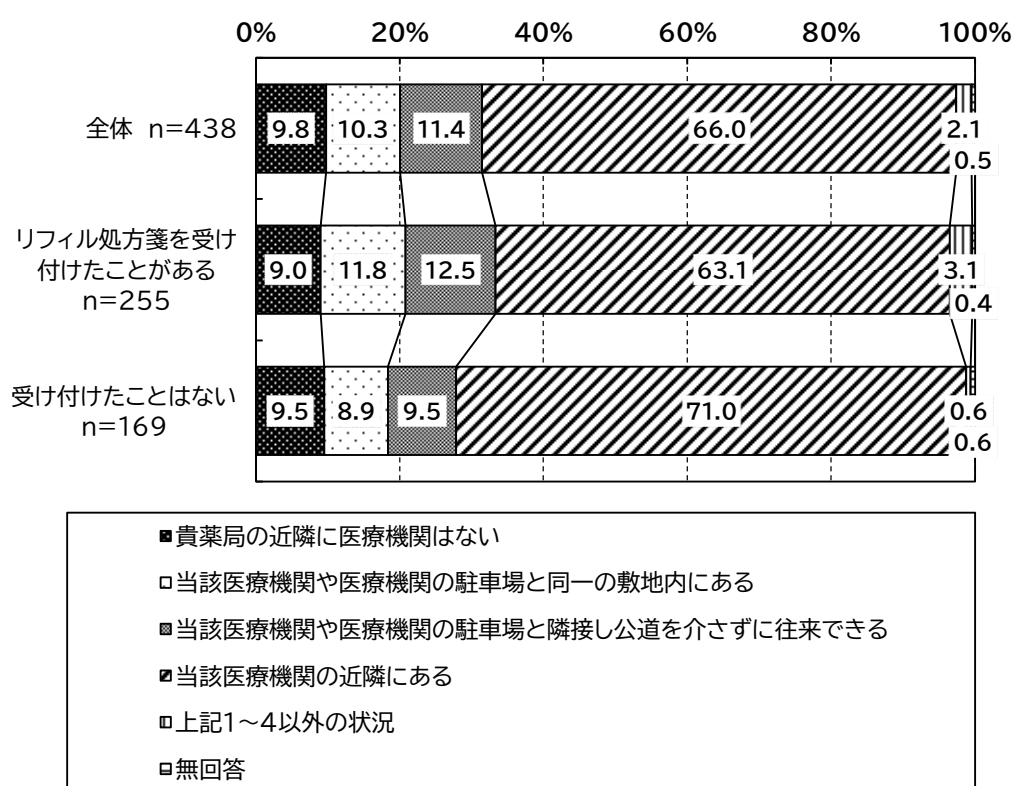
図表 4-10 集中率が最も高い医療機関の施設種別（診療所・病院）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



② 集中率が最も高い医療機関と薬局の位置関係

集中率が最も高い医療機関と薬局の位置関係についてはリフィル処方箋の受付実績がある薬局は「当該医療機関の近隣にある」が最も多く 63.1%、次いで「当該医療機関や医療機関の駐車場と隣接し公道を介さずに往来できる」が多く 12.5%であった。リフィル処方箋の受付実績がない薬局は「当該医療機関の近隣にある」が最も多く 71.0%、次いで「当該医療機関や医療機関の駐車場と隣接し公道を介さずに往来できる」と「貴薬局の近隣に医療機関はない」がともに 9.5%で続いた。

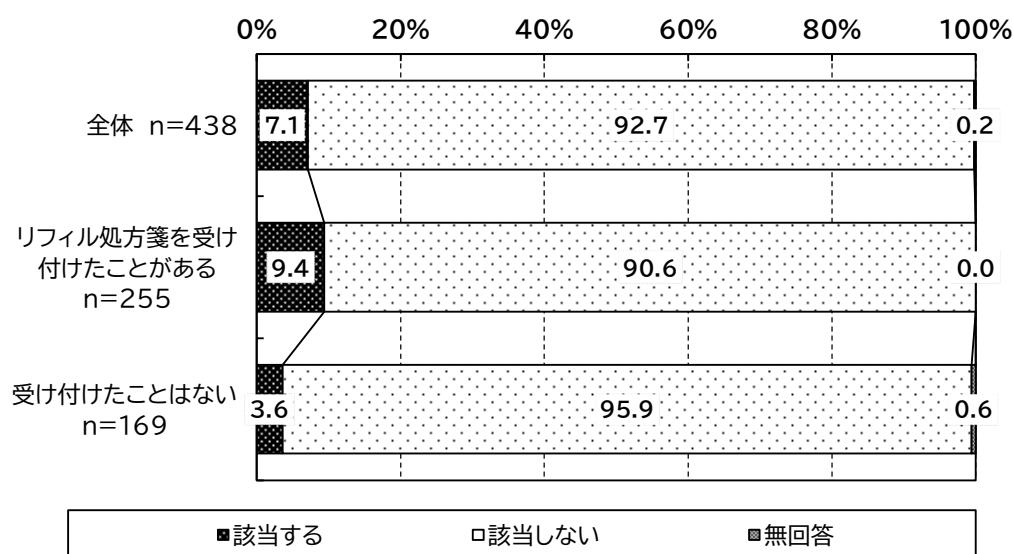
図表 4-11 集中率が最も高い医療機関と薬局の位置関係
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



③ 集中度が最も高い医療機関が「複数の医療機関が所在する建物」に入居しているか

集中度が最も高い医療機関が「複数の医療機関が所在する建物」に入居しているかについてはリフィル処方箋の受付実績がある薬局は「該当する」が9.4%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局は「該当する」が3.6%であった。

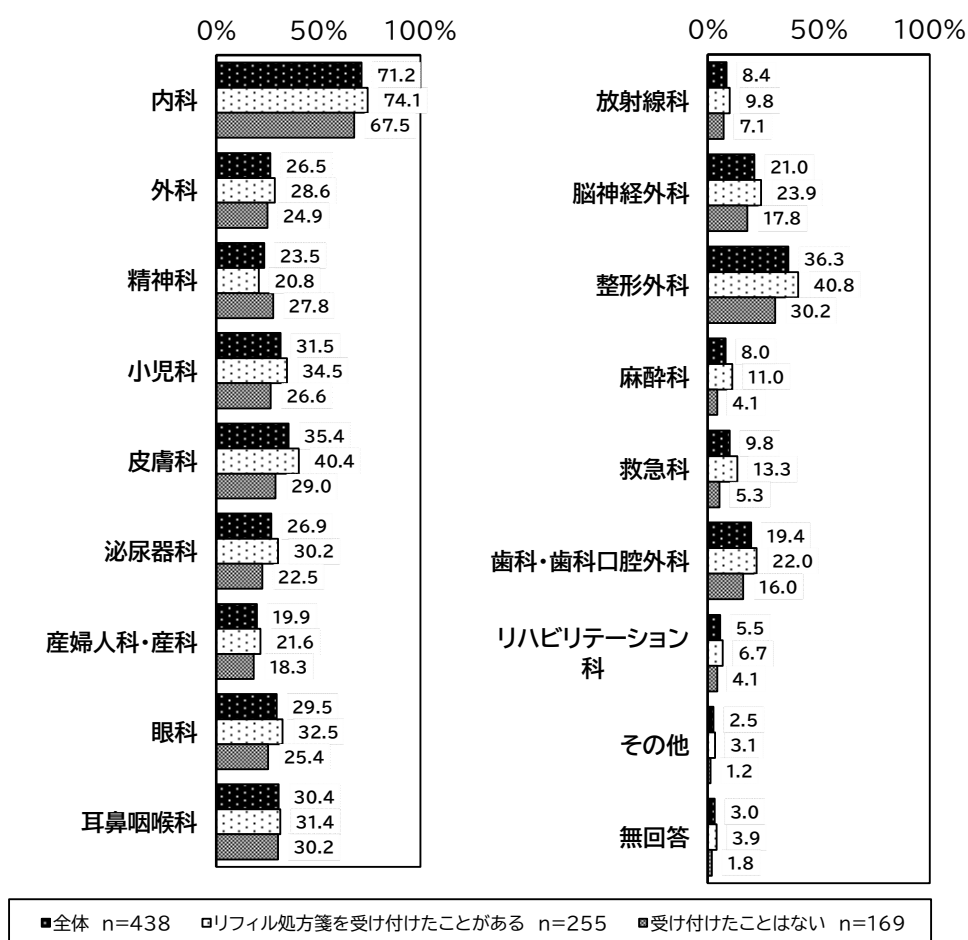
図表 4-12 集中度が最も高い医療機関が
「複数の医療機関が所在する建物」に入居しているか
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



④ 集中率が最も高い医療機関の診療科

集中率が最も高い医療機関の診療科についてはリフィル処方箋の受付実績がある薬局は「内科」が最も多く 74.1%、次いで「整形外科」が多く 40.8%であった。リフィル処方箋の受付実績がない薬局は「内科」が最も多く 67.5%、次いで「耳鼻咽喉科」と「整形外科」が多くともに 30.2%であった。

図表 4-13 集中率が最も高い医療機関の診療科（複数回答）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



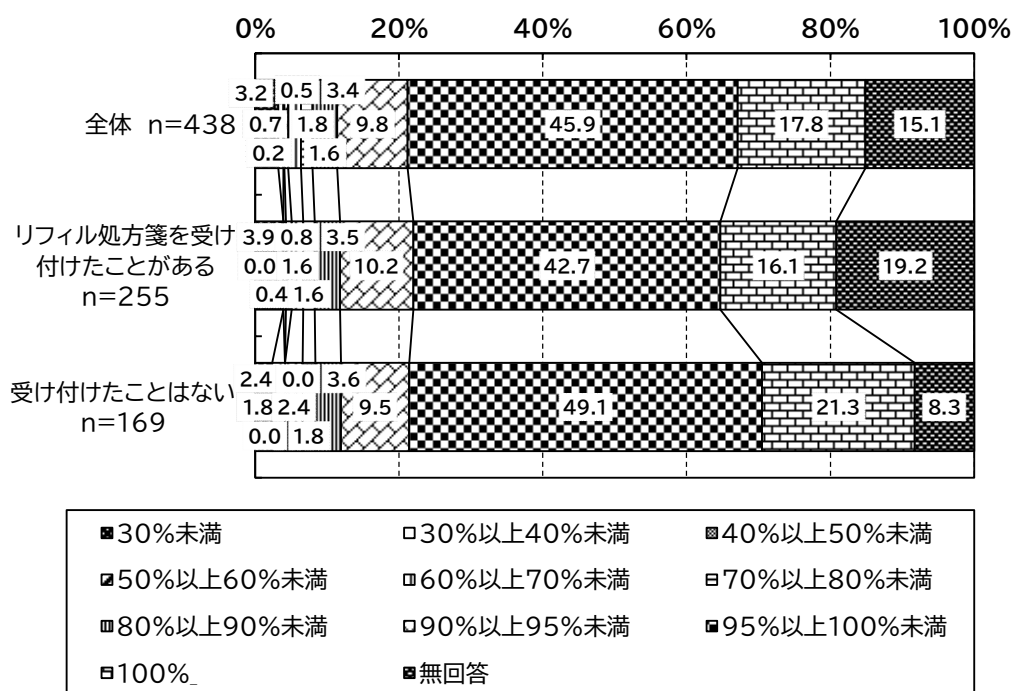
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・緩和医療ケア
- ・形成外科
- ・リウマチ科
- ・婦人科 など

(9) 売上高に占める保険調剤売上の割合

売上高に占める保険調剤売上の割合については、リフィル処方箋の受付実績がある薬局は平均で 90.7%、リフィル処方箋の受付実績がない薬局は平均で 92.2%であった。

図表 4-14 売上高に占める保険調剤売上の割合
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



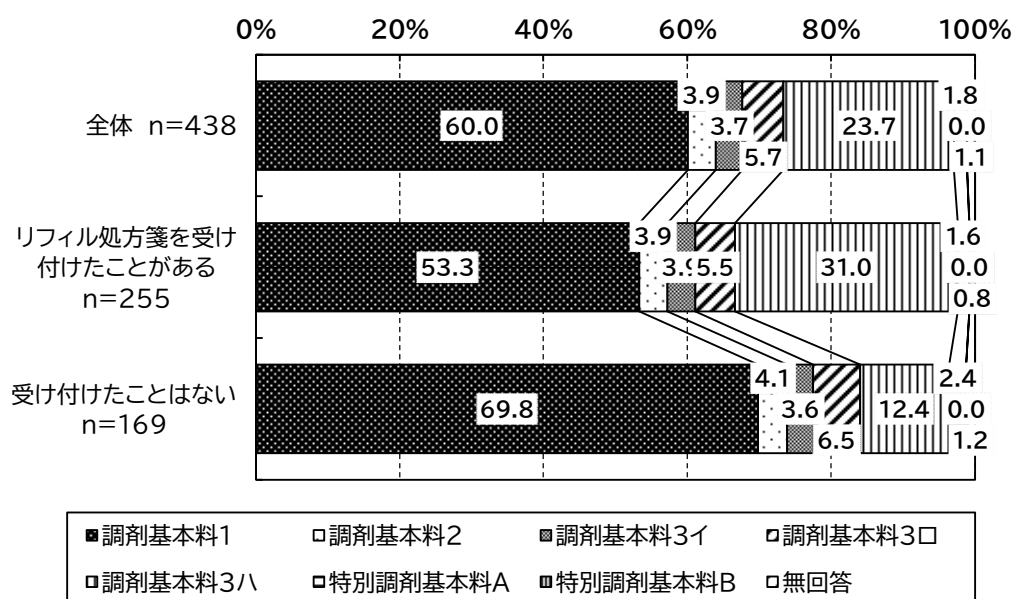
(単位：%)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	372	91.5	18.5	98
リフィル処方箋を受け付けたことがある	206	90.7	19.7	98
受け付けたことはない	155	92.2	17.4	99

(10) 令和6年度の調剤基本料の届出状況

令和6年度の調剤基本料の届出状況についてはリフィル処方箋の受付実績がある薬局は「調剤基本料1」が最も多く53.3%、次いで「調剤基本料3ハ」が多く31.0%であった。リフィル処方箋の受付実績がない薬局についても「調剤基本料1」が最も多く69.8%、次いで「調剤基本料3ハ」が多く12.4%であった。

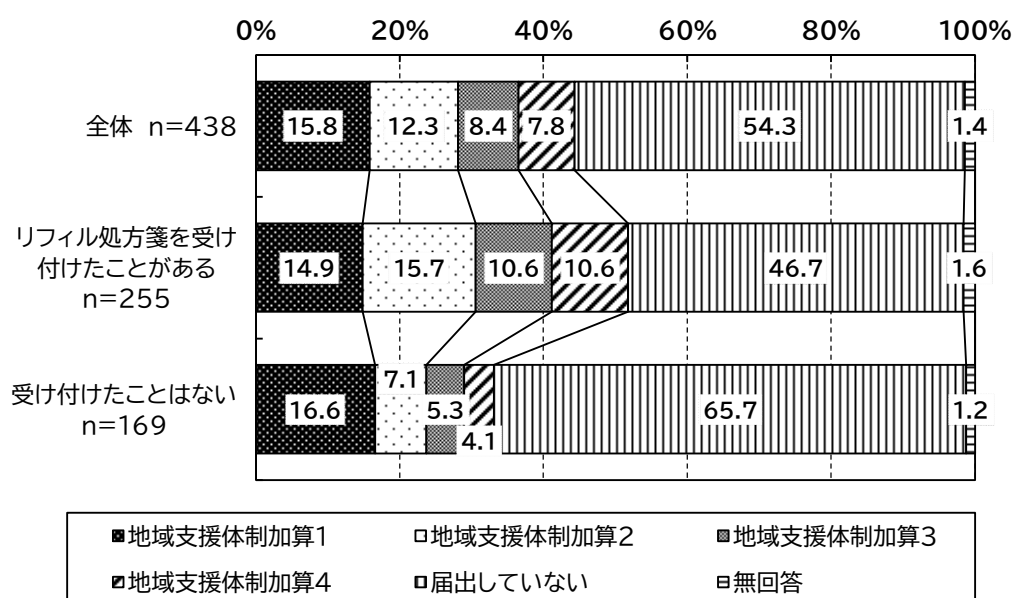
図表 4-15 令和6年度の調剤基本料の届出状況
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



(11) 令和 6 年度の地域支援体制加算の届出状況

令和 6 年度の地域支援体制加算の届出状況についてはリフィル処方箋の受付実績がある薬局は「届出していない」が最も多く 46.7%、次いで「地域支援体制加算 2」が多く 15.7%であった。リフィル処方箋の受付実績がない薬局は「届出していない」が最も多く 65.7%、次いで「地域支援体制加算 1」が多く 16.6%であった。

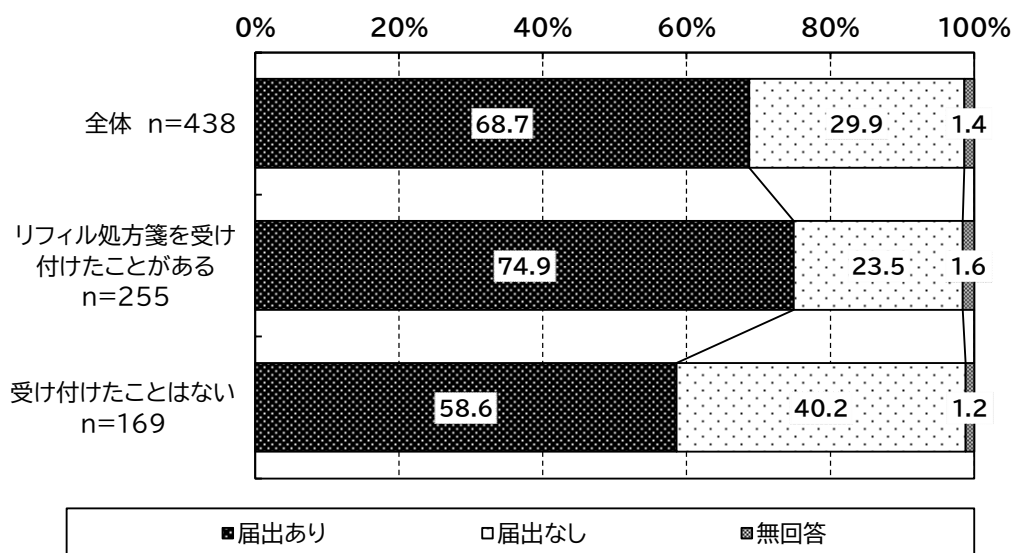
図表 4-16 令和 6 年度の地域支援体制加算の届出状況
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



(12) 連携強化加算の届出状況

連携強化加算の届出状況連携強化加算の届出状況についてはリフィル処方箋の受付実績がある薬局は「届出あり」が74.9%、リフィル処方箋の受付実績がない薬局は「届出しあり」が58.6%であった。

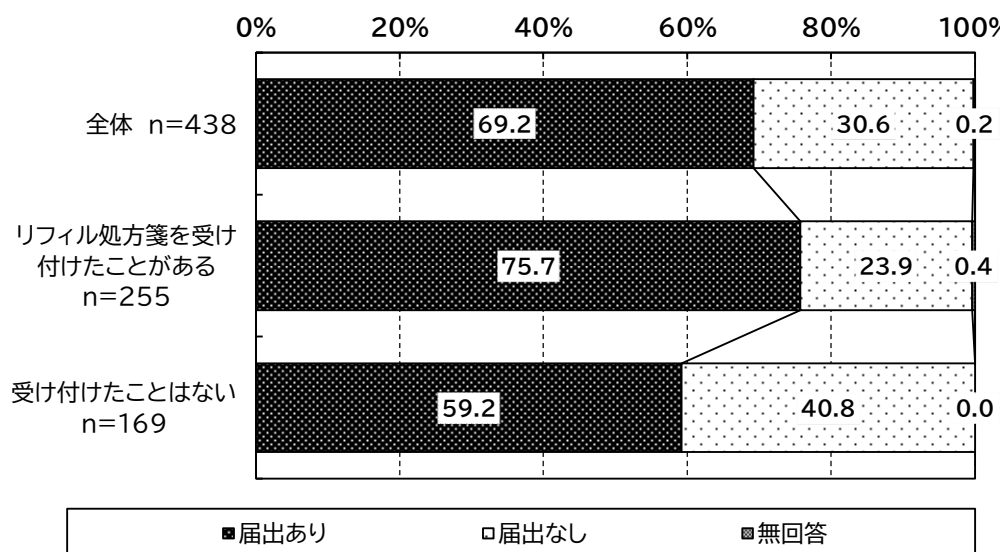
図表 4-17 連携強化加算の届出状況
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



(13) かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準等の届出状況

かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準等の届出状況について、リフィル処方箋の受付実績がある薬局は「届出あり」が75.7%、リフィル処方箋の受付実績がない薬局は「届出あり」が59.2%であった。

図表 4-18 かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準等の届出状況（リフィル処方箋の受付実績有無別）



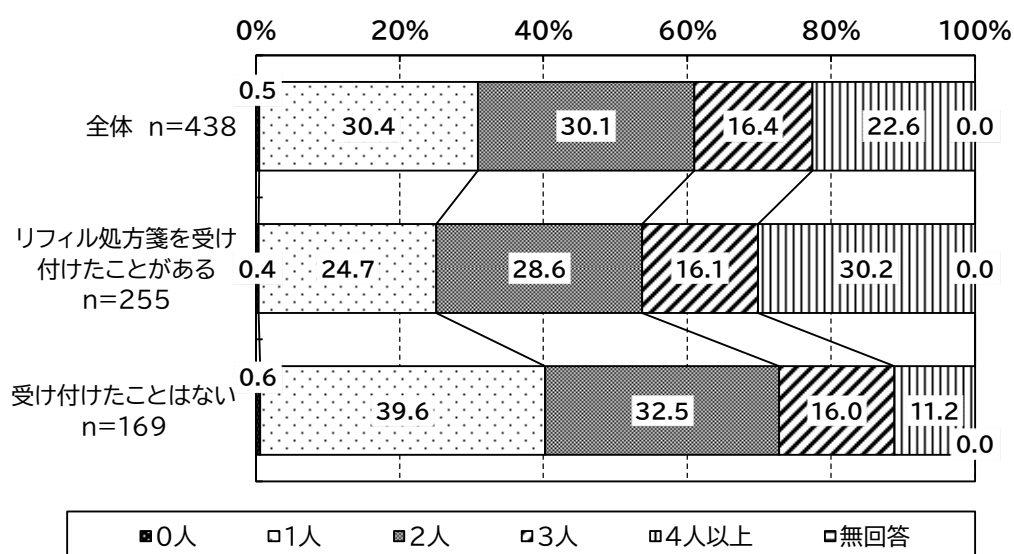
(14) 職員数

① 薬剤師

常勤の薬剤師について、全体では平均 2.7 人であった。うち、リフィル処方箋の受付実績がある薬局では平均 3.0 人、受付実績がない薬局では平均 2.2 人であった。

非常勤の薬剤師については、全体の実人数が平均 2.7 人、全体の常勤換算が平均 1.0 人であった。

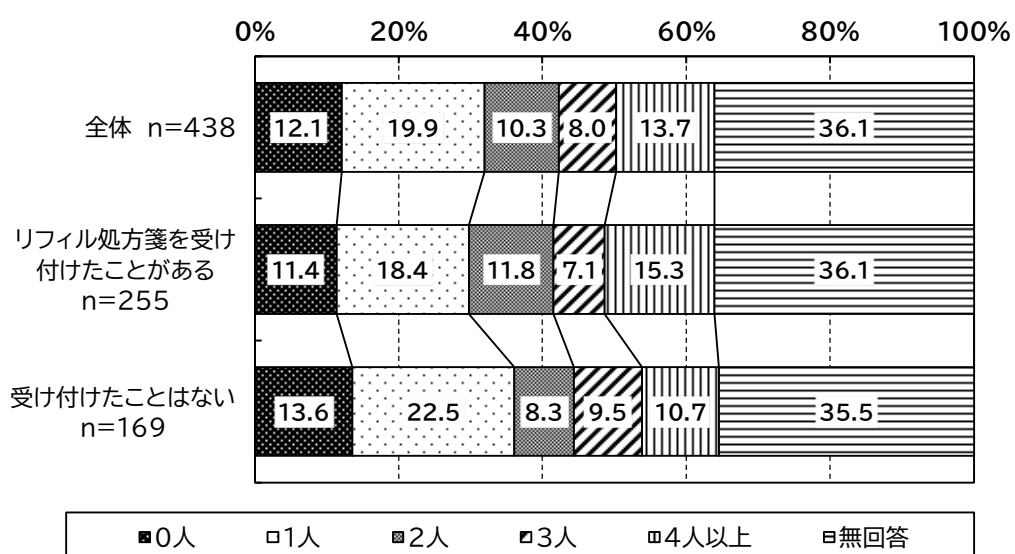
図表 4-19 職員数 薬剤師 常勤職員（リフィル処方箋の受付実績有無別）



(単位：人)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	438	2.7	2.0	2
リフィル処方箋を受け付けたことがある	255	3.0	2.2	2
受け付けたことはない	169	2.2	1.6	2

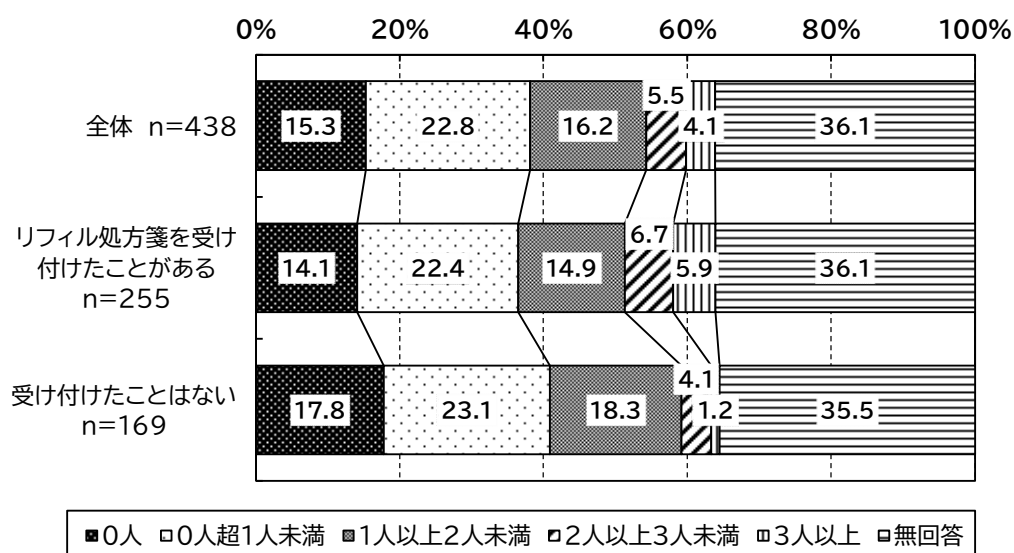
図表 4-20 職員数 薬剤師 非常勤職員 実人数
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



(単位：人)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	280	2.7	5.2	1.5
リフィル処方箋を受け付けたことがある	163	2.8	3.9	2
受け付けたことはない	109	2.5	6.8	1

図表 4-21 職員数 薬剤師 非常勤職員 常勤換算
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



(単位：人)

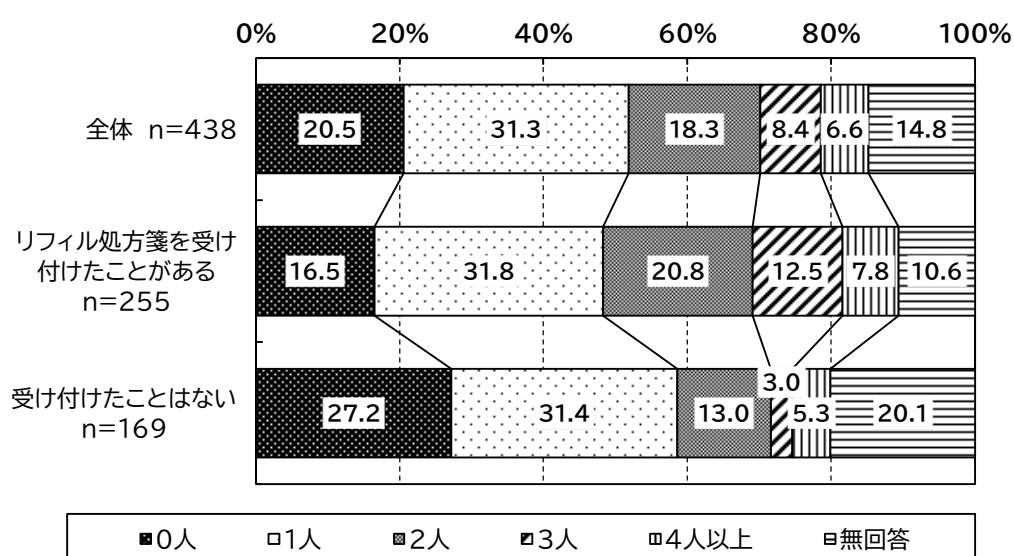
	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	280	1.0	1.2	0.7
リフィル処方箋を受け付けたことがある	163	1.1	1.4	0.7
受け付けたことはない	109	0.7	0.7	0.6

② かかりつけ薬剤師指導料等における「かかりつけ薬剤師」

常勤の「かかりつけ薬剤師」について、全体では平均 1.5 人であった。うち、リフィル処方箋の受付実績がある薬局では平均 1.7 人、受付実績がない薬局では平均 1.2 人であった。

非常勤の「かかりつけ薬剤師」については、全体の実人数、全体の常勤換算ともに平均 0.1 人であった。

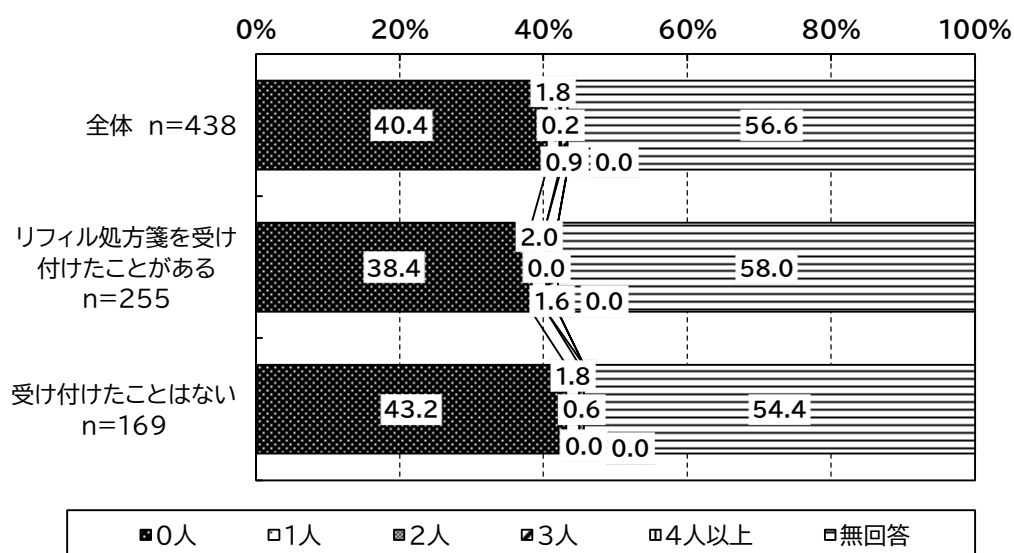
図表 4-22 職員数 薬剤師のうち、
かかりつけ薬剤師指導料等における「かかりつけ薬剤師」 常勤職員
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



(単位：人)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	373	1.5	1.4	1
リフィル処方箋を受け付けたことがある	228	1.7	1.4	1
受け付けたことはない	135	1.2	1.5	1

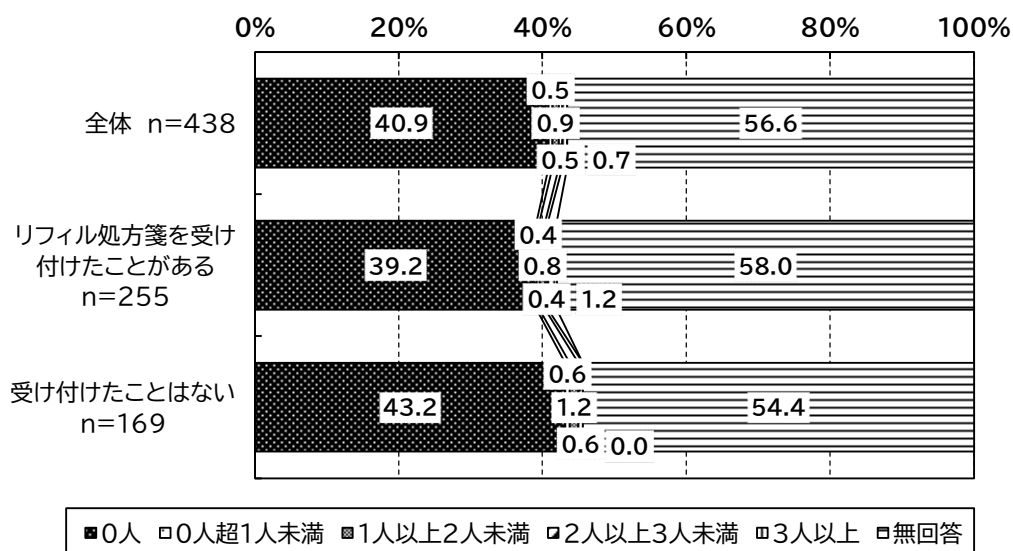
図表 4-23 職員数 薬剤師のうち、
かかりつけ薬剤師指導料等における「かかりつけ薬剤師」 非常勤職員 実人数
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



(単位：人)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	190	0.1	0.5	0
リフィル処方箋を受け付けたことがある	107	0.2	0.6	0
受け付けたことはない	77	0.1	0.3	0

図表 4-24 職員数 薬剤師のうち、
かかりつけ薬剤師指導料等における「かかりつけ薬剤師」 非常勤職員 常勤換算
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



(単位：人)

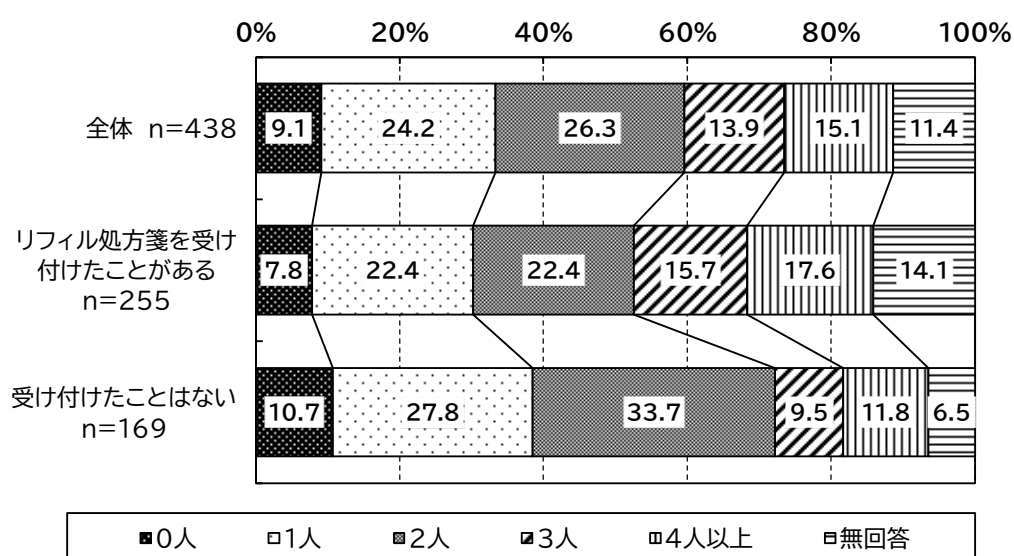
	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	190	0.1	0.5	0
リフィル処方箋を受け付けたことがある	107	0.1	0.6	0
受け付けたことはない	77	0.1	0.3	0

③ その他（事務職員等）

常勤の「その他（事務職員等）」について、全体では平均 2.2 人であった。うち、リフィル処方箋の受付実績がある薬局では平均 2.4 人、受付実績がない薬局では平均 1.9 人であった。

非常勤の「その他（事務職員等）」については、全体の実人数は平均 1.4 人、全体の常勤換算は平均 0.8 人であった。

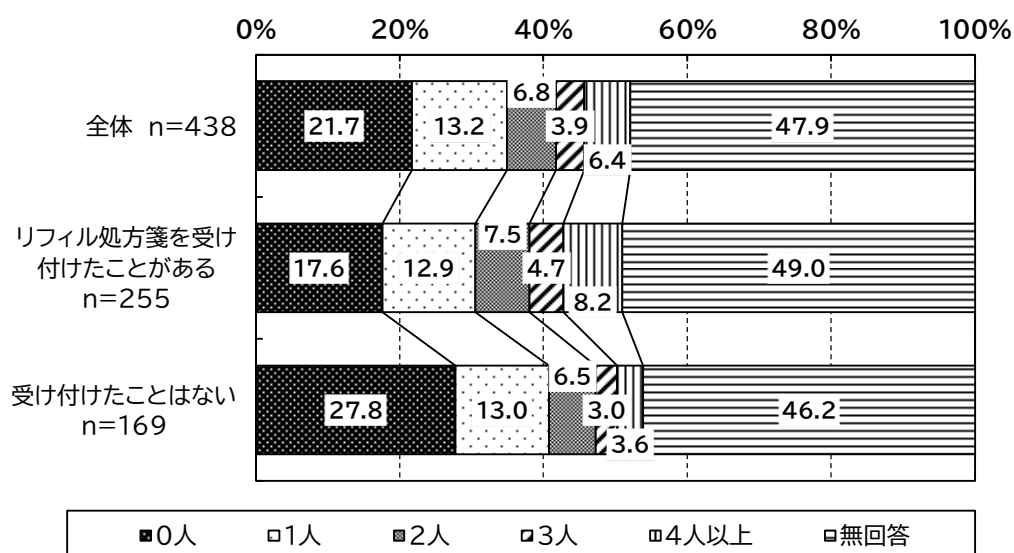
図表 4-25 職員数 その他（事務職員等） 常勤職員
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



（単位：人）

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	388	2.2	1.6	2
リフィル処方箋を受け付けたことがある	219	2.4	1.8	2
受け付けたことはない	158	1.9	1.3	2

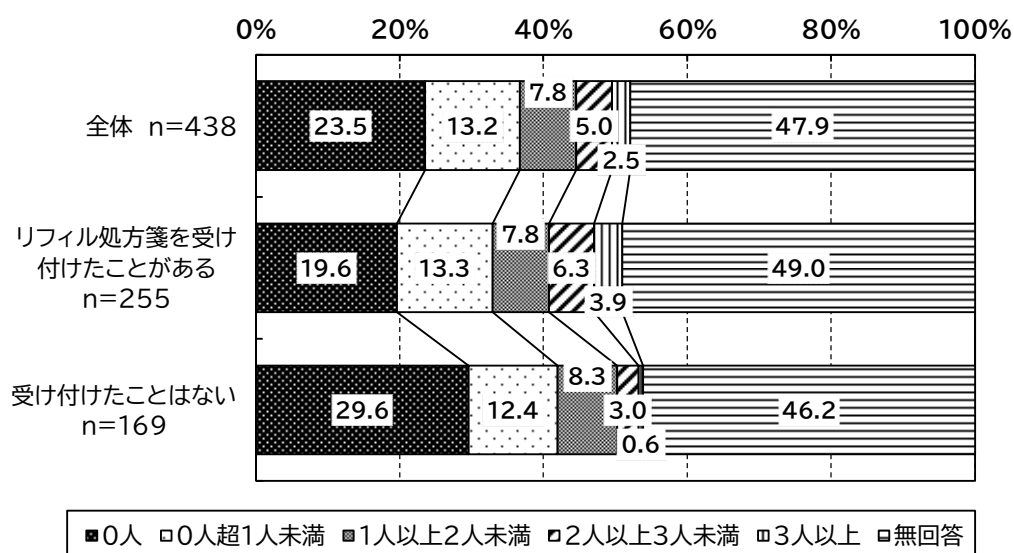
図表 4-26 職員数 その他（事務職員等） 非常勤職員 実人数
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



（単位：人）

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	228	1.4	2.0	1
リフィル処方箋を受け付けたことがある	130	1.7	2.3	1
受け付けたことはない	91	1.0	1.5	0

図表 4-27 職員数 その他（事務職員等） 非常勤職員 常勤換算
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



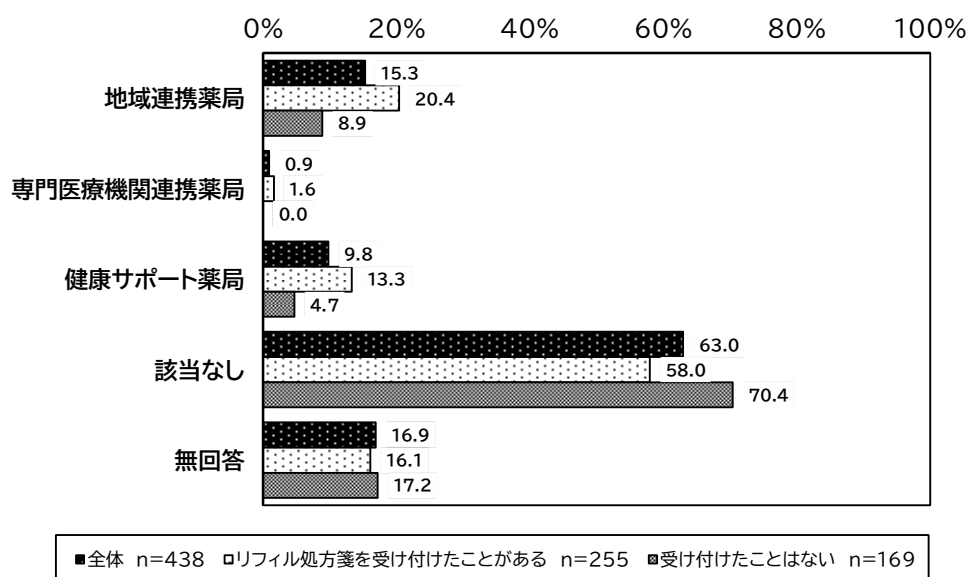
（単位：人）

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	228	0.8	1.3	0.4
リフィル処方箋を受け付けたことがある	130	1.0	1.5	0.5
受け付けたことはない	91	0.5	0.7	0

(15) 薬局の認定等の状況

薬局の認定等の状況は「該当なし」が最も多く、リフィル処方箋の受付実績がある薬局では58.0%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では70.4%であった。次いで多かったのは「地域連携薬局」でリフィル処方箋の受付実績が有る薬局では20.4%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では8.9%であった

図表 4-28 薬局の認定等の状況（複数回答）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）

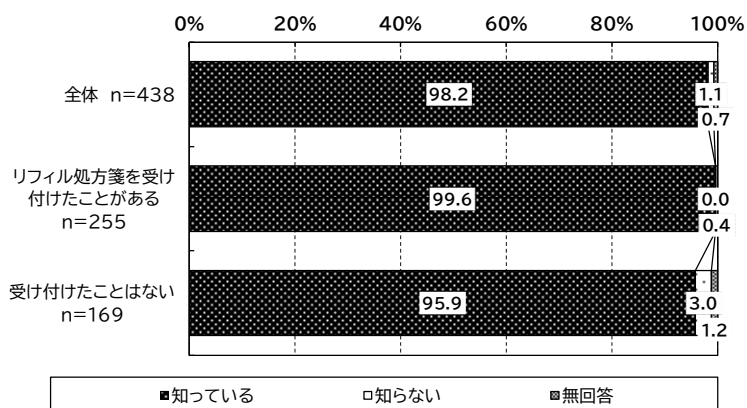


2) リフィル処方箋を応需する体制について(令和6年9月～11月末日)

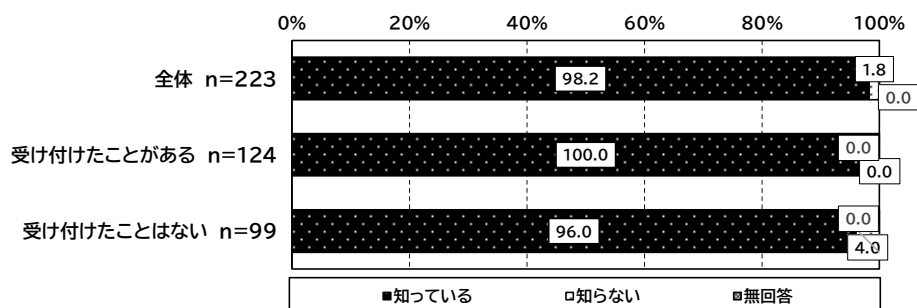
(1) リフィル処方箋の仕組みについての認知度

リフィル処方箋の仕組みについての認知度についてはリフィル処方箋の受付実績がある薬局は「知っている」が99.6%、リフィル処方箋の受付実績がない薬局は「知っている」が95.9%であった。

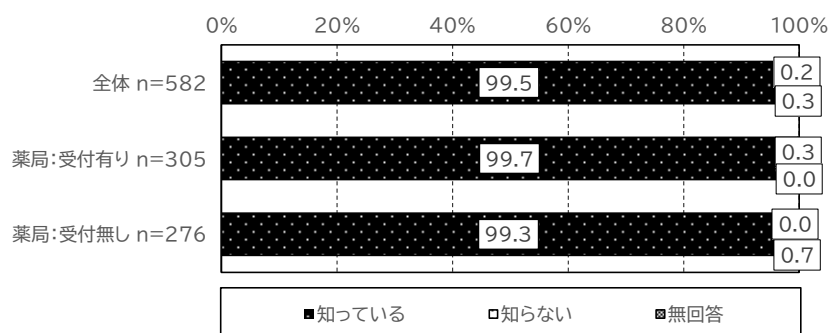
図表 4-29 リフィル処方箋の仕組みについての認知度
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



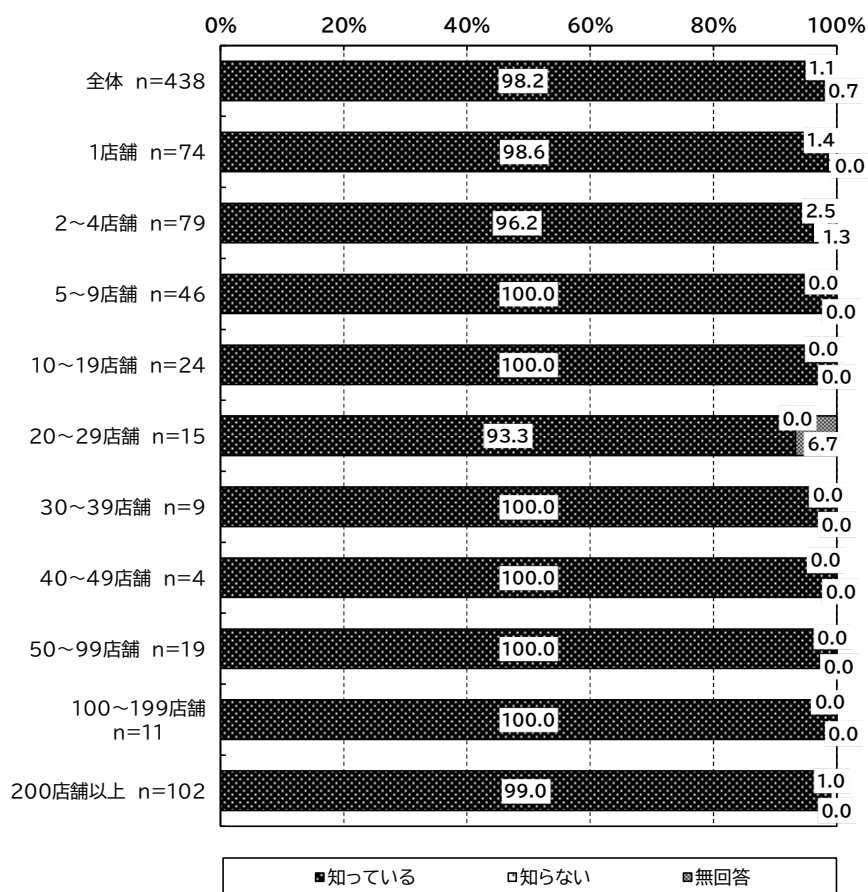
【参考：令和4年度調査】



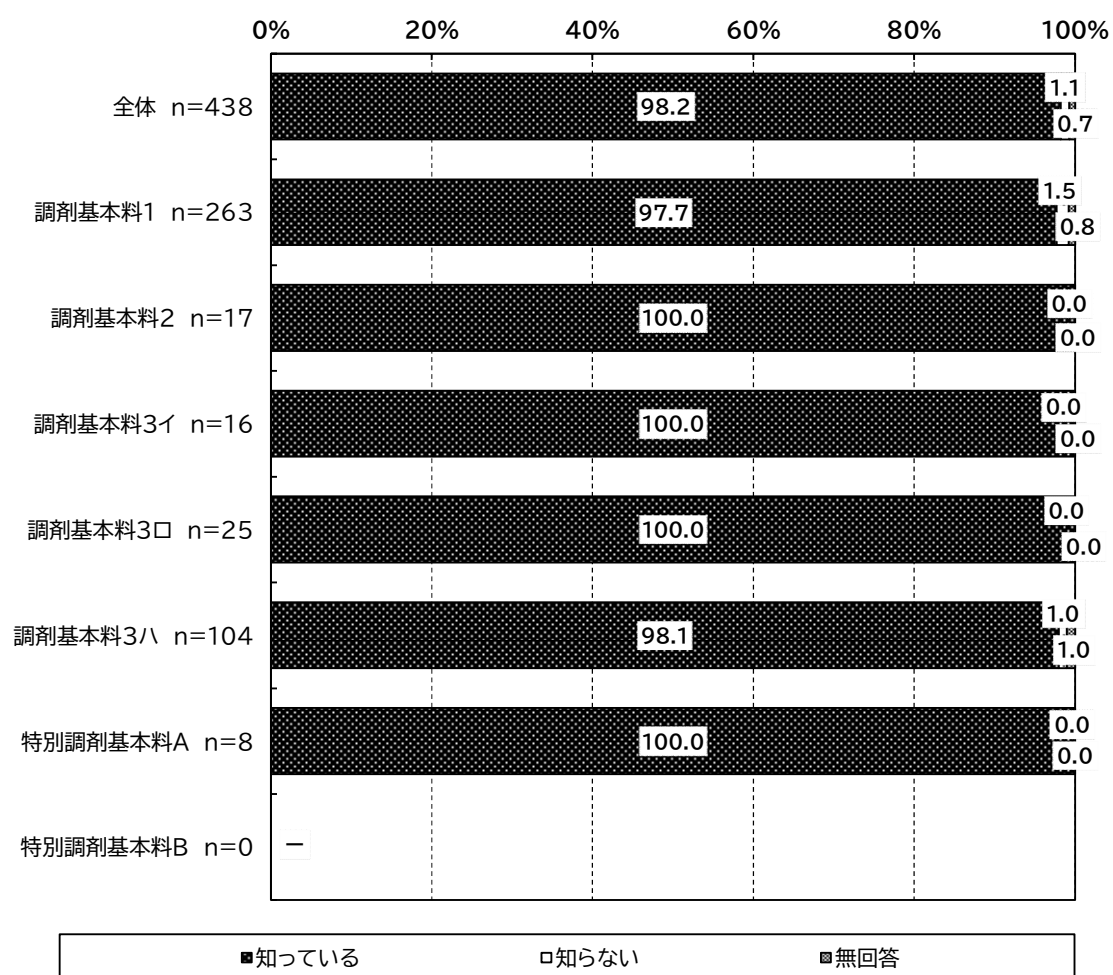
【参考：令和5年度調査】



図表 4-30 リフィル処方箋の仕組みについての認知度
(同一グループ等による薬局店舗別)



図表 4-31 リフィル処方箋の仕組みについての認知度
(調剤基本料別)

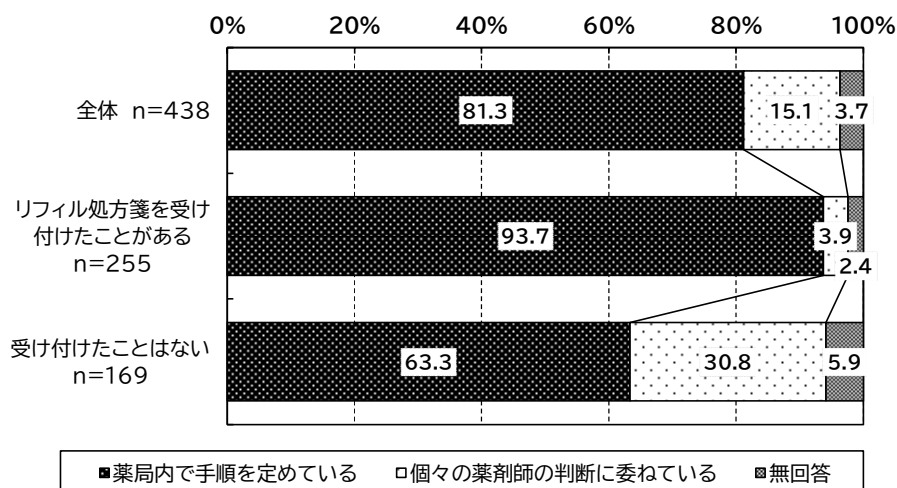


(2) リフィル処方箋を応需した際の薬局内の業務手順の定めの有無

リフィル処方箋を応需した際の薬局内の業務手順の定めの有無について、「薬局内で手順を定めている」がリフィル処方箋の受付実績がある薬局は93.7%、リフィル処方箋の受付実績がない薬局は63.3%であった。

図表 4-32 リフィル処方箋を応需した際の薬局内の業務手順の定めの有無

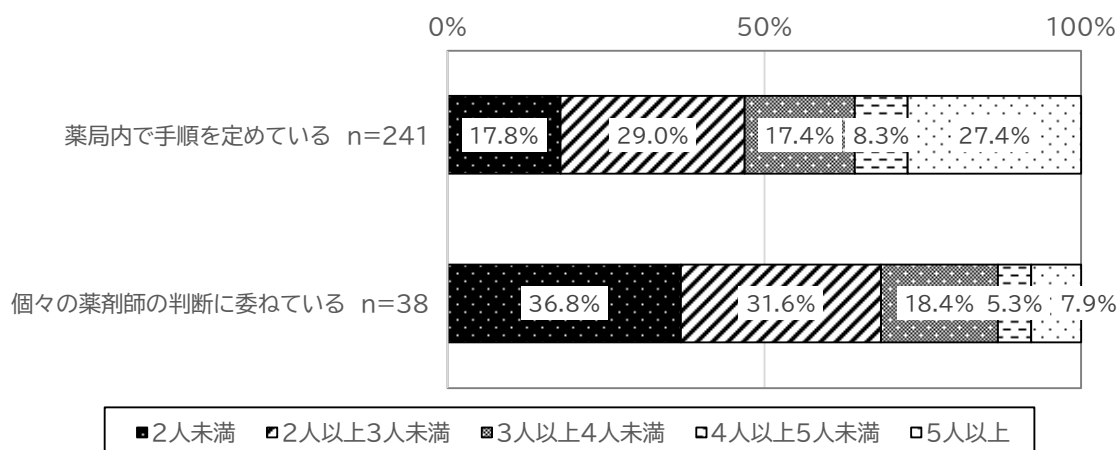
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



なお、リフィル処方箋を応需した際の薬局内の業務手順の定めの有無別に、薬剤師数（常勤・非常勤（常勤換算）の合計）についてみると、「個々の薬剤師の判断に委ねている」薬局では「薬局内で手順を定めている」薬局よりも、薬剤師数が少ない薬局が多い傾向が見られた。

図表 4-33 薬局薬剤師数（常勤換算）

(リフィル処方箋を応需した際の薬局内の業務手順の定めの有無別)

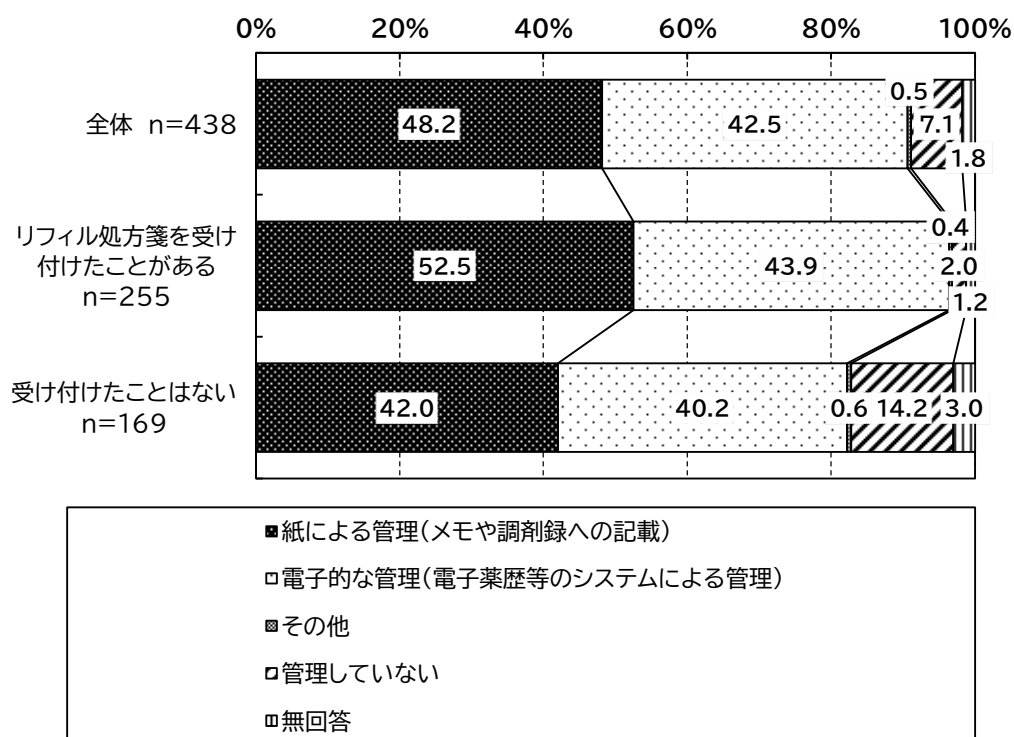


※薬剤師数（常勤・非常勤（常勤換算）の合計）の有効回答があった薬局について集計

(3) リフィル処方箋の次回調剤日を薬局内で管理する方法

リフィル処方箋の次回調剤日を薬局内で管理する方法はリフィル処方箋の受付実績がある薬局は「紙による管理（メモや調剤録への記載）」が最も多く 52.5%、次いで「電子的な管理（電子薬歴等のシステムによる管理）」が多く 43.9%であった。リフィル処方箋の受付実績がない薬局は「紙による管理（メモや調剤録への記載）」が最も多く 42.0%、次いで「電子的な管理（電子薬歴等のシステムによる管理）」が多く 40.2%であった。

図表 4-34 リフィル処方箋の次回調剤日を薬局内で管理する方法
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



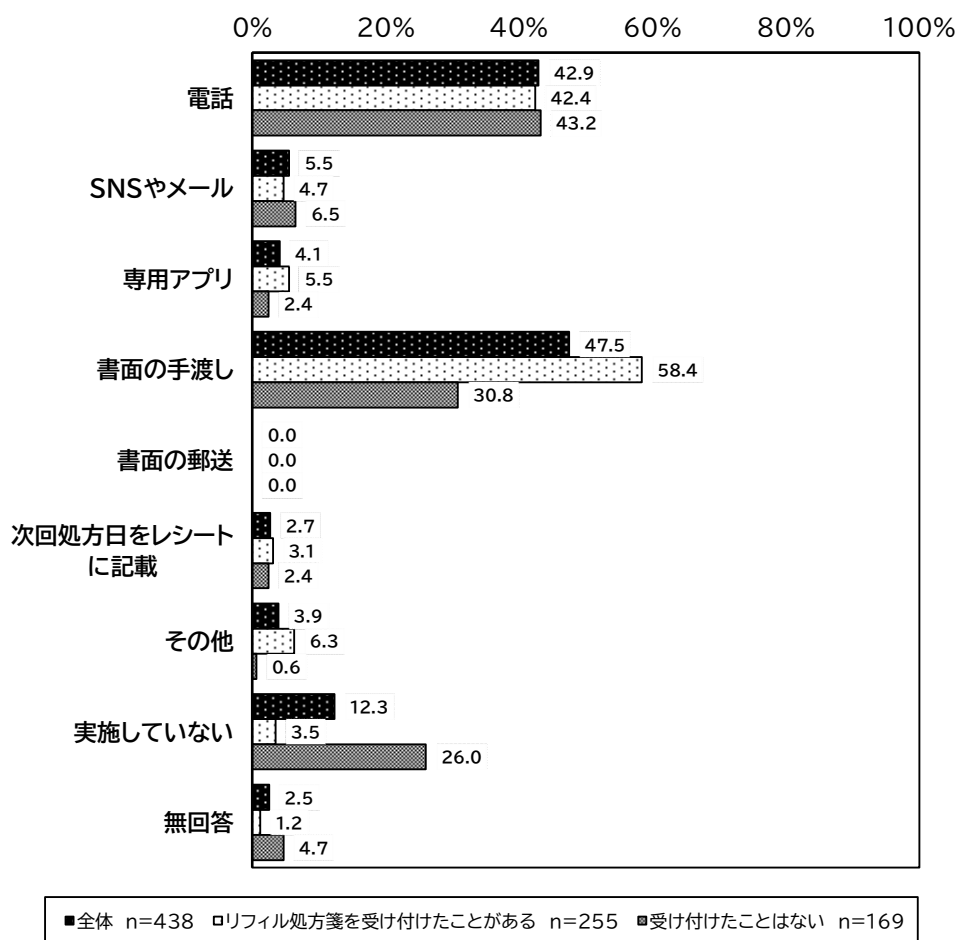
【その他（自由記載）の具体的な内容】

・まだ対応していない

(4) リフィル処方箋の次回調剤日を患者に対して通知（リマインド）する方法

リフィル処方箋の次回調剤日を患者に対して通知（リマインド）する方法はリフィル処方箋の受付実績がある薬局は「書面の手渡し」が最も多く 58.4%、次いで「電話」が多く 42.4%であった。リフィル処方箋の受付実績がない薬局は「電話」が最も多く 43.2%、次いで「書面の手渡し」が多く 30.8%であった。

図表 4-35 フィル処方箋の次回調剤日を患者に対して通知（リマインド）する方法
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



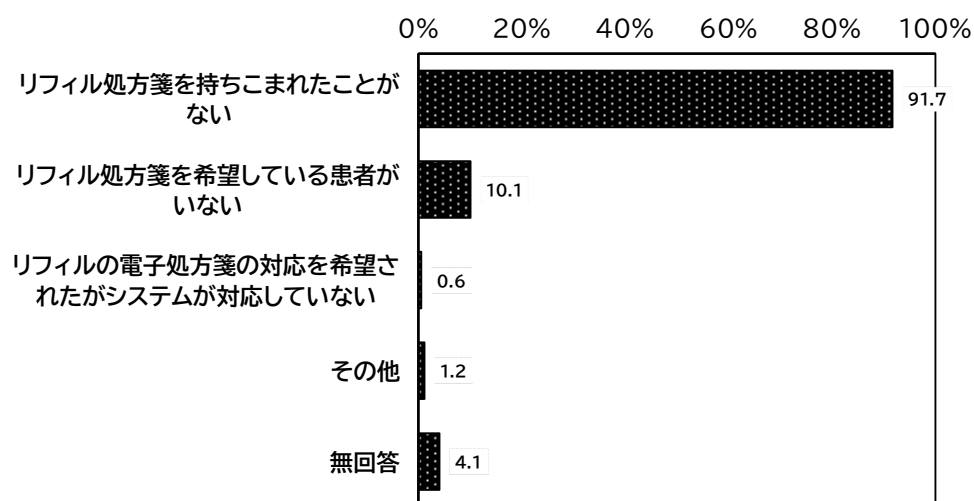
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・お薬手帳に記載
- ・付箋に記入し、処方箋原本に貼付
- ・処方箋に記入の上で説明 など

(5) リフィル処方箋の対応実績がない理由

リフィル処方箋の対応実績がない理由については「リフィル処方箋を持ちこまれたことがない」が最も多く 91.7%、次いで「リフィル処方箋を希望している患者がいない」が多く 10.1%であった。

図表 4-36 リフィル処方箋の対応実績がない理由（複数回答）



■受け付けたことはない n=169

【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・今後導入予定
- ・調査期間内になかった など

3) リフィル処方箋の対応状況

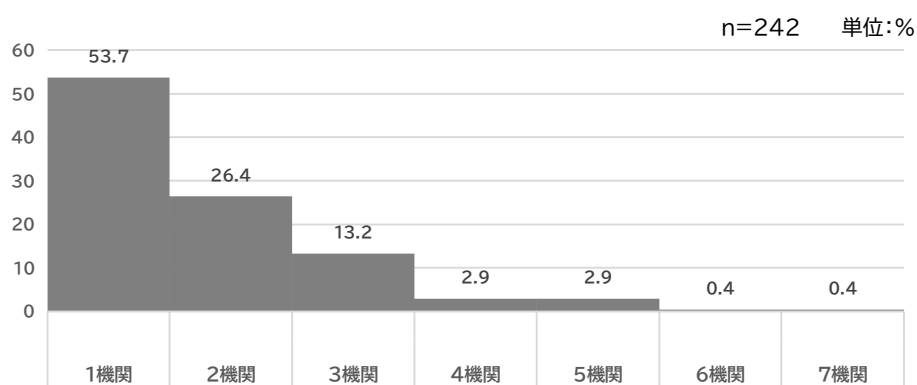
(1) 受け付けたリフィル処方箋を発行した医療機関数（令和6年9月～11月の合計数）

受け付けたリフィル処方箋を発行した医療機関数は「1 機関」が過半となっており、平均で 1.8 機関であった。

図表 4-37 受け付けたリフィル処方箋を発行した医療機関数

（単位：機関）

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	242	1.8	1.1	1

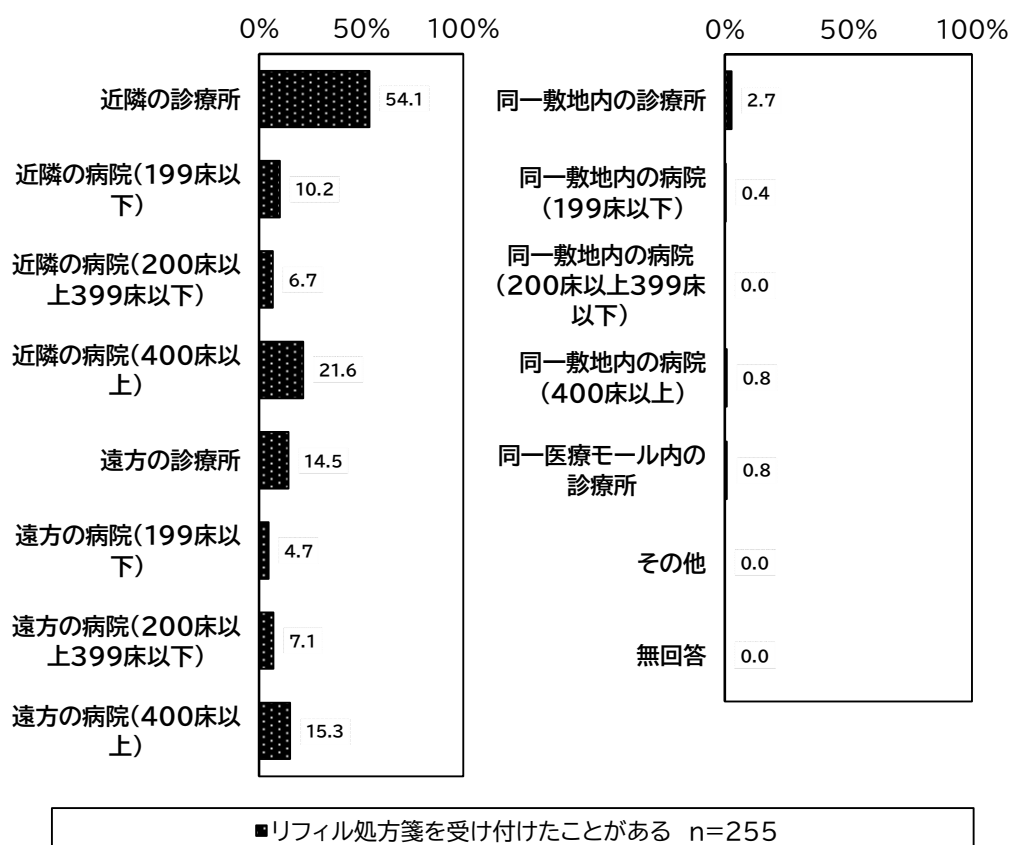


■受け付けたリフィル処方箋を発行した医療機関数(令和6年9月～11月の合計数)

(2) どのような関係の医療機関からリフィル処方箋を受け付けたか

どのような関係の医療機関からリフィル処方箋を受け付けたかについては、「近隣の診療所」が最も多く 54.1%、次いで「近隣の病院（400 床以上）」が 21.6%であった。

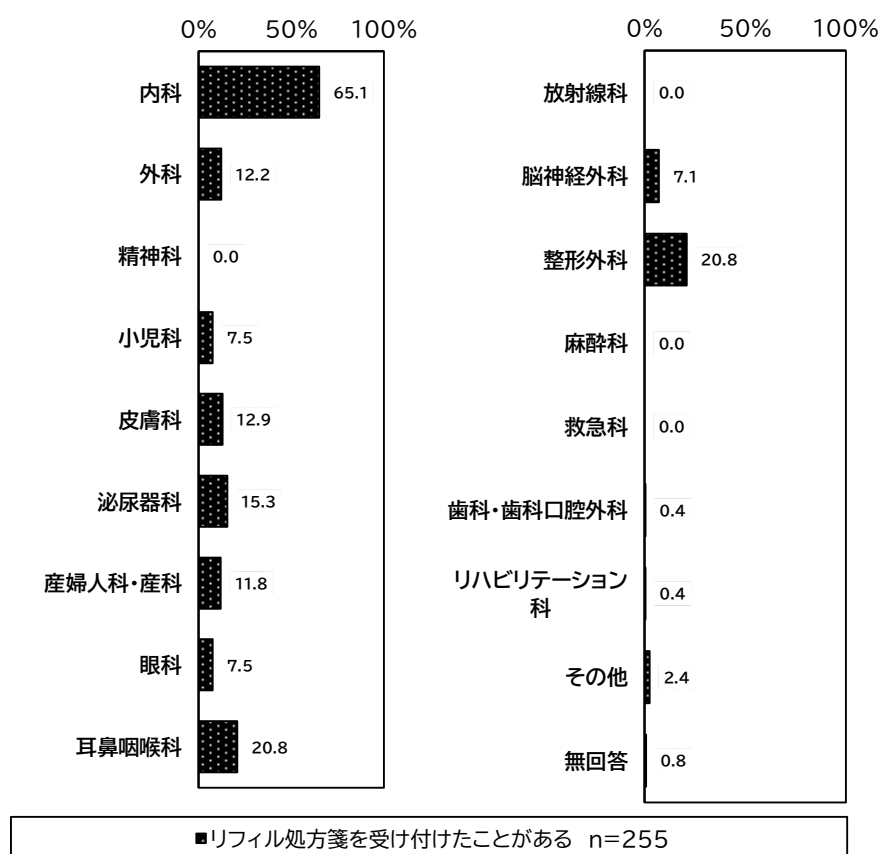
図表 4-38 どのような関係の医療機関からリフィル処方箋を受け付けたか（複数回答）



(3) どの診療科のリフィル処方箋を受け付けたか

どの診療科のリフィル処方箋を受け付けたかについては、「内科」が最も多く 65.1%、次いで「耳鼻咽喉科」と「整形外科」がそれぞれ 20.8%であった。

図表 4-39 どの診療科のリフィル処方箋を受け付けたか(複数回答)



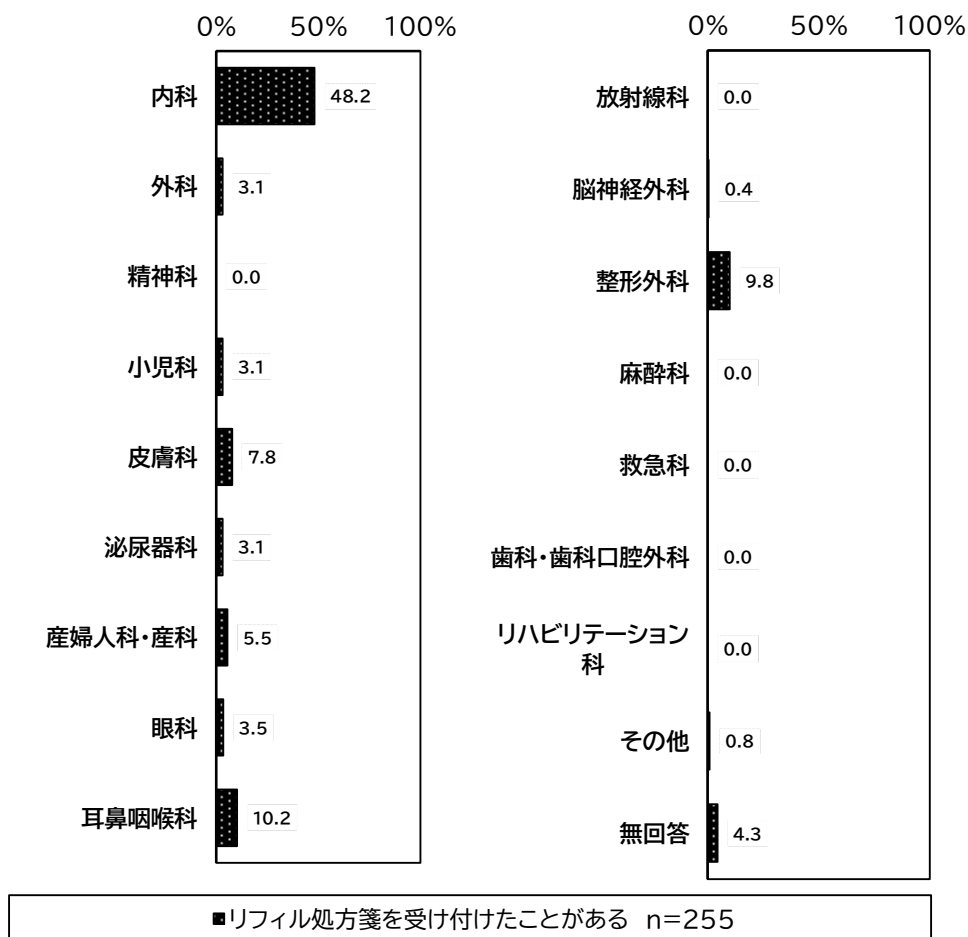
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・リウマチ科
- ・和漢診療科 など

(4) 最も多くリフィル処方箋を受け付けた診療科

最も多くリフィル処方箋を受け付けた診療科については、「内科」が最も多く 48.2%、次いで「耳鼻咽喉科」が 10.2%であった。

図表 4-40 最も多くリフィル処方箋を受け付けた診療科



(5) リフィル処方箋の受付件数

① 1回目(令和6年9月～11月の合計)

リフィル処方箋の受付件数(1回目)は平均14.3回であった。

図表 4-41 リフィル処方箋の受付件数(1回目)
(令和6年9月～11月の合計)

(単位:回)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	216	14.3	20.2	8

② 2回目(令和6年9月～11月の合計)

リフィル処方箋の受付件数(2回目)は平均10.9回であった。

図表 4-42 リフィル処方箋の受付件数(2回目)
(令和6年9月～11月の合計)

(単位:回)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	209	10.9	15.1	5

③ 3回目(令和6年9月～11月の合計)

リフィル処方箋の受付件数(3回目)は平均3.4回であった。

図表 4-43 リフィル処方箋の受付件数(3回目)
(令和6年9月～11月の合計)

(単位:回)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	181	3.4	5.1	1

- (6) リフィル処方箋の総使用件数の調剤が終わった枚数
 (自局で調剤済みの処方箋を保管している枚数) (令和6年9月～11月の合計)

リフィル処方箋の総使用件数の調剤が終わった枚数は平均 11.7 枚であった。

図表 4-44 リフィル処方箋の総使用件数の調剤が終わった枚数
 (自局で調剤済みの処方箋を保管している枚数) (令和6年9月～11月の合計)

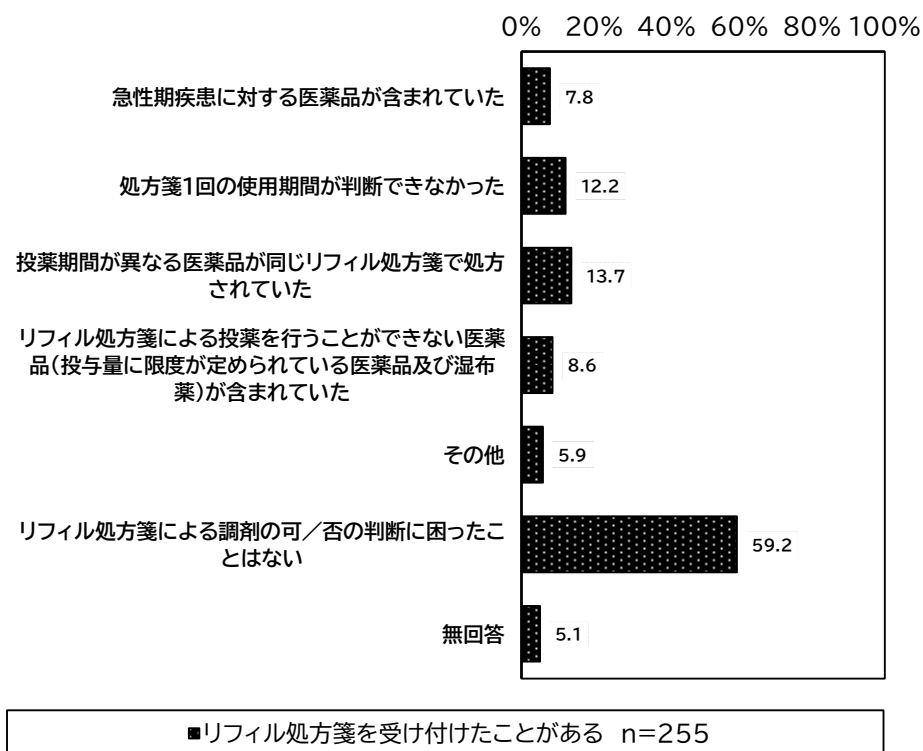
(単位：枚)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	226	11.7	18.0	6

(7) リフィル処方箋による調剤可否の判断に困った理由

リフィル処方箋による調剤可否の判断に困った理由については、「リフィル処方箋による調剤の可否の判断に迷ったことはない」が最も多く 59.2%、次いで「投薬期間が異なる医薬品が同じリフィル処方箋で処方されていた」が 13.7%であった。

図表 4-45 リフィル処方箋による調剤可否の判断に困った理由（複数回答）



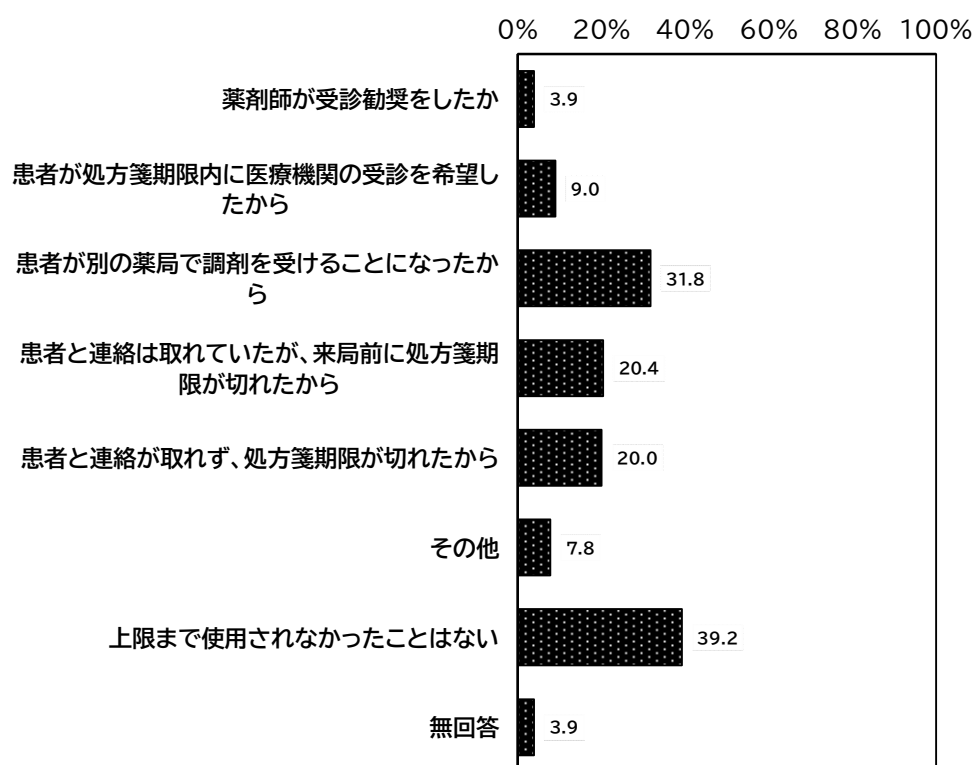
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・リフィルに一般処方が重なり入力が大変だった
- ・リフィル処方箋である記載が小さく見逃しやすい
- ・外用薬の処方日数の記載が漏れる
- ・処方箋の紛失
- ・残薬調整 など

(8) リフィルの上限まで使用されなかった理由

リフィルの上限まで使用されなかった理由については、「上限まで使用されなかったことはない」が39.2%で最も多く、次いで「患者が別の薬局で調剤を受けることになったから」が31.8%であった。

図表 4-46 リフィルの上限まで使用されなかった理由（複数回答）



■リフィル処方箋を受け付けたことがある n=255

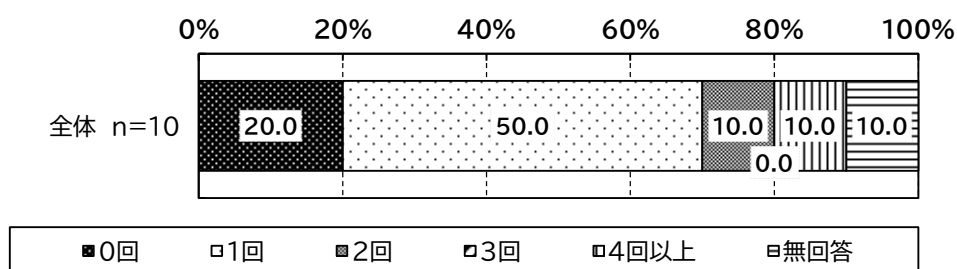
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・患者の処方箋の紛失
- ・残薬があったため
- ・医師によるリフィル処方中止
- ・患者の病状が回復したため など

(9) 薬剤師が受診勧奨をした回数（令和6年9月～11月）

薬剤師が受診勧奨をした回数は、全体で平均 1.4 回、2 回目調剤時で平均 0.7 回、3 回目調剤時で平均 0.8 回、調剤時以外では 0 回であった。

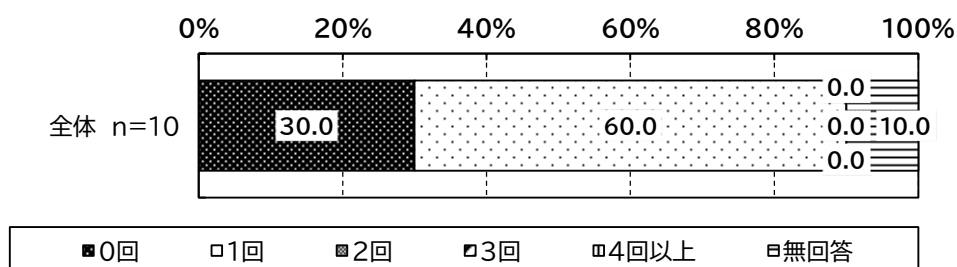
図表 4-47 薬剤師が受診勧奨をした回数（令和6年9月～11月）全体
（薬剤師が受診勧奨をした場合）



(単位：回)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	9	1.4	1.7	1

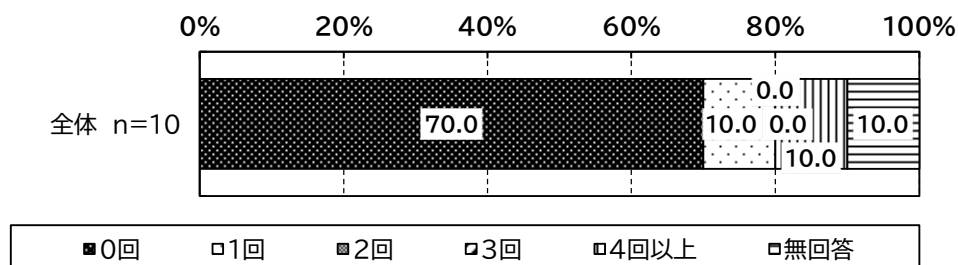
図表 4-48 薬剤師が受診勧奨をした回数（令和6年9月～11月）うち、2 回目調剤時
（薬剤師が受診勧奨をした場合）



(単位：回)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	9	0.7	0.5	1

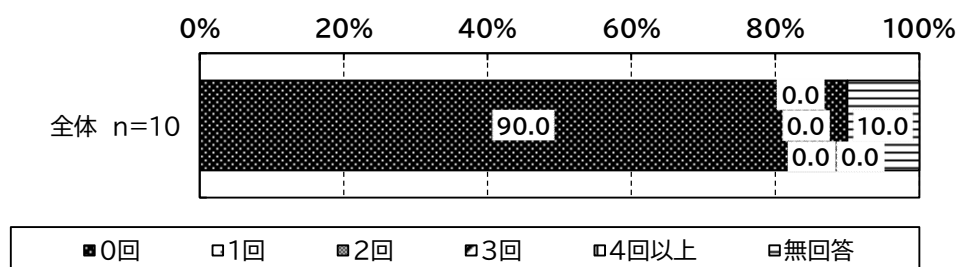
図表 4-49 薬剤師が受診勧奨をした回数（令和6年9月～11月）うち、3回目調剤時（薬剤師が受診勧奨をした場合）



(単位：回)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	9	0.8	1.9	0

図表 4-50 薬剤師が受診勧奨をした回数（令和6年9月～11月）うち、調剤時以外（薬剤師が受診勧奨をした場合）



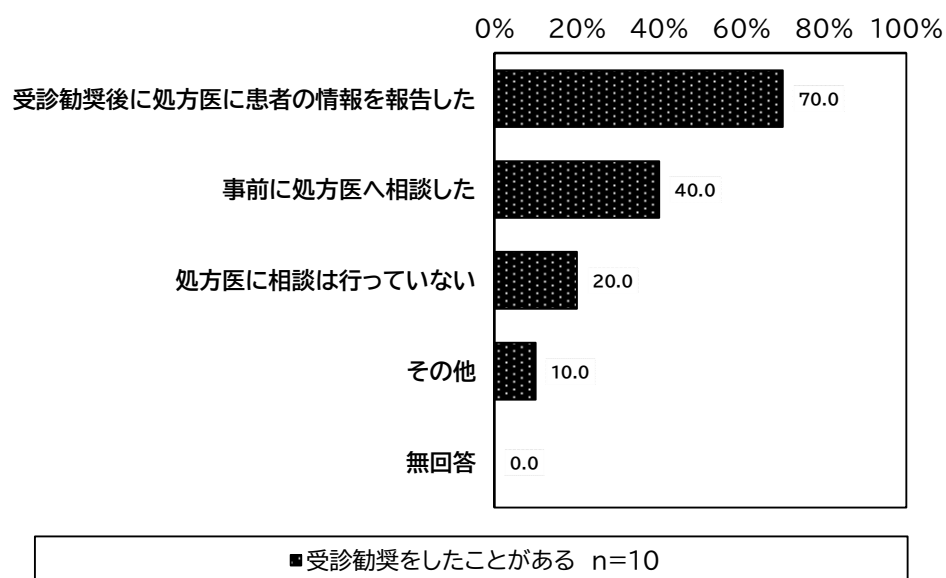
(単位：回)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	9	0.0	0.0	0

(10) 受診勧奨を判断し、説明する際の処方医への相談状況

受診勧奨を判断し、説明する際の処方医への相談状況については、受診勧奨後に処方医に患者の情報を報告したが 70.0%で最も多かった。

図表 4-51 受診勧奨を判断し、説明する際の処方医への相談状況（複数回答）
（薬剤師が受診勧奨をした場合）



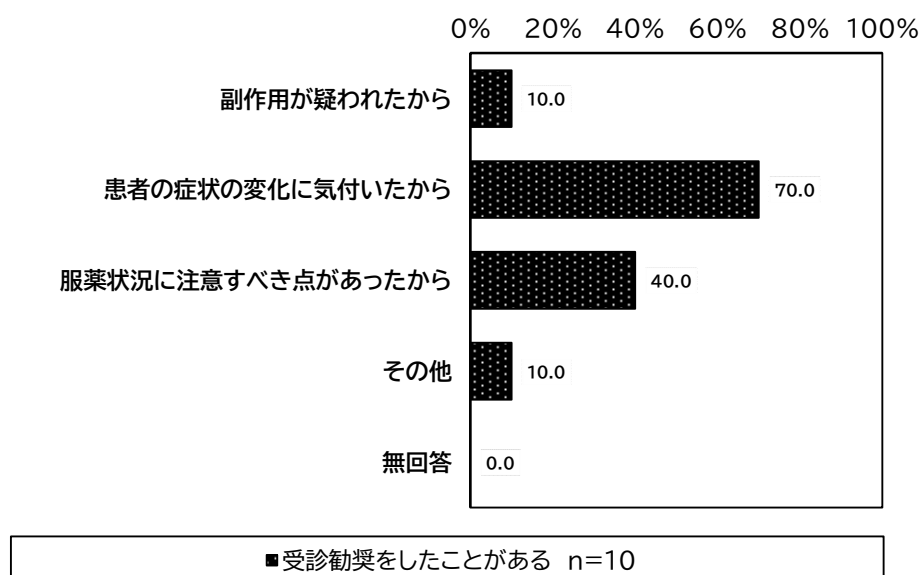
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・患者の処方箋の紛失

(11) 薬剤師が受診勧奨をした理由

薬剤師が受診勧奨をした理由は、「患者の症状の変化に気付いたから」が70.0%で最も多く、次いで「服薬状況に注意すべき点があったから」が40.0%であった。

図表 4-52 薬剤師が受診勧奨をした理由（複数回答）
（薬剤師が受診勧奨をした場合）



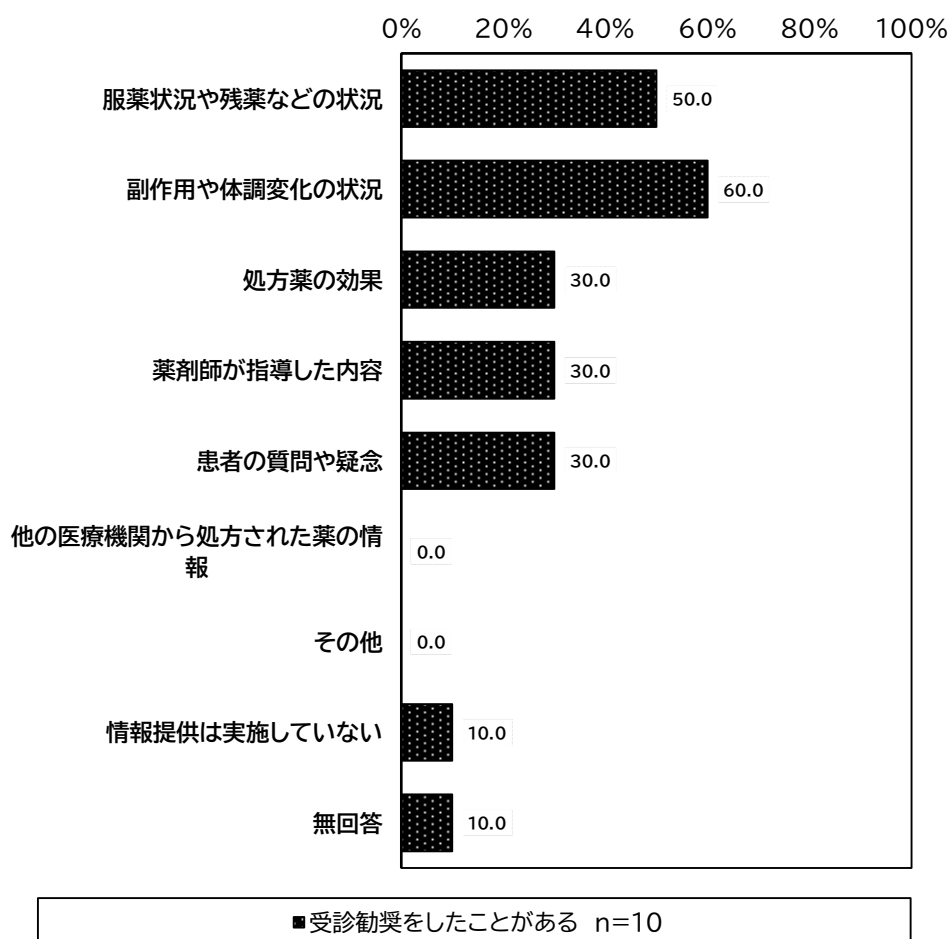
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・患者から病状の相談を受けたため
- ・患者がリフィル処方を希望しなかったため など

(12) 医師への情報提供内容

医師への情報提供内容については、「副作用や体調変化の状況」が60.0%で最も多く、次いで「服薬状況や残薬などの状況」が50.0%であった。

図表 4-53 医師への情報提供内容（複数回答）
（薬剤師が受診勧奨をした場合）



(13) 服薬情報等提供料に係る業務の件数(令和6年9月～11月の合計)

服薬情報等提供料1により算定した回数は平均1.6回、服薬情報等提供料2の口により算定した回数は平均2.5回、服薬情報等提供料を算定しない情報提供の回数は平均2.2回であった。

図表 4-54 服薬情報等提供料に係る業務の件数(令和6年9月～11月の合計) :
服薬情報等提供料1により算定した回数(回)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	191	1.6	6.9	0

図表 4-55 服薬情報等提供料に係る業務の件数(令和6年9月～11月の合計) :
服薬情報等提供料2の口により算定した回数(回)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	181	2.5	5.6	0

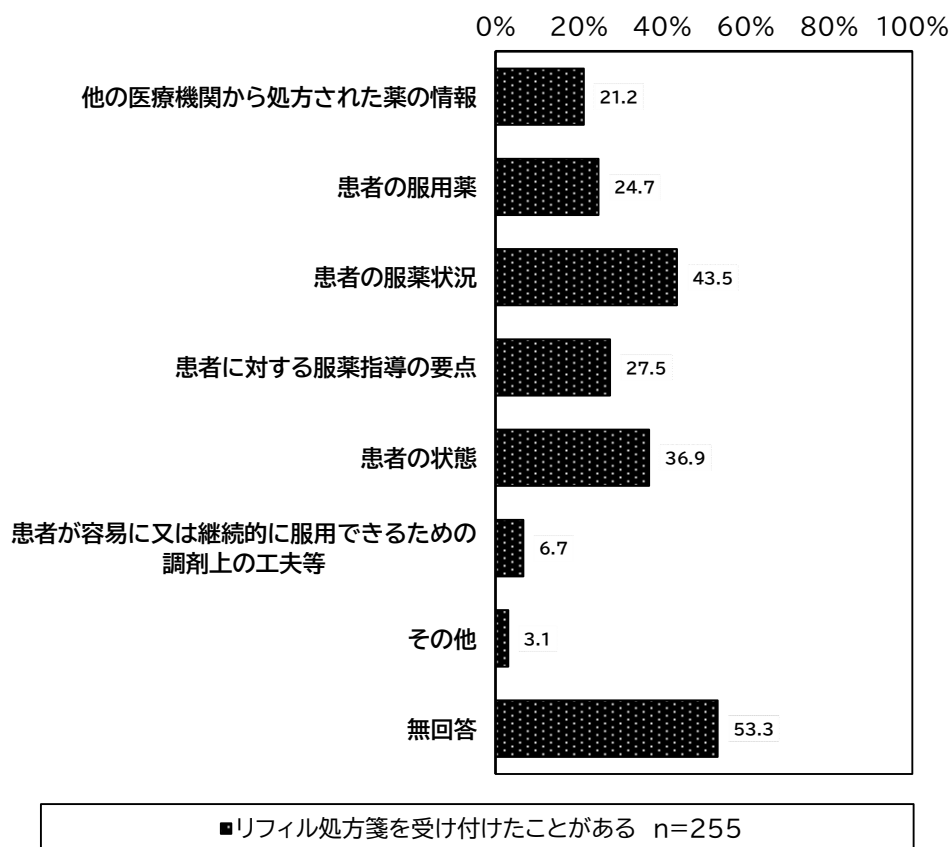
図表 4-56 服薬情報等提供料に係る業務の件数(令和6年9月～11月の合計) :
服薬情報等提供料を算定しない情報提供の回数(回)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	177	2.2	5.7	0

(14) 医師に服薬指導提供書（トレーシングレポート）を提供した情報の内容

医師に服薬指導提供書（トレーシングレポート）を提供した情報の内容は、「患者の服薬状況」が43.5%で最も多く、次いで「患者の状態」が36.9%であった。

図表 4-57 医師に服薬指導提供書（トレーシングレポート）を提供した情報の内容
（複数回答）



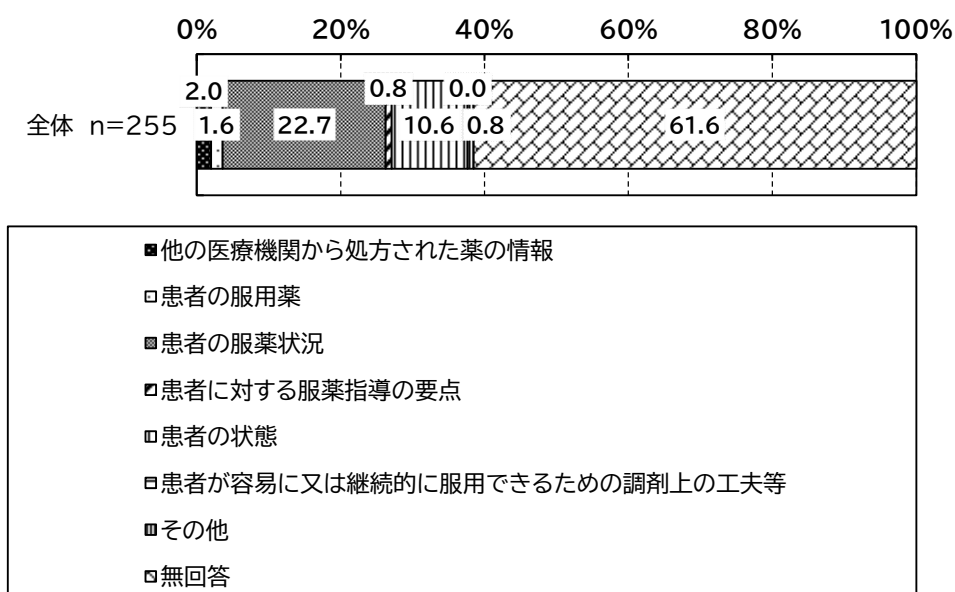
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・リフィル処方制度への理解度
- ・トレーシングレポートを出していない など

① 医師に服薬指導提供書（トレーシングレポート）を提供した情報の内容（最も多いもの）

医師に服薬指導提供書（トレーシングレポート）を提供した情報の内容（最も多いもの）は、「患者の服薬状況」が22.7%で最も多かった。

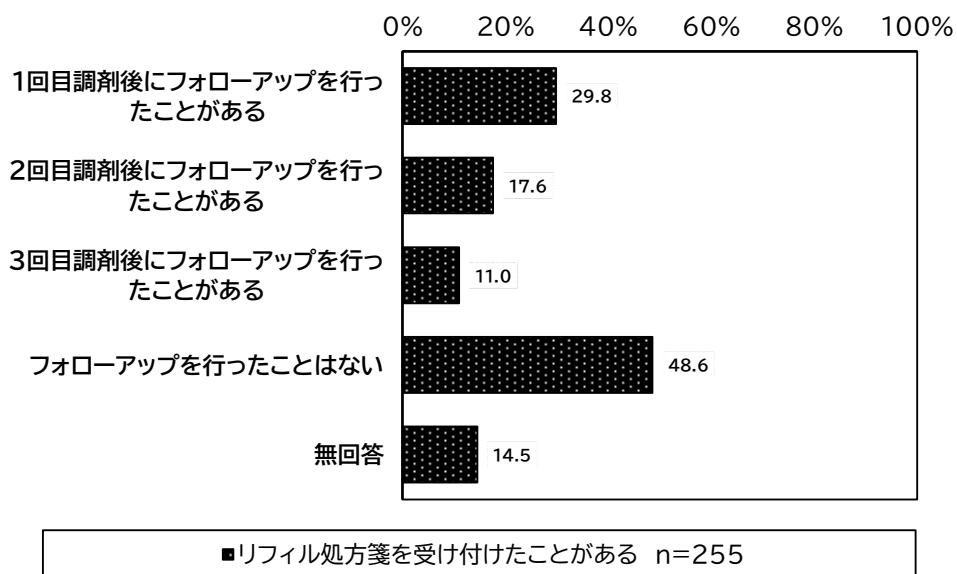
図表 4-58 医師に服薬指導提供書（トレーシングレポート）を提供した情報の内容（最も多いもの）



② リフィル処方箋の患者へのフォローアップの有無

リフィル処方箋の患者へのフォローアップについては、「フォローアップを行ったことはない」が48.6%で最も多く、次いで「1回目調剤後にフォローアップを行ったことがある」が29.8%であり、2回目以後その割合は漸減した。

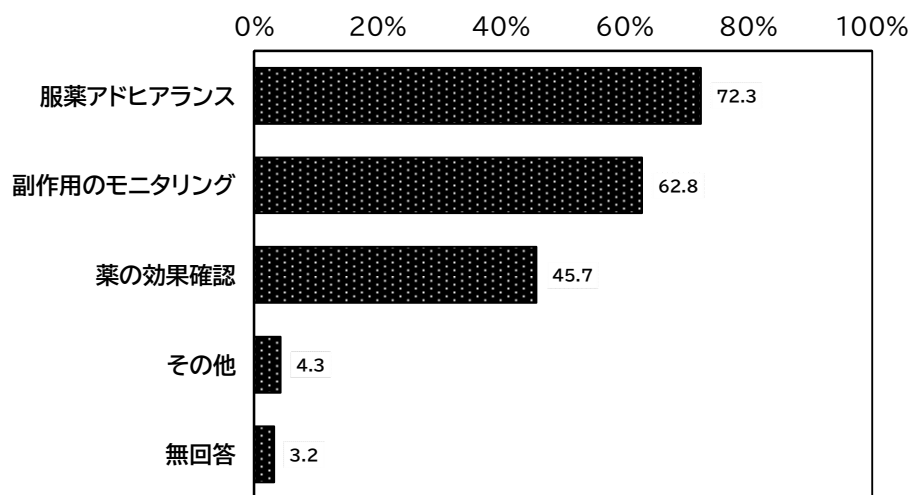
図表 4-59 患者へのフォローアップの有無



③ 実施したフォローアップの内容

「1回目調剤後にフォローアップを行ったことがある」、「2回目調剤後にフォローアップを行ったことがある」、「3回目調剤後にフォローアップを行ったことがある」のうち1つ以上選択した薬局について、実施したフォローアップの内容は、「服薬アドヒアランス」が72.3%で最も多く、次いで「副作用のモニタリング」が62.8%であった。

図表 4-60 実施したフォローアップの内容（複数回答）



■ (受け付けたことがあって)「フォローアップをしたことがある」 n=94

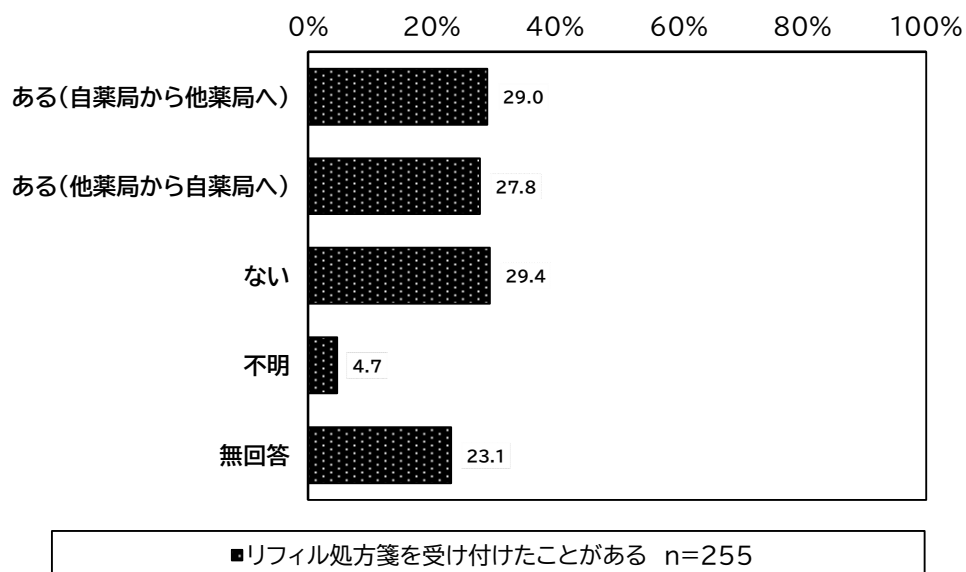
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・リフィル処方箋についての患者指導
- ・先発医薬品と後発医薬品の使用感のヒアリング
- ・次回投薬日、処方日の確認
- ・期限内に処方薬を受け取ったかの確認 など

(15) 1 枚のリフィル処方箋の処方途中で薬局が変わった経験

1 枚のリフィル処方箋の処方途中で薬局が変わった経験については、「ある（自薬局から他薬局へ）」が 29.0%、「ある（他薬局から自薬局へ）」が 27.8%、「ない」が 29.4%と、いずれも同程度であった。

図表 4-61 1 枚のリフィル処方箋の処方途中で薬局が変わった経験（複数回答）



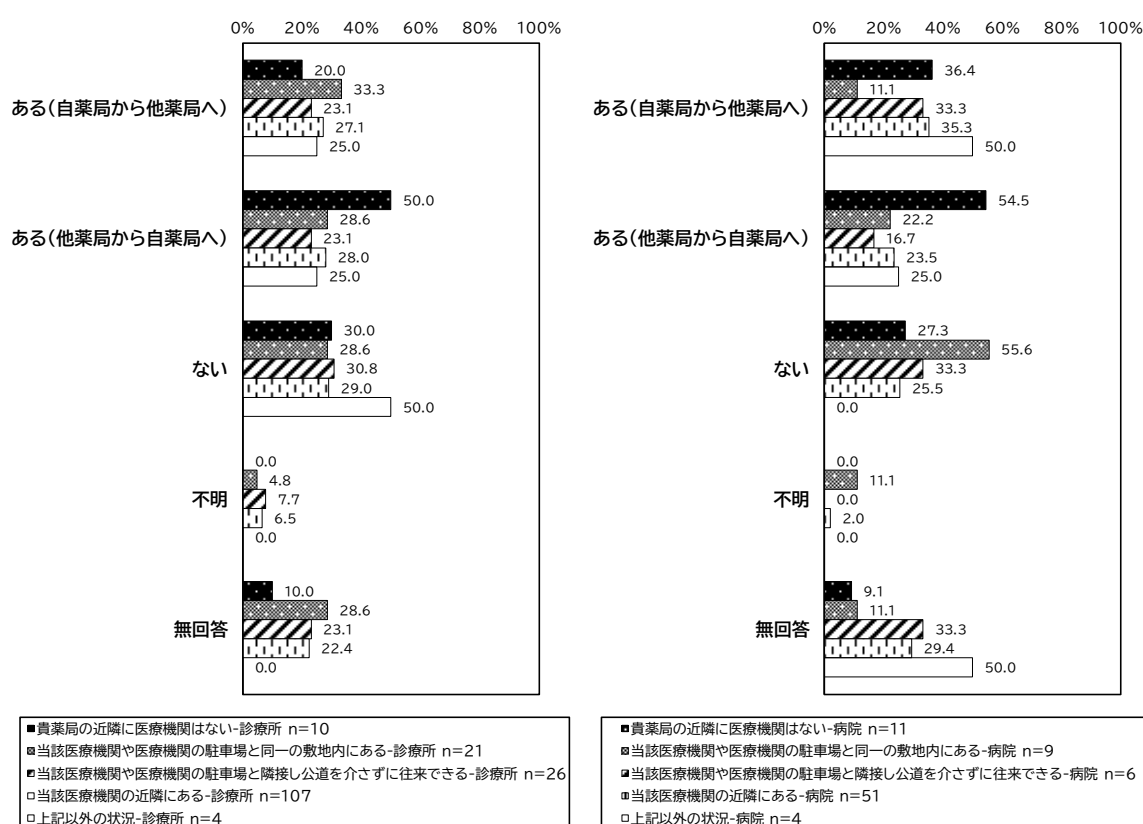
なお、1枚のリフィル処方箋の処方途中で薬局が変わった経験について、集中率が最も高い医療機関と薬局の位置関係別にみると、薬局が集中率の最も高い診療所の近隣にある場合では、「ある（自薬局から他薬局へ）」が27.1%であった。また、薬局が集中率の最も高い病院の近隣にある場合では、「ある（自薬局から他薬局へ）」が23.5%であった。

即ち、病院や診療所の近隣にある薬局のうち約2～3割程度は、リフィル処方箋の途中で自薬局から他の薬局（地域の薬局等）へ薬局が変わった経験を有していた。

図表 4-62 1枚のリフィル処方箋の処方途中で薬局が変わった経験（複数回答）

（集中率が最も高い医療機関と薬局の位置関係別）

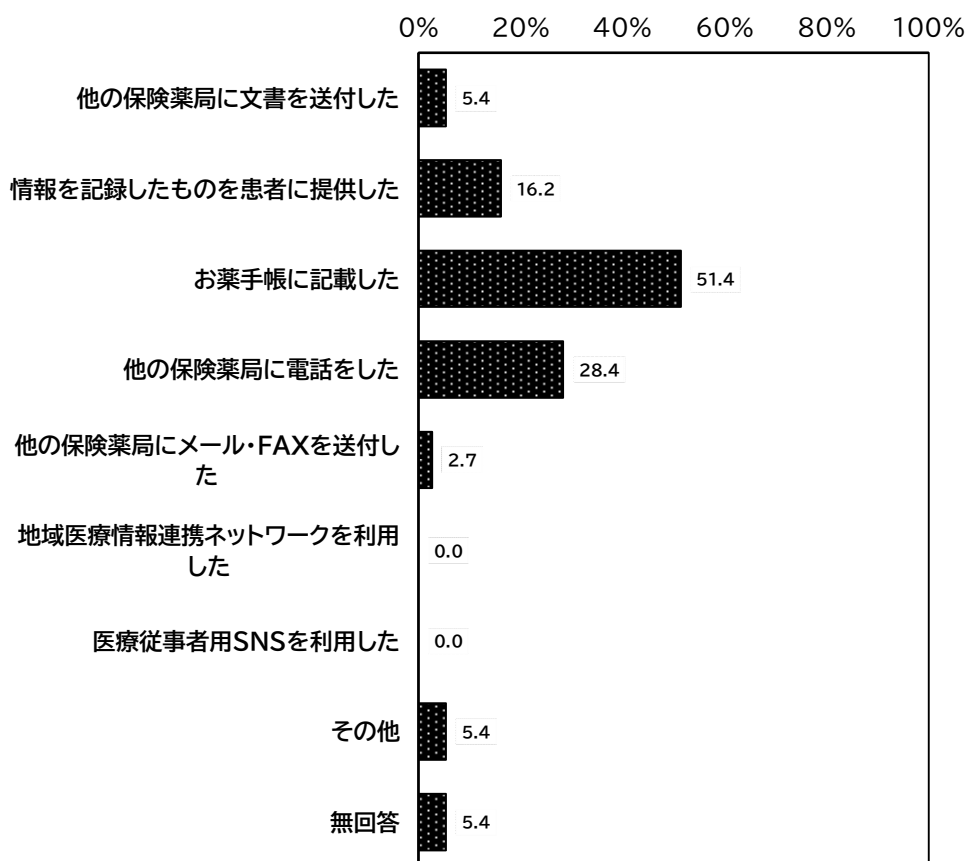
【集中率が最も高い医療機関 左図：診療所 右図：病院】



① 他薬局へ情報提供を行った方法

他薬局へ情報提供を行った方法については、「お薬手帳に記載した」が51.4%で最も多く、次いで「他の保険薬局に電話をした」が28.4%であった。

図表 4-63 他薬局へ情報提供を行った方法（複数回答）



■1枚のリフィル処方箋の処方途中で薬局が変わった経験がある n=74

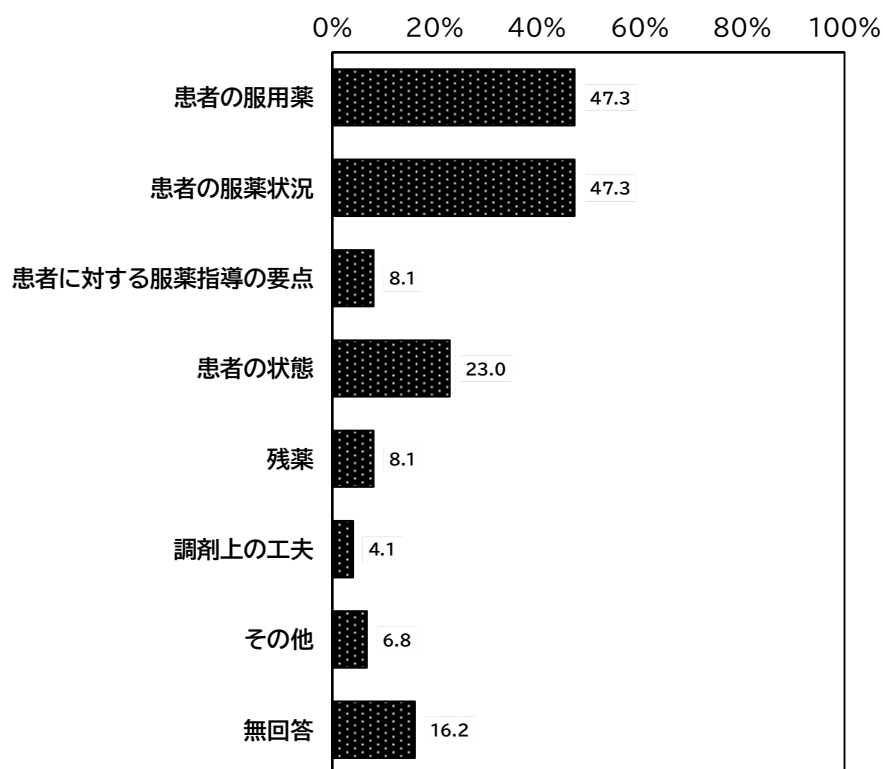
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・後にお薬手帳から薬局の変更を知った
- ・患者から事前連絡なく薬局を変えられるため、他薬局への情報提供はできない
- ・行っていない など

② 情報提供した内容

情報提供した内容は、「患者の服用薬」と「患者の服薬状況」が最も多くそれぞれ47.3%、次いで「患者の状態」が23.0%であった。

図表 4-64 どのような内容を情報提供したか（複数回答）



■1枚のリフィル処方箋の処方の途中で薬局が変わった経験がある n=74

【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・疑義照会の結果
- ・患者の処方に対する理解度 など

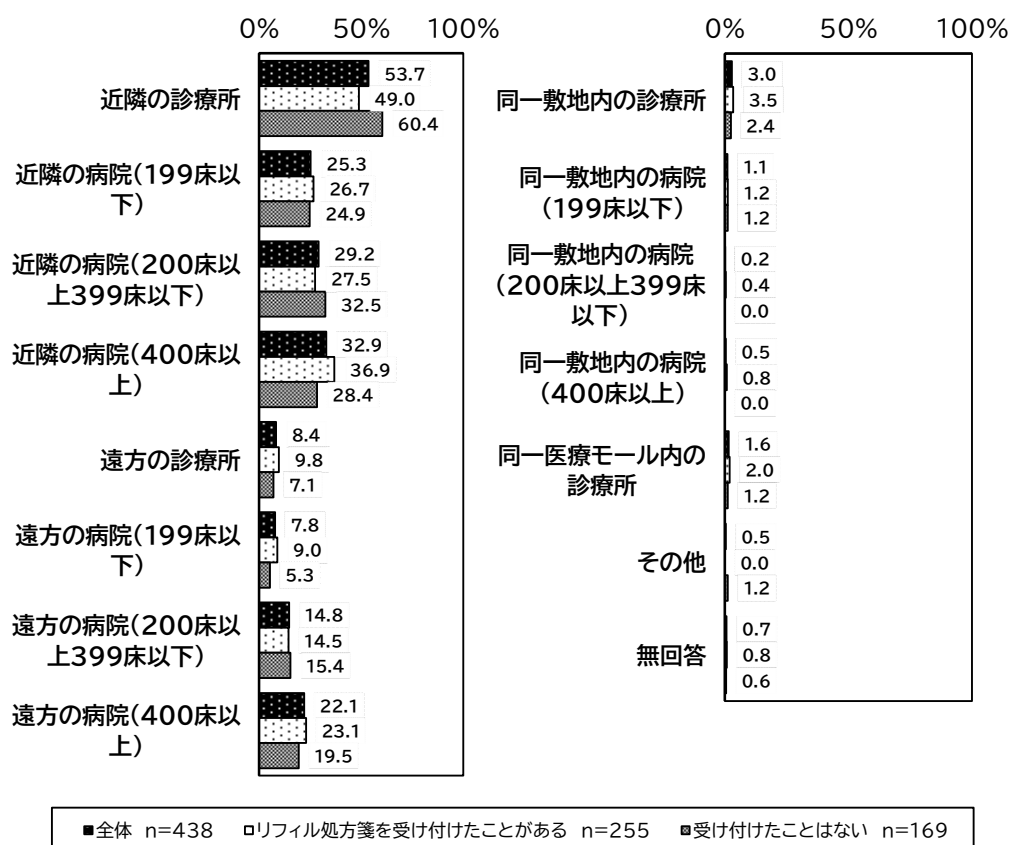
4) 長期処方※の対応状況について(令和6年9月～11月)

(1) 長期処方を応需する件数が多い医療機関

長期処方を応需する件数が多い医療機関は、リフィル処方箋の受付実績の有無に関わらず、「近隣の診療所」が最も多かった。

図表 4-65 長期処方を応需する件数が多い医療機関（複数回答）

（リフィル処方箋の受付実績有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

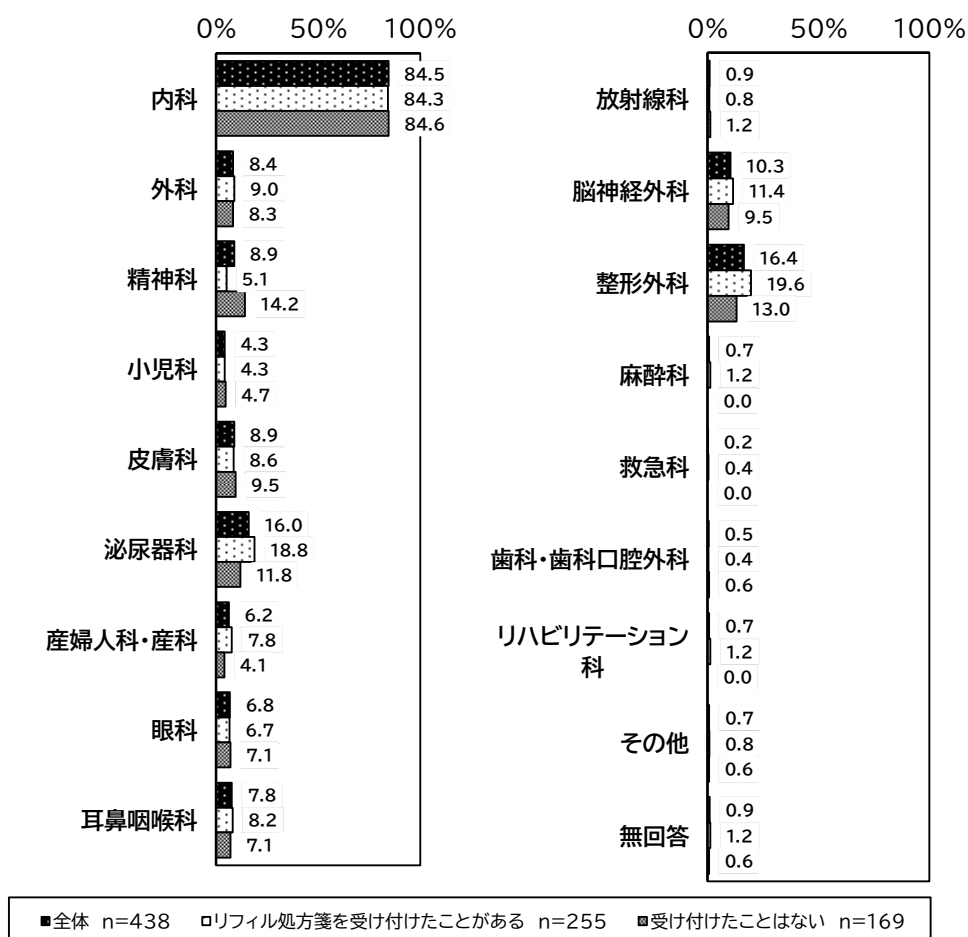
- ・近隣の大きい病院
- ・在宅診療からの要請 など

※ 長期処方とは 28 日以上処方（リフィルを除く）のことを指す。

(2) 長期処方に応需する件数が多い診療科

長期処方に応需する件数が多い診療科は、リフィル処方箋の受付実績の有無に関わらず、「内科」が最も多かった。

図表 4-66 長期処方に応需する件数が多い診療科
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



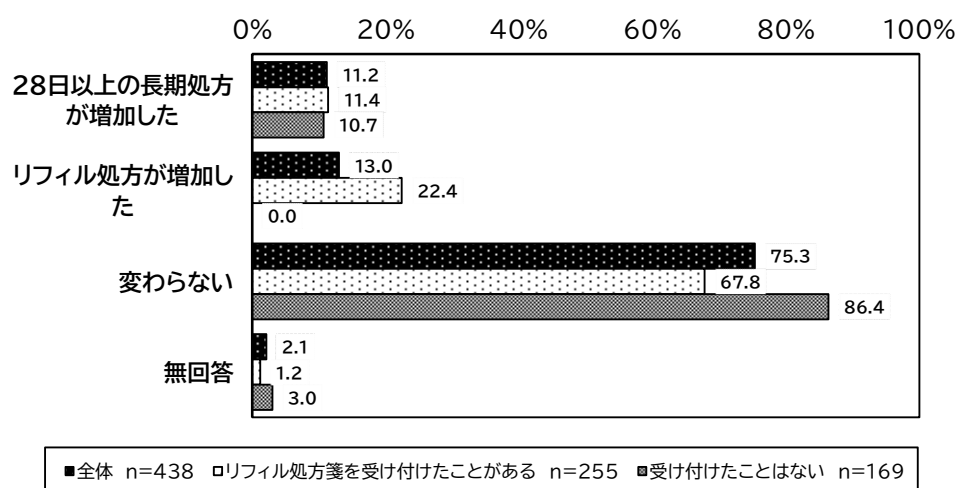
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・総合診療科
- ・膠原病科 など

(3) 改定前（令和6年5月以前）と比較して応需する処方箋の変化について

改定前（令和6年5月以前）と比較して応需する処方箋の変化については、リフィル処方箋の受付実績の有無に関わらず、「変わらない」が最も多かった。

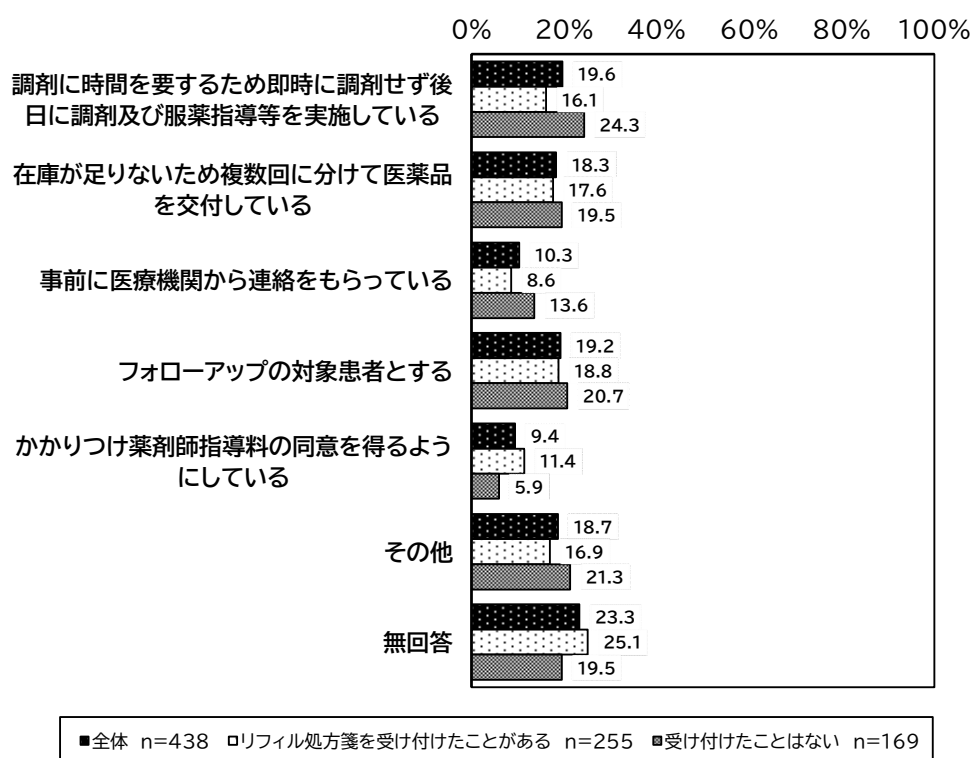
図表 4-67 改定前（令和6年5月以前）と比較して応需する処方箋の変化について
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



(4) 28 日以上の長期処方処方箋を応需する際に特に注視して実施していること

28 日以上長期処方処方箋を応需する際に特に注視して実施していることについては、リフィル処方箋を受け付けたことがある保険薬局では「フォローアップの対象患者とする」が最も多く 18.8%、リフィル処方箋を受け付けたことがない保険薬局では「調剤に時間を要するため即時に調剤せず後日に調剤及び服薬指導等を実施している」が最も多く 24.3%であった。

図表 4-68 28 日以上長期処方処方箋を応需する際に特に注視して実施していること（複数回答）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

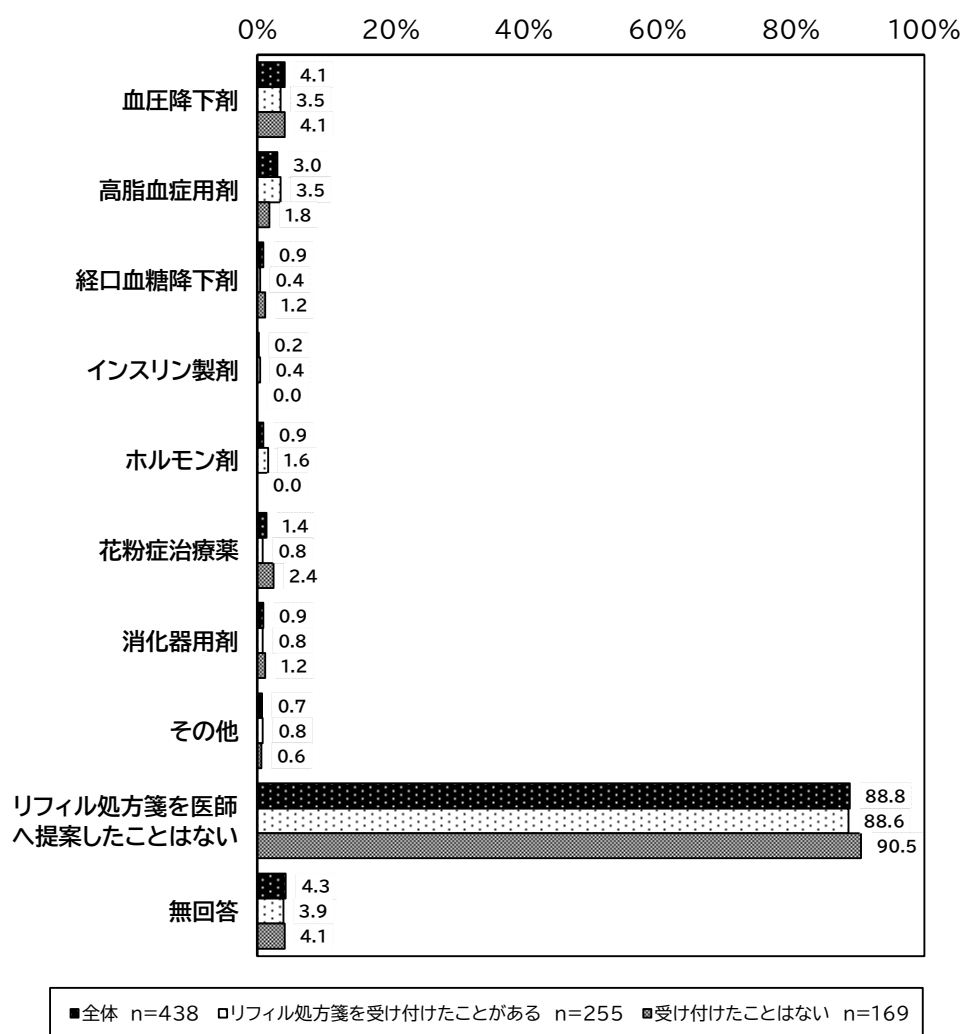
- ・処方薬の管理指導
- ・薬品の在庫管理
- ・次回受診日と残薬の確認
- ・体調の変化の確認
- ・服薬指導 など

5) リフィル処方箋の制度に対する相談体制や課題等について

(1) リフィル処方を医師へ提案したことのある薬剤の種類

リフィル処方を医師へ提案したことのある薬剤の種類については、リフィル処方箋の受付実績の有無にかかわらず「リフィル処方箋を医師に提案したことはない」が最も多かった。

図表 4-69 リフィル処方を医師へ提案したことのある薬剤の種類（複数回答）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



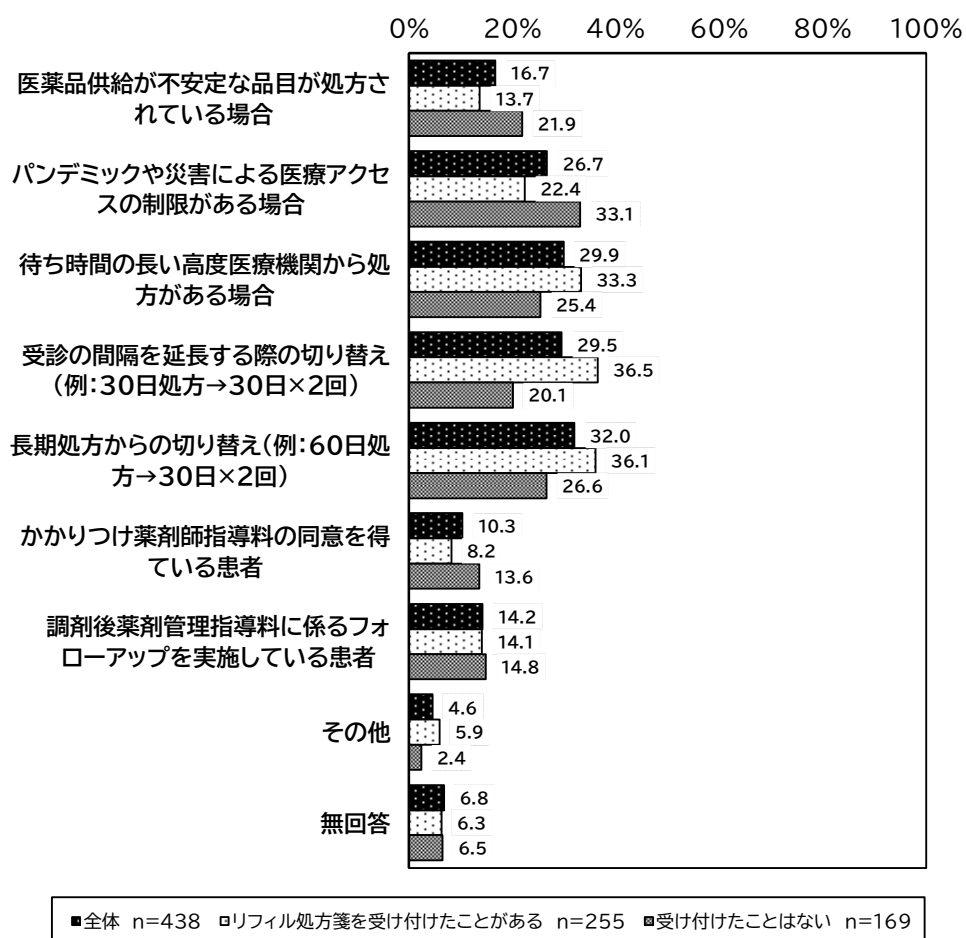
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・骨粗鬆症治療薬
- ・抗アレルギー剤
- ・便秘薬 など

(2) 薬剤師としてリフィル処方が適すると考える状況等

薬剤師としてリフィル処方が適すると考える状況等については、リフィル処方箋を受け付けたことがある保険薬局では「受診の間隔を延長する際の切り替え」が最も多く 36.5%、リフィル処方箋を受け付けたことがない保険薬局では「パンデミックや災害による医療アクセスの制限がある場合」が最も多く 33.1%であった。

図表 4-70 薬剤師としてリフィル処方が適すると考える状況等（複数回答）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



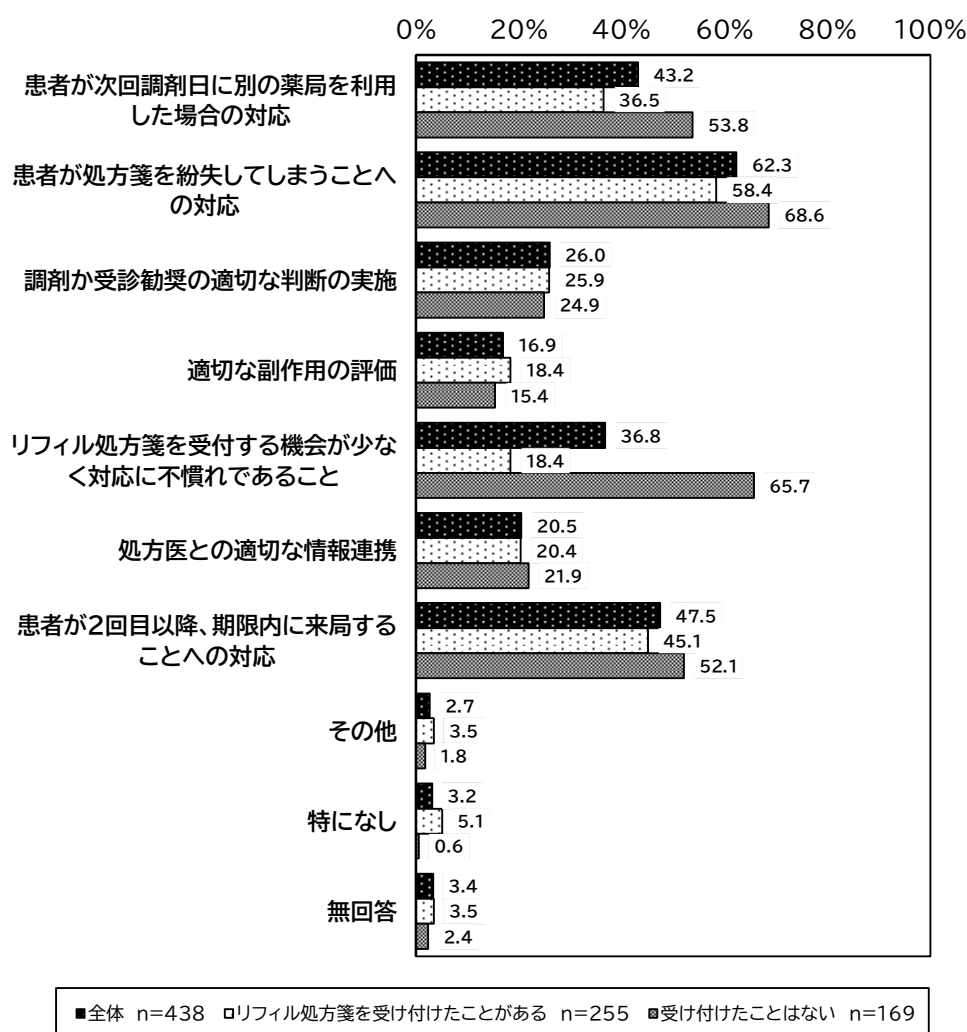
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・安定している患者
- ・医薬品の供給が安定している状況
- ・受診者数が多い医療機関 など

(3) 薬局でリフィル処方箋を受けるにあたっての課題

薬局でリフィル処方箋を受けるにあたっての課題については、リフィル処方箋を受け付けたことがある保険薬局では「患者が処方箋を紛失してしまうことへの対応」が最も多く58.4%、リフィル処方箋を受け付けたことがない保険薬局でも「患者が処方箋を紛失してしまうことへの対応」が最も多く68.6%であった。

図表 4-71 薬局でリフィル処方箋を受けるにあたって課題（複数回答）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



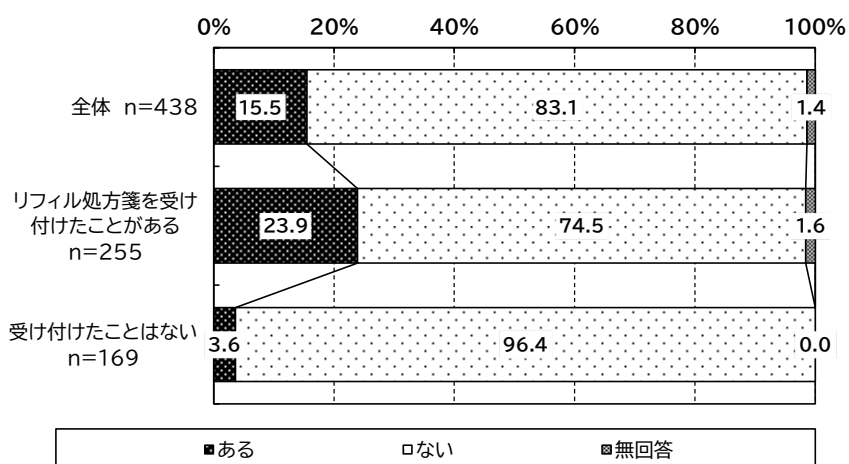
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・リフィル処方であることが目立たず、見逃してしまう
- ・薬品の確保
- ・医師へのリフィル処方の周知（患者は希望しても医師が断る）
- ・患者が処方箋の期限に気づかない など

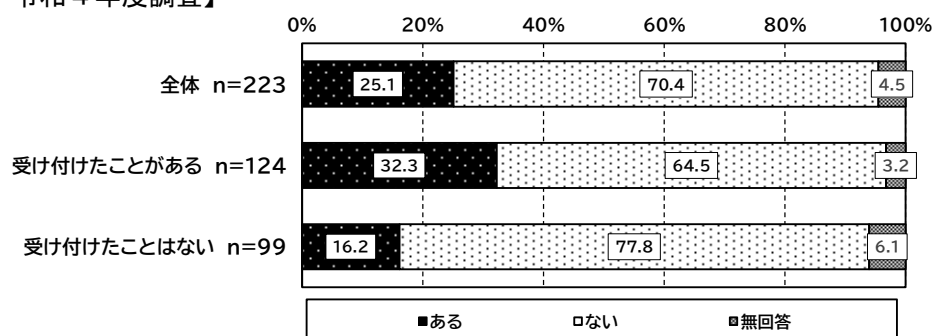
(4) 患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験

患者からリフィル処方箋に関する相談を受けた経験については、「ある」と回答した割合が、リフィル処方箋を受け付けたことがある保険薬局では23.9%、リフィル処方箋を受け付けたことがない保険薬局では3.6%であった。

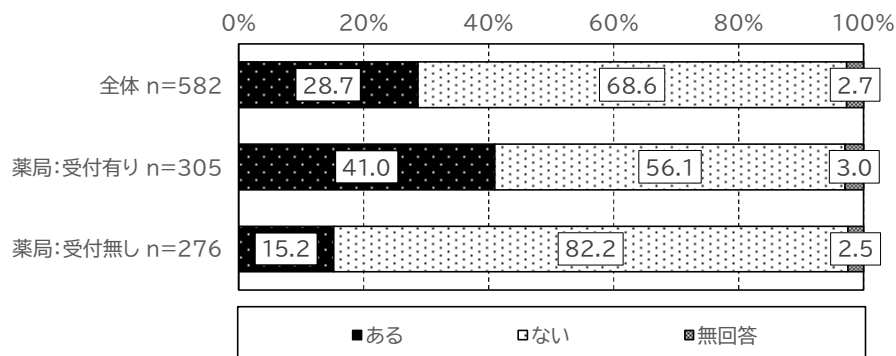
図表 4-72 患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



【参考：令和4年度調査】



【参考：令和5年度調査】



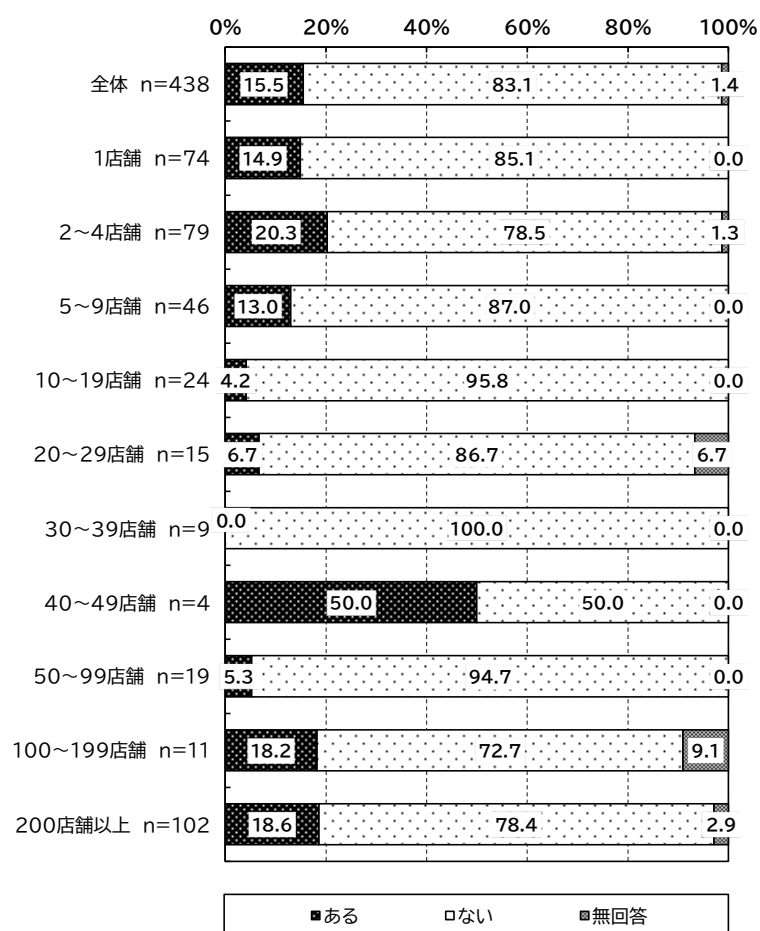
【参考：経年変化（同一グループ等による薬局店舗数別）】

		回答薬局数	ある	ない	無回答
全体	令和4年度	223	25.1%	70.4%	4.5%
	令和5年度	582	28.7%	68.6%	2.7%
	令和6年度	438	15.5%	83.1%	1.4%
1店舗	令和4年度	55	23.6%	70.9%	0.0%
	令和5年度	83	28.9%	67.5%	3.6%
	令和6年度	74	14.9%	85.1%	0.0%
2～4店舗	令和4年度	57	26.3%	71.9%	0.0%
	令和5年度	96	24.0%	71.9%	4.2%
	令和6年度	79	20.3%	78.5%	1.3%
5～9店舗	令和4年度	24	20.8%	75.0%	0.0%
	令和5年度	59	28.8%	71.2%	0.0%
	令和6年度	46	13.0%	87.0%	0.0%
10～19店舗	令和4年度	8	25.0%	62.5%	0.0%
	令和5年度	27	25.9%	74.1%	0.0%
	令和6年度	24	4.2%	95.8%	0.0%
20～29店舗	令和4年度	10	20.0%	70.0%	0.0%
	令和5年度	28	25.0%	75.0%	0.0%
	令和6年度	15	6.7%	86.7%	6.7%
30～39店舗	令和4年度	4	50.0%	50.0%	0.0%
	令和5年度	17	29.4%	64.7%	5.9%
	令和6年度	9	0.0%	100.0%	0.0%
40～49店舗	令和4年度	1	—	—	—
	令和5年度	9	11.1%	88.9%	0.0%
	令和6年度	4	50.0%	50.0%	0.0%
50～99店舗	令和4年度	8	37.5%	62.5%	0.0%
	令和5年度	22	22.7%	68.2%	9.1%
	令和6年度	19	5.3%	94.7%	0.0%
100～199店舗	令和4年度	6	16.7%	66.7%	0.0%
	令和5年度	19	47.4%	52.6%	0.0%
	令和6年度	11	18.2%	72.7%	9.1%
200店舗以上	令和4年度	29	27.6%	69.0%	0.0%
	令和5年度	170	32.9%	65.9%	1.2%
	令和6年度	102	18.6%	78.4%	2.9%

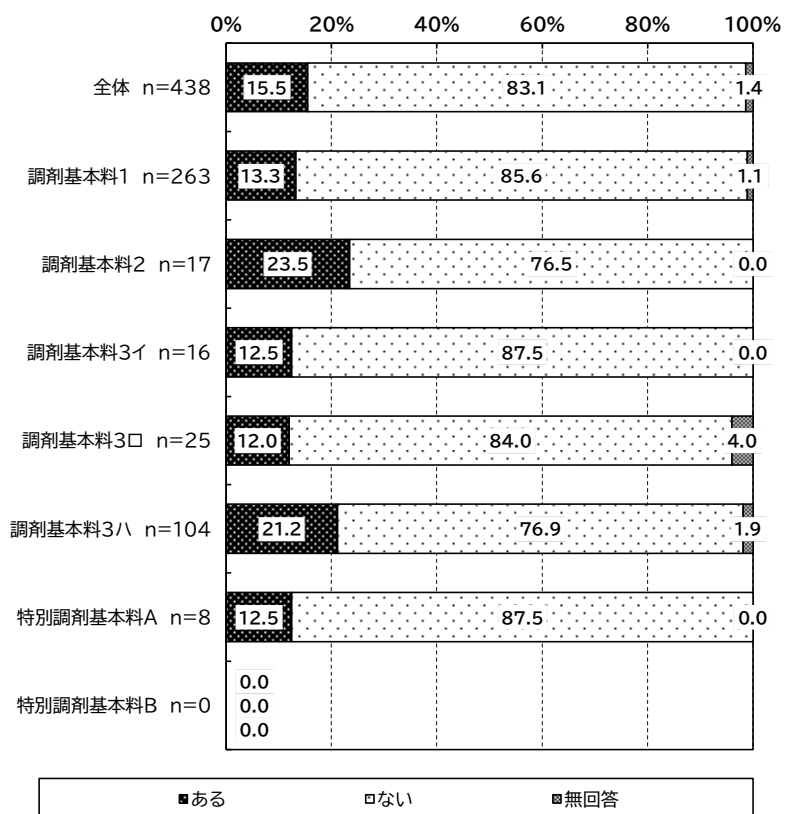
【参考：経年変化（調剤基本料別）】

		回答薬局数	ある	ない	無回答
全体	令和4年度	223	 25.1%	 70.4%	4.5%
	令和5年度	582	 28.7%	 68.6%	2.7%
	令和6年度	438	 15.5%	 83.1%	1.4%
調剤基本料1	令和4年度	164	 25.0%	 70.1%	0.0%
	令和5年度	345	 26.4%	 70.4%	3.2%
	令和6年度	263	 13.3%	 85.6%	1.1%
調剤基本料2	令和4年度	11	 9.1%	 90.9%	0.0%
	令和5年度	25	 36.0%	 64.0%	0.0%
	令和6年度	17	 23.5%	 76.5%	0.0%
調剤基本料3イ	令和4年度	9	 33.3%	 66.7%	0.0%
	令和5年度	26	 19.2%	 76.9%	3.8%
	令和6年度	16	 12.5%	 87.5%	0.0%
調剤基本料3ロ	令和4年度	9	 44.4%	 55.6%	0.0%
	令和5年度	45	 24.4%	 73.3%	2.2%
	令和6年度	25	 12.0%	 84.0%	4.0%
調査基本料3ハ	令和4年度	23	 26.1%	 69.6%	0.0%
	令和5年度	125	 35.2%	 62.4%	2.4%
	令和6年度	104	 21.2%	 76.9%	1.9%
特別調剤基本料	令和4年度	1	—	—	—
	令和5年度	2	 50.0%	 50.0%	0.0%
	令和6年度	8	 12.5%	 87.5%	0.0%

図表 4-73 患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験
(同一グループ等による薬局店舗別)



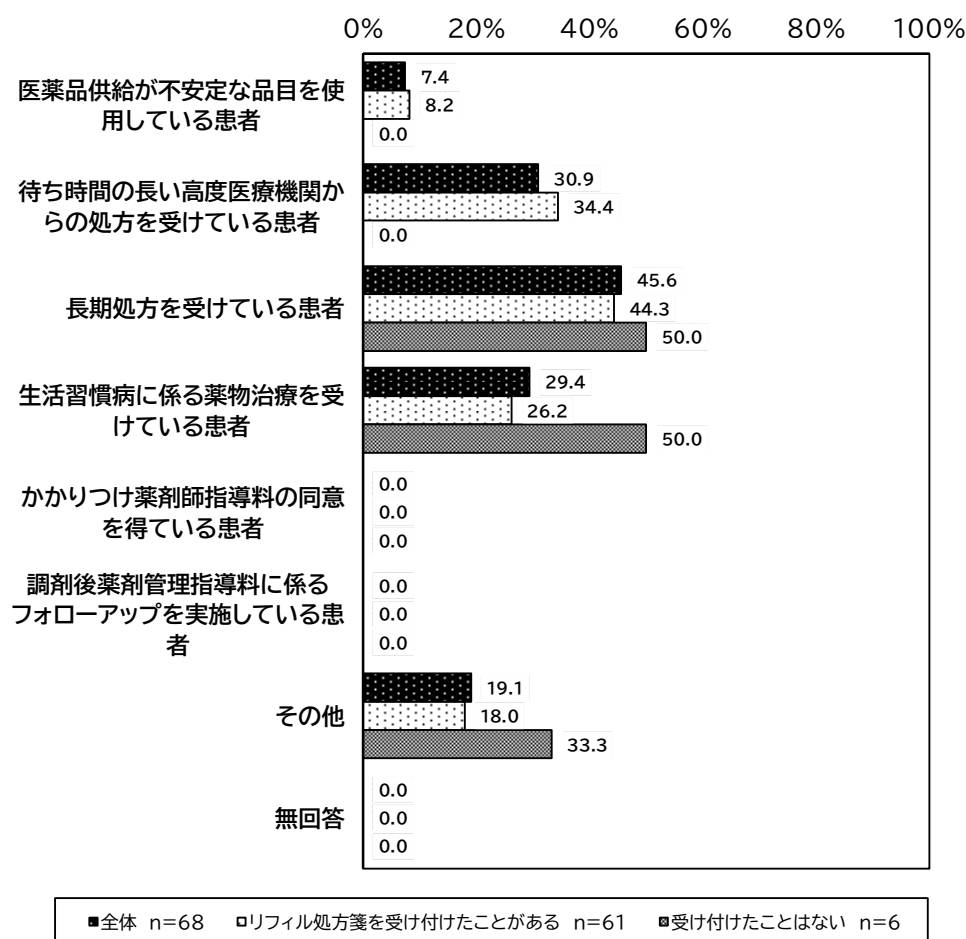
図表 4-74 患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験
(調剤基本料別)



(5) どのような患者からの相談であったか

どのような患者からの相談であったかについては、リフィル処方箋を受け付けたことがある保険薬局では「長期処方を受けている患者」が最も多く 44.3%であった。

図表 4-75 どのような患者からの相談であったか（複数回答）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



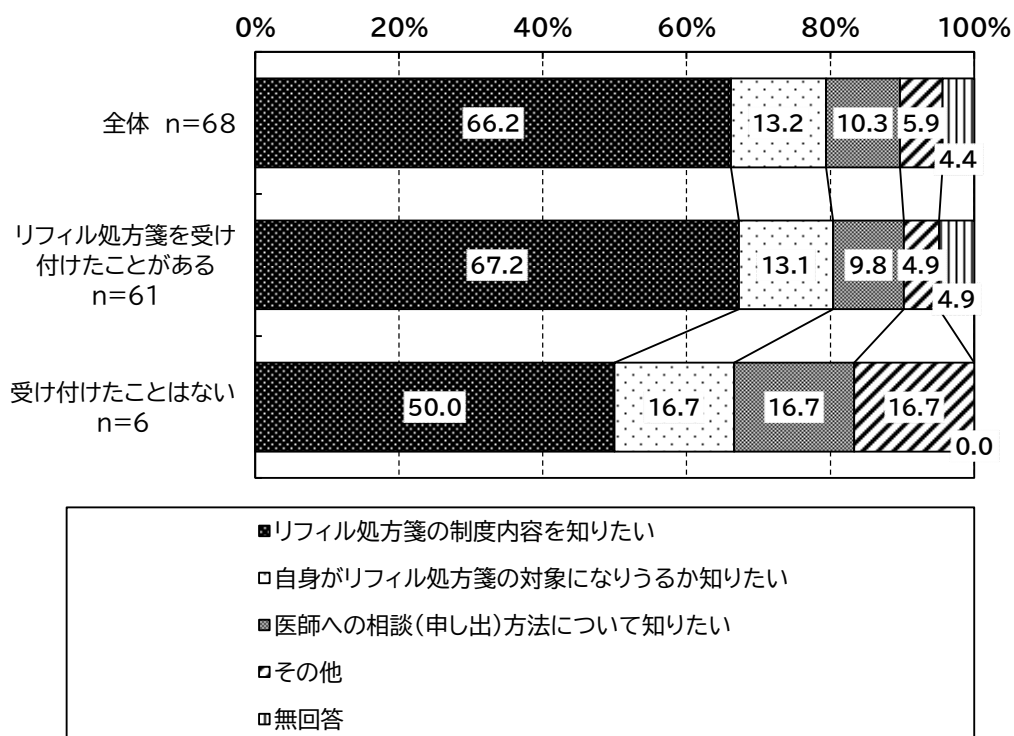
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・就労により受診を負担に感じている患者
- ・長期的に同じ処方薬をもらっている患者 など

(6) 受けた相談の内容

受けた相談の内容については、リフィル処方箋を受け付けたことがある医療機関、リフィル処方箋を受け付けたことがない医療機関ともに、「リフィル処方箋の制度内容を知りたい」が最も多く、それぞれ67.2%、50.0%であった。

図表 4-76 受けた相談の内容



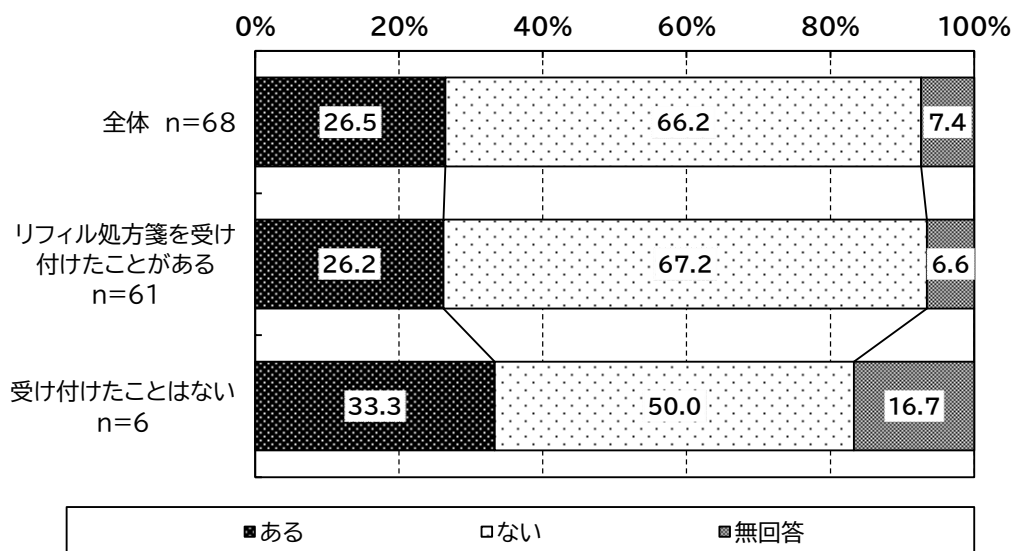
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・ 2回目の受付で処方日数の変更できるか
- ・ 期間延長の可否
- ・ 毎回同じ薬なのに診察が必要かどうか
- ・ リフィル処方で30日×2回ではなく、60日にできないのか など

(7) 患者がリフィル処方箋を希望していることを処方医へ情報提供したことがあるか

患者がリフィル処方箋を希望していることを処方医へ情報提供したことがあるかについては、「ある」と回答した割合が、リフィル処方箋を受け付けたことがある医療機関では26.2%、リフィル処方箋を受け付けたことがない医療機関では33.3%であった。

図表 4-77 患者がリフィル処方箋を希望していることを
処方医へ情報提供したことがあるか



5. 患者調査（郵送調査）

【調査対象等】

○調査票 患者票

調査対象：病院・診療所調査の対象施設の調査日に外来受診した患者、並びに、保険薬局調査の対象施設の調査日に来局した患者を調査対象とした。1施設につき2名を本調査の対象とした。

回 答 数：922 人

回 答 者：患者本人もしくは家族

なお、本調査事業では、患者調査については郵送調査とインターネット調査の2種類を実施している。それぞれ以下の点について特徴や違いがあり、結果の解釈には留意が必要である。

<調査方法・調査対象の違い>

- ・ 郵送調査は、病院・診療所調査の対象施設の調査日に外来した患者、並びに、保険薬局調査の対象施設の調査日に来局した患者を調査対象としている。性別や年齢階級での割り付けは行っていない。（最大で合計 6000 人を対象とし、922 人の回答を得た。）
- ・ 一方、インターネット調査は、直近 3 か月間で、保険薬局に処方箋を持って来局した患者を調査対象としている。性・年代（下記 20 区分）ごとに等分（150 人ずつ）とし、地域別の割合を人口推計（総務省「人口推計（2023 年（令和 4 年）10 月 1 日現在」）に比例配分する形とした。（3000 人の回答が得られるまで調査を行った。）

<郵送調査とインターネット調査における回答結果の特徴>

- ・ 性別・年齢階級別で補正しておらず、単純な比較はできないため留意が必要であるが、郵送調査とインターネット調査とでは次表のような違いがある。
- ・ 即ち、郵送調査に回答した患者のほうが、インターネット調査に回答した患者よりも高齢者が相対的に多く、また、定期的に受診している患者が多い。医師からリフィル処方箋について説明を受けた経験も多い。
- ・ そうした集団においては、リフィル処方箋に対する認知度も、インターネット調査に回答した患者よりも高くなっている。郵送調査に回答した患者においては、一般的な集団よりもリフィル処方箋の認知度が高くなっている可能性がある。そのため、より一般的な集団における認知度としては、インターネット調査の結果を参照するほうが望ましい可能性がある。
- ・ 一方、リフィル処方箋を交付された経験がある患者に限定してみると、郵送調査に回答した患者のほうが、「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」ことや「通院によってかかる医療費が安くなる」こと等をメリットとして挙げる割合が高い。受診頻度が一定程度あるなどの特定の患者の集団においては、特にリフィル処方箋のメリットを感じやすい傾向にある可能性がある。

患者調査（郵送調査）

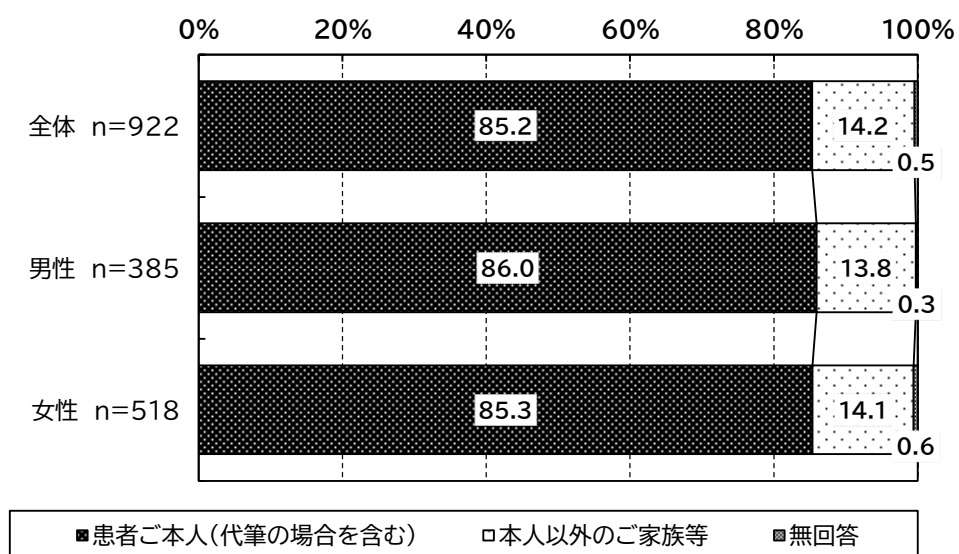
調査項目	特徴	郵送調査	インターネット調査
性別・年齢構成	郵送調査のほうが80代以上が多いなど、年齢構成比が異なる	男女比 4 : 6 80代以上が 10.4%	男女比 1 : 1 80代以上が 2.5%
定期的に受診している医療機関（病院・診療所）の数	郵送調査のほうがインターネット調査よりも定期的に受診している患者が多い可能性	平均 1.6 件 0 件が 9.0% 1 件が 42.8%	平均 1.4 件 0 件が 17.6% 1 件が 47.5%
定期的に受診している診療科の数	郵送調査のほうがインターネット調査よりも定期的に受診している診療科の数が多い可能性	平均 1.7 件 0 件が 8.9% 1 件が 33.6%	平均 1.5 件 0 件が 20.4% 1 件が 43.3%
定期的に受診している薬局の数	郵送調査のほうがインターネット調査よりも定期的に利用している薬局の数が多い可能性	平均 1.2 件 0 件が 11.3% 1 件が 62.9%	平均 1.2 件 0 件が 19.0% 1 件が 59.2%
定期的に決まった薬の処方を受けているか	郵送調査のほうがインターネット調査よりも定期的に決まった薬の処方を受けている患者が多い可能性	88.1%	70.4%
リフィル処方箋の認知度	郵送調査のほうがインターネット調査よりも「制度の内容まで知っていた」患者の割合が高い可能性	33.2%	6.1%
リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験の有無	郵送調査のほうがインターネット調査よりも医師から説明を受けたことがある患者の割合が高い可能性	15.1%	6.2%
リフィル処方箋を交付された経験	郵送調査のほうがインターネット調査よりもリフィル処方箋を交付されたことがある患者の割合が高い可能性	13.4%	5.4%
リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの	リフィル処方箋を交付されたことがある患者に限定してみると、郵送調査のほうがインターネット調査よりも、「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」や「通院によってかかる医療費が安くなる」ことについてメリットと感じる患者が多い可能性	「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」：95.2% 「通院によってかかる医療費が安くなる」：65.3%	「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」：66.9% 「通院によってかかる医療費が安くなる」：39.3%
今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか	郵送調査のほうがインターネット調査よりも、今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を「利用したい」と考える患者の割合が高い可能性	31.8%	19.0%

1) 基本情報

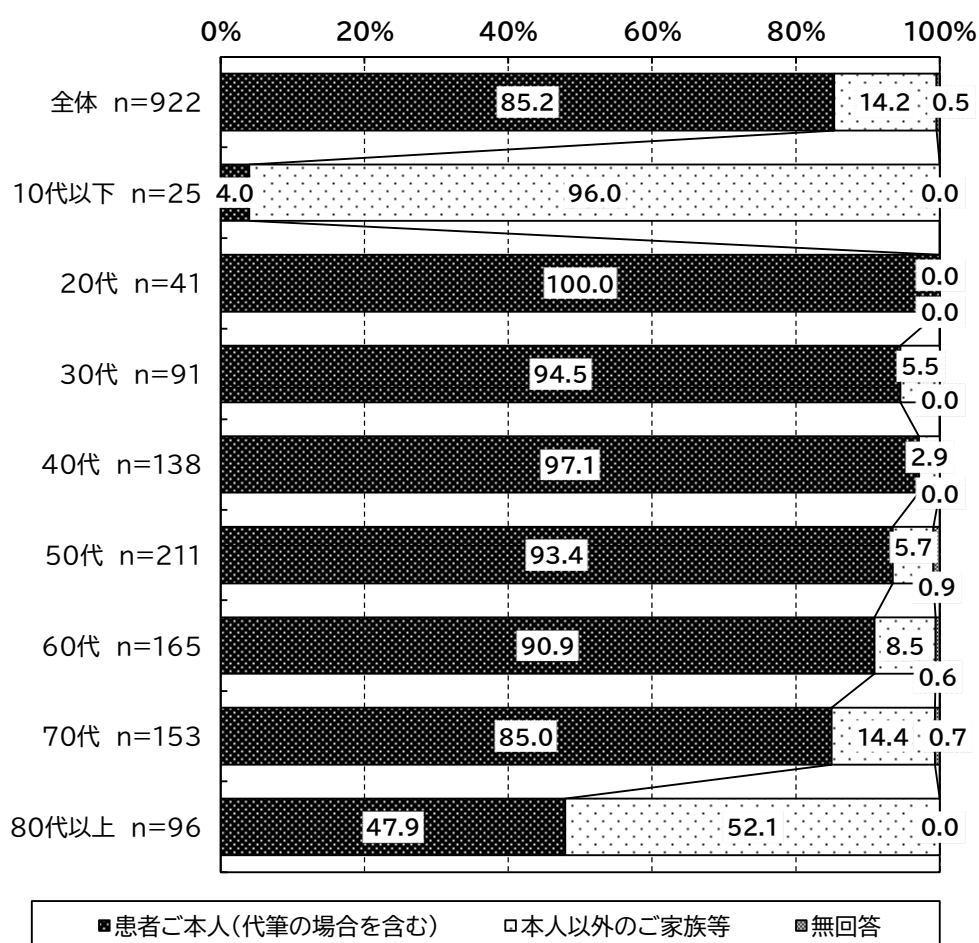
(1) 調査票の記入者

調査票の記入者は患者本人かについては「患者ご本人」が 85.2%、「本人以外のご家族等」が 14.2%であった。

図表 5-1 調査票の記入者
【性別】



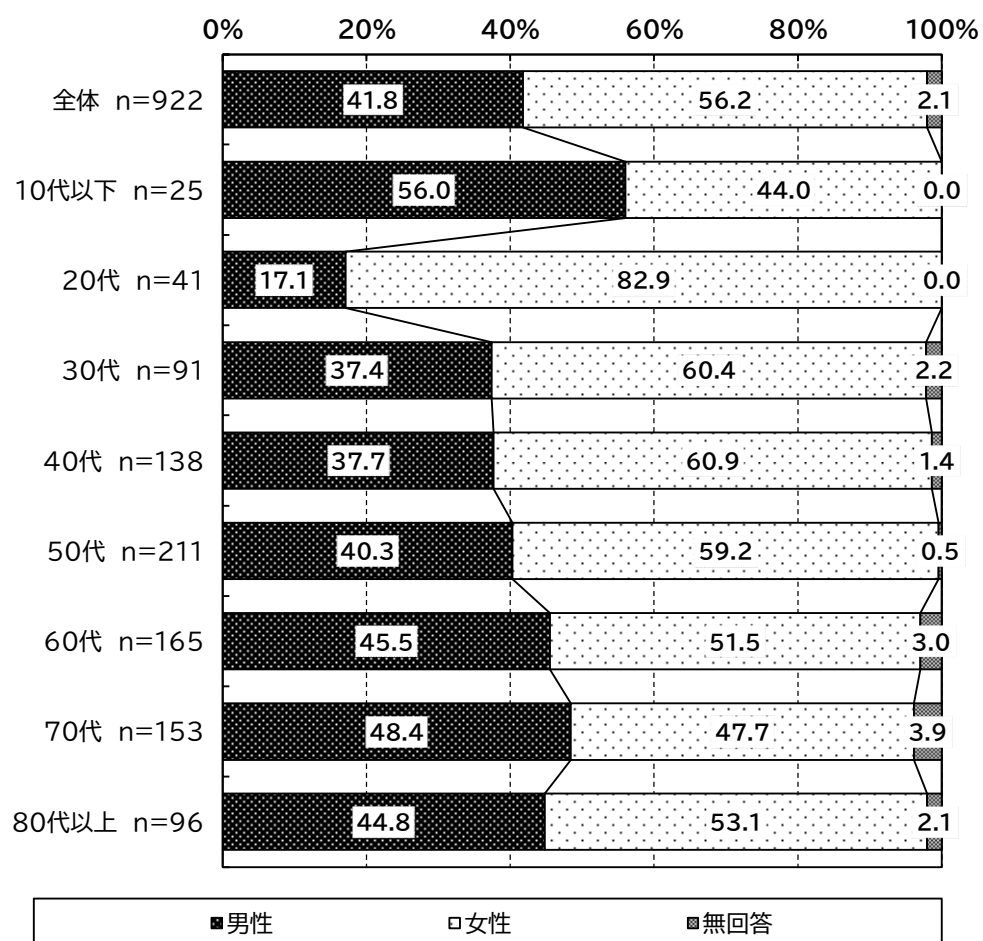
図表 5-2 調査票の記入者
【年代別】



(2) 性別

性別については、「男性」が41.8%、「女性」が56.2%であった。

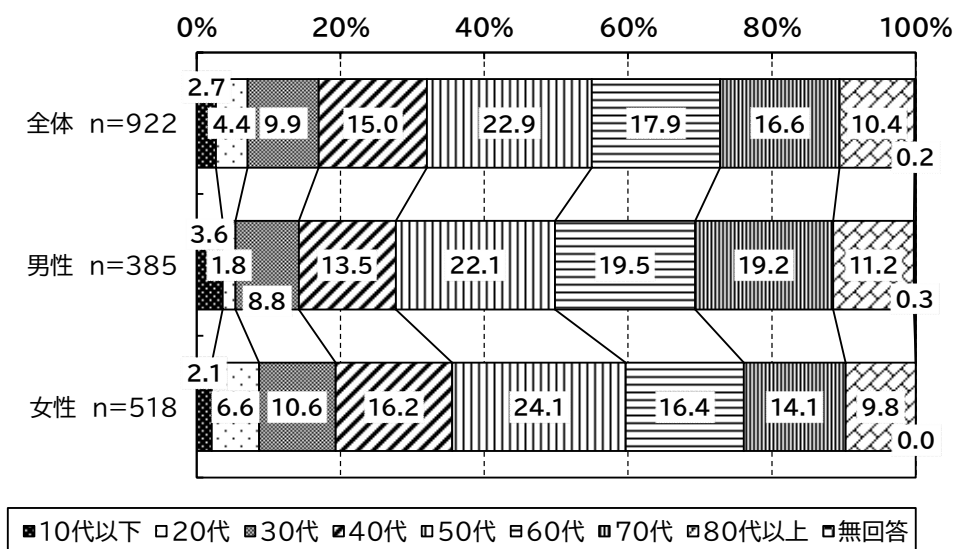
図表 5-3 性別
【年代別】



(3) 年代

年齢については、「50代」が最も多く22.9%、次いで「60代」が17.9%であった。

図表 5-4 年代
【性別】

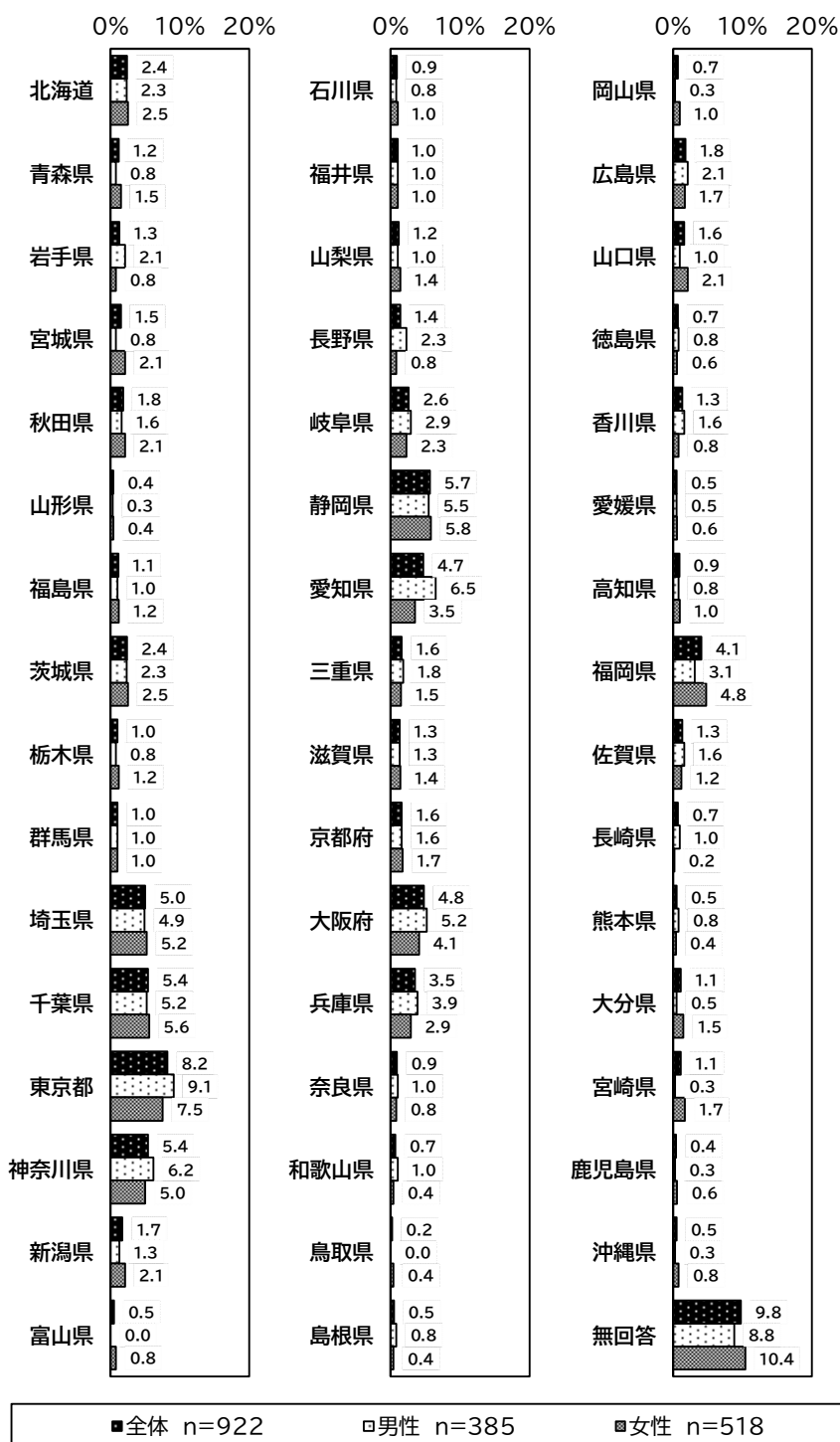


(4) 居住地

居住地については、「東京都」が最も多く 8.2%であった。

なお、大都市部（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県及び大阪府）は 33.5%を占めていた。

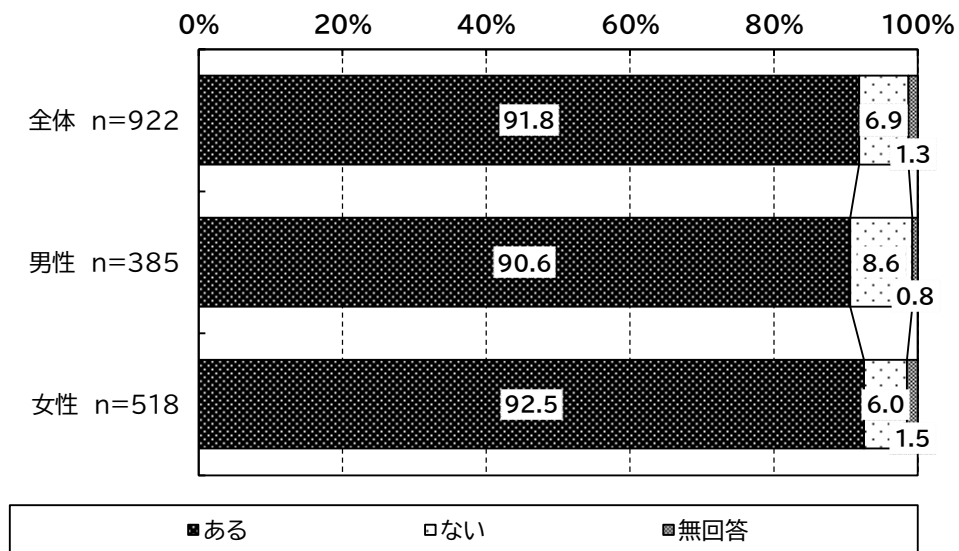
図表 5-5 居住地【性別】



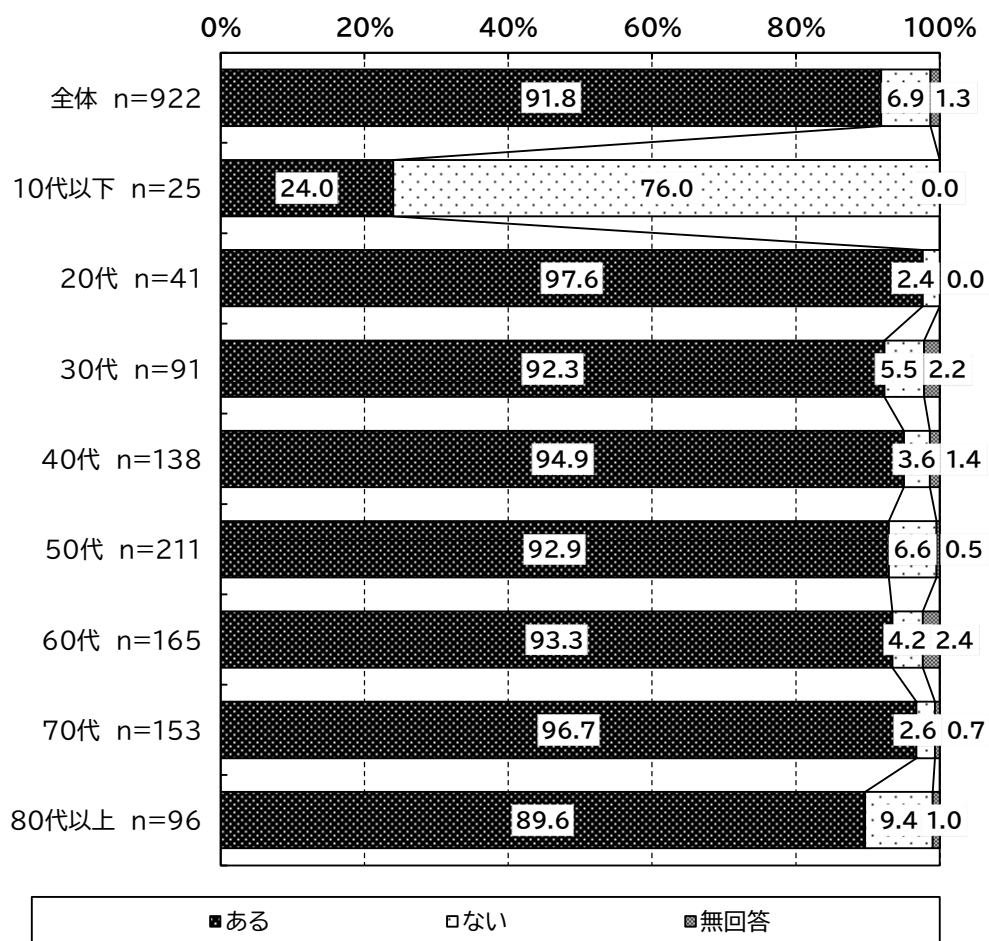
(5) 薬局の窓口で支払うお金の有無

薬局の窓口で支払うお金（お薬の容器代は含まない）については、「ある」が91.8%、「ない」が6.9%であった。

図表 5-6 薬局の窓口で支払うお金の有無
【性別】



図表 5-7 薬局の窓口で支払うお金の有無
【年代別】

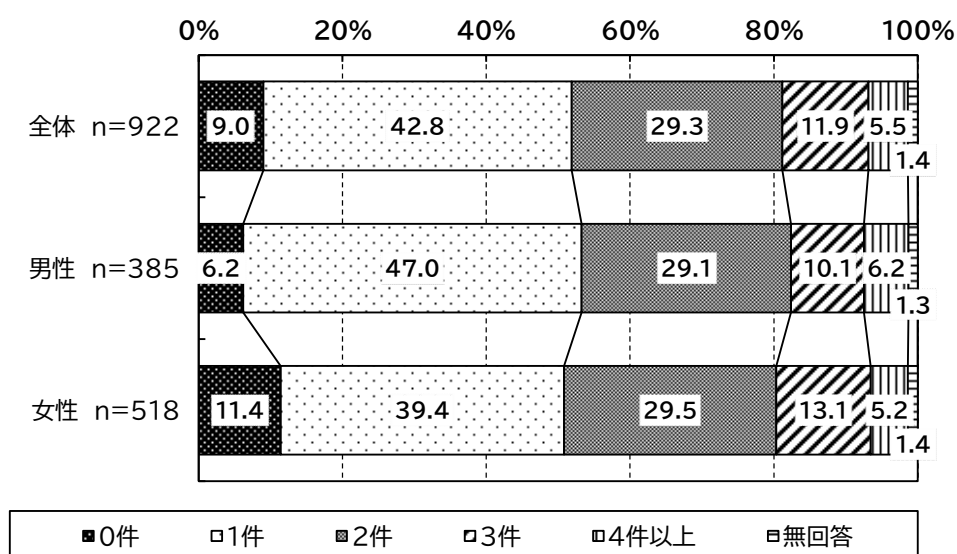


2) 医療機関や保険薬局の利用状況等について

(1) 定期的に受診している医療機関（病院・診療所）の数

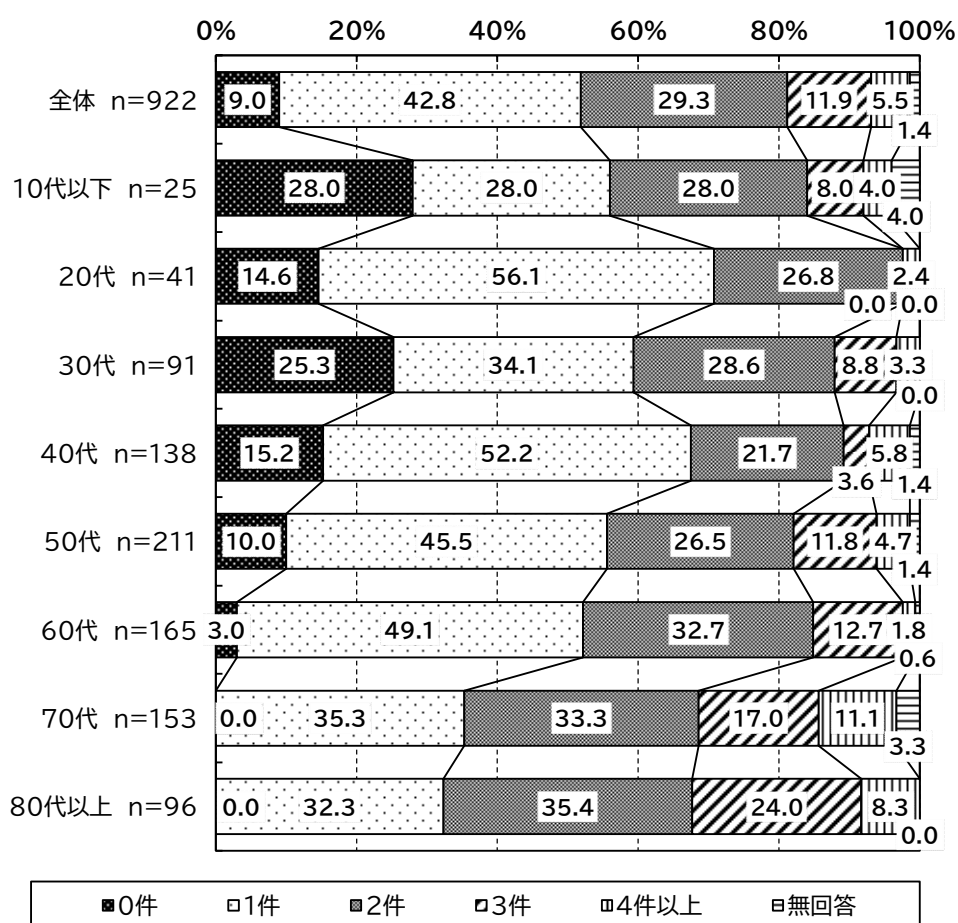
定期的に受診している医療機関（病院・診療所）の数については、「1件」が最も多く42.8%、次いで「2件」が多く29.3%であった。

図表 5-8 定期的に受診している医療機関（病院・診療所）の数
【性別】



(単位：件)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	909	1.6	1.1	1
男性	380	1.7	1.2	1
女性	511	1.6	1.1	1

図表 5-9 定期的に受診している医療機関（病院・診療所）の数
【年代別】

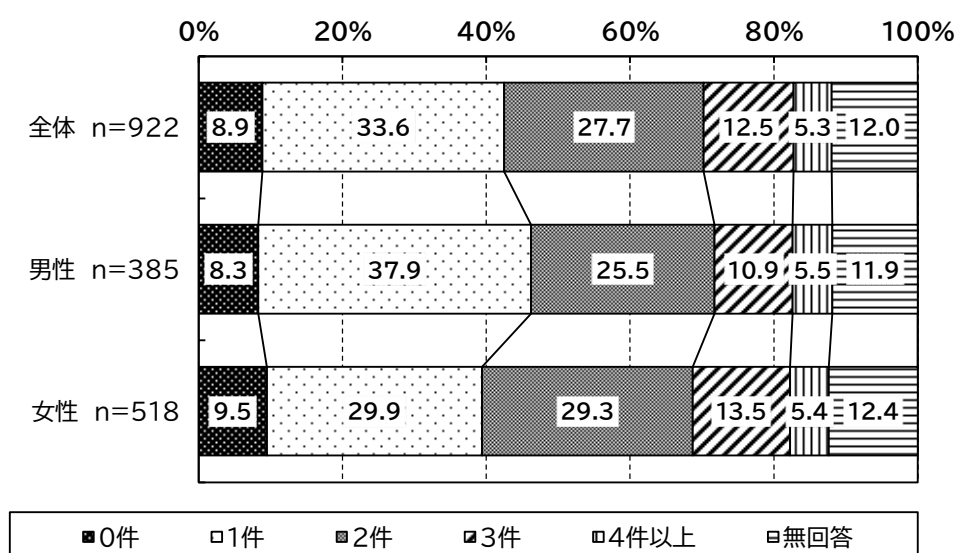
(単位：件)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	909	1.6	1.1	1
10代以下	24	1.3	1.1	1
20代	41	1.2	0.8	1
30代	91	1.3	1.1	1
40代	136	1.3	1.0	1
50代	208	1.6	1.0	1
60代	164	1.7	1.1	1
70代	148	2.1	1.1	2
80代以上	96	2.1	1.1	2

(2) 定期的に受診している診療科の数

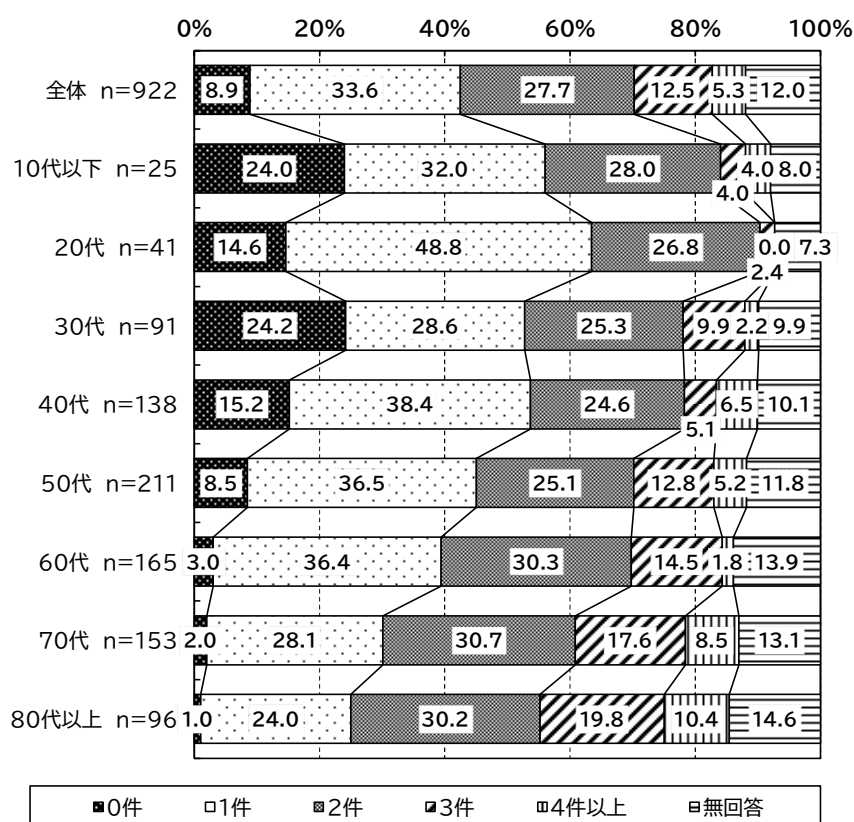
定期的に受診している診療科の数については、「1件」が最も多く 33.6%、次いで「2件」が多く 27.7%であった。

図表 5-10 定期的に受診している診療科の数
【性別】



(単位：件)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	811	1.7	1.1	2
男性	339	1.7	1.1	1
女性	454	1.8	1.1	2

図表 5-11 定期的に受診している診療科の数
【年代別】

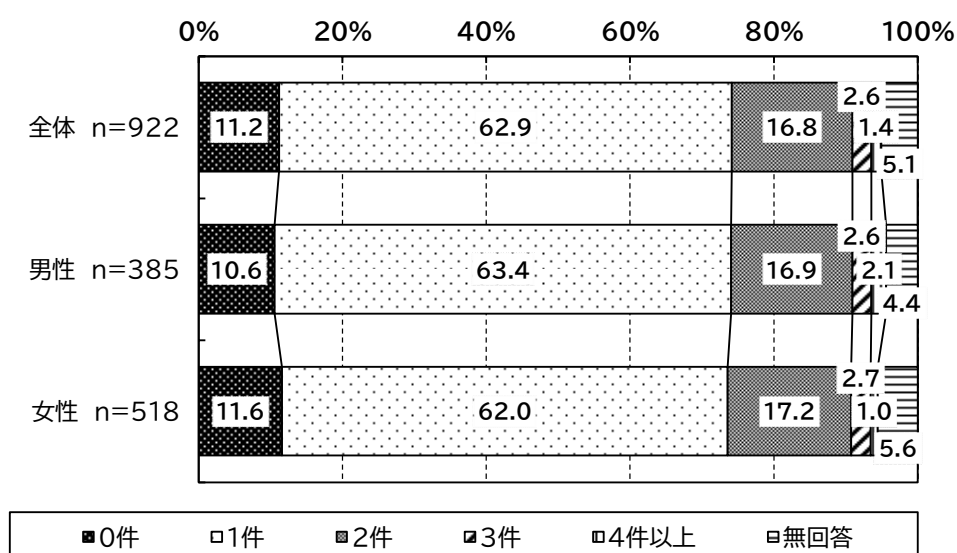
(単位：件)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	811	1.7	1.1	2
10代以下	23	1.3	1.0	1
20代	38	1.2	0.7	1
30代	82	1.3	1.1	1
40代	124	1.5	1.1	1
50代	186	1.7	1.1	1
60代	142	1.7	0.9	2
70代	133	2.1	1.3	2
80代以上	82	2.2	1.2	2

(3) 定期的に受診している薬局の数

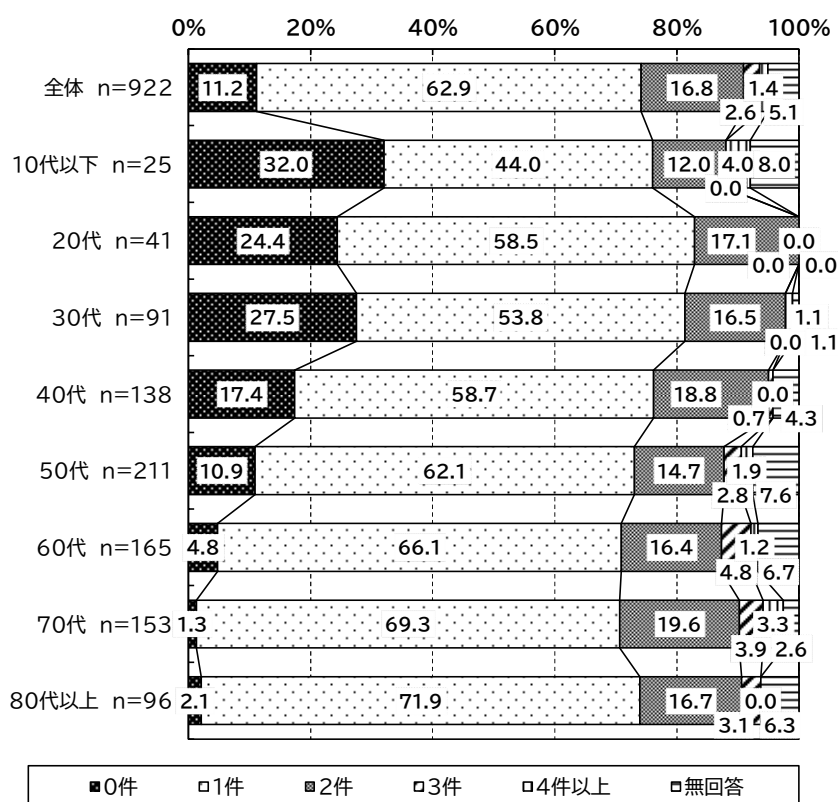
定期的に受診している薬局の数については、「1件」が最も多く 62.9%、次いで「2件」が多く 16.8%であった。

図表 5-12 定期的に受診している薬局の数
【性別】



(単位：件)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	875	1.2	0.8	1
男性	368	1.2	1.0	1
女性	489	1.2	0.7	1

図表 5-13 定期的に受診している薬局の数
【年代別】

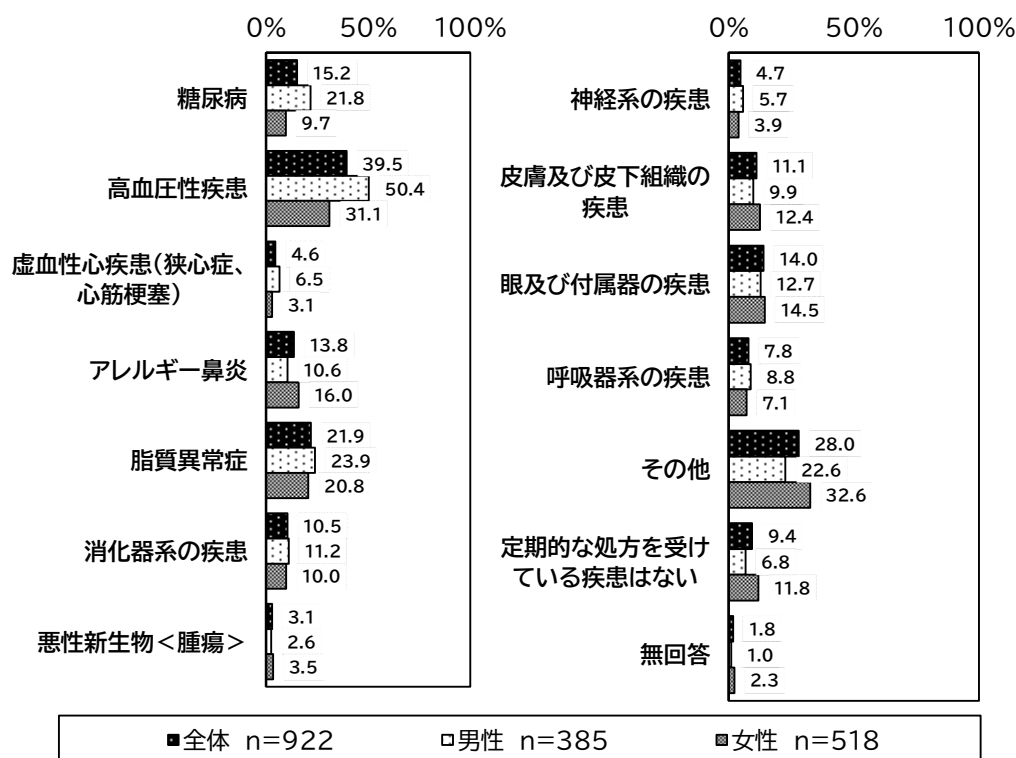
(単位：件)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	875	1.2	0.8	1
10代以下	23	0.9	0.9	1
20代	41	0.9	0.6	1
30代	90	0.9	0.7	1
40代	132	1.0	0.6	1
50代	195	1.2	0.8	1
60代	154	1.3	1.1	1
70代	149	1.4	0.8	1
80代以上	90	1.2	0.5	1

(4) 定期的な処方を受けている疾患

定期的な処方を受けている疾患については、「高血圧性疾患」が最も多く 39.5%、次いで「その他」が多く 28.0%であった。

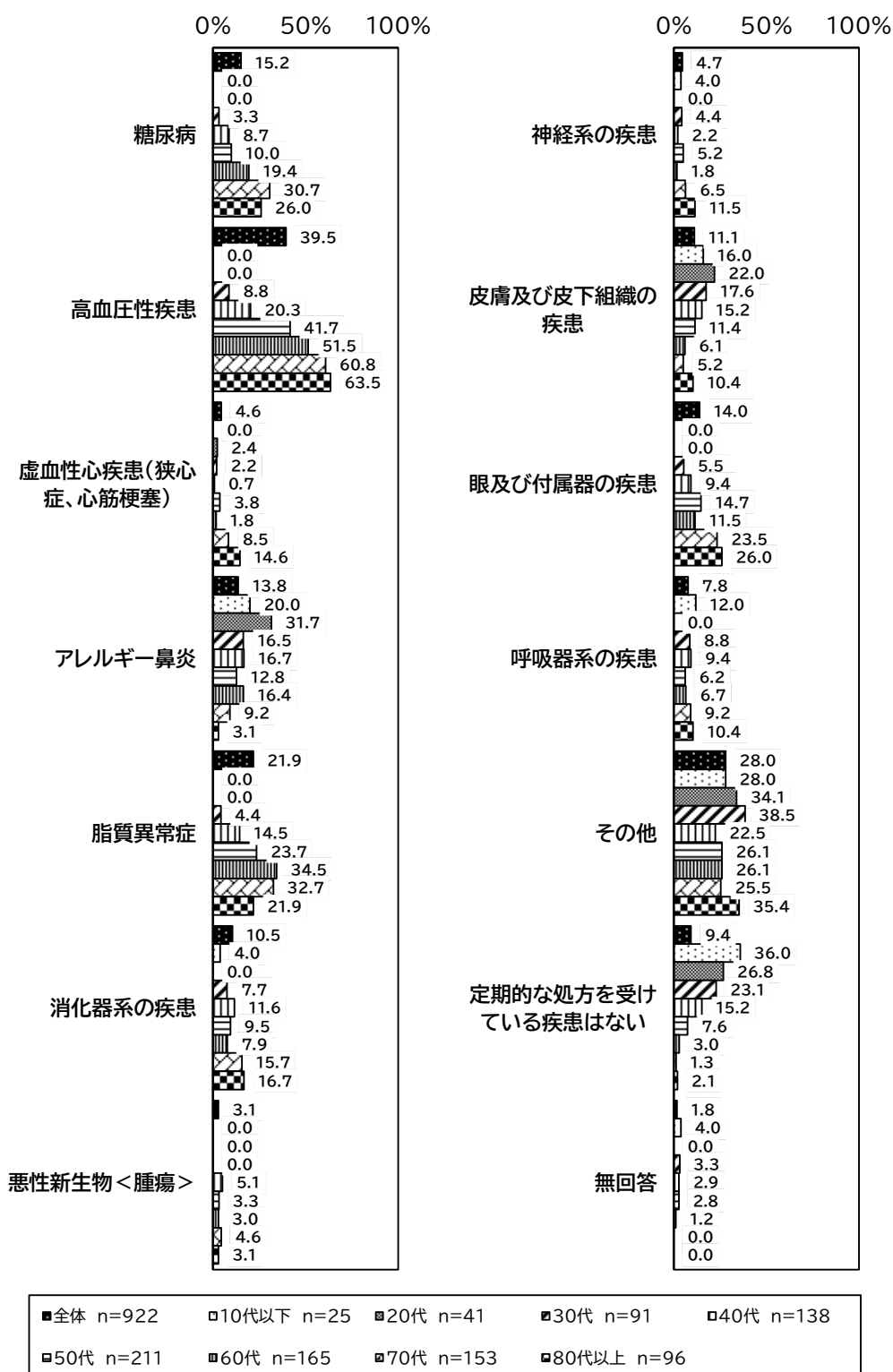
図表 5-14 定期的な処方を受けている疾患（複数回答）
【性別】



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・甲状腺疾患
- ・腎疾患
- ・高尿酸血症
- ・骨粗鬆症
- ・精神疾患
- ・更年期障害 など

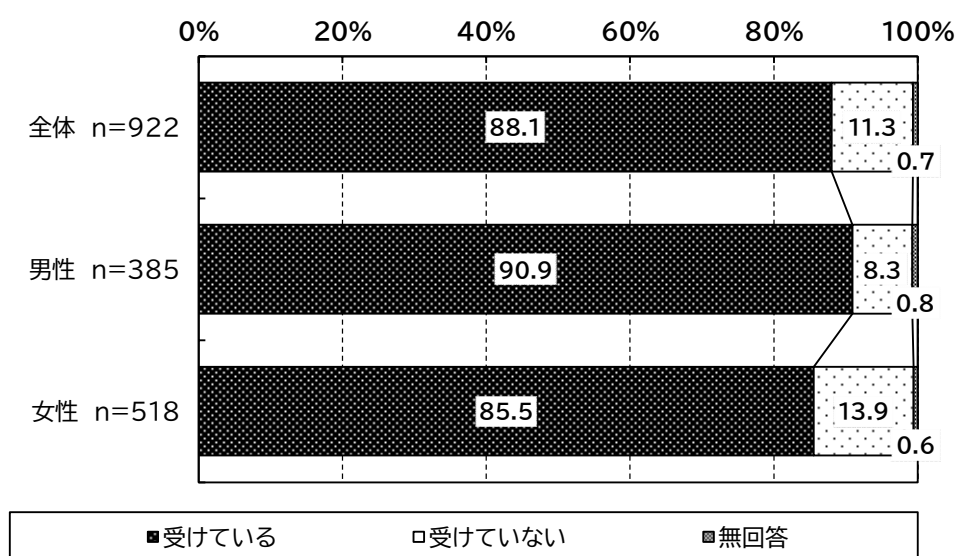
図表 5-15 定期的な処方を受けている疾患（複数回答）
【年代別】



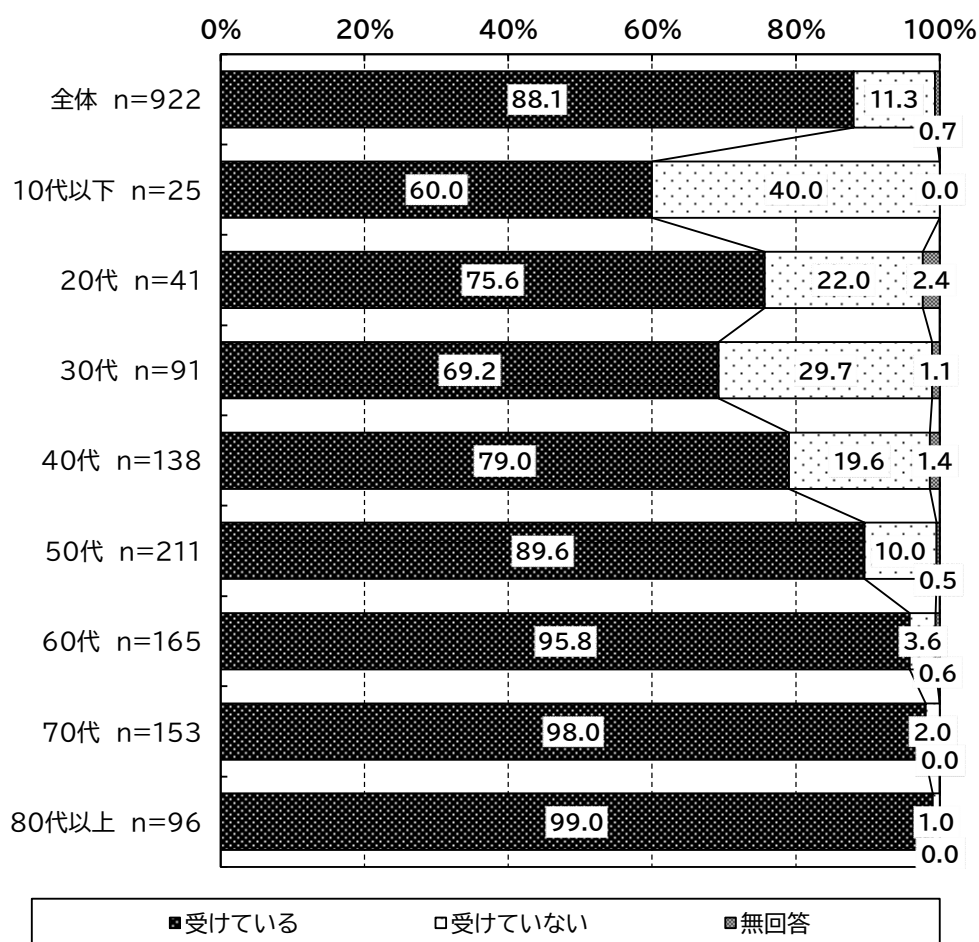
(5) 定期的に決まった薬の処方を受けているか

定期的に決まった薬の処方を受けているかについては、「受けている」が88.1%、「受けていない」が11.3%であった。

図表 5-16 定期的に決まった薬の処方を受けているか
【性別】



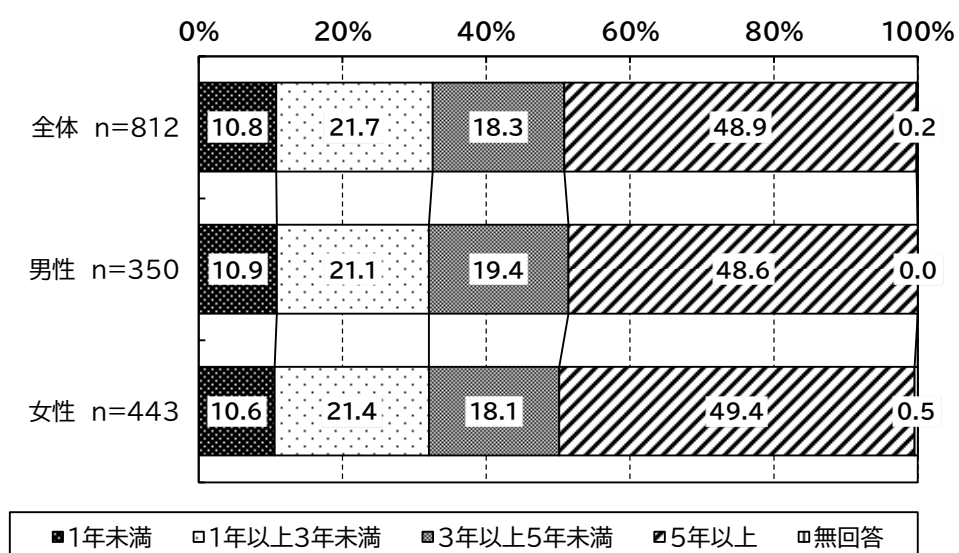
図表 5-17 定期的に決まった薬の処方を受けているか
【年代別】



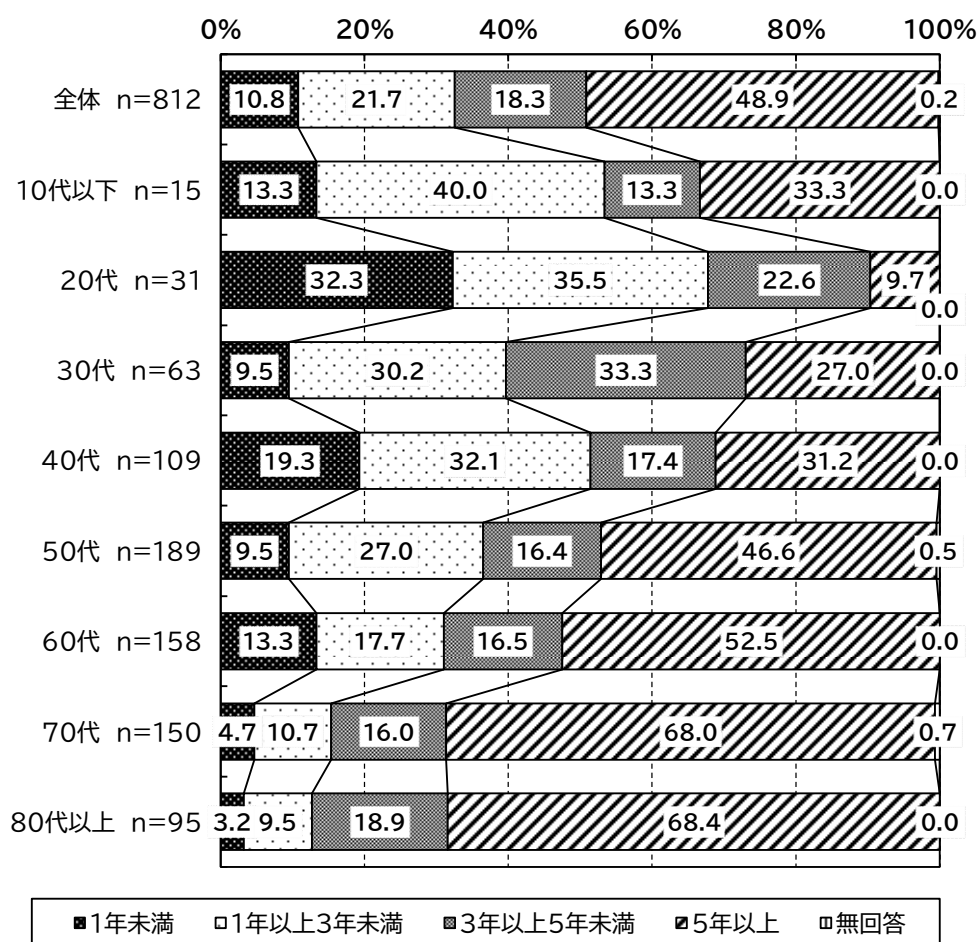
(6) 定期的な処方を受けている期間

定期的な処方を受けている期間については、「5年以上」が最も多く 48.9%、次いで「1年以上3年未満」が多く 21.7%であった。

図表 5-18 定期的な処方を受けている期間
【性別】



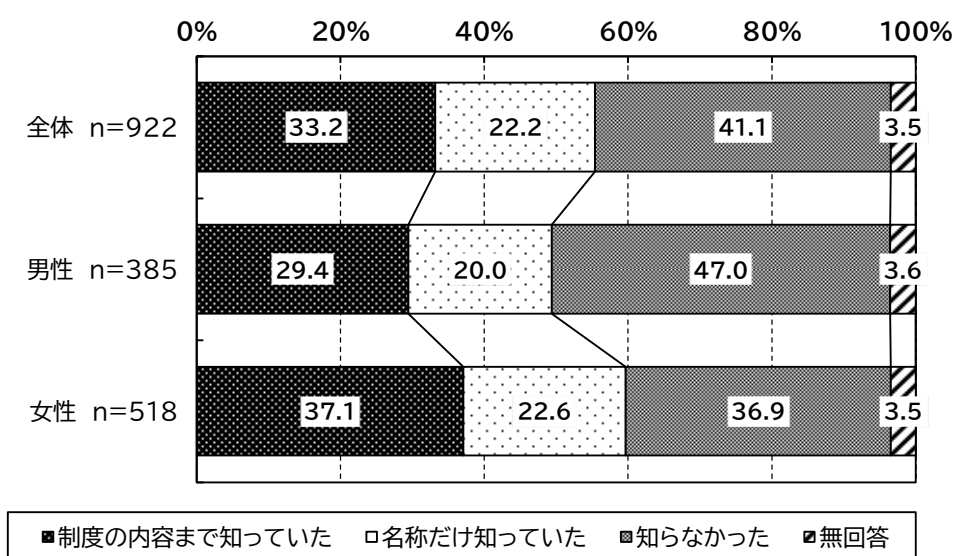
図表 5-19 定期的な処方を受けている期間
【年代別】



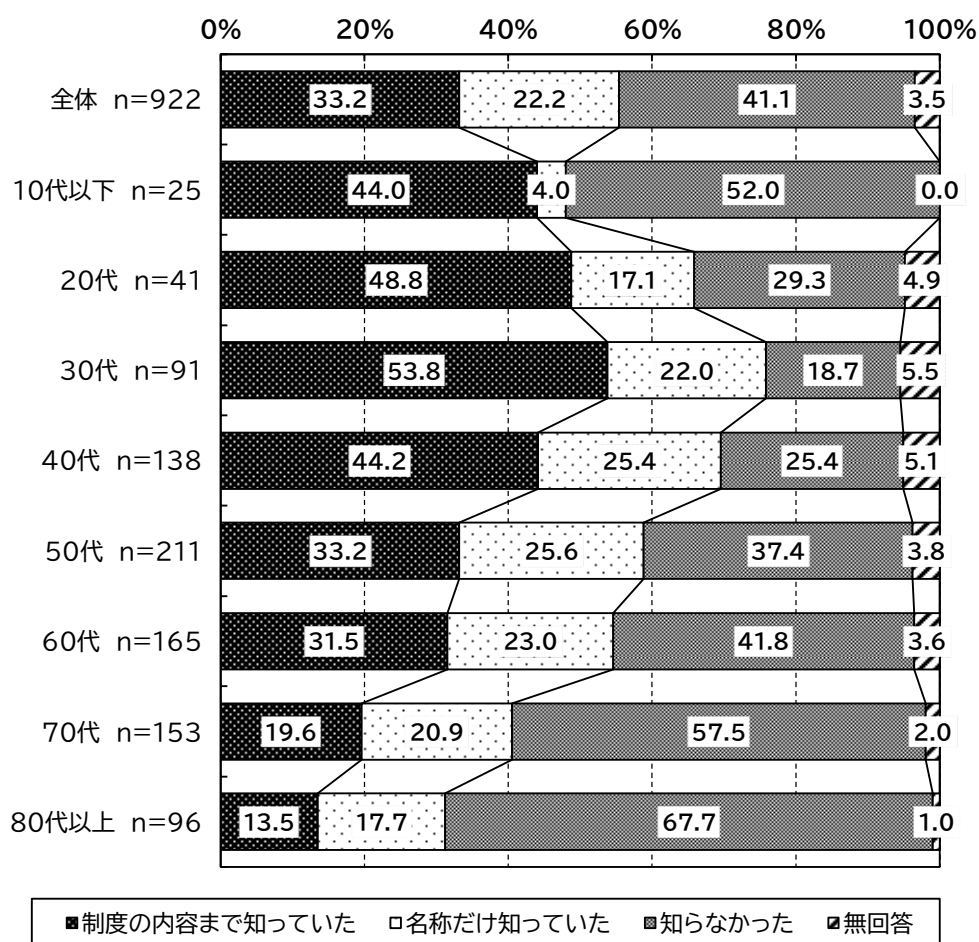
(7) リフィル処方箋の認知度

リフィル処方箋を知っているかについては、「制度の内容まで知っていた」が33.2%、「名称だけ知っていた」が22.2%、「知らなかった」が41.1%であった。

図表 5-20 リフィル処方箋の認知度
【性別】



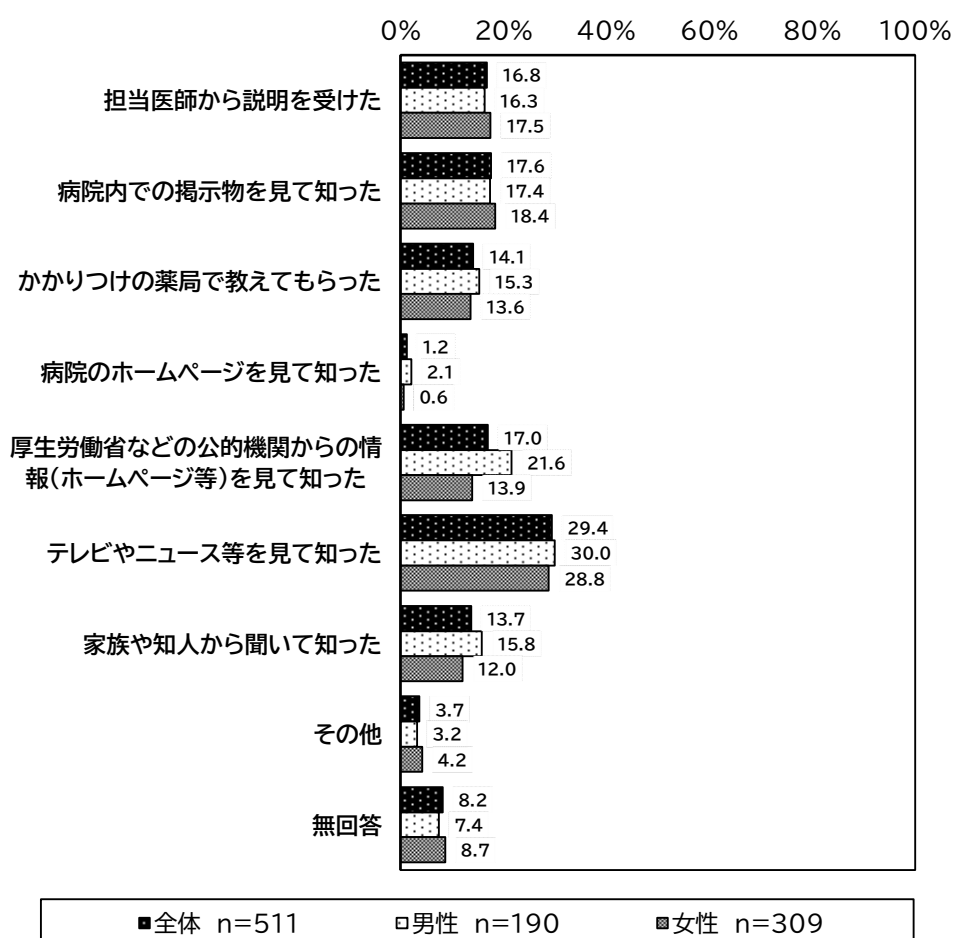
図表 5-21 リフィル処方箋の認知度
【年代別】



(8) リフィル処方箋の制度内容の認知経路

リフィル処方箋の制度内容の認知経路については、「テレビやニュース等を見て知った」が最も多く 29.4%、次いで「病院内の掲示物を見て知った」が多く 17.6%であった。

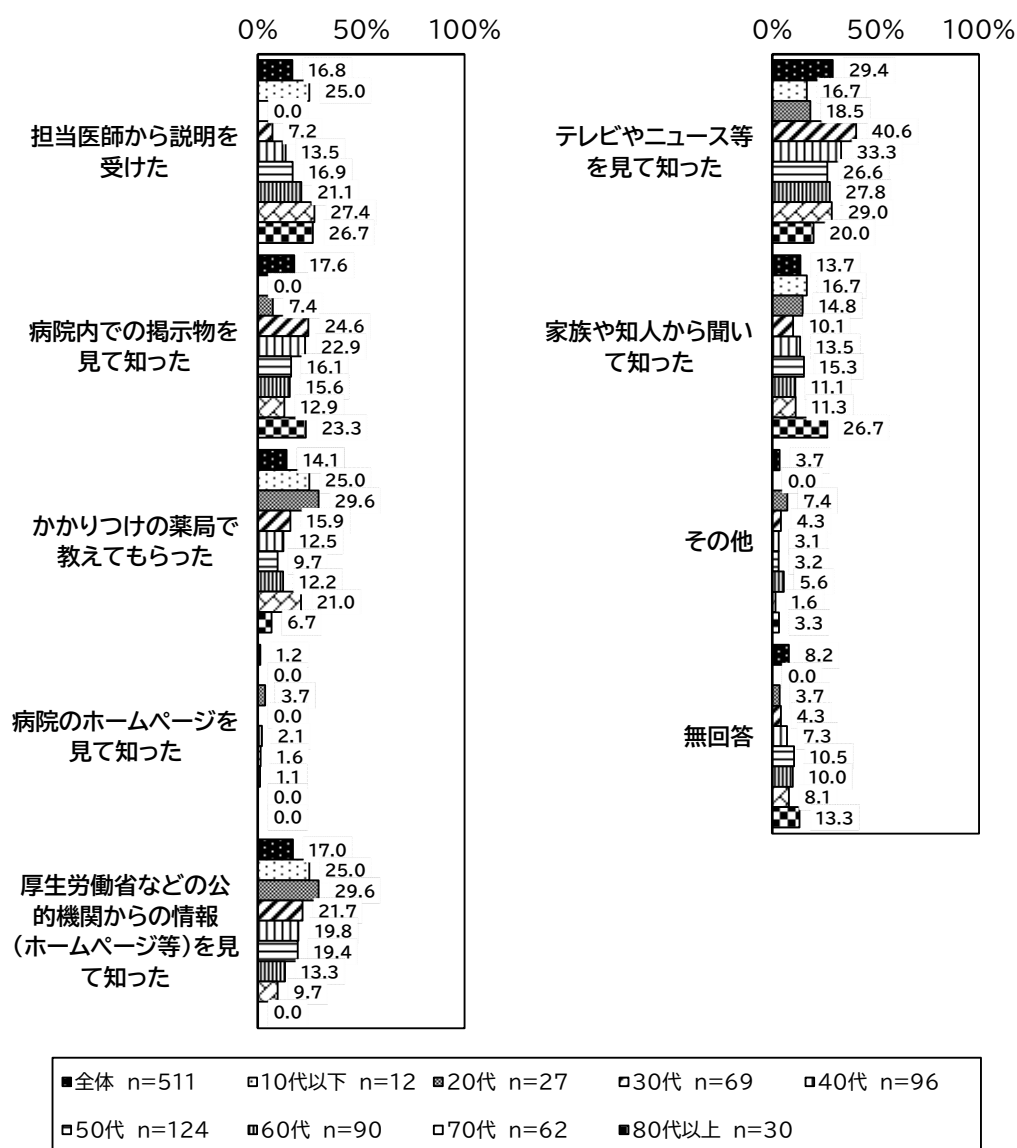
図表 5-22 リフィル処方箋の制度内容の認知経路（複数回答）
【性別】



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・ Web 上の医療情報
- ・ 薬局からの周知
- ・ 医療機関で勤務している
- ・ 医療関係者から聞いた
- ・ 処方箋に記載されていた
- ・ 調査の回答時に説明された など

図表 5-23 リフィル処方箋の制度内容の認知経路（複数回答）
【年代別】

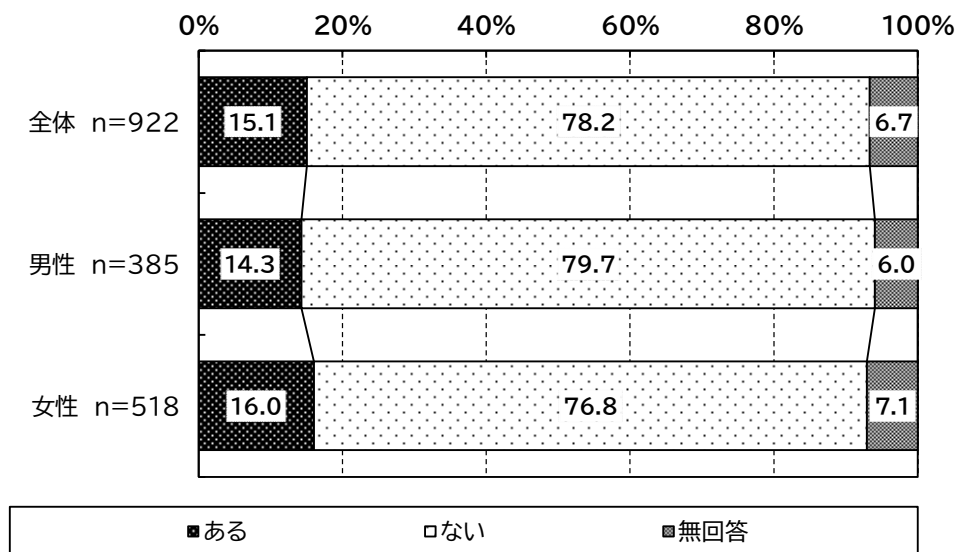


3) これまでにリフィル処方箋を交付された経験

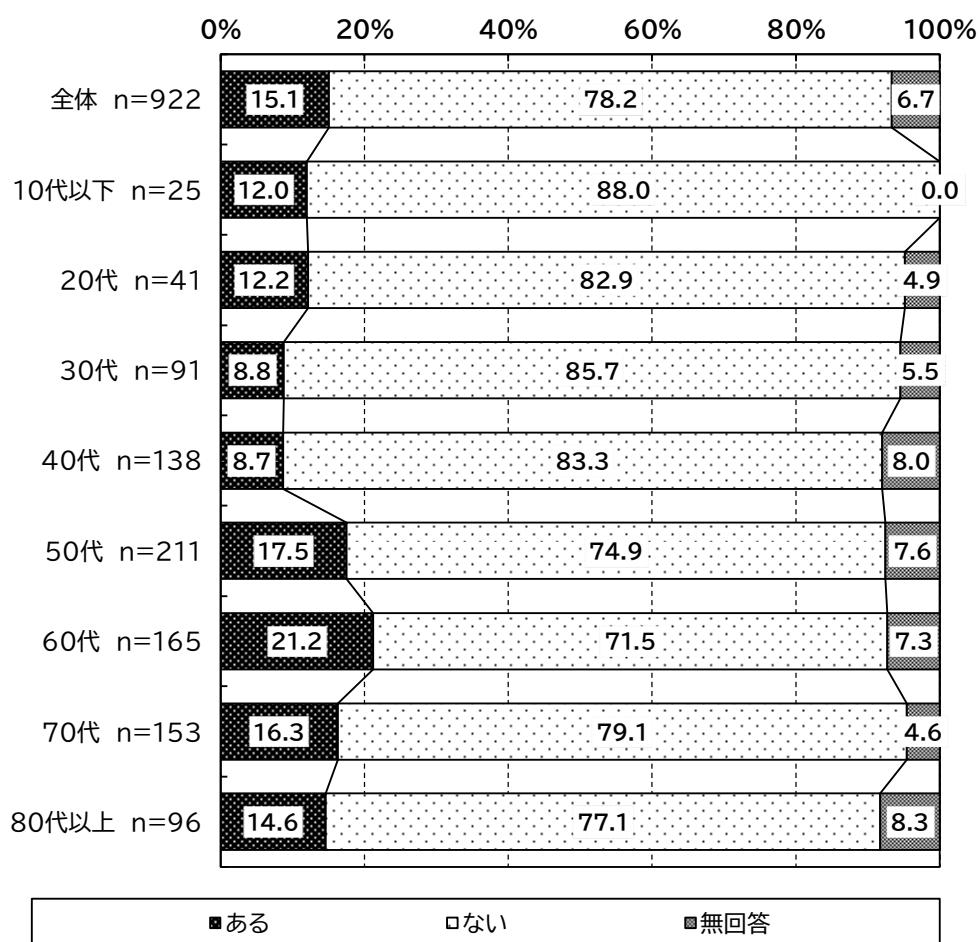
(1) リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験の有無

リフィル処方箋について医師から説明を受けたことがあるかについては、「ある」が15.1%、「ない」が78.2%であった。

図表 5-24 リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験
【性別】



図表 5-25 リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験
【年代別】

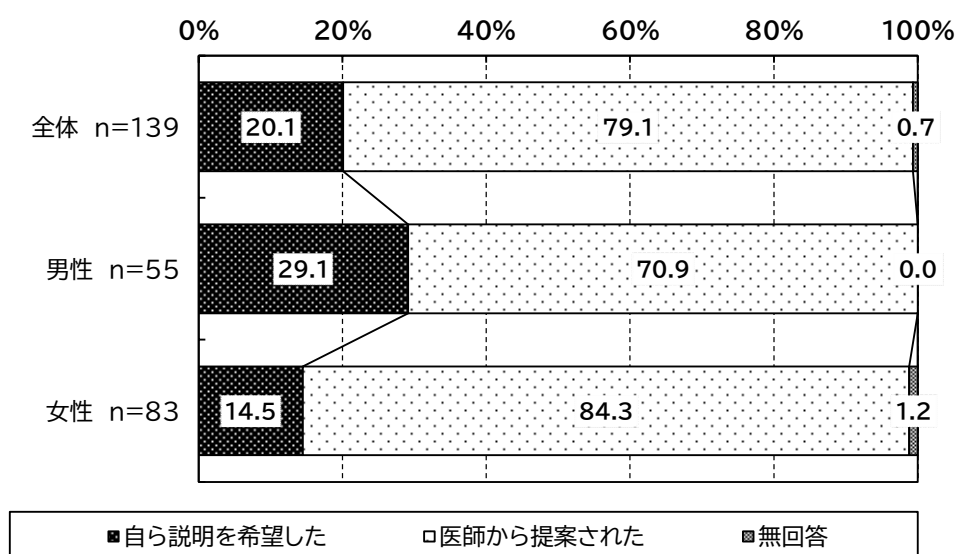


(2) リフィル処方箋についての説明はどのように行われたか

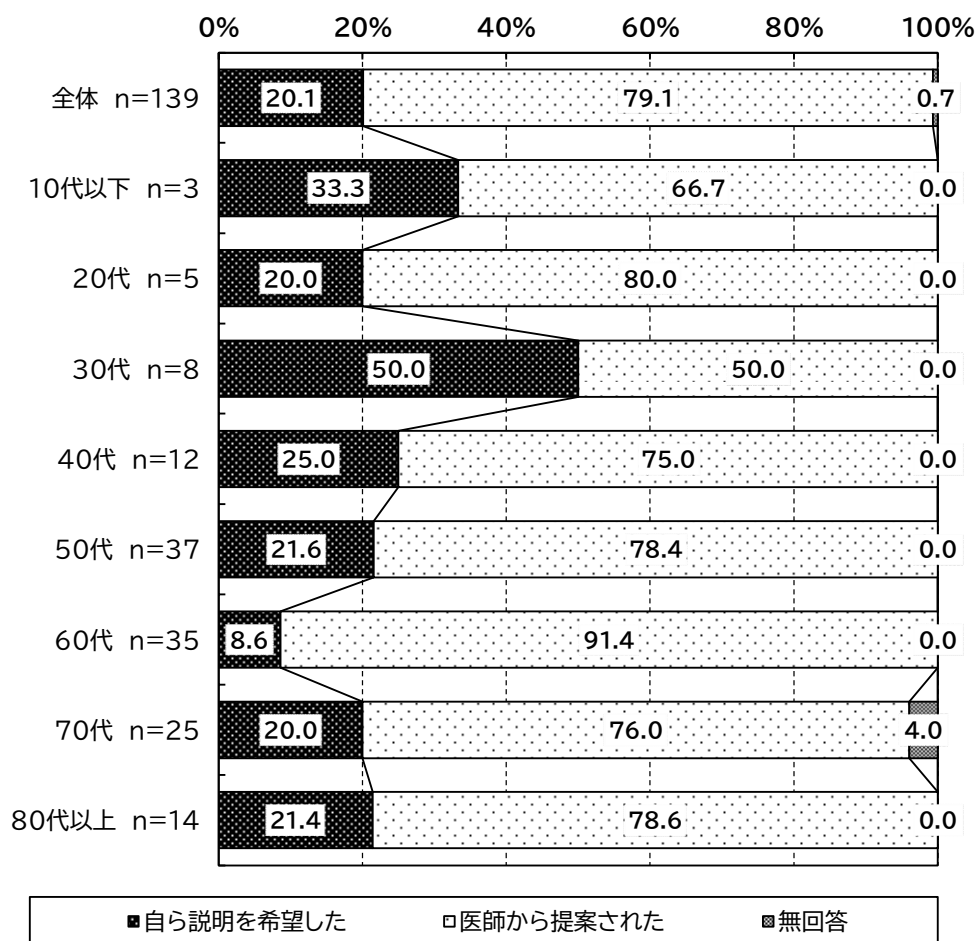
(リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ)

リフィル処方箋について医師から説明はどのように行われたかについては、「自ら説明を希望した」が20.1%、「医師から提案された」が79.1%であった。

図表 5-26 リフィル処方箋についての説明はどのように行われたか
(リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ)
【性別】



図表 5-27 リフィル処方箋についての説明はどのように行われたか
 （リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）
 【年代別】

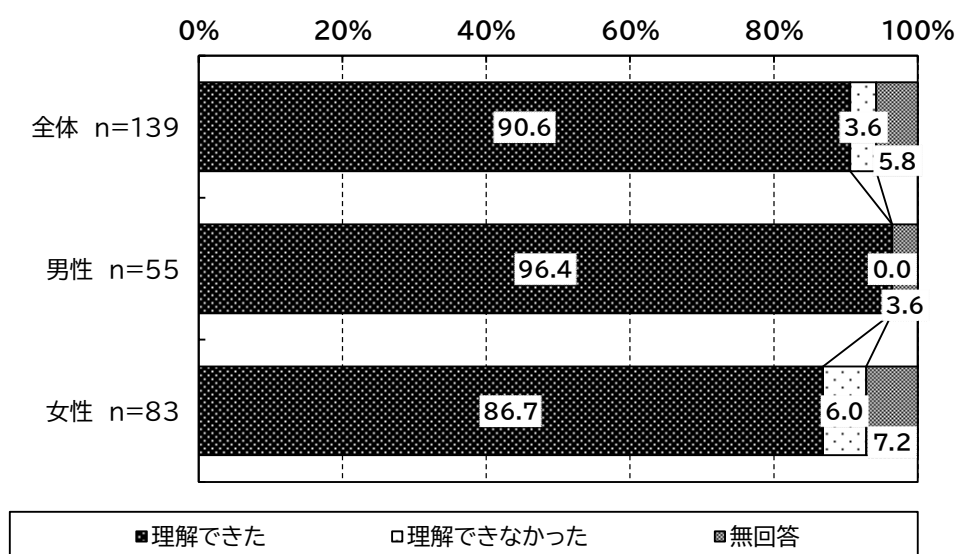


(3) リフィル処方箋についての説明は理解できたか

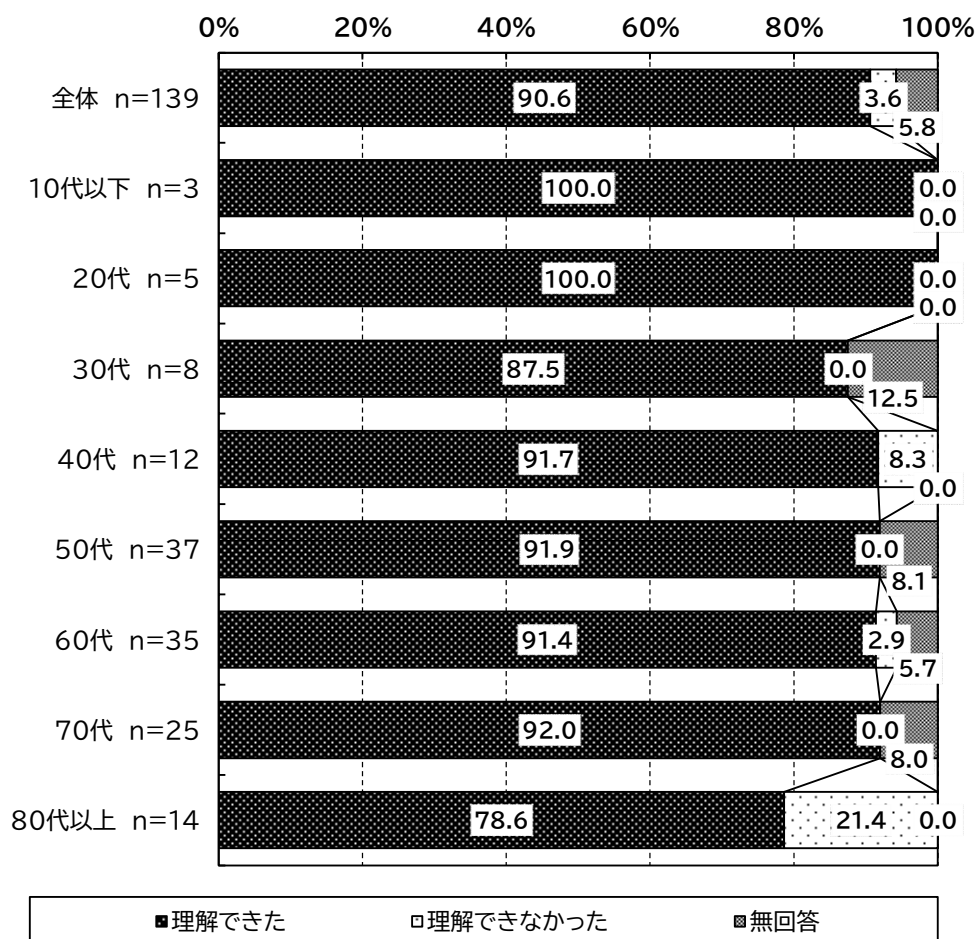
（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）

リフィル処方箋についての説明は理解できたかについては、「理解できた」が90.6%、「理解できなかった」が3.6%であった。

図表 5-28 リフィル処方箋についての説明は理解できたか
（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）
【性別】



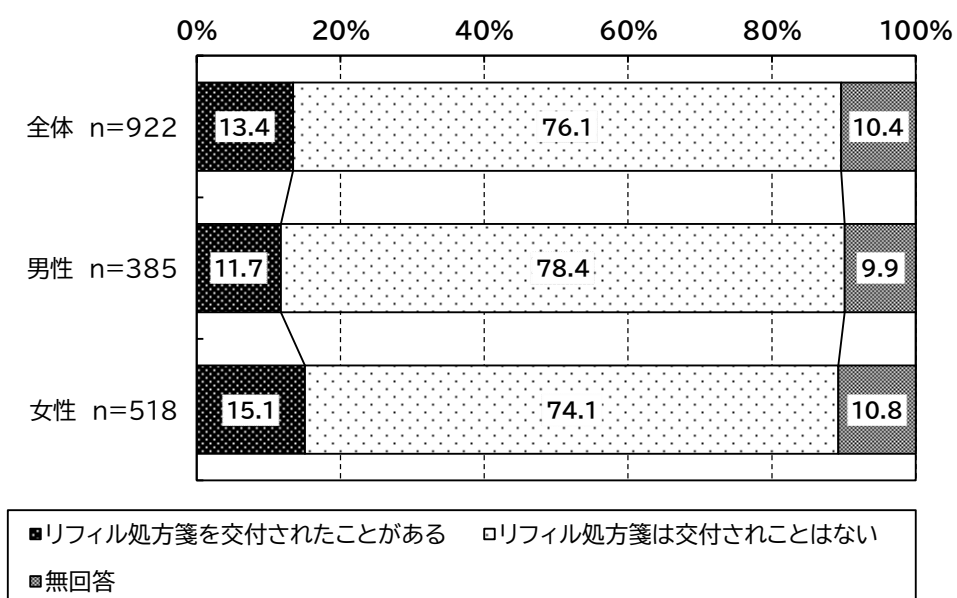
図表 5-29 リフィル処方箋についての説明は理解できたか
（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）
【年代別】



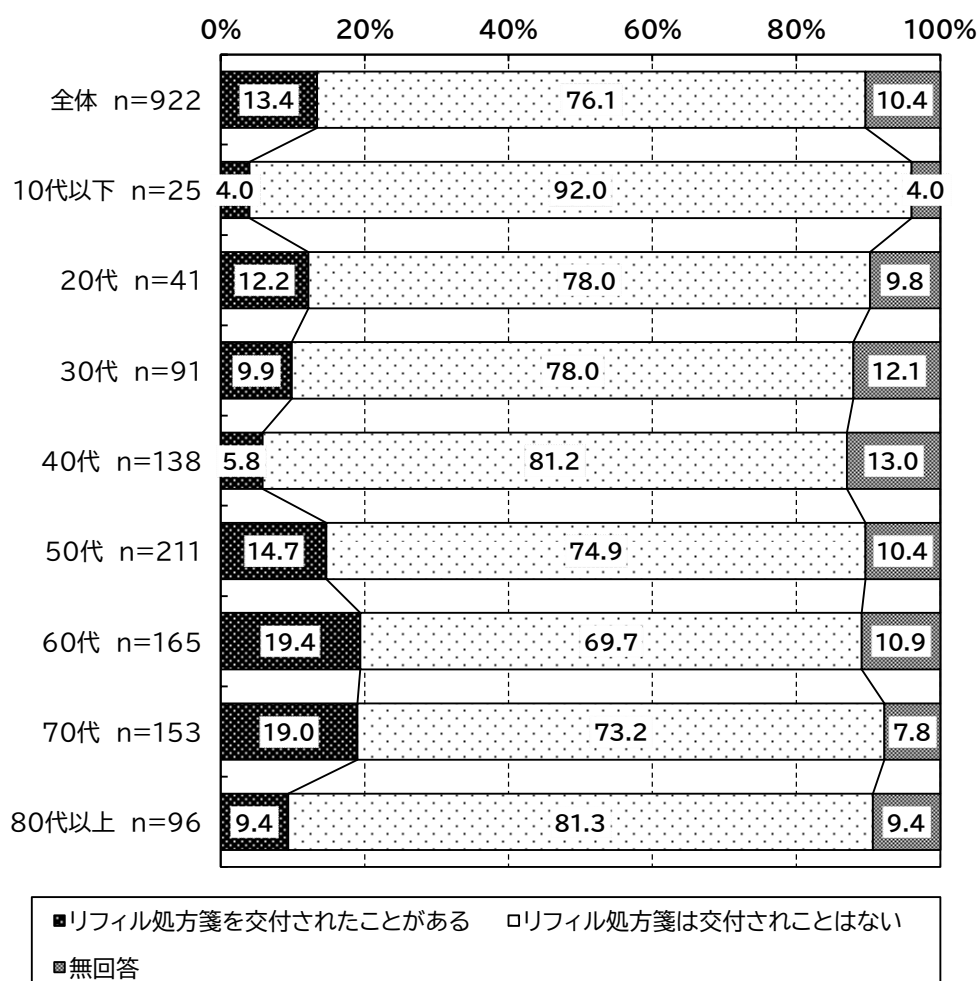
(4) リフィル処方箋を交付された経験

リフィル処方箋を交付された経験については、「ある」が13.4%、「ない」が76.1%であった。

図表 5-30 リフィル処方箋を交付された経験
【性別】



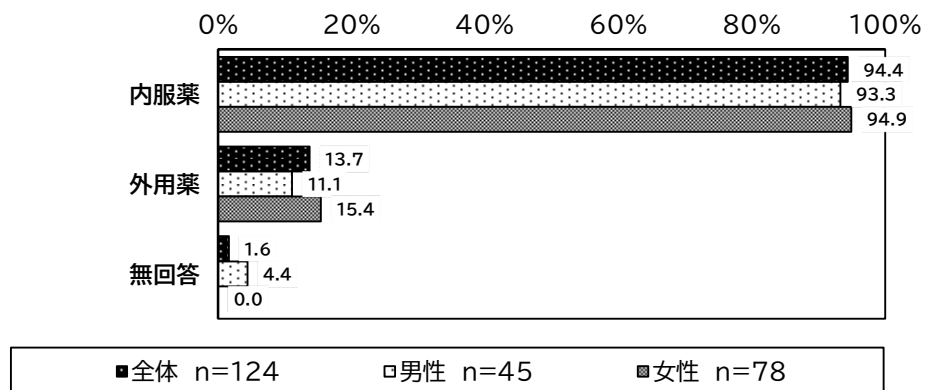
図表 5-31 リフィル処方箋を交付された経験
【年代別】



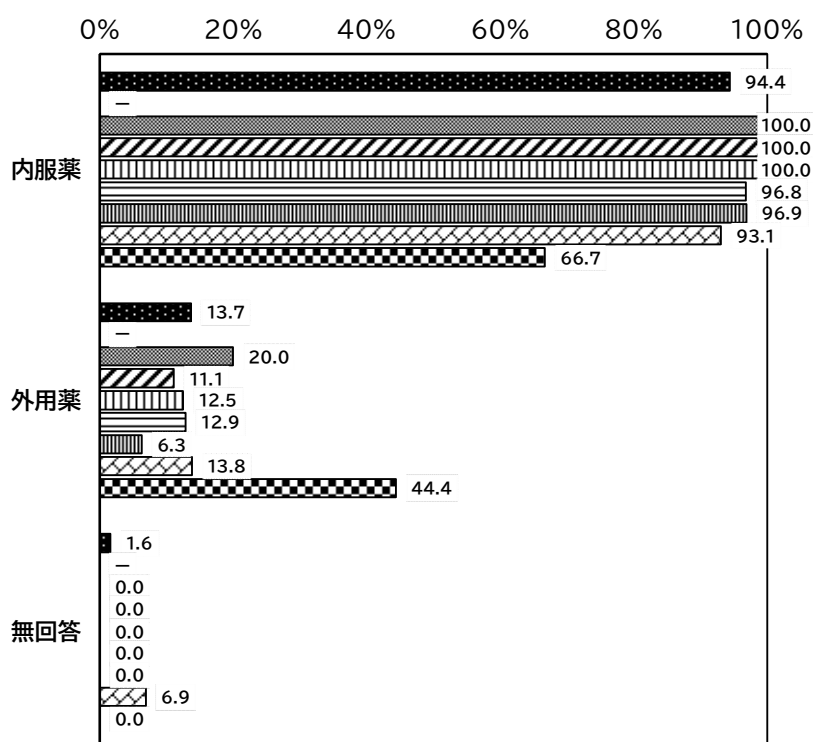
(5) リフィル処方箋を交付された薬の種類（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

リフィル処方箋を交付されたのはどのような薬であったかについては、「内服薬」が最も多く 94.4%、次いで「外用薬」が 13.7%であった。

図表 5-32 リフィル処方箋を交付された薬の種類（複数回答）
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
【性別】



図表 5-33 リフィル処方箋を交付された薬の種類（複数回答）
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
【年代別】

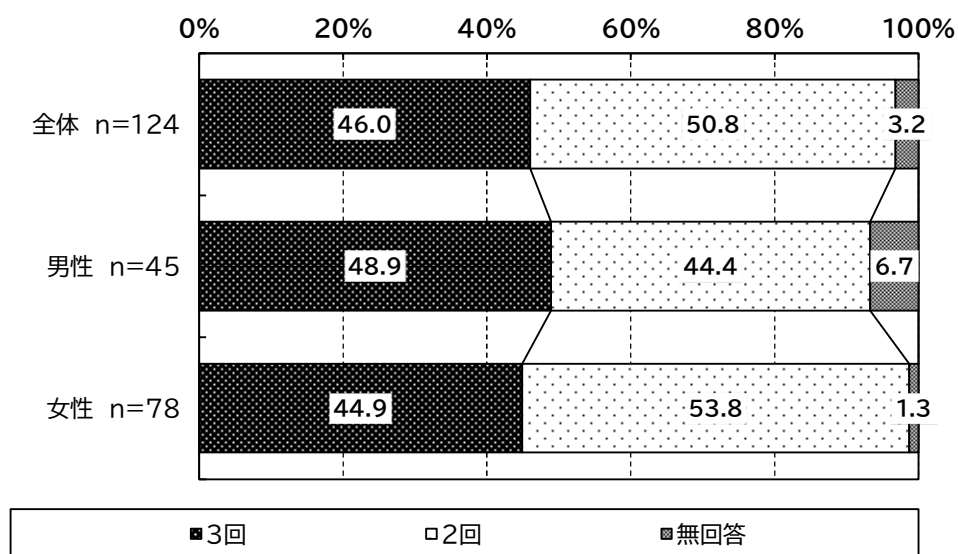


■全体 n=124 □10代以下 n=1 ■20代 n=5 □30代 n=9 □40代 n=8
 □50代 n=31 ■60代 n=32 □70代 n=29 ■80代以上 n=9

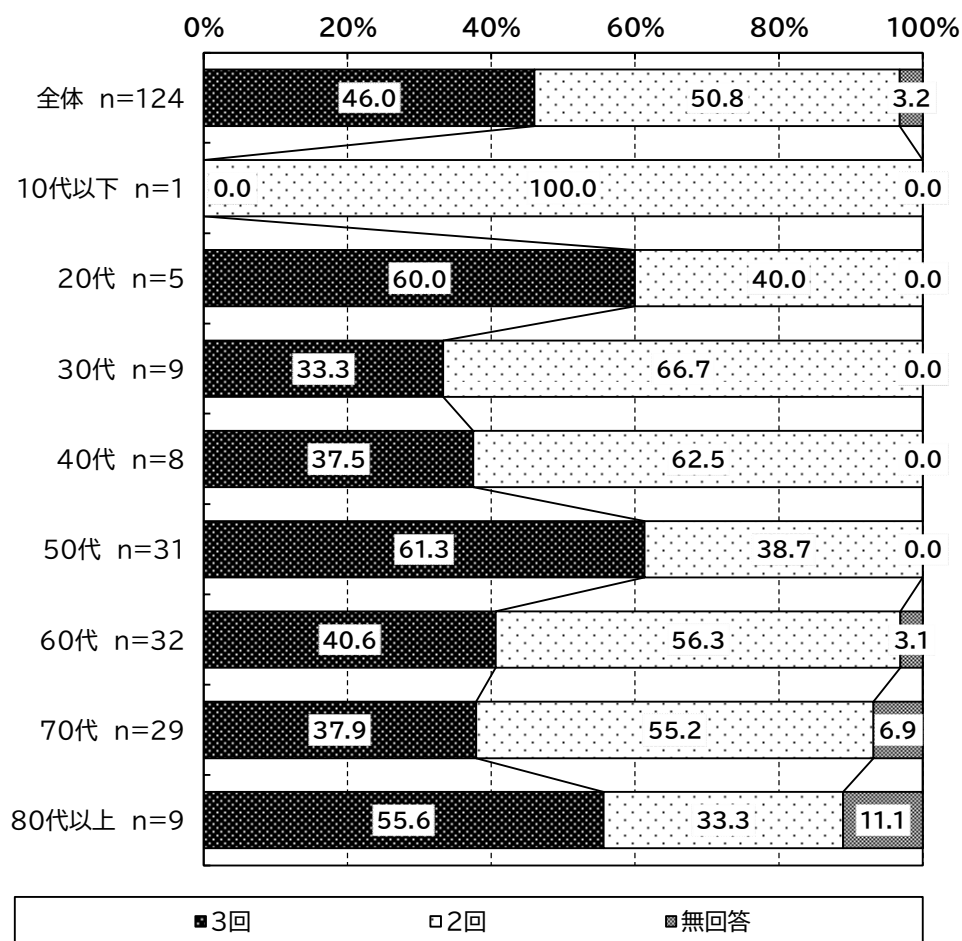
(6) 直近のリフィル処方箋の反復利用できる回数
 （リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

直近のリフィル処方箋は何回反復利用できる処方箋であったかについては、「3回」が46.0%、「2回」が50.8%であった。

図表 5-34 直近のリフィル処方箋の反復利用できる回数
 （リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
 【性別】



図表 5-35 直近のリフィル処方箋の反復利用できる回数
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
【年代別】



(7) 直近のリフィル処方箋の1回あたりの処方日数
 （リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

直近のリフィル処方箋の1回あたりの処方日数については、平均で33.3日分であった。

図表 5-36 直近のリフィル処方箋の1回あたりの処方日数
 （リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
 【性別】

（単位：日分）

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	102	33.3	13.5	30
男性	37	31.6	8.1	30
女性	64	34.4	15.7	30

図表 5-37 直近のリフィル処方箋の1回あたりの処方日数
 （リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
 【年代別】

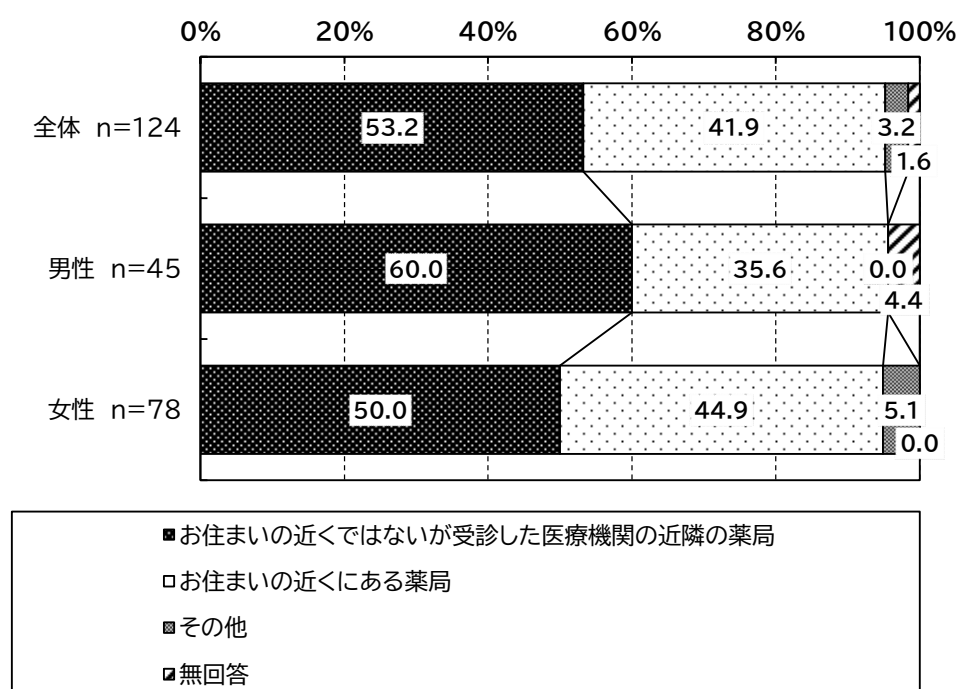
（単位：日分）

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	102	33.3	13.5	30
10代以下	1	28.0	0.0	28
20代	3	27.0	4.2	30
30代	8	29.0	1.0	29
40代	7	33.1	11.0	28
50代	21	31.8	9.8	30
60代	31	32.8	15.6	28
70代	25	35.5	13.8	30
80代以上	6	42.0	19.7	30

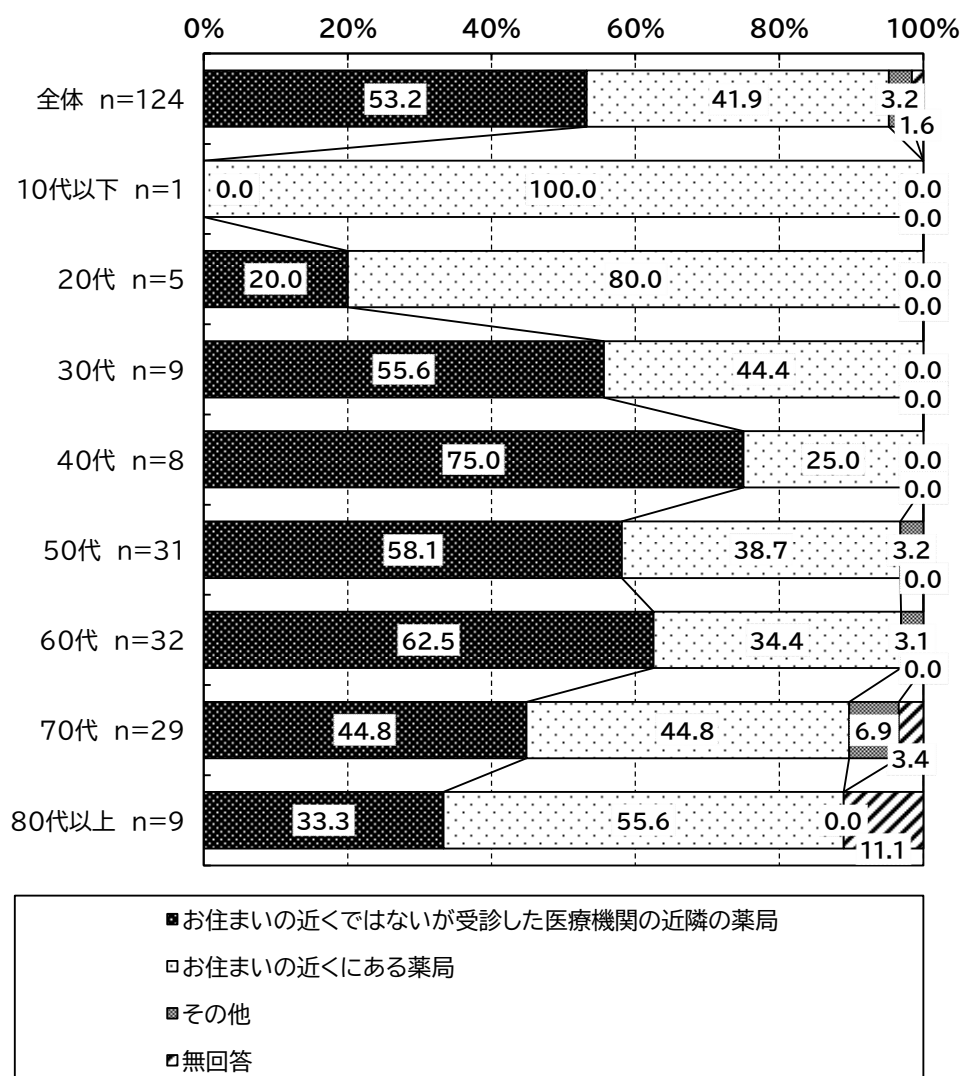
(8) リフィル処方箋の1回目の調剤で行った薬局
 （リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

リフィル処方箋の1回目の処方でどこの薬局に行ったかについては、「お住まいの近くではないが受診した医療機関の近隣の薬局」が53.2%、「お住まいの近くにある薬局」が41.9%、「その他」が3.2%であった。

図表 5-38 リフィル処方箋の1回目の調剤で行った薬局
 （リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
 【性別】



図表 5-39 リフィル処方箋の1回目の調剤で行った薬局
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
【年代別】

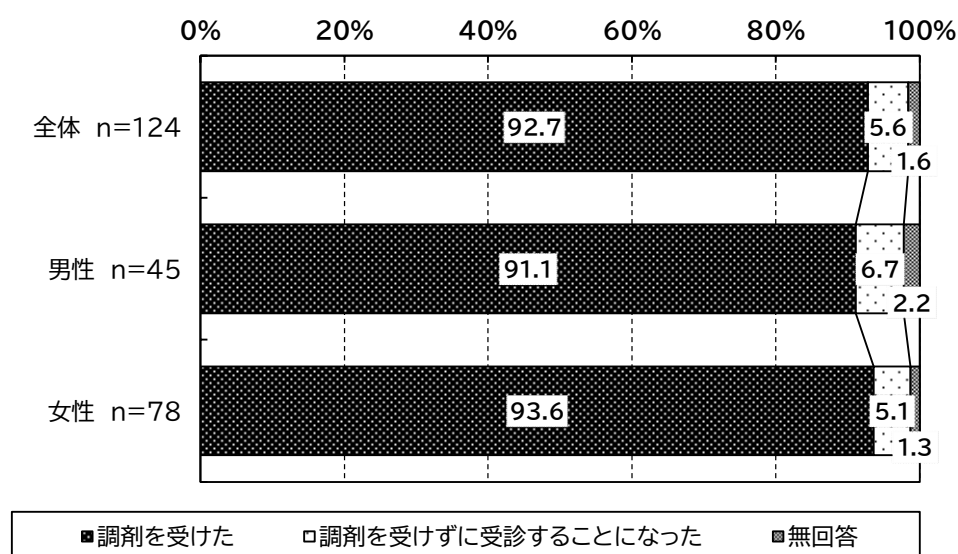


(9) リフィル処方箋の2回目の調剤の状況

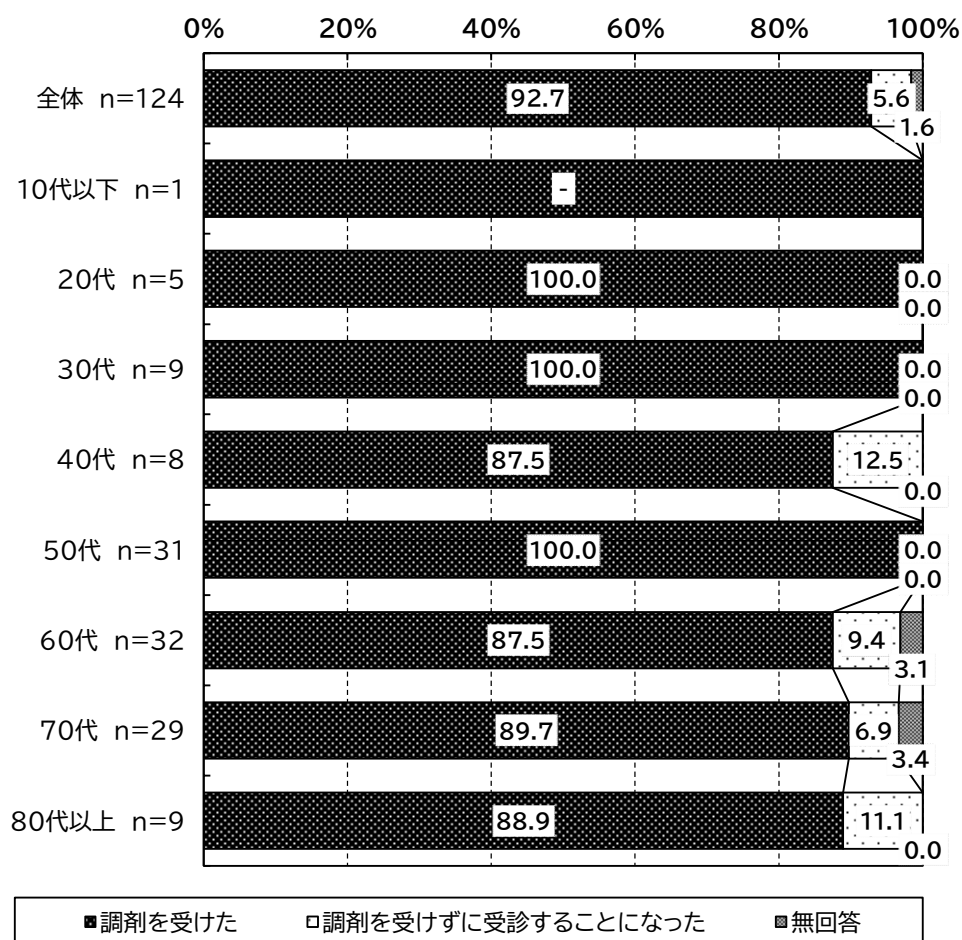
(リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ)

リフィル処方箋の2回目の調剤の状況については、「調剤を受けた」が92.7%、「調剤を受けずに受診することになった」が5.6%、「その他」が1.6%であった。

図表 5-40 リフィル処方箋の2回目の調剤の状況
(リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ)
【性別】



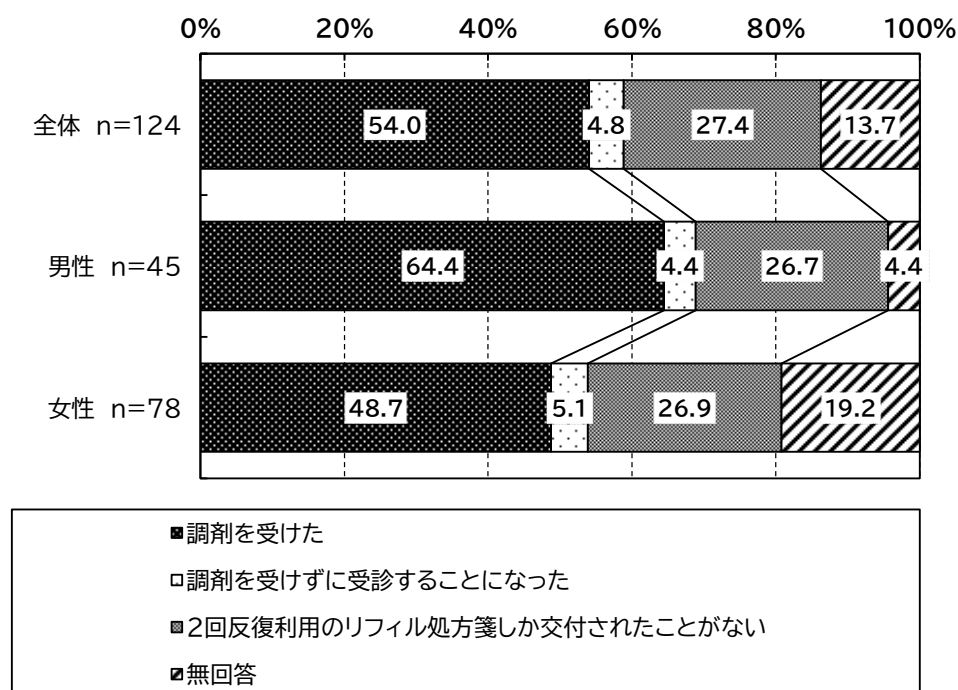
図表 5-41 リフィル処方箋の2回目の調剤の状況
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
【年代別】



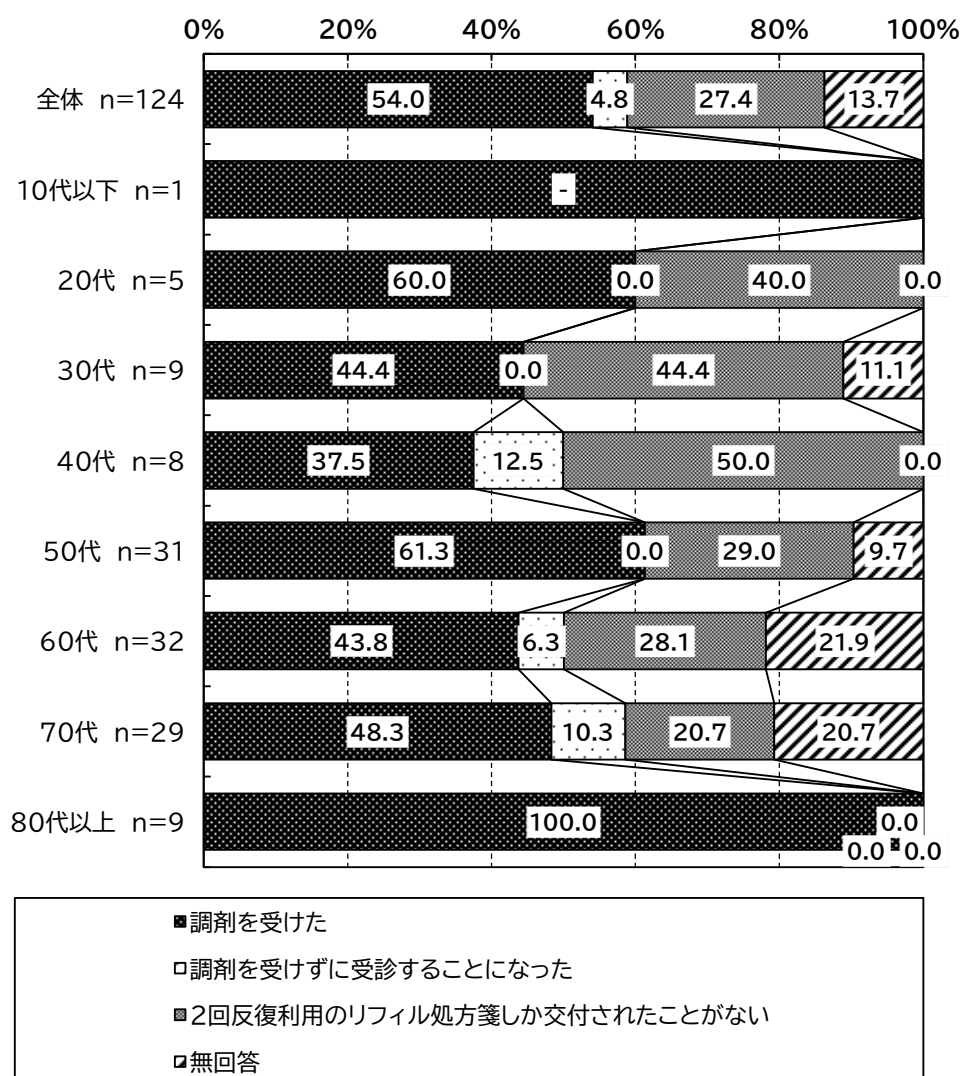
(10) リフィル処方箋の3回目の調剤の状況
 （リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

リフィル処方箋の3回目の調剤の状況については、「調剤を受けた」が54.0%、「調剤を受けずに受診することになった」が4.8%であった。

図表 5-42 リフィル処方箋の3回目の調剤の状況
 （リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
 【性別】



図表 5-43 リフィル処方箋の3回目の調剤の状況
 （リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
 【年代別】



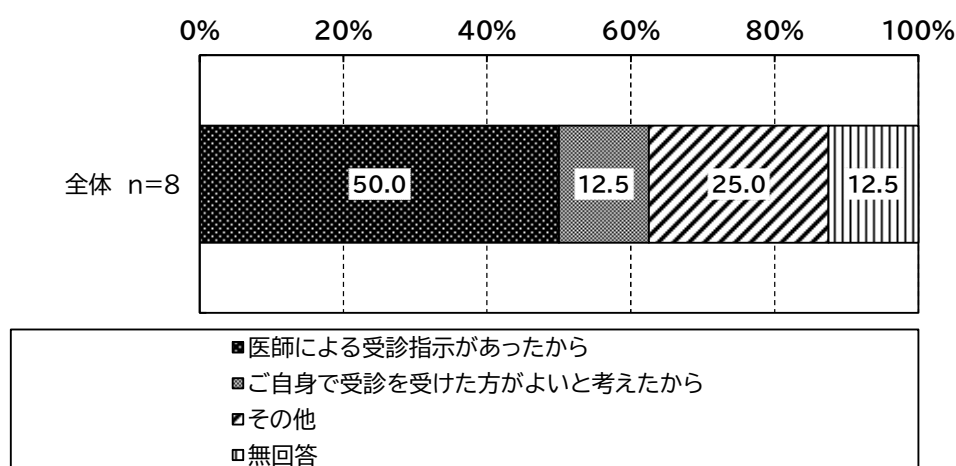
(11) 調剤を受けずに受診することになった理由

（リフィル処方箋の2回目または3回目で「調剤を受けずに受診することになった」と回答した人のみ）

リフィル処方箋の2回目または3回目で「調剤を受けずに受診することになった」と回答した患者において、調剤を受けずに受診することになった理由については、「医師による受診指示があったから」が50.0%、「薬剤師による受診勧奨があったから」が0%、「ご自身で受診を受けた方がよいと考えたから」が12.5%であった。

図表 5-44 調剤を受けずに受診することになった理由

（リフィル処方箋2、3回目の調剤で調剤を受けずに受診することになった場合）



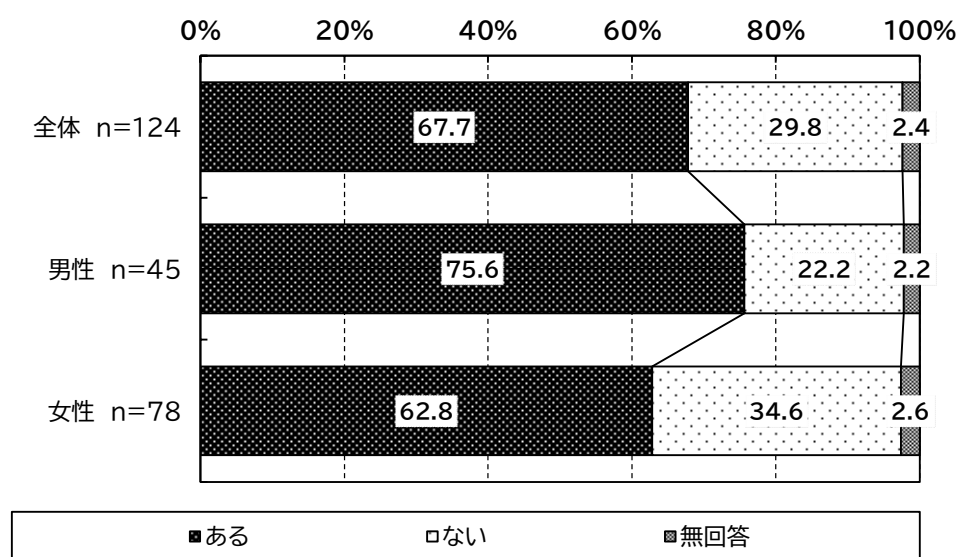
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・ 期間が過ぎたため
- ・ 治療中の症状とは別の症状を発症したため など

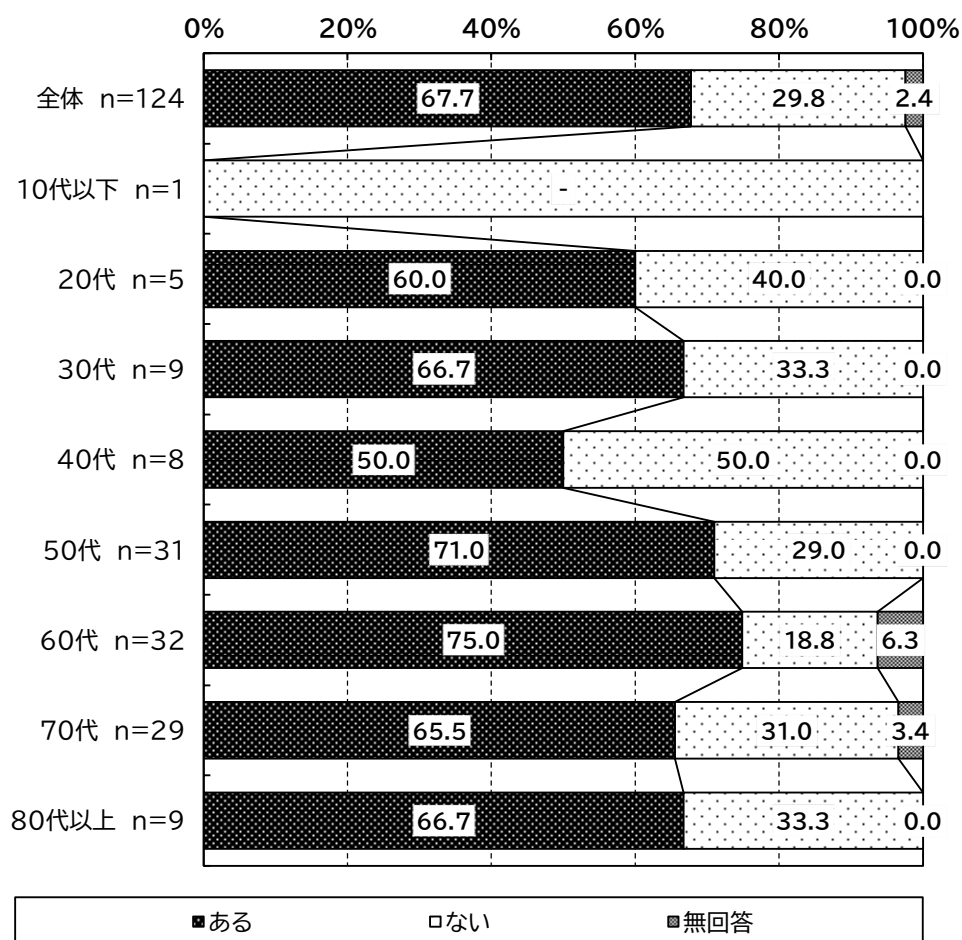
(12) 薬剤師からのフォローアップ（体調などの確認）の有無（リフィル処方箋を交付されたことがある場合）

薬剤師からのフォローアップ（体調などの確認）については、「ある」が 67.7%、「ない」が 29.8%であった。

図表 5-45 薬剤師からのフォローアップ（体調などの確認）の有無
（リフィル処方箋を交付されたことがある場合）
【性別】



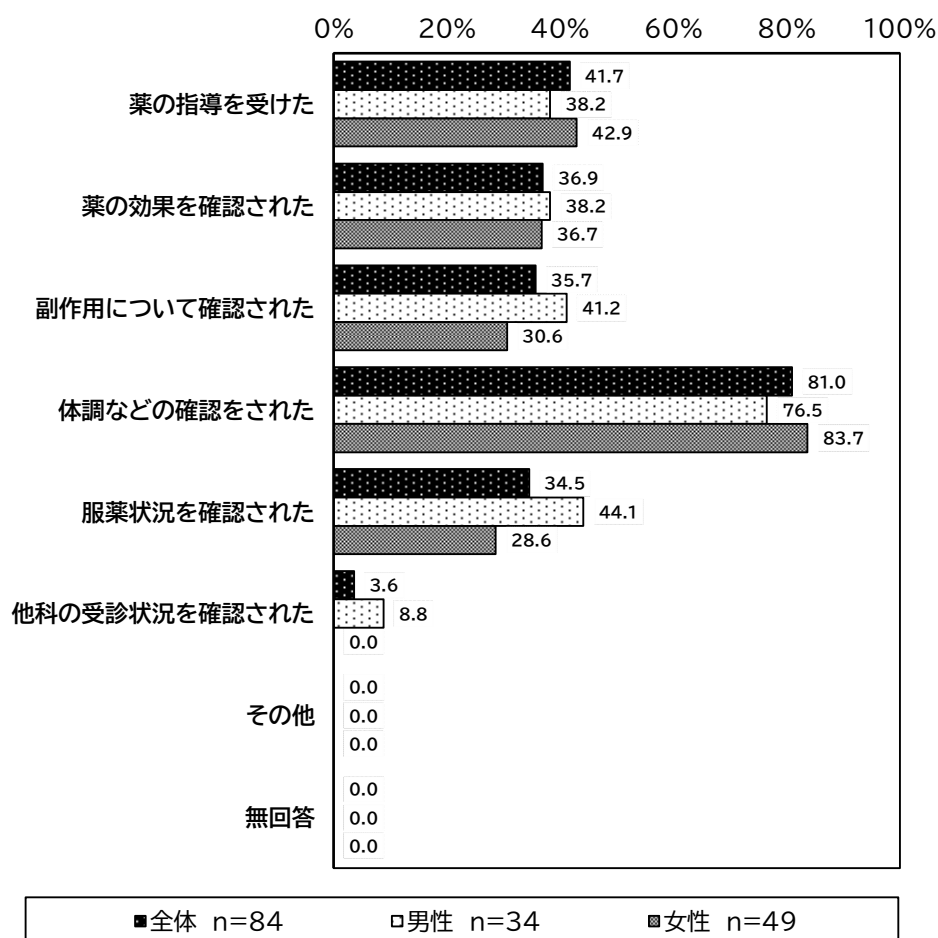
図表 5-46 薬剤師からのフォローアップ（体調などの確認）の有無
（リフィル処方箋を交付されたことがある場合）
【年代別】



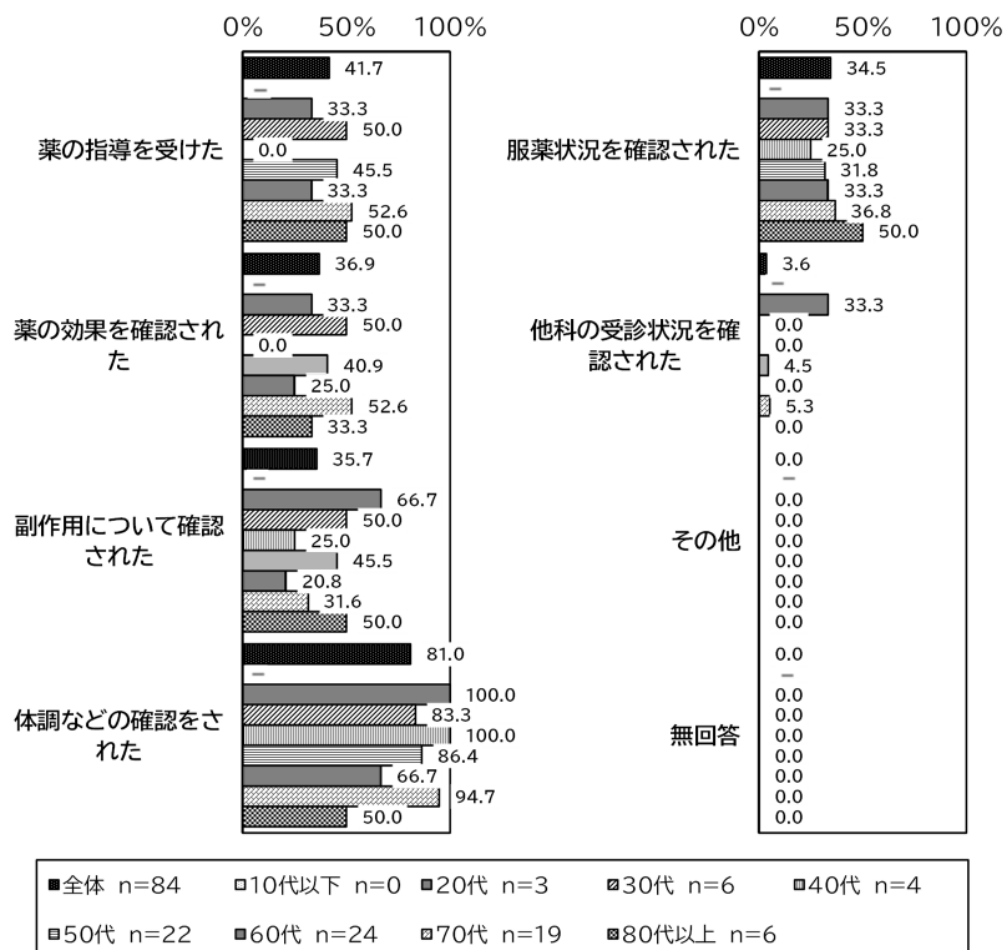
(13) 薬剤師から受けたフォローアップ（体調などの確認）の種類（リフィル処方箋を交付されたことがある場合）

薬剤師から受けたフォローアップ（体調などの確認）の種類については、「体調などの確認をされた」が最も多く 81.0%、次いで「薬の指導を受けた」が多く 41.7%であった。

図表 5-47 薬剤師から受けたフォローアップ（体調などの確認）の種類（複数回答）
（リフィル処方箋を交付されたことがある場合）
【性別】



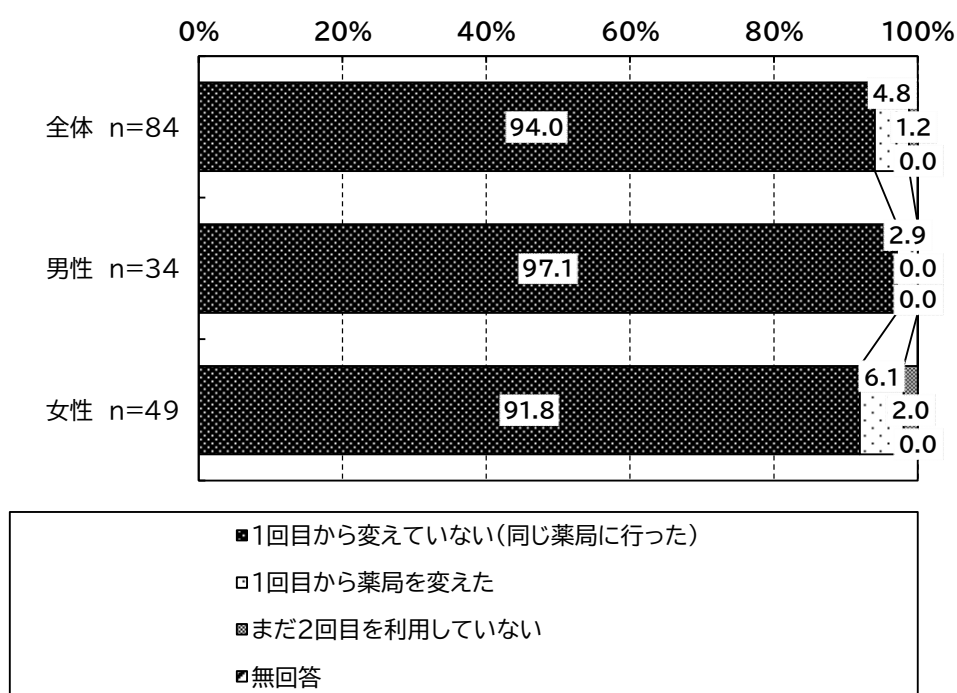
図表 5-48 薬剤師から受けたフォローアップ（体調などの確認）の種類（複数回答）
（リフィル処方箋を交付されたことがある場合）
【年代別】



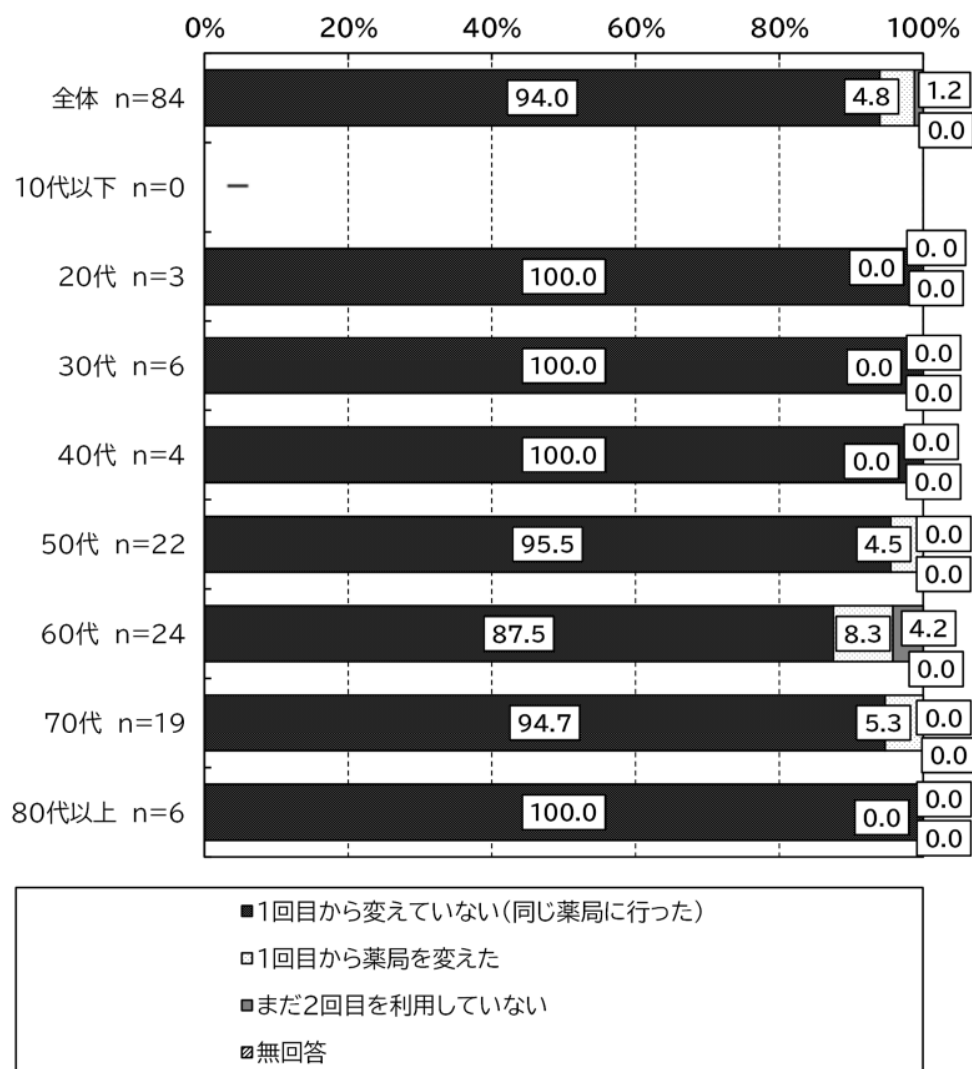
(14) リフィル処方箋の2回目以降の調剤で薬局を変えたか
 （リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

リフィル処方箋の2回目以降の処方で薬局を変えたかについては、「1回目から変えていない（同じ薬局に行った）」が94.0%、「1回目から薬局を変更した」が4.8%、「まだ2回目を利用していない」が1.2%であった。

図表 5-49 リフィル処方箋の2回目以降の調剤で、薬局を変えたか
 （リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
 【性別】



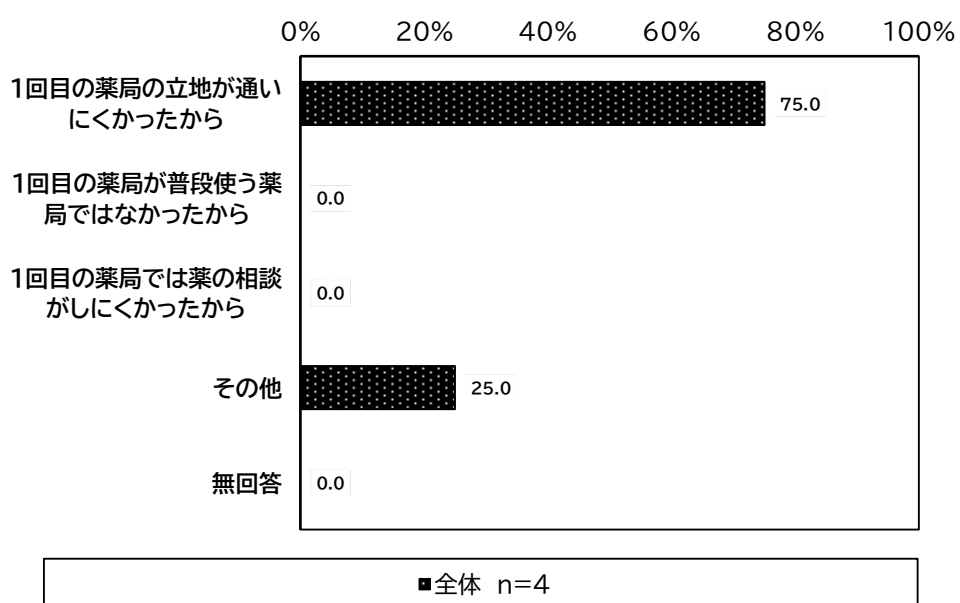
図表 5-50 リフィル処方箋の2回目以降の調剤で、薬局を変えたか
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
【年代別】



（15）薬局を変更した理由（1回目から薬局を変更した患者のみ）

薬局を変更した理由については、「1回目の薬局の立地が通いにくかったから」が最も多く 75.0%、次いで「その他」が多く 25.0%であった。

図表 5-51 薬局を変更した理由（複数回答）
（1回目から薬局を変更した患者のみ）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

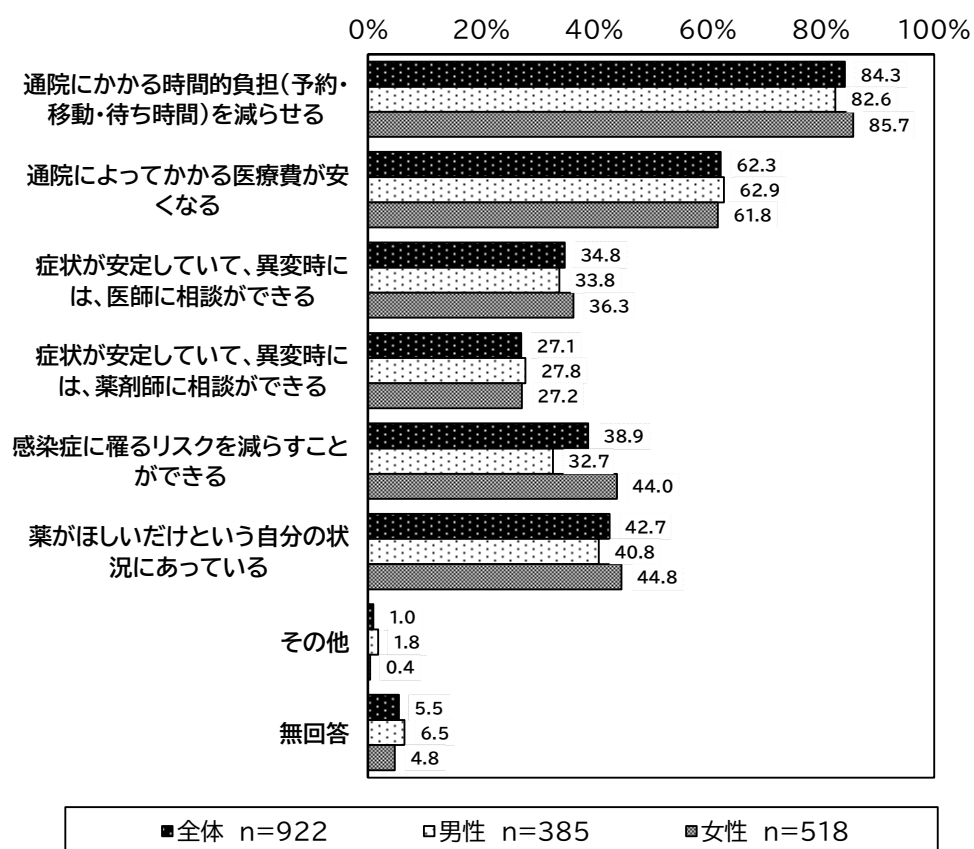
・ネット予約ができる薬局であったから など

4) これからのリフィル処方箋の利用意向

(1) リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの

リフィル処方箋を使用するメリットについては、複数回答では「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」が最も多く 84.3%、次いで「通院によってかかる医療費が安くなる」が多く 62.3%であった。

図表 5-52 リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの
（複数回答）
【性別】

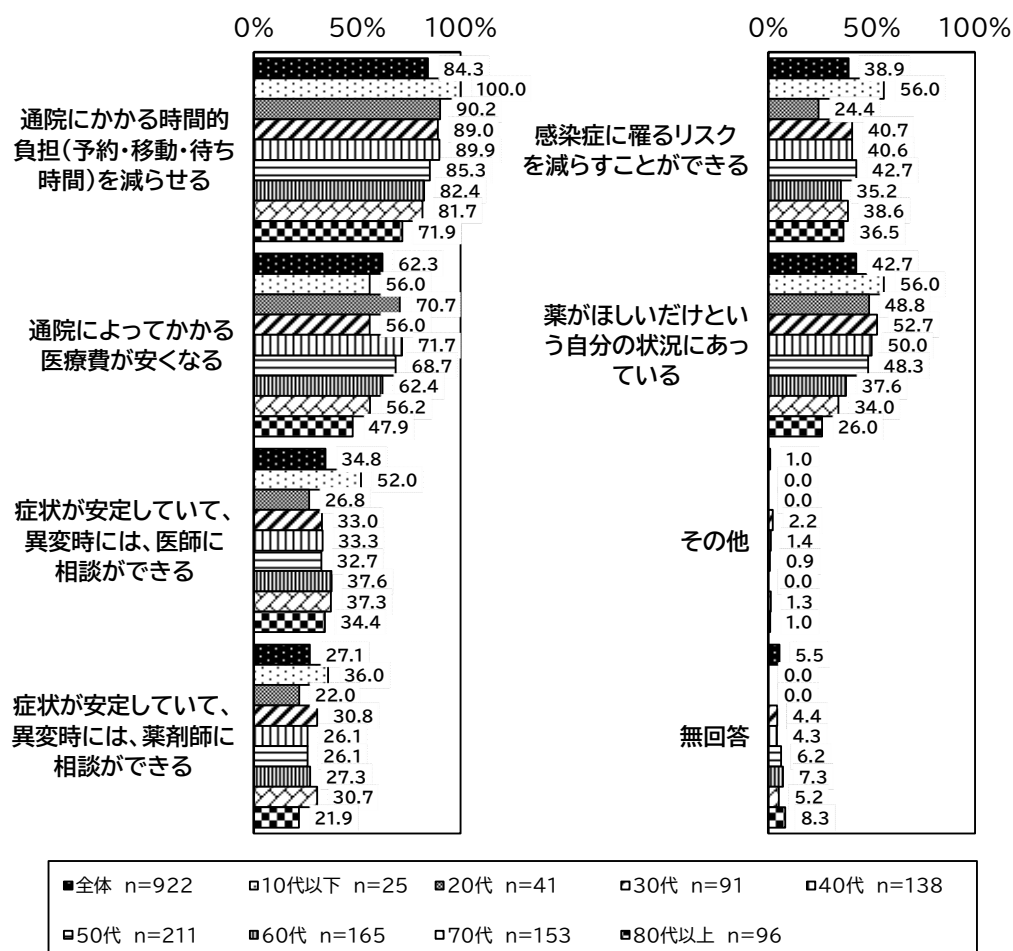


【その他（自由記載）の具体的な内容】

・メリットを感じない など

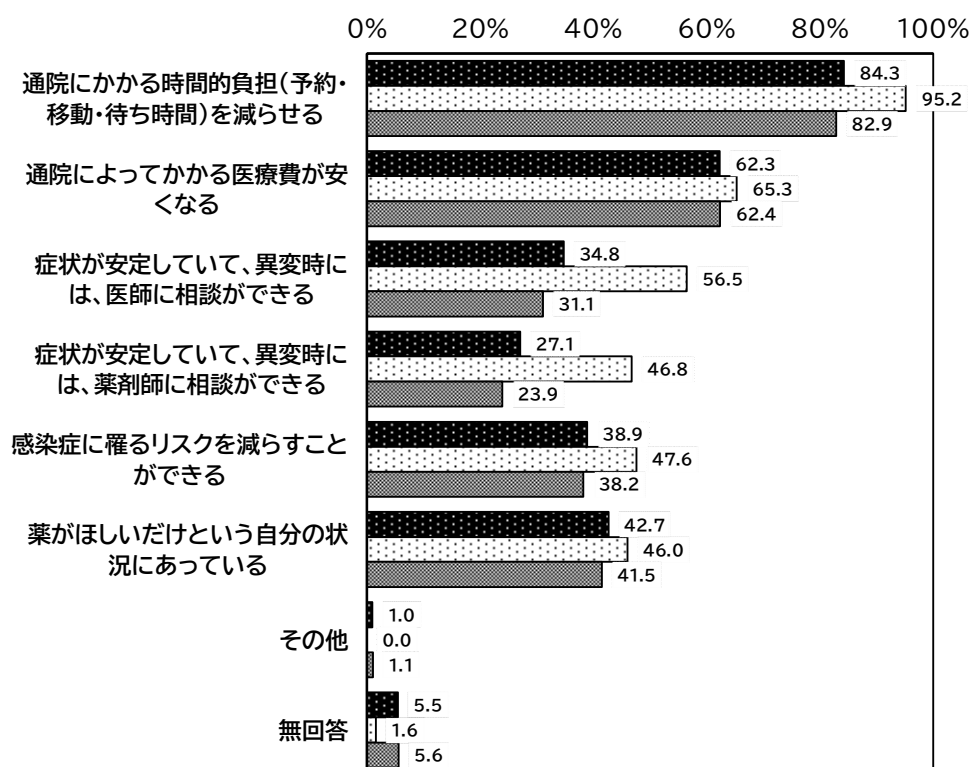
図表 5-53 リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの
（複数回答）

【年代別】



図表 5-54 リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの
（複数回答）

【リフィル処方箋を交付された経験別】



■全体 n=922

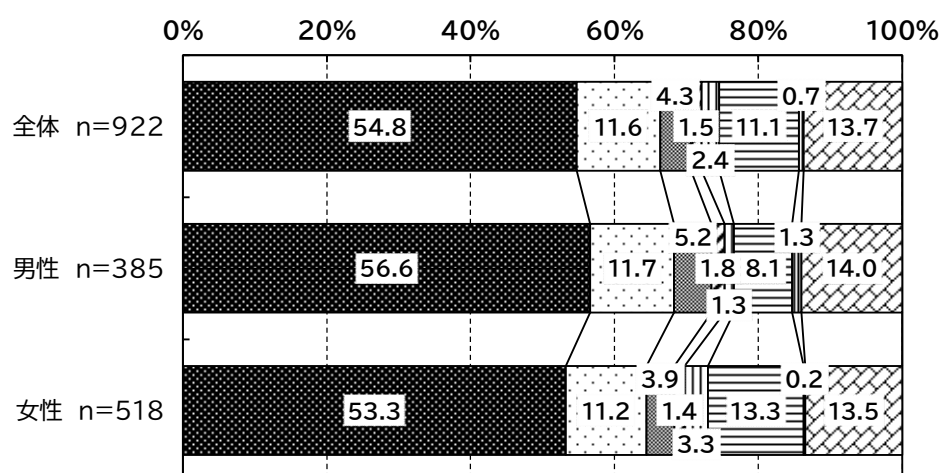
□リフィル処方箋を交付されたことがある n=124

■リフィル処方箋は交付されことはない n=702

(2) リフィル処方箋を使用することについて、最もメリットになると感じるもの

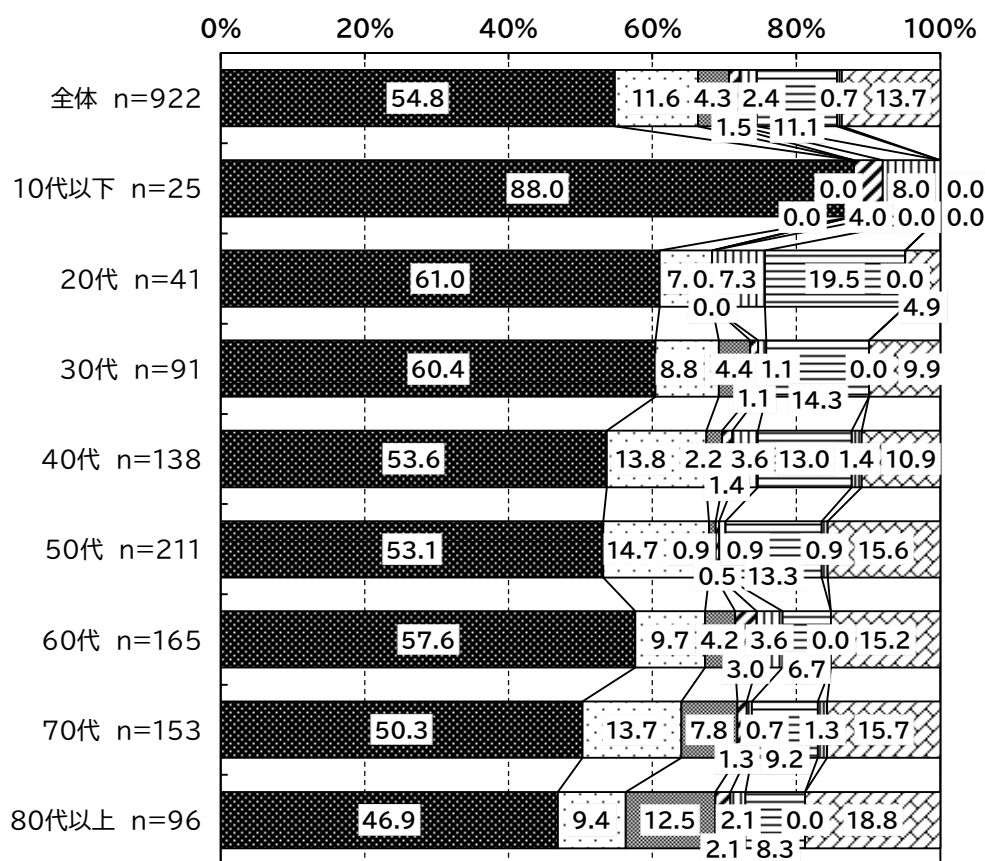
リフィル処方箋を使用することについて、最もメリットになると感じるものについては、「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」が最も多く54.8%、次いで「通院によってかかる医療費が安くなる」が多く11.6%であった。

図表 5-55 リフィル処方箋を使用することについて、最もメリットになると感じるもの
【性別】



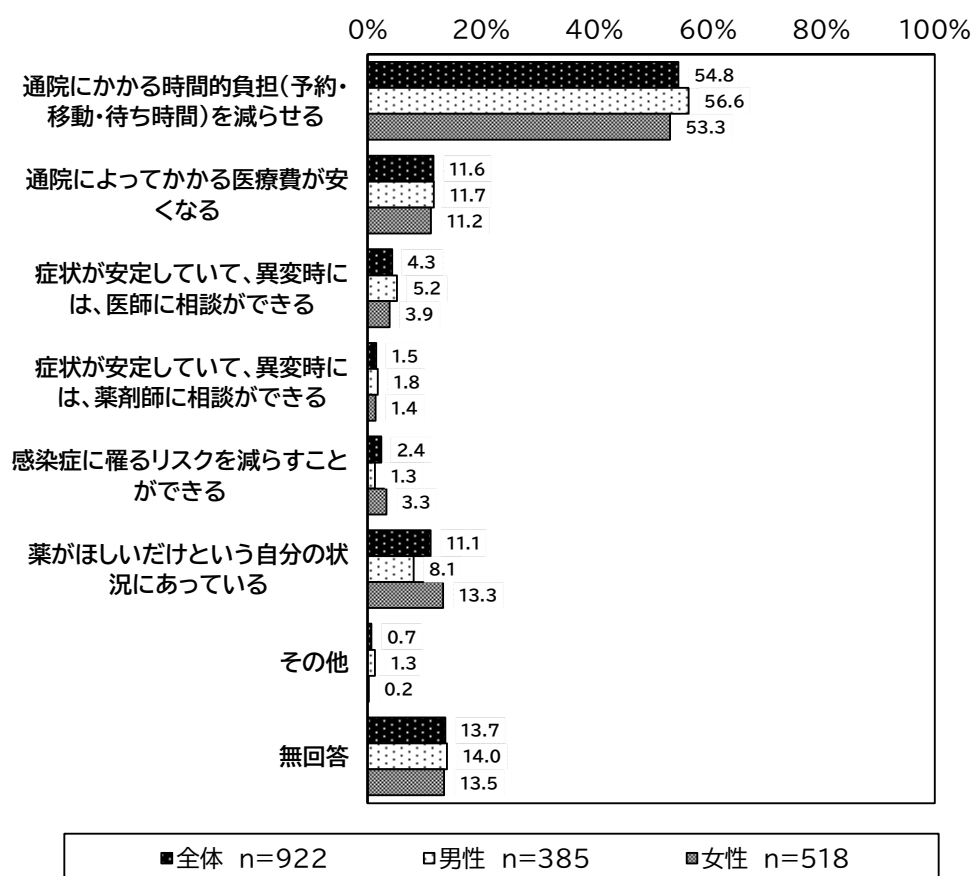
- 通院にかかる時間的負担(予約・移動・待ち時間)を減らせる
- 通院によってかかる医療費が安くなる
- 症状が安定していて、異変時には、医師に相談ができる
- 症状が安定していて、異変時には、薬剤師に相談ができる
- 感染症に罹るリスクを減らすことができる
- 薬がほしいだけという自分の状況にあっている
- その他
- 無回答

図表 5-56 リフィル処方箋を使用することについて、最もメリットになると感じるもの【年代別】



- 通院にかかる時間的負担(予約・移動・待ち時間)を減らせる
- 通院によってかかる医療費が安くなる
- 症状が安定していて、異変時には、医師に相談ができる
- 症状が安定していて、異変時には、薬剤師に相談ができる
- 感染症に罹るリスクを減らすことができる
- 薬がほしいだけという自分の状況にあっている
- その他
- 無回答

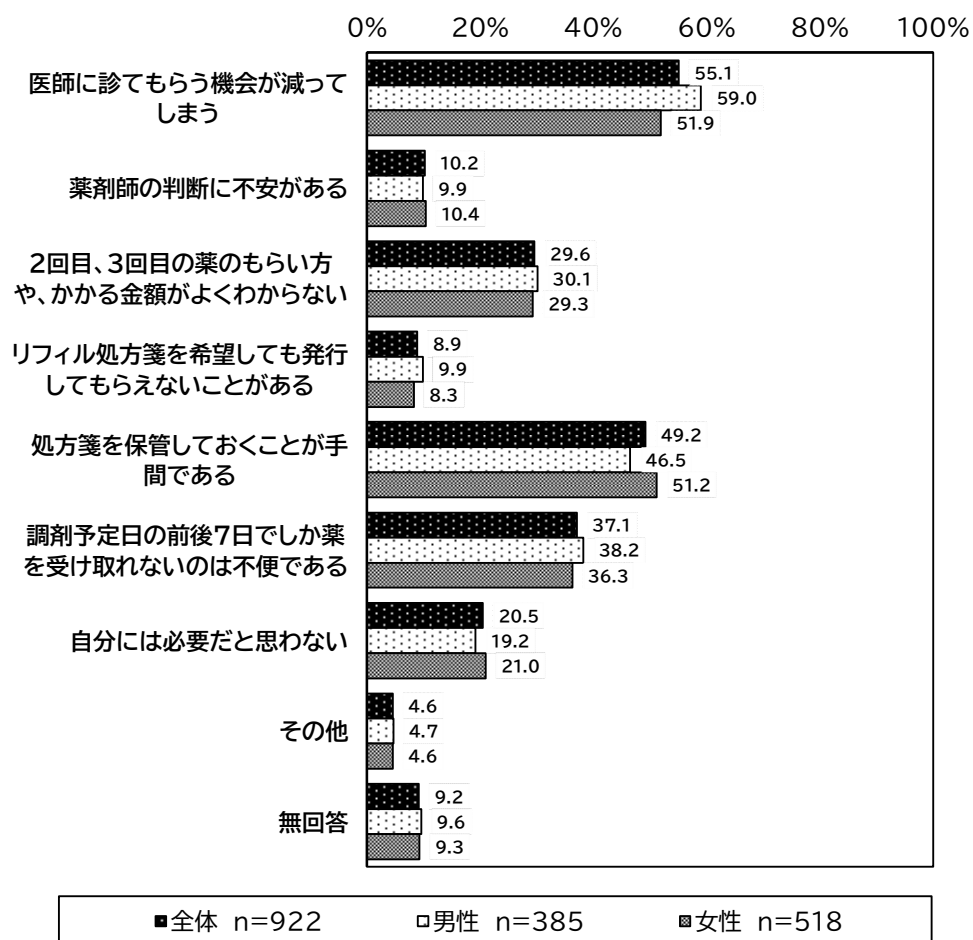
図表 5-57 リフィル処方箋を使用することについて、最もメリットになると感じるもの
【リフィル処方箋を交付された経験別】



(3) リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの

リフィル処方箋を利用することについてデメリットになると感じるものについては、「医師に診てもらえる機会が減ってしまう」が最も多く 55.1%、次いで「処方箋を保管しておくことが手間である」が多く 49.2%であった。

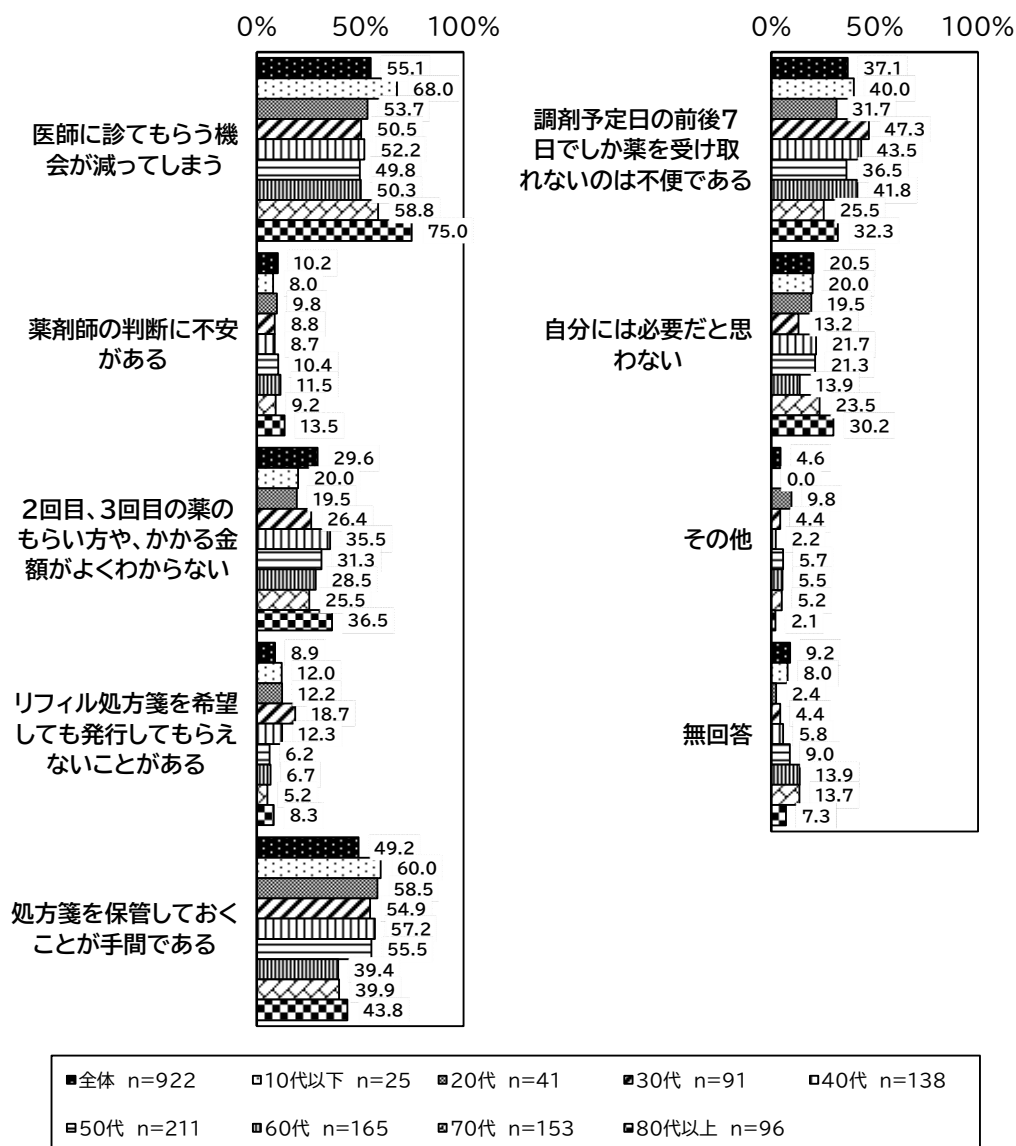
図表 5-58 リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの
(複数回答)
【性別】



【その他（自由記載）の具体的な内容】

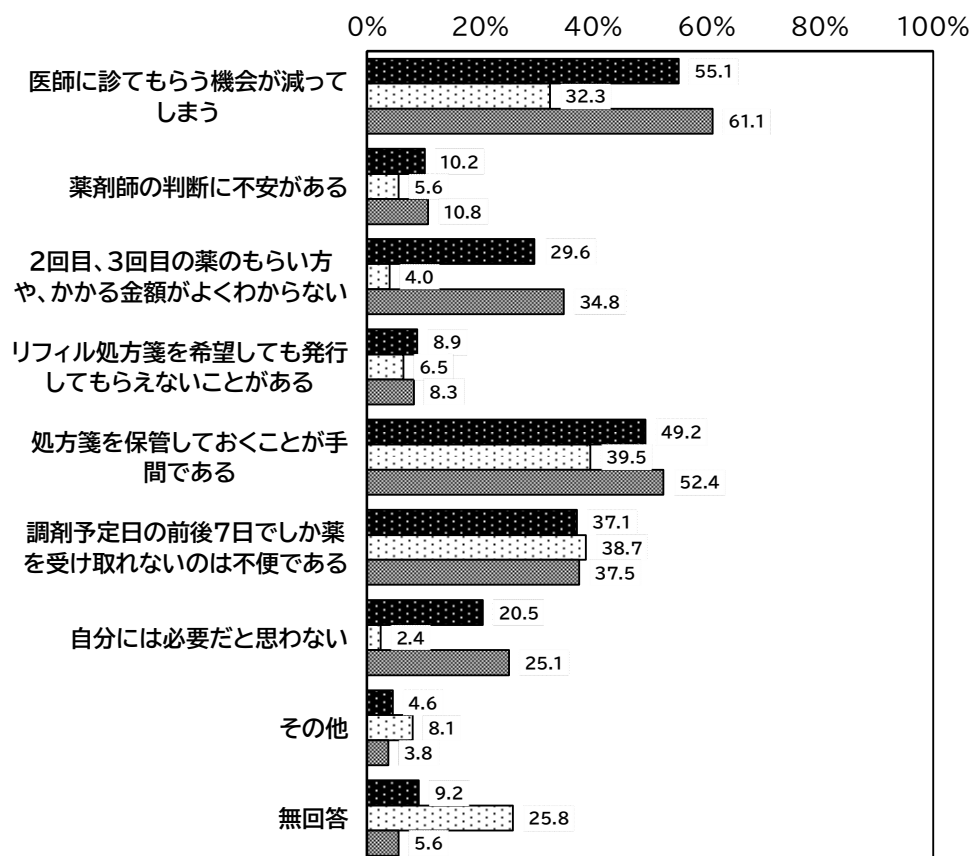
- ・薬局に都度向かう必要があり負担を感じる
- ・支払い料金が增える
- ・受診先の医療機関がリフィルに対応しているかが不明
- ・デメリットを感じない など

図表 5-59 リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの
（複数回答）
【年代別】



図表 5-60 リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの
（複数回答）

【リフィル処方箋を交付された経験別】



■全体 n=922

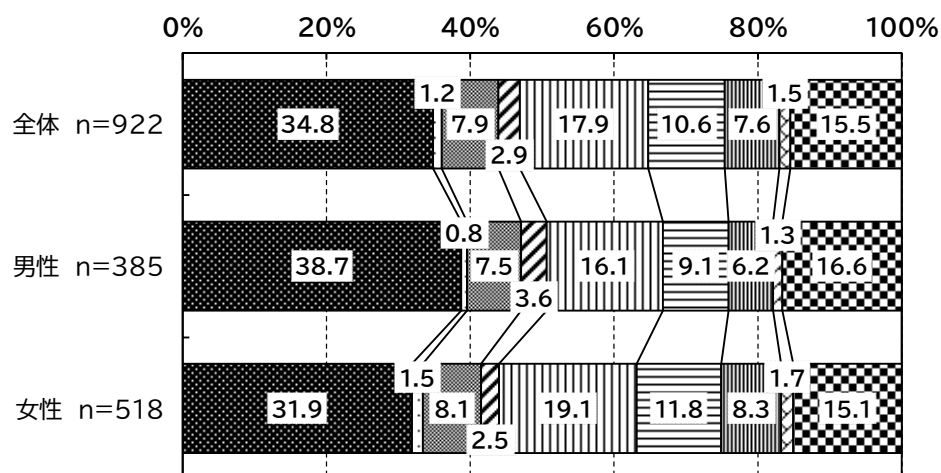
□リフィル処方箋を交付されたことがある n=124

■リフィル処方箋は交付されことはない n=702

(4) リフィル処方箋を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの

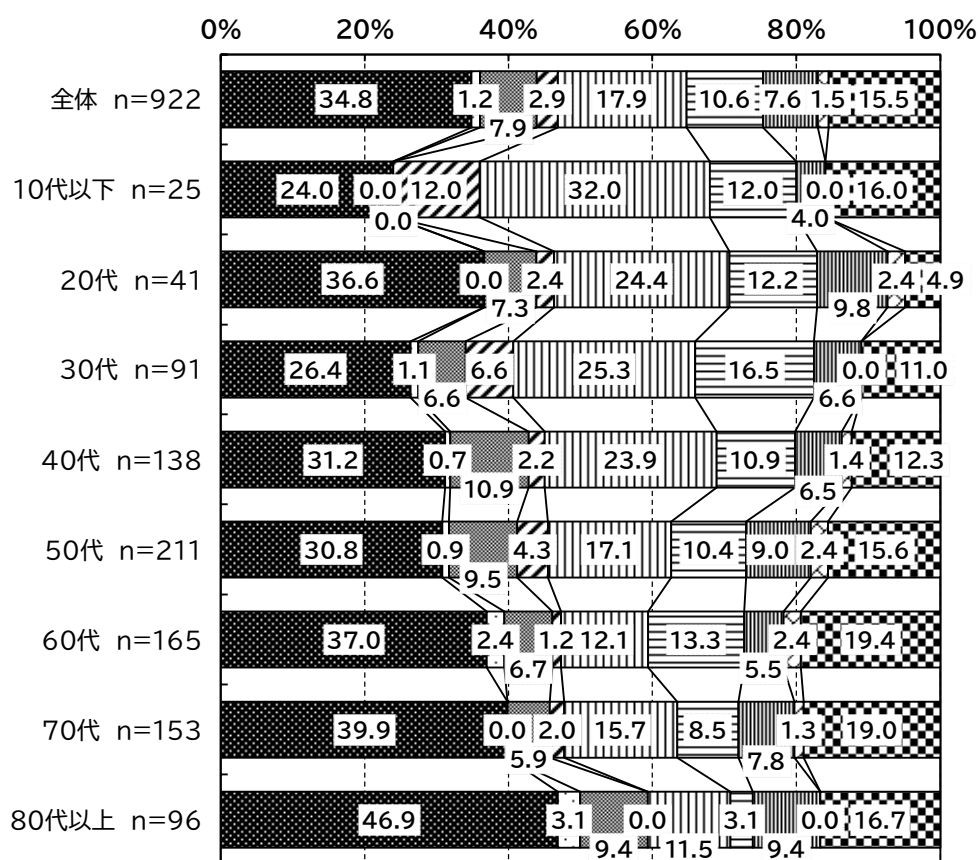
リフィル処方箋を利用することについて最もデメリットになると感じるものについては、「医師に診てもらう機会が減ってしまう」が最も多く 34.8%、次いで「処方箋を保管しておくことが手間である」が多く 17.9%であった。

図表 5-61 リフィル処方箋を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの
【性別】



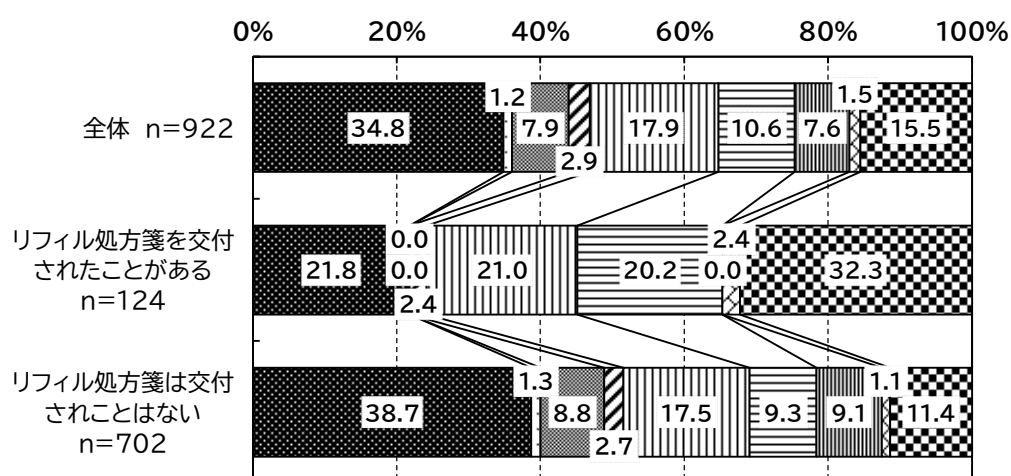
- 医師に診てもらう機会が減ってしまう
- 薬剤師の判断に不安がある
- 2回目、3回目の薬のもらい方や、かかる金額がよくわからない
- リフィル処方箋を希望しても発行してもらえないことがある
- 処方箋を保管しておくことが手間である
- 調剤予定日の前後7日でしか薬を受け取れないのは不便である
- 自分には必要だと思わない
- その他
- 無回答

図表 5-62 リフィル処方箋を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの【年代別】



- 医師に診てもらう機会が減ってしまう
- 薬剤師の判断に不安がある
- 2回目、3回目の薬のもらい方や、かかる金額がよくわからない
- リフィル処方箋を希望しても発行してもらえないことがある
- 処方箋を保管しておくことが手間である
- 調剤予定日の前後7日でしか薬を受け取れないのは不便である
- 自分には必要だと思わない
- その他
- 無回答

図表 5-63 リフィル処方箋を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの
【リフィル処方箋を交付された経験別】

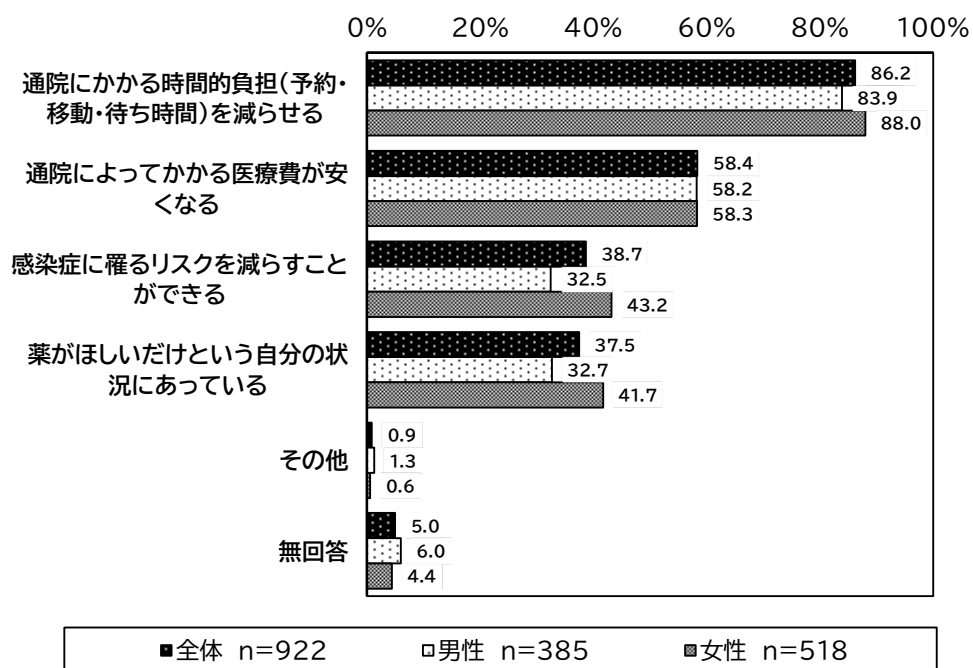


- 医師に診てもらう機会が減ってしまう
- 薬剤師の判断に不安がある
- 2回目、3回目の薬のもらい方や、かかる金額がよくわからない
- リフィル処方箋を希望しても発行してもらえないことがある
- 処方箋を保管しておくことが手間である
- 調剤予定日の前後7日でしか薬を受け取れないのは不便である
- 自分には必要だと思わない
- その他
- 無回答

(5) 長期処方を使用することについて、メリットになると感じるもの

長期処方を使用することについて、メリットになると感じるものについては、「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」が最も多く 86.2%、次いで「通院によってかかる医療費が安くなる」が多く 58.4%であった。

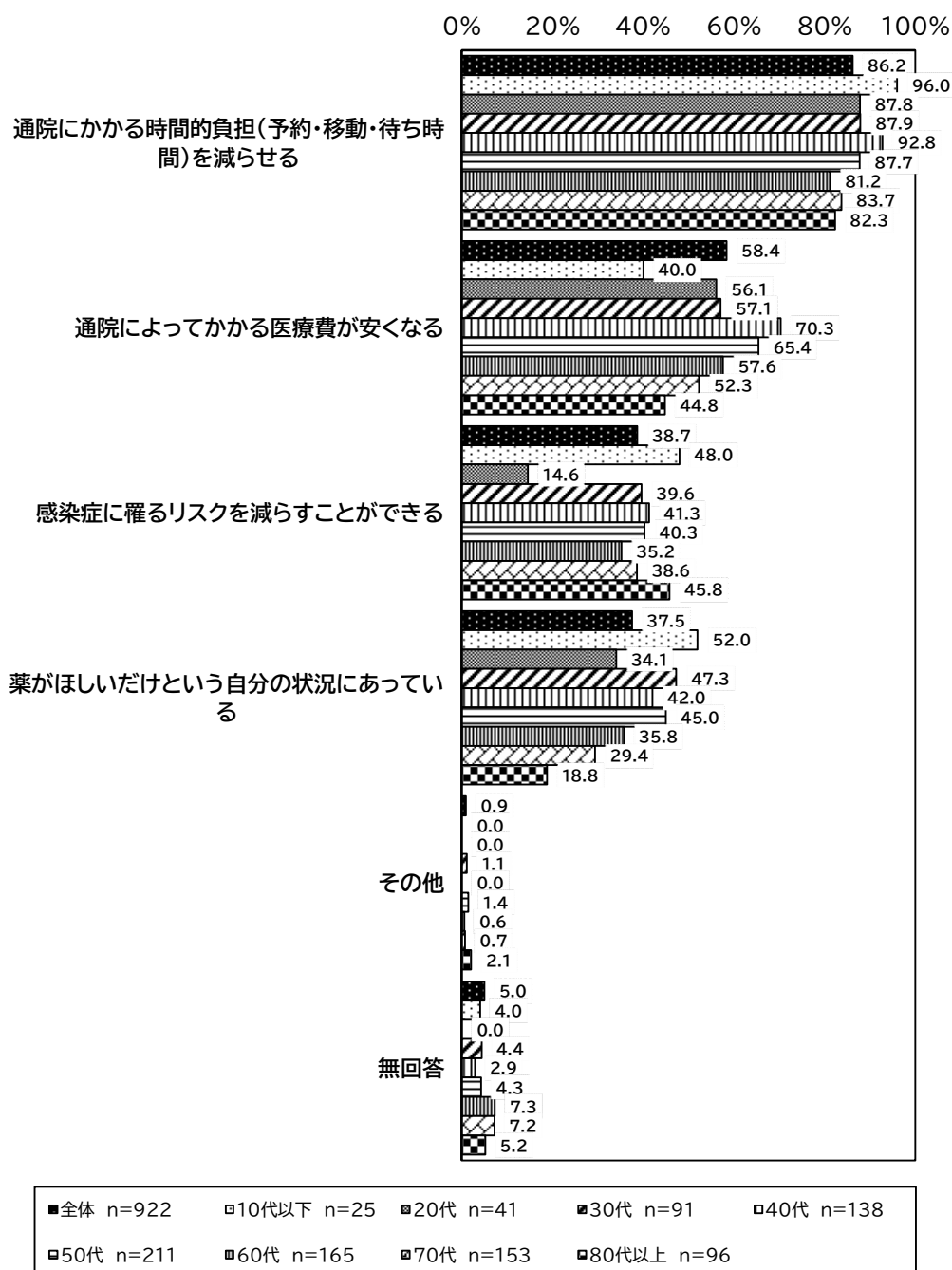
図表 5-64 長期処方を使用することについて、メリットになると感じるもの（複数回答）
【性別】



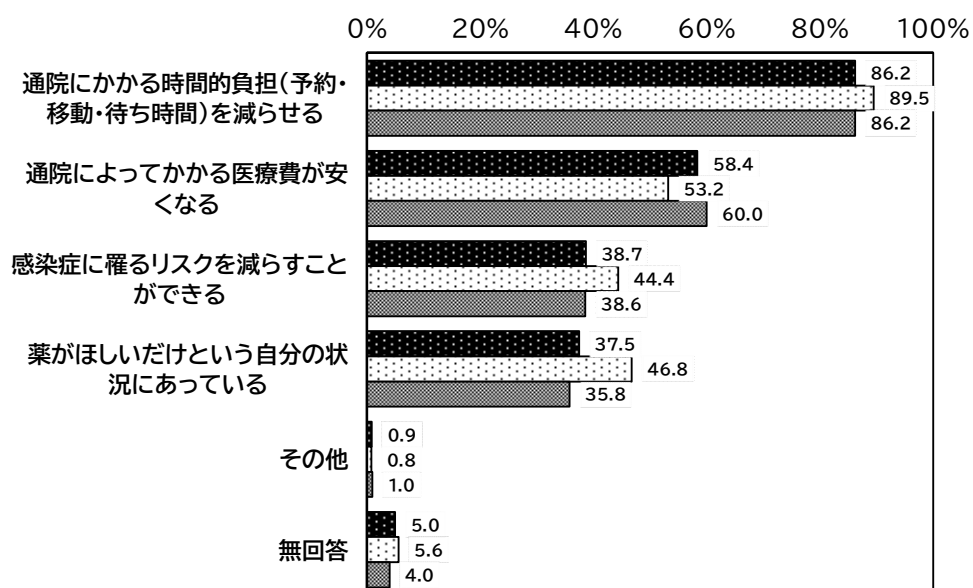
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・医師との面談がある
- ・仕事先の休みを取りやすい
- ・高額医療費の限度を超えた場合超えた分が戻ってくる
- ・メリットを感じない など

図表 5-65 長期処方を使用することについて、メリットになると感じるもの（複数回答）
【年代別】



図表 5-66 長期処方を使用することについて、メリットになると感じるもの（複数回答）
【リフィル処方箋を交付された経験別】



■全体 n=922

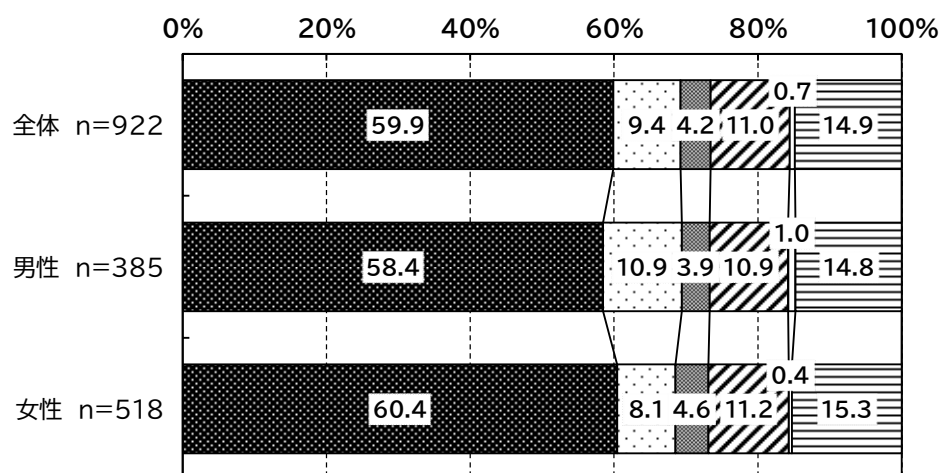
□リフィル処方箋を交付されたことがある n=124

■リフィル処方箋は交付されことはない n=702

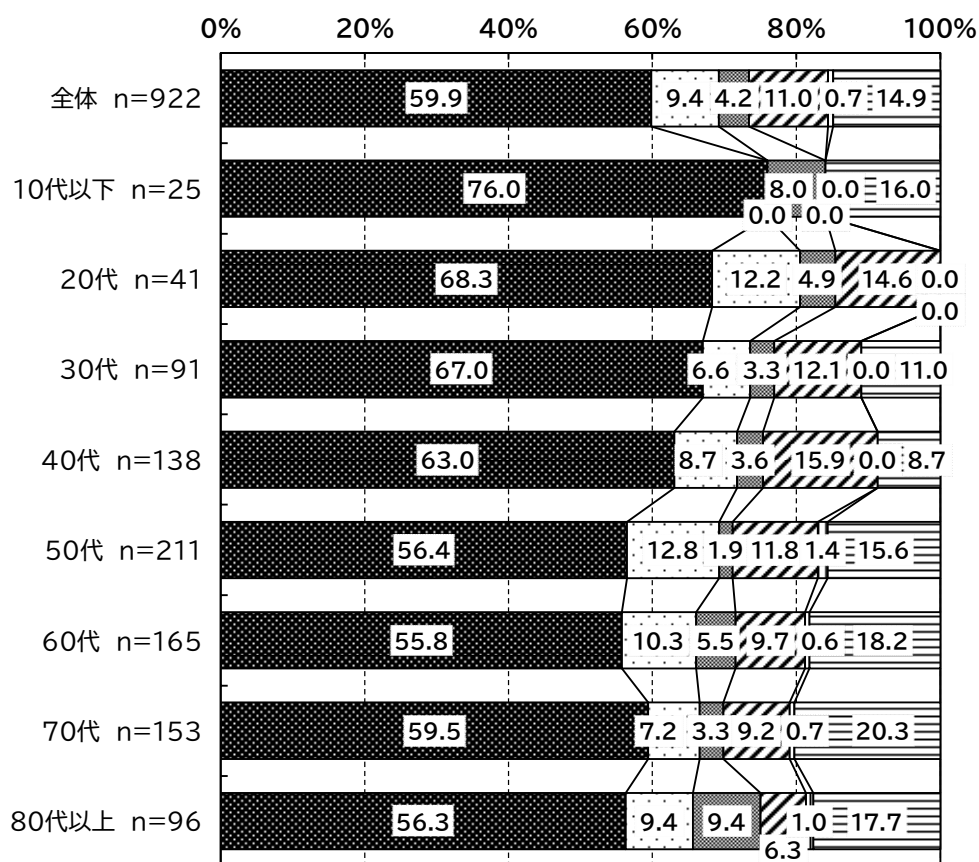
(6) 長期処方を使用することについて、最もメリットになると感じるもの

長期処方を使用することについて、最もメリットになると感じるものについては、「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」が最も多く 59.9%、次いで「薬がほしいだけという自分の状況にあっている」が多く 11.0%であった。

図表 5-67 長期処方を使用することについて、最もメリットになると感じるもの
【性別】

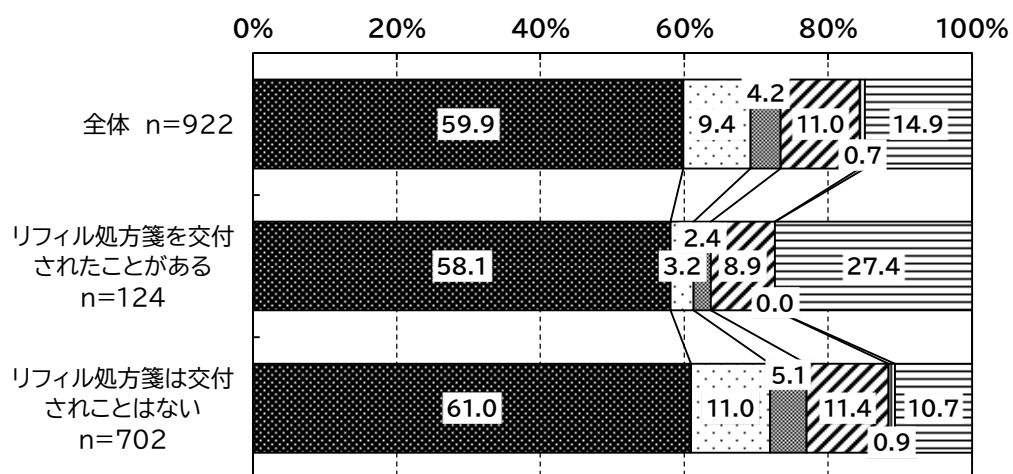


- 通院にかかる時間的負担(予約・移動・待ち時間)を減らせる
- 通院によってかかる医療費が安くなる
- 感染症に罹るリスクを減らすことができる
- 薬がほしいだけという自分の状況にあっている
- その他
- 無回答

図表 5-68 長期処方を使用することについて、最もメリットになると感じるもの
【年代別】

- 通院にかかる時間的負担(予約・移動・待ち時間)を減らせる
- 通院によってかかる医療費が安くなる
- 感染症に罹るリスクを減らすことができる
- 薬がほしいだけという自分の状況にあっている
- その他
- 無回答

図表 5-69 長期処方を使用することについて、最もメリットになると感じるもの
【リフィル処方箋を交付された経験別】

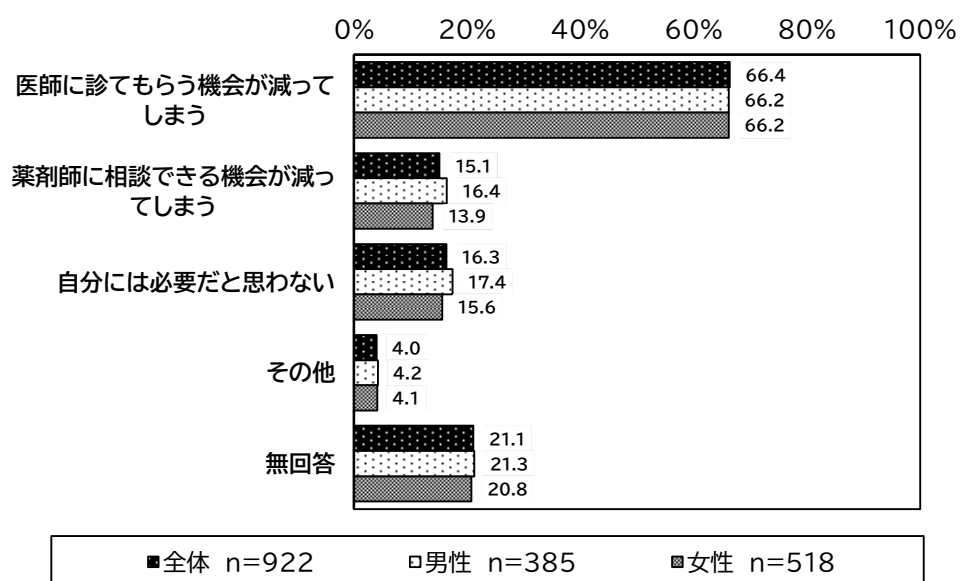


- 通院にかかる時間的負担(予約・移動・待ち時間)を減らせる
- 通院によってかかる医療費が安くなる
- 感染症に罹るリスクを減らすことができる
- 薬がほしいだけという自分の状況にあっている
- その他
- 無回答

(7) 長期処方を使用することについて、デメリットになると感じるもの

長期処方を使用することについて、デメリットになると感じるものについては、「医師に診てもらう機会が減ってしまう」が最も多く 66.4%、次いで「自分（患者）は必要だと思わない」が多く 16.3%であった。

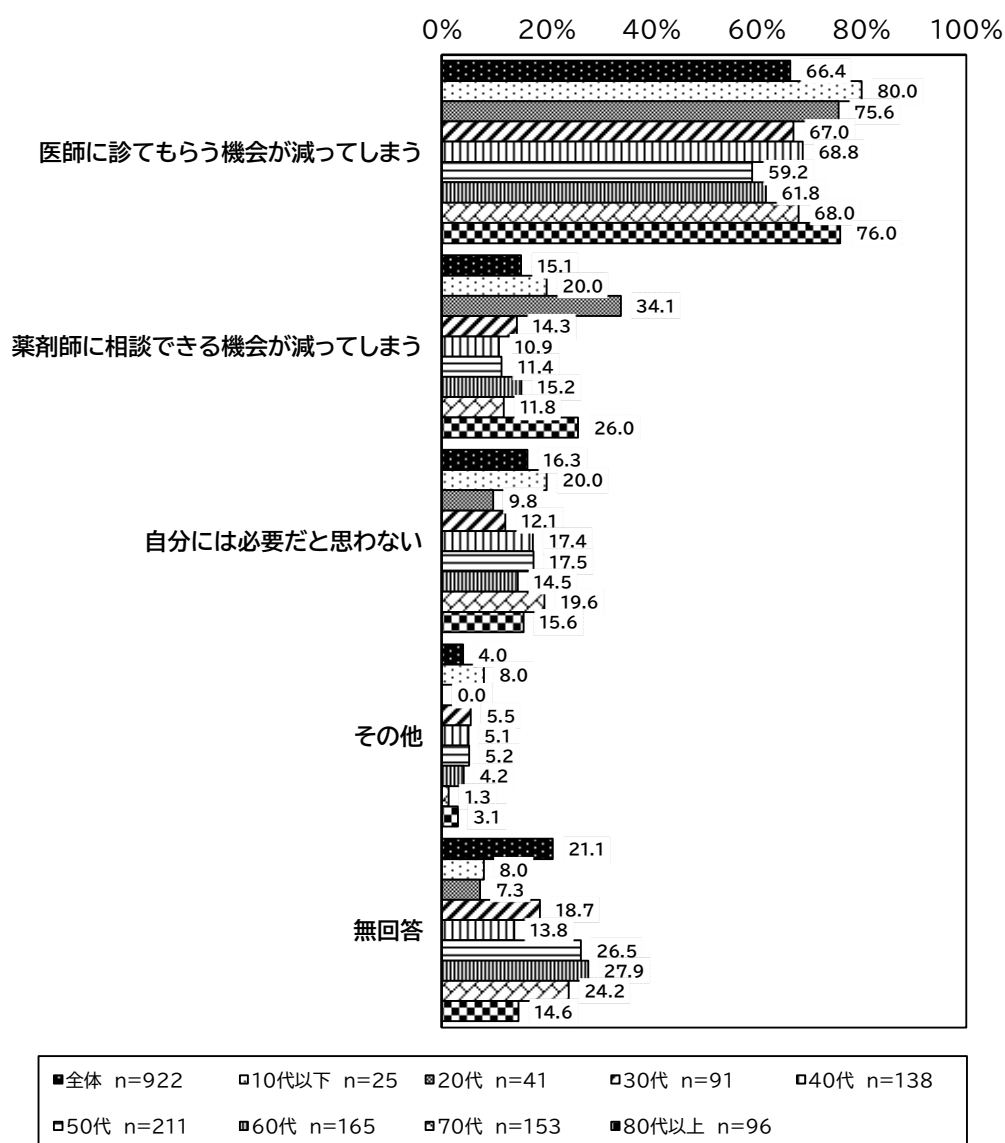
図表 5-70 長期処方を使用することについて、デメリットになると感じるもの（複数回答）
【性別】



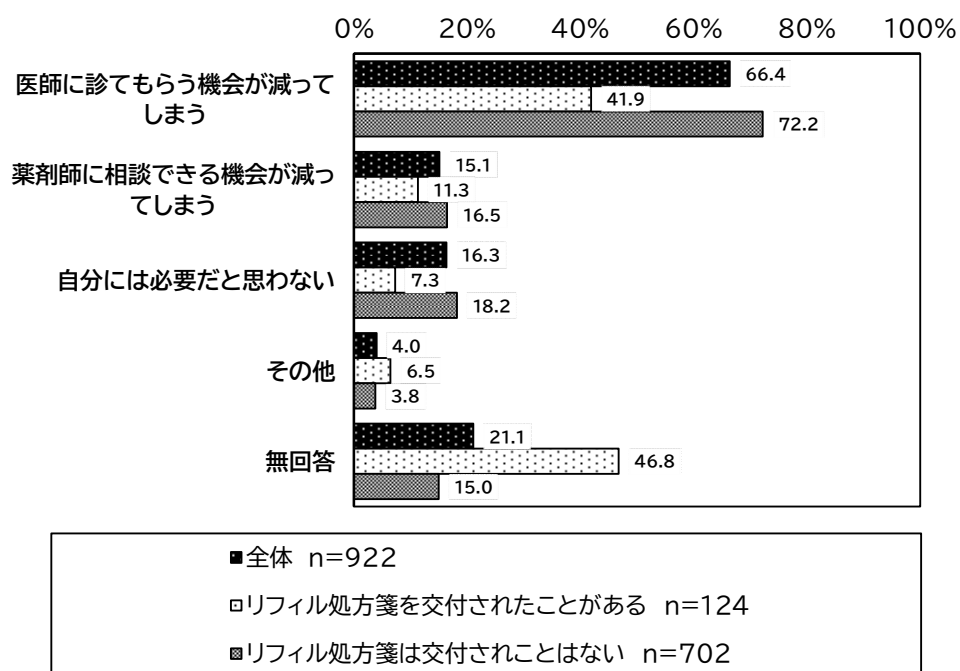
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・症状変化に応じた内服の調整が困難
- ・処方薬の保管管理が手間に感じる
- ・症状に応じて都度受診している
- ・デメリットを感じない など

図表 5-71 長期処方を使用することについて、デメリットになると感じるもの（複数回答）
【年代別】



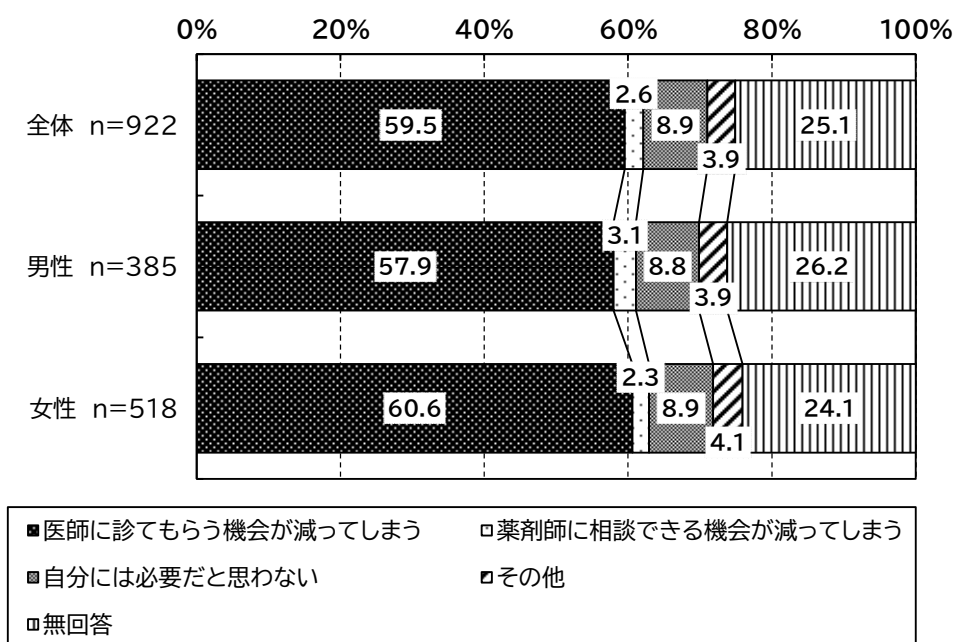
図表 5-72 長期処方を使用することについて、デメリットになると感じるもの（複数回答）
【リフィル処方箋を交付された経験別】

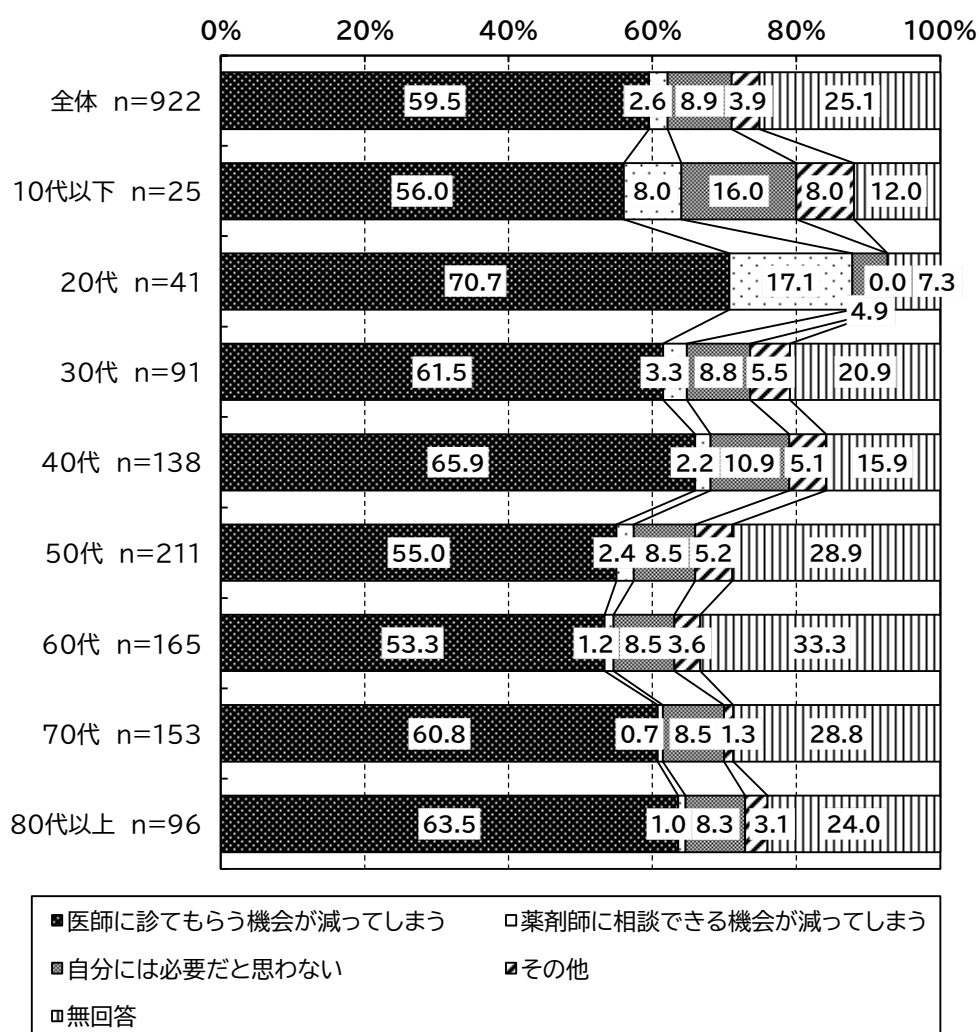


(8) 長期処方を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの

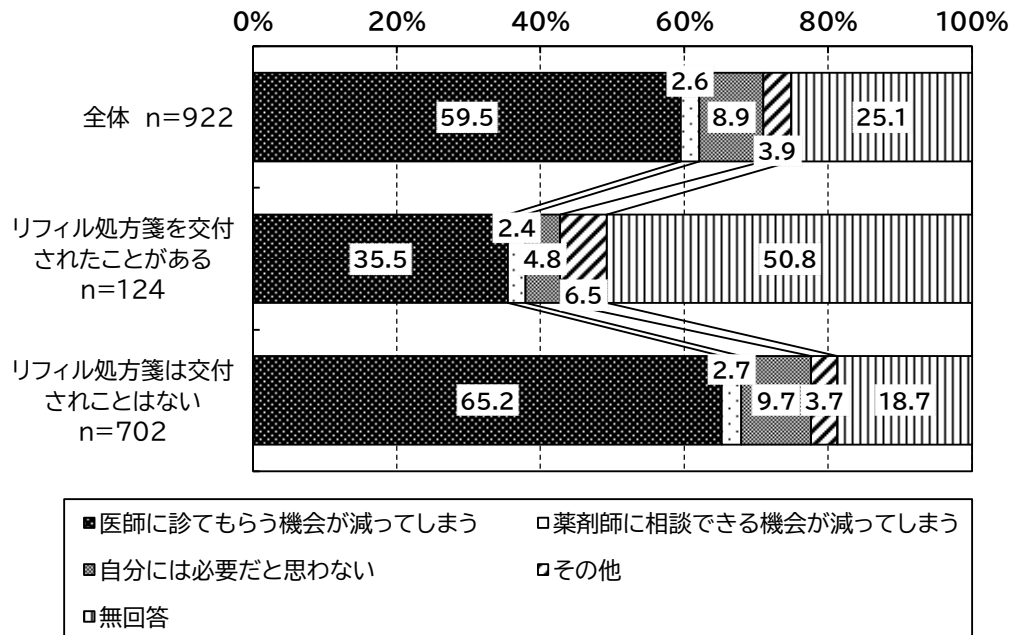
長期処方を使用することについて、最もデメリットになると感じるものについては、「医師に診てもらえる機会が減ってしまう」が最も多く 59.5%、次いで「自分には必要だと思わない」が多く 8.9%であった。

図表 5-73 長期処方を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの
【性別】



図表 5-74 長期処方を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの
【年代別】

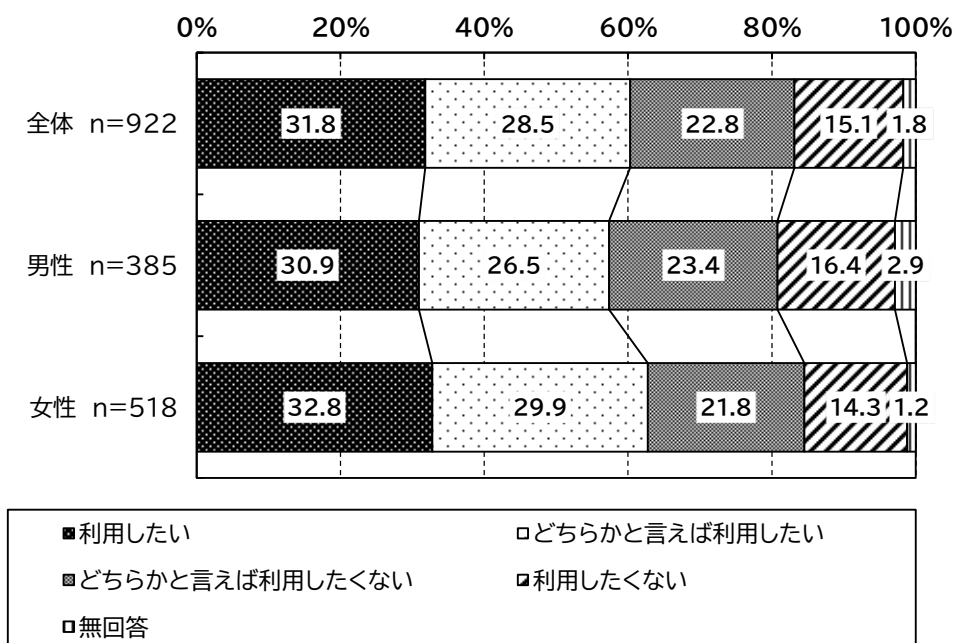
図表 5-75 長期処方を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの
【リフィル処方箋を交付された経験別】



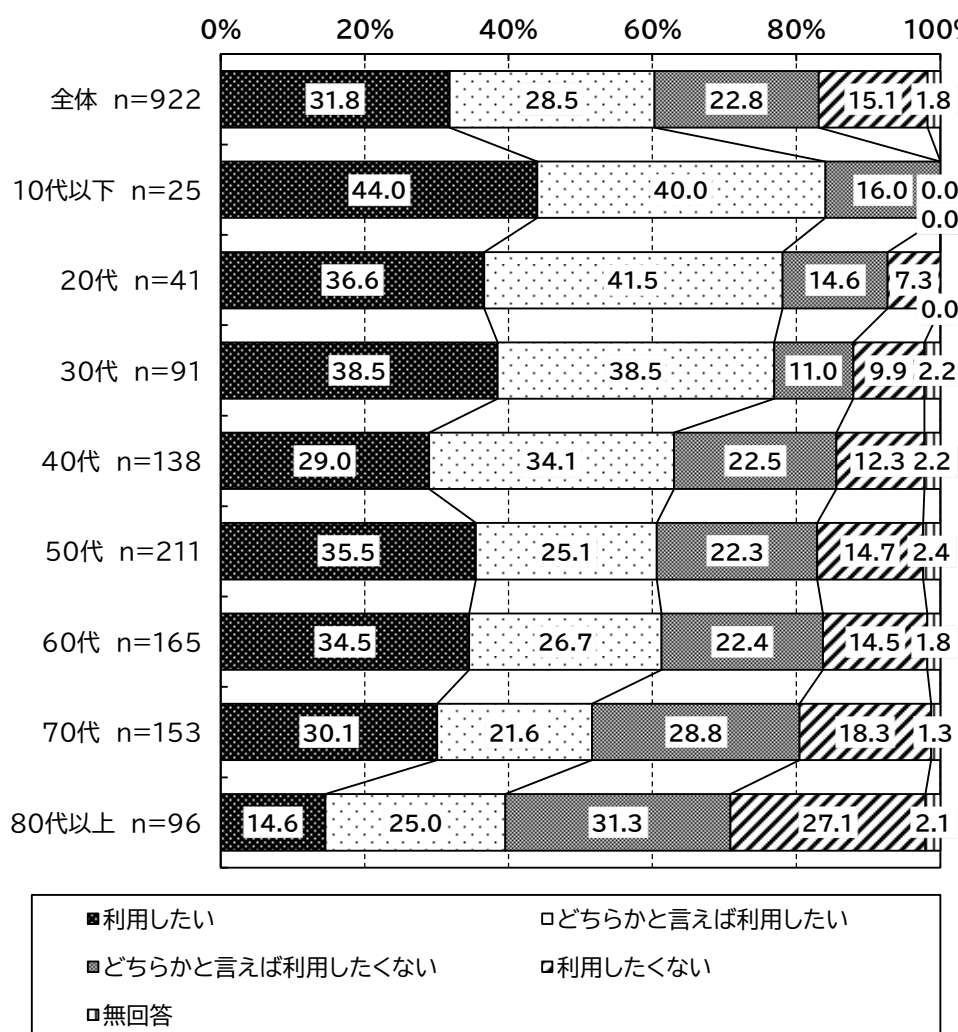
(9) 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか

今後、症状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいかについては、「利用したい」が31.8%、「どちらかと言えば利用したい」が28.5%、「どちらかと言えば利用したくない」が22.8%、「利用したくない」が15.1%であった。

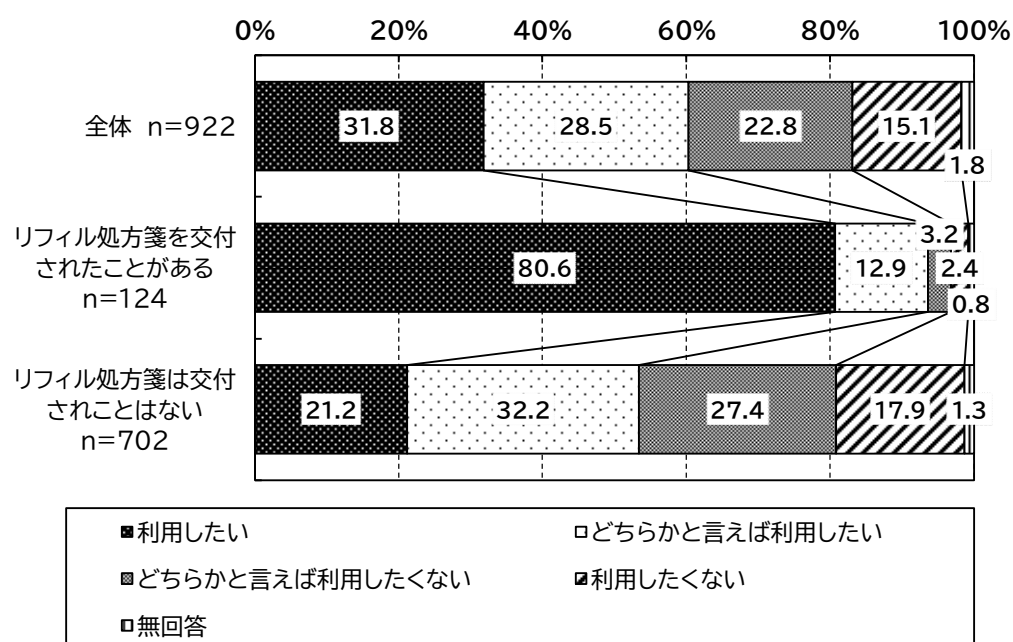
図表 5-76 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか
【性別】



図表 5-77 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか
【年代別】



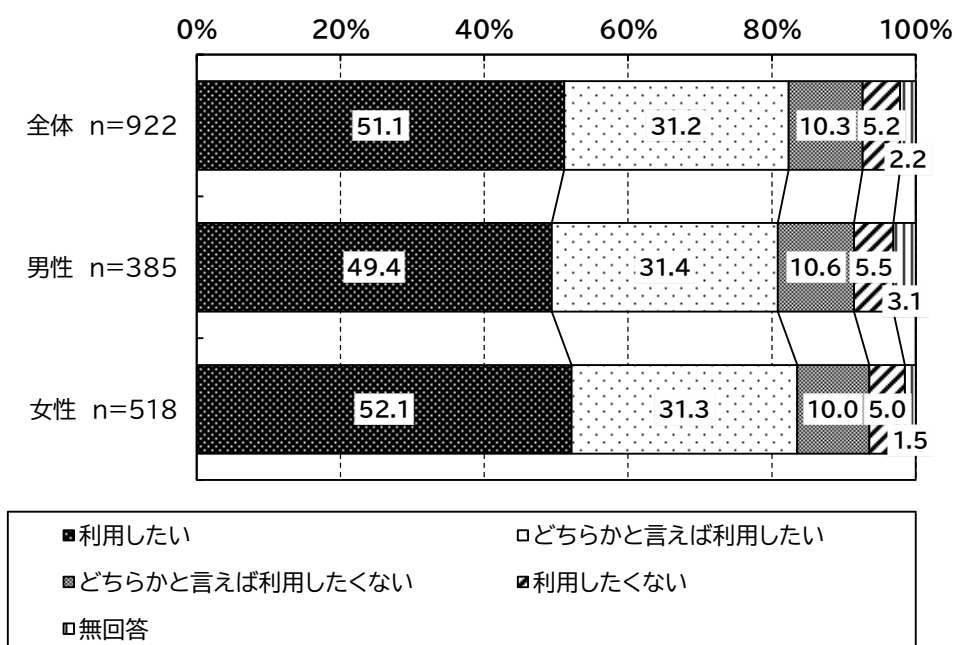
図表 5-78 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか
【リフィル処方箋を交付された経験別】



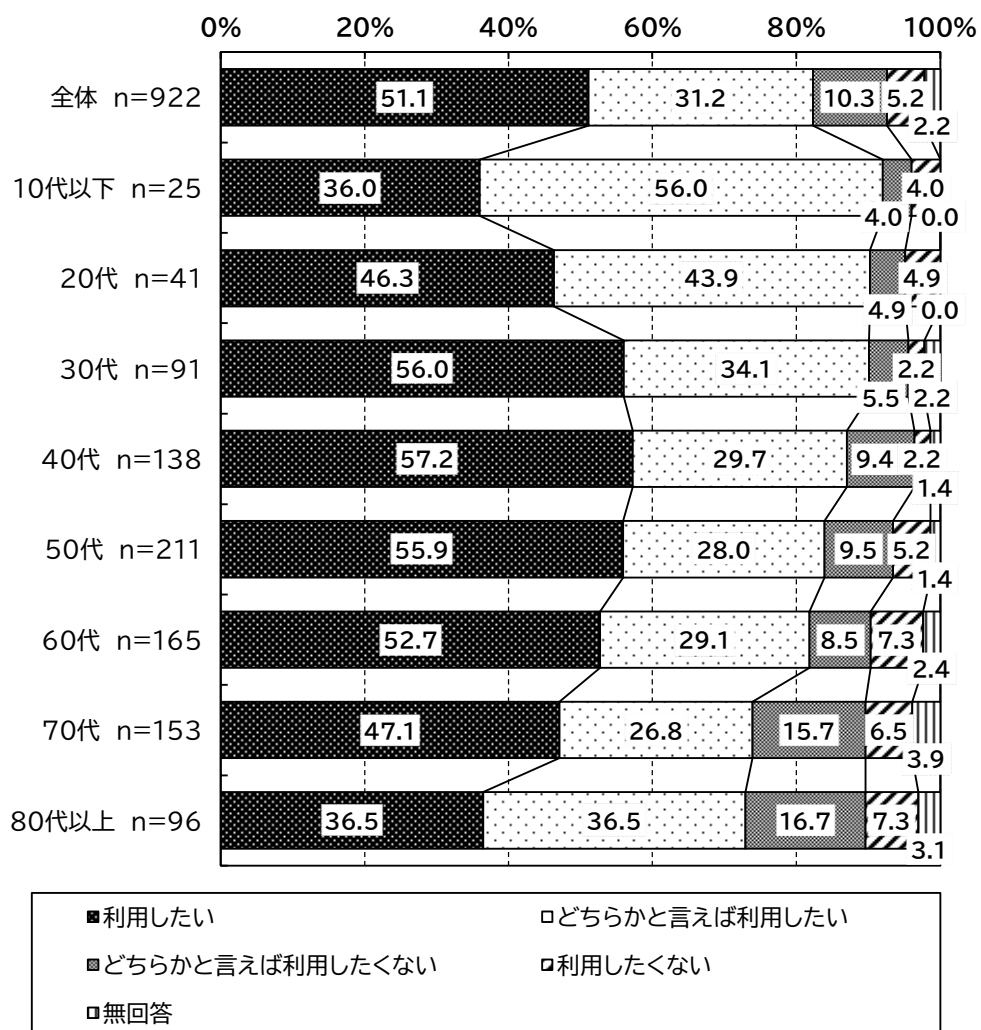
(10) 今後、病状が安定している場合に長期処方を利用したいと思うか

今後、病状が安定している場合に長期処方を利用したいと思うかについては、「利用したい」が51.1%、「どちらかと言えば利用したい」が31.2%、「どちらかと言えば利用したくない」が10.3%、「利用したくない」が5.2%であった。

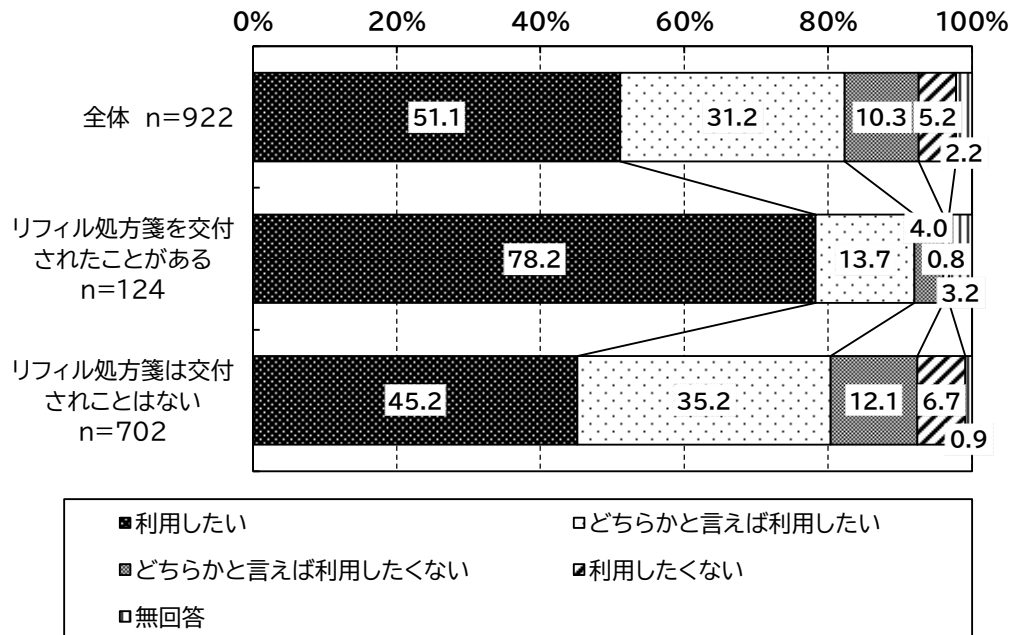
図表 5-79 今後、病状が安定している場合に長期処方を利用したいと思うか
【性別】



図表 5-80 今後、病状が安定している場合に長期処方を利用したいと思うか
【年代別】



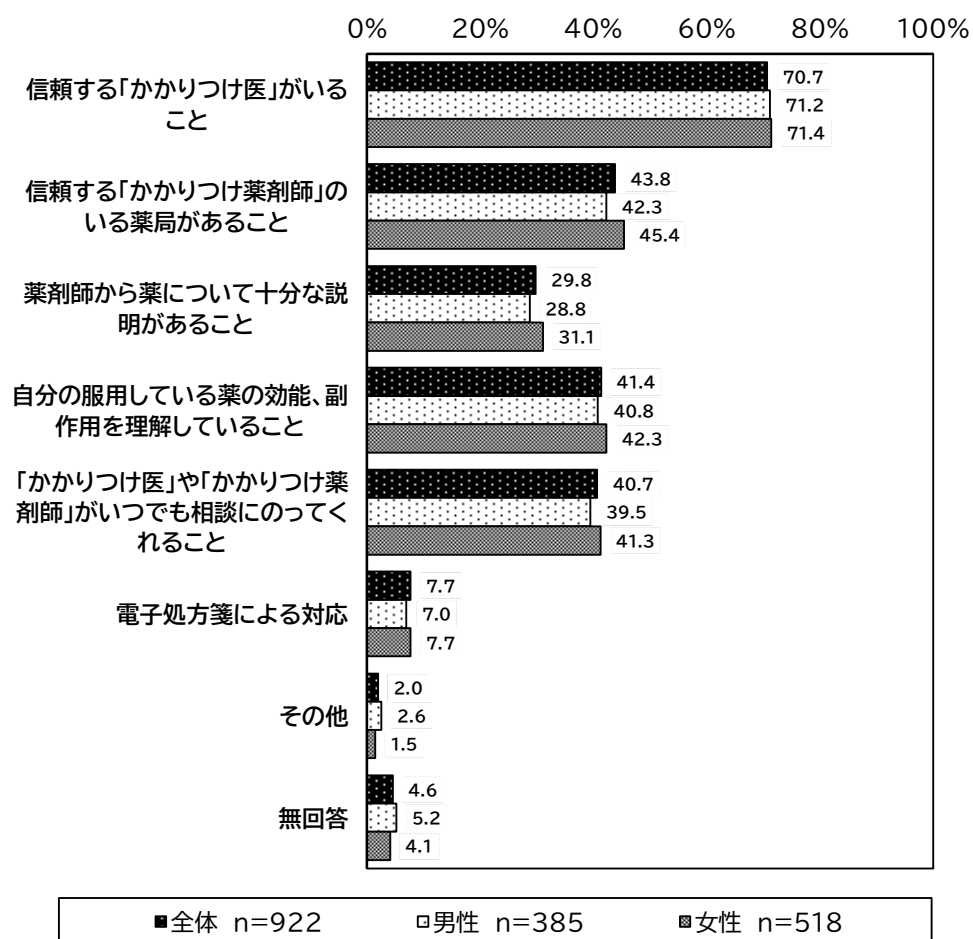
図表 5-81 今後、病状が安定している場合に長期処方を利用したいと思うか
【リフィル処方箋を交付された経験別】



(11) リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じること

リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じることについては、「信頼する「かかりつけ医」がいること」が最も多く 70.7%、次いで「信頼する「かかりつけ薬剤師」がいること」が多く 43.8%であった。

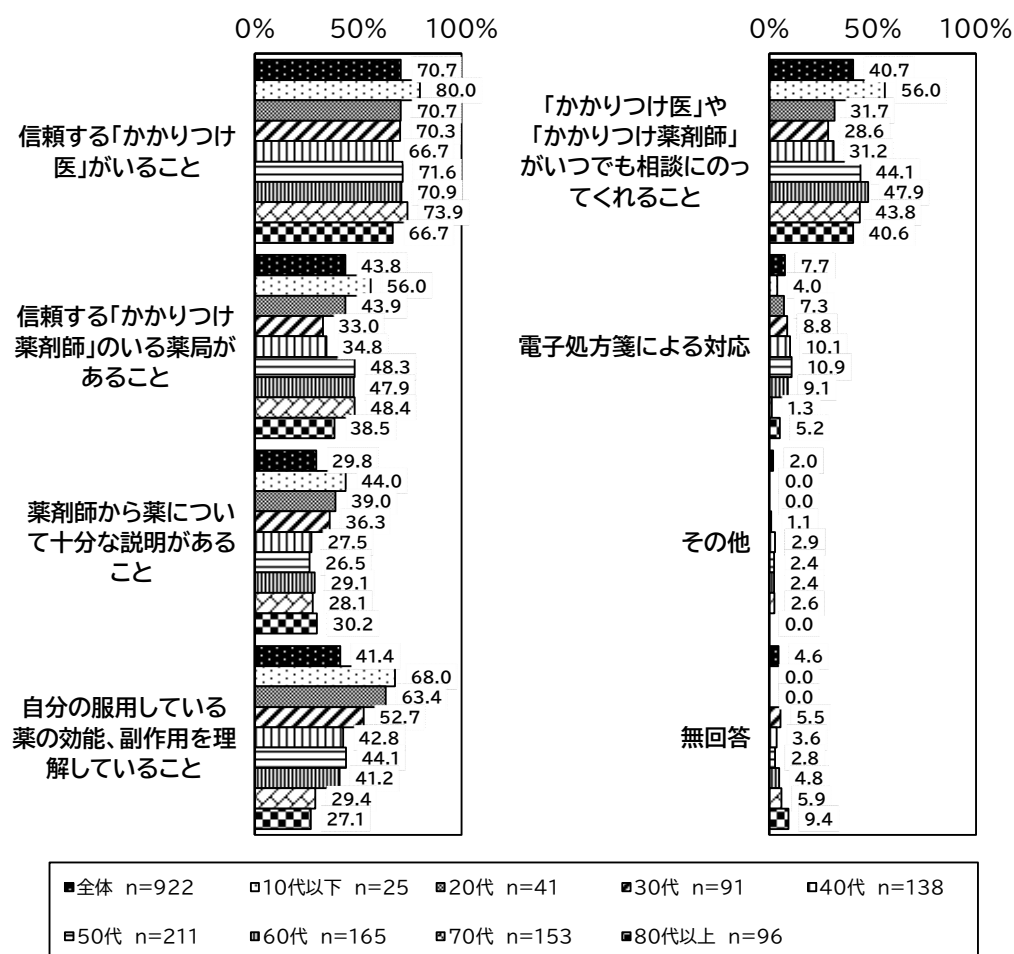
図表 5-82 リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じることは何か（複数回答）
【性別】



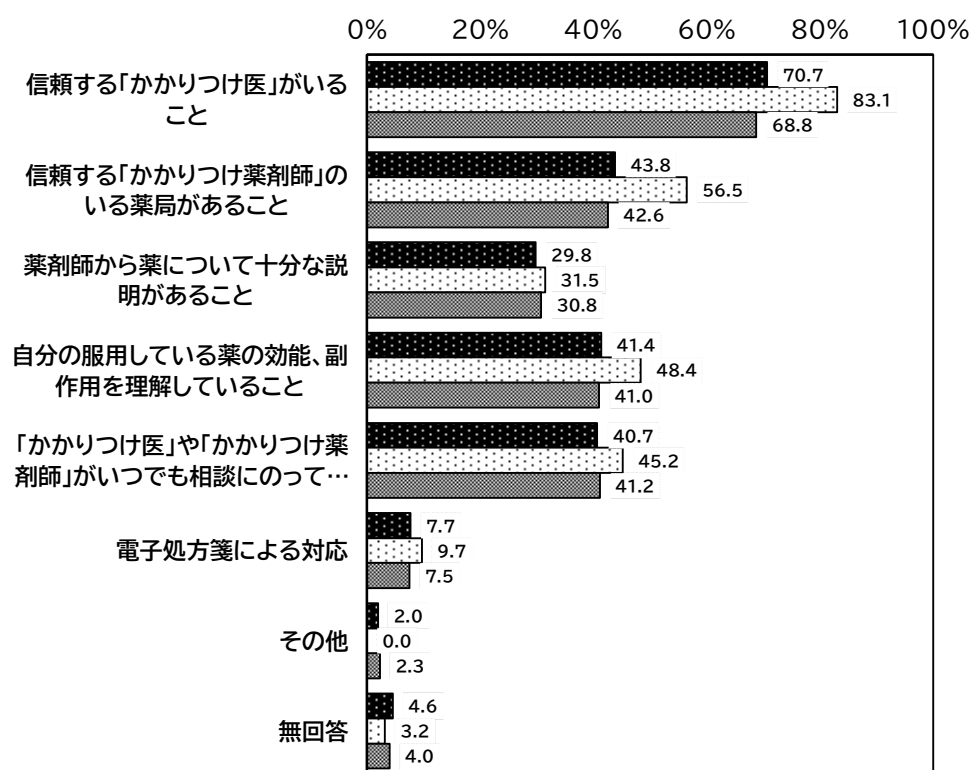
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・症状の安定度を自分で判断できない
- ・薬剤師の質改善
- ・リフィル処方箋の保管方法の改善（電子化など）
- ・リフィル処方箋の必要性を感じない など

図表 5-83 リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じることは何か（複数回答）
【年代別】



図表 5-84 リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じることは何か（複数回答）
【リフィル処方箋を交付された経験別】



■全体 n=922

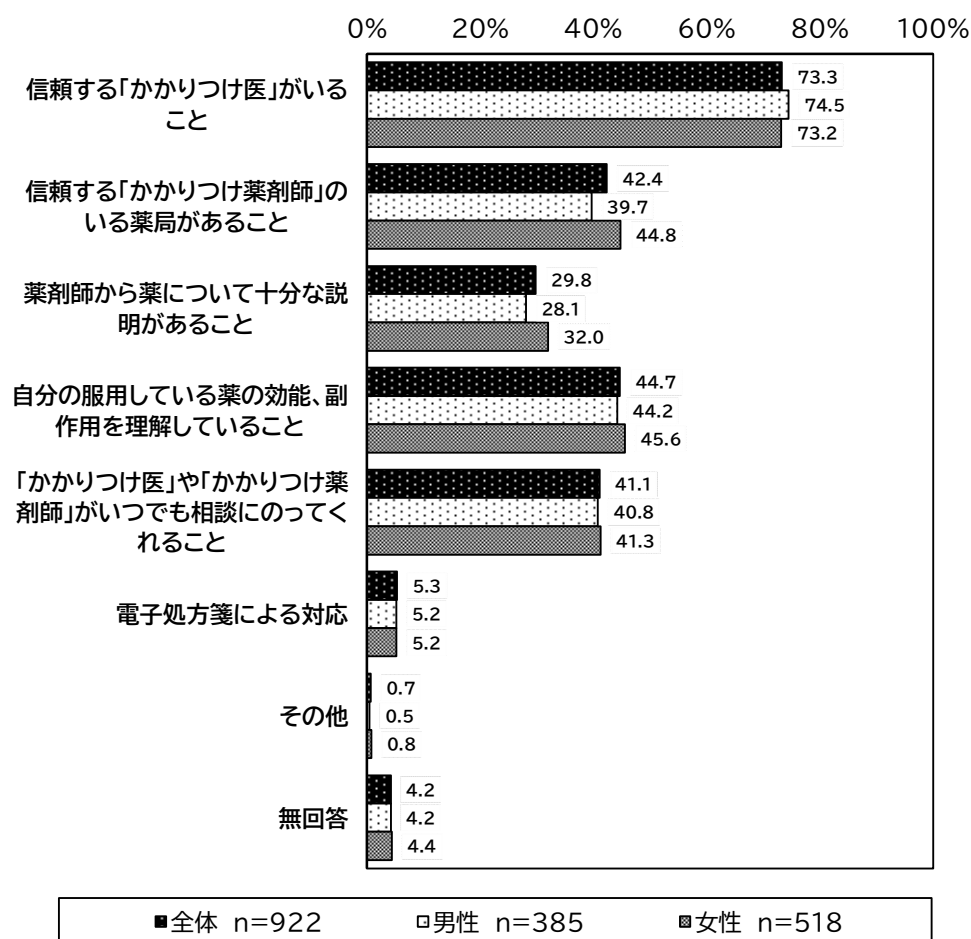
□リフィル処方箋を交付されたことがある n=124

▨リフィル処方箋は交付されことはない n=702

(12) 長期処方を利用するにあたり必要だと感じる事

長期処方を利用するにあたり必要だと感じる事については、「信頼する「かかりつけ医」がいること」が最も多く 73.3%、次いで「自分の服用している薬の効能、副作用を理解していること」が多く 44.7%であった。

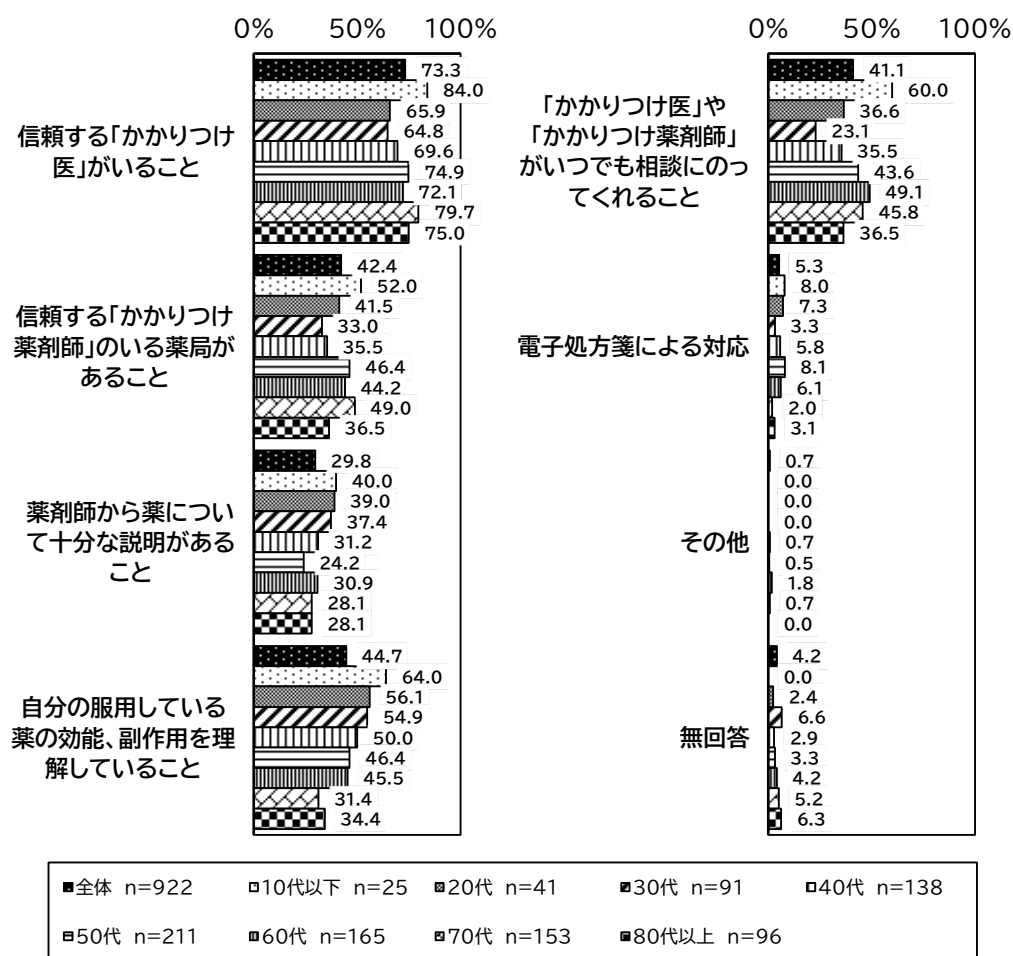
図表 5-85 長期処方を利用するにあたり必要だと感じる事（複数回答）
【性別】



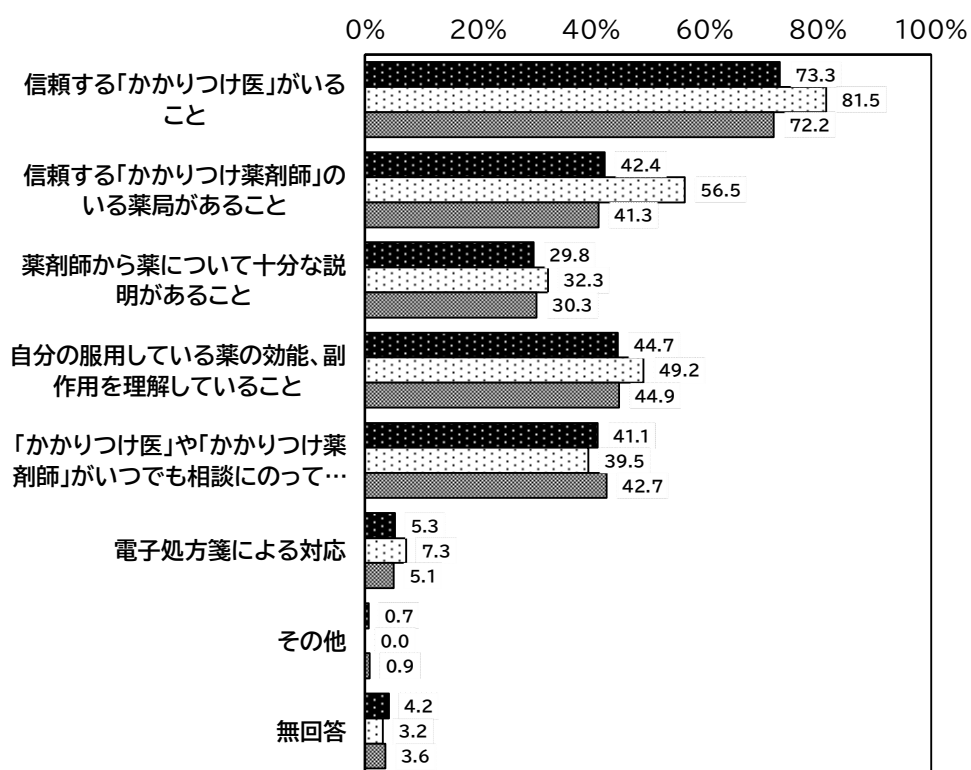
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・特に必要だと感じる事項はない
- ・長期処方の必要性を感じない など

図表 5-86 長期処方を利用するにあたり必要だと感じること（複数回答）
【年代別】



図表 5-87 長期処方を利用するにあたり必要だと感じること（複数回答）
【リフィル処方箋を交付された経験別】



■全体 n=922

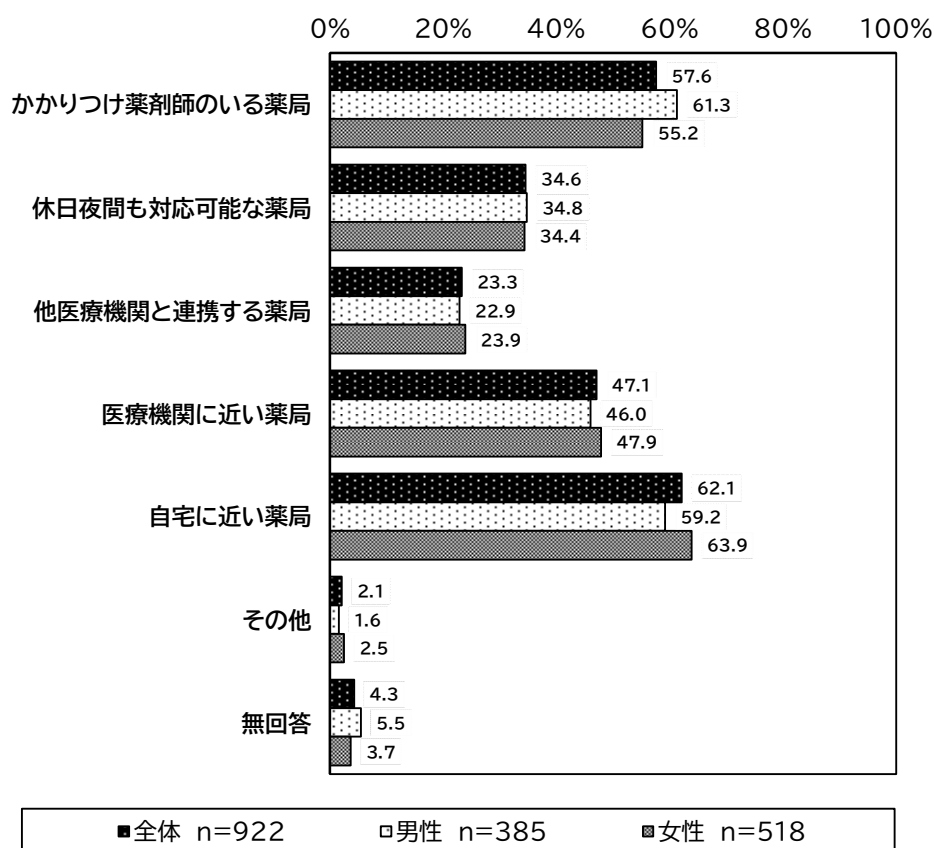
□リフィル処方箋を交付されたことがある n=124

▨リフィル処方箋は交付されことはない n=702

(13) リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（1回目）

リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（1回目）については、「自宅に近い薬局」が最も多く 62.1%、次いで「かかりつけ薬剤師がいる薬局」が多く 57.6%であった。

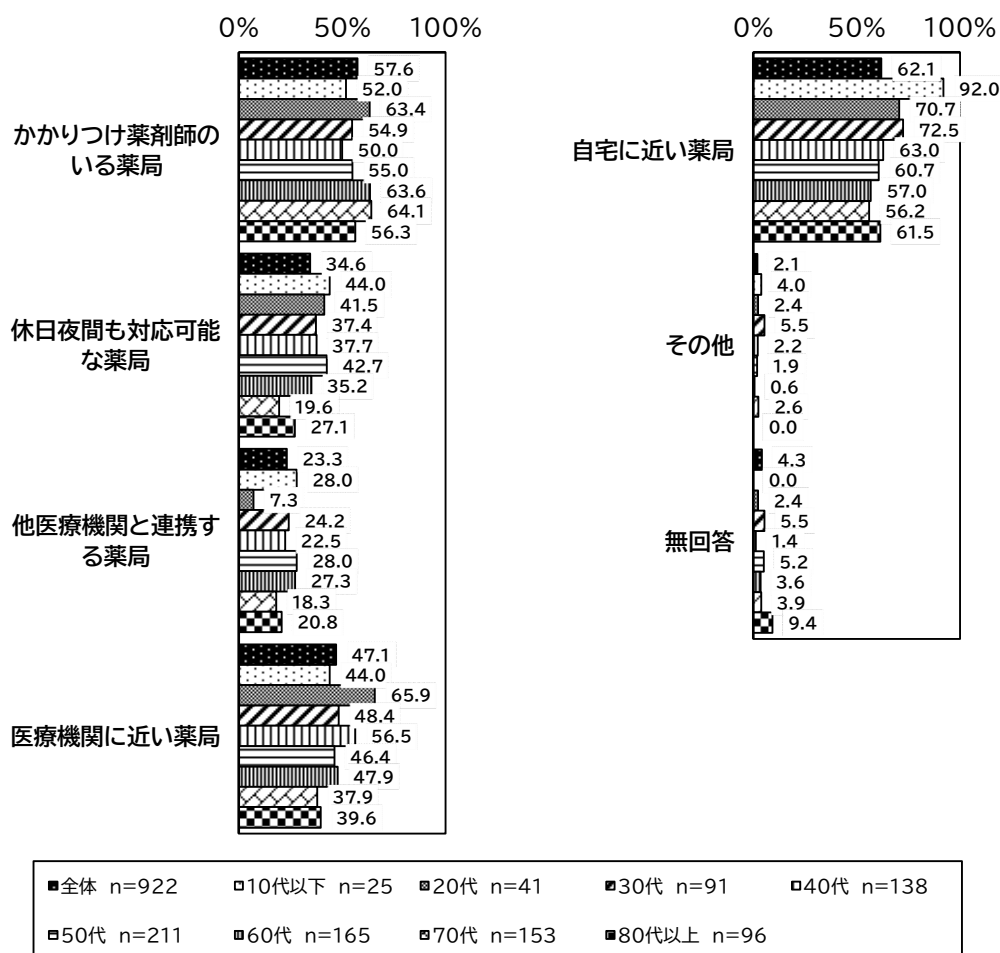
図表 5-88 1回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
【性別】



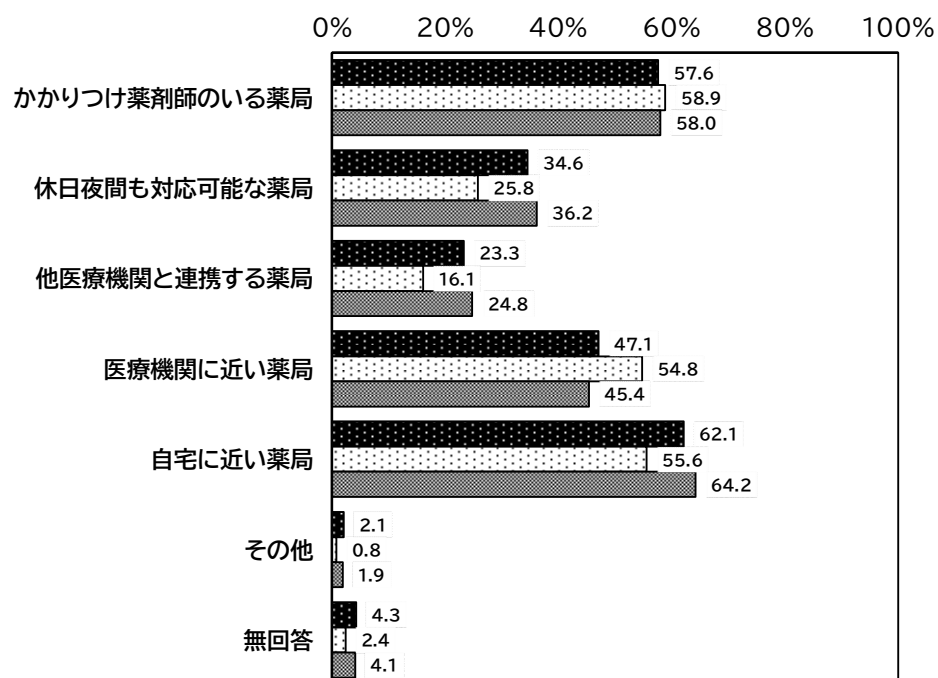
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・職場近くの薬局
- ・院内
- ・丁寧な薬剤師がいる薬局
- ・薬品の在庫が安定している薬局 など

図表 5-89 1回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
【年代別】



図表 5-90 1回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
【リフィル処方箋を交付された経験別】



■全体 n=922

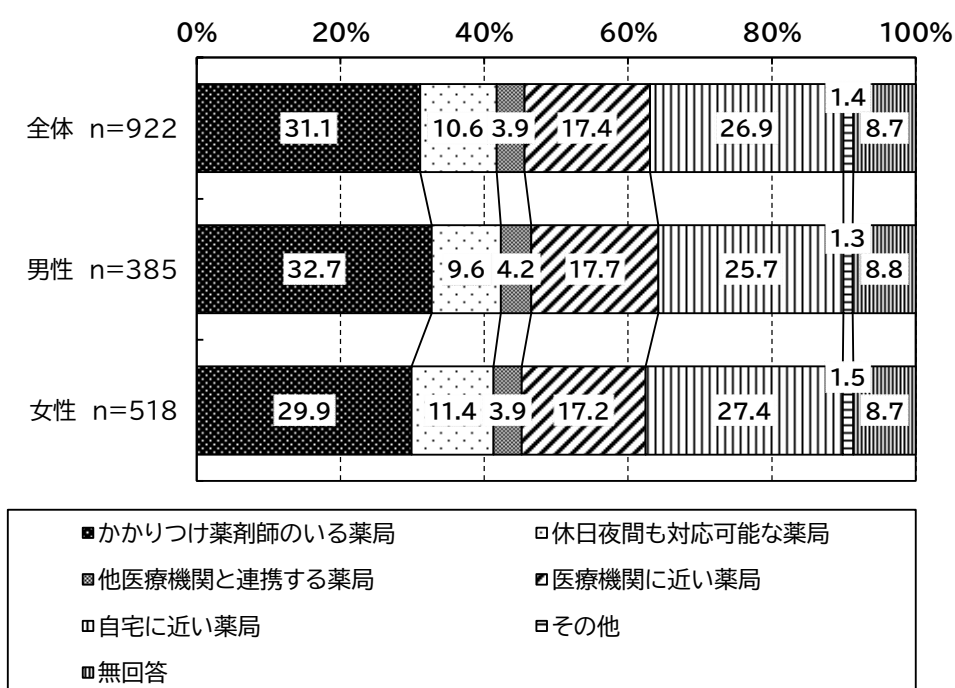
□リフィル処方箋を交付されたことがある n=124

■リフィル処方箋は交付されことはない n=702

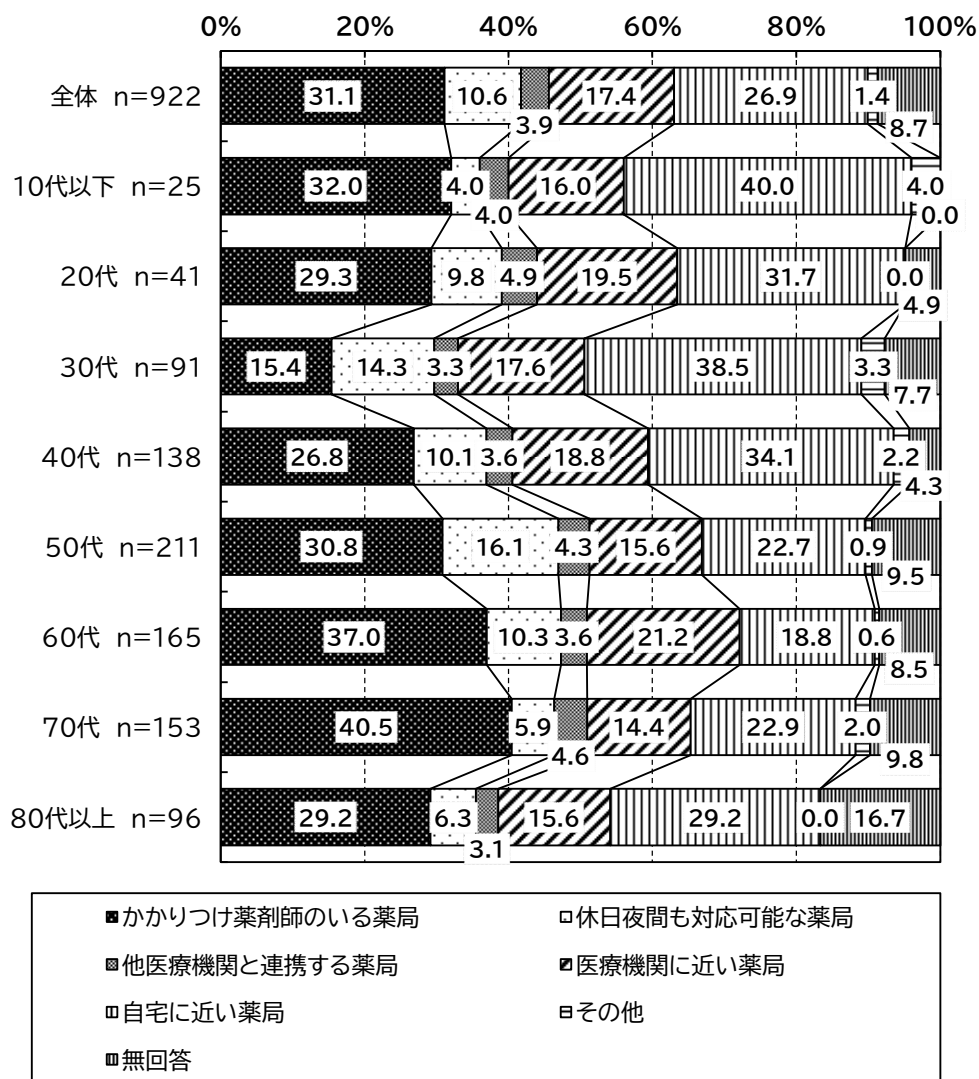
(14) リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（1回目・最も重視するもの）

リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（1回目・最も重視するもの）については、「かかりつけ薬剤師がいる薬局」が最も多く 31.1%、次いで「自宅に近い薬局」が多く 26.9%であった。

図表 5-91 リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか
（1回目・最も重視するもの）
（複数回答）
【性別】

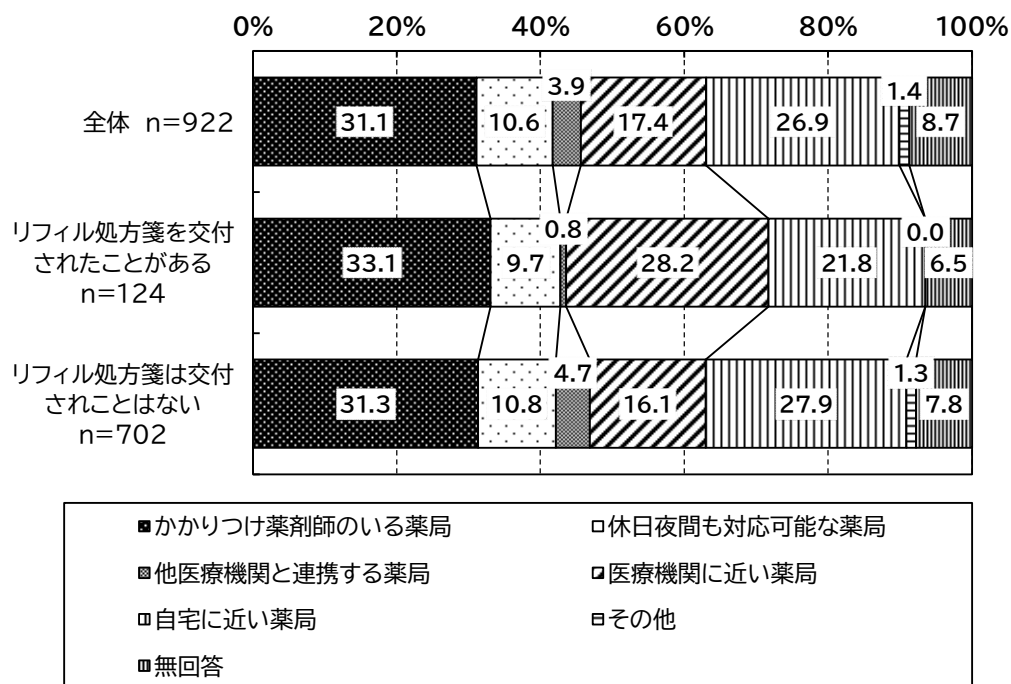


図表 5-92 リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか
 （1回目・最も重視するもの）
 （複数回答）
 【年代別】



図表 5-93 リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか
（1回目・最も重視するもの）
（複数回答）

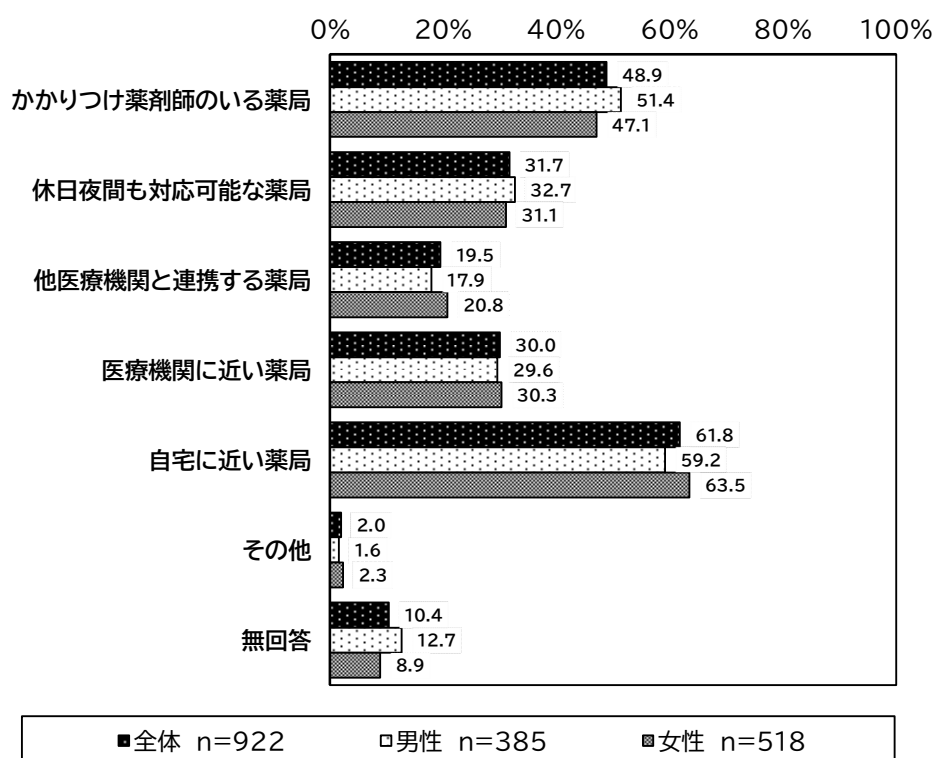
【リフィル処方箋を交付された経験別】



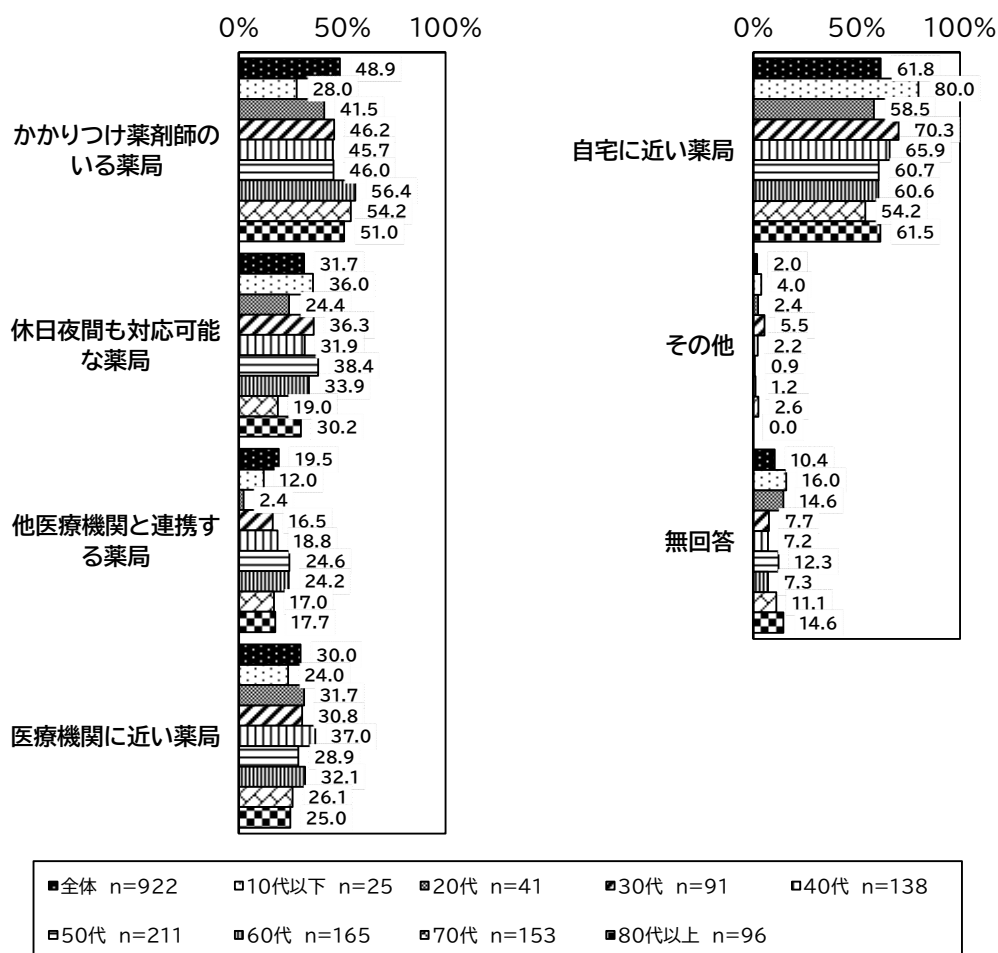
(15) リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（2回目）

リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（2回目）については、「自宅に近い薬局」が最も多く 61.8%、次いで「かかりつけ薬剤師がいる薬局」が多く 48.9%であった。

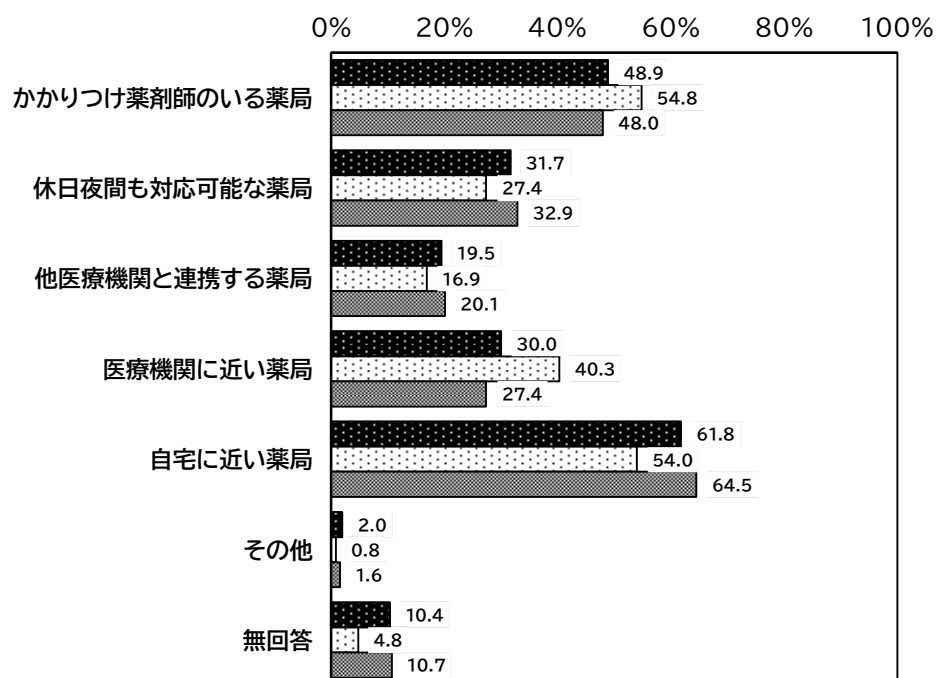
図表 5-94 リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（2回目）（複数回答）
【性別】



図表 5-95 リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（2回目）（複数回答）
【年代別】



図表 5-96 リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（2回目）（複数回答）
【リフィル処方箋を交付された経験別】



■全体 n=922

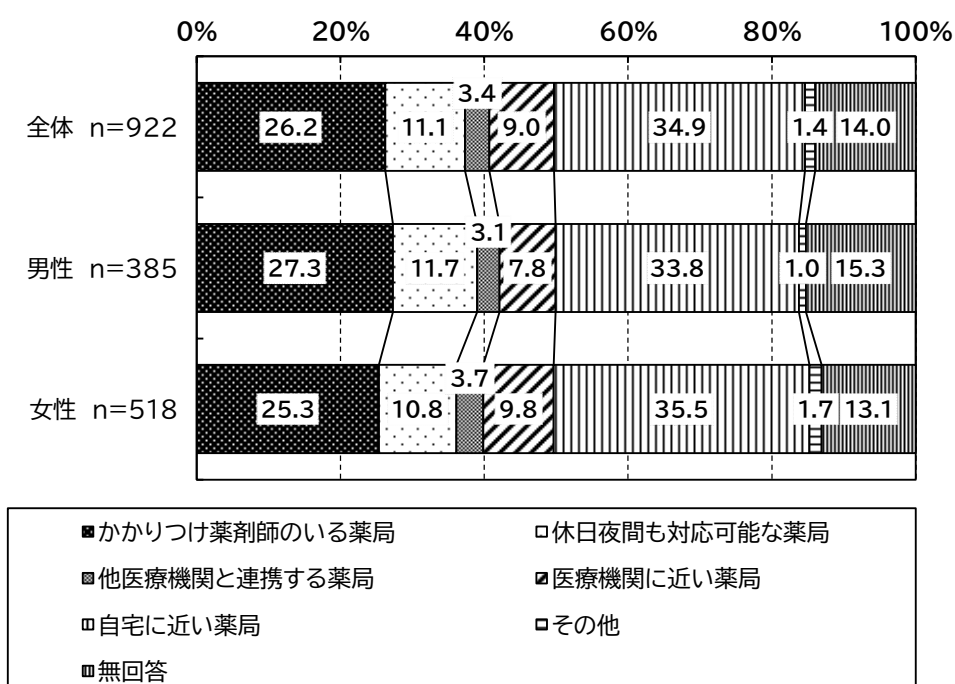
□リフィル処方箋を交付されたことがある n=124

▨リフィル処方箋は交付されことはない n=702

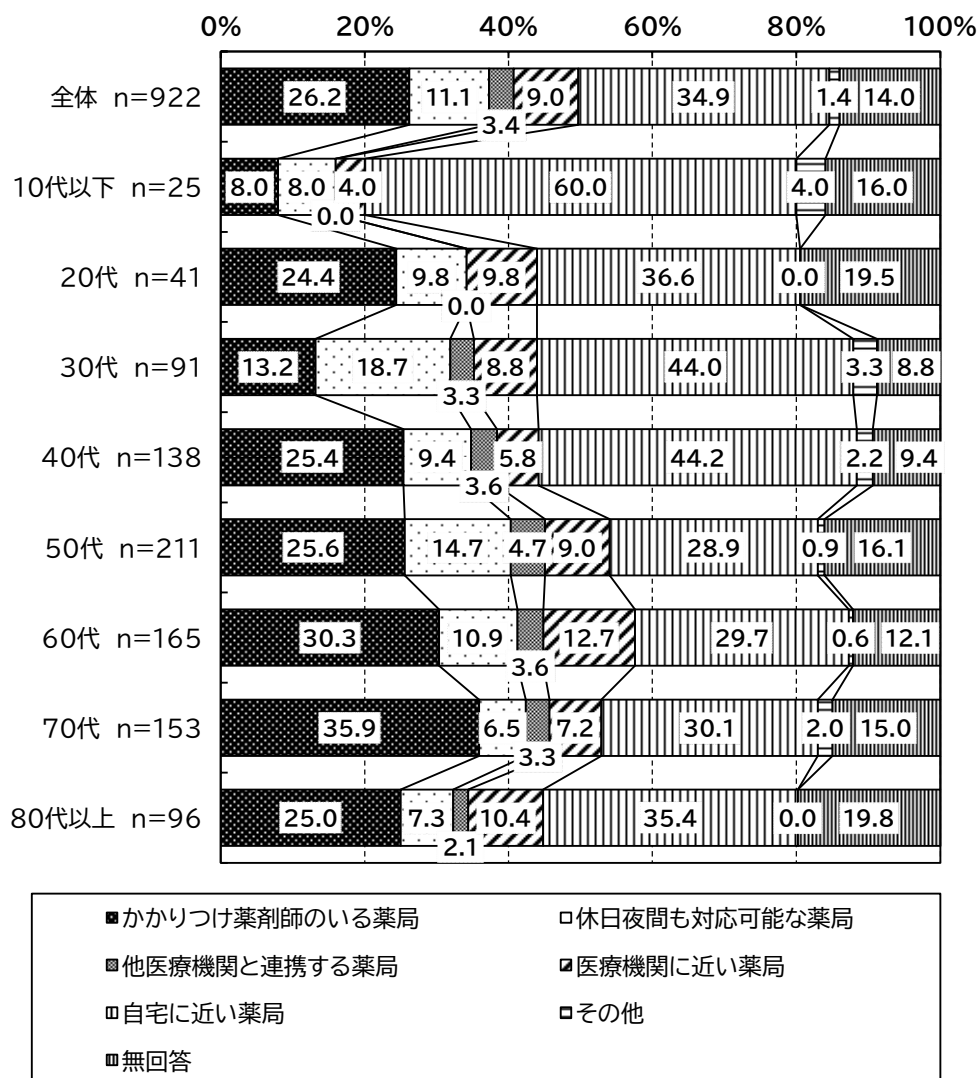
(16) リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（2回目・最も重視するもの）

リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（2回目・最も重視するもの）については、「自宅に近い薬局」が最も多く 34.9%、次いで「かかりつけ薬剤師がいる薬局」が多く 26.2%であった。

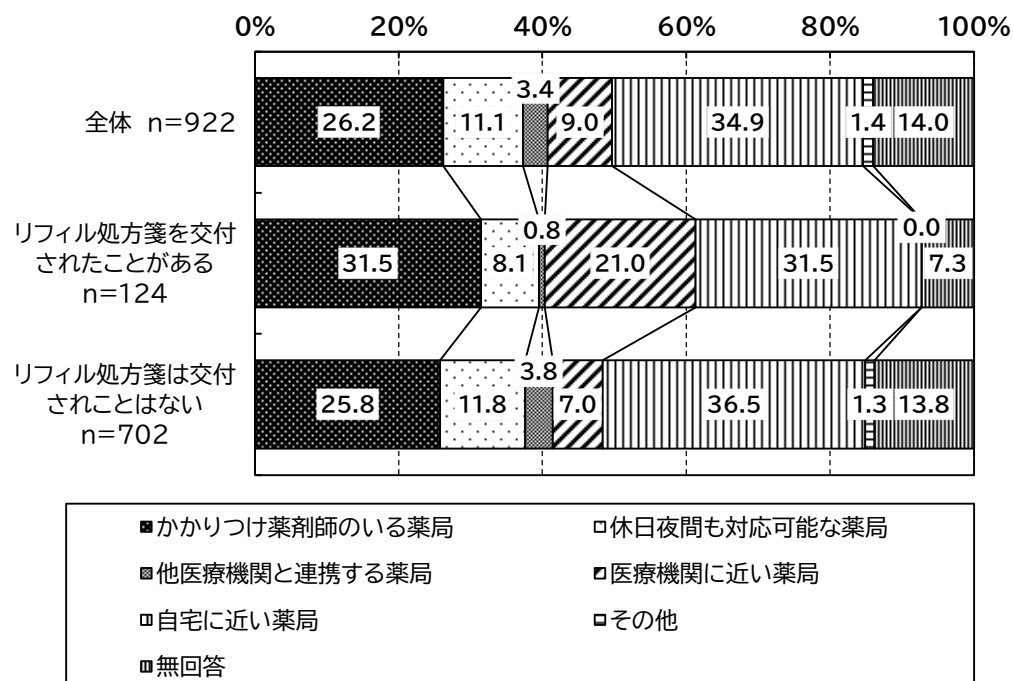
図表 5-97 リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか
（2回目・最も重視するもの）（複数回答）
【性別】



図表 5-98 リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか
 （2回目・最も重視するもの）（複数回答）
 【年代別】



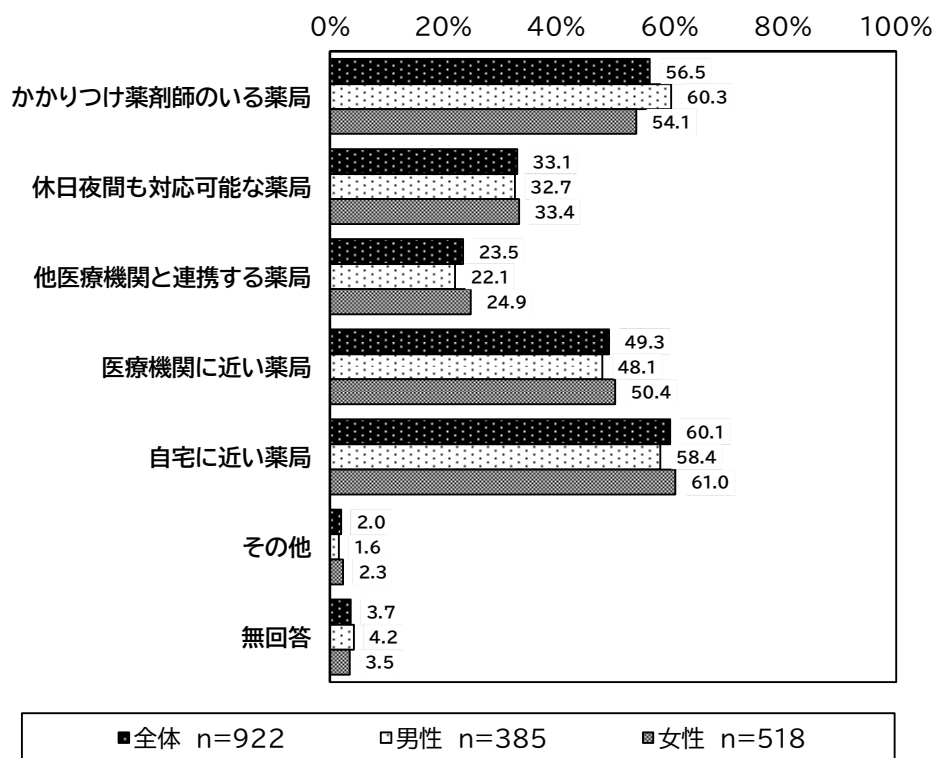
図表 5-99 リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか
（2回目・最も重視するもの）（複数回答）
【リフィル処方箋を交付された経験別】



(17) 長期処方は、どのような薬局で調剤を受けたいか

長期処方は、どのような薬局で調剤を受けたいかについては、「自宅に近い薬局」が最も多く 60.1%、次いで「かかりつけ薬剤師のいる薬局」が多く 56.5%であった。

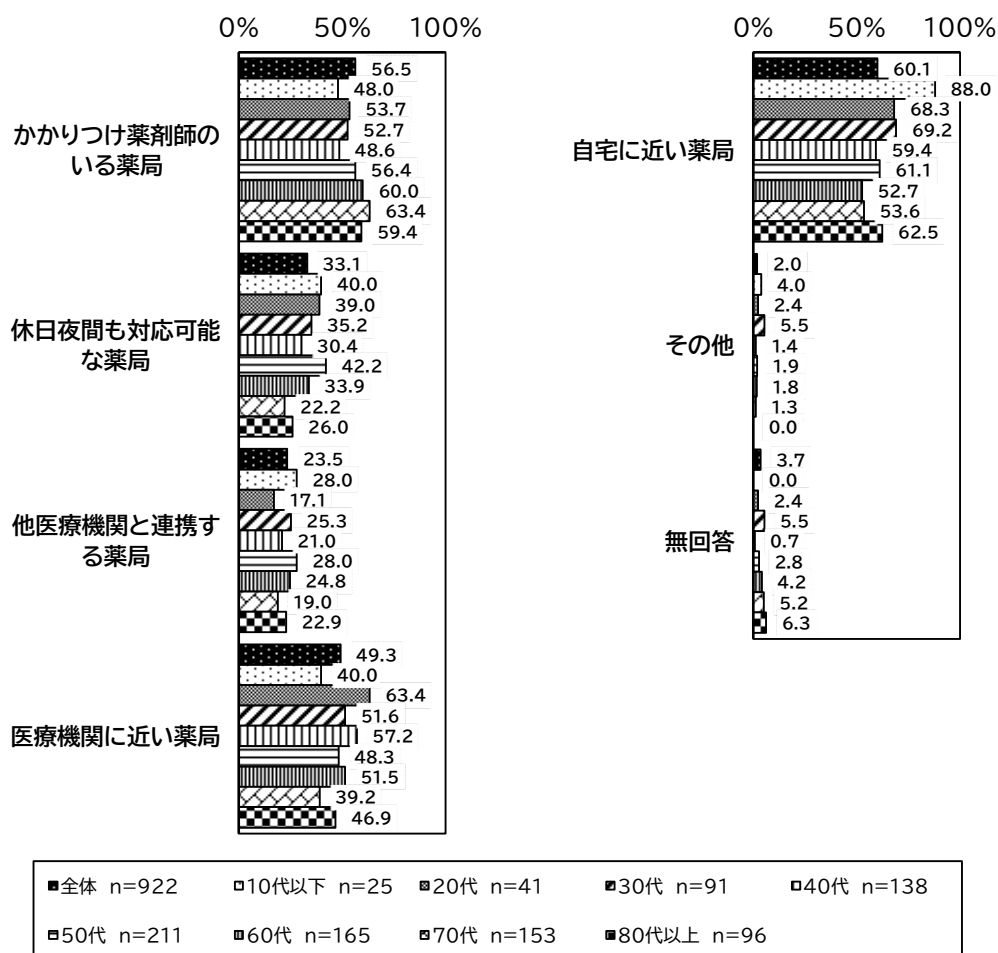
図表 5-100 長期処方は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
【性別】



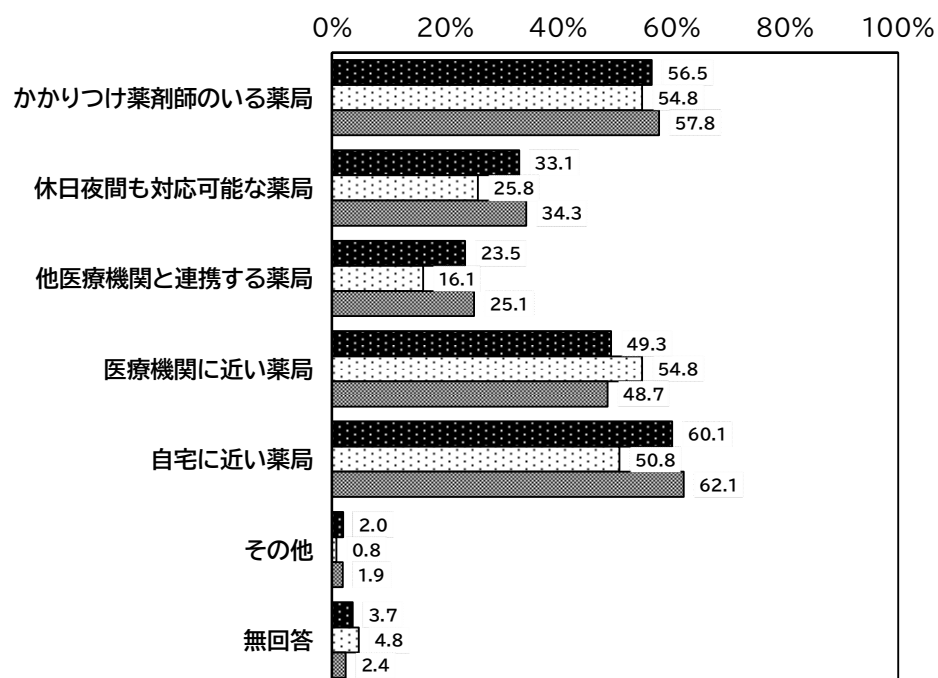
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・職場近くの薬局
- ・院内
- ・丁寧な薬剤師のいる薬局
- ・薬品の在庫が安定している薬局 など

図表 5-101 長期処方は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
【年代別】



図表 5-102 長期処方、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
【リフィル処方箋を交付された経験別】



■全体 n=922

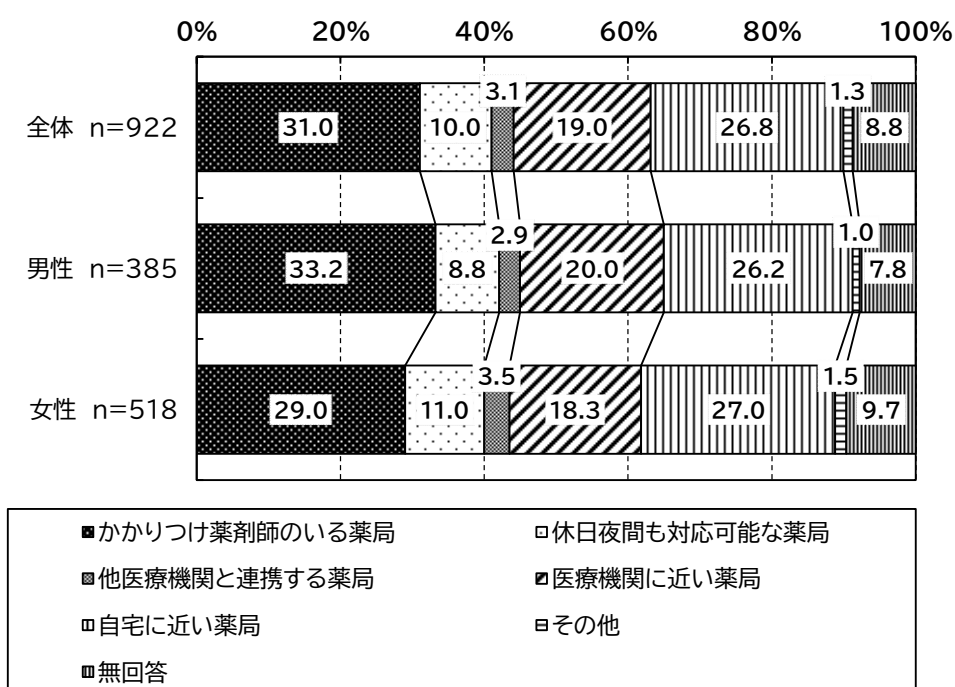
□リフィル処方箋を交付されたことがある n=124

▨リフィル処方箋は交付されことはない n=702

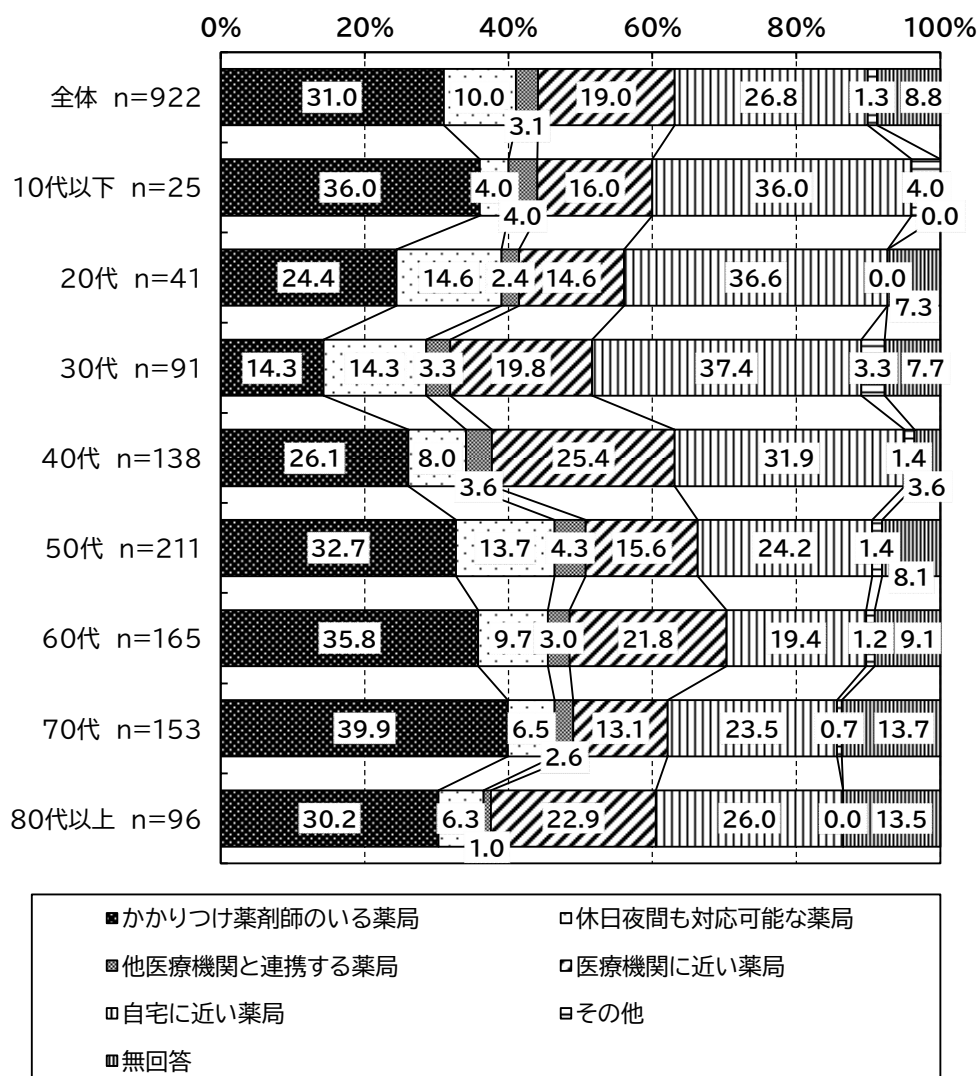
(18) 長期処方は、どのような薬局で調剤を受けたいか（最も重視するもの）

長期処方は、どのような薬局で調剤を受けたいか（最も重視するもの）については、「かかりつけ薬剤師のいる薬局」が最も多く 31.0%、次いで「自宅に近い薬局」が多く 26.8%であった。

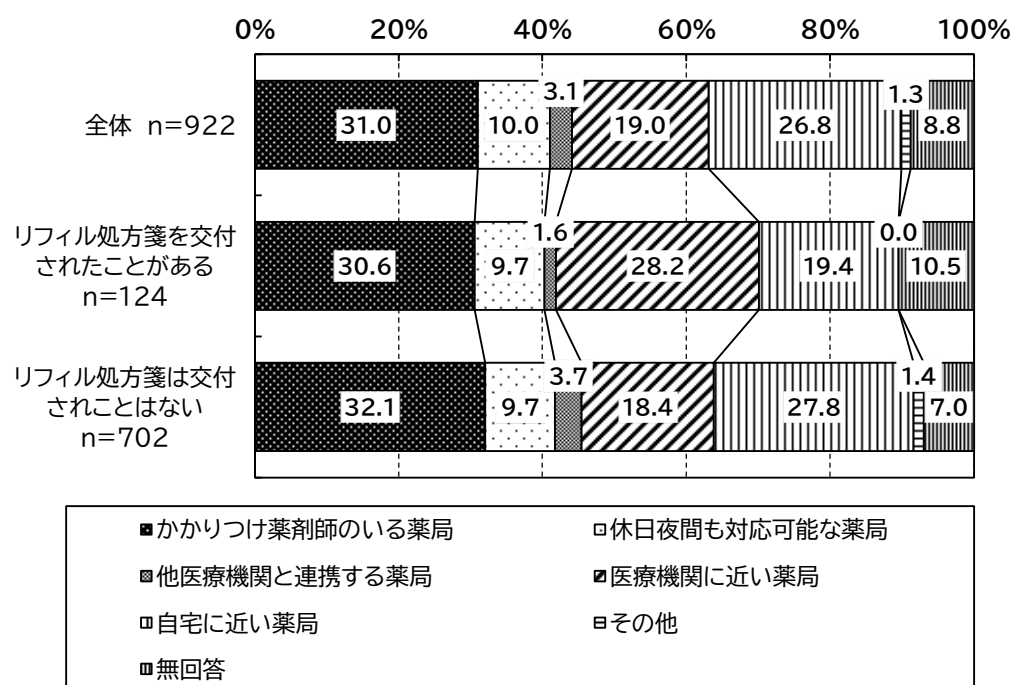
図表 5-103 長期処方は、どのような薬局で調剤を受けたいか（最も重視するもの）
【性別】



図表 5-104 長期処方、どのような薬局で調剤を受けたいか（最も重視するもの）
【年代別】



図表 5-105 長期処方、どのような薬局で調剤を受けたいか（最も重視するもの）
【リフィル処方箋を交付された経験別】



5) リフィル処方箋に関する意見・要望等

【ご意見・ご要望（自由記載）の具体的な内容】

<患者の負担>

- ・仕事を休む日が減り、薬の処方のためだけに長時間待たなくてよいのでありがたい
- ・症状が安定している時に薬だけ処方してもらえるのはありがたい
- ・リフィル処方方は病院へは行かなくてもいいが結局薬局へ行く必要があり手間がかかる

<長期処方との比較>

- ・リフィル処方方は長期処方があるため不要
- ・長期処方は大変助かるが、リフィル処方については少々不安
- ・症状が安定している患者には、今後も長期処方を継続してほしい など

<医師、薬剤師への相談>

- ・医師に都度相談し、処方箋を出してもらうことで、安心して薬を飲むことができる
- ・薬の飲み忘れなど、直接医師に相談しにくいことに対して薬剤師に相談し、リフィル処方箋で調節できるという点ではとてもいい
- ・薬だけほしいならドラッグストアで市販を買うのと変わらない
- ・医師に相談できる機会が減るのは不安
- ・医師の診察機会が減る分、薬剤師は患者の健康状態のモニタリングや医療機関との適切な連携が重要
- ・症状に変化に応じた相談が難しくなるのではと心配 など

<リフィル処方制度の周知>

- ・より分かりやすいアナウンスや広報が必要
- ・制度自体の啓発や周知が不十分に思える
- ・リフィル処方と長期処方のどちらも初めて聞いた言葉 など

<リフィル処方制度の導入>

- ・医師にリフィル処方箋の発行を依頼したら断られた
- ・リフィル処方に対応していない医療機関もあり、何故出来ないのか分からない
- ・リフィル処方箋を医師から処方してもらえるよう国ですすめてほしい など

<リフィル処方箋の紛失>

- ・紛失を防ぐために電子処方箋やマイナンバーカードを活用できるとよい
- ・リフィル処方箋を紛失しそうで負担に感じる など

<薬剤の安定供給>

- ・薬の流通を良くすれば長期処方も増えるのではないかと など

<その他>

- ・リフィル処方箋を1回目の処方時に回収されてしまったことが何度かあったため、処方箋でもわかりやすく、もしくは電子処方箋で自動判別できるなど改善されるといい など

6. 患者調査（インターネット調査）

【調査対象等】

○調査票 患者票

調査対象：インターネット調査会社のモニターのうち、直近3か月以内に保険薬局に処方箋を持参した患者。男女別、年齢階級別に対象者数を確定した。

回答数：3,000人

回答者：患者本人もしくは家族

なお、本調査事業では、患者調査については郵送調査とインターネット調査の2種類を実施している。それぞれ以下の点について特徴や違いがあり、結果の解釈には留意が必要である。

<調査方法・調査対象の違い>

- ・ 郵送調査は、病院・診療所調査の対象施設の調査日に外来した患者、並びに、保険薬局調査の対象施設の調査日に来局した患者を調査対象としている。性別や年齢階級での割り付けは行っていない。（最大で合計6000人を対象とし、922人の回答を得た。）
- ・ 一方、インターネット調査は、直近3か月間で、保険薬局に処方箋を持って来局した患者を調査対象としている。性・年代（下記20区分）ごとに等分（150人ずつ）とし、地域別の割合を人口推計（総務省「人口推計（2023年（令和4年）10月1日現在）」）に比例配分する形とした。（3000人の回答が得られるまで調査を行った。）

<郵送調査とインターネット調査における回答結果の特徴>

- ・ 性別・年齢階級別で補正しておらず、単純な比較はできないため留意が必要であるが、郵送調査とインターネット調査とでは次表のような違いがある。
- ・ 即ち、郵送調査に回答した患者のほうが、インターネット調査に回答した患者よりも高齢者が相対的に多く、また、定期的に受診している患者が多い。医師からリフィル処方箋について説明を受けた経験も多い。
- ・ そうした集団においては、リフィル処方箋に対する認知度も、インターネット調査に回答した患者よりも高くなっている。郵送調査に回答した患者においては、一般的な集団よりもリフィル処方箋の認知度が高くなっている可能性がある。そのため、より一般的な集団における認知度としては、インターネット調査の結果を参照するほうが望ましい可能性がある。
- ・ 一方、リフィル処方箋を交付された経験がある患者に限定してみると、郵送調査に回答した患者のほうが、「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」ことや「通院によってかかる医療費が安くなる」こと等をメリットとして挙げる割合が高い。受診頻度が一定程度あるなどの特定の患者の集団においては、特にリフィル処方箋のメリットを感じやすい傾向にある可能性がある。

患者調査（インターネット調査）

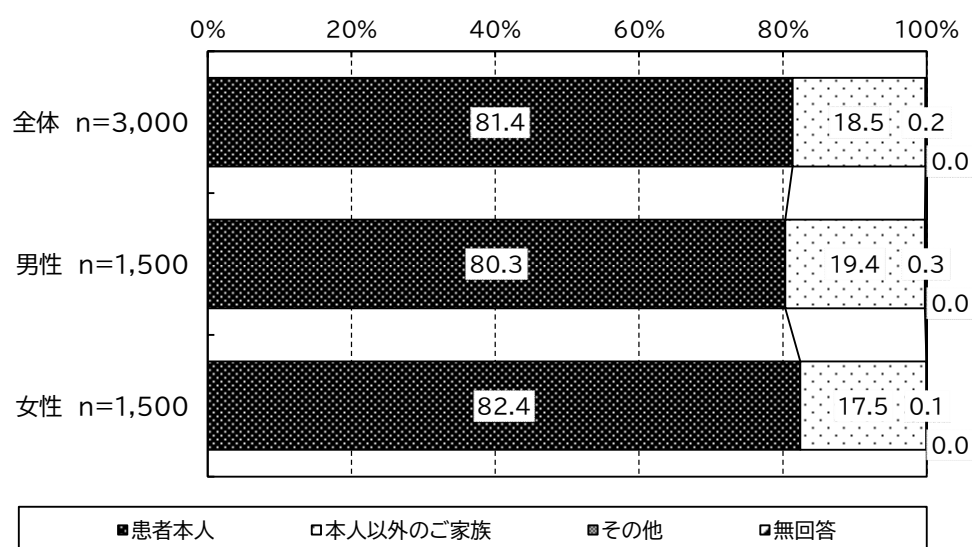
調査項目	特徴	郵送調査	インターネット調査
性別・年齢構成	郵送調査のほうが80代以上が多いなど、年齢構成比が異なる	男女比 4 : 6 80代以上が 10.4%	男女比 1 : 1 80代以上が 2.5%
定期的に受診している医療機関（病院・診療所）の数	郵送調査のほうがインターネット調査よりも定期的に受診している患者が多い可能性	平均 1.6 件 0 件が 9.0% 1 件が 42.8%	平均 1.4 件 0 件が 17.6% 1 件が 47.5%
定期的に受診している診療科の数	郵送調査のほうがインターネット調査よりも定期的に受診している診療科の数が多い可能性	平均 1.7 件 0 件が 8.9% 1 件が 33.6%	平均 1.5 件 0 件が 20.4% 1 件が 43.3%
定期的に受診している薬局の数	郵送調査のほうがインターネット調査よりも定期的に利用している薬局の数が多い可能性	平均 1.2 件 0 件が 11.3% 1 件が 62.9%	平均 1.2 件 0 件が 19.0% 1 件が 59.2%
定期的に決まった薬の処方を受けているか	郵送調査のほうがインターネット調査よりも定期的に決まった薬の処方を受けている患者が多い可能性	88.1%	70.4%
リフィル処方箋の認知度	郵送調査のほうがインターネット調査よりも「制度の内容まで知っていた」患者の割合が高い可能性	33.2%	6.1%
リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験の有無	郵送調査のほうがインターネット調査よりも医師から説明を受けたことがある患者の割合が高い可能性	15.1%	6.2%
リフィル処方箋を交付された経験	郵送調査のほうがインターネット調査よりもリフィル処方箋を交付されたことがある患者の割合が高い可能性	13.4%	5.4%
リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの	リフィル処方箋を交付されたことがある患者に限定してみると、郵送調査のほうがインターネット調査よりも、「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」や「通院によってかかる医療費が安くなる」ことについてメリットと感じる患者が多い可能性	「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」：95.2% 「通院によってかかる医療費が安くなる」：65.3%	「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」：66.9% 「通院によってかかる医療費が安くなる」：39.3%
今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか	郵送調査のほうがインターネット調査よりも、今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を「利用したい」と考える患者の割合が高い可能性	31.8%	19.0%

1) 基本情報

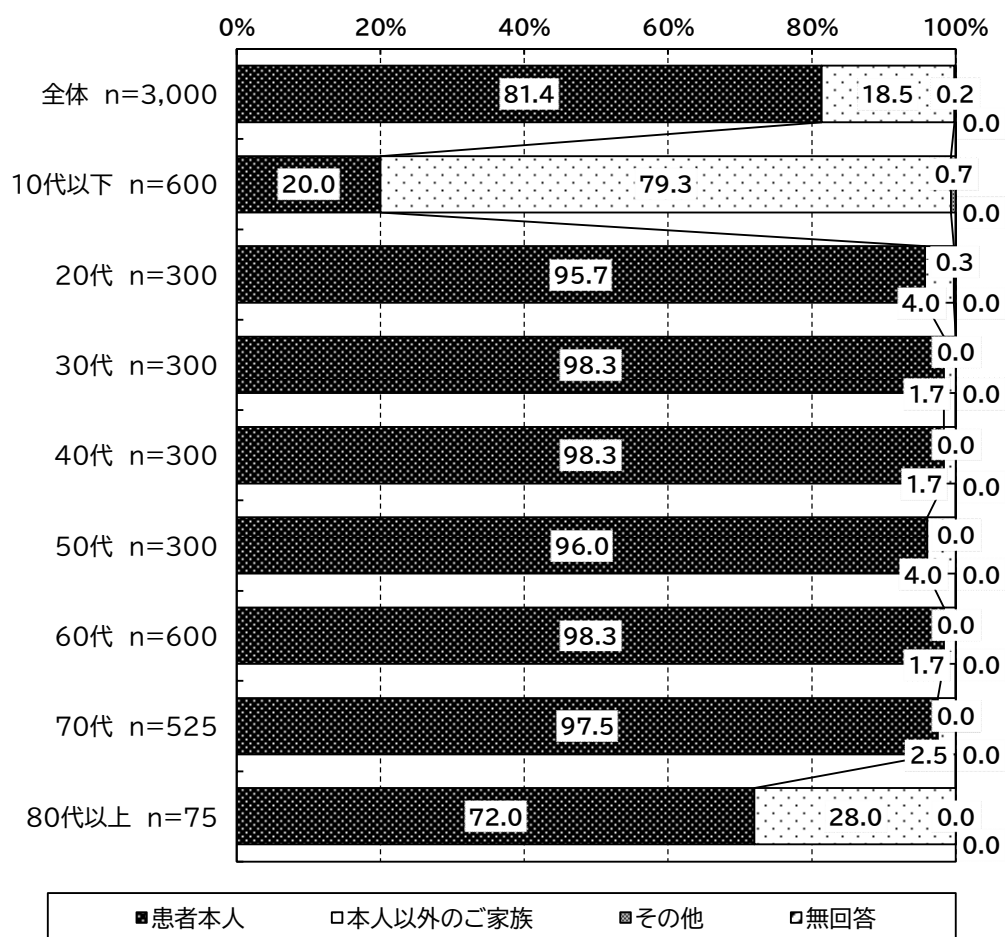
(1) 調査票の記入者

調査票の記入者は患者本人かについては、「患者ご本人」が 81.4%、「本人以外のご家族等」が 18.5%であった。

図表 6-1 調査票の記入者
【性別】



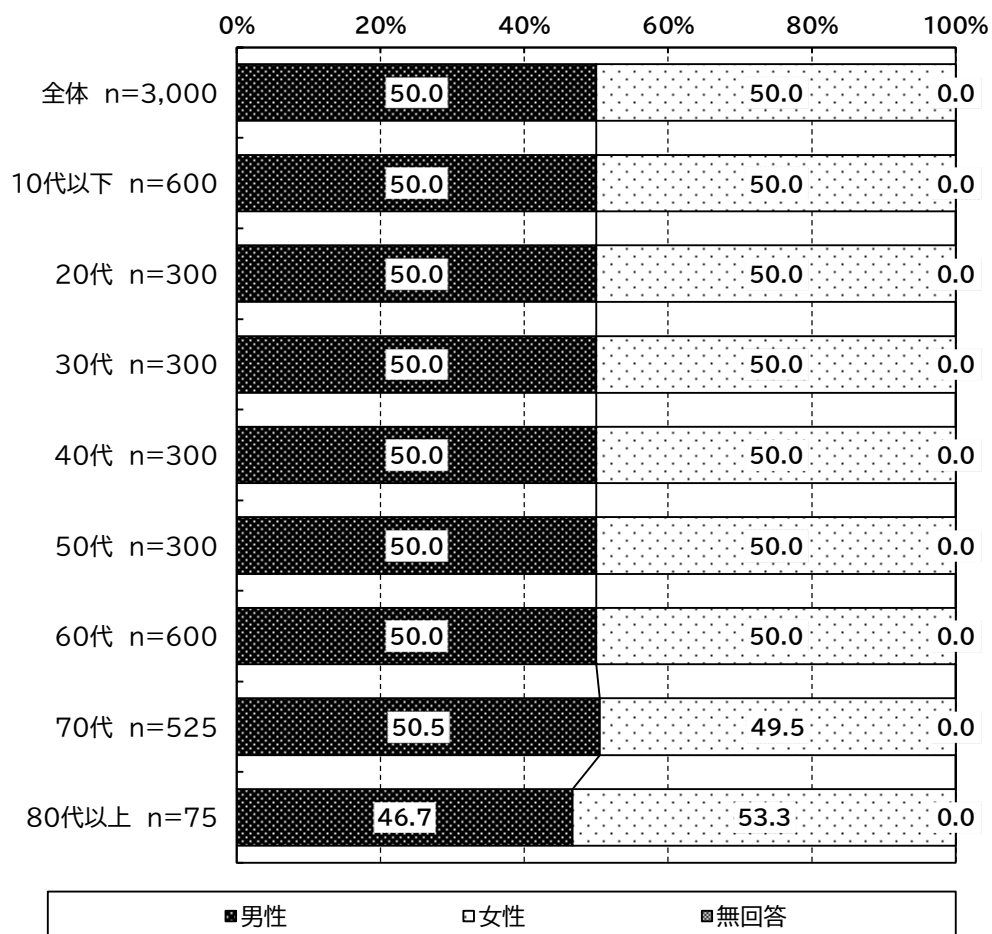
図表 6-2 調査票の記入者
【年代別】



(2) 性別

性別については、「男性」が 50.0%、「女性」が 50.0%であった。

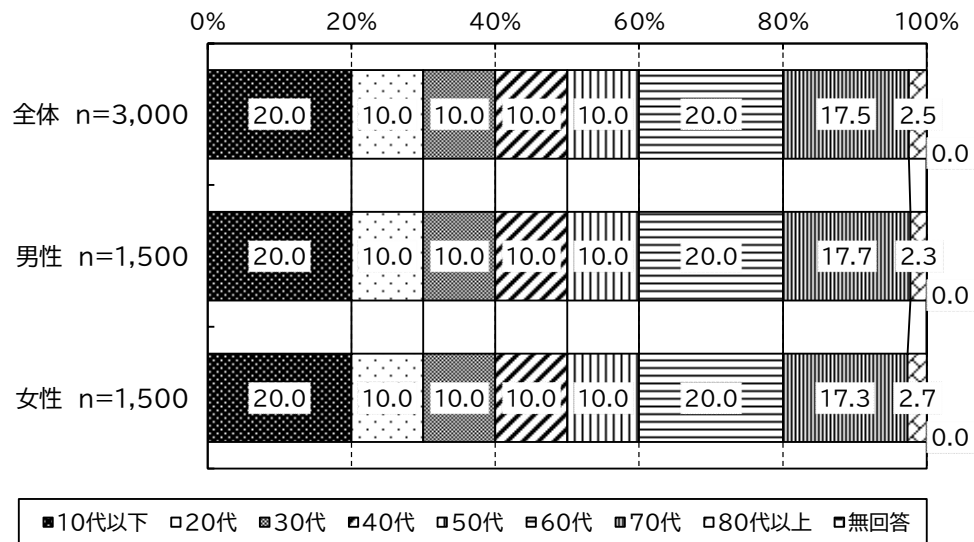
図表 6-3 性別
【年代別】



(3) 年代

年齢については「10代以下」、「60代」が最も多く、ともに20.0%であった。

図表 6-4 年代
【性別】

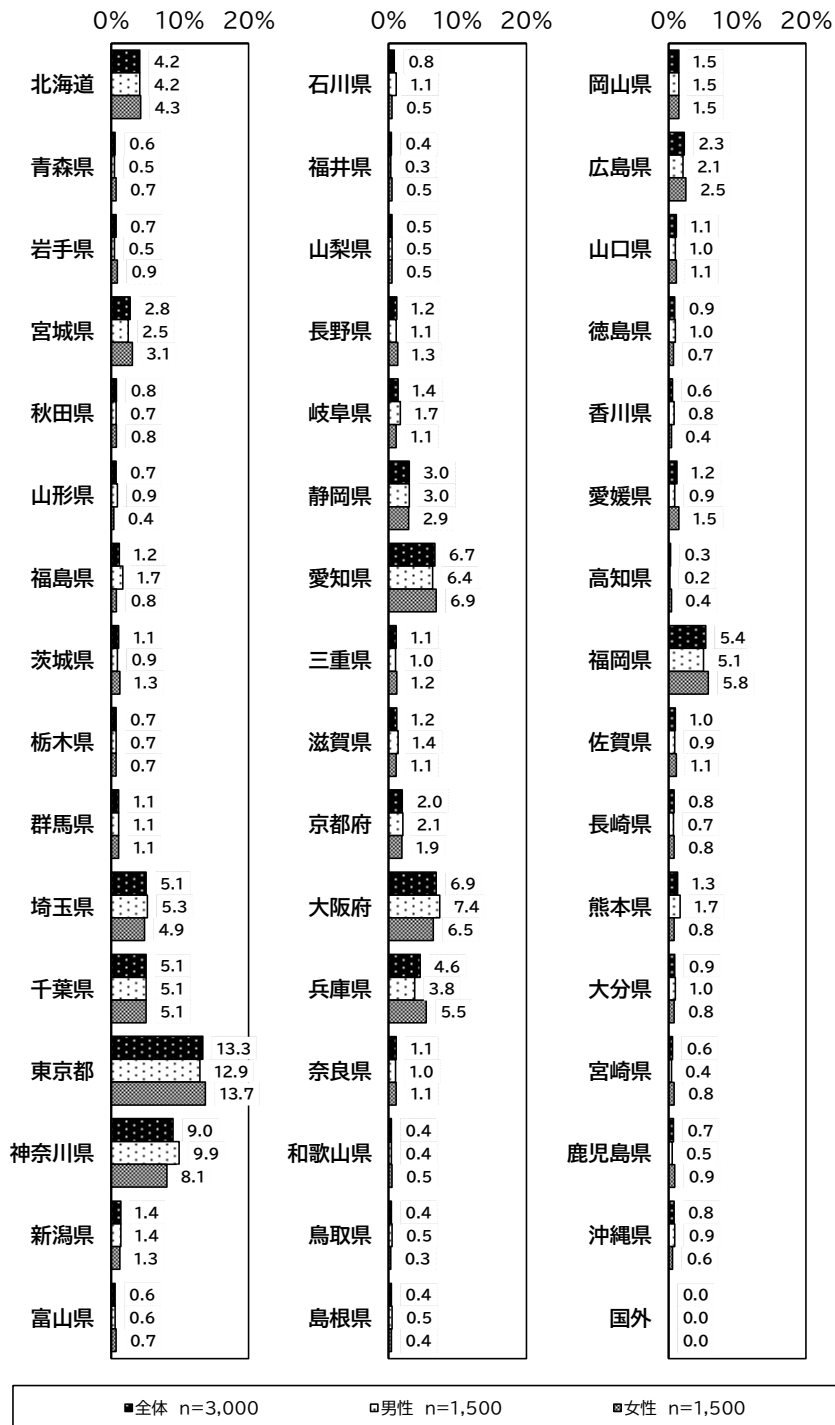


(4) 居住地

居住地については、「東京都」が最も多く 13.3%であった。

なお、大都市部（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県及び大阪府）は 46.1%を占めていた。

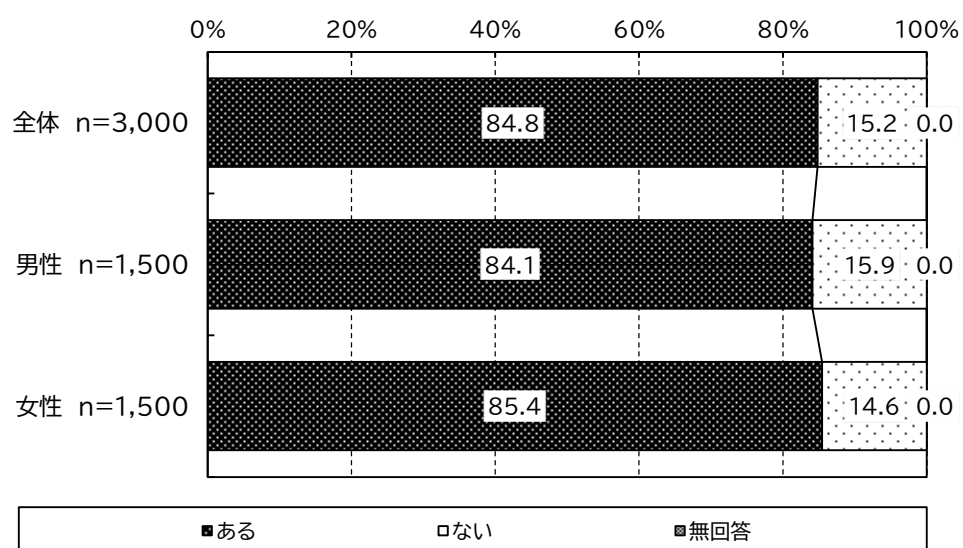
図表 6-5 居住地【性別】



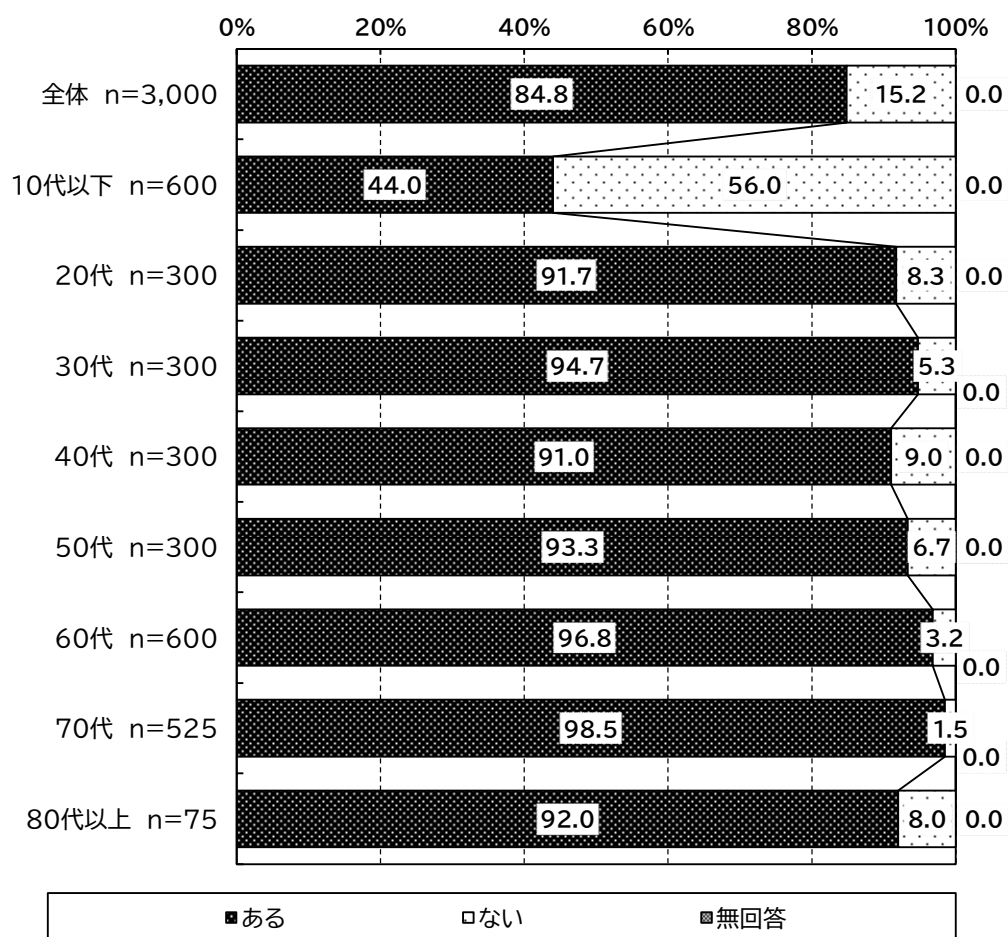
(5) 薬局の窓口で支払うお金の有無

薬局の窓口で支払うお金（お薬の容器代は含まない）については、「ある」が84.8%、「ない」が15.2%であった。

図表 6-6 薬局の窓口で支払うお金の有無
【性別】



図表 6-7 薬局の窓口で支払うお金の有無
【年代別】

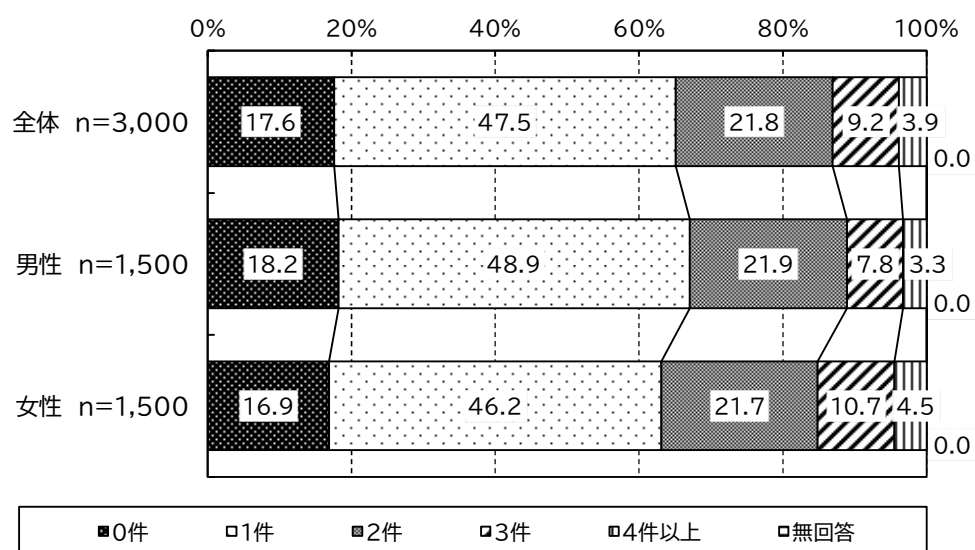


2) 医療機関や保険薬局の利用状況等について

(1) 定期的に受診している医療機関（病院・診療所）の数

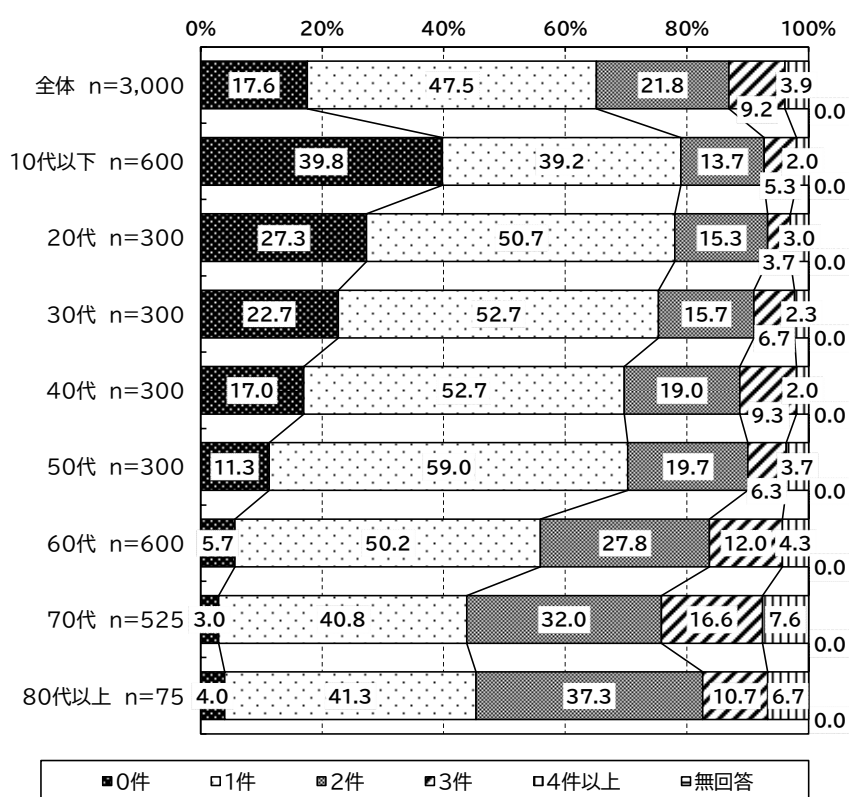
定期的に受診している医療機関（病院・診療所）の数については、「1件」が最も多く47.5%、次いで「2件」が多く21.8%であった。

図表 6-8 定期的に受診している医療機関（病院・診療所）の数
【性別】



(単位：件)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	3000	1.4	1.3	1
男性	1500	1.3	1.2	1
女性	1500	1.4	1.4	1

図表 6-9 定期的に受診している医療機関（病院・診療所）の数
【年代別】

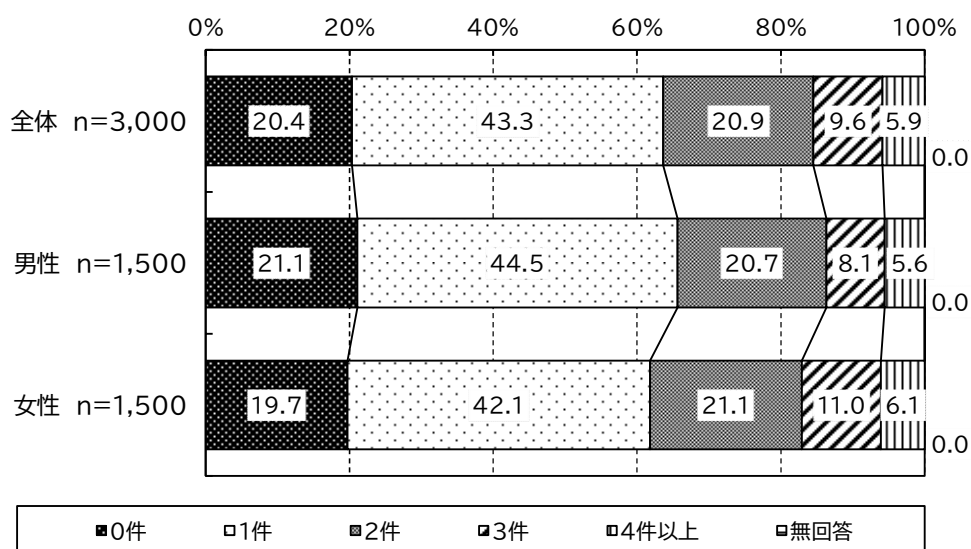
(単位：件)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	3000	1.4	1.3	1
10代以下	600	0.9	1.1	1
20代	300	1.1	1.1	1
30代	300	1.2	1.1	1
40代	300	1.3	0.9	1
50代	300	1.4	1.2	1
60代	600	1.6	1.1	1
70代	525	1.9	1.4	2
80代以上	75	2.2	3.8	2

(2) 定期的に受診している診療科の数

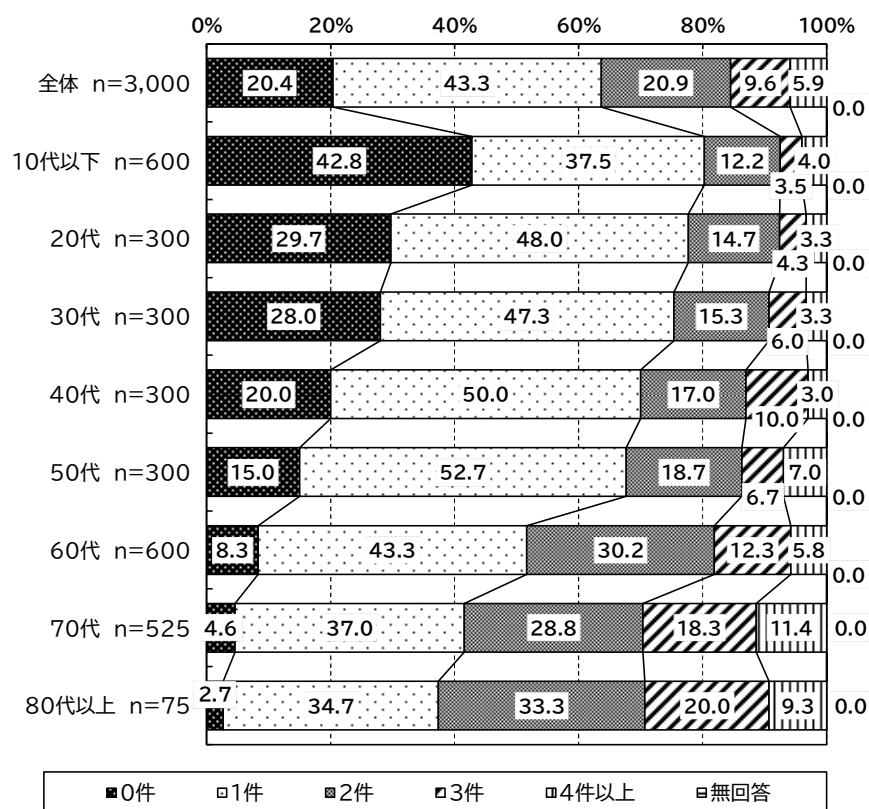
定期的に受診している診療科の数については、「1件」が最も多く 43.3%、次いで「2件」が多く 20.9%であった。

図表 6-10 定期的に受診している診療科の数
【性別】



(単位：件)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	3000	1.5	2.5	1
男性	1500	1.5	3.0	1
女性	1500	1.5	1.9	1

図表 6-11 定期的に受診している診療科の数
【年代別】

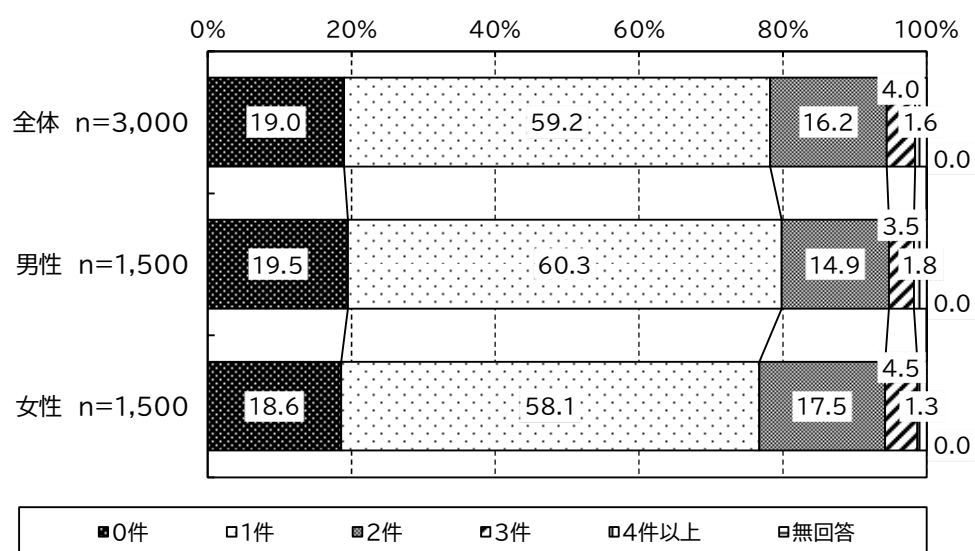
(単位：件)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	3000	1.5	2.5	1
10代以下	600	1.0	1.9	1
20代	300	1.1	1.1	1
30代	300	1.2	1.6	1
40代	300	1.4	1.8	1
50代	300	1.8	5.8	1
60代	600	1.7	1.3	1
70代	525	2.3	2.5	2
80代以上	75	2.1	1.4	2

(3) 定期的に受診している薬局の数

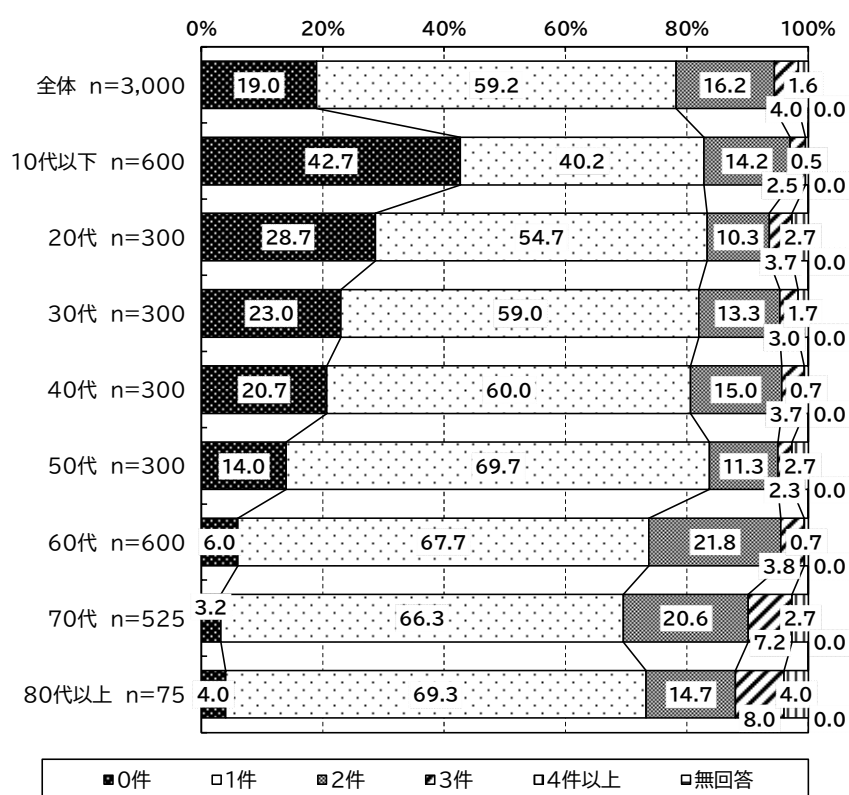
定期的に受診している薬局の数については、「1件」が最も多く 59.2%、次いで「0件」が多く 19.0%であった。

図表 6-12 定期的に受診している薬局の数
【性別】



(単位：件)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	3000	1.2	2.1	1
男性	1500	1.2	2.7	1
女性	1500	1.1	1.0	1

図表 6-13 定期的に受診している薬局の数
【年代別】

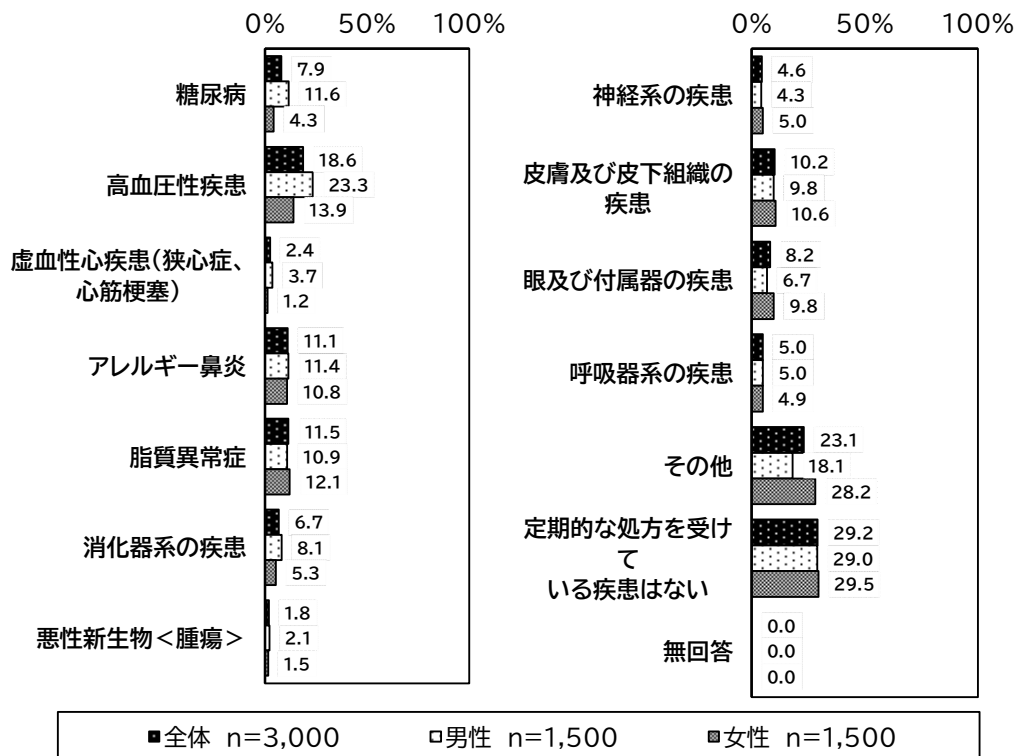
(単位：件)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	3000	1.2	2.1	1
10代以下	600	0.8	0.8	1
20代	300	1.0	1.1	1
30代	300	1.1	1.0	1
40代	300	1.0	0.8	1
50代	300	1.4	5.7	1
60代	600	1.3	0.7	1
70代	525	1.5	1.4	1
80代以上	75	1.4	1.1	1

(4) 定期的な処方を受けている疾患

定期的な処方を受けている疾患については、「高血圧性疾患」が最も多く 18.6%、次いで「脂質異常症」が多く 11.5%であった。

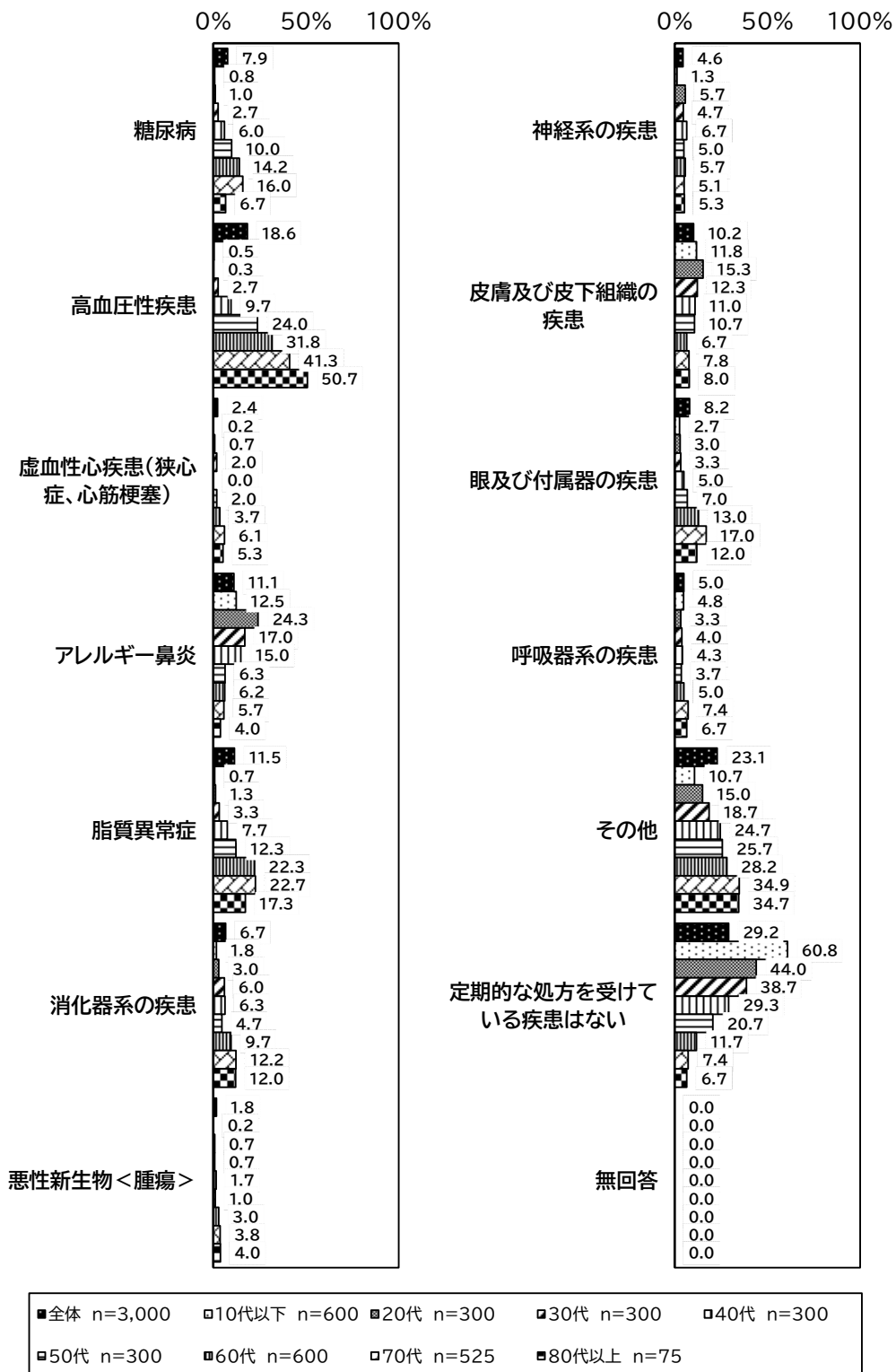
図表 6-14 定期的な処方を受けている疾患（複数回答）
【性別】



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・リウマチ
- ・精神疾患
- ・腎疾患
- ・血液疾患
- ・骨粗鬆症
- ・循環器疾患
- ・心疾患
- ・更年期障害 など

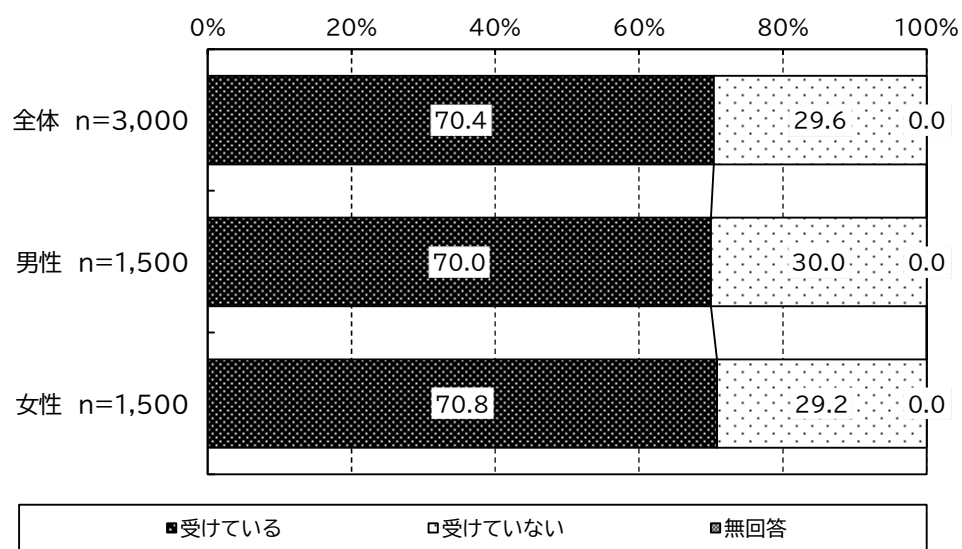
図表 6-15 定期的な処方を受けている疾患（複数回答）
【年代別】



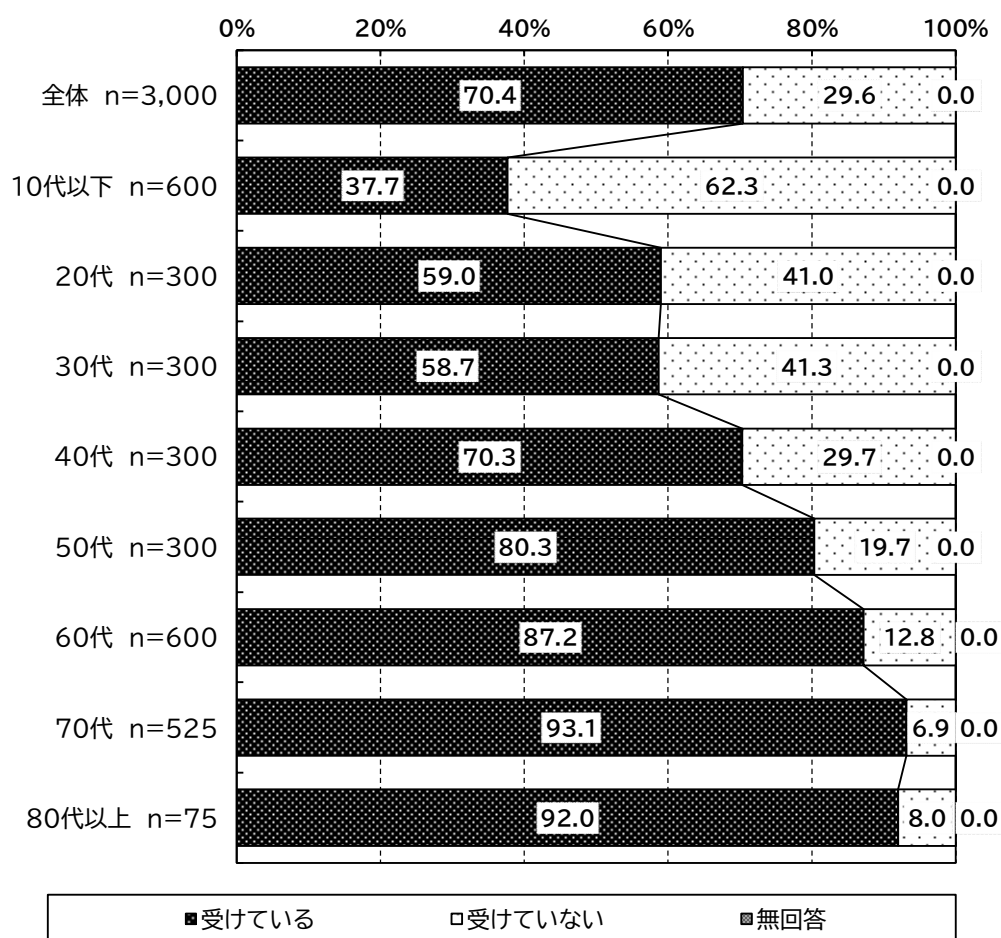
(5) 定期的に決まった薬の処方を受けているか

定期的に決まった薬の処方を受けているかについては、「受けている」が70.4%、「受けていない」が29.6%であった。

図表 6-16 定期的に決まった薬の処方を受けているか
【性別】



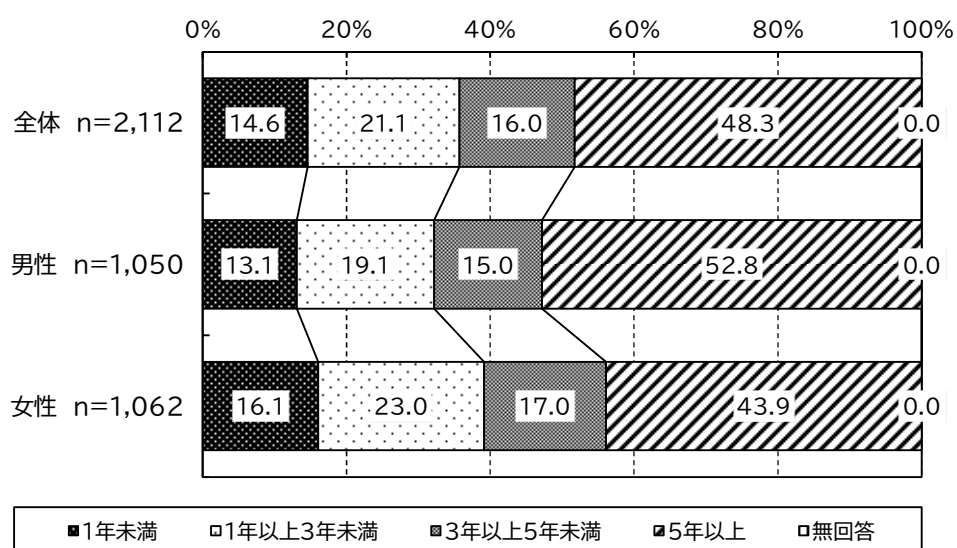
図表 6-17 定期的に決まった薬の処方を受けているか
【年代別】



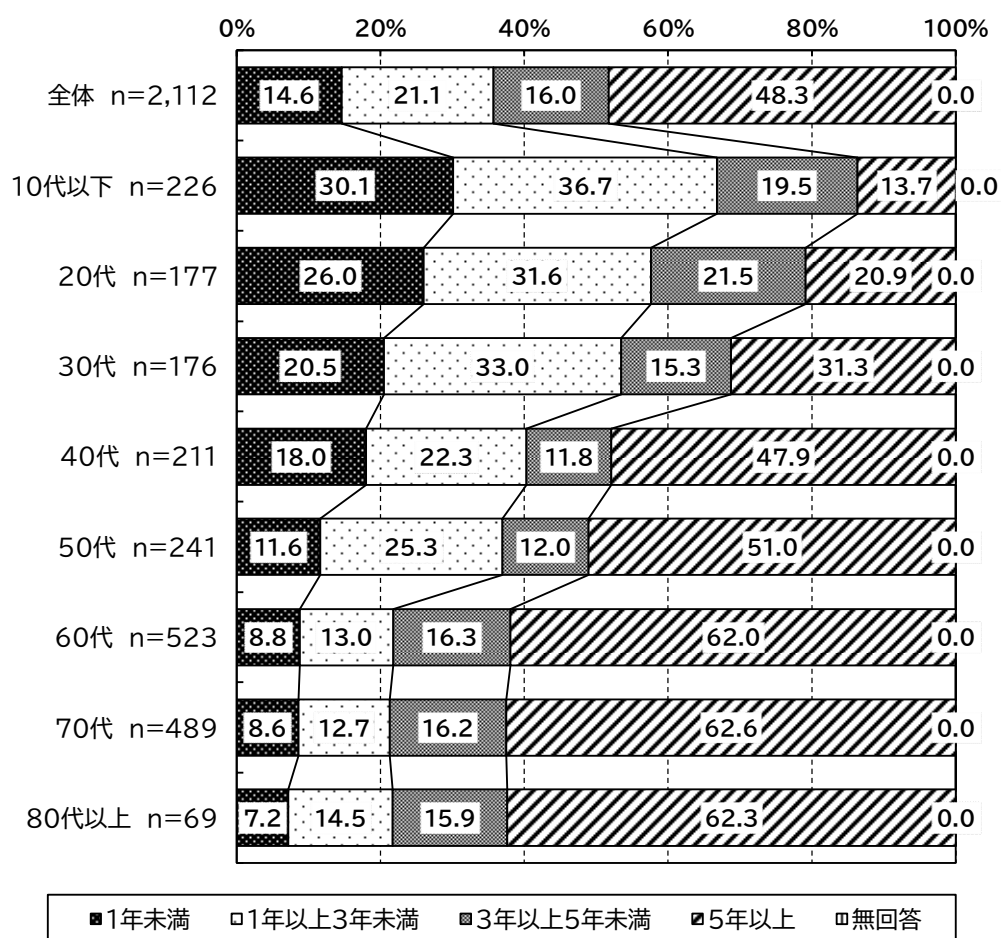
(6) 定期的な処方を受けている期間

定期的な処方を受けている期間については、「5年以上」が最も多く 48.3%、次いで「1年以上3年未満」が多く 21.1%であった。

図表 6-18 定期的な処方を受けている期間
【性別】



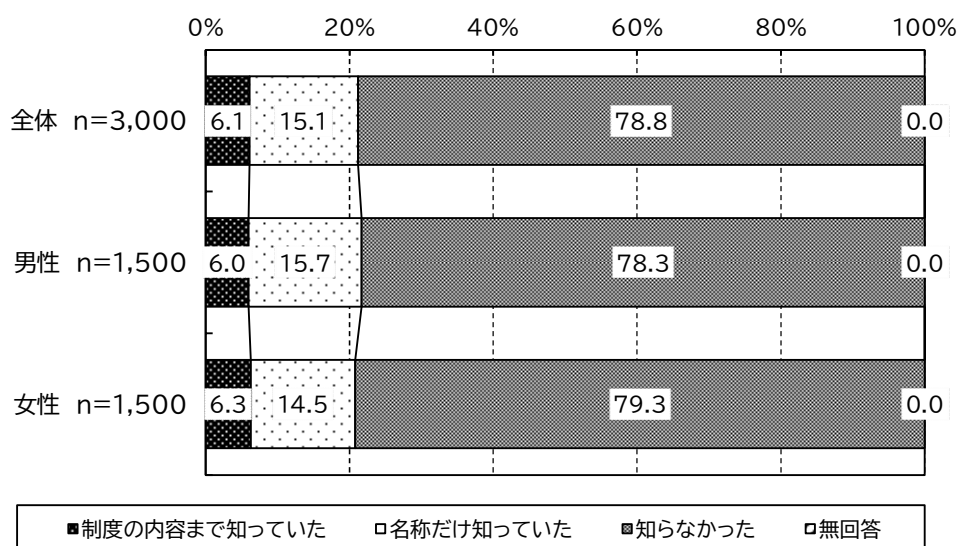
図表 6-19 定期的な処方を受けている期間
【年代別】



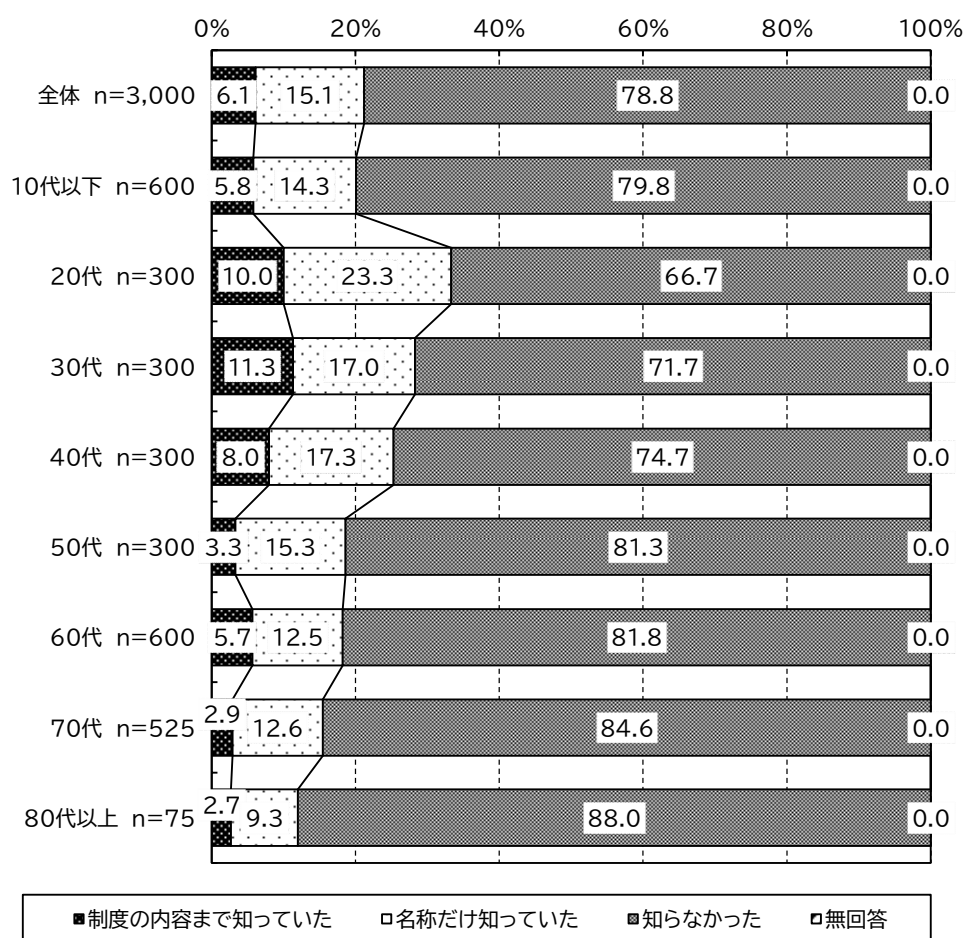
(7) リフィル処方箋の認知度

リフィル処方箋を知っているかについては、「制度の内容まで知っていた」が6.1%、「名称だけ知っていた」が15.1%、「知らなかった」が78.8%であった。

図表 6-20 リフィル処方箋の認知度
【性別】



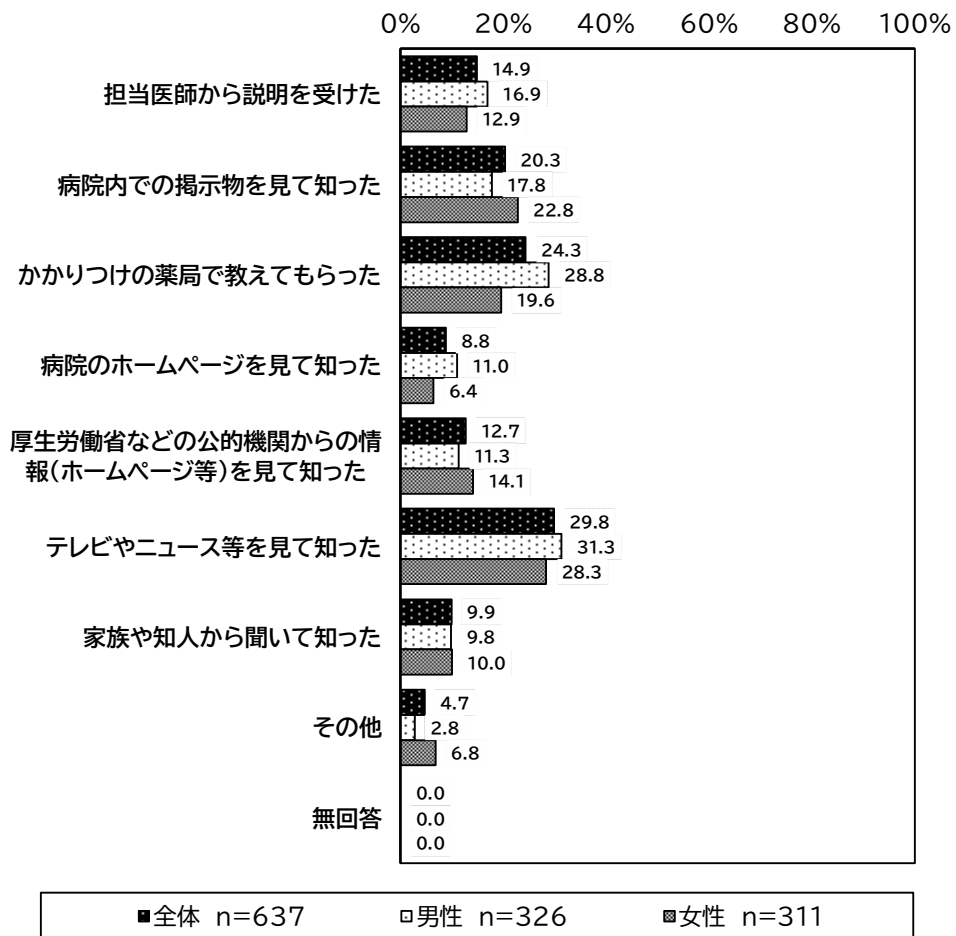
図表 6-21 リフィル処方箋の認知度
【年代別】



(8) リフィル処方箋の制度内容の認知経路

リフィル処方箋の制度内容の認知経路については、「テレビやニュース等を見て知った」が最も多く 29.8%、次いで「かかりつけの薬局で教えてもらった」が多く 24.3%であった。

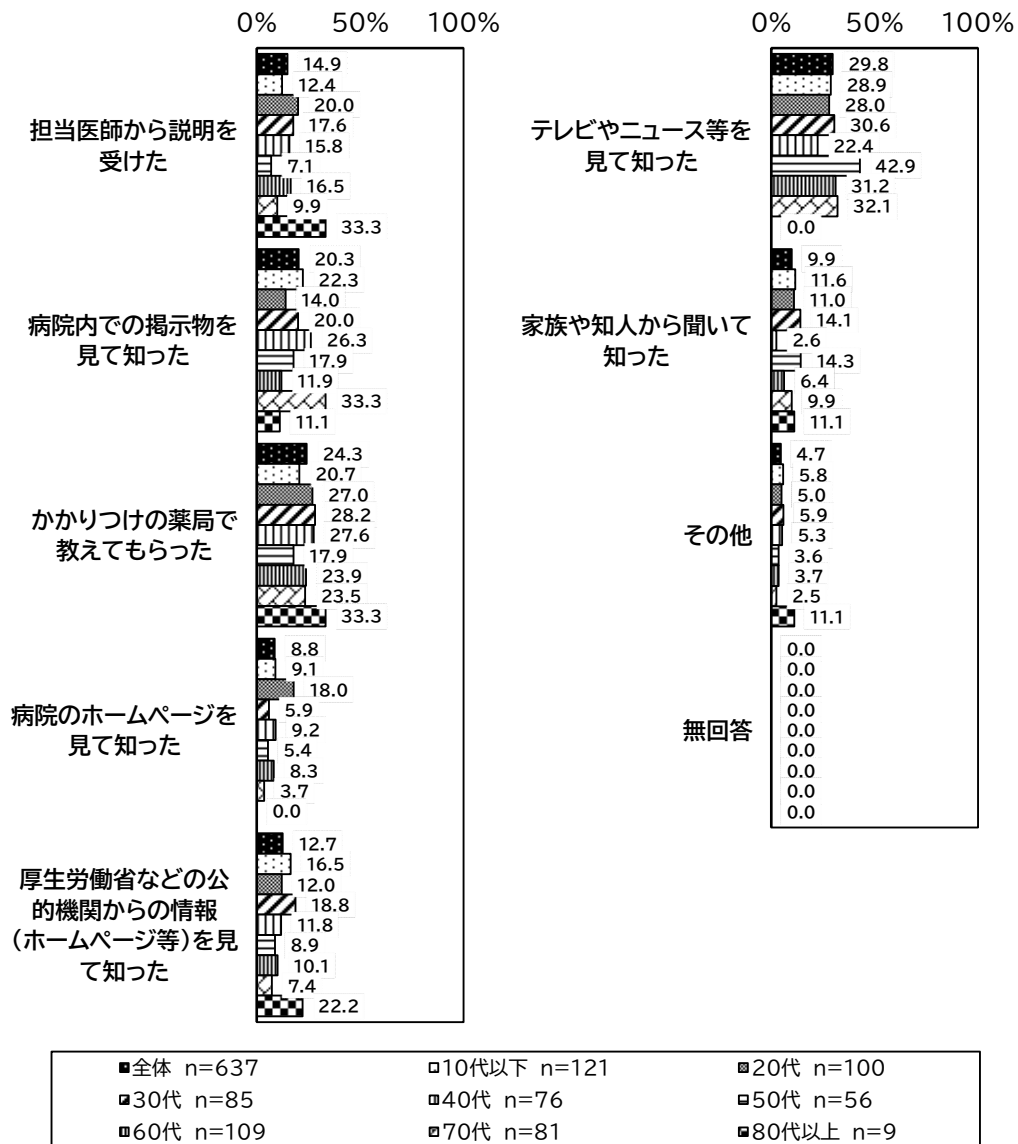
図表 6-22 リフィル処方箋の制度内容の認知経路（複数回答）
【性別】



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・Web 上の医療情報
- ・医療機関で勤務している
- ・医療関係者から聞いた など

図表 6-23 リフィル処方箋の制度内容の認知経路（複数回答）
【年代別】

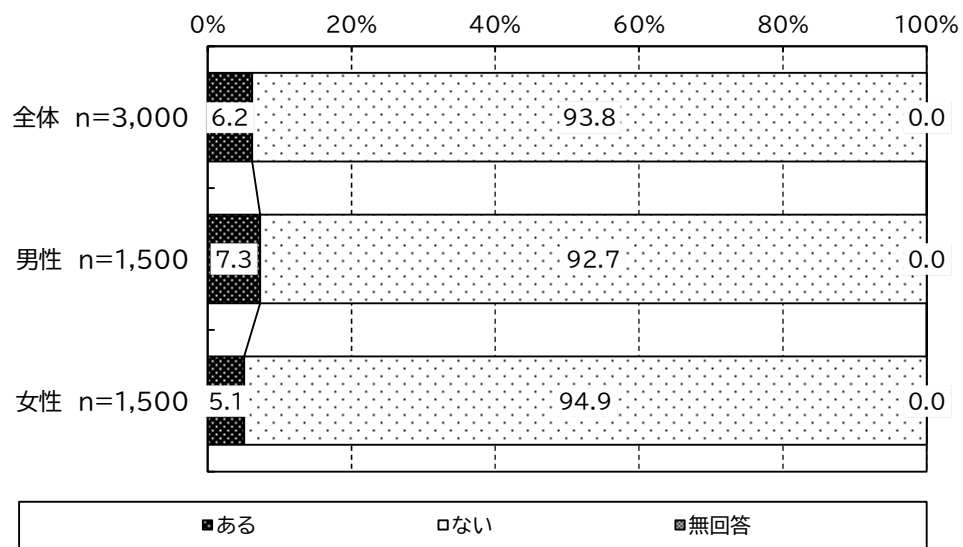


3) これまでにリフィル処方箋を交付された経験

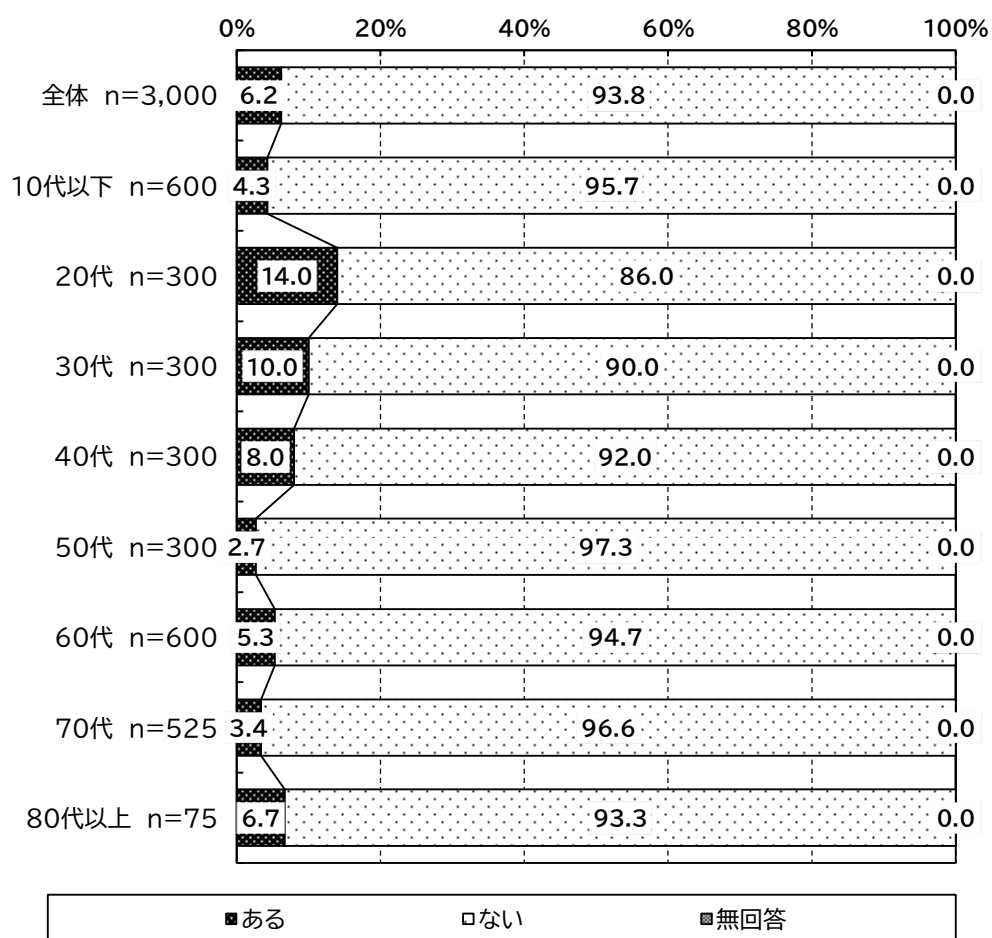
(1) リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験の有無

リフィル処方箋について医師から説明を受けたことがあるかについては、「ある」が6.2%、「ない」が93.8%であった。

図表 6-24 リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験
【性別】



図表 6-25 リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験
【年代別】

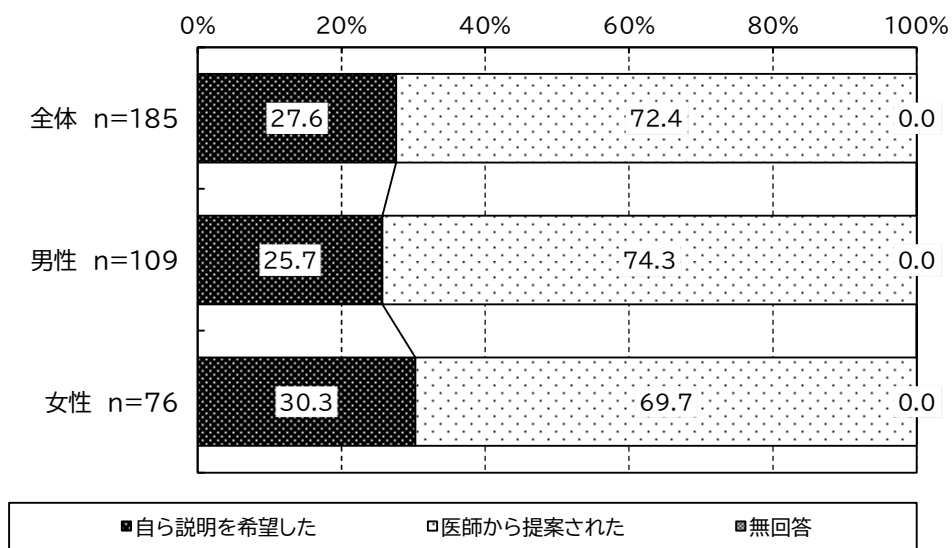


(2) リフィル処方箋についての説明はどのように行われたか

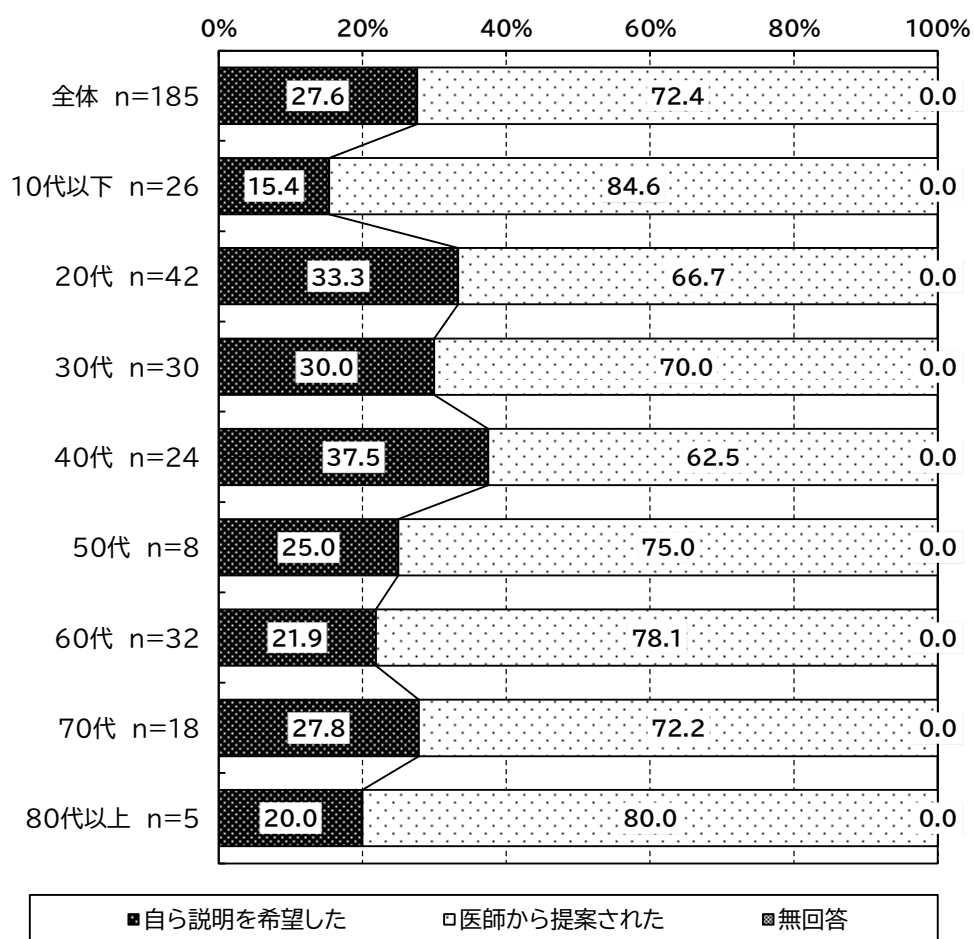
（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）

リフィル処方箋について医師から説明はどのように行われたかについては、「自ら説明を希望した」が27.6%、「医師から提案された」が72.4%であった。

図表 6-26 リフィル処方箋についての説明はどのように行われたか
（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）
【性別】



図表 6-27 リフィル処方箋についての説明はどのように行われたか
（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）
【年代別】

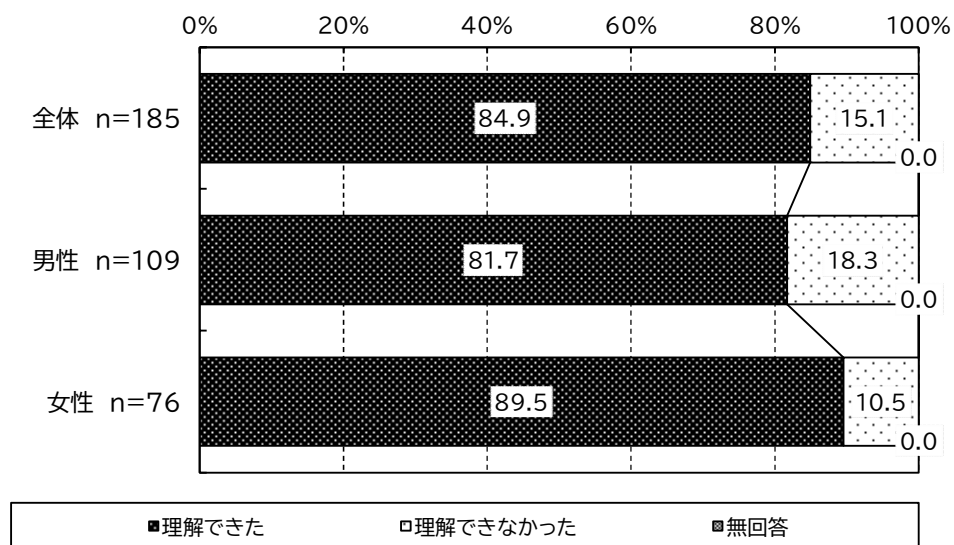


(3) リフィル処方箋についての説明は理解できたか

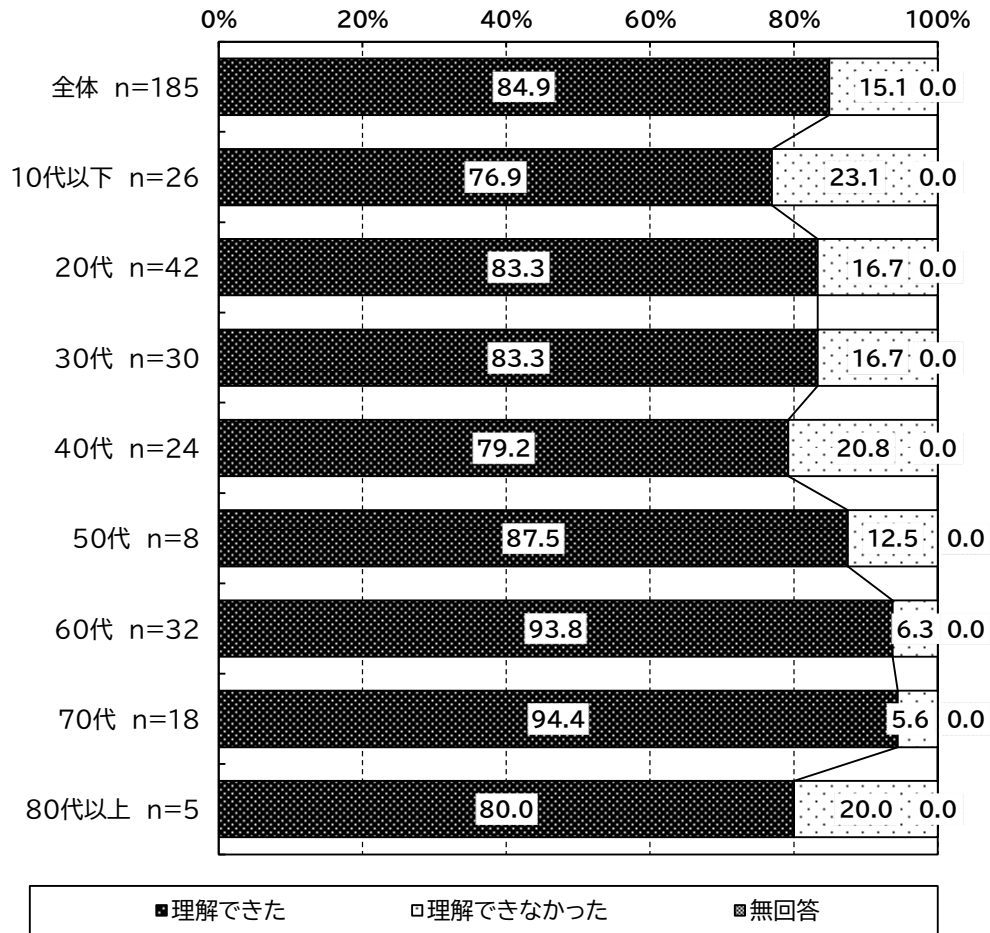
（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）

リフィル処方箋についての説明は理解できたかについては、「理解できた」が 84.9%、「理解できなかった」が 15.1%であった。

図表 6-28 リフィル処方箋についての説明は理解できたか
（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）
【性別】



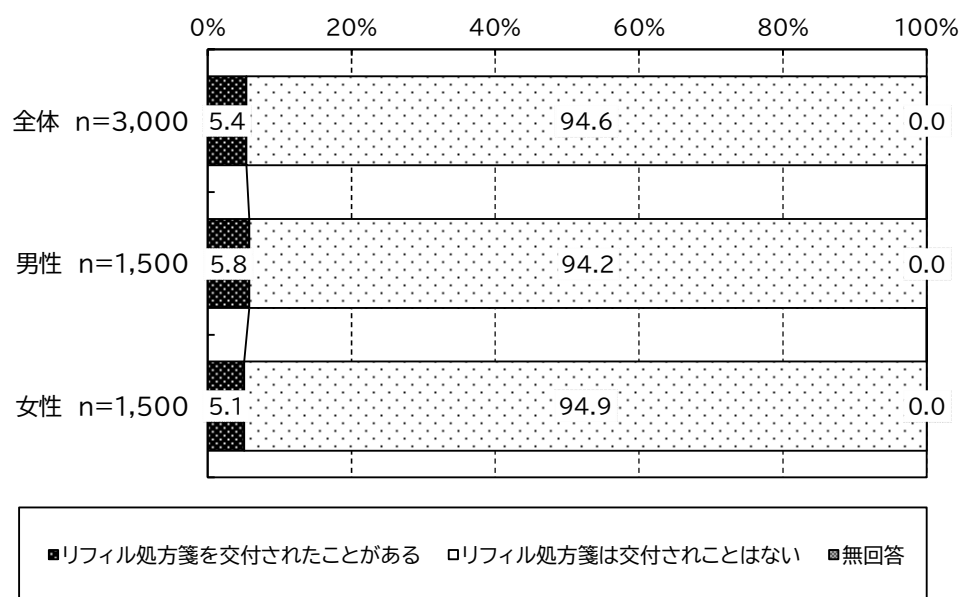
図表 6-29 リフィル処方箋についての説明は理解できたか
（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）
【年代別】



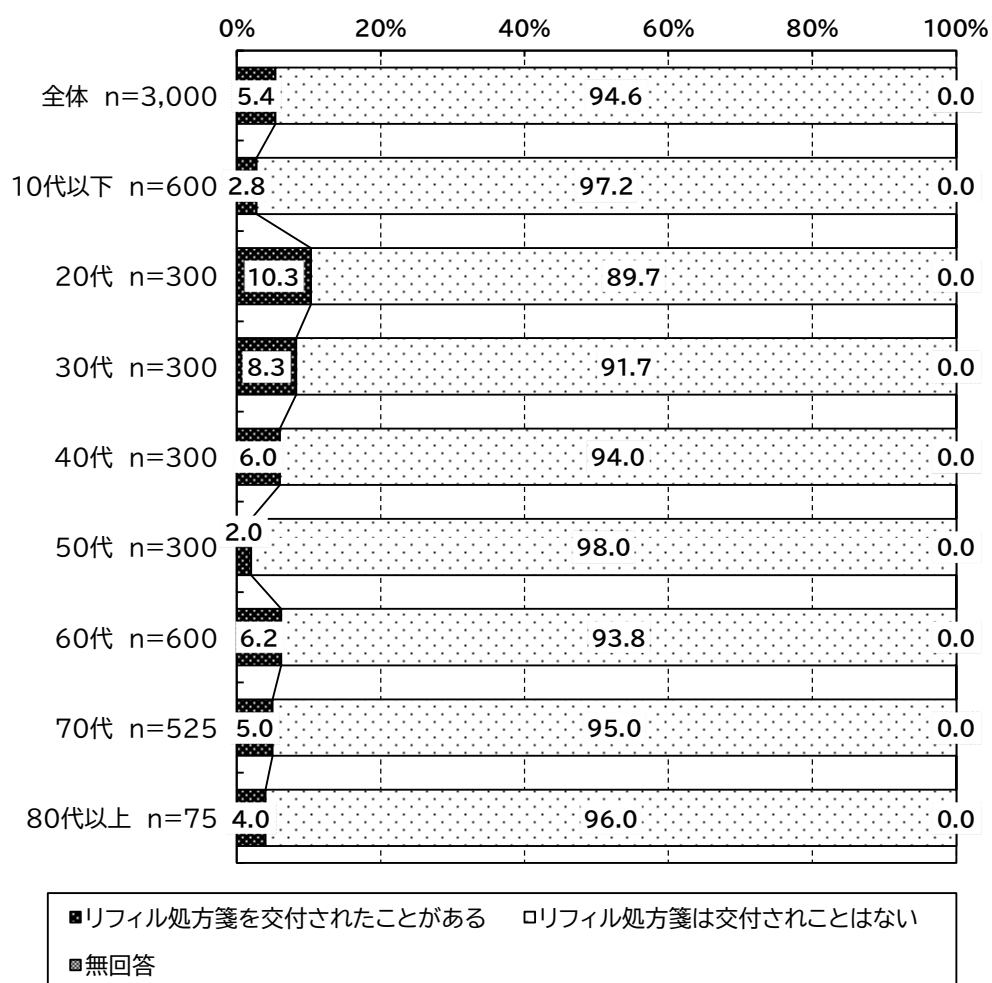
(4) リフィル処方箋を交付された経験

リフィル処方箋を交付された経験については、「ある」が5.4%、「ない」が94.6%であった。

図表 6-30 リフィル処方箋を交付された経験
【性別】



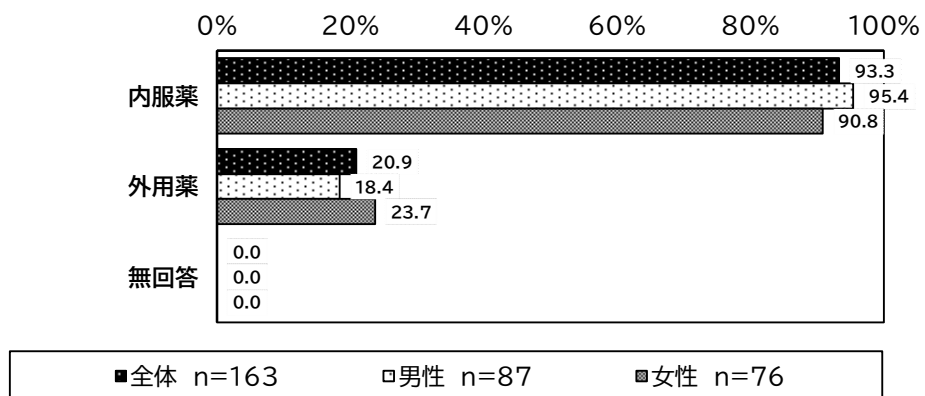
図表 6-31 リフィル処方箋を交付された経験
【年代別】



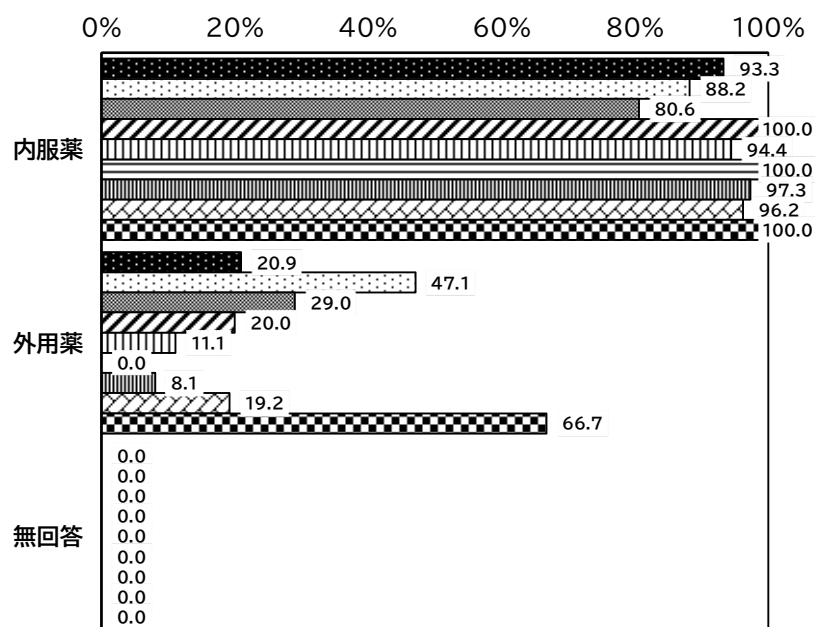
(5) リフィル処方箋を交付された薬の種類
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

リフィル処方箋を交付されたのはどのような薬かについては、「内服薬」が最も多く93.3%、次いで「外用薬」が20.9%であった。

図表 6-32 リフィル処方箋を交付された薬の種類（複数回答）
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
【性別】



図表 6-33 リフィル処方箋を交付された薬の種類（複数回答）
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
【年代別】

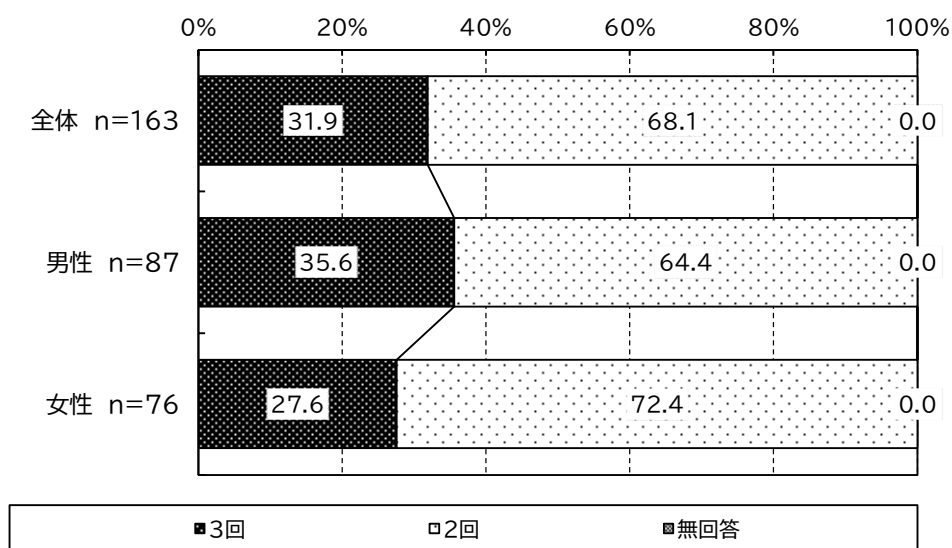


■全体 n=163 □10代以下 n=17 ■20代 n=31 ■30代 n=25 □40代 n=18
 □50代 n=6 ■60代 n=37 □70代 n=26 □80代以上 n=3

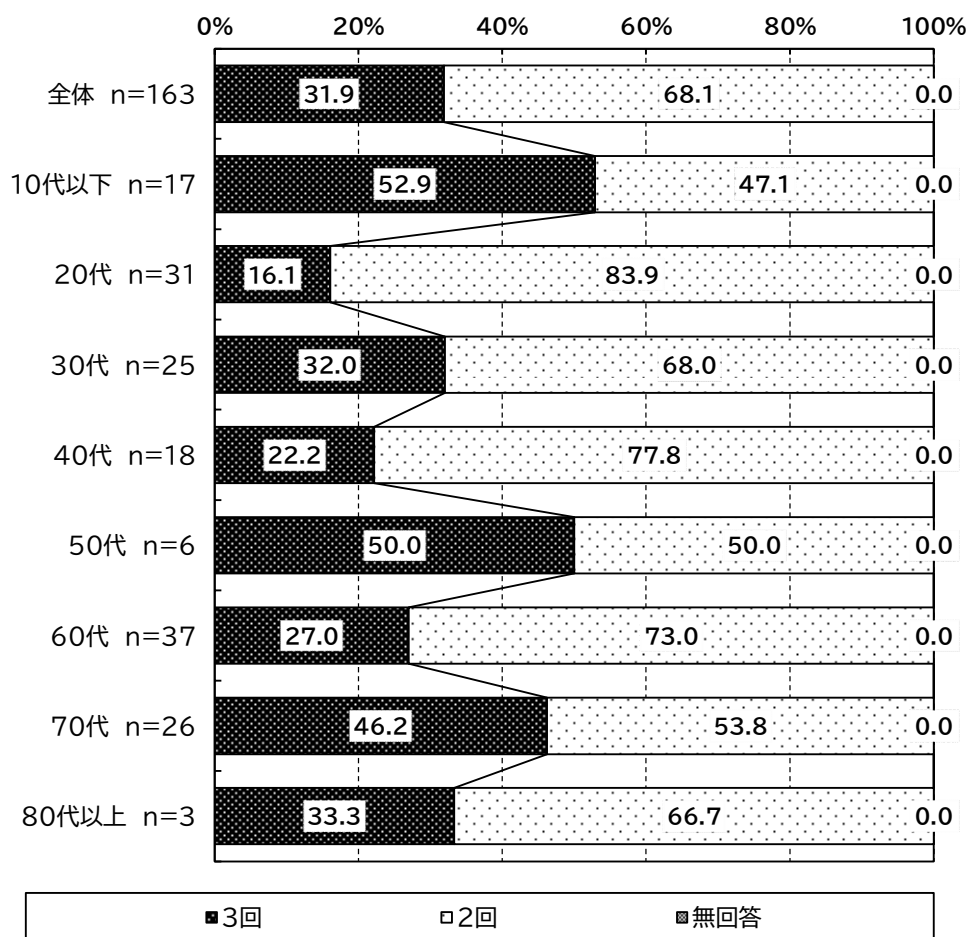
(6) 直近のリフィル処方箋の反復利用できる回数
 （リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

直近のリフィル処方箋は何回反復利用できる処方箋かについては、「3回」が31.9%、「2回」が68.1%であった。

図表 6-34 直近のリフィル処方箋の反復利用できる回数
 （リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
 【性別】



図表 6-35 直近のリフィル処方箋の反復利用できる回数
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
【年代別】



(7) 直近のリフィル処方箋の1回あたりの処方日数
 （リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

直近のリフィル処方箋の1回あたりの処方日数については、平均で23.2日分であった。

図表 6-36 直近のリフィル処方箋の1回あたりの処方日数
 （リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
 【性別】

（単位：日分）

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	128	23.2	21.3	14
男性	69	20.4	21.5	10
女性	59	26.4	20.6	28

図表 6-37 直近のリフィル処方箋の1回あたりの処方日数
 （リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
 【年代別】

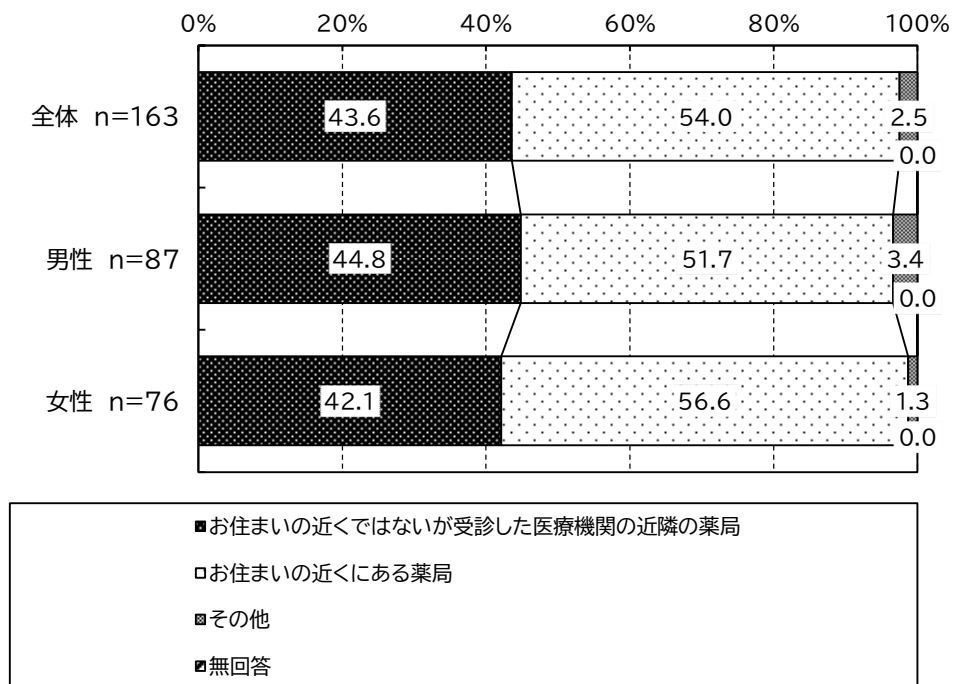
（単位：日分）

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	128	23.2	21.3	14
10代以下	14	15.8	19.1	7
20代	24	9.0	9.2	6
30代	22	23.4	25.1	12
40代	18	19.6	19.8	14
50代	5	33.6	31.6	30
60代	24	30.0	18.2	30
70代	18	37.6	17.2	30
80代以上	3	32.7	5.3	30

(8) リフィル処方箋の1回目の調剤で行った薬局
(リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ)

リフィル処方箋の1回目の処方でどこの薬局に行ったかについては、「お住まいの近くではないが受診した医療機関の近隣の薬局」が43.6%、「お住まいの近くにある薬局」が54.0%、「その他」が2.5%であった。

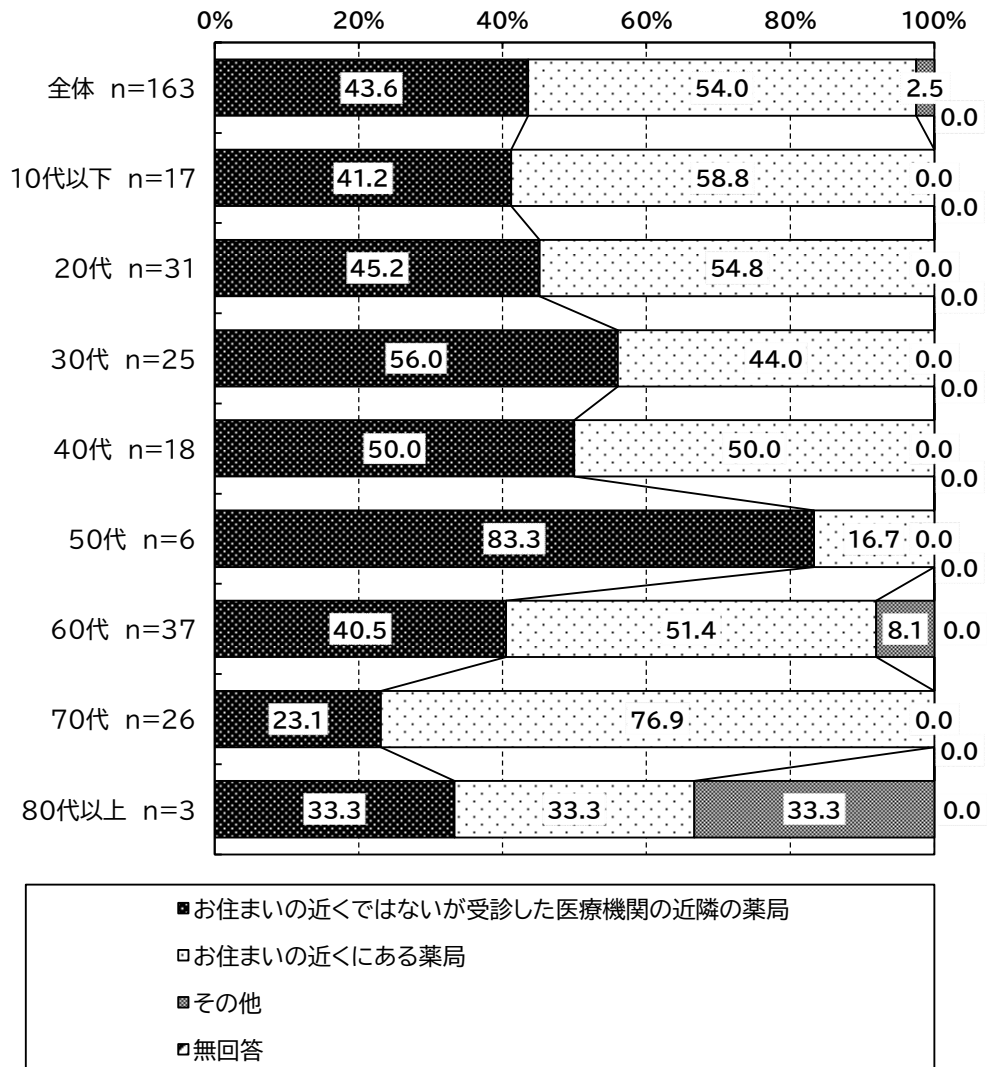
図表 6-38 リフィル処方箋の1回目の調剤で行った薬局
(リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ)
【性別】



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・ 住まいと医療機関の双方に近い薬局
- ・ 院内
- ・ かかりつけ薬局 など

図表 6-39 リフィル処方箋の1回目の調剤で行った薬局
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
【年代別】

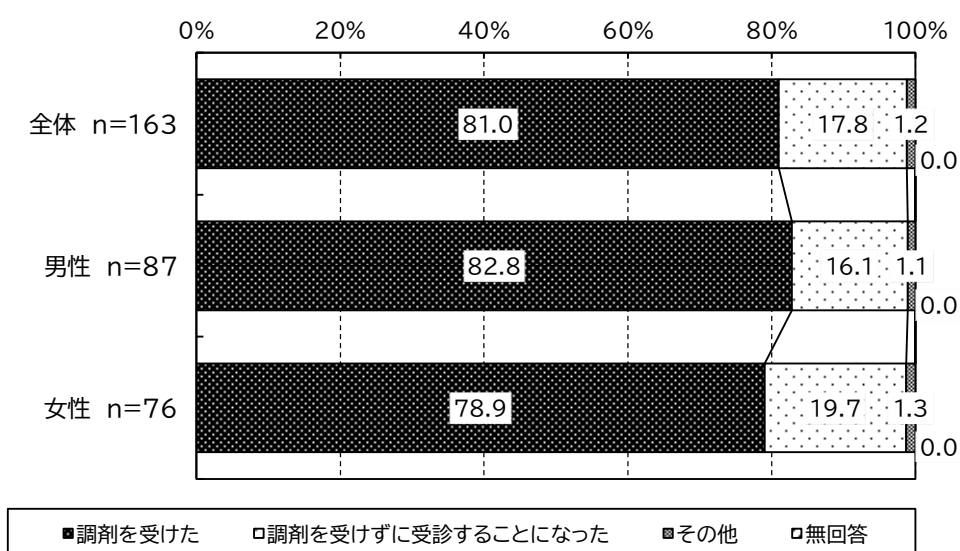


(9) リフィル処方箋の2回目の調剤の状況

（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

リフィル処方箋の2回目の調剤の状況については、「調剤を受けた」が81.0%、「調剤を受けずに受診することになった」が17.8%、「その他」が1.2%であった。

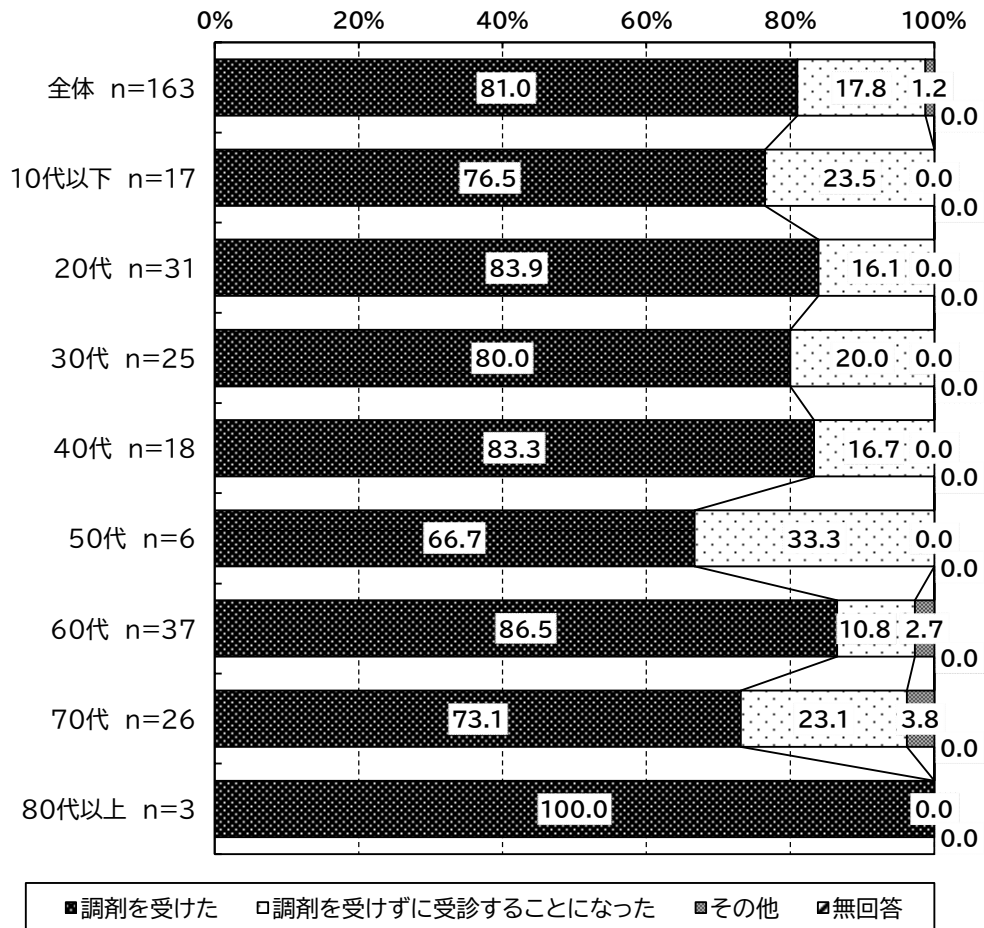
図表 6-40 リフィル処方箋の2回目の調剤の状況
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
【性別】



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・院内で調剤を受けた
- ・調剤を受ける予定 など

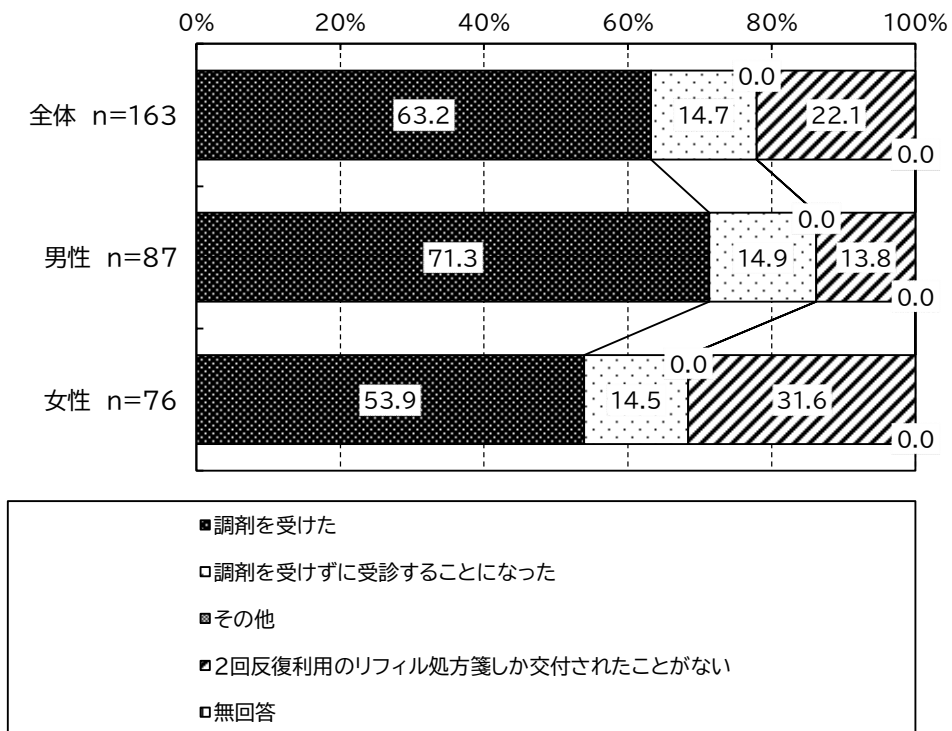
図表 6-41 リフィル処方箋の2回目の調剤の状況
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
【年代別】



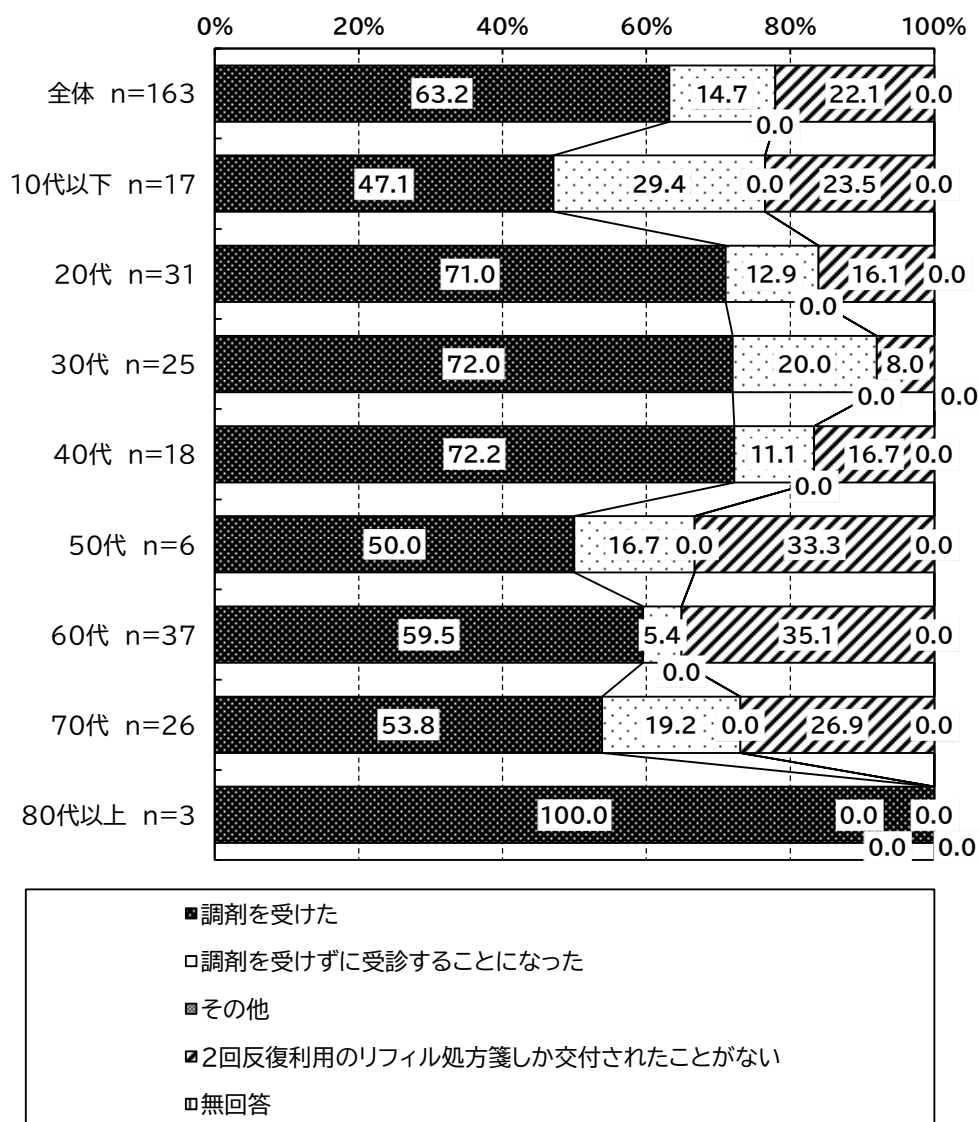
(10) リフィル処方箋の3回目の調剤の状況
(リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ)

リフィル処方箋の3回目の調剤の状況については、「調剤を受けた」が63.2%、「調剤を受けずに受診することになった」が14.7%であった。

図表 6-42 リフィル処方箋の3回目の調剤の状況
(リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ)
【性別】



図表 6-43 リフィル処方箋の3回目の調剤の状況
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
【年代別】



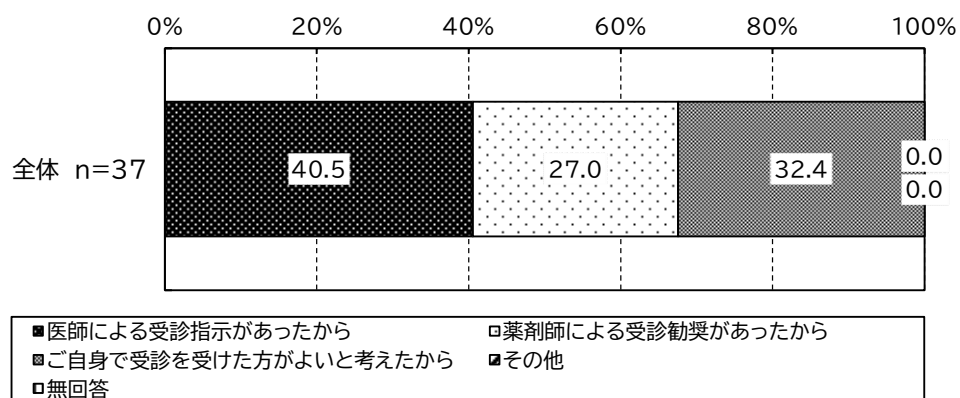
（11）調剤を受けずに受診することになった理由

（リフィル処方箋の2回目または3回目で「調剤を受けずに受診することになった」と回答した人のみ）

リフィル処方箋の2回目または3回目で「調剤を受けずに受診することになった」と回答した患者において、調剤を受けずに受診することになった理由については、「医師による受診指示があったから」が40.5%、「薬剤師による受診勧奨があったから」が27.0%、「ご自身で受診を受けた方がよいと考えたから」が32.4%であった。

図表 6-44 調剤を受けずに受診することになった理由

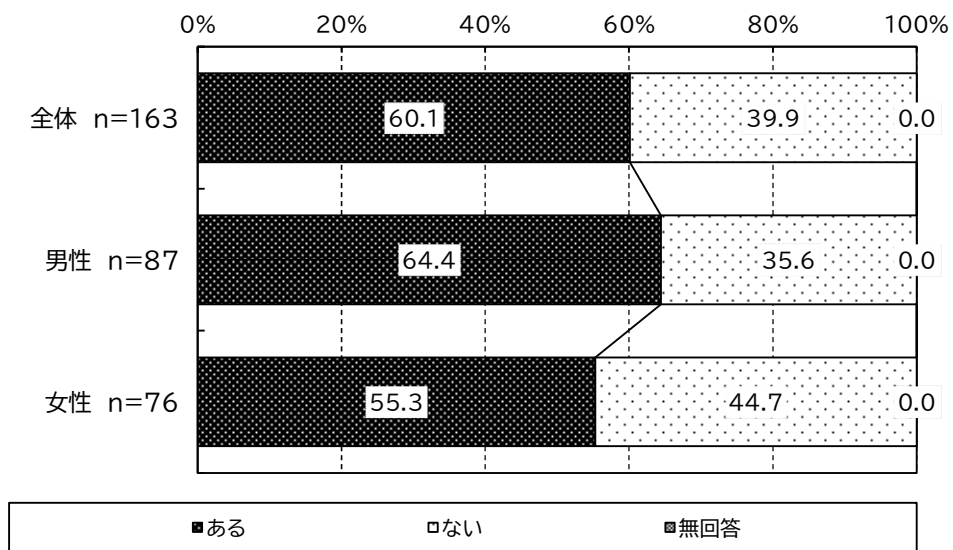
（リフィル処方箋2, 3回目の調剤で調剤を受けずに受診することになった場合）



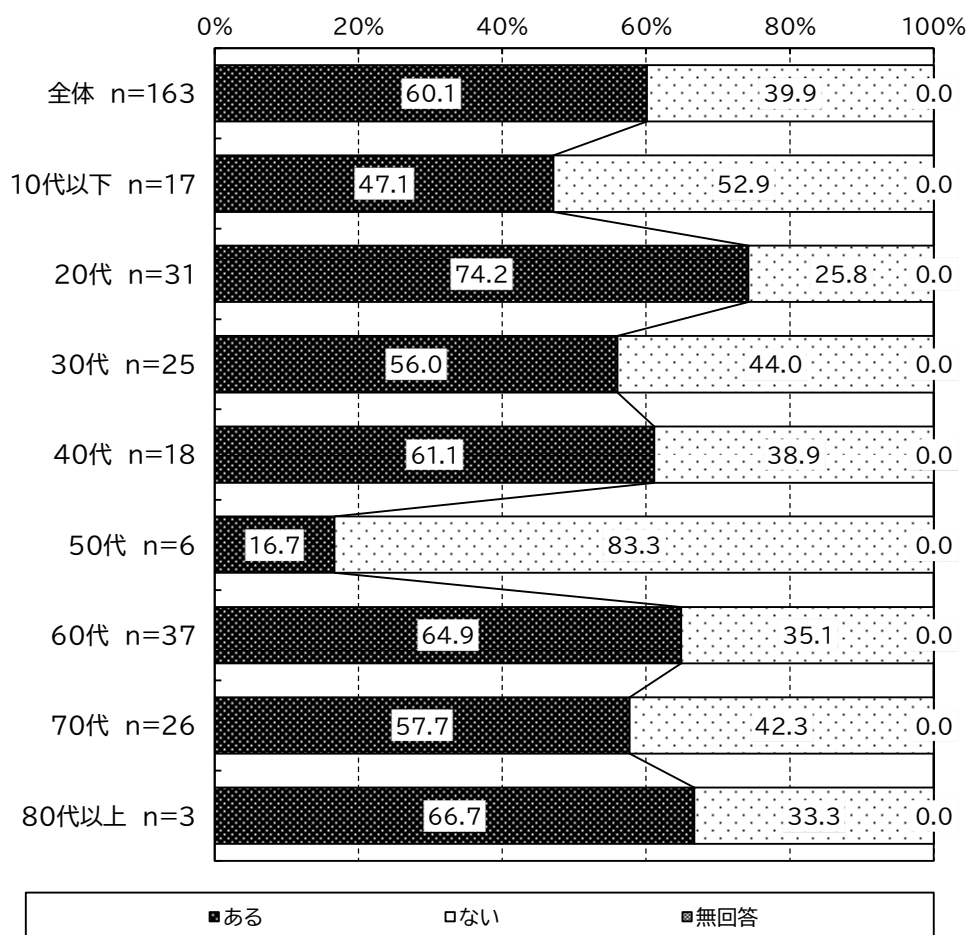
(12) 薬剤師からのフォローアップ（体調などの確認）の有無
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

薬剤師からのフォローアップ（体調などの確認）については、「ある」が60.1%、「ない」が39.9%であった。

図表 6-45 薬剤師からのフォローアップ（体調などの確認）の有無
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
【性別】



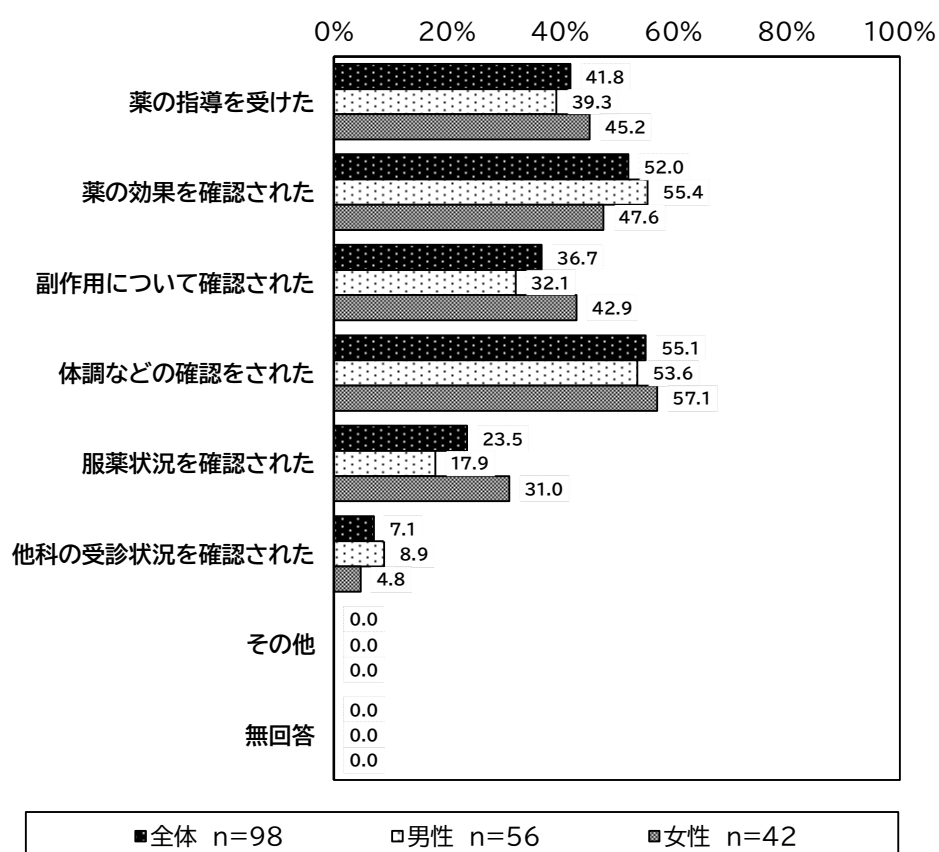
図表 6-46 薬剤師からのフォローアップ（体調などの確認）の有無
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
【年代別】



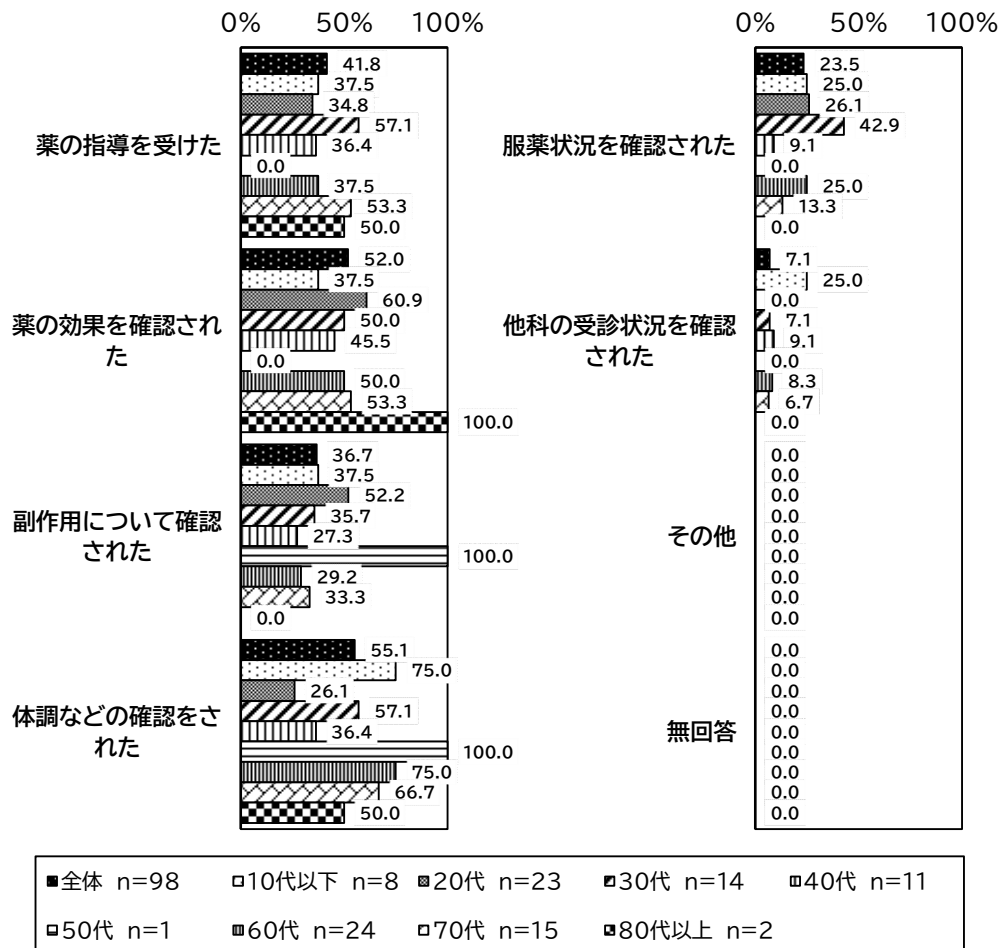
(13) 薬剤師から受けたフォローアップ（体調などの確認）の種類
（薬剤師からフォローアップを受けたことがある患者のみ）

薬剤師から受けたフォローアップ（体調などの確認）の種類については、「体調などの確認をされた」が最も多く 55.1%、次いで「薬の効果を確認された」が多く 52.0%であった。

図表 6-47 薬剤師から受けたフォローアップ（体調などの確認）の種類（複数回答）
（薬剤師からフォローアップを受けたことがある患者のみ）
【性別】



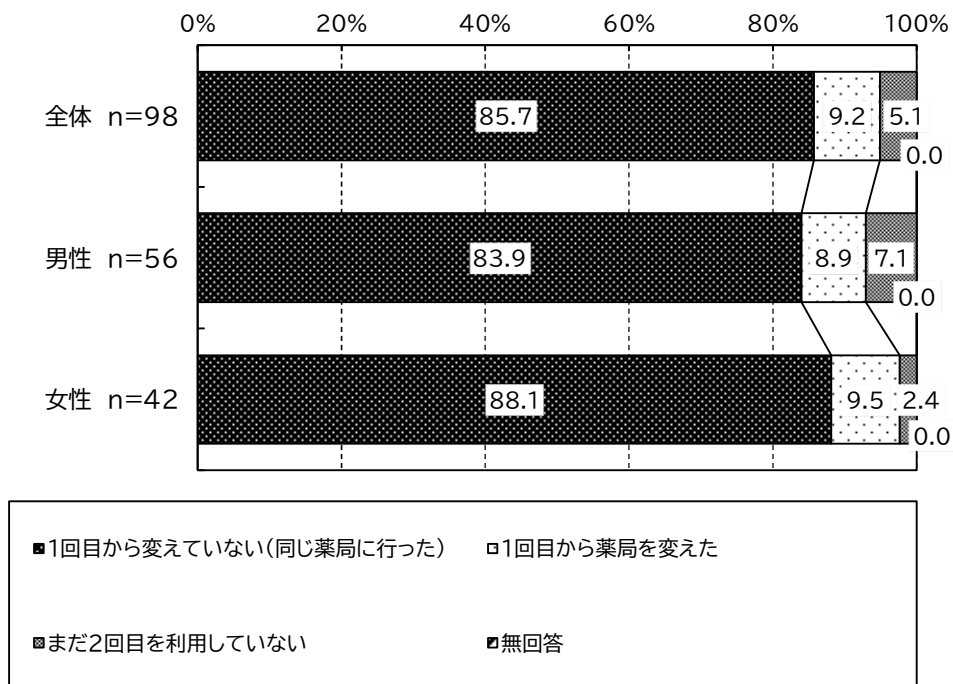
図表 6-48 薬剤師から受けたフォローアップ（体調などの確認）の種類（複数回答）
（薬剤師からフォローアップを受けたことがある患者のみ）
【年代別】



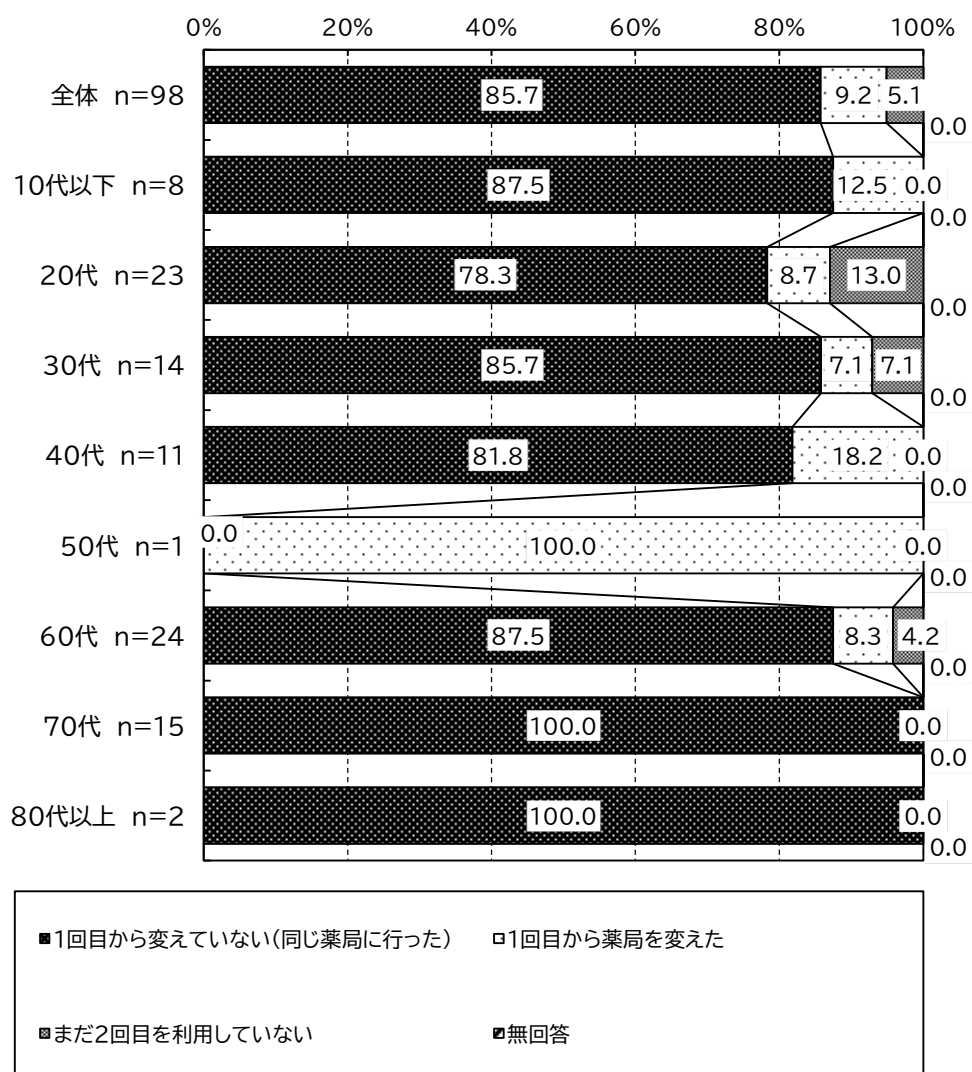
(14) リフィル処方箋の2回目以降の調剤で薬局を変えたか
(リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ)

リフィル処方箋の2回目以降の処方で薬局を変えたかについては、「1回目から変えていない（同じ薬局に行った）」が85.7%、「1回目から薬局を変更した」が9.2%、「まだ2回目を利用していない」が5.1%であった。

図表 6-49 リフィル処方箋の2回目以降の調剤で、薬局を変えたか
(リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ)
【性別】



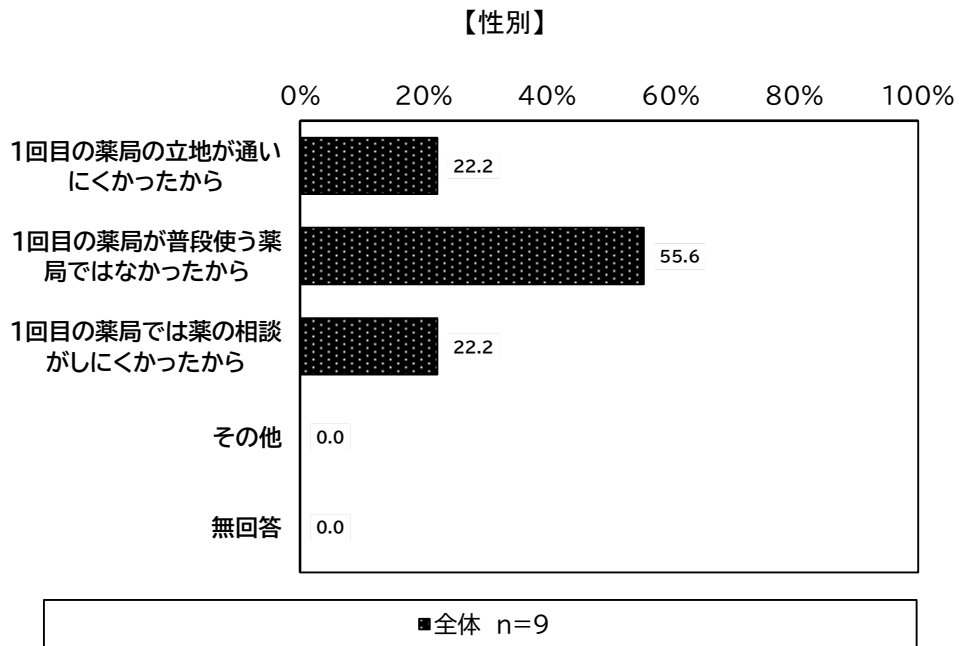
図表 6-50 リフィル処方箋の2回目以降の調剤で、薬局を変えたか
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
【年代別】



（15）薬局を変更した理由（1回目から薬局を変更した患者のみ）

薬局を変更した理由については、「1回目の薬局が普段使う薬局ではなかったから」が最も多く 55.6%、次いで「1回目の薬局の立地が通いにくかったから」、「1回目の薬局では薬の相談がしにくかったから」がともに 22.2%であった。

図表 6-51 薬局を変更した理由（複数回答）
（1回目から薬局を変更した患者のみ）

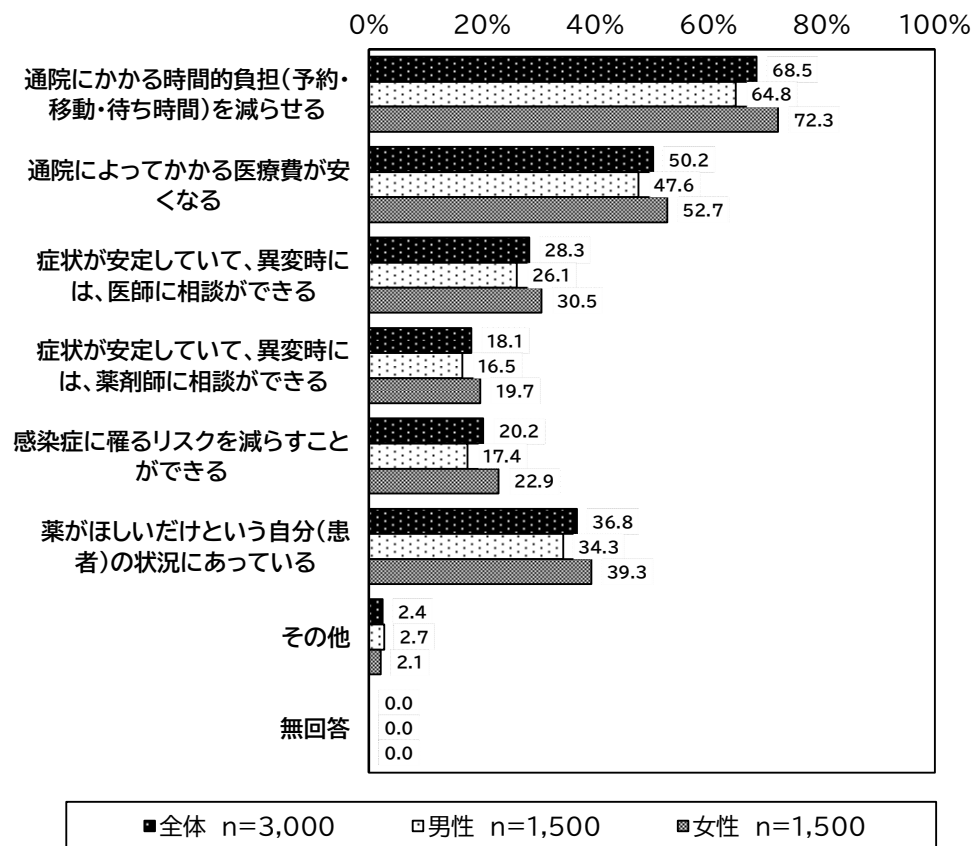


4) これからのリフィル処方箋の利用意向

(1) リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの

リフィル処方箋を使用するメリットについては、「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」が最も多く 68.5%、次いで「通院によってかかる医療費が安くなる」が多く 50.2%であった。

図表 6-52 リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの
（複数回答）
【性別】

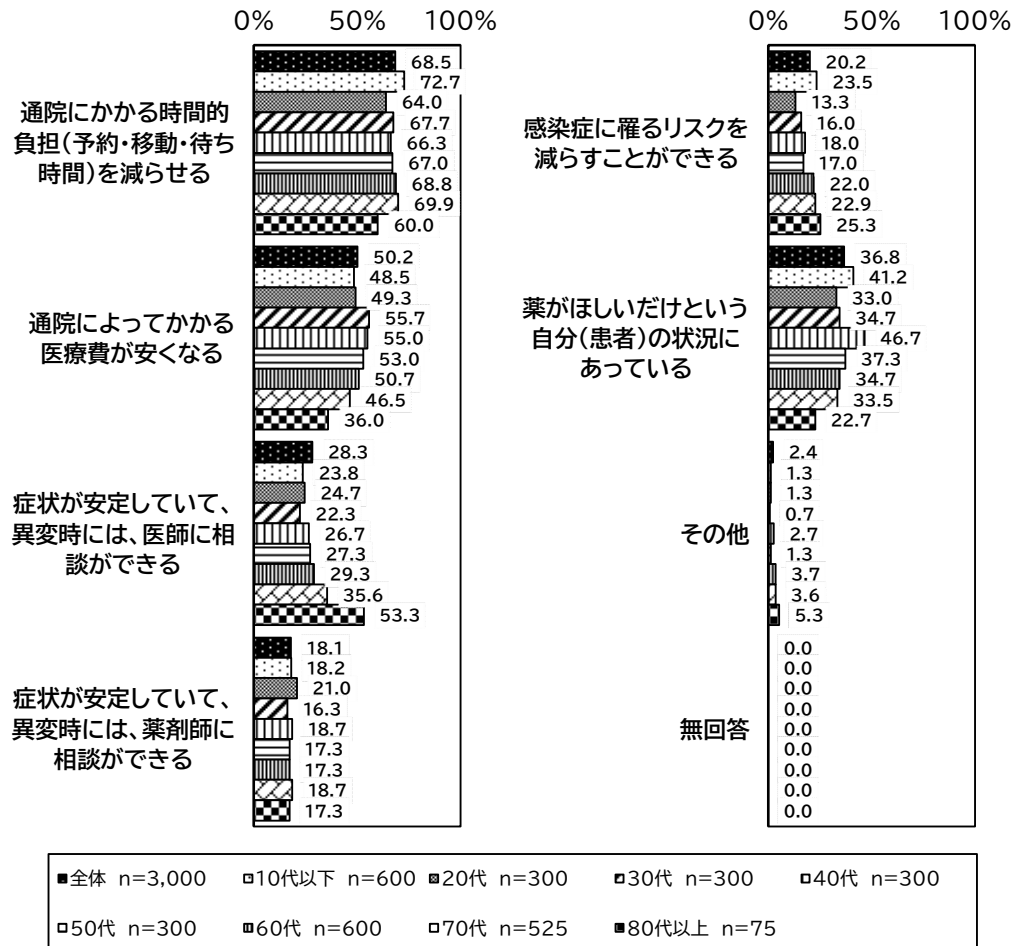


【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・心理的負担を軽減できる
- ・リフィル処方箋を使用していない
- ・制度自体あまり理解していない など

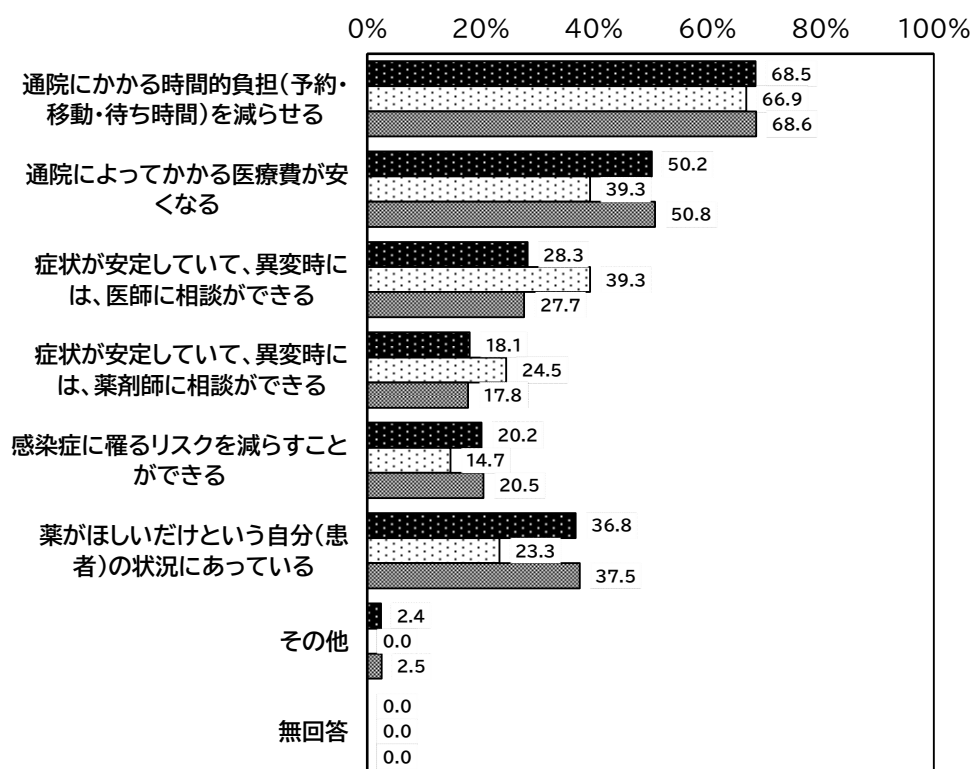
図表 6-53 リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの
（複数回答）

【年代別】



図表 6-54 リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの
（複数回答）

【リフィル処方箋を交付された経験別】



■全体 n=3,000

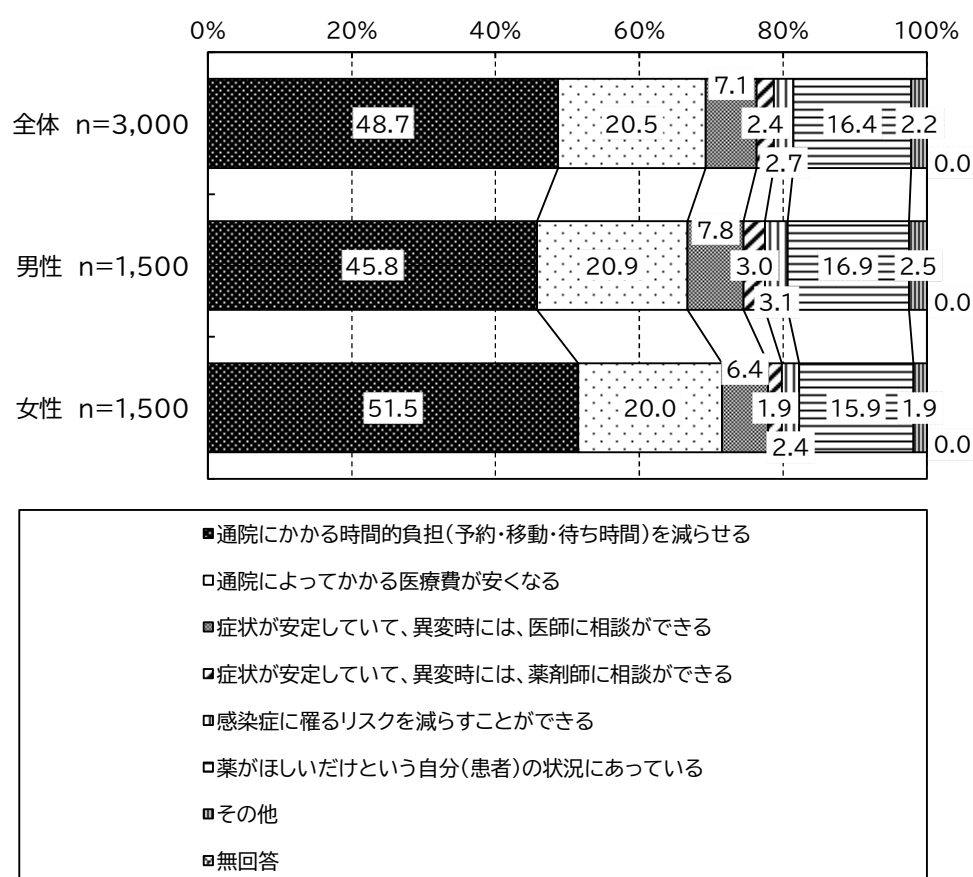
□リフィル処方箋を交付されたことがある n=163

▣リフィル処方箋は交付されことはない n=2,837

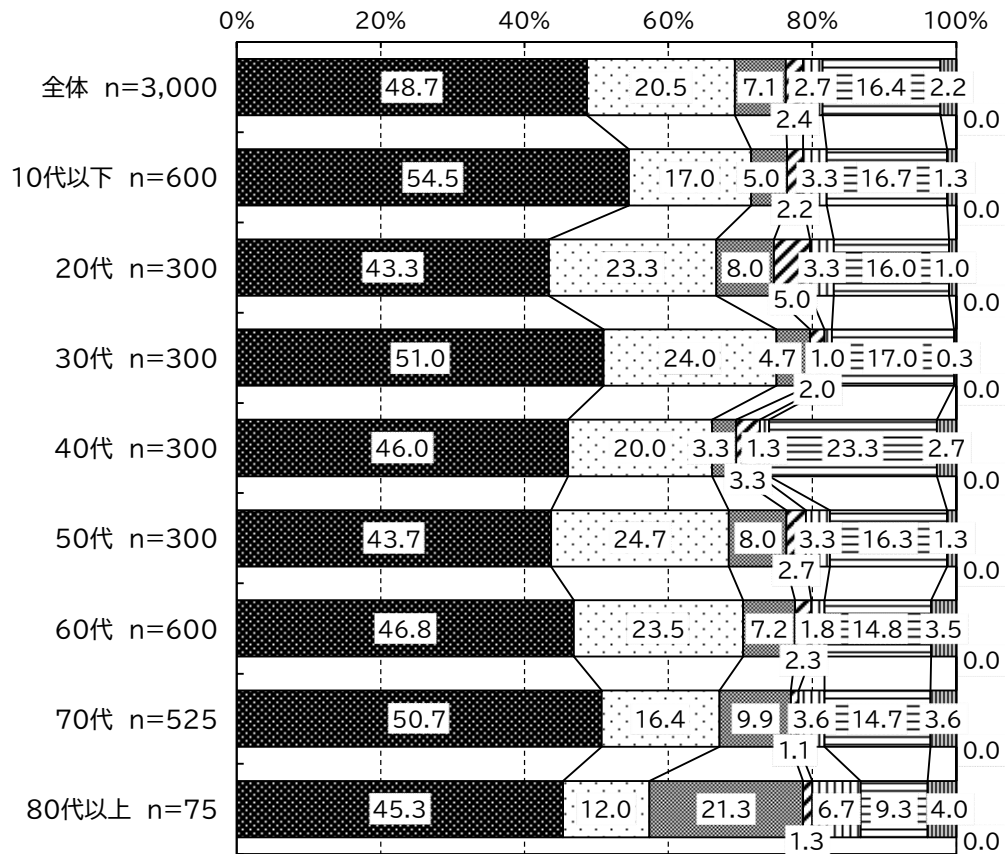
(2) リフィル処方箋を使用することについて、最もメリットになると感じるもの

リフィル処方箋を使用することについて、最もメリットになると感じるものについては、「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」が最も多く 48.7%、次いで「通院によってかかる医療費が安くなる」が多く 20.5%であった。

図表 6-55 リフィル処方箋を使用することについて、最もメリットになると感じるもの
【性別】

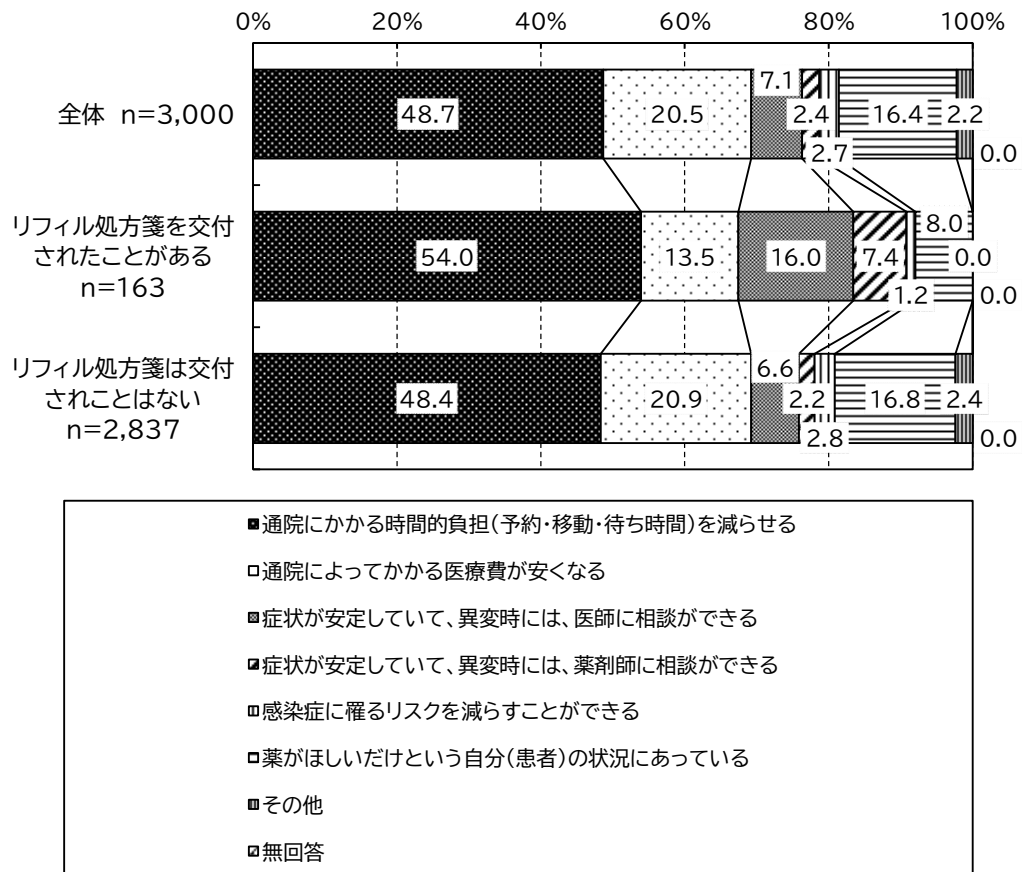


図表 6-56 リフィル処方箋を使用することについて、最もメリットになると感じるもの
【年代別】



- 通院にかかる時間的負担(予約・移動・待ち時間)を減らせる
- 通院によってかかる医療費が安くなる
- 症状が安定していて、異変時には、医師に相談ができる
- 症状が安定していて、異変時には、薬剤師に相談ができる
- 感染症に罹るリスクを減らすことができる
- 薬がほしいだけという自分(患者)の状況にあっている
- その他
- 無回答

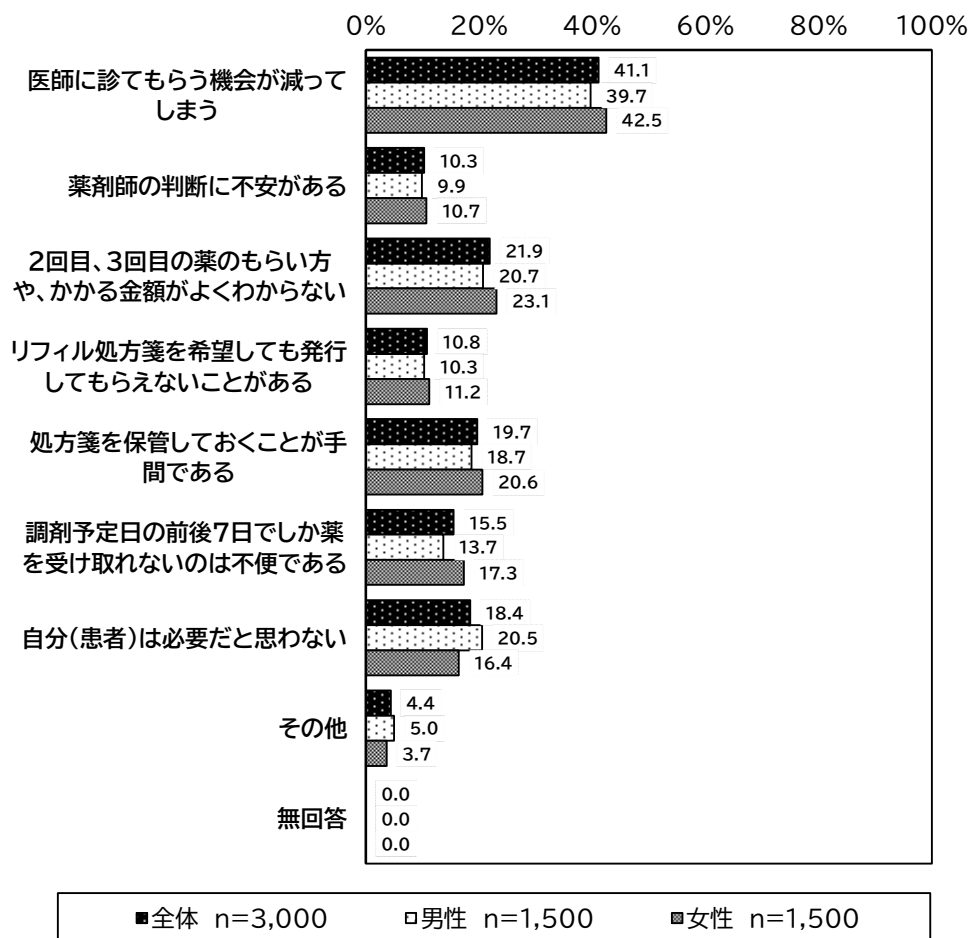
図表 6-57 リフィル処方箋を使用することについて、最もメリットになると感じるもの
【リフィル処方箋を交付された経験別】



(3) リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの

リフィル処方箋を利用することについてデメリットになると感じるものについては、「医師に診てもらえる機会が減ってしまう」が最も多く 41.1%、次いで「2回目、3回目の薬のもらい方や、かかる金額がよくわからない」が多く 21.9%であった。

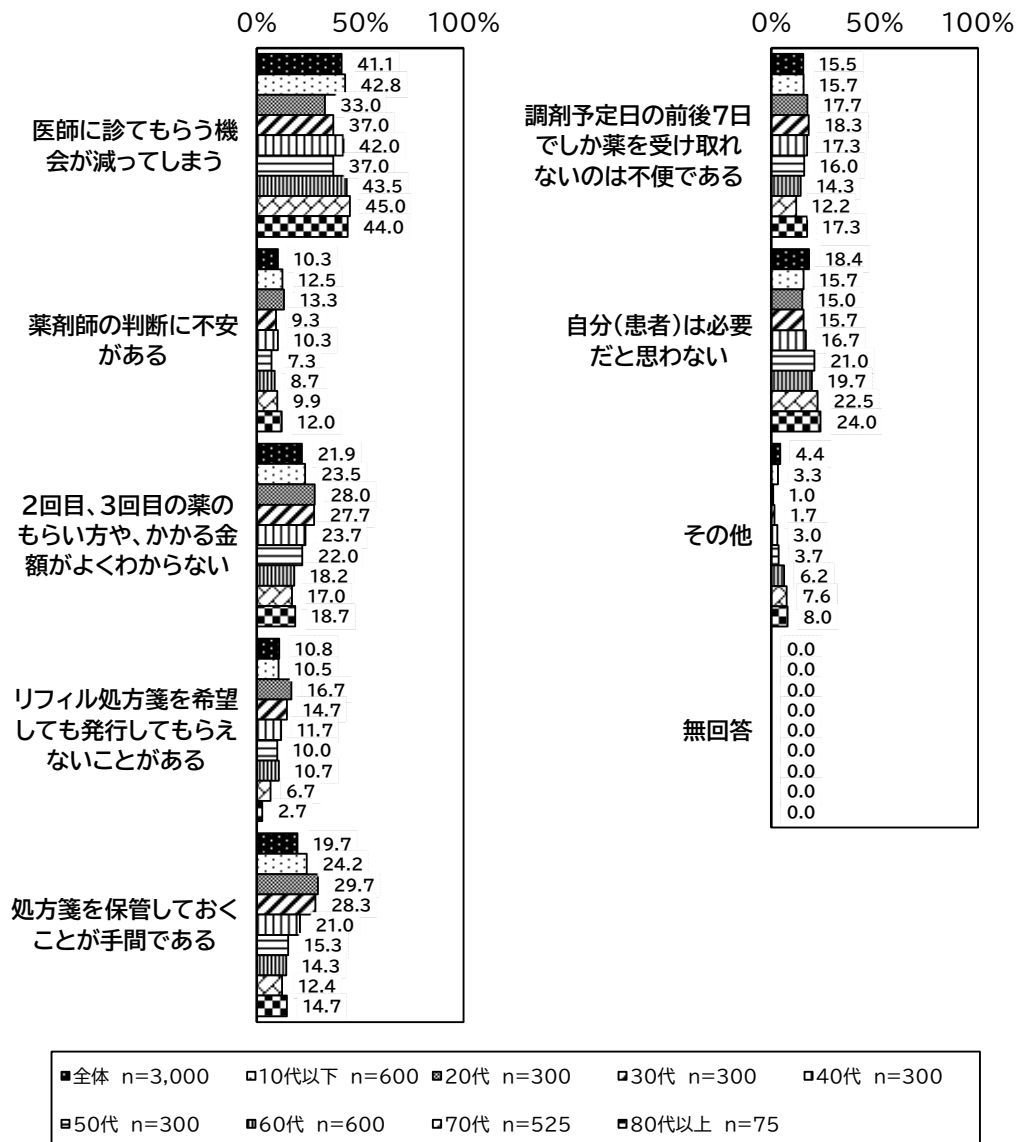
図表 6-58 リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの
(複数回答)
【性別】



【その他（自由記載）の具体的な内容】

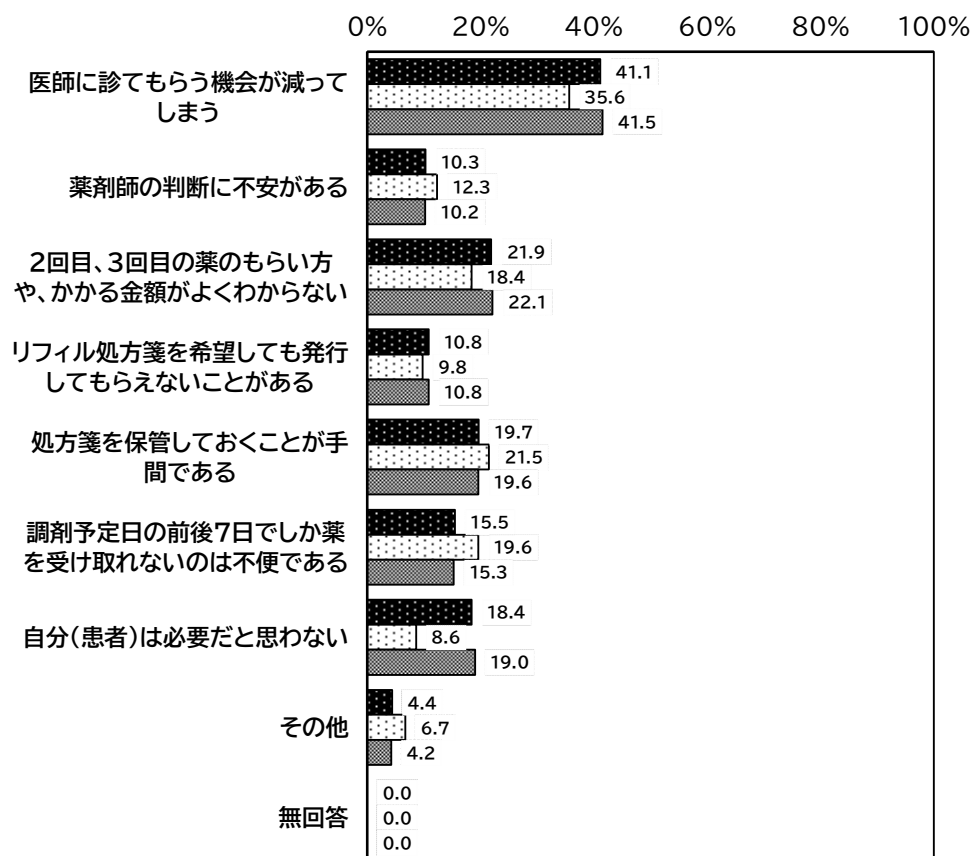
- ・ 検査を受けられない
- ・ リフィル処方箋の発行方法が分からない
- ・ 急性疾患には適さない
- ・ 病状の変化に気づけない
- ・ 制度自体あまり理解していない
- ・ デメリットを感じない など

図表 6-59 リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの
（複数回答）
【年代別】



図表 6-60 リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの
（複数回答）

【リフィル処方箋を交付された経験別】



■全体 n=3,000

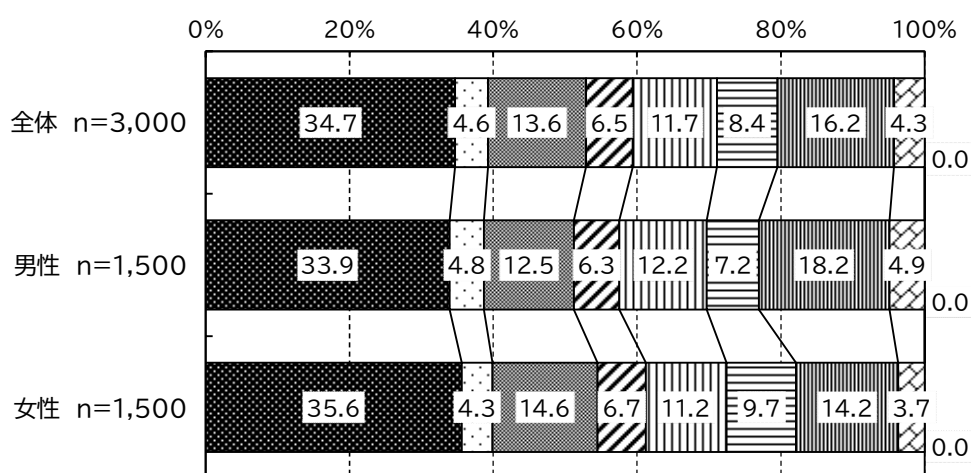
□リフィル処方箋を交付されたことがある n=163

▨リフィル処方箋は交付されことはない n=2,837

（4）リフィル処方箋を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの

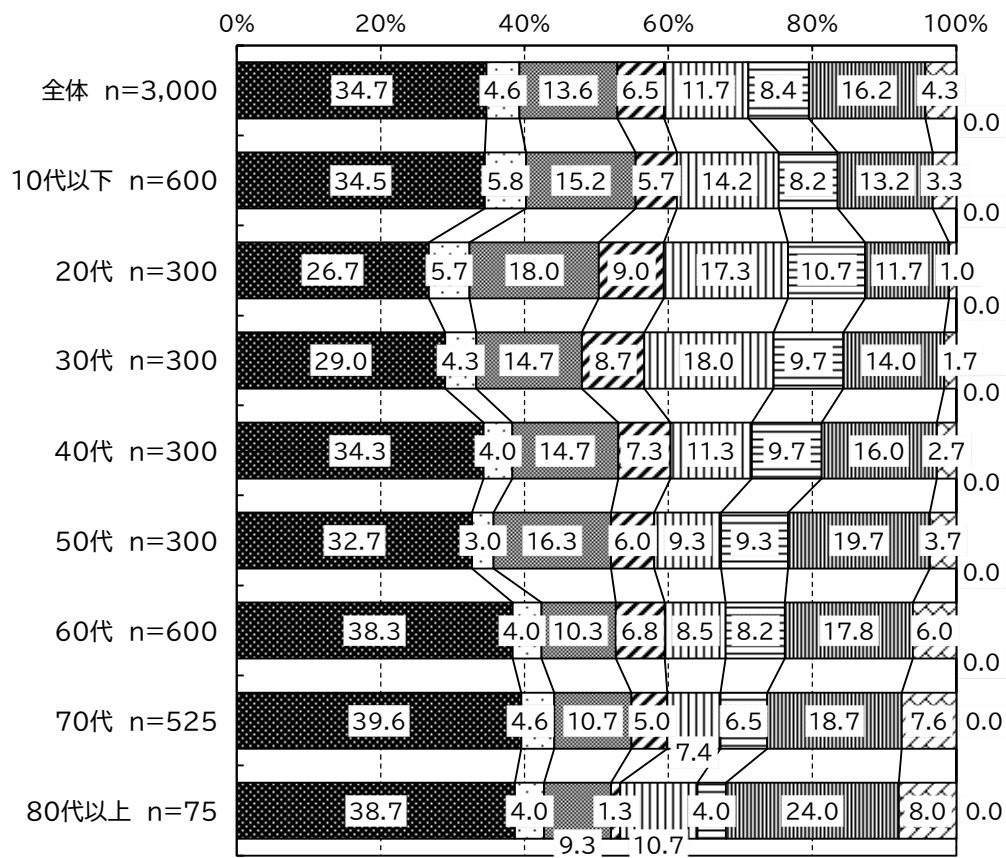
リフィル処方箋を利用することについて最もデメリットになると感じるものについては、「医師に診てもらえる機会が減ってしまう」が最も多く 34.7%、次いで「自分（患者）は必要だと思わない」が多く 16.2%であった。

図表 6-61 リフィル処方箋を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの
【性別】



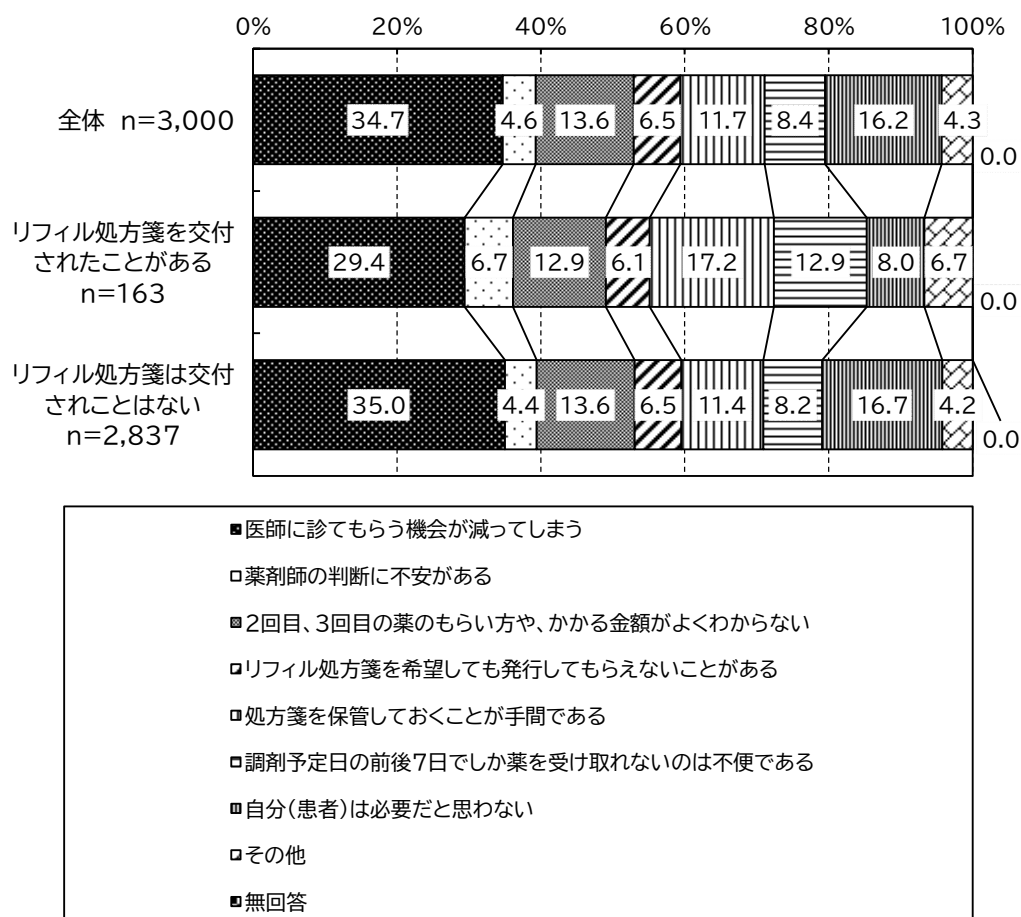
- 医師に診てもらえる機会が減ってしまう
- 薬剤師の判断に不安がある
- ▨ 2回目、3回目の薬のもらい方や、かかる金額がよくわからない
- ▨ リフィル処方箋を希望しても発行してもらえないことがある
- ▨ 処方箋を保管しておくことが手間である
- ▨ 調剤予定日の前後7日でしか薬を受け取れないのは不便である
- 自分(患者)は必要だと思わない
- ▨ その他
- 無回答

図表 6-62 リフィル処方箋を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの
【年代別】



- 医師に診てもらう機会が減ってしまう
- 薬剤師の判断に不安がある
- 2回目、3回目の薬のもらい方や、かかる金額がよくわからない
- リフィル処方箋を希望しても発行してもらえないことがある
- 処方箋を保管しておくことが手間である
- 調剤予定日の前後7日でしか薬を受け取れないのは不便である
- 自分(患者)は必要だと思わない
- その他
- 無回答

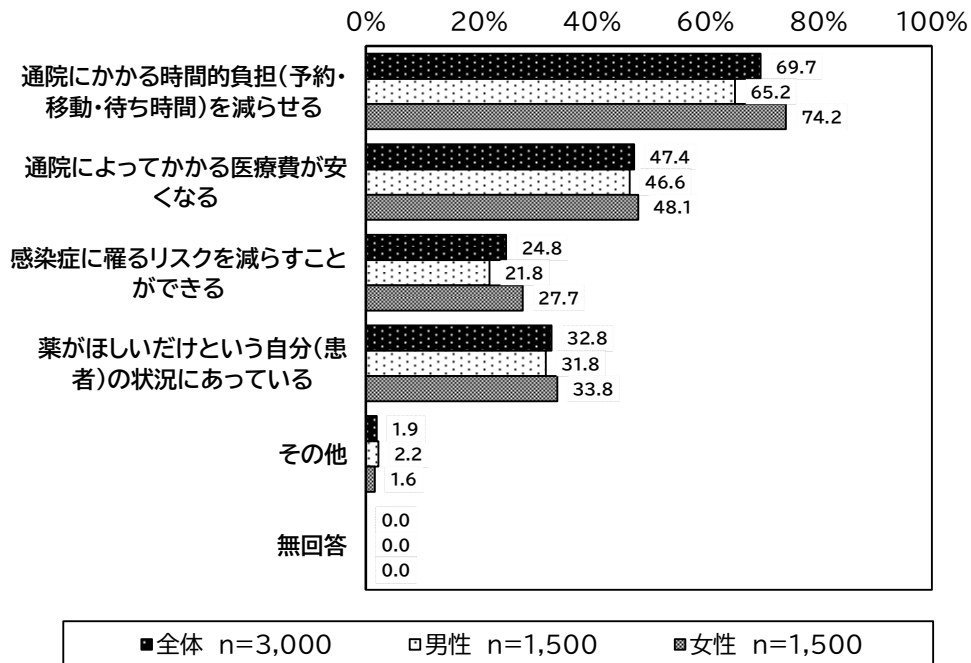
図表 6-63 リフィル処方箋を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの
【リフィル処方箋を交付された経験別】



（5）長期処方を使用することについて、メリットになると感じるもの

長期処方を使用することについて、メリットになると感じるものについては、「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」が最も多く 69.7%、次いで「通院によってかかる医療費が安くなる」が多く 47.4%であった。

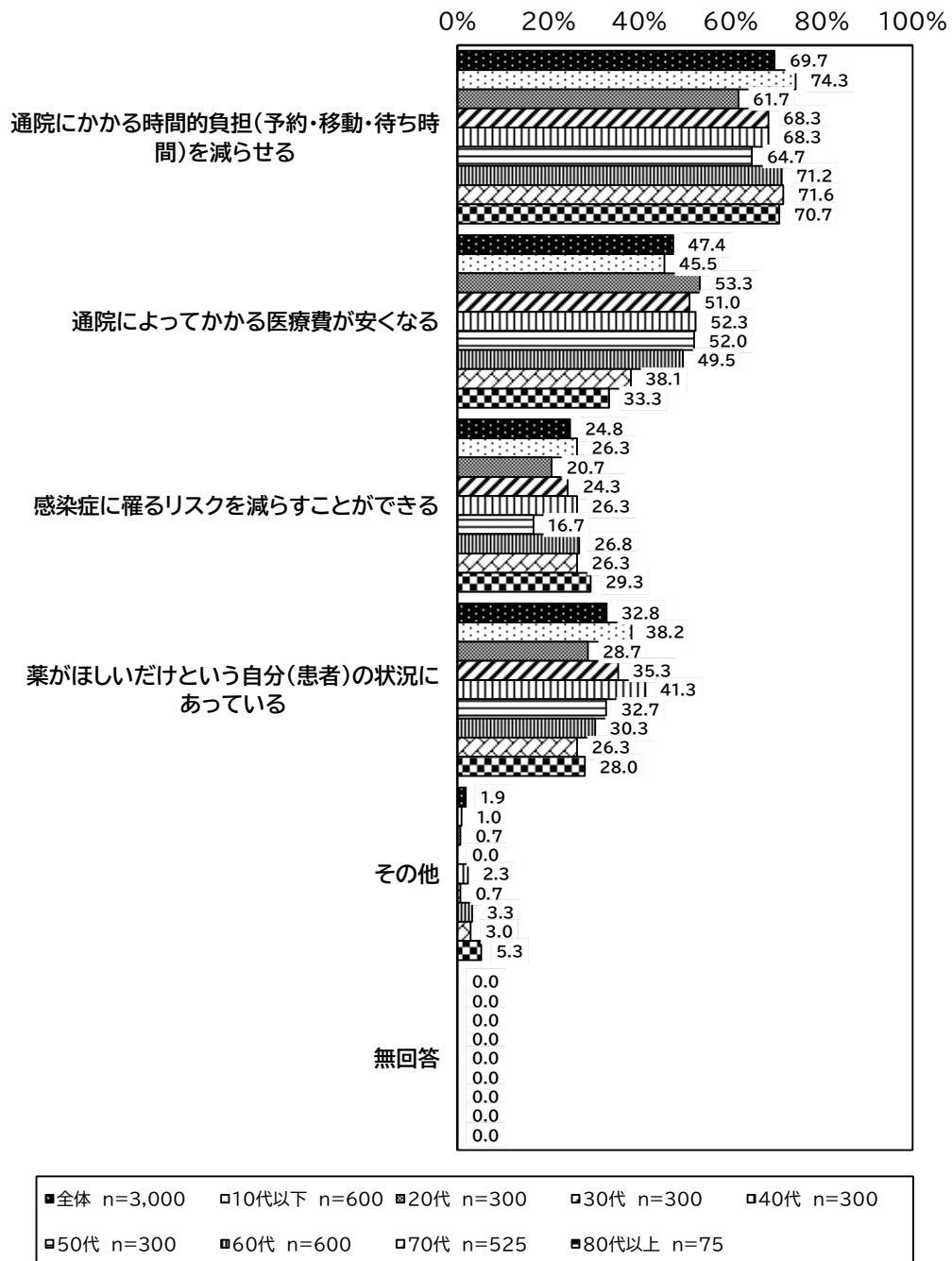
図表 6-64 長期処方を使用することについて、メリットになると感じるもの（複数回答）
【性別】



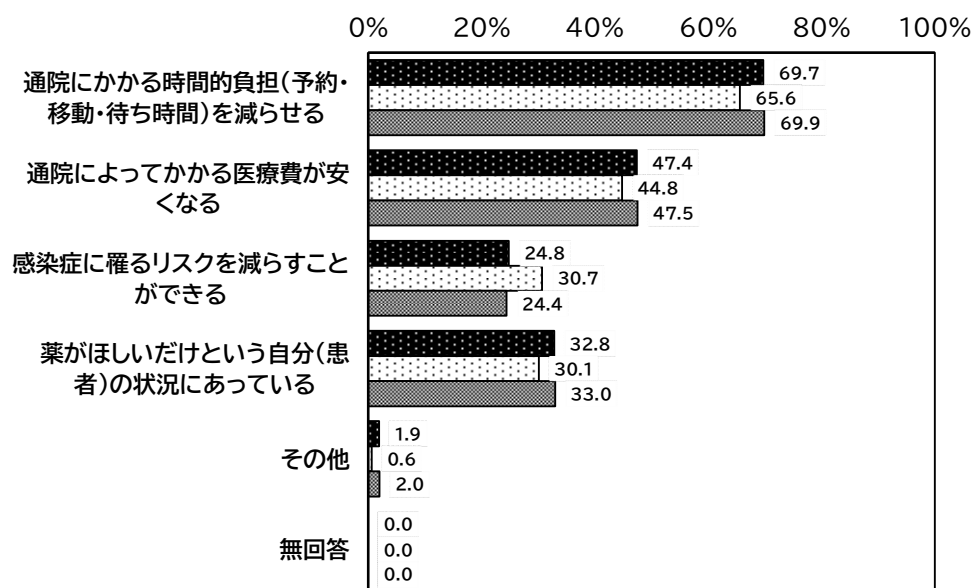
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・医師の診察を受けることができる
- ・制度自体あまり理解していない など

図表 6-65 長期処方を使用することについて、メリットになると感じるもの（複数回答）
【年代別】



図表 6-66 長期処方を使用することについて、メリットになると感じるもの（複数回答）
【リフィル処方箋を交付された経験別】



■全体 n=3,000

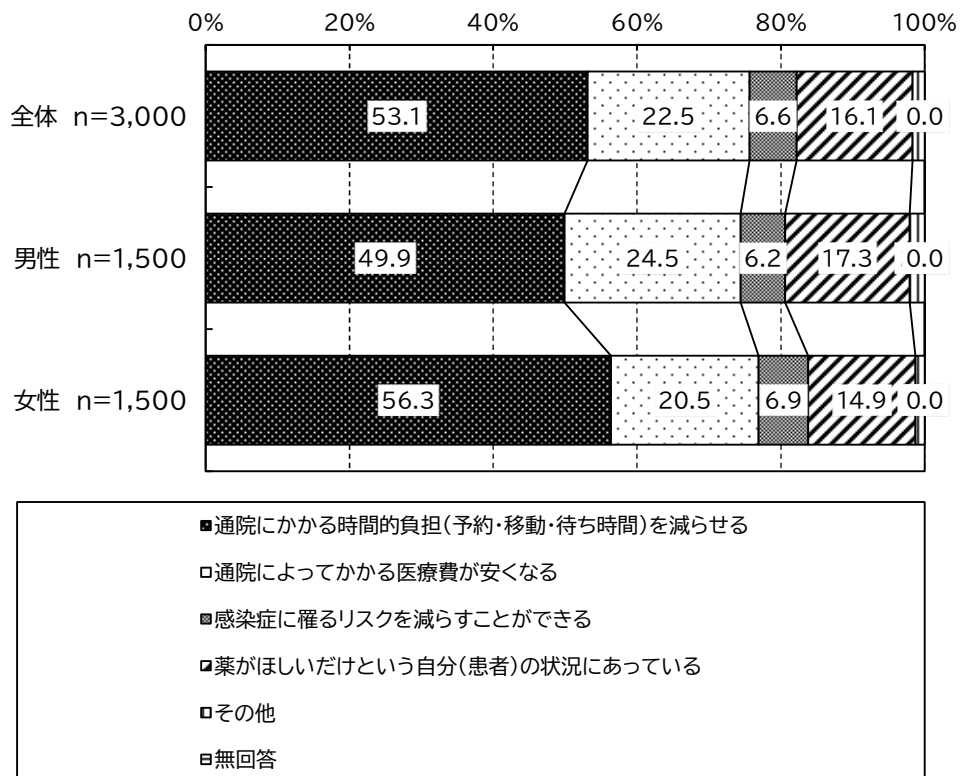
□リフィル処方箋を交付されたことがある n=163

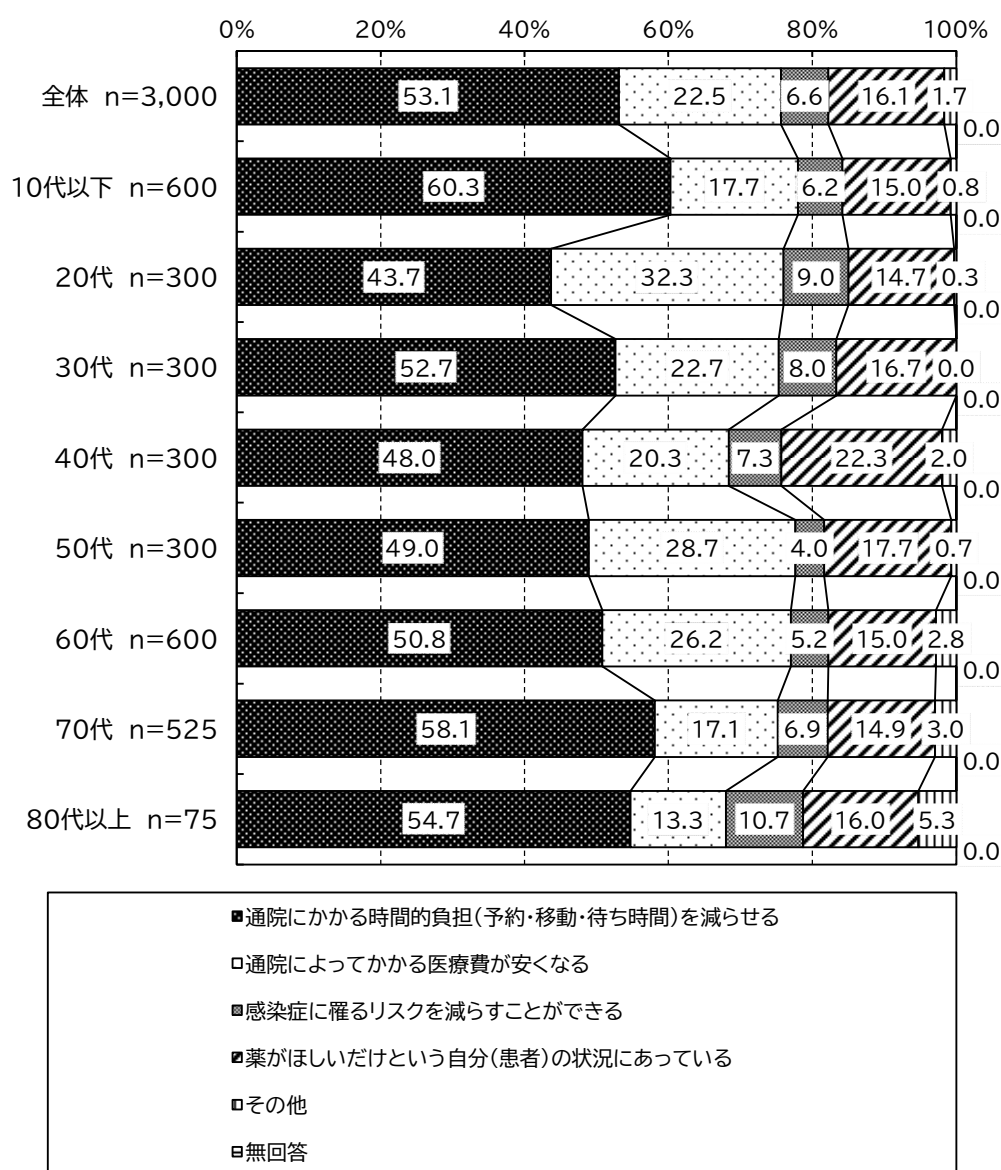
■リフィル処方箋は交付されことはない n=2,837

(6) 長期処方を使用することについて、最もメリットになると感じるもの

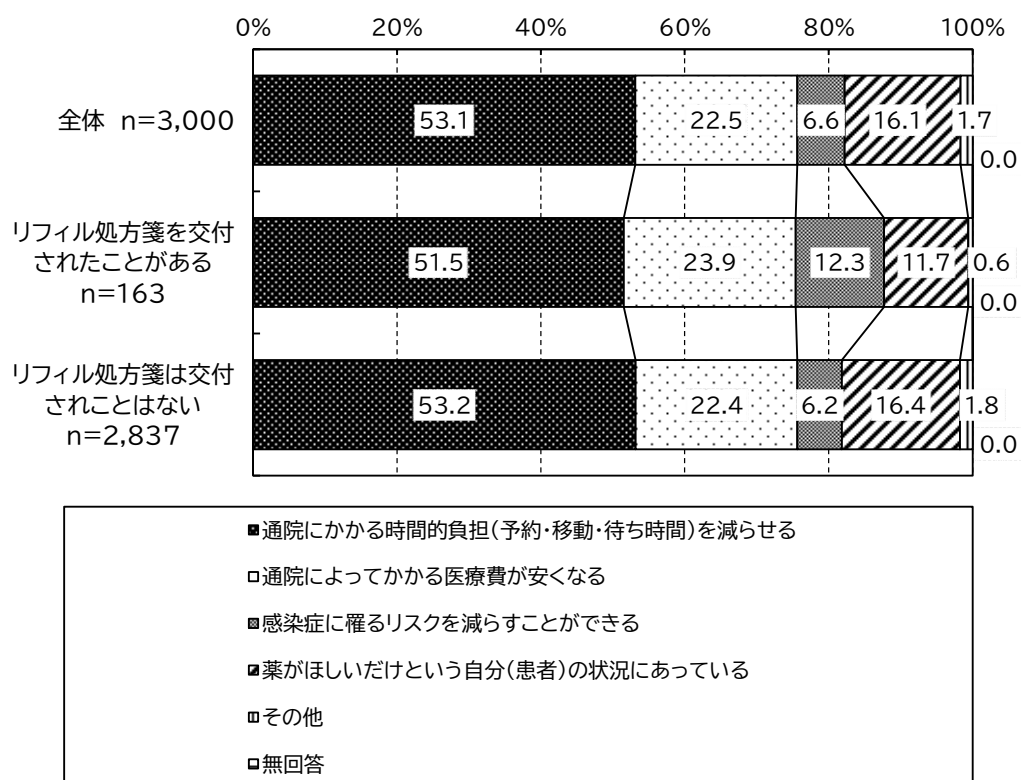
長期処方を使用することについて、最もメリットになると感じるものについては、「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」が最も多く 53.1%、次いで「通院によってかかる医療費が安くなる」が多く 22.5%であった。

図表 6-67 長期処方を使用することについて、最もメリットになると感じるもの
【性別】



図表 6-68 長期処方を使用することについて、最もメリットになると感じるもの
【年代別】

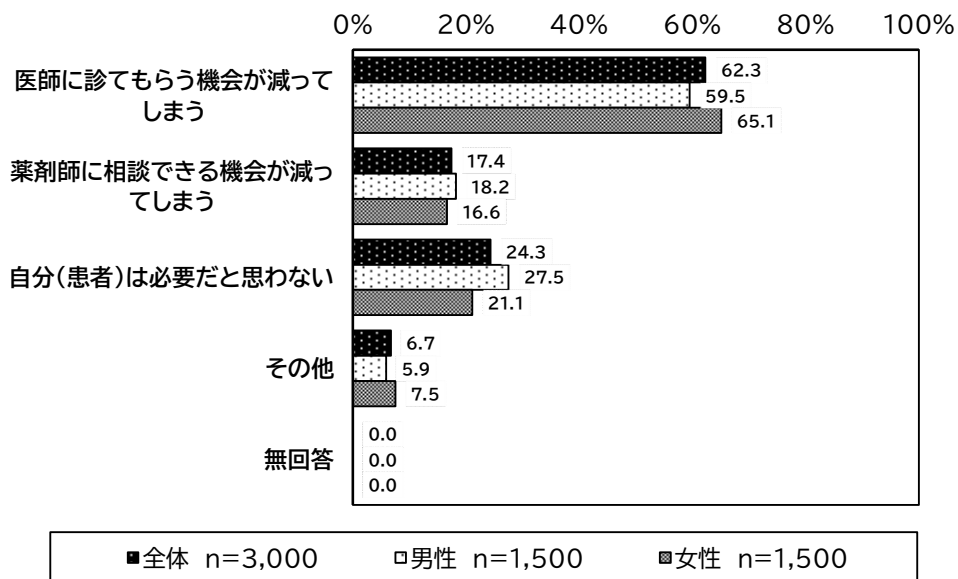
図表 6-69 長期処方を使用することについて、最もメリットになると感じるもの
【リフィル処方箋を交付された経験別】



(7) 長期処方を使用することについて、デメリットになると感じるもの

長期処方を使用することについて、デメリットになると感じるものについては、「医師に診てもらえる機会が減ってしまう」が最も多く 62.3%、次いで「自分（患者）は必要だと思わない」が多く 24.3%であった。

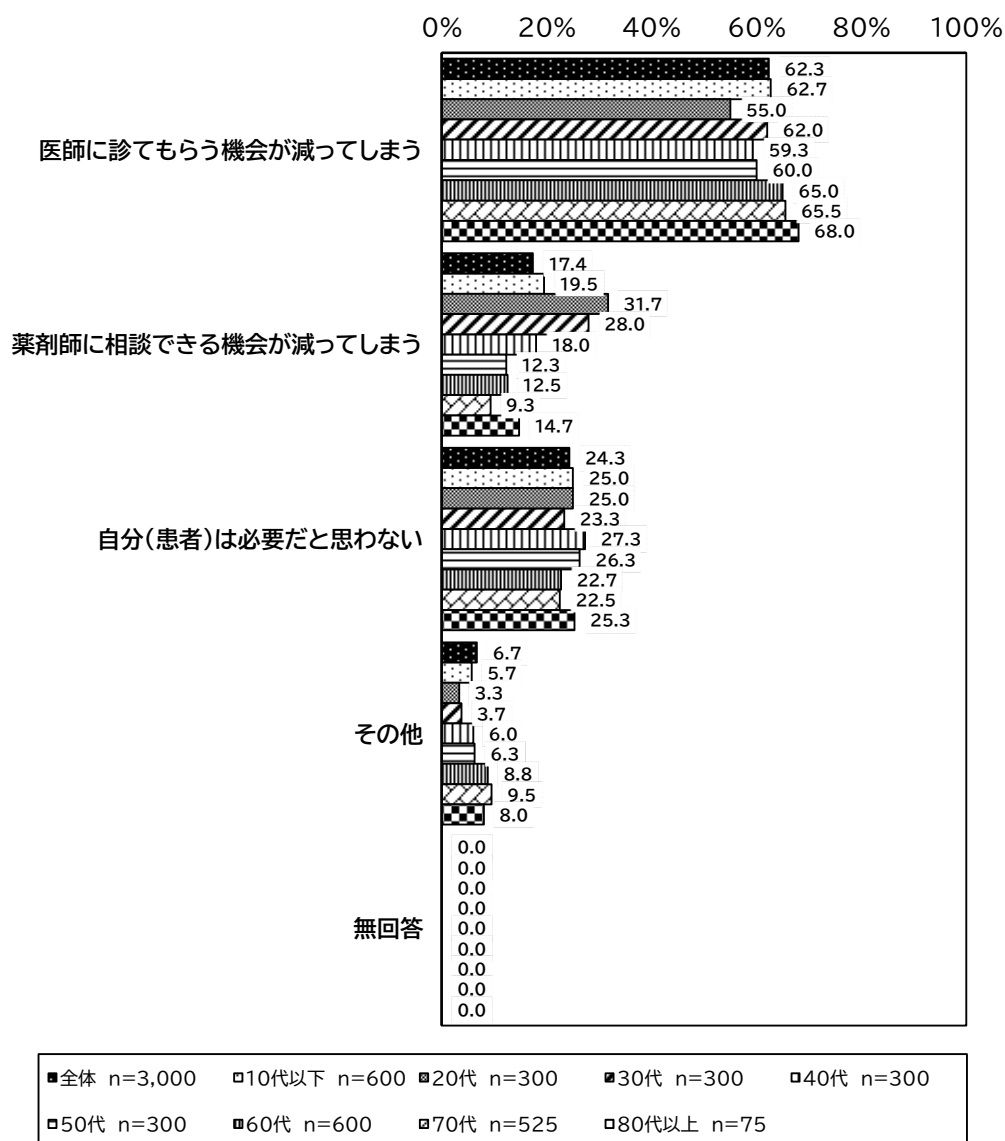
図表 6-70 長期処方を使用することについて、デメリットになると感じるもの（複数回答）
【性別】



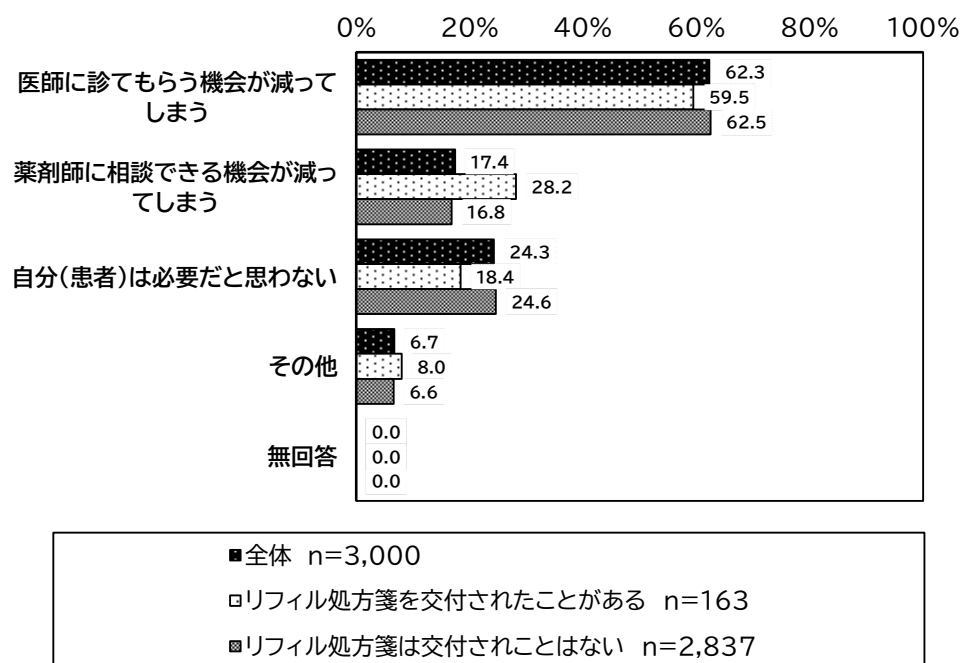
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・病状の変化を管理できるか不安
- ・服薬管理のリスク
- ・制度自体あまり理解していない
- ・デメリットを感じない など

図表 6-71 長期処方を使用することについて、デメリットになると感じるもの（複数回答）
【年代別】



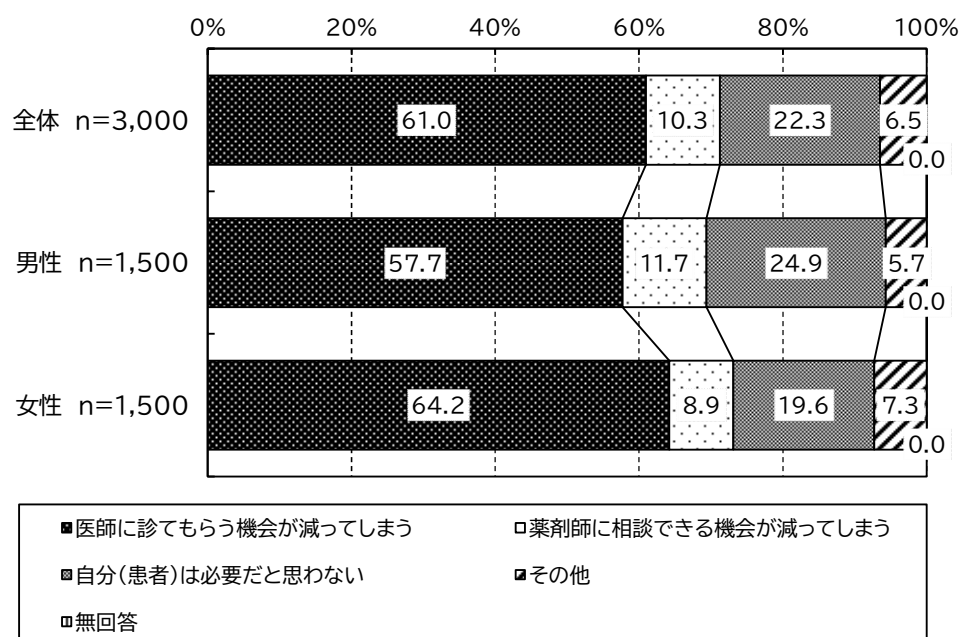
図表 6-72 長期処方を使用することについて、デメリットになると感じるもの（複数回答）
【リフィル処方箋を交付された経験別】



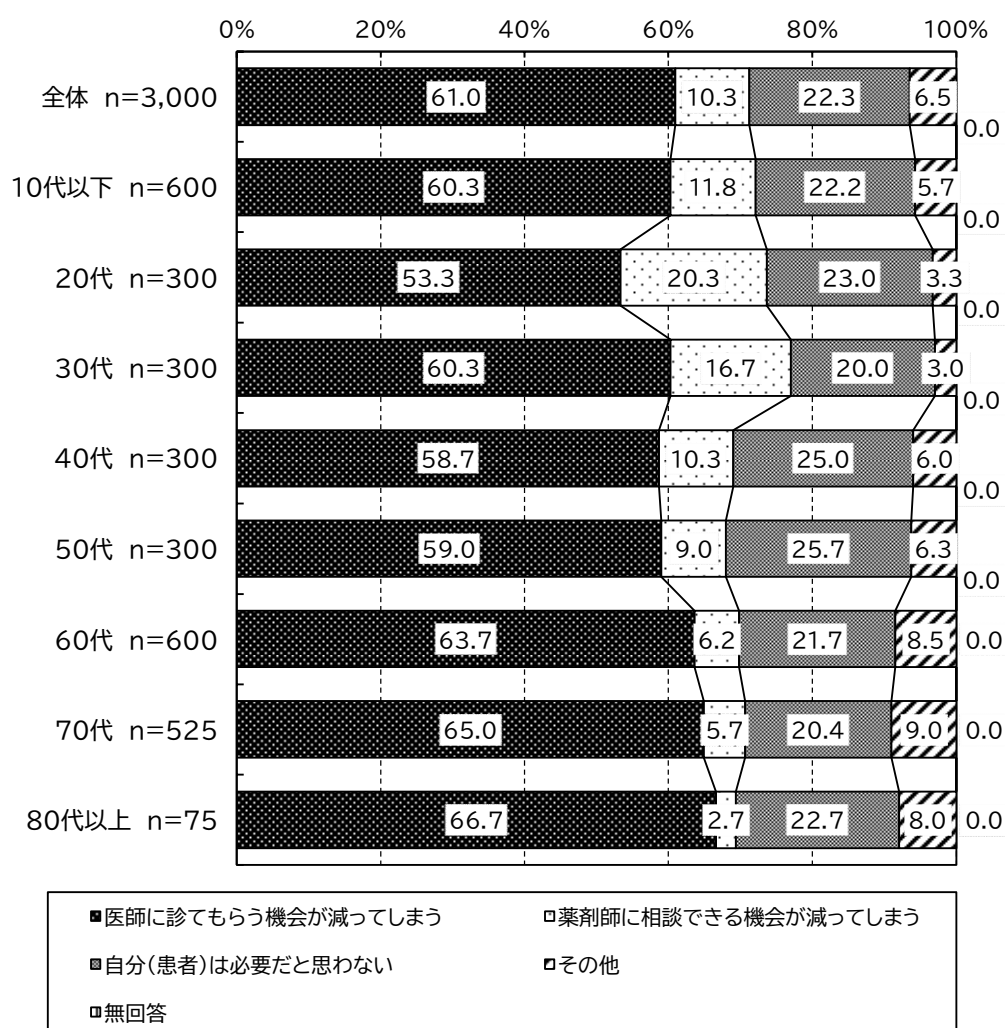
(8) 長期処方を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの

長期処方を使用することについて、最もデメリットになると感じるものについては、「医師に診てもらえる機会が減ってしまう」が最も多く 61.0%、次いで「自分（患者）は必要だと思わない」が多く 22.3%であった。

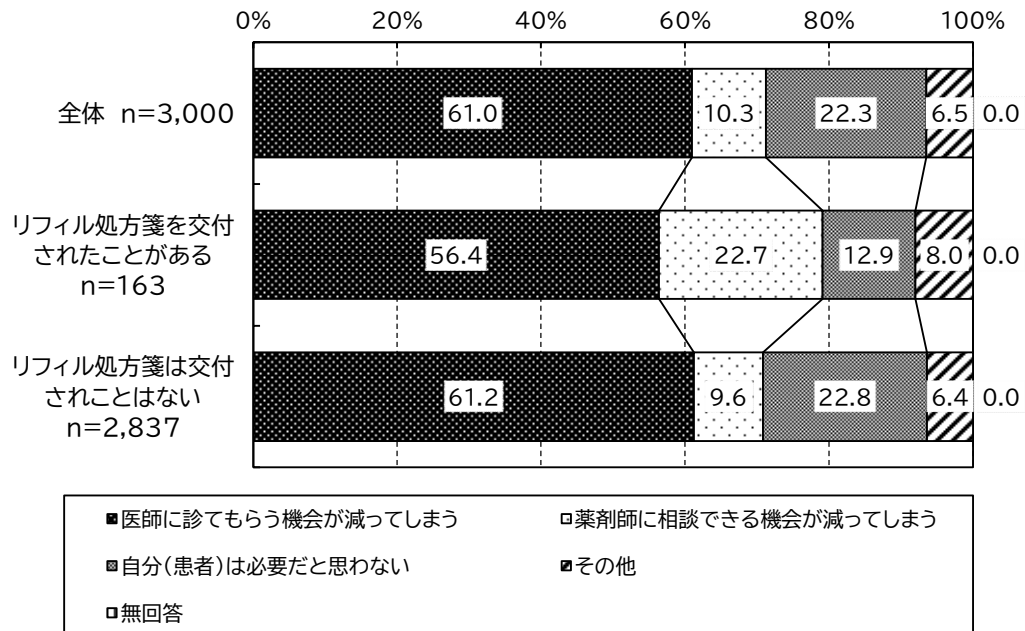
図表 6-73 長期処方を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの
【性別】



図表 6-74 長期処方を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの
【年代別】



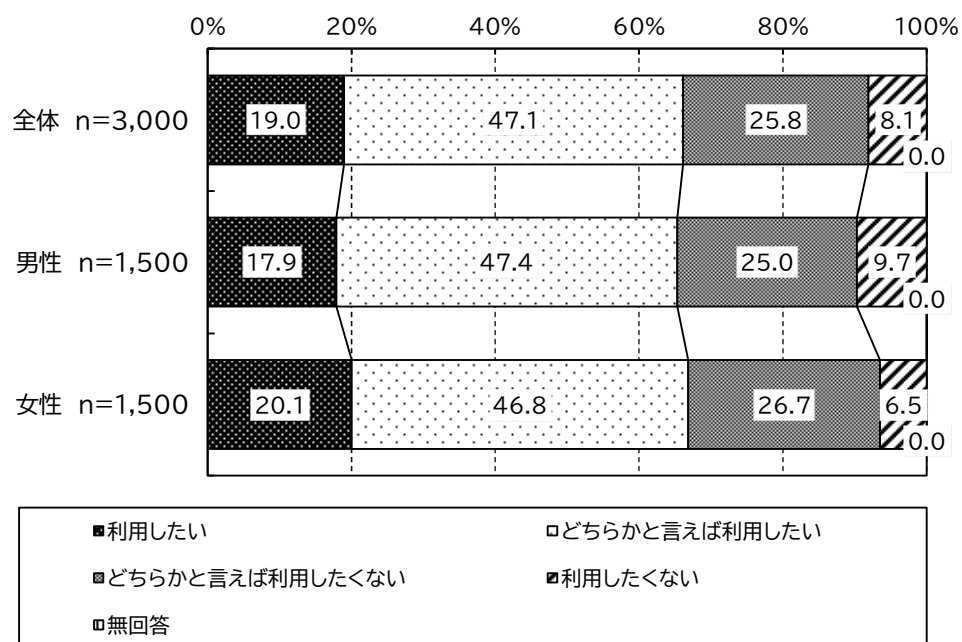
図表 6-75 長期処方を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの
【リフィル処方箋を交付された経験別】



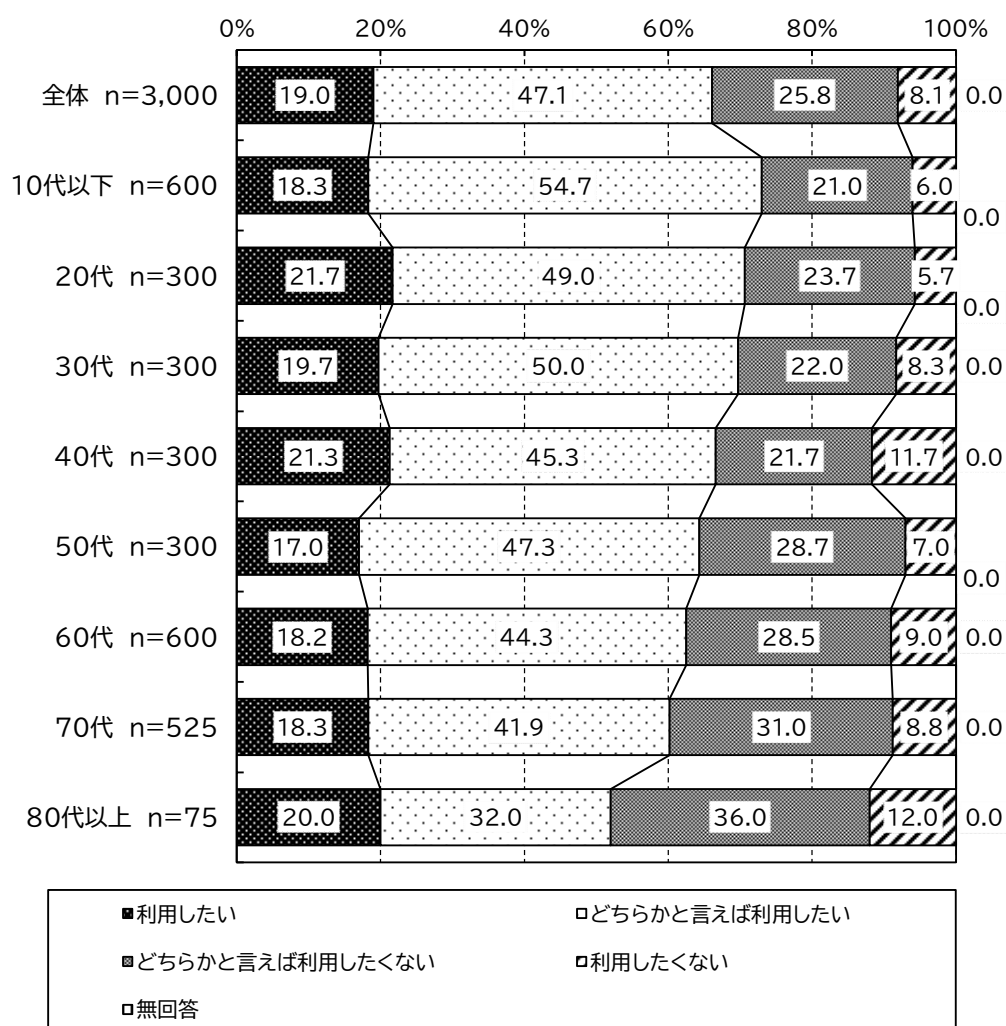
(9) 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか

今後、症状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいかについては、「利用したい」が19.0%、「どちらかと言えば利用したい」が47.1%、「どちらかと言えば利用したくない」が25.8%、「利用したくない」が8.1%であった。

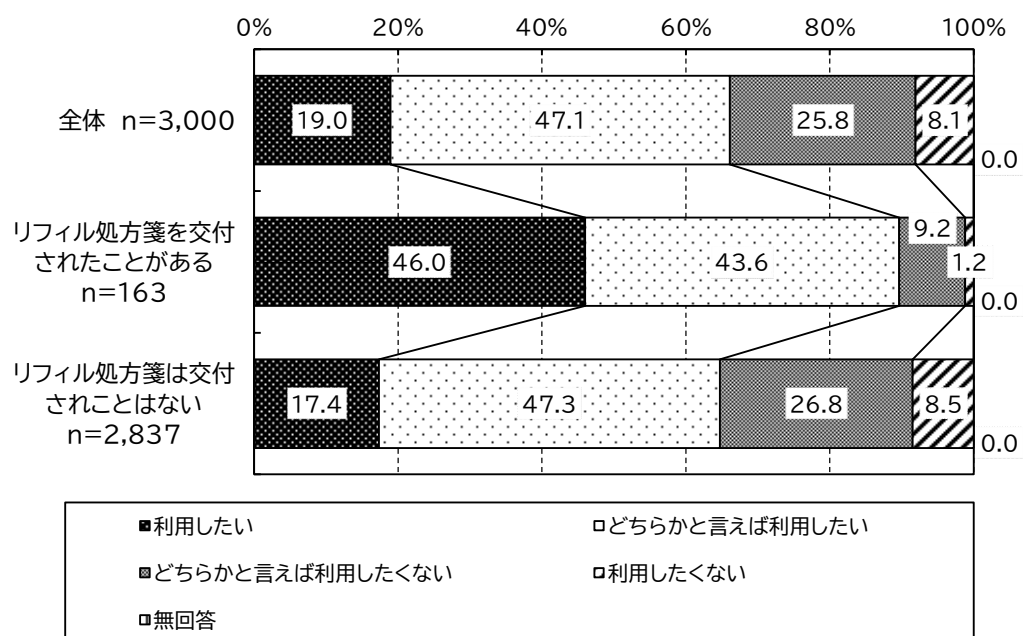
図表 6-76 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか
【性別】



図表 6-77 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか
【年代別】



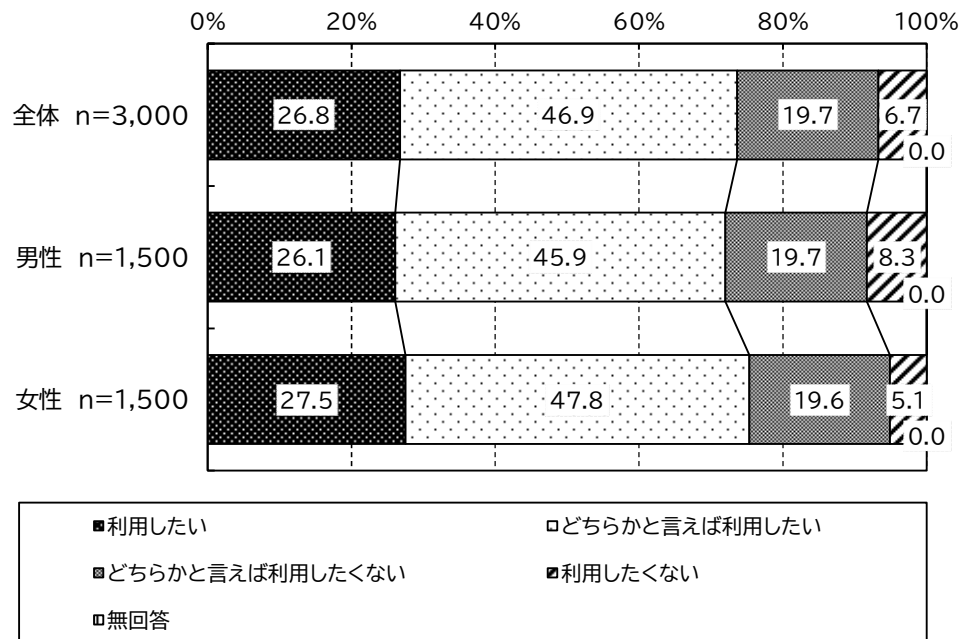
図表 6-78 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか
【リフィル処方箋を交付された経験別】



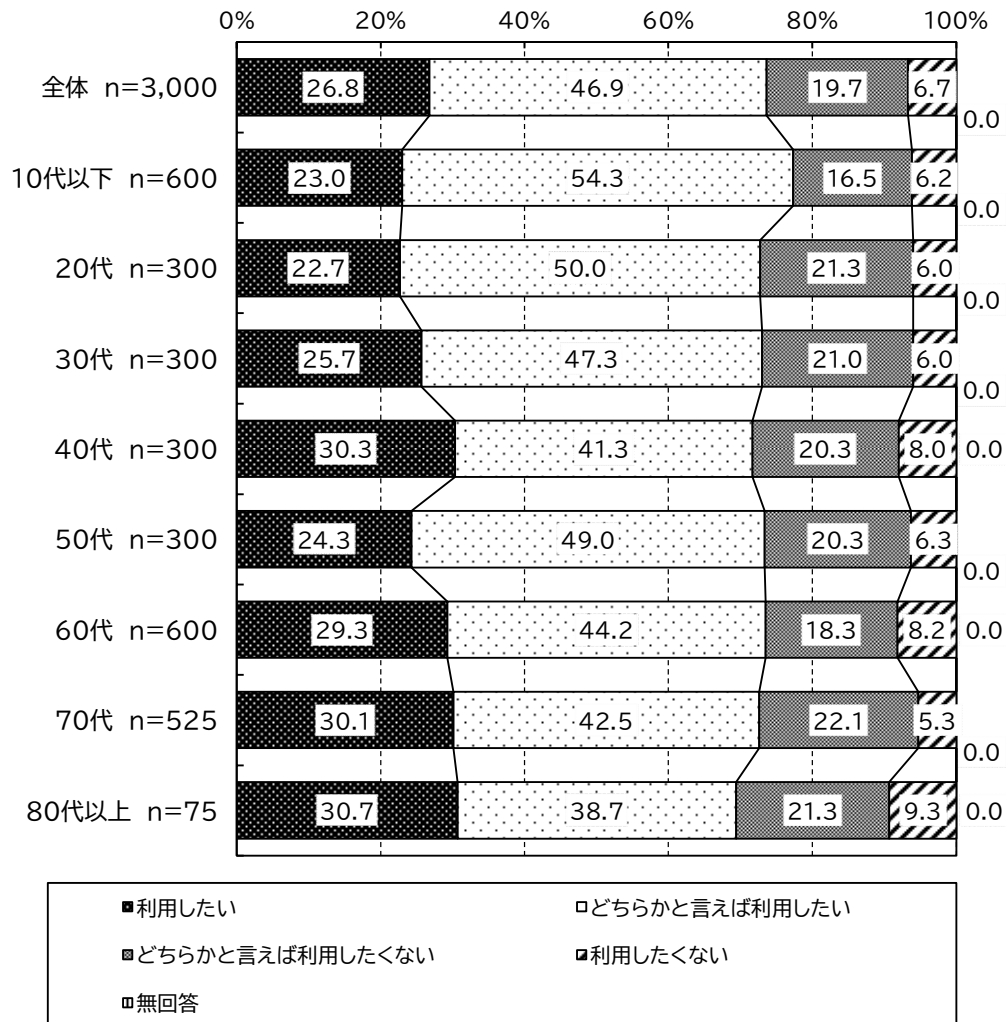
(10) 今後、病状が安定している場合に長期処方を利用したいと思うか

今後、病状が安定している場合に長期処方を利用したいと思うかについては、「利用したい」が26.8%、「どちらかと言えば利用したい」が46.9%、「どちらかと言えば利用したくない」が19.7%、「利用したくない」が6.7%であった。

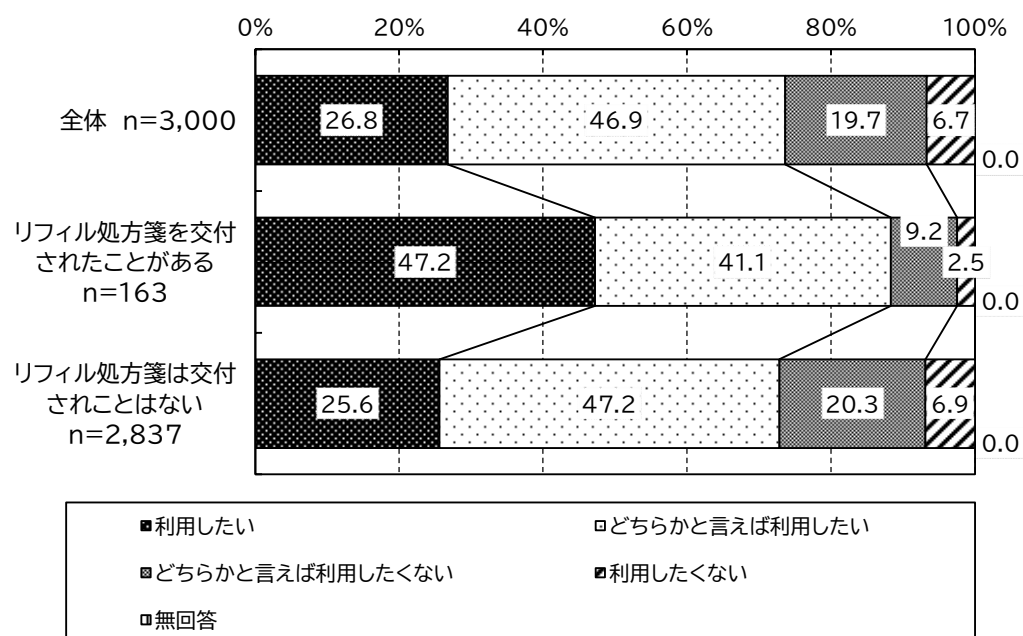
図表 6-79 今後、病状が安定している場合に長期処方を利用したいと思うか
【性別】



図表 6-80 今後、病状が安定している場合に長期処方を利用したいと思うか
【年代別】



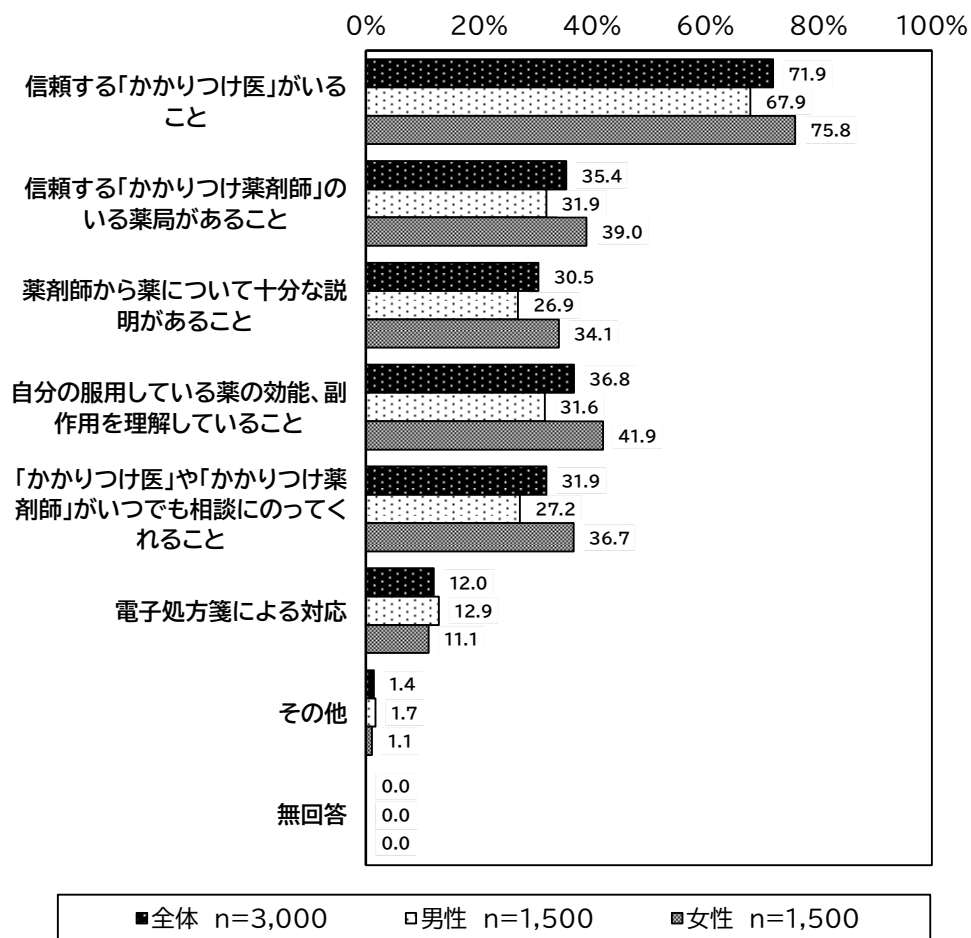
図表 6-81 今後、病状が安定している場合に長期処方を利用したいと思うか
【リフィル処方箋を交付された経験別】



(11) リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じること

リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じることについては、「信頼する「かかりつけ医」がいること」が最も多く 71.9%、次いで「自分の服用している薬の効能、副作用を理解していること」が多く 36.8%であった。

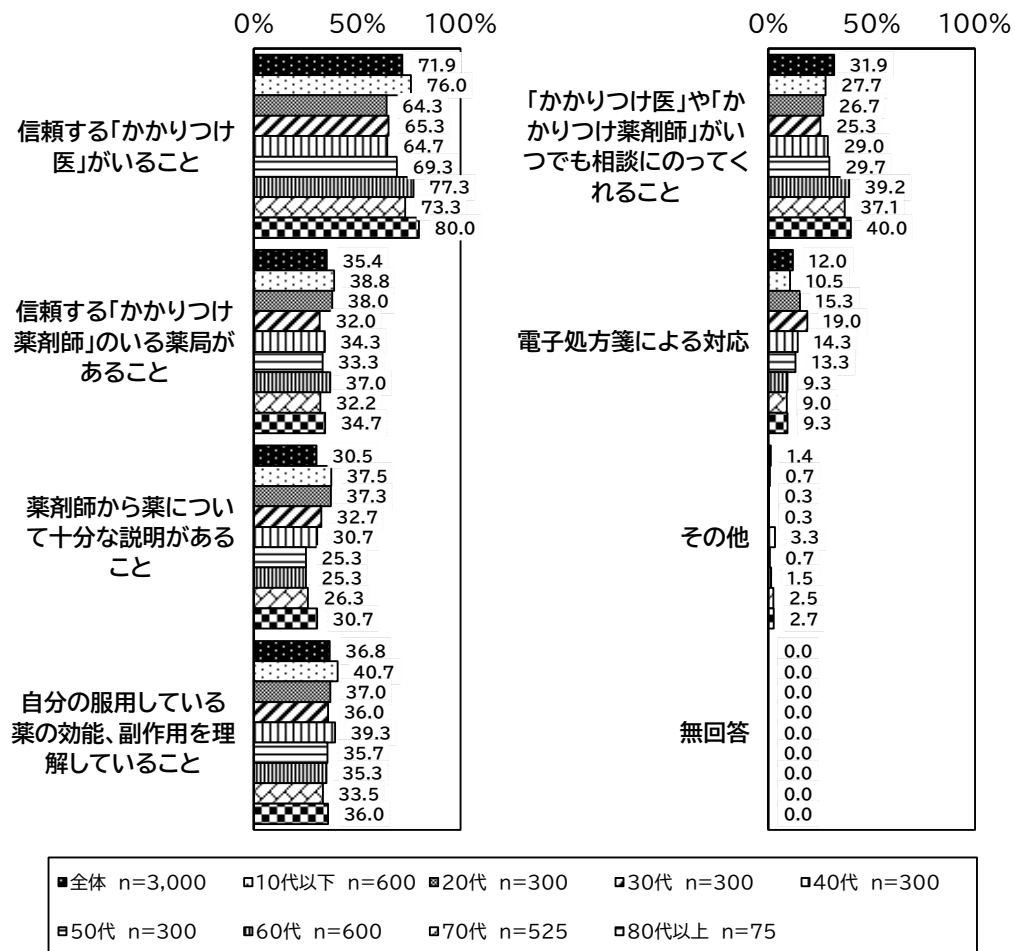
図表 6-82 リフィル処方を利用するにあたり必要だと感じることは何か（複数回答）
【性別】



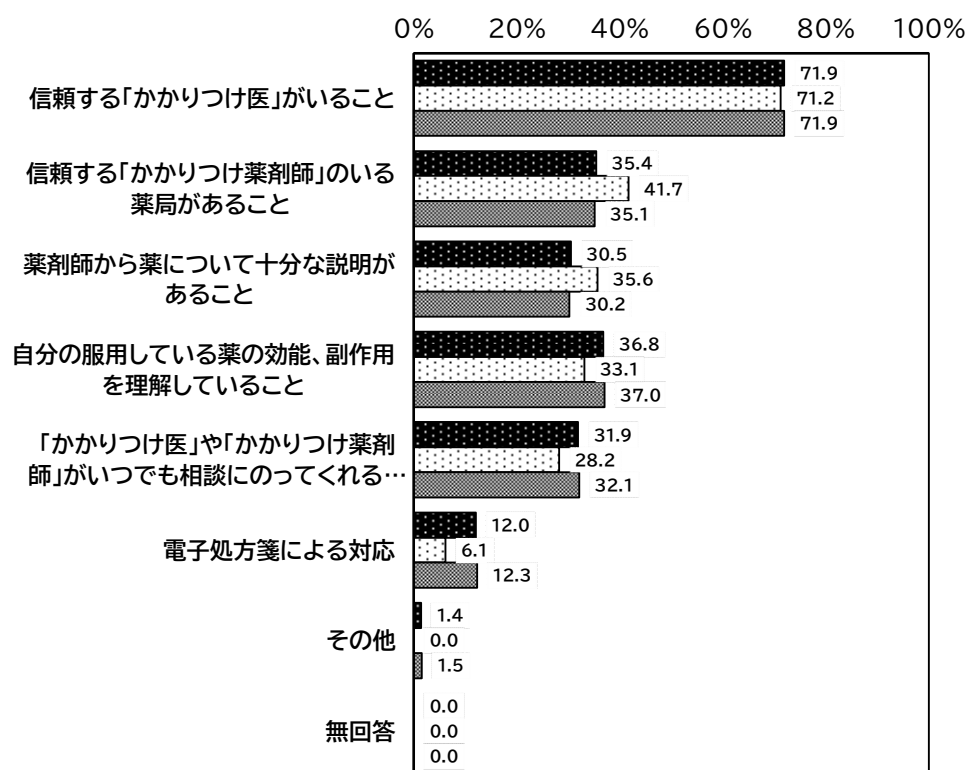
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・医師の診察の電子化
- ・リフィル処方箋の必要性を感じない など

図表 6-83 リフィル処方を利用するにあたり必要だと感じることは何か（複数回答）
【年代別】



図表 6-84 リフィル処方を利用するにあたり必要だと感じることは何か（複数回答）
【リフィル処方箋を交付された経験別】



■全体 n=3,000

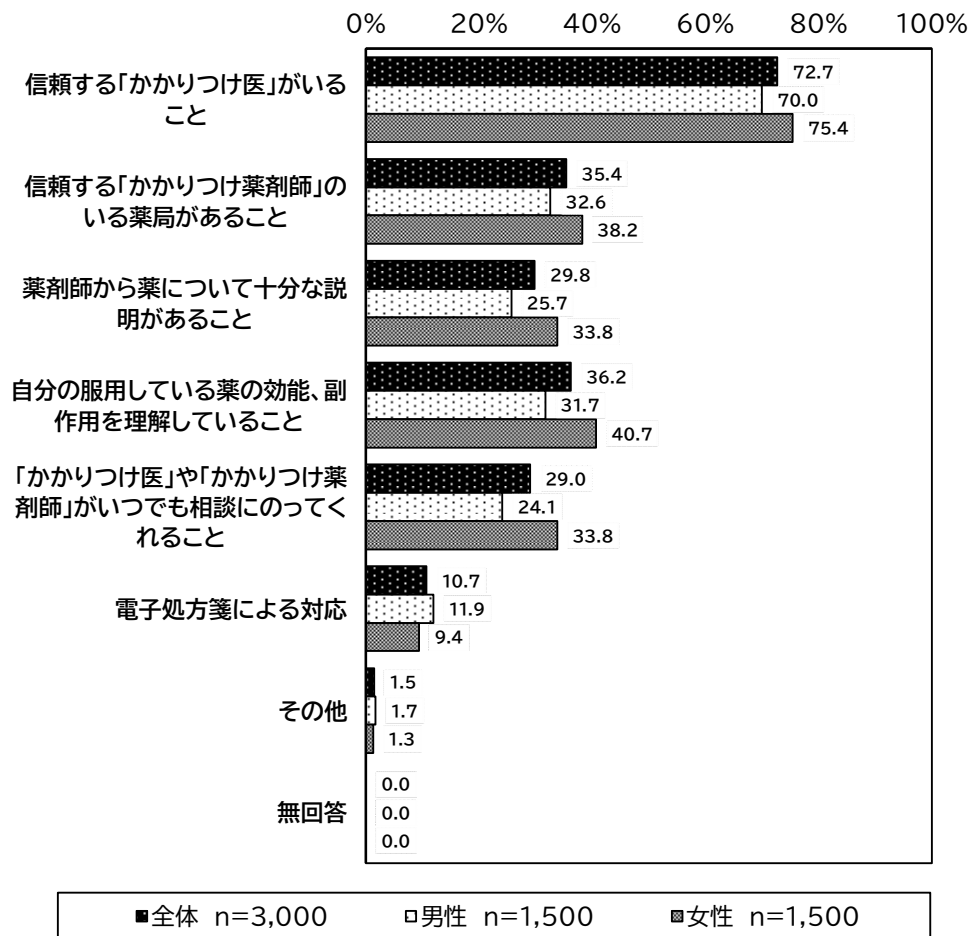
□リフィル処方箋を交付されたことがある n=163

▨リフィル処方箋は交付されことはない n=2,837

（12）長期処方を利用するにあたり必要だと感じること

長期処方を利用するにあたり必要だと感じることについては、「信頼する「かかりつけ医」がいること」が最も多く 72.7%、次いで「自分の服用している薬の効能、副作用を理解していること」が多く 36.2%であった。

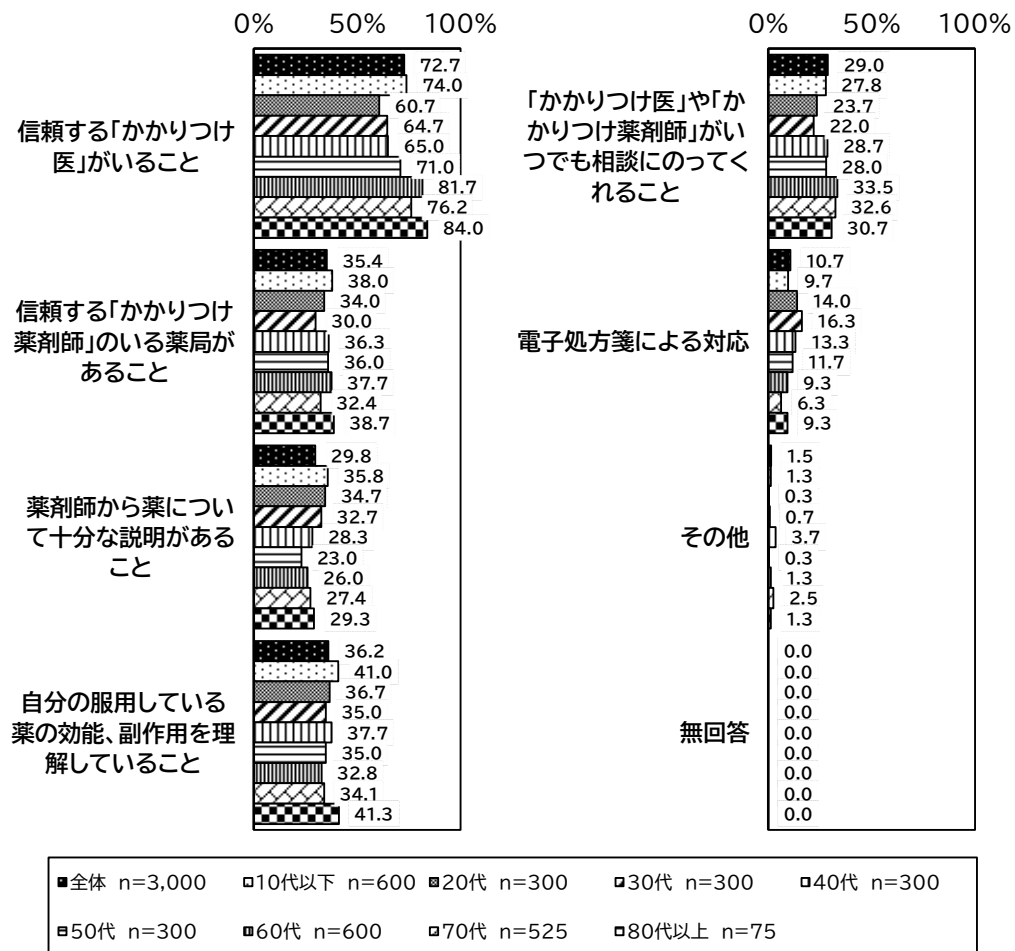
図表 6-85 長期処方を利用するにあたり必要だと感じること（複数回答）
【性別】



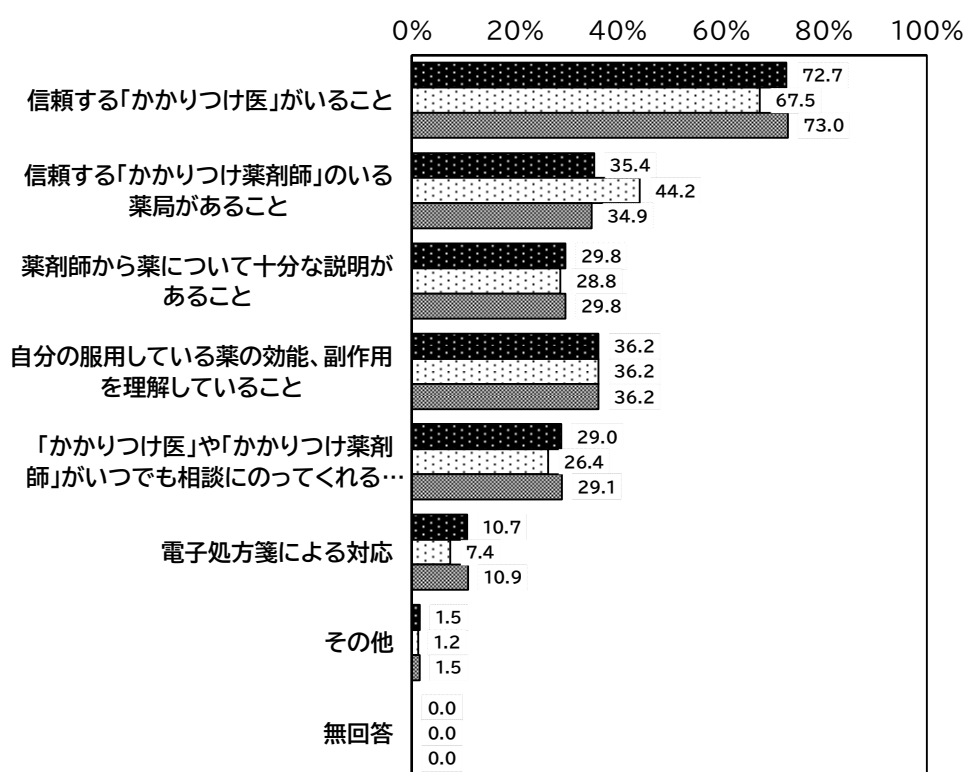
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・医師の診察の電子化
- ・病状の安定
- ・制度自体をあまり理解していない など

図表 6-86 長期処方を利用するにあたり必要だと感じること（複数回答）
【年代別】



図表 6-87 長期処方を利用するにあたり必要だと感じること（複数回答）
【リフィル処方箋を交付された経験別】



■全体 n=3,000

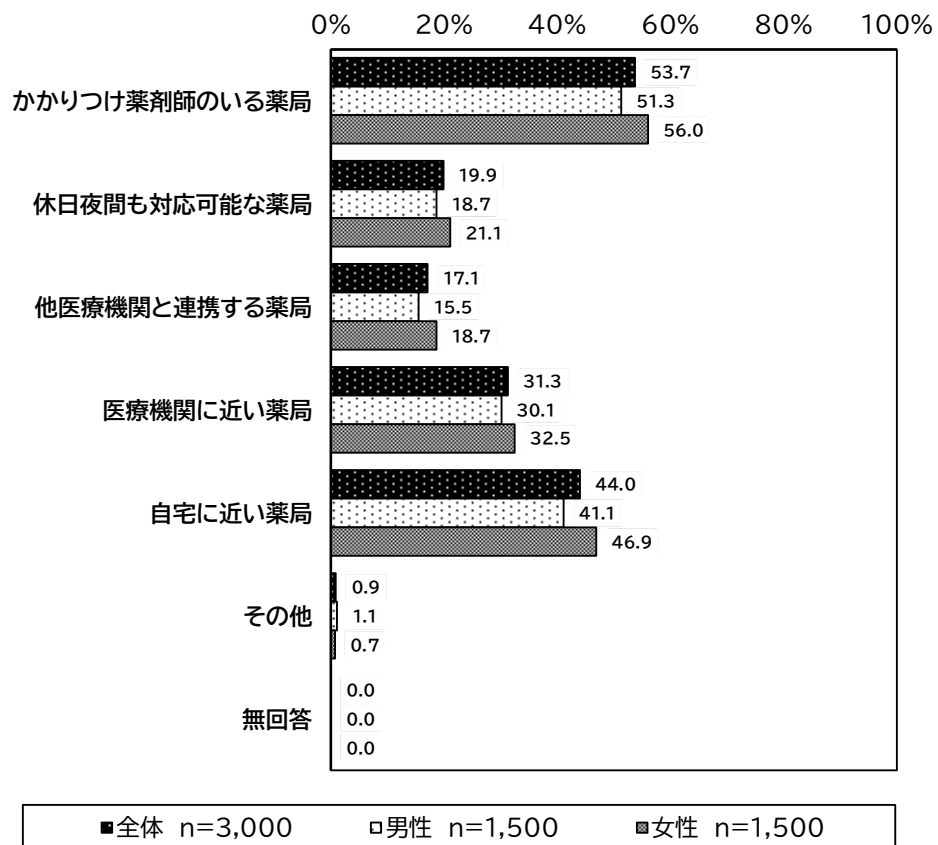
□リフィル処方箋を交付されたことがある n=163

▨リフィル処方箋は交付されことはない n=2,837

(13) リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（1回目）

リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（1回目）については、「かかりつけ薬剤師がいる薬局」が最も多く 53.7%、次いで「自宅に近い薬局」が多く 44.0%であった。

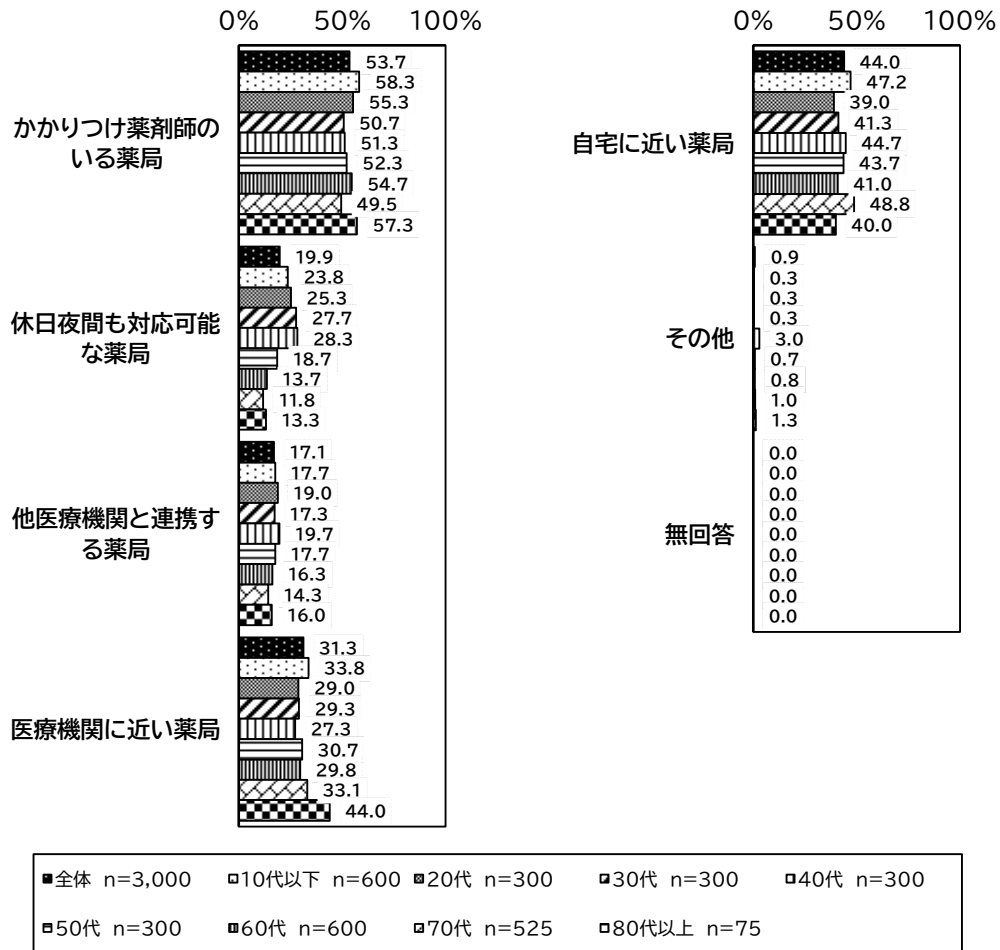
図表 6-88 1回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
【性別】



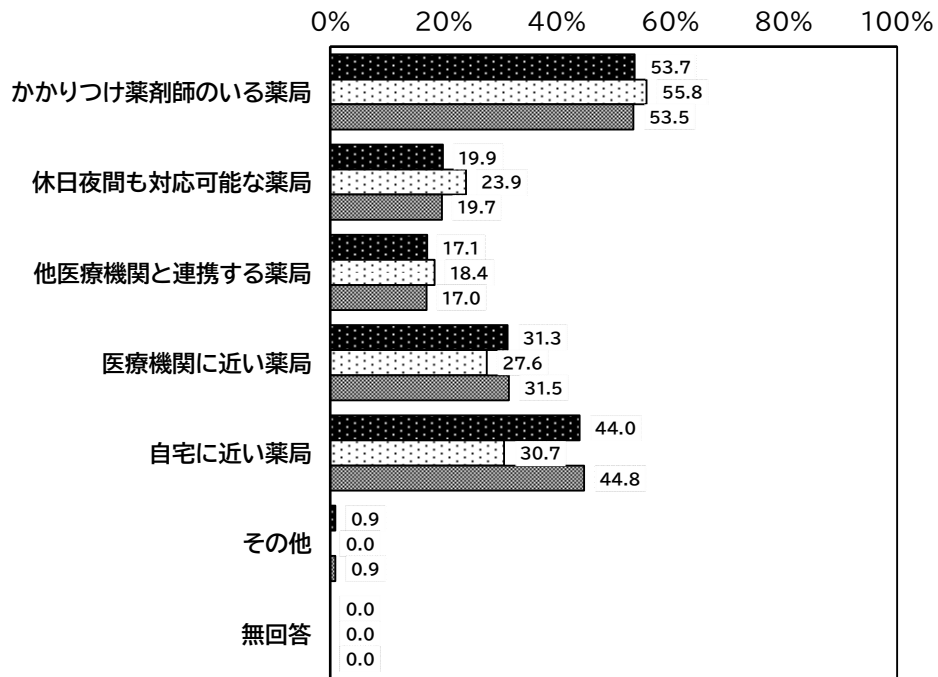
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・院内処方
- ・処方が早い薬局
- ・クレジット決済が可能な薬局 など

図表 6-89 1回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
【年代別】



図表 6-90 1回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
【リフィル処方箋を交付された経験別】



■全体 n=3,000

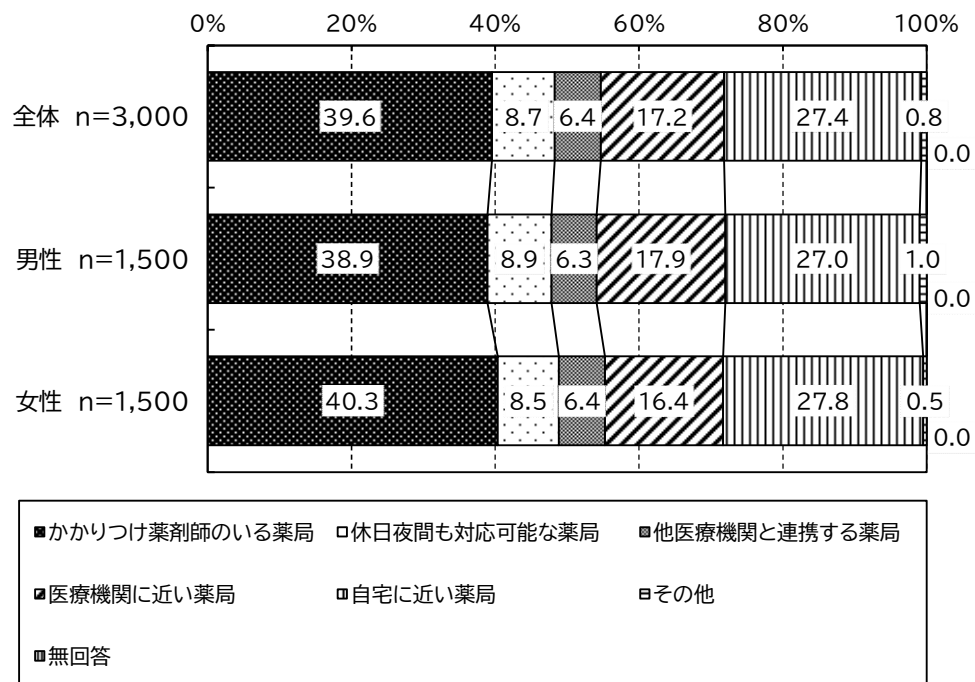
□リフィル処方箋を交付されたことがある n=163

▨リフィル処方箋は交付されことはない n=2,837

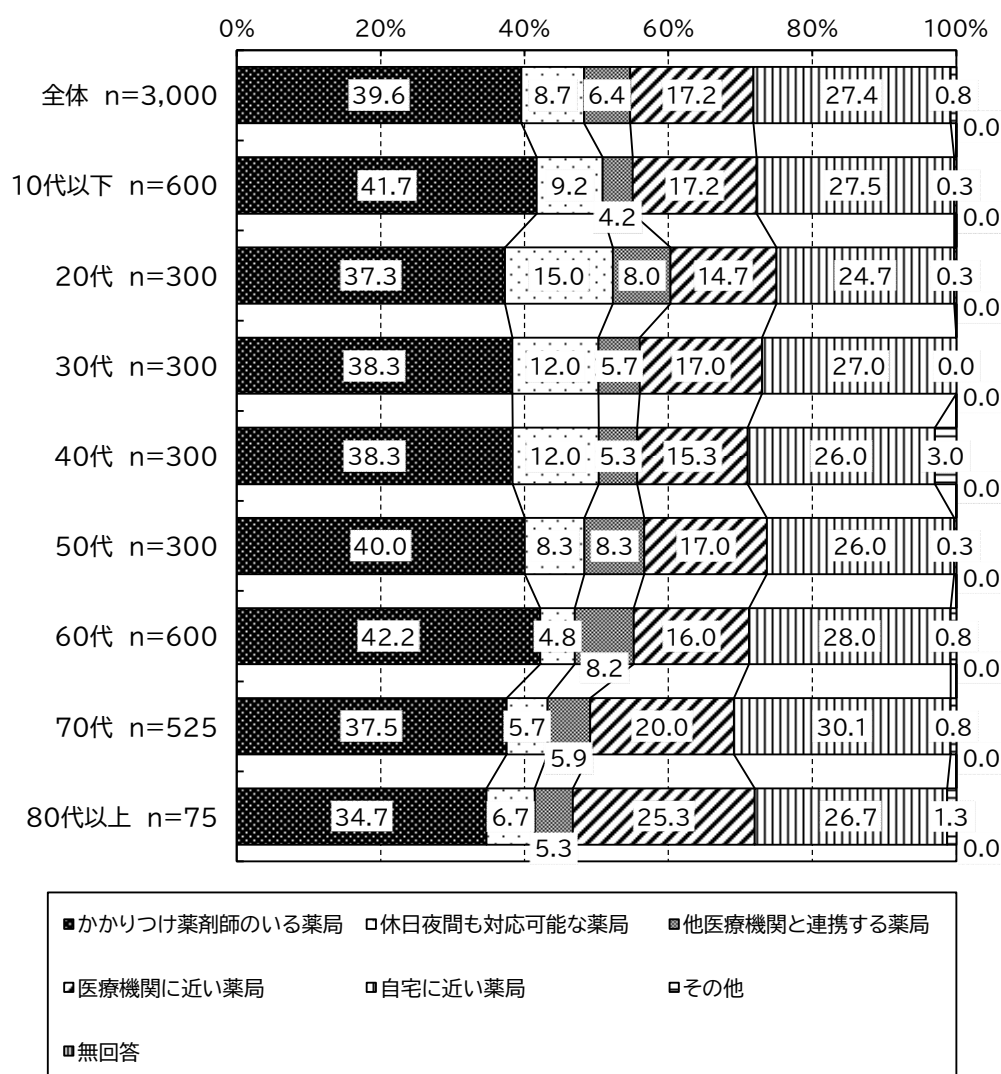
(14) リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（1回目・最も重視するもの）

リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（1回目・最も重視するもの）については、「かかりつけ薬剤師がいる薬局」が最も多く 39.6%、次いで「自宅に近い薬局」が多く 27.4%であった。

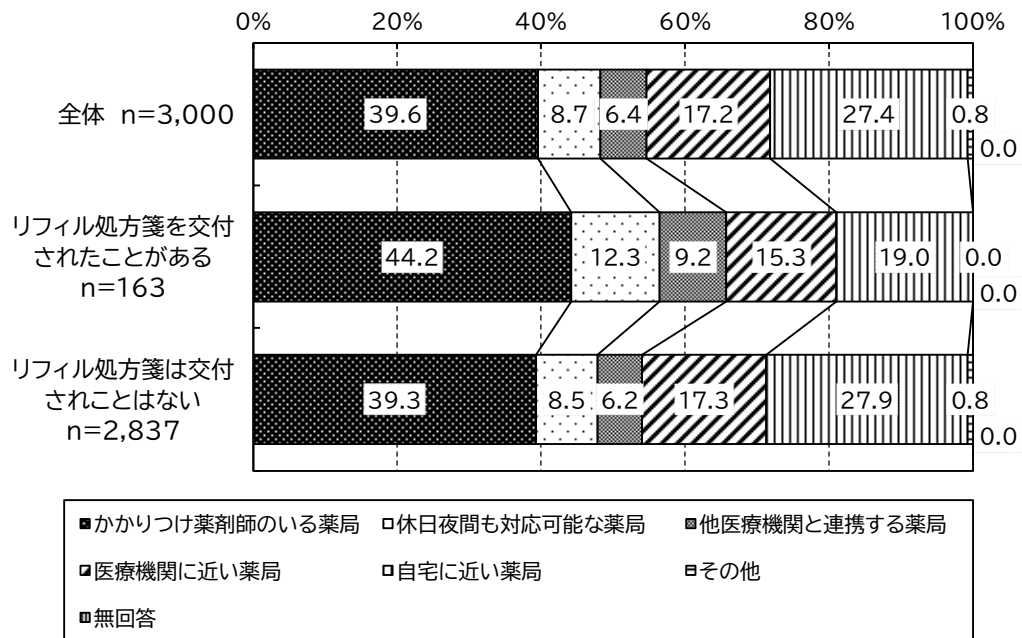
図表 6-91 リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（1回目・最も重視するもの）
【性別】



図表 6-92 リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（1回目・最重視）
【年代別】



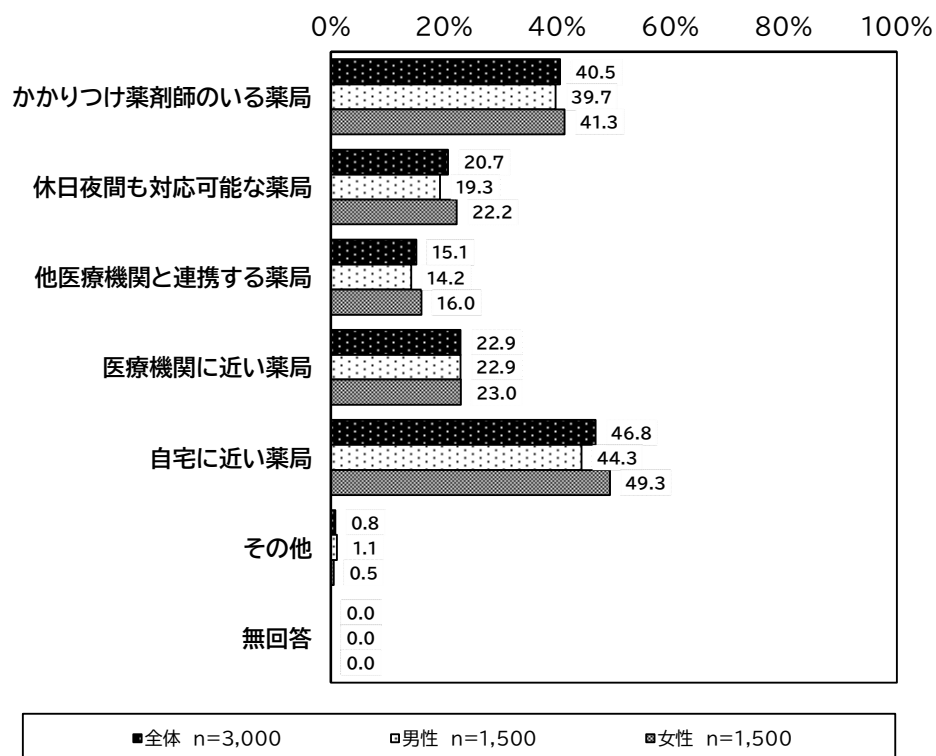
図表 6-93 リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（1回目・最重視）
【リフィル処方箋を交付された経験別】



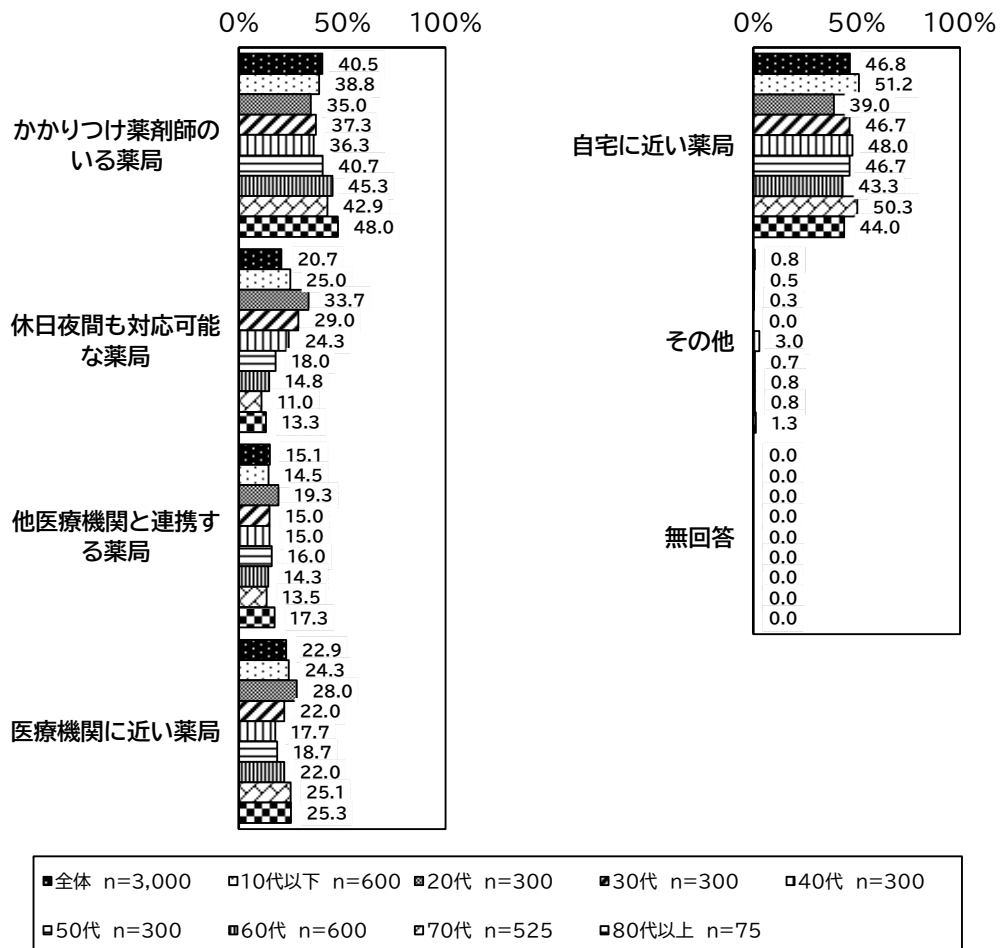
（15）リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（2回目・該当すべて）

リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（2回目・該当すべて）については、「自宅に近い薬局」が最も多く46.8%、次いで「かかりつけ薬剤師がいる薬局」が多く40.5%であった。

図表 6-94 2回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか
（複数回答）
【性別】

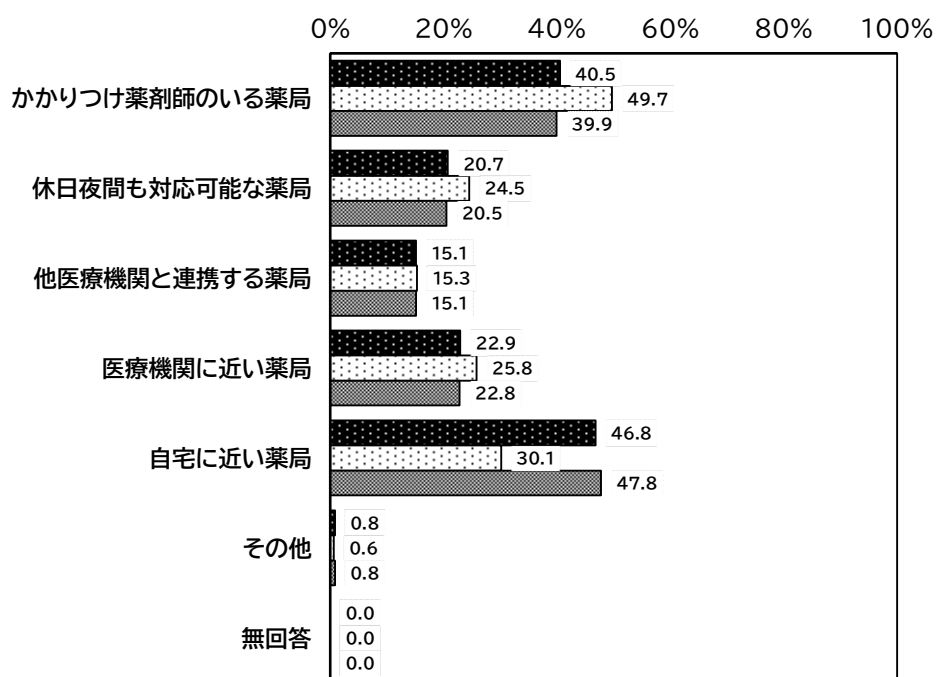


図表 6-95 2回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか
（複数回答）
【年代別】



図表 6-96 2回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか
（複数回答）

【リフィル処方箋を交付された経験別】



■全体 n=3,000

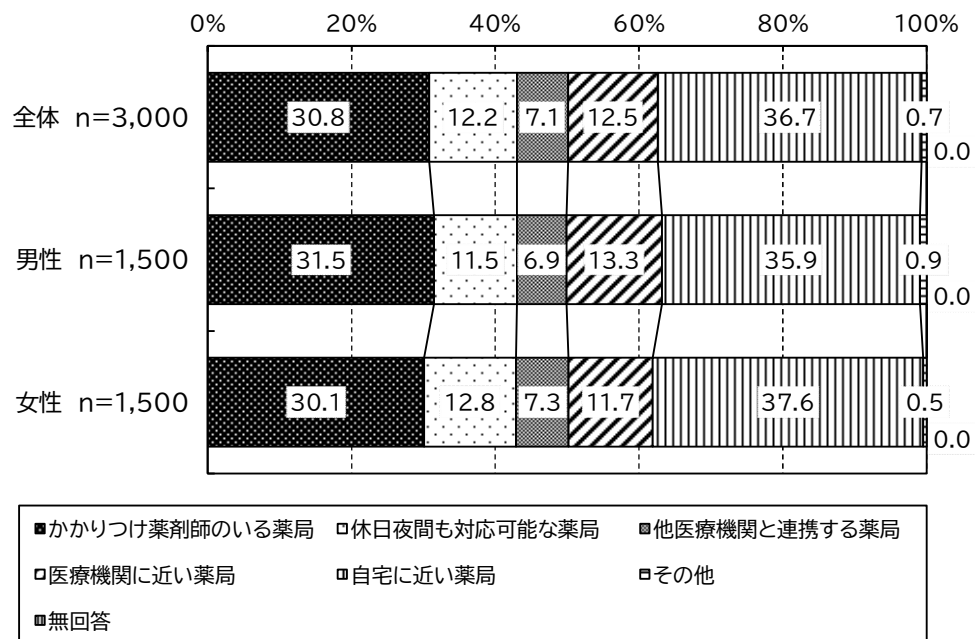
□リフィル処方箋を交付されたことがある n=163

▨リフィル処方箋は交付されことはない n=2,837

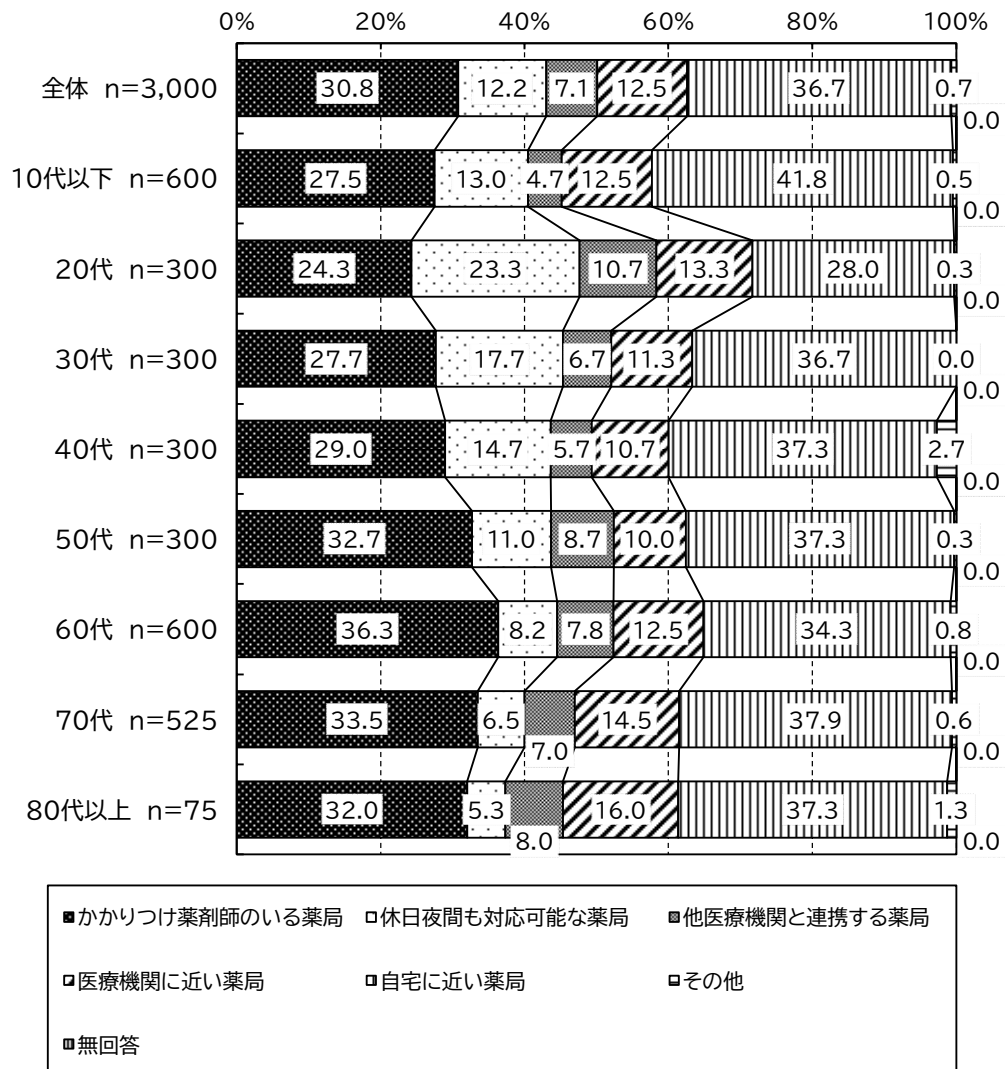
(16) リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（2回目・最も重視するもの）

リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（2回目・最も重視するもの）については、「自宅に近い薬局」が最も多く 36.7%、次いで「かかりつけ薬剤師がいる薬局」が多く 30.8%であった。

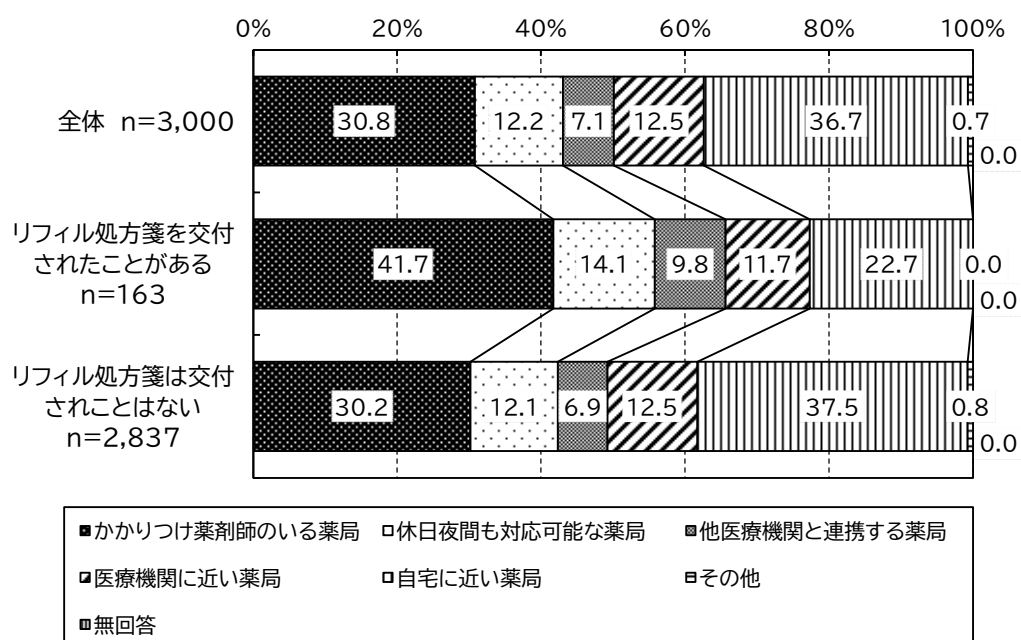
図表 6-97 リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（2回目・最も重視するもの）
【性別】



図表 6-98 リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（2回目・最重視）
【年代別】



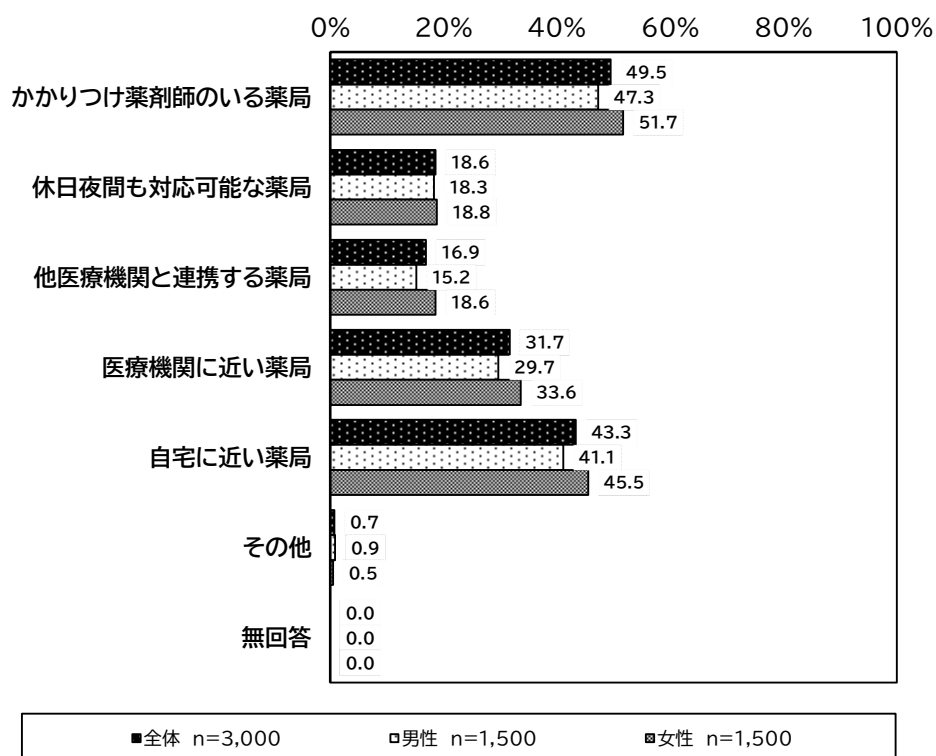
図表 6-99 リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（2回目・最重視）
【リフィル処方箋を交付された経験別】



(17) 長期処方は、どのような薬局で調剤を受けたいか

長期処方は、どのような薬局で調剤を受けたいかについては、「かかりつけ薬剤師のいる薬局」が最も多く 49.5%、次いで「自宅に近い薬局」が多く 43.4%であった。

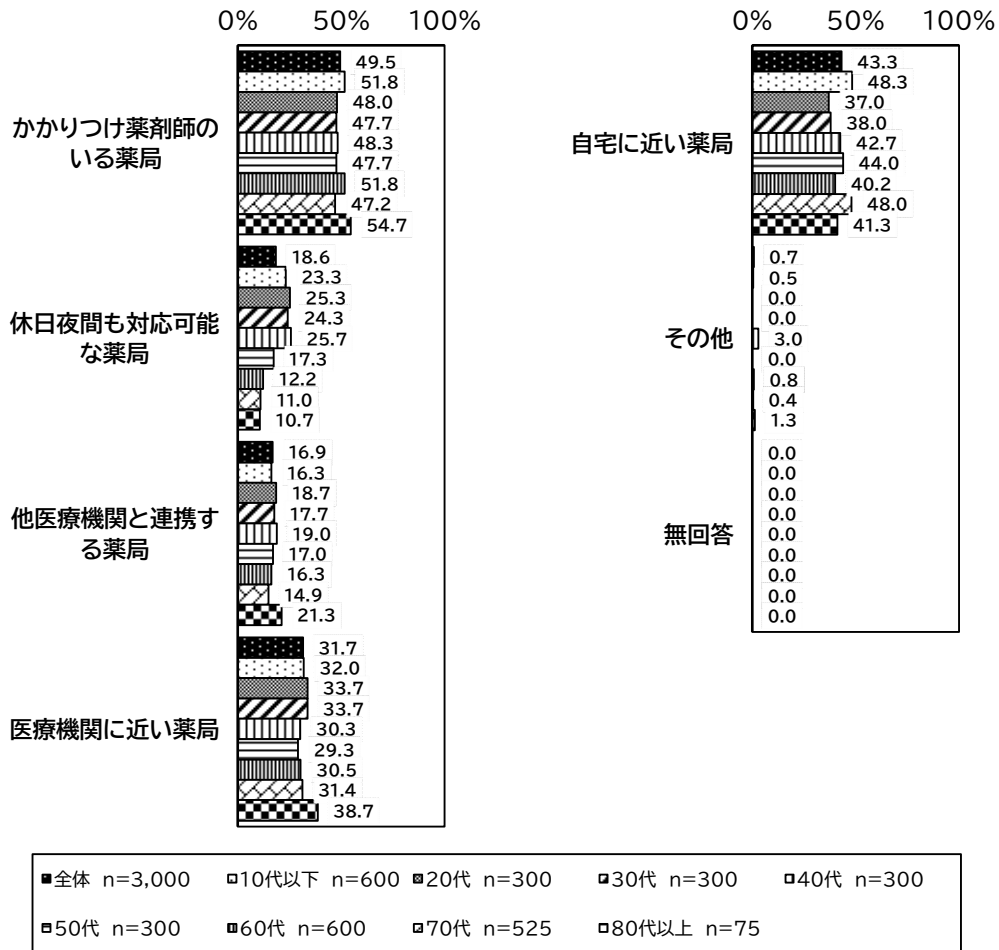
図表 6-100 長期処方は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
【性別】



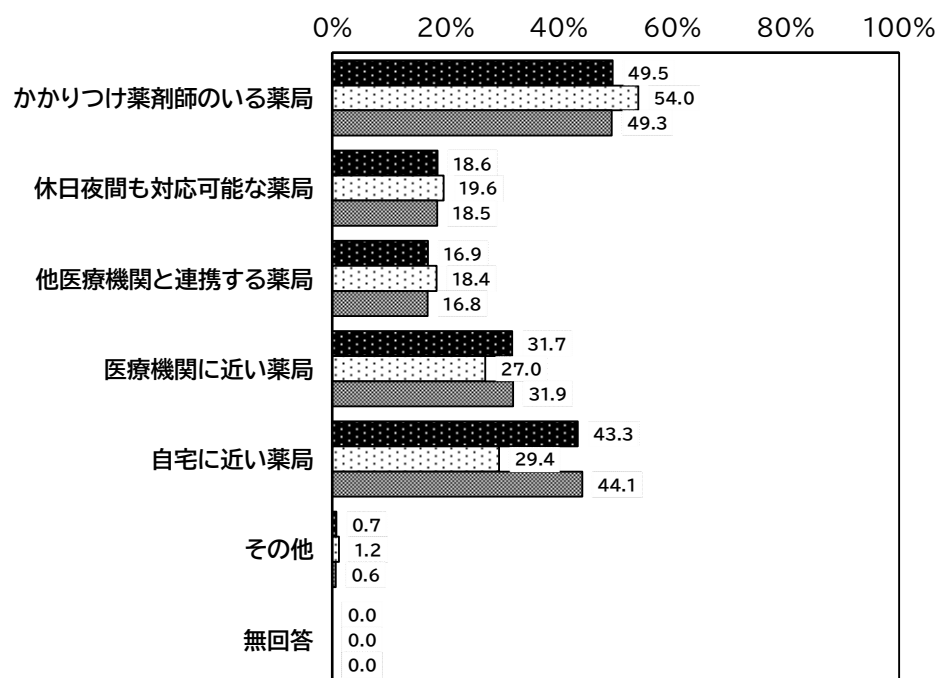
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・院内処方
- ・信頼できる薬剤師がいる薬局
- ・処方が早い薬局
- ・クレジット決済が可能な薬局 など

図表 6-101 長期処方は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
【年代別】



図表 6-102 長期処方、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
【リフィル処方箋を交付された経験別】



■全体 n=3,000

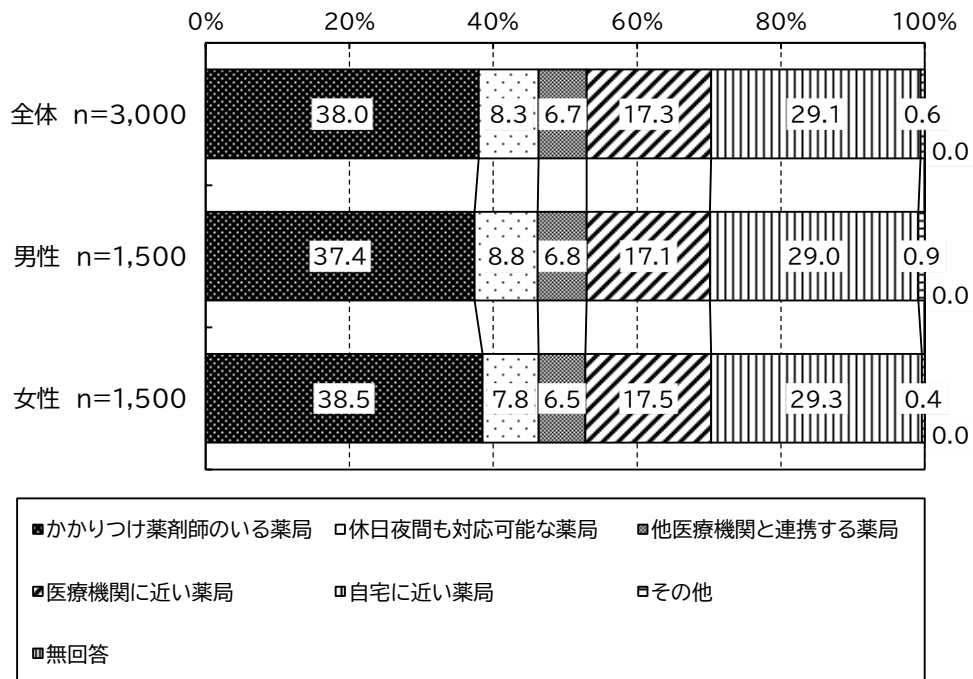
□リフィル処方箋を交付されたことがある n=163

▣リフィル処方箋は交付されことはない n=2,837

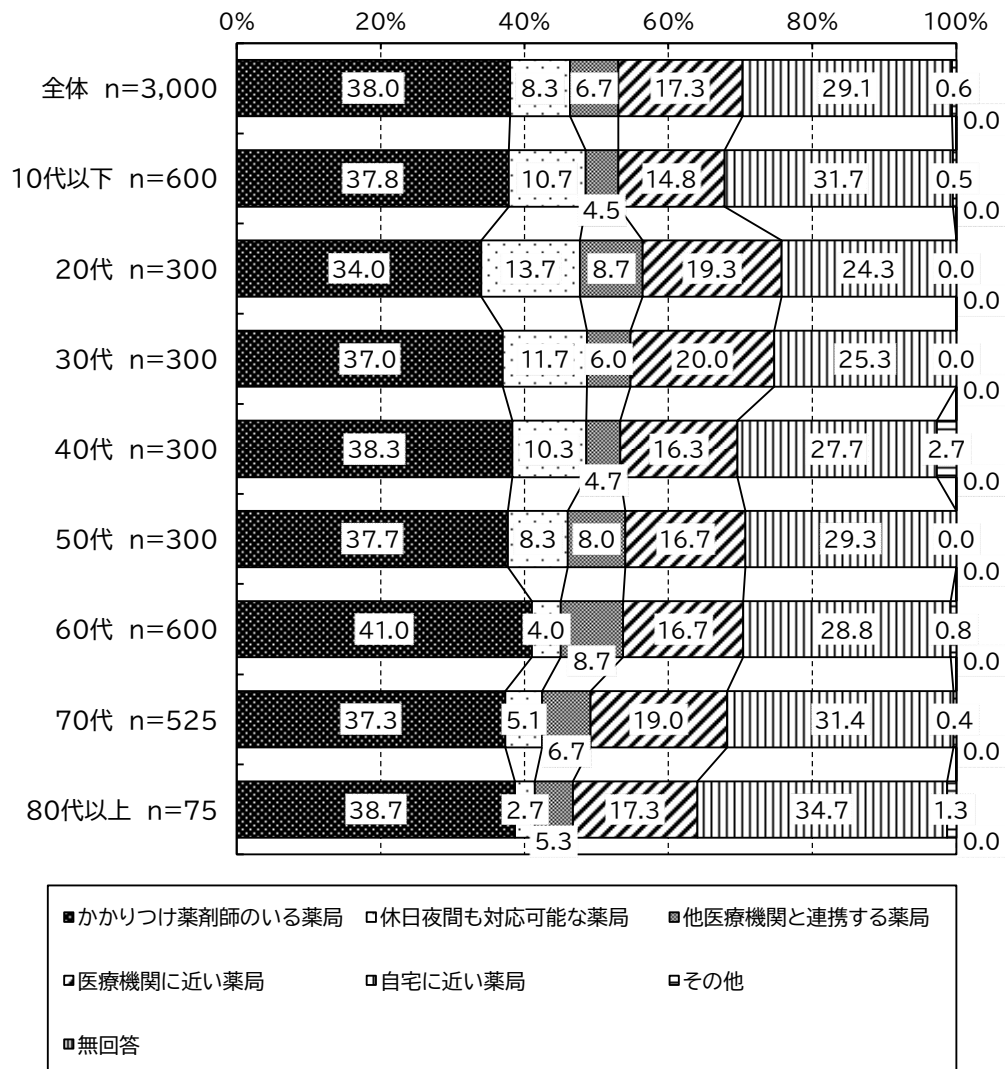
(18) 長期処方、どのような薬局で調剤を受けたいか（最も重視するもの）

長期処方、どのような薬局で調剤を受けたいか（最も重視するもの）については、「かかりつけ薬剤師のいる薬局」が最も多く 38.0%、次いで「自宅に近い薬局」が多く 29.1%であった。

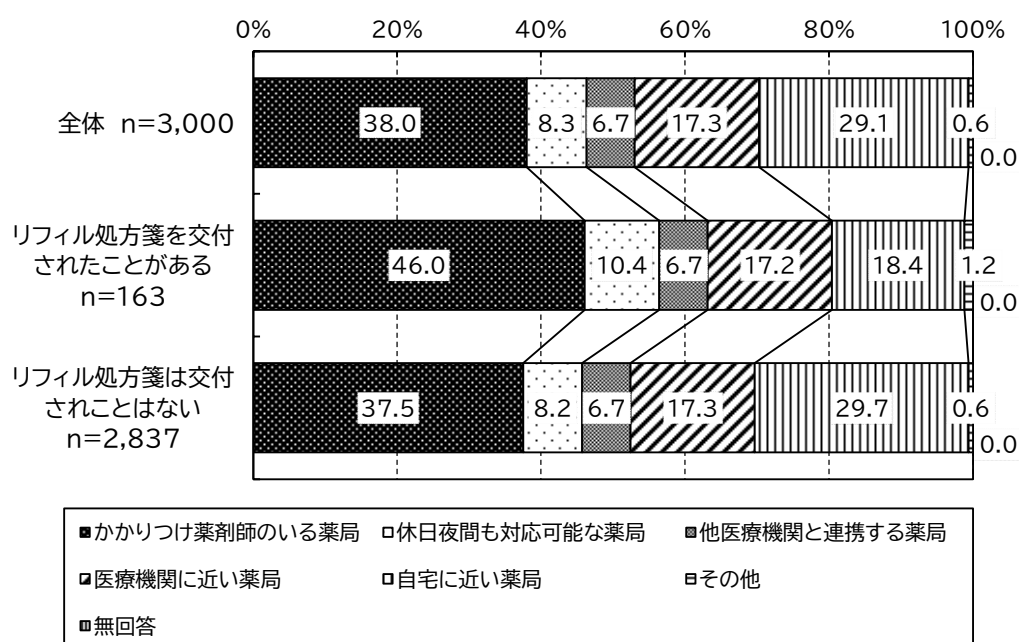
図表 6-103 長期処方、どのような薬局で調剤を受けたいか（最も重視するもの）
【性別】



図表 6-104 長期処方は、どのような薬局で調剤を受けたいか（最も重視するもの）
【年代別】



図表 6-105 長期処方、どのような薬局で調剤を受けたいか（最も重視するもの）
【リフィル処方箋を交付された経験別】



5) リフィル処方箋に関する意見・要望等

【ご意見・ご要望（自由記載）の具体的な内容】

<患者の負担>

- ・受診の待ち時間が長く時間をもったいないと持っていたので、ありがたい
- ・受診に必要な時間的負担や金銭的負担を軽減できるためありがたい
- ・医療費が減額されるのであればよい
- ・薬が無駄になり、医療費が大きくなるのではないかな

<医師、薬剤師への相談>

- ・リフィル処方箋について医師や薬剤師から説明がほしい
- ・担当医師やかかりつけ薬剤師にすぐに相談と受診が出来る仕組みがほしい
- ・診察を受けたうえで処方してもらえた方が安心
- ・患者の自己管理や体調の変化に依存するため医療機関との迅速な共有や対処が出来る環境が必要だと思う

<リフィル処方制度の周知>

- ・リフィル処方や長期処方などの制度があることを知らなかった
- ・今まで知らなかったが今後利用したい
- ・あまり理解されていないのが疑問なのでもっと広報・情報が欲しい
- ・誰もが知っている制度になるようにもっと積極的に周知を広めるべき

<リフィル処方制度の導入>

- ・症状が安定していて長期通院している患者には医師側から提案してほしい
- ・病院によって処方できるかの対応有無に差があるのでどこの医療機関でも出来るよう統一してほしい

<その他>

- ・血液検査等が定期的に必要のため意味がない
- ・定期受診患者の受診回数が減る分、新規受診が必要な患者に割り当てられるため良いと思う
- ・オンライン処方や電子処方箋、マイナンバーカードなどネットを活用したシステムがあると便利だと思う など

NDB データを用いた集計（長期処方・リフィル処方箋）

1. 病院・診療所別の処方箋料の算定回数

		令和4年7月 診療分	令和5年7月 診療分	令和6年7月 診療分
病院	リフィル処方箋	12,091	17,652	20,941
	全処方箋	14,404,923	14,763,527	15,449,650
診療所	リフィル処方箋	15,034	17,080	29,255
	全処方箋	48,049,131	53,225,694	55,827,371
全体	リフィル処方箋	28,443	35,612	51,048
	全処方箋	65,840,641	70,044,503	73,176,800

2. 病院・診療所別の処方箋料（リフィル）の算定医療機関数

	令和4年7月 診療分	令和5年7月 診療分	令和6年7月 診療分
病院	929	944	970
診療所	2,367	2,444	3,289
全体	3,481	3,495	4,386

3. リフィル処方箋の受付状況（調剤レセプトにおける分析）

	令和4年7月診療分		令和5年7月診療分		令和6年7月診療分	
	薬局数	受付回数	薬局数	受付回数	薬局数	受付回数
リフィル処方箋 1／2回目	3,148	12,624	5,078	19,468	6,961	28,071
リフィル処方箋 2／2回目	2,842	9,347	5,129	16,999	7,438	24,865
リフィル処方箋 1／3回目	3,252	9,098	3,673	10,280	4,709	13,256
リフィル処方箋 2／3回目	2,494	5,271	4,043	9,121	5,531	12,950
リフィル処方箋 3／3回目	2,180	4,593	3,607	7,702	4,626	10,341
リフィル処方箋 の合計	9,074	40,761	13,071	63,136	17,139	89,153
全処方箋	59,429	70,123,612	59,966	74,660,403	60,570	77,575,695

4. 長期処方箋の状況（調剤レセプトにおける分析）

	令和4年7月 診療分		令和5年7月 診療分		令和6年7月 診療分	
	薬局数	受付回数	薬局数	受付回数	薬局数	受付回数
長期処方箋の処方箋 (※)	59,378	34,457,482	59,917	35,144,849	60,519	37,131,496
全処方箋	59,429	70,123,612	59,966	74,660,403	60,570	77,575,695

※ 長期処方箋の処方箋とは 処方箋受付毎の最大調剤数量（最大投与日数）が28日以上の処方箋（リフィル処方箋の場合を除く）。

ID 番号：

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和6年度調査)

長期処方やリフィル処方の実施状況調査 病院・診療所票

※この病院・診療所票は、病院・診療所の開設者・管理者の方に症状が安定している患者について医師の処方により医師及び薬剤師の適切な連携の下、一定期間内に処方箋を反復利用できるリフィル処方箋、また、患者の症状が安定している場合に長期の処方を行うことができる長期処方の影響についてお伺いするものです。

＜ご回答方法＞

- ・あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。
- ・「※○は1つ」という質問については、あてはまる番号を1つだけ○で囲んでください。
- ・()内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
- ・()内に数値を記入する設問で、該当なしは「0(ゼロ)」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
- ・特に断りのない限り、令和6年11月1日時点の貴施設の状況についてお答えください。
- ・災害に被災した等の事情により回答が困難な場合には、事務局へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

1. 貴施設の状況についてお伺いします(令和6年11月1日時点)。

①所在地(都道府県)	() 都・道・府・県					
②開設者※1 ※○は1つ	1. 国 2. 公立 3. 公的 4. 社会保険関係団体 5. 医療法人(社会医療法人を除く) 6. 会社 7. その他の法人 8. 個人					
③医療機関の種別 ※○は1つ	1. 病院 →質問④、⑤、⑥へ 2. 有床診療所 →質問④、⑤、⑥へ 3. 無床診療所 →質問⑥へ					
【③で「1.病院」または「2.有床診療所」と回答した場合、下記④～⑤にご回答ください】						
④許可病床数	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	病院・診療所全体
	() 床	() 床	() 床	() 床	() 床	() 床
⑤過去1年の病床数変更 ※○は1つ	1. 変更あり 2. 変更なし					
【すべての方が⑥～⑭にご回答ください】						
⑥標榜診療科 ※○はいくつでも	1. 内科※2 →⑥-1へ 2. 外科※3 3. 精神科 4. 小児科 5. 皮膚科 6. 泌尿器科 7. 産婦人科・産科 8. 眼科 9. 耳鼻咽喉科 10. 放射線科 11. 脳神経外科 12. 整形外科 13. 麻酔科 14. 救急科 15. 歯科・歯科口腔外科 16. リハビリテーション科 17. その他(具体的に:)					
⑥-1 上記で1.内科を選択した方がお答えください。 診療科において主に対応している患者像はどのような疾患が多いですか。 ※○はいくつでも	1. 糖尿病 2. 高血圧性疾患 3. 虚血性心疾患 4. アレルギー鼻炎 5. 脂質異常症 6. 消化器系の疾患 7. 悪性新生物<腫瘍> 8. 神経系の疾患 9. 皮膚及び皮下組織の疾患 10. 眼及び付属器の疾患 11. 呼吸器系の疾患 12. その他(具体的に:)					
⑦貴施設の外来分離 ※○は1つ	1. 外来分離をしている 2. 外来分離をしていない					
⑧地域医療情報連携ネットワークへの参加の有無 ※○は1つ	1. 参加あり 2. 参加なし					
⑨外来を担う医師の人数 ※常勤換算は小数点第1位まで	a. 常勤医師 : () 人 b. 非常勤医師 : 実人数 () 人 常勤換算 () 人					
⑩外来の患者数 ※初診患者数+再診延べ患者数	令和6年9～11月の合計: () 人					
⑪処方箋の発行枚数	令和6年9～11月の合計: () 枚					
⑫令和6年11月1か月間における以下の診療報酬の算定の有無・件数						
	1)算定の有無 ※それぞれ○は1つだけ		2)算定件数			
A.生活習慣病管理料(Ⅰ)	1. 算定あり	2. 算定なし	() 件			
B.生活習慣病管理料(Ⅱ)	1. 算定あり	2. 算定なし	() 件			
C.特定疾患処方管理加算	1. 算定あり	2. 算定なし	() 件			
D.地域包括診療料(地域包括診療加算)	1. 算定あり	2. 算定なし	() 件			
⑬リフィル処方箋を交付すること又は28日以上長期の投薬を行うことについて、当該対応が可能であることを当該保険医療機関の見やすい場所に掲示しているか ※○は1つ	1. 掲示している 2. 掲示していない					
⑭リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し ※○は1つ	1. 積極的に検討する 2. 患者希望があれば検討する 3. 検討には消極的					
⑮長期処方※4の発行に係る検討についての今後の見通し ※○は1つ	1. 積極的に検討する 2. 患者希望があれば検討する 3. 検討には消極的					

※1 国立(国、独立行政法人国立病院機構、国立大学法人、独立行政法人労働者健康安全機構、国立高度専門医療研究センター、独立行政法人地域医療機能推進機構)

公立(都道府県、市町村、地方独立行政法人)

公的(日赤、済生会、北海道社会事業協会、厚生連、国民健康保険団体連合会)

社会保険関係(健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合)

医療法人(社会医療法人は含まない)

その他の法人(公益法人、学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社、社会医療法人等、その他の法人)

※2 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、血液内科、感染症内科、アレルギー内科、リウマチ内科、心療内科、神経内科は、「1.内科」としてご回答ください。

※3 外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科は、「2.外科」としてご回答ください。

※4 この調査では長期処方とは28日以上処方(リフィルを除く)のことを指す

2. リフィル処方箋、長期処方における貴施設の状況をお伺いします。

①リフィル処方箋の制度の認知 ※○は1つ	1. 制度の内容まで知っている 2. 名称だけ知っている 3. 知らない
【① で「1.制度の内容まで知っている」又は「2.名称だけ知っている」と回答した場合、下記①-1をご回答ください】	
①-1 制度を知ったきっかけ ※○は1つ	1. 新聞・雑誌のニュース等の報道 2. 医師会等の団体からの案内等 3. 薬局からの案内等 4. 保険者側からの案内等 5. 患者からの問い合わせ 6. 行政からの案内等 7. その他（具体的に：_____）
【すべての方がご回答ください】	
②貴院内でリフィル処方箋を発行した経験はあるか ※○は1つ	1. リフィル処方箋を発行した経験がある →質問②-1 へ 2. 発行した経験はない →質問③-1 へ
【② で「1. リフィル処方箋を発行した経験がある」と回答した方は全員、下記②-1をご回答ください】	
②-1 リフィル処方箋に関する薬局からの服薬情報提供書(トレーシングレポート)の有無 ※○は1つ	1. 有 2. 無
【すべての方がご回答ください】	
③-1 どのような患者に長期処方を発行しているか、また発行が適していると思われるか ※○はいくつでも	1. 慢性疾患管理が必要な患者 2. 遠隔地に住んでおり通院回数を減らしたい患者 3. 症状が安定している患者 4. 訪問診療や在宅医療を受けている患者 5. 仕事や生活の都合で通院が難しい患者 6. その他（具体的に_____）
③-2 どのような患者にリフィル処方箋を発行しているか、また発行が適していると思われるか ※○はいくつでも	1. 慢性疾患管理が必要な患者 2. 遠隔地に住んでおり通院回数を減らしたい患者 3. 症状が安定している患者 4. 訪問診療や在宅医療を受けている患者 5. 仕事や生活の都合で通院が難しい患者 6. その他（具体的に_____）
④リフィル処方箋を普及させるための課題と考えられること ※○はいくつでも	1. 患者への制度の周知が十分でないこと 2. 医師への制度の周知が十分でないこと 3. 薬剤師への制度の周知が十分でないこと 4. かかりつけ薬剤師制度の普及が十分でないこと 5. その他（具体的に：_____）

質問は以上です。ご協力頂き誠にありがとうございました。

令和7年1月24日(金)までに返信用封筒をご使用の上投函ください(切手不要)。

ID 番号：

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和6年度調査)

長期処方やリフィル処方の実施状況調査 医師票

※この医師票は、病院・診療所で勤務する医師の方に症状が安定している患者について医師の処方により医師及び薬剤師の適切な連携の下、一定期間内に処方箋を反復利用できるリフィル処方箋、また、患者の症状が安定している場合に長期の処方を行うことができる長期処方の影響についてお伺いするものです。

＜ご回答方法＞

- ・あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。
- ・「※○は1つ」という質問については、あてはまる番号を1つだけ○で囲んでください。
- ・()内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
- ・()内に数値を記入する設問で、該当なしは「0(ゼロ)」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
- ・特に断りのない限り、令和6年11月1日時点の状況についてお答えください。
- ・災害に被災した等の事情により回答が困難な場合には、事務局へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

1. 回答者ご自身についてお伺いします(令和6年11月1日時点)。

①性別 ※○は1つ	1. 男性	2. 女性
②年代 ※○は1つ	1. 20代	2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代 6. 70代以上
③主たる担当診療科 ※○は1つ	1. 内科 ^{※1} 2. 外科 ^{※2} 3. 精神科 4. 小児科 5. 皮膚科 6. 泌尿器科 7. 産婦人科・産科 8. 眼科 9. 耳鼻咽喉科 10. 放射線科 11. 脳神経外科 12. 整形外科 13. 麻酔科 14. 救急科 15. 歯科・歯科口腔外科 16. リハビリテーション科 17. その他 (具体的に: _____)	
④外来診察患者数 ※令和6年9月～11月の合計	(_____) 人 ※調査票を受け取った施設の患者のみ	

※1: 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、血液内科、感染症内科、アレルギー内科、リウマチ内科、心療内科、神経内科は、「1.内科」としてご回答ください。

※2: 外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科は、「2.外科」としてご回答ください。

2. リフィル処方箋についてお伺いします。

①リフィル処方箋の制度の認知 ※○は1つ	1. 制度の内容まで知っている 2. 名称だけ知っている 3. 知らない
【①で「1.制度の内容まで知っている」又は「2.名称だけ知っている」と回答した場合、下記①-1をご回答ください】	
①-1リフィル処方箋の制度を知ったきっかけ ※○はいくつでも	1. 新聞・雑誌のニュース等の報道 2. 医師会等の団体からの案内等 3. 薬局からの案内等 4. 保険者側からの案内等 5. 患者からの問い合わせ 6. 行政からの案内等 7. その他 (具体的に: _____)
【すべての方がご回答ください】	
②リフィル処方箋の発行有無	1. リフィル処方箋を発行したことがある →③へ 2. 発行したことはない →⑨へ
【②で「1.リフィル処方箋を発行したことがある」と回答した場合、下記③～⑧をご回答ください】	
③どのような患者にリフィル処方箋を発行しているか ※○はいくつでも	1. 自施設のかかりつけの患者 2. 自施設と連携する薬局に「かかりつけ薬剤師」がいる患者 3. 自施設と連携する薬局以外の薬局に「かかりつけ薬剤師」がいる患者 4. その他 (具体的に: _____)
④あなたがリフィル処方箋を発行した理由 ※○はいくつでも	1. 症状が安定していたから 2. 患者に「かかりつけ薬剤師」がいたから 3. 患者からの希望があったから 4. その他 (具体的に: _____)
⑤長期処方 ^{※3} ではなくリフィル処方箋を発行する理由 ※○はいくつでも	1. 患者が適切に薬の管理ができるか心配なため 2. 薬剤師との連携により患者の状態や副作用のモニタリングができるため 3. その他 (具体的に: _____)
⑥あなたがリフィル処方箋を発行した患者に対し、薬剤師から受診勧奨を受けた経験の有無 ※○は1つ	1. 受診勧奨を受けた患者はあった →⑦へ 2. 受診勧奨を受けた患者はいなかった →⑧へ
⑦薬剤師からの受診勧奨の理由は適切であったか ※○は1つ	1. 適切であった 2. 必ずしも受診を要するとは言えない場合があった

⑧リフィル処方箋に関する薬局からの服薬情報提供書(トレーシングレポート)で提供してほしい情報 ※〇はいくつでも	1. 他の医療機関から処方された薬の情報 2. 患者の服用薬 3. 患者の服薬状況 4. 患者に対する服薬指導の要点 5. 患者の状態 6. 患者が容易に又は継続的に服用できるための調剤上の工夫等 7. その他 (具体的に:_____)
--	--

※3 この調査では長期処方とは 28 日以上の処方(リフィルを除く)のことを指します

【②で「2.発行したことはない」と回答した場合、下記⑨⑩をご回答ください】	
⑨あなたがリフィル処方箋を発行しなかった理由 ※〇はいくつでも	1. 症状が安定している患者がいなかったから 2. 薬剤師と適切に連携して管理できる患者がいなかったから 3. 症状が安定し、薬剤師と連携して管理できるが、医師の判断が必須だったから 4. 長期処方に対応が可能だったから →⑩へ 5. 患者からの求めがないから 6. その他 (具体的に:_____)
⑩あなたがリフィル処方箋の発行ではなく長期処方を行った理由 ※〇はいくつでも	1. 薬を処方する際には医師の判断が毎回必須と考えるから 2. 患者にリフィル処方箋を必要とされていないから 3. 処方箋の不正利用が心配だから 4. リフィル処方箋の仕組みがよく分からないから 5. 患者が薬局に行く負担を軽減するため 6. 患者の費用負担が少ないから 7. その他 (具体的に:_____)

【すべての方がご回答ください】

⑪リフィル処方箋の発行について患者からの希望の有無 ※〇は1つ	1. あった 2. なかった
⑫リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し ※〇は1つ	1. 積極的に検討する → ⑬へ 2. 患者希望があれば検討する →⑮へ 3. 検討には消極的 → ⑭へ

【⑫で「1.積極的に検討する」と回答した方は、以下の⑬をご回答ください】

⑬「1.積極的に検討する」と回答した理由 ※〇はいくつでも	1. 患者からの希望が多いから 2. 患者の待ち時間が減るから 3. 医師の負担軽減につながるから 4. その他 (具体的に:_____)
----------------------------------	--

【⑫で「3.検討には消極的」と回答した方は、以下の⑭をご回答ください】

⑭「3.検討には消極的」と回答した理由 ※〇はいくつでも	1. 医師が患者の症状の変化に気付きにくくなるから 2. 薬を処方する際には医師の判断が毎回必須と考えるから 3. 患者にリフィル処方箋が必要とされていないから 4. 処方箋の不正利用が心配だから 5. リフィル処方箋の仕組みがよくわからないから 6. その他 (具体的に:_____)
---------------------------------	--

【すべての方がご回答ください】

⑮このほか、リフィル処方箋を普及するための課題と考えられること ※〇はいくつでも	1. 患者への制度の周知が十分でないこと 2. 薬剤師への制度の周知が十分でないこと 3. かかりつけ薬剤師制度の普及が十分でないこと 4. その他 (具体的に:_____)
⑯長期処方の課題と考えられること ※〇はいくつでも	1. 医師が患者の症状の変化に気付きにくくなること 2. 患者に長期処方が必要とされていないこと 3. 処方箋の不正利用(転売や他人への譲渡等)が心配なこと 4. かかりつけ薬剤師制度の普及が十分でないこと 5. 残薬の原因となること 6. 薬剤の安定供給に影響すること 7. その他 (具体的に:_____)

質問は以上です。ご協力頂き誠にありがとうございました。
令和7年1月24日(金)までに返信用封筒をご使用の上投函ください(切手不要)。

ID 番号：

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和6年度調査) 長期処方やリフィル処方の実施状況調査 保険薬局票

※この保険薬局票は、保険薬局の薬剤師の方に、症状が安定している患者について医師の処方により医師及び薬剤師の適切な連携の下、一定期間内に処方箋を反復利用できるリフィル処方箋、また、患者の症状が安定している場合に長期の処方を行うことができる長期処方の影響についてお伺いするものです。

<ご回答方法>

- ・あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。
- ・「※○は1つ」という質問については、あてはまる番号を一つだけ○で囲んでください。
- ・()内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
- ・()内に数値を記入する設問で、該当なしは「0(ゼロ)」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
- ・特に断りのない限り、令和6年11月1日時点の貴薬局の状況についてお答えください。
- ・災害に被災した等の事情により回答が困難な場合には、事務局へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

1. 貴薬局の状況についてお伺いします。(令和6年11月1日時点)

① 所在地(都道府県)	() 都・道・府・県		
② 開設者 ※法人の場合は、法人の形態等にも○をつけてください。	1. 法人 ⇒ (11. 株式会社 12. 有限会社 13. 合資会社 14. 合名会社 15. その他) ⇒ (16. 純粋持株会社※ ¹ 17. 事業持株会社※ ² 18. 持株会社以外※ ³) 2. 個人 3. その他 (具体的に: _____) ※1 自ら製造や販売といった事業は行わず、株式を所有することで、他の会社の事業活動を支配することのみを事業目的とする持株会社のこと。 ※2 グループ各社の株式を持つことで子会社を支配しながら、自らも生産活動などの事業を営む持株会社のこと。 ※3 持株会社以外(会社の総資産に対する子会社の株式の取得価額の合計が50%以下の会社)のこと。		
③ 同一グループ(財務上又は営業上若しくは事業上、緊密な関係にある範囲の保険薬局をいう)等※による薬局店舗数 ※ 同一グループは次の基準により判断する(調剤基本料の施設基準における同一グループの考え方と同様) 1. 保険薬局の事業者の最終親会社 2. 保険薬局の事業者の最終親会社の子会社 3. 保険薬局の事業者の最終親会社の関連会社 4. 1から3までに掲げる者と保険薬局の運営に関するフランチャイズ契約を締結している者	() 店舗 ※ 当該店舗を含めてお答えください。		
④ 開設年 ※当該店舗の開設年をお答えください。	西暦 () 年		
⑤ 貴薬局はどのような場所に立地していますか。 ※○は1つ	1. 住宅街にある 2. 駅前にある 3. 商店街にある 4. オフィス街にある 5. 大型商業施設(スーパー・デパート)の中にある 6. その他 (具体的に: _____)		
⑥ 応需医療機関数(令和6年9月～11月の月平均値)	() 施設		
⑦ 最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの処方箋枚数割合(令和6年9月～11月における月平均値)	() %		
⑧ 上記⑦の集中度が最も高い医療機関の情報			
1) 診療所・病院の別 ※○は1つ	1. 診療所 2. 病院		
2) 最も多く処方箋を受け付けた医療機関と貴薬局との位置関係 ※○は1つ	1. 貴薬局の近隣に医療機関はない 2. 当該医療機関や医療機関の駐車場と同一の敷地内にある 3. 当該医療機関や医療機関の駐車場と隣接し公道を介さずに往来できる 4. 当該医療機関の近隣にある 5. 上記1～4以外の状況		
3) 当該医療機関は複数の医療機関が所在する建物(いわゆる医療モール等)に該当しますか	1. 該当する 2. 該当しない		
4) 診療科 ※○はいくつでも			
1. 内科※ ¹ 2. 外科※ ² 3. 精神科 4. 小児科 5. 皮膚科 6. 泌尿器科 7. 産婦人科・産科 8. 眼科 9. 耳鼻咽喉科 10. 放射線科 11. 脳神経外科 12. 整形外科 13. 麻酔科 14. 救急科 15. 歯科・歯科口腔外科 16. リハビリテーション科 17. その他 (具体的に: _____) ※1 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、血液内科、感染症内科、アレルギー内科、リウマチ内科、心療内科、神経内科は、「1. 内科」として回答 ※2 外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科は、「2. 外科」として回答			
⑨ 貴薬局の売上高に占める保険調剤売上の割合 ※令和5年度決算	約 () % ※OTC医薬品等の販売がなく、保険調剤収入のみである場合は100%とご記入ください。		
⑩ 令和6年度の調剤基本料の届出状況 ※○は1つ	1. 調剤基本料 1 2. 調剤基本料 2 3. 調剤基本料 3 イ 4. 調剤基本料 3 ロ 5. 調剤基本料 3 ハ 6. 特別調剤基本料 A 7. 特別調剤基本料 B		
⑪ 令和6年度の地域支援体制加算の届出状況 ※○は1つ	1. 地域支援体制加算 1 2. 地域支援体制加算 2 3. 地域支援体制加算 3 4. 地域支援体制加算 5. 届出していない		
⑫ 連携強化加算の届出状況 ※○は1つ	1. 届出あり 2. 届出なし		
⑬ かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準等の届出状況 ※○は1つ			
1. 届出あり 2. 届出なし			

⑭ 職員数 ※該当者がいない場合は「0」とご記入ください。	職種	常勤職員※2	非常勤職員	
			実人数	常勤換算※3
	1) 薬剤師	() 人	() 人	() 人
	(うち)かかりつけ薬剤師指導料等※1における「かかりつけ薬剤師」	() 人	() 人	() 人
	2) その他(事務職員等)	() 人	() 人	() 人
⑮ 貴薬局の認定等の状況 ※○はいくつでも	1. 地域連携薬局 3. 健康サポート薬局 2. 専門医療機関連携薬局 4. 該当なし			

※1 かかりつけ薬剤師指導料、かかりつけ薬剤師包括管理料を指します。

※2 常勤職員数(常勤薬剤師数)には、責薬局における実労働時間が週 32 時間以上である職員(保険薬剤師)の実人数を計上します。常勤薬剤師数については、直近3月間の勤務状況に基づき算出します。

※3 非常勤職員(非常勤薬剤師)は、貴薬局における実労働時間が週 32 時間に満たない職員(保険薬剤師)をいい、常勤換算数は、以下により算出します(小数点第二位を四捨五入して小数点第一位まで求める)。非常勤薬剤師数については、直近3月間の勤務状況に基づき算出します。

$$\text{非常勤薬剤師数(常勤換算)} = \frac{\text{当該保険薬局における週 32 時間に満たない保険薬剤師の実労働時間の合計(時間/3月)}}{32(\text{時間/週}) \times 13(\text{週/3月})}$$

2. リフィル処方箋を応需する体制について伺います。(令和6年9月～11月末日)

【全ての方がご回答ください】		
① リフィル処方箋の仕組みについて知っていますか ※○は1つ	1. 知っている 2. 知らない	
② リフィル処方箋を応需した際の薬局内の業務手順を定めているか ※○は1つ		
1. 薬局内で手順を定めている 2. 個々の薬剤師の判断に委ねている		
③ リフィル処方箋の次回調剤日を薬局内で管理する方法 ※主たるものを一つだけ○	1. 紙による管理（メモや調剤録への記載） 2. 電子的な管理（電子薬歴等のシステムによる管理） 3. その他（具体的に：_____） 4. 管理していない	
④ リフィル処方箋の次回調剤日を患者に対して通知（リマインド）する方法	1. 電話 2. SNS やメール 3. 専用アプリ 4. 書面の手渡し 5. 書面の郵送 6. 次回処方日をレシートに記載 7. その他（具体的に：_____） 8. 実施していない	
⑤ リフィル処方箋の受付経験 ※○は1つ	1. リフィル処方箋を受け付けたことがある → 大問3.へ 2. 受け付けたことはない → 次問⑥へ	
【⑤で「2. 受け付けたことはない」と回答した場合、下記⑥を回答下さい】		
⑥ リフィル処方箋の対応実績がない理由 ※○はいくつでも	1. リフィル処方箋を持ちこまれたことがない 2. リフィル処方箋を希望している患者がいない 3. リフィルの電子処方箋の対応を希望されたがシステムが対応していない 4. その他（具体的に：_____）	

⇒【大問4へお進みください】

3.リフィル処方箋の対応状況についてお伺いします。

【2.⑤で「1.リフィル処方箋を受け付けたことがある」と回答した場合に回答下さい】			
① 受け付けたリフィル処方箋を発行した医療機関数 ※令和6年9月～11月の合計数		() か所	
② どのような関係の医療機関からリフィル処方箋を受け付けましたか ※○はいくつでも			
1. 近隣の診療所	2. 近隣の病院 (199床以下)	3. 近隣の病院 (200床以上 399床以下)	
4. 近隣の病院 (400床以上)	5. 遠方の診療所	6. 遠方の病院 (199床以下)	
7. 遠方の病院 (200床以上 399床以下)		8. 遠方の病院 (400床以上)	
9. 同一敷地内の診療所	10. 同一敷地内の病院 (199床以下)	11. 同一敷地内の病院 (200床以上 399床以下)	
12. 同一敷地内の病院 (400床以上)		13. 同一医療モール内の診療所	
14. その他 (具体的に: _____)			
③-1 どの診療科のリフィル処方箋を受け付けましたか ※○はいくつでも			
1. 内科※1	2. 外科※2	3. 精神科	4. 小児科
5. 皮膚科	6. 泌尿器科	7. 産婦人科・産科	8. 眼科
9. 耳鼻咽喉科	10. 放射線科	11. 脳神経外科	12. 整形外科
13. 麻酔科	14. 救急科	15. 歯科・歯科口腔外科	16. リハビリテーション科
17. その他 (具体的に: _____)			
※1 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、血液内科、感染症内科、アレルギー内科、リウマチ内科、心療内科、神経内科は、「1.内科」としてご回答ください。			
※2 外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科は、「2.外科」としてご回答ください。			
③-2 上記③-1 で選択した中で最も多くリフィル処方箋を受け付けた診療科		() ※③-1の選択肢番号を記入	
④リフィル処方箋の受付件数 (令和6年9月～11月の合計)			
1回目: () 回	2回目: () 回	3回目: () 回	

⑤リフィル処方箋の総使用件数の調剤が終わった枚数（自局で調剤済みの処方箋を保管している枚数）(令和6年9月～11月の合計)		() 枚	
⑥リフィル処方箋による調剤の可／否の判断に困った事例の有無とその理由 ※あてはまる番号すべてに○	1. 急性期疾患に対する医薬品が含まれていた 2. 処方箋1回の使用期間が判断できなかった 3. 投薬期間が異なる医薬品が同じリフィル処方箋で処方されていた 4. リフィル処方箋による投薬を行うことができない医薬品（投与量に限度が定められている医薬品及び湿布薬）が含まれていた 5. その他（具体的に：_____） 6. リフィル処方箋による調剤の可／否の判断に困ったことはない		
⑦リフィルの上限まで使用されなかった事例の有無とその理由 ※○はいくつでも	1. 薬剤師が受診勧奨をしたから → ⑧-1へ 2. 患者が処方箋期限内に医療機関の受診を希望したから 3. 患者が別の薬局で処方を受けることになったから 4. 患者と連絡は取れていたが、来局前に処方箋期限が切れたから 5. 患者と連絡が取れず、処方箋期限が切れたから 6. その他（具体的に：_____） 7. 上限まで使用されなかったことはない		
【⑦で「1. 薬剤師が受診勧奨をしたから」を選択した場合、下記⑧-1～4を回答】			
⑧-1 薬剤師が受診勧奨をした回数(令和6年9月～11月)	全体 () 回	うち、2回目調剤時 () 回	うち、3回目調剤時 () 回
⑧-2 受診勧奨を判断し、説明する際の処方医への相談状況 ※○はいくつでも	1. 受診勧奨後に処方医に患者の情報を報告した 2. 事前に処方医へ相談した 3. 処方医に相談は行っていない 4. その他（具体的に：_____）		
⑧-3 薬剤師が受診勧奨をした理由 ※○はいくつでも	1. 副作用が疑われたから 2. 患者の症状の変化に気付いたから 3. 服薬状況に注意すべき点があったから 4. その他（具体的に：_____）		
⑧-4 医師への情報提供内容 ※○はいくつでも	1. 服薬状況や残薬などの状況 2. 副作用や体調変化の状況 3. 処方薬の効果 4. 薬剤師が指導した内容 5. 患者の質問や疑問 6. 他の医療機関から処方された薬の情報 7. その他（具体的に：_____） 8. 情報提供は実施していない		
【2.⑤で「1. リフィル処方箋を受け付けたことがある」と回答した場合に回答下さい】			
⑨服薬情報等提供料に係る業務の件数をご回答ください。 (令和6年9月～11月の合計)	1. 服薬情報等提供料1により算定した回数 () 回 2. 服薬情報等提供料2のロにより算定した回数 () 回 3. 服薬情報等提供料を算定しない情報提供の回数 () 回		
⑩リフィル処方箋の患者に関して、医師に服薬指導提供書(トレーニングレポート)を提供した情報の内容	該当するもの全て		最も多いもの一つ
	1. 他の医療機関から処方された薬の情報		
	2. 患者の服用薬		
	3. 患者の服薬状況		
	4. 患者に対する服薬指導の要点		
	5. 患者の状態		
	6. 患者が容易に又は継続的に服用できるための調剤上の工夫等		
	7. その他（具体的に：_____）		
⑩-1 患者へのフォローアップの有無	1. 1回目調剤後にフォローアップを行ったことがある → ⑩-2へ 2. 2回目調剤後にフォローアップを行ったことがある → ⑩-2へ 3. 3回目調剤後にフォローアップを行ったことがある → ⑩-2へ 4. フォローアップを行ったことはない → 大問4.へ		
【⑩-1で「フォローアップを行ったことがある」と回答した場合、下記⑩-2を回答】			
⑩-2 実施したフォローアップの内容 ※○はいくつでも	1. 服薬アドヒアランス 2. 副作用のモニタリング 3. 薬の効果確認 4. その他（具体的に：_____）		
【2.⑤で「1. リフィル処方箋を受け付けたことがある」と回答した場合に回答下さい】			
⑪1枚のリフィル処方箋の処方の途中で薬局が変わった経験※あてはまる番号すべてに	1. ある（自薬局から他薬局へ） → ⑪-1へ 2. ある（他薬局から自薬局へ） → 大問4.へ 3. ない → 大問4.へ 4. 不明 → 大問4.へ		
【⑪で「1. ある（自薬局から他薬局へ）」と回答した場合、下記⑪-1⑪-2を回答】			
⑪-1 どのような方法で他薬局へ情報提供を行いましたか ※○はいくつでも	1. 他の保険薬局に文書を送付した 2. 情報を記録したものを患者に提供した 3. お薬手帳に記載した 4. 他の保険薬局に電話をした 5. 他の保険薬局にメール・FAXを送付した 6. 地域医療情報連携ネットワーク*を利用した 7. 医療従事者用SNSを利用した 8. その他（具体的に：_____） ※ICT(情報通信技術)を活用して住民に質の高い医療介護サービスを提供するため、患者の同意を得た上で、病院、診療所（内科・歯科）、薬局、訪問看護事業者、訪問介護事業者等の各関係機関において、その患者の医療介護情報を電子的に共有・閲覧できる仕組み		
⑪-2 どのような内容を情報提供しましたか ※○はいくつでも	1. 患者の服用薬 2. 患者の服薬状況 3. 患者に対する服薬指導の要点 4. 患者の状態 5. 残薬 6. 調剤上の工夫 7. その他（具体的に：_____）		

4.長期処方^{※1}の対応状況についてお伺いします。(令和6年9月～11月)

※1 長期処方とは 28 日以上処方(リフィルを除く)のことを指す。

【全ての方がご回答ください】	
① 長期処方を応需する件数が多い医療機関の特徴を回答ください。 ※○はいくつでも	1. 近隣の診療所 2. 近隣の病院 (199 床以下) 3. 近隣の病院 (200 床以上 399 床以下) 4. 近隣の病院 (400 床以上) 5. 遠方の診療所 6. 遠方の病院 (199 床以下) 7. 遠方の病院 (200 床以上 399 床以下) 8. 遠方の病院 (400 床以上) 9. 同一敷地内の診療所 10. 同一敷地内の病院 (199 床以下) 11. 同一敷地内の病院 (200 床以上 399 床以下) 12. 同一敷地内の病院 (400 床以上) 13. 同一医療モール内の診療所 14. その他 (具体的に: _____)
② 長期処方を応需する件数が多い診療科を回答ください。 ※最もあてはまる番号に○	1. 内科 ^{※1} 2. 外科 ^{※2} 3. 精神科 4. 小児科 5. 皮膚科 6. 泌尿器科 7. 産婦人科・産科 8. 眼科 9. 耳鼻咽喉科 10. 放射線科 11. 脳神経外科 12. 整形外科 13. 麻酔科 14. 救急科 15. 歯科・歯科口腔外科 16. リハビリテーション科 17. その他 (具体的に: _____) ※1 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、血液内科、感染症内科、アレルギー内科、リウマチ内科、心療内科、神経内科は、「1.内科」としてご回答ください。 ※2 外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科は、「2.外科」としてご回答ください。
③ 改定前(令和6年5月以前)と比較して応需する処方箋の変化について回答ください。 ※○はいくつでも	
1. 28 日以上長期処方が増加した 2. リフィル処方が増加した 3. 変わらない	
④ 28 日以上長期処方の処方箋を応需する際に特に注視して実施していることについて回答ください。 ※○はいくつでも	1. 調剤に時間を要するため即時に調剤せず後日に調剤及び服薬指導等を実施している 2. 在庫が足りないため複数回に分けて医薬品を交付している 3. 事前に医療機関から連絡をもらっている 4. フォローアップの対象患者とする 5. かかりつけ薬剤師指導料の同意を得るようにしている 6. その他 (具体的に: _____)

5.リフィル処方箋の制度に対する相談体制や課題等についてお伺いします。

【全ての方がご回答ください】	
① リフィル処方を医師へ提案したことのある薬剤の種類 ※○はいくつでも	1. 血圧降下剤 2. 高脂血症用剤 3. 経口血糖降下剤 4. インスリン製剤 5. ホルモン剤 6. 花粉症治療薬 7. 消化器用剤 8. その他 (具体的に: _____) 9. リフィル処方箋を医師へ提案したことはない
② 薬剤師としてリフィル処方が適すと考える状況等 ※○はいくつでも	1. 医薬品供給が不安定な品目が処方されている場合 2. パンデミックや災害による医療アクセスの制限がある場合 3. 待ち時間の長い高度医療機関から処方がある場合 4. 受診の間隔を延長する際の切り替え (例: 30 日処方→30 日×2 回) 5. 長期処方からの切り替え (例: 60 日処方→30 日×2 回) 6. かかりつけ薬剤師指導料の同意を得ている患者 7. 調剤後薬剤管理指導料に係るフォローアップを実施している患者 8. その他 (具体的に: _____)
③ 薬局でリフィル処方箋を受けるにあたって課題と感ずること ○はいくつでも	1. 患者が次回調剤日に別の薬局を利用した場合の対応 2. 患者が処方箋を紛失してしまうことへの対応 3. 調剤か受診勧奨の適切な判断の実施 4. 適切な副作用の評価 5. リフィル処方箋を受付する機会が少なく対応に不慣れであること 6. 処方医との適切な情報連携 7. 患者が 2 回目以降、期限内に来局することへの対応 8. その他 (具体的に: _____) 9. 特になし
④ 患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験 ※○は1つ	1. ある → ⑤-1 へ 2. ない → アンケート調査は終了です
【④で「1.ある」と回答した場合、下記⑤-1を回答】	
⑤-1 どのような患者からの相談であったか ※○はいくつでも	1. 医薬品供給が不安定な品目を使用している患者 2. 待ち時間の長い高度医療機関からの処方を受けている患者 3. 長期処方を受けている患者 4. 生活習慣病に係る薬物治療を受けている患者 5. かかりつけ薬剤師指導料の同意を得ている患者 6. 調剤後薬剤管理指導料に係るフォローアップを実施している患者 7. その他 (具体的に: _____)
⑤-2 受けた相談の内容 ※最も多いものを一つだけ○	1. リフィル処方箋の制度内容を知りたい 2. 自身がリフィル処方箋の対象になりうるか知りたい 3. 医師への相談 (申し出) 方法について知りたい 4. その他 (具体的に: _____)
⑤-3 患者がリフィル処方箋を希望していることに関して、処方医へ情報提供したことがあるか ※○は1つ	1. ある 2. ない

質問は以上です。ご協力頂き誠にありがとうございました。

令和7年1月24日(金)までに返信用封筒をご使用の上投函ください(切手不要)。

ID 番号：

令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和6年度調査)

長期処方やリフィル処方の実施状況調査 患者票

※この調査票は、患者ご本人に、医療機関や薬局の利用状況や考えなどをお伺いするものです。

※調査結果は、診療報酬の見直しなどについて検討するための資料となります。

※本調査のご回答内容は統計的に処理しますので、個人が特定されることはありません。また、医師や薬剤師に個人の回答内容をお知らせすることはありません。

※本調査票にご回答頂けない場合も、患者ご本人に不利益はございません。

※回答はあてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

※特に断りのない限り、令和6年 11 月 1 日時点の状況についてお答えください。

長期処方とは

この調査においては、症状が安定している患者に対して、医師が 28 日以上処方(リフィル処方を除く)を行うことを指します。

患者にとっては、通院だけでなく薬局に行く時間的・経済的負担の軽減に繋がるという利点がありますが、リフィル処方箋と比べて薬剤師が患者の体調や服薬状況を確認する機会が減ります。

リフィル処方箋とは

症状が安定している患者に対して、医師の処方により医師及び薬剤師の適切な連携の下で、一定期間内に、最大3回まで反復利用できる処方箋のことです。

患者にとっては、通院に伴う時間的・経済的負担の軽減に繋がるという利点があります。また、薬を貰いに薬局に行った際には、薬剤師が患者の体調や服薬状況を確認し、お薬代等は都度、薬局へお支払い頂きます。

※長期処方やリフィル処方箋は、医師が患者の病状等を踏まえ、医学的に適切と判断した場合に選択されるものです。

1. この調査票のご記入者についてお伺いします。

①ご記入者は患者ご本人か ※○は1つ	1. 患者ご本人 (代筆の場合を含む)	2. 本人以外のご家族等
--------------------	---------------------	--------------

2. 患者ご本人のことについてお伺いします。

①性別 ※○は1つ	1. 男性	2. 女性	
②年齢 ※○は1つ	1. 10 代以下	2. 20 代	3. 30 代
	5. 50 代	6. 60 代	7. 70 代
			8. 80 代以上
③お住まい	() 都・道・府・県		
④医療費の自己負担額(医療機関や薬局の窓口で支払う金額)がありますか。 ※お薬の容器代等は含まれません	1. ある 2. ない		

以降の設問についても、全て患者さんご自身のことをお答えください

(ご記入者が患者ご本人でない場合も、患者ご本人についてご回答ください)

3. 医療機関や保険薬局の利用状況等についてお伺いします。

①あなたが自身が、定期的※ ¹ に受診している医療機関(病院・診療所)、診療科、また薬局はありますか。 ※定期的な受診がない場合「0(ゼロ)」と記入	医療機関数 : () 件 診療科数 : () 件 薬局数 : () 件
--	--

※1 定期的: 180 日間で複数回

②あなたが定期的な処方を受けている疾患はありますか。それはどのような疾患ですか。 ※○はいくつでも	1. 糖尿病 2. 高血圧性疾患 3. 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞) 4. アレルギー鼻炎 5. 脂質異常症 6. 消化器系の疾患 7. 悪性新生物<腫瘍> 8. 神経系の疾患 9. 皮膚及び皮下組織の疾患 10. 眼及び付属器の疾患 11. 呼吸器系の疾患 12. その他(具体的に: _____) 13. 定期的な処方を受けている疾患はない
--	--

③同じ内容の薬の処方方を定期的に受けていますか。 ※○は1つ		1.受けている	2.受けていない
【③で「1.受けている」と回答した場合、下記③-1をご回答ください】			
③-1 定期的な処方を受けている期間 ※○は1つ		1.1年未満 3.3年以上5年未満	2.1年以上3年未満 4.5年以上
【すべての方がご回答ください】			
④リフィル処方箋を知っていましたか。 ※○は1つ	1.制度の内容まで知っていた →⑤へ 2.名称だけ知っていた →⑤へ 3.知らなかった →設問4へ		
⑤リフィル処方箋の制度内容をどのようにして知りましたか。 ※○はいくつでも	1.担当医師から説明を受けた 2.病院内での掲示物を見て知った 3.かかりつけの薬局で教えてもらった 4.病院のホームページを見て知った 5.厚生労働省などの公的機関からの情報（ホームページ等）を見て知った 6.テレビやニュース等を見て知った 7.家族や知人から聞いて知った 8.その他（具体的に：_____）		

4. これまでリフィル処方箋を交付された経験についてお伺いします。

①リフィル処方箋について医師から説明を受けたことがありますか		1.ある →①-1へ	2.ない →②へ
【①で「1.ある」と回答した場合、下記①-1～①-2をご回答ください】			
①-1リフィル処方箋についての説明はどのように行われましたか ※○は1つ		1.自ら説明を希望した	2.医師から提案された
①-2リフィル処方箋についての説明は理解できましたか ※○は1つ		1.理解できた	2.理解できなかった
【すべての方がご回答ください】			
②リフィル処方箋を交付されたことがありますか ※○は1つ	1.リフィル処方箋を交付されたことがある →③へ 2.リフィル処方箋は交付されことはない →設問5へ		

【②で「1.リフィル処方箋を交付されたことがある」と回答した場合、下記③～⑩をご回答ください】	
③リフィル処方箋を交付されたのはどのような薬ですか。 ※○はいくつでも	1.内服薬 2.外用薬
④直近のリフィル処方箋は、何回反復利用できる処方箋ですか。 ※○は1つ	1.3回 2.2回
⑤直近のリフィル処方箋は、1回あたり何日分くらいのお薬が調剤されましたか。	() 日分
⑥リフィル処方箋の1回目の調剤で、どこの薬局に行きましたか。 ※最も多く行ったものを一つだけ○	1.お住まいの近くではないが受診した医療機関の近隣の薬局 2.お住まいの近くにある薬局 3.その他 (_____)
⑦リフィル処方箋の2回目の調剤の状況を教えてください。 ※○は1つ	1.調剤を受けた 2.調剤を受けずに受診することになった
⑧リフィル処方箋の3回目の調剤の状況を教えてください。 ※○は1つ	1.調剤を受けた 2.調剤を受けずに受診することになった 3.2回反復利用のリフィル処方箋しか交付されたことがない
⑨ ⑦または⑧で「2.調剤を受けずに受診することになった」と回答した場合の理由。 ※○は1つ	1.医師による受診指示があったから 2.薬剤師による受診勧奨があったから 3.ご自身で受診を受けた方がよいと考えたから 4.その他（具体的に：_____）
⑩リフィル処方箋による調剤を受けた後の期間に薬剤師からフォローアップ（体調などの確認）を受けたことがあるか。 ※○は1つ	1.ある →⑪へ 2.ない →設問5へ
⑪ 薬剤師から受けたフォローアップ（体調などの確認）を受けた際の種類 ※○はいくつでも	1.薬の指導を受けた 2.薬の効果を確認された 3.副作用について確認された 4.体調などの確認をされた 5.服薬状況を確認された 6.他科の受診状況を確認された 7.その他（具体的に：_____）

⑫リフィル処方箋の2回目以降の調剤で、薬局を変えました。 ※〇は1つ	1. 1回目から変えていない (同じ薬局に行った) →設問5へ 2. 1回目から薬局を変えた → ⑫-1へ 3. まだ2回目を利用していない →設問5へ
【⑫で「2. 1回目から薬局を変更した」と回答した場合、下記⑫-1をご回答ください】	
⑫-1 薬局を変更した理由は何ですか。 ※〇はいくつでも	1. 1回目の薬局の立地が通いにくかったから 2. 1回目の薬局が普段使う薬局ではなかったから 3. 1回目の薬局では薬の相談がしにくかったから 4. その他 (具体的に: _____)

5. これからのリフィル処方箋や長期処方※¹の利用意向についてお伺いします。

①リフィル処方箋や長期処方のメリット・デメリットと、それらを踏まえた今後の利用意向について、お考えを教えてください。		該当するもの 全てに〇	最大のもの 一つに〇
①-1 リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるものを教えてください。	1. 通院にかかる時間的負担(予約・移動・待ち時間)を減らせる		
	2. 通院によってかかる医療費が安くなる		
	3. 症状が安定していて、異変時には、医師に相談ができる		
	4. 症状が安定していて、異変時には、薬剤師に相談ができる		
	5. 感染症に罹るリスクを減らすことができる		
	6. 薬がほしだけという自分の状況にあっている		
	7. その他(具体的に: _____)		
①-2 リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるものを教えてください。	1. 医師に診てもらえる機会が減ってしまう		
	2. 薬剤師の判断に不安がある		
	3. 2回目、3回目の薬のもらい方や、かかる金額がよくわからない		
	4. リフィル処方箋を希望しても発行してもらえないことがある		
	5. 処方箋を保管しておくことが手間である		
	6. 調剤予定日の前後7日でしか薬を受け取れないのは不便である		
	7. 自分には必要だと思わない		
①-3 長期処方を使用することについて、メリットになると感じるものを教えてください。	8. その他(具体的に: _____)		
	1. 通院にかかる時間的負担(予約・移動・待ち時間)を減らせる		
	2. 通院によってかかる医療費が安くなる		
	3. 感染症に罹るリスクを減らすことができる		
	4. 薬がほしだけという自分の状況にあっている		
①-4 長期処方を使用することについて、デメリットになると感じるものを教えてください。	5. その他(具体的に: _____)		
	1. 医師に診てもらえる機会が減ってしまう		
	2. 薬剤師に相談できる機会が減ってしまう		
	3. 自分には必要だと思わない		
①-5 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思いますか。 ※〇は1つ	4. その他(具体的に: _____)		
	1. 利用したい	2. どちらかと言えば利用したい	
①-6 今後、病状が安定している場合に長期処方を利用したいと思いますか。 ※〇は1つ	3. どちらかと言えば利用したくない	4. 利用したくない	
	1. 利用したい	2. どちらかと言えば利用したい	
	3. どちらかと言えば利用したくない	4. 利用したくない	

②-1 リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じることは何ですか。 ※〇はいくつでも	1. 信頼する「かかりつけ医」※ ² がいること
	2. 信頼する「かかりつけ薬剤師」※ ³ のいる薬局があること
	3. 薬剤師から薬について十分な説明があること
	4. 自分の服用している薬の効能、副作用を理解していること
	5. 「かかりつけ医」や「かかりつけ薬剤師」がいつでも相談にのってくれること
	6. 電子処方箋※ ⁴ による対応
	7. その他 (具体的に: _____)

②-2 長期処方を利用するにあたり必要だと感じることは何ですか。 ※〇はいくつでも	1. 信頼する「かかりつけ医」がいること 2. 信頼する「かかりつけ薬剤師」のいる薬局があること 3. 薬剤師から薬について十分な説明があること 4. 自分の服用している薬の効能、副作用を理解していること 5. 「かかりつけ医」や「かかりつけ薬剤師」がいつでも相談にのってくれること 6. 電子処方箋による対応 7. その他（具体的に：_____）
--	--

③-1 リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいですか。		1 回目		2 回目以降	
		該当するもの全てに〇	最重視の 一つに〇	該当するもの全てに〇	最重視の 一つに〇
	1. かかりつけ薬剤師のいる薬局				
	2. 休日夜間も対応可能な薬局				
	3. 他医療機関と連携する薬局				
	4. 医療機関に近い薬局				
	5. 自宅に近い薬局				
	6. その他（具体的に：_____）				

③-2 長期処方は、どのような薬局で調剤を受けたいですか。		1 回目		2 回目以降	
		該当するもの全てに〇	最重視の 一つに〇	該当するもの全てに〇	最重視の 一つに〇
	1. かかりつけ薬剤師のいる薬局				
	2. 休日夜間も対応可能な薬局				
	3. 他医療機関と連携する薬局				
	4. 医療機関に近い薬局				
	5. 自宅に近い薬局				
	6. その他（具体的に：_____）				

※1 長期処方とは 28 日以上処方（リフィルを除く）のことを指します

※2 健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師のことです

※3 日頃から患者と継続的に関わることで信頼関係を構築し、薬に関していつでも気軽に相談できる薬剤師のことです

※4 現在紙で行われている処方箋の運用を電子で実施する仕組みです

6. リフィル処方箋や長期処方に関して、あなたのご意見・ご要望について自由に記載してください。

質問は以上です。ご協力頂き誠にありがとうございました。
 令和7年1月24日(金)までに返信用封筒をご使用の上投函ください(切手不要)。